

令和 6 年度

男女が共に支える社会に関する

意識調査報告書

令和 7 年

岩 手 県

「令和6年度 男女が共に支える社会に関する意識調査報告書」

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 調査票の回収結果	1
4. 調査主体	1

II 回答者の基本属性

1 性別・年代別構成	2
2 既婚・未婚・離(死)別構成	4
3 回答者の職業	6
4 過去の就業経験	8
5 配偶者の職業	9
6 家族構成	11
7 子どもの有無	13
8 子どもの人数と末子の年齢	15
9 住んでいる地域	17

III 調査テーマによる分析

1 男女平等について	19
2 女性の社会参画について	72
3 家庭生活及び結婚・家庭観について	88
4 職業について	180
5 仕事と家庭・社会活動の両立について	196
6 女性支援・ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて	206
7 LGBT等の性的マイノリティについて	218
8 男女共同参画施策について	222

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

男女が共に支える社会づくりに関する県民の意識や行動について調査を行い、現状の県民意識や行政に対するニーズを把握をするとともに、今後の男女共同参画社会づくりの基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象及び標本数： 岩手県内在住の満18歳以上の男女2,000人
- (2) 抽出方法： 無作為抽出
- (3) 調査方法： 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- (4) 調査期間： 令和6年10月25日～令和6年11月8日

3. 調査票の回収結果

- (1) 回収数 : 656人 (32.8%)
- (2) 有効回収数 : 656人 (32.8%)
- (3) 調査対象地域と回収の分布： 次表のとおり

今回調査

令和3年度調査

対象地域	自治体名	標本数	有効回収数	有効回収率(%)	対象地域	自治体名	標本数	有効回収数	有効回収率(%)
盛岡地域	盛岡市	400	202	36.7	盛岡地域	盛岡市	350	262	37.4
	紫波町	100				滝沢市	150		
	八幡平市	50				岩手町	50		
						矢巾町	150		
県南地域	花巻市	200	248	31.0	県南地域	北上市	200	227	37.8
	北上市	200				奥州市	200		
	奥州市	200				一関市	200		
	一関市	200							
県北地域	久慈市	100	84	33.6	県北地域	久慈市	100	87	34.8
	洋野町	50				二戸市	100		
	二戸市	100				一戸町	50		
	一戸町	50							
沿岸地域	大船渡市	100	115	32.9	沿岸地域	大船渡市	100	164	36.4
	釜石市	100				釜石市	100		
	岩泉町	100				宮古市	150		
	山田町	50				陸前高田市	50		
地域無回答			7		地域無回答			2	
合計		2,000	656	32.8	合計		2,000	742	37.1

4. 調査主体

岩手県 環境生活部 若者女性協働推進室

<報告書を見る上での注意事項>

- ①比率(パーセント)の表記は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、比率の合計が100.0とならない場合がある。なお、一つの設問に対して二択以上の回答を求めるものは、比率の合計を記載しない。
- ②各設問集計の対象者(集計対象となる前提条件を満たしているもの)は「N=」としてその数を表記する。
- ③今回の調査で得られた集計データの詳細は、「IV 基礎集計表」の各表を参照。
- ④時系列比較を行っているものは、令和3年11月に実施したものを「前回調査」(または「令和3年度調査」)、平成30年10月に実施したものを「前々回調査」(または「平成30年度調査」)、平成27年5月に実施したものを「前々々回調査」(または「平成26年度調査」)、平成24年12月に実施したものを「前々々々回調査」(または「平成24年度調査」)と表記した。各数値は、令和4年2月にとりまとめた前回調査報告書の記載を用いた。
- ⑤調査票に記載した設問ないし、選択肢の表現について、長文のものを適度に簡略化して表記している。
- ⑥令和3年度調査より無効回答の項目を追加し集計する。(指定された回答数以上に回答している、または回答が明確ではない場合は無効回答としている)

II 回答者の基本属性

Ⅱ 回答者の基本属性

1 性別・年代別構成

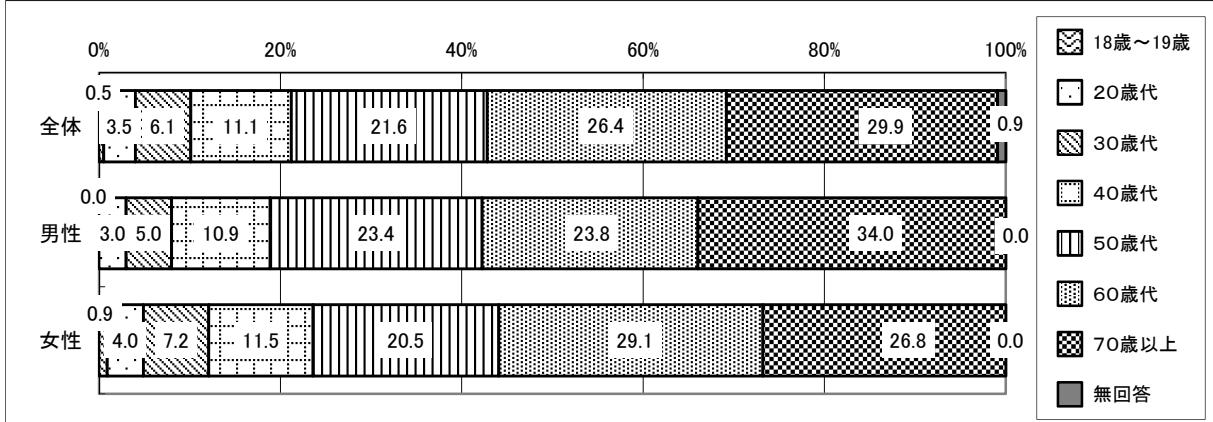
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

令和3年度調査より年代区分として「18歳～19歳」を新たに追加した。

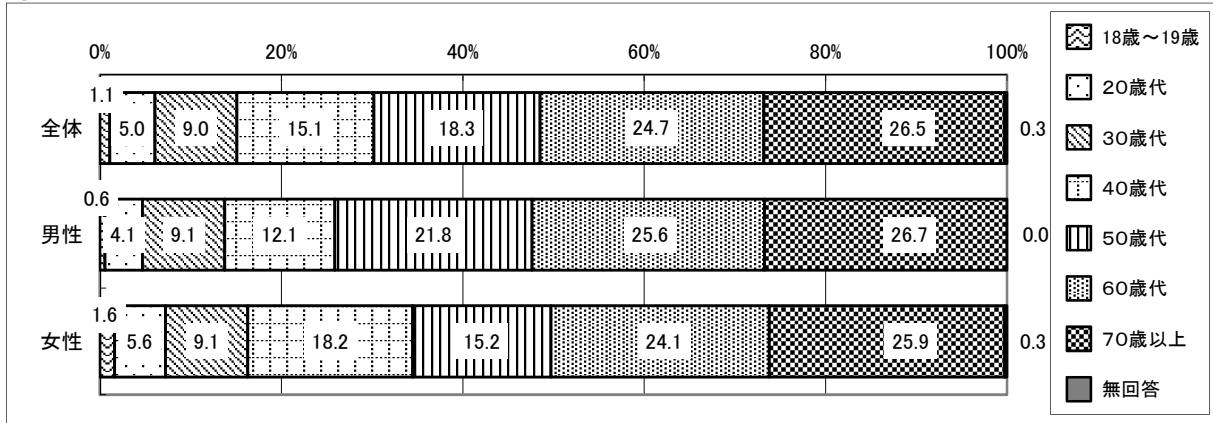
今回調査では、男性303名(46.2%)、女性347名(52.9%)、性別無回答6名(0.9%)から回答があった。年代別にみると、70歳以上(29.9%)の割合が最も高く、次いで60歳代(26.4%)、50歳代(21.6%)、40歳代(11.1%)、30歳代(6.1%)、20歳代(3.5%)、18歳～19歳(0.5%)と続く。

前回調査と比較すると、70歳以上(29.9%)は3.4ポイント増加し、60歳代(26.4%)は1.7ポイント増加している。20歳代(3.5%)は1.5ポイント、30歳代(6.1%)は2.9ポイント、40歳代(11.1%)は

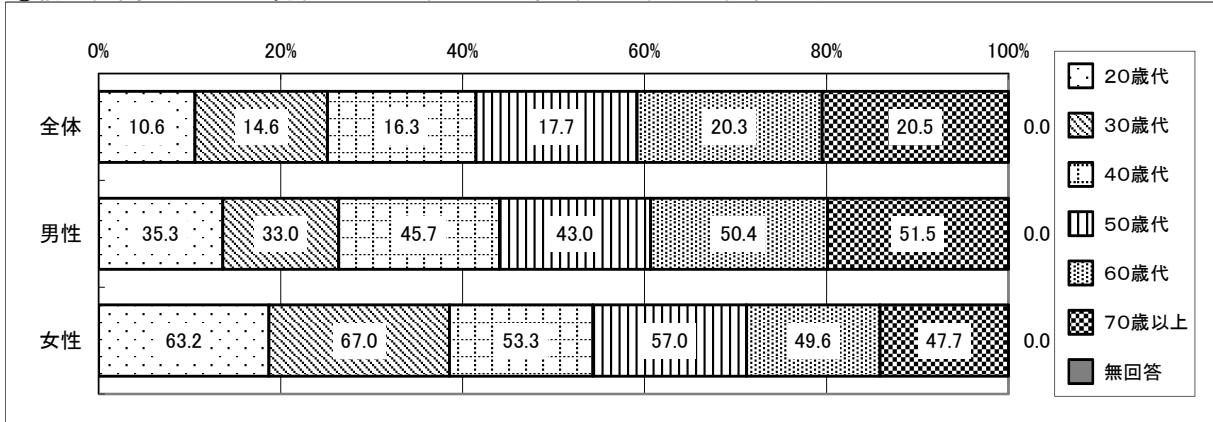
①今回調査



②前回調査(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)



③前々回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)

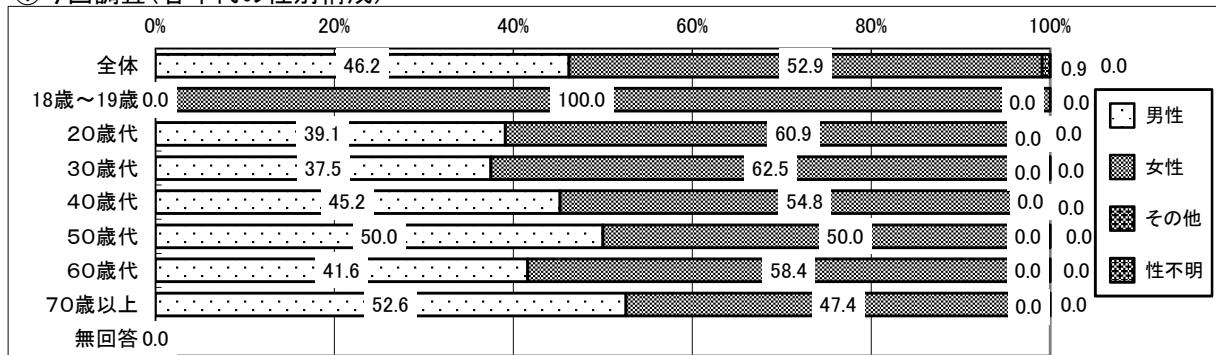


各年代ごとの性別比をみると、今回調査全体では「男性」46.2%、「女性」52.9%を占める。

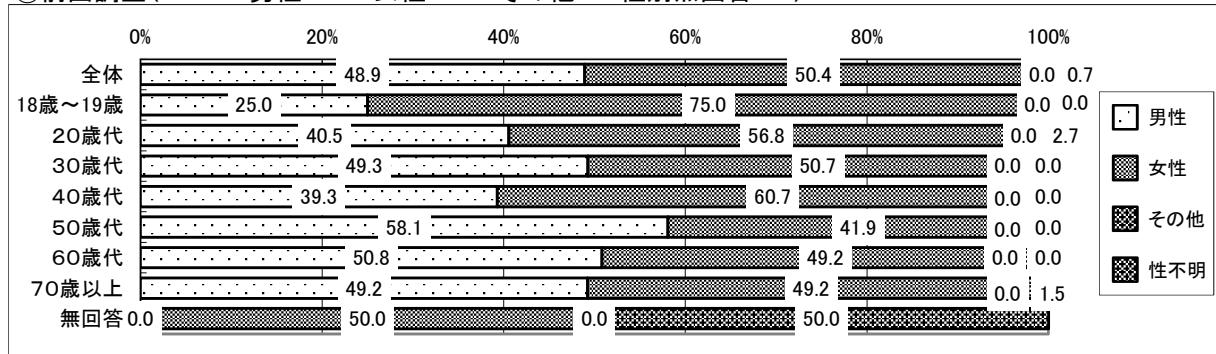
前回調査と比較すると、「男性」(46.2%)は2.7ポイント減少し、「女性」(52.9%)は2.5ポイント増加している。

男女別でみると、「男性」では70歳以上(52.6%)の割合が最も高く、「女性」では18歳～19歳(100.0%)の割合が最も高い。30歳代では「男性」(37.5%)は前回調査(49.3%)より11.8ポイント減少し、「女性」(62.5%)は前回調査(50.7%)より11.8ポイント増加している。また50歳代の「男性」(50.0%)は前回調査(58.1%)より8.1ポイント減少、一方、「女性」(50.0%)は前回調査(41.9%)より8.1ポイント増加している。

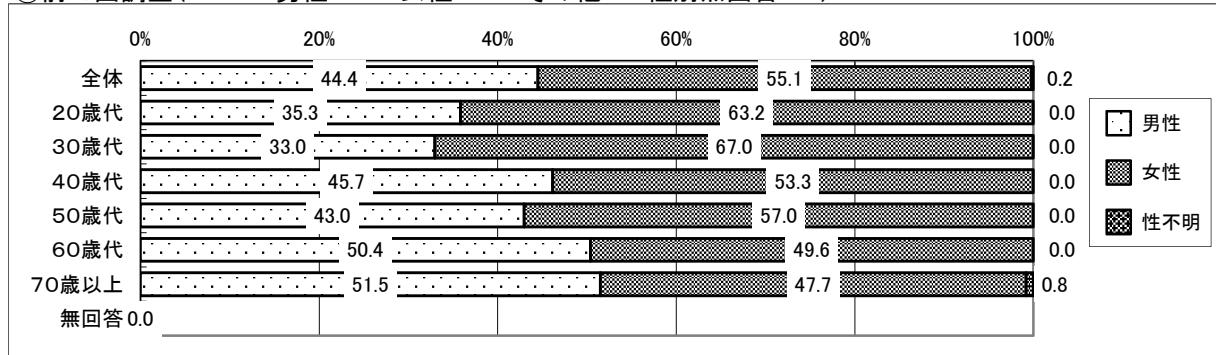
①今回調査(各年代の性別構成)



②前回調査(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)



③前々回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



2 既婚・未婚・離(死)別構成

(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

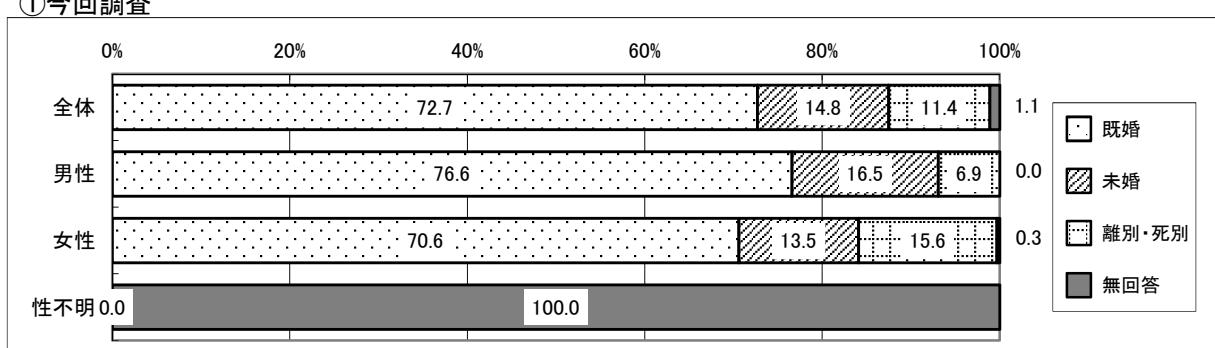
今回調査全体では、既婚は72.7%、未婚は14.8%、離別・死別は11.4%である。

前回調査と比較すると既婚（全体）は72.7%と前回調査（72.5%）より0.2ポイント増加、未婚（全体）は14.8%と前回調査（15.0%）より0.2ポイント減少した。「既婚男性」（76.6%）は前回調査（75.8%）より0.8ポイント増加、「既婚女性」（70.6%）は前回調査（69.5%）より1.1ポイント増加している。

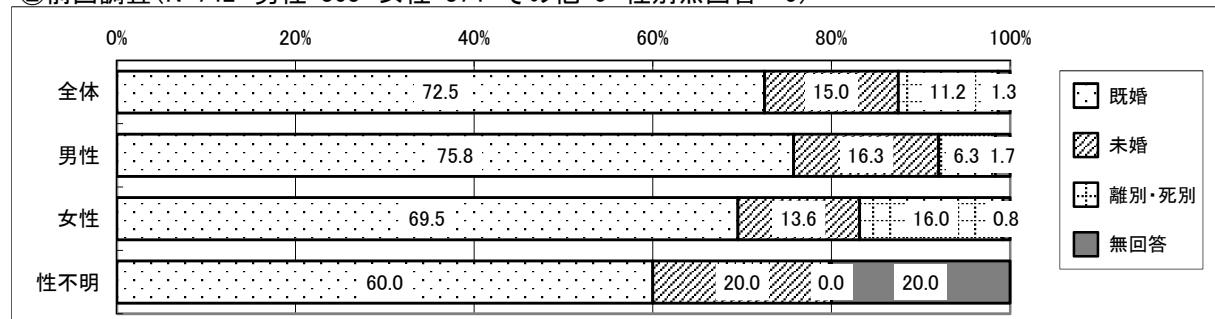
既婚と回答したものは20歳代、40歳代、60歳代で減少したが、30歳代、50歳代、70歳以上では増加している。「未婚男性」（16.5%）は前回調査（16.3%）より0.2ポイント増加、「未婚女性」（13.5%）は前回調査（13.6%）より0.1ポイント減少している。

年代別にみると、既婚と回答したものの割合が最も高いのは50歳代（81.0%）、最も低いのは18歳～19歳（0.0%）、次いで20歳代（13.0%）である。

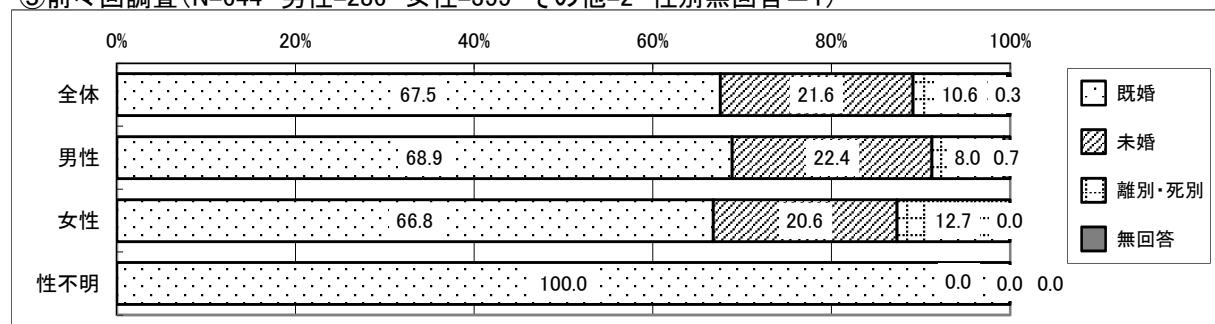
①今回調査



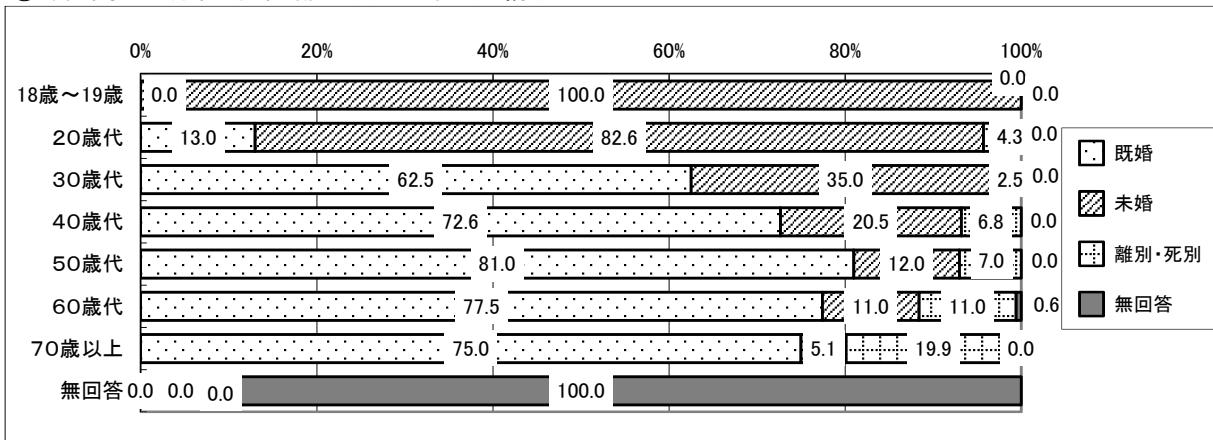
②前回調査 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)



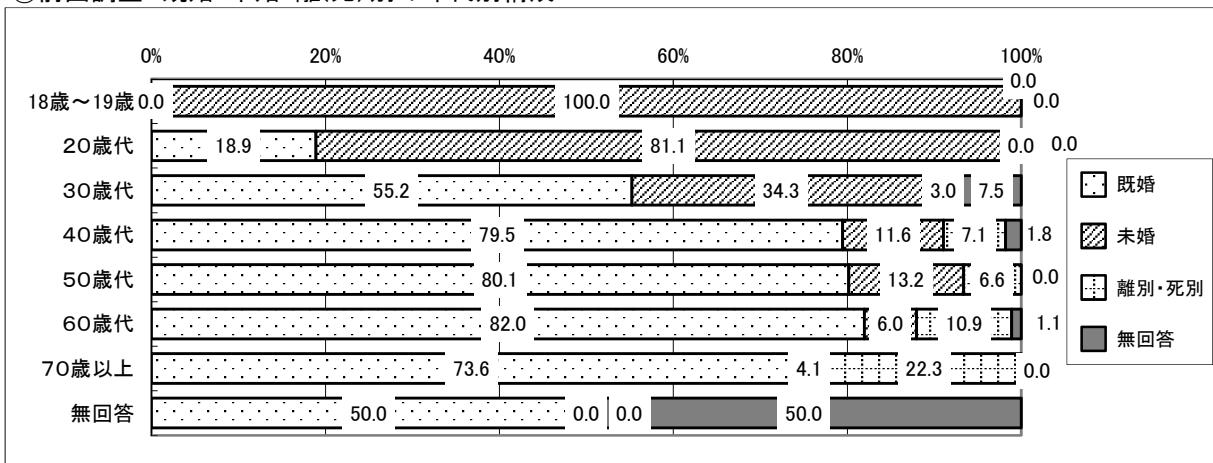
③前々回調査 (N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



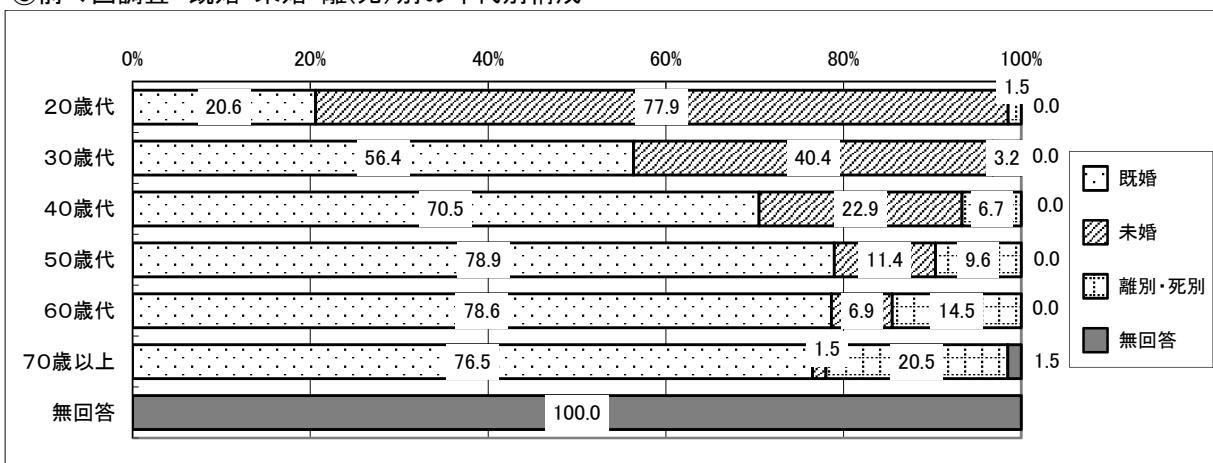
④今回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



⑤前回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



⑥前々回調査 既婚・未婚・離(死)別の年代別構成



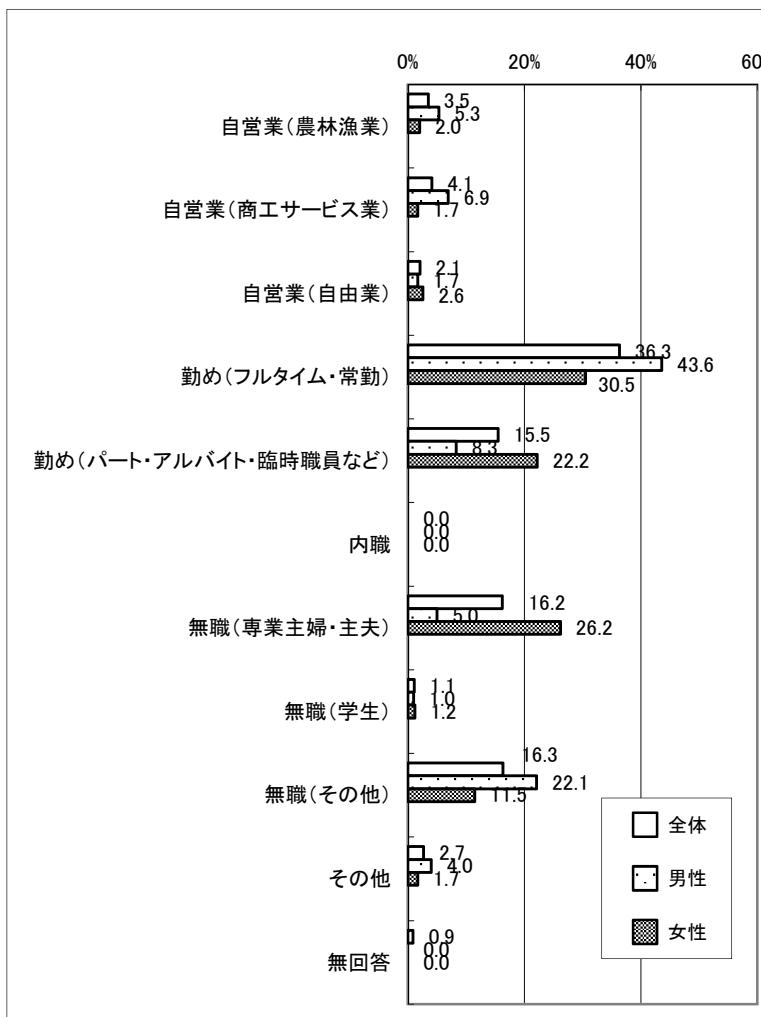
3 回答者の職業

(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

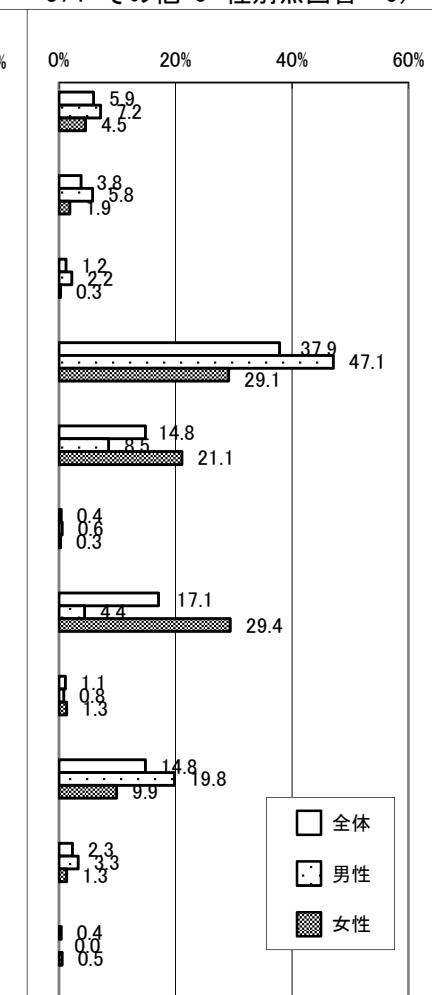
回答者の職業の割合で最も高いものは「勤め（フルタイム・常勤）」（36.3%）であり、次いで「無職（その他）」（16.3%）、「無職（専業主婦・主夫）」（16.2%）、「勤め（パート・アルバイト・臨時職員など）」（15.5%）と続く。

前回調査と比較すると「自営業（農林漁業）」（3.5%）は2.4ポイント減少、「勤め（フルタイム・常勤）」（36.3%）は1.6ポイント減少している。一方で、「無職（その他）」（16.3%）は1.5ポイント増加、「自営業（自由業）」（2.1%）は0.9ポイント増加している。

①今回調査(但し、グラフから性別無回答を除く)

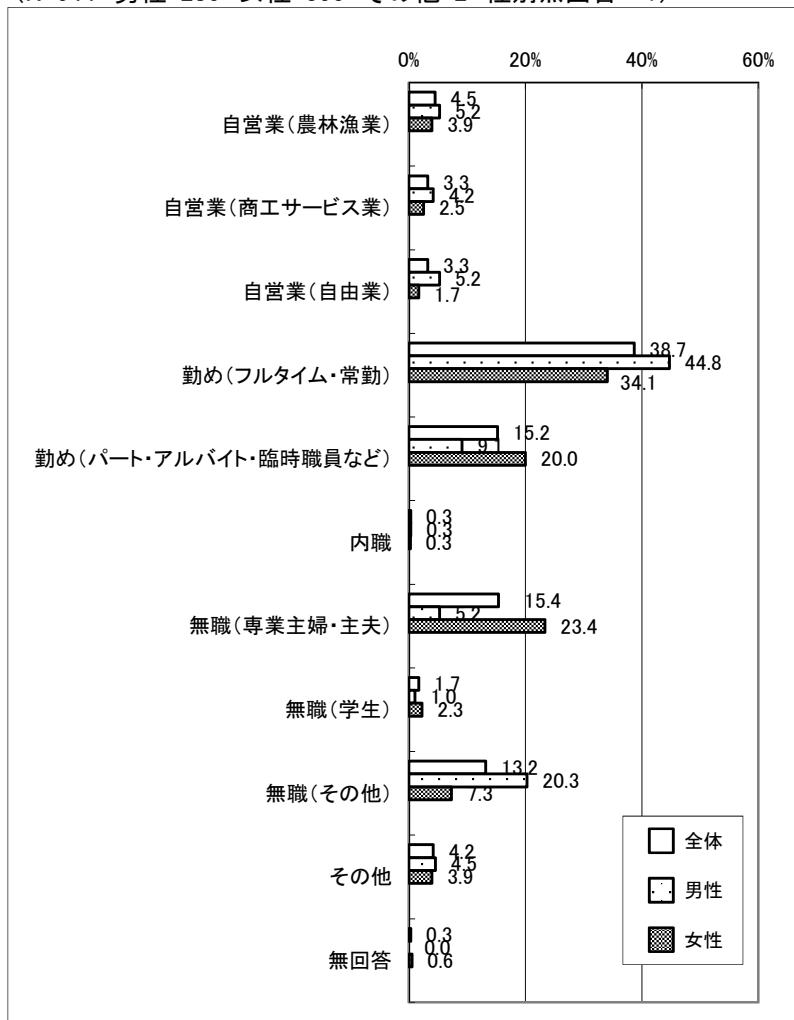


②前回調査(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)



③前々回調査

(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



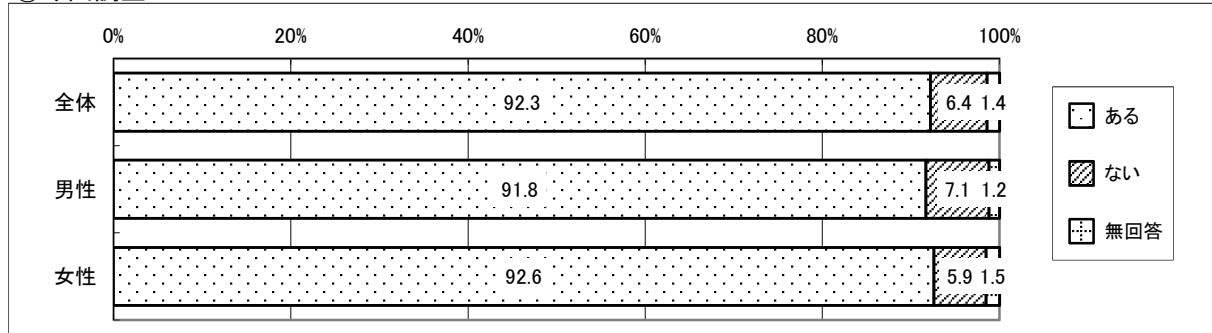
4 過去の就業経験

(N=220 男性=85 女性=135)

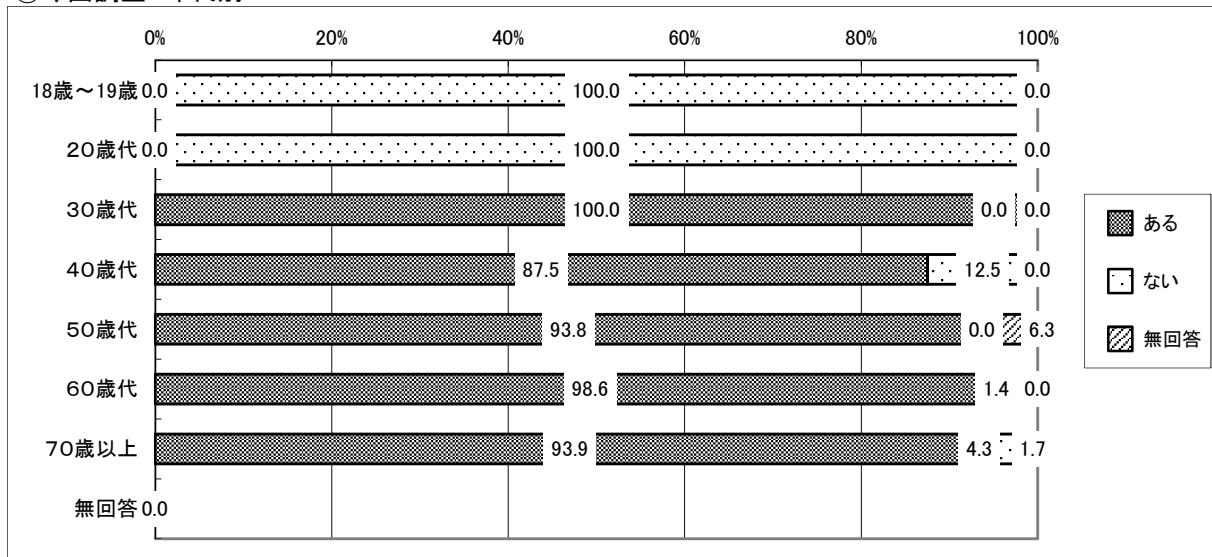
今回調査全体では、「ある」は92.3%、「ない」は6.4%である。

年代別にみると、「ある」と回答したものの割合が最も高いのは30歳代（100.0%）、最も低いのは18歳～19歳、20歳代で0.0%である。

①今回調査



②今回調査 年代別



5 配偶者の職業

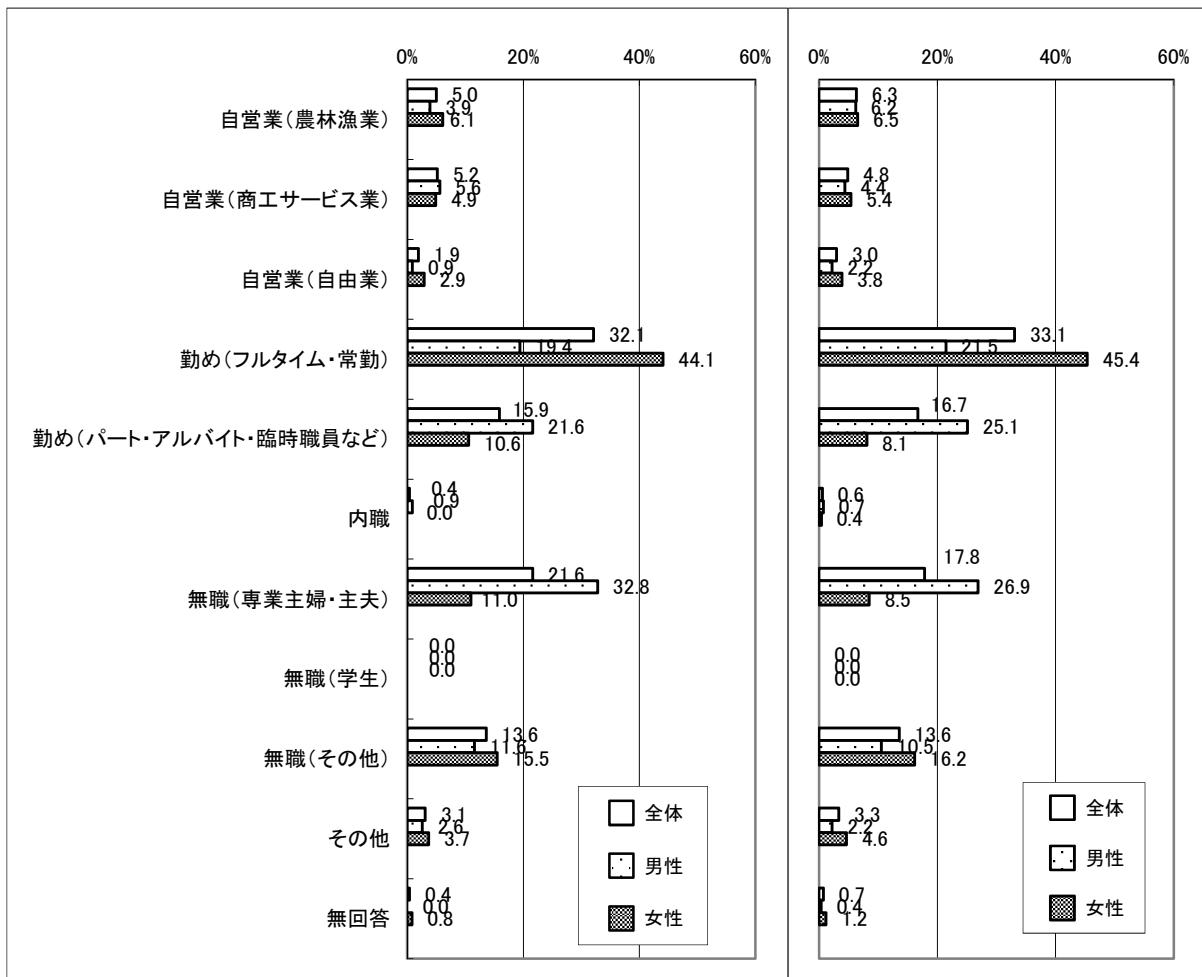
(N=477 男性=232 女性=245 性別無回答=0)

配偶者の職業の割合で最も高いのは、「勤め(フルタイム・常勤)」(32.1%)であり、次いで「無職(専業主婦・主夫)」(21.6%)、「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(15.9%)と続く。この傾向は前回調査と同様である。

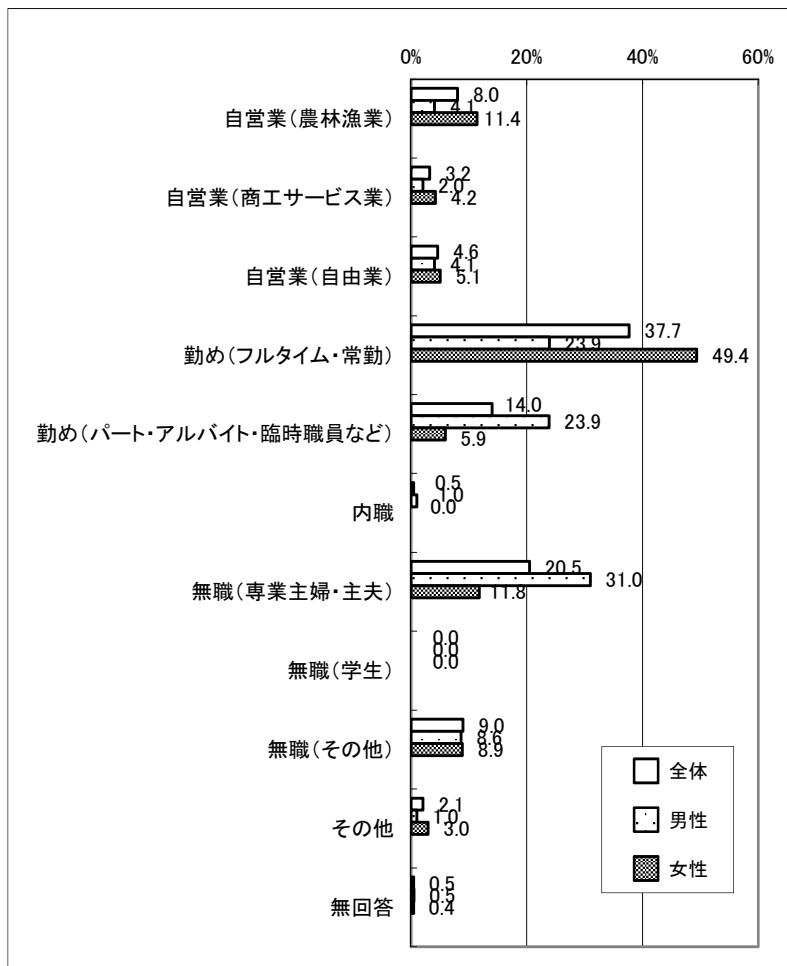
男女別にみると、『回答者男性／配偶者女性』では、「勤め(フルタイム・常勤)」(19.4%)は前回調査(21.5%)より2.1ポイント減少、「無職(専業主婦・主夫)」(32.8%)は前回調査(26.9%)より5.9ポイント増加している。「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(21.6%)は前回調査(25.1%)より3.5ポイント減少している。

『回答者女性／配偶者男性』では「勤め(フルタイム・常勤)」(44.1%)は前回調査(45.4%)より1.3ポイント減少した。「無職(その他)」(15.5%)は前回調査(16.2%)より0.7ポイント減少した。一方、「無職(専業主婦・主夫)」(11.0%)は前回調査(8.5%)より2.5ポイント増加した。「勤め(パート・アルバイト・臨時職員など)」(10.6%)は前回調査(8.1%)より2.5ポイント増加した。

①今回調査の配偶者の職業(但し、グラフから性別無回答を除く) ②前回調査の配偶者の職業



③前々回調査の配偶者の職業



6 家族構成

(N=656 単身世帯=79 夫婦のみ=196 二世代世帯=276 三世代世帯=71 その他=26 無回答=7)

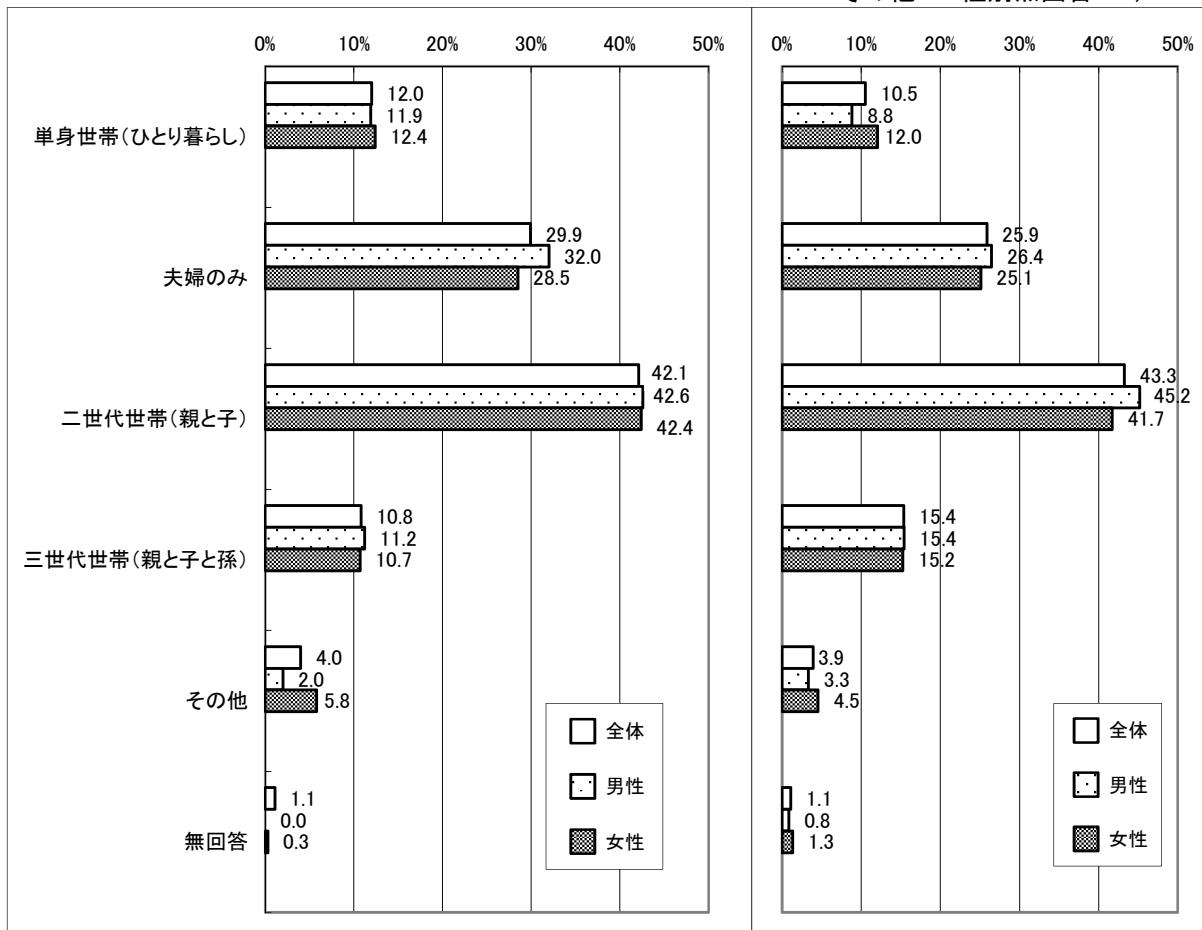
家族構成については「二世代世帯（親と子）」（42.1%）の割合が最も高く、次いで「夫婦のみ」（29.9%）、「単身世帯（ひとり暮らし）」（12.0%）と続く。

前回調査での3番目は「三世代世帯（親と子と孫）」であったが、今回は「単身世帯（ひとり暮らし）」となつた。

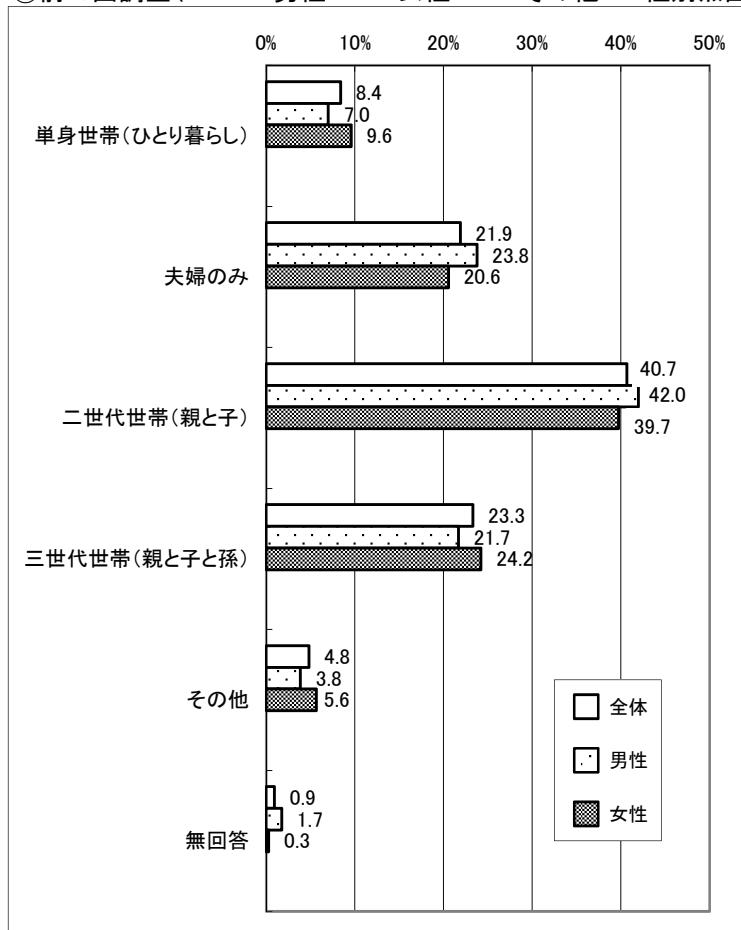
前回調査と比較すると、「夫婦のみ」（29.9%）は4.0ポイント増加している。また、「単身世帯（ひとり暮らし）」（12.0%）は1.5ポイント増加している。一方、「三世代世帯（親と子と孫）」（10.8%）は4.6ポイント減少している。

①今回調査（但し、グラフから性別無回答を除く）

②前回調査（N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5）



③前々回調査(N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



7 子どもの有無

(N=656 いる=117 いない=531 無回答=8)

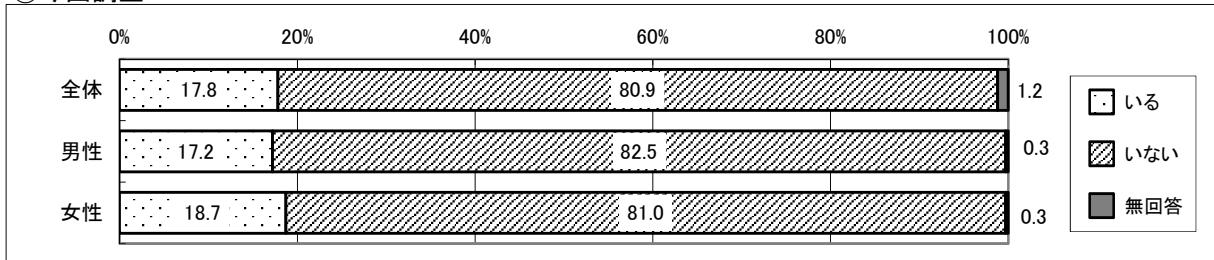
未成年の子どもが「いる」ものは全体の17.8%、「いない」ものは80.9%であった。

前回調査と比較すると「いる」(17.8%)は3.1ポイント減少、「いない」(80.9%)は3.0ポイント増加している。

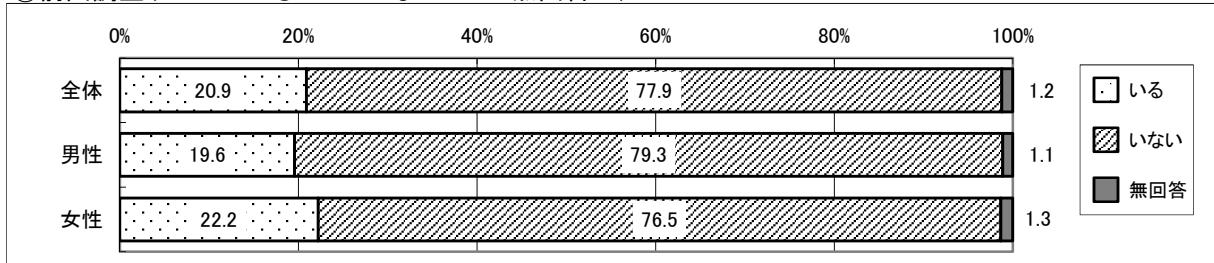
年代別にみると、未成年の子どもが「いる」と回答したものの割合が最も高いのは「40歳代」(64.4%)であり、次いで「30歳代」(62.5%)、「50歳代」(25.4%)と続く。

この傾向は前回調査と同様である。

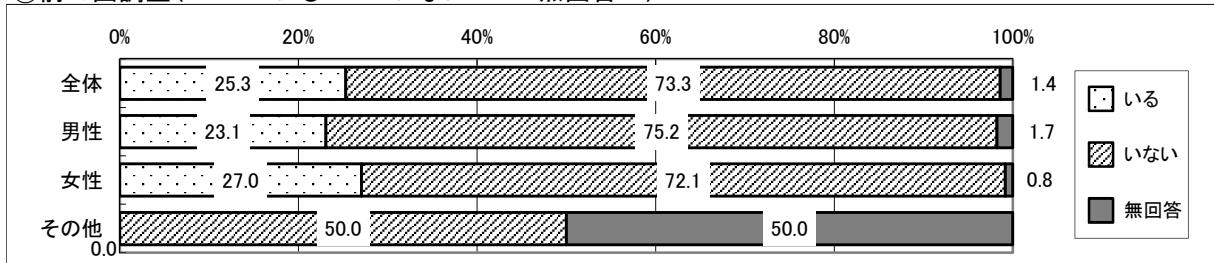
①今回調査



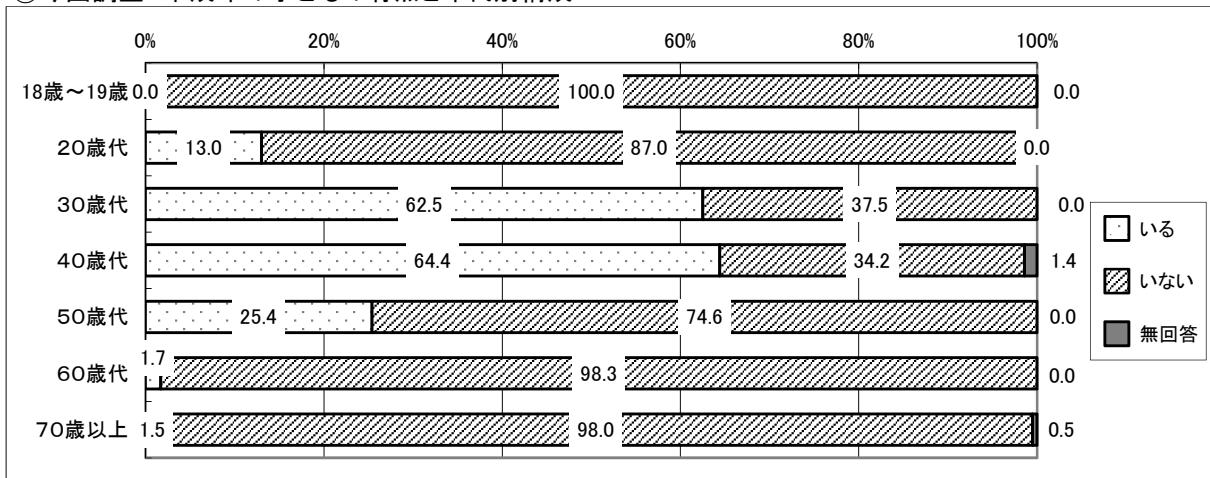
②前回調査(N=742 いる=155 いない=578 無回答=9)



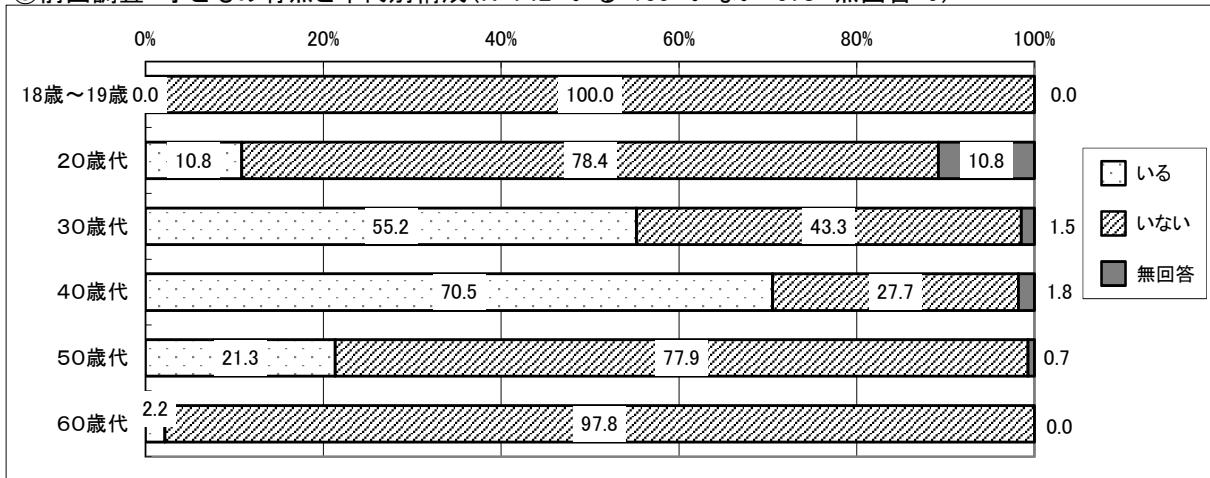
③前々回調査(N=644 いる=163 いない=472 無回答=9)



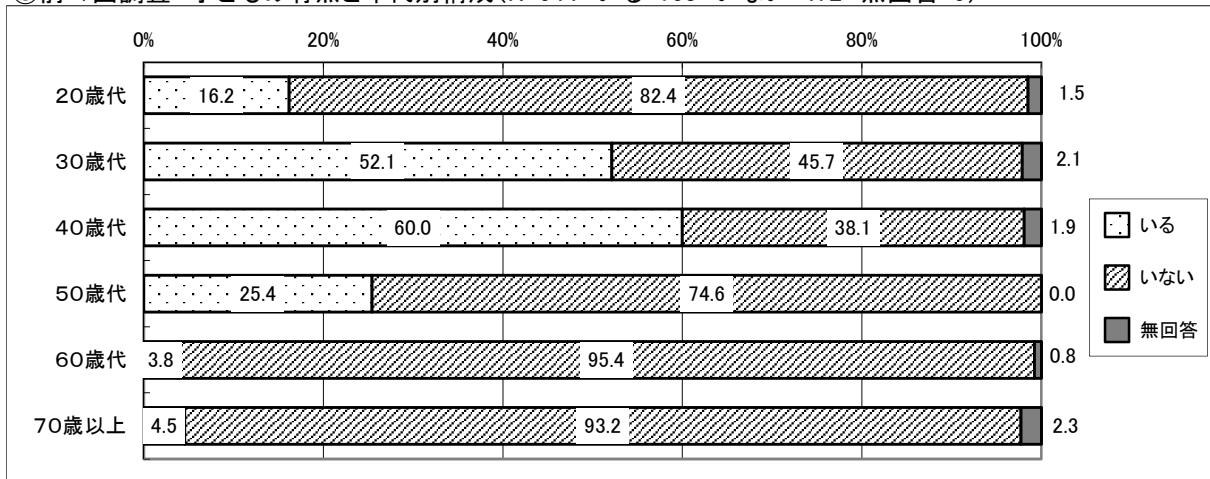
④今回調査 未成年の子どもの有無と年代別構成



⑤前回調査 子どもの有無と年代別構成 (N=742 いる=155 ない=578 無回答=9)



⑥前々回調査 子どもの有無と年代別構成 (N=644 いる=163 ない=472 無回答=9)



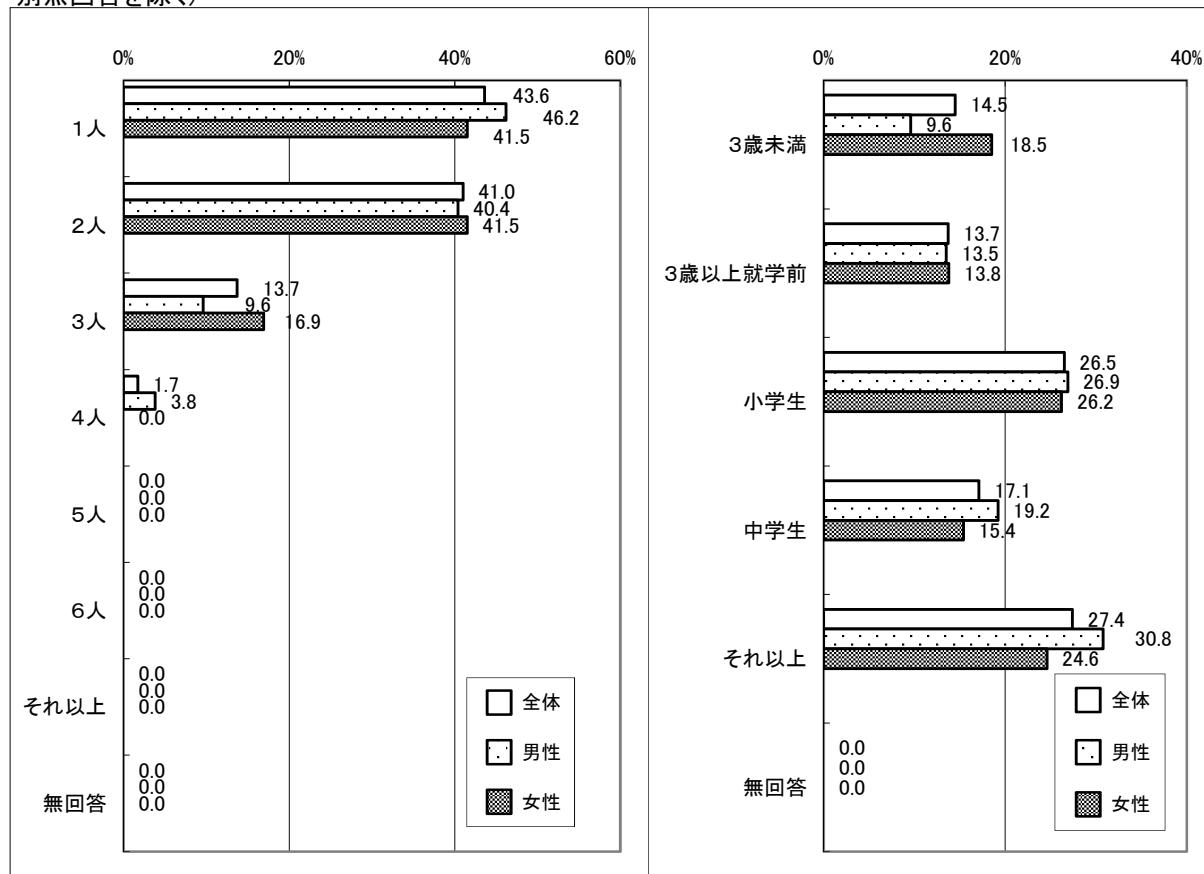
8 未成年の子どもが「いる」と回答したものの子どもの人数と末子の年齢

(N=117 3歳未満=17 3歳以上就学前=16 小学生=31 中学生=20 それ以上=32 無回答=0 無効回答=1)

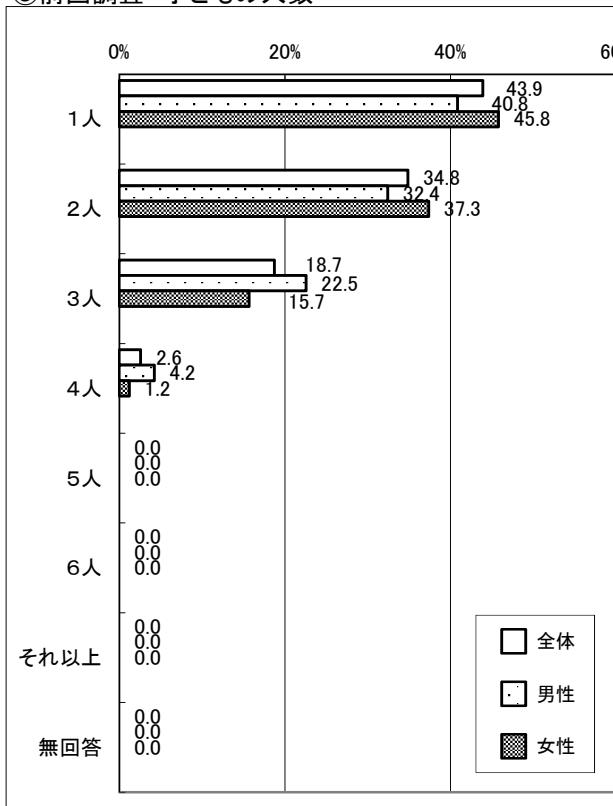
未成年の子どもの人数は、「1人」(43.6%)の割合が最も高く、次いで「2人」(41.0%)、「3人」(13.7%)と続く。この傾向は前回調査と同様である。

一番下の子の年齢については、「それ以上」(27.4%)の割合が最も高く、次いで、「小学生」(26.5%)と続く。前回調査と比較すると「それ以上」(27.4%)は前回調査(21.3%)より6.1ポイント増加し、「3歳以上就学前」(13.7%)は前回調査(18.7%)より5.0ポイント減少している。

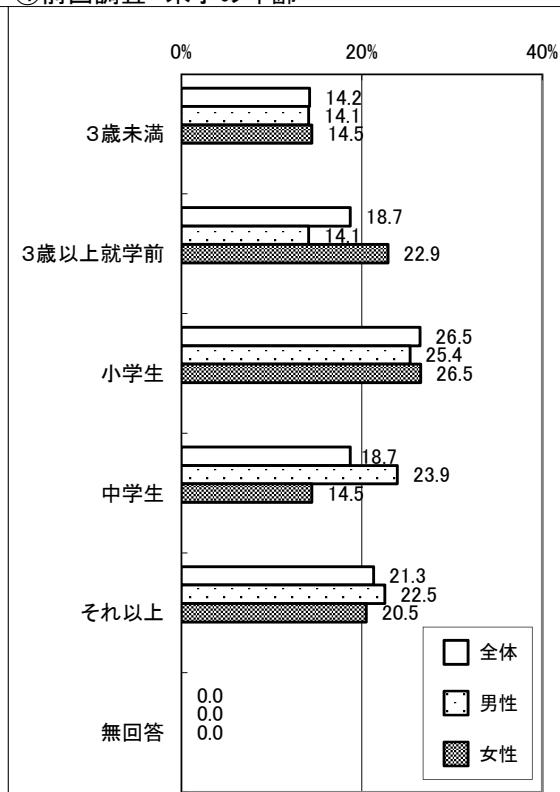
①今回調査 未成年の子どもの人数(但し、グラフから性 別無回答を除く) ②今回調査 末子の年齢



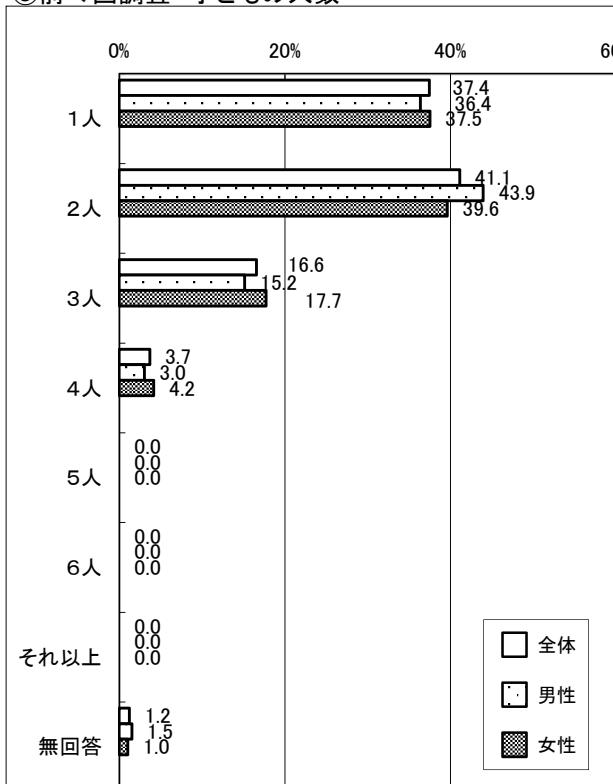
③前回調査 子どもの人数



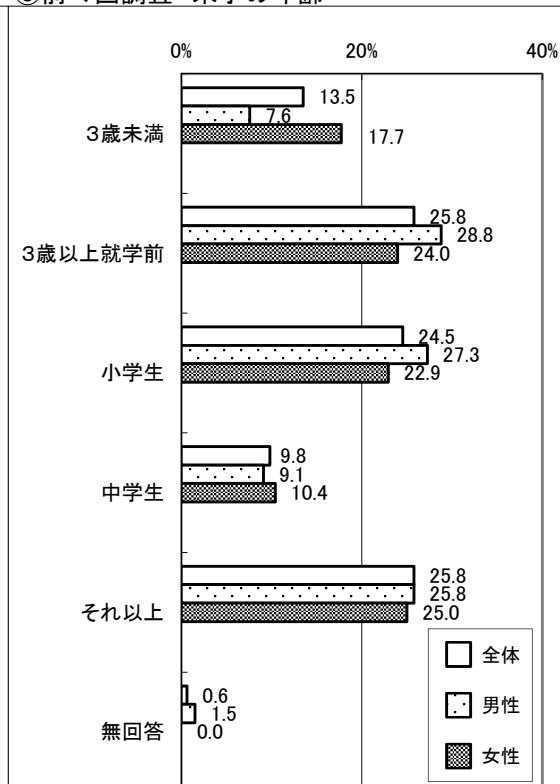
④前回調査 末子の年齢



⑤前々回調査 子どもの人数



⑥前々回調査 末子の年齢

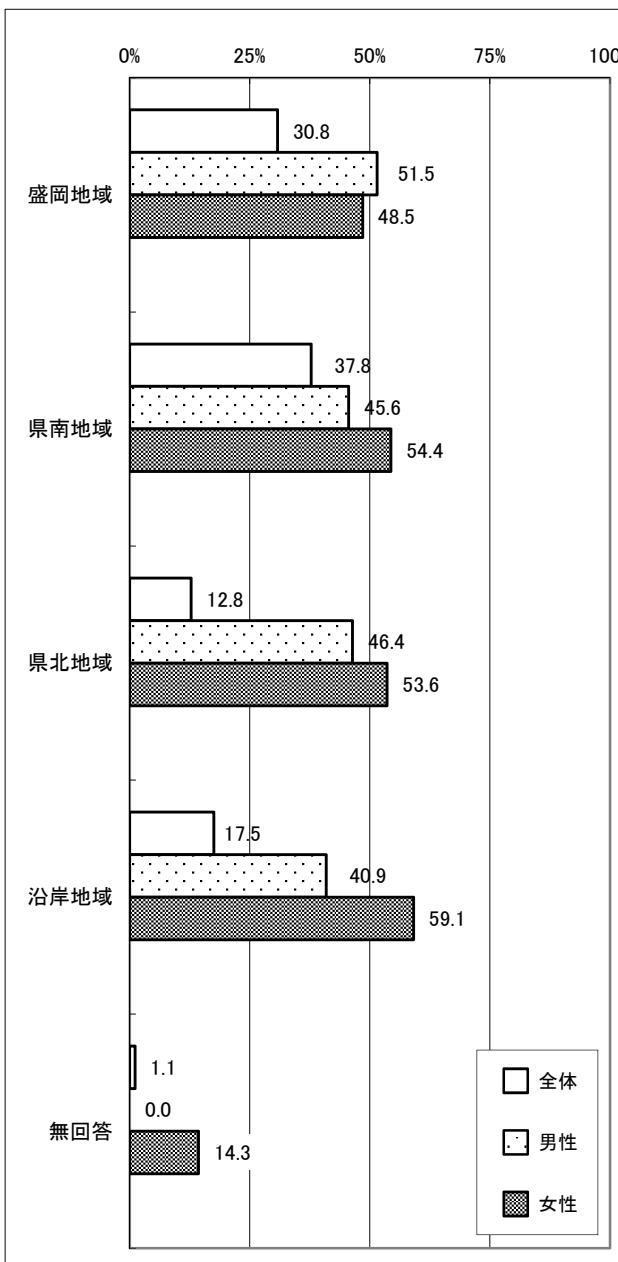


9 住んでいる地域

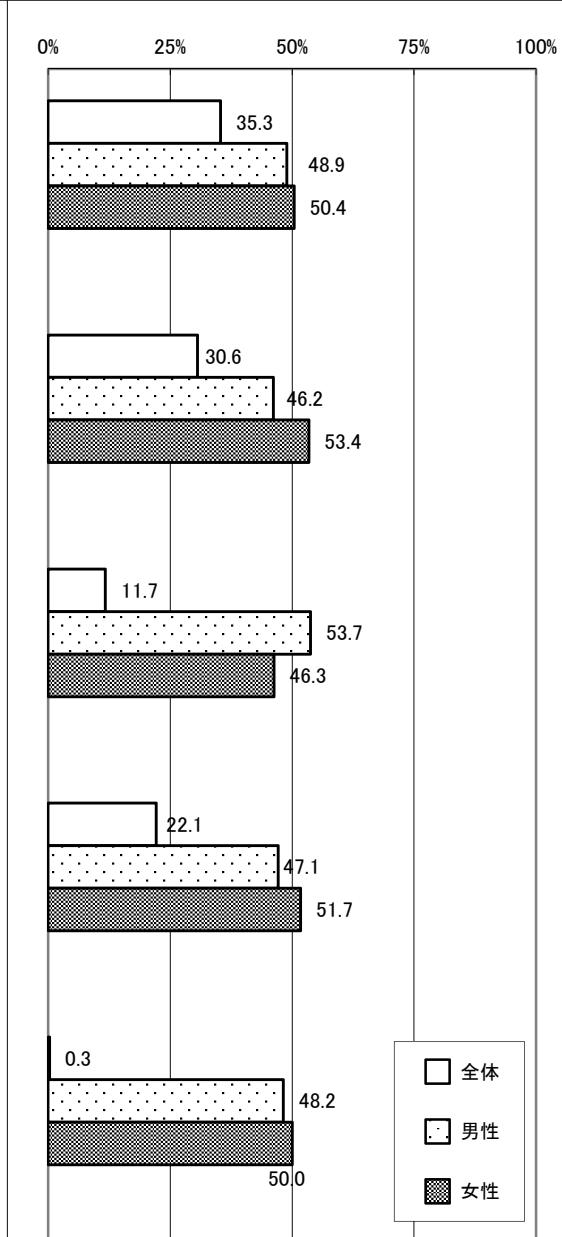
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

各地域の性別構成については、「盛岡地域」において女性よりも男性の割合の方が高かったが、「県南地域」、「県北地域」、「沿岸地域」は男性より女性の割合の方が高かった。

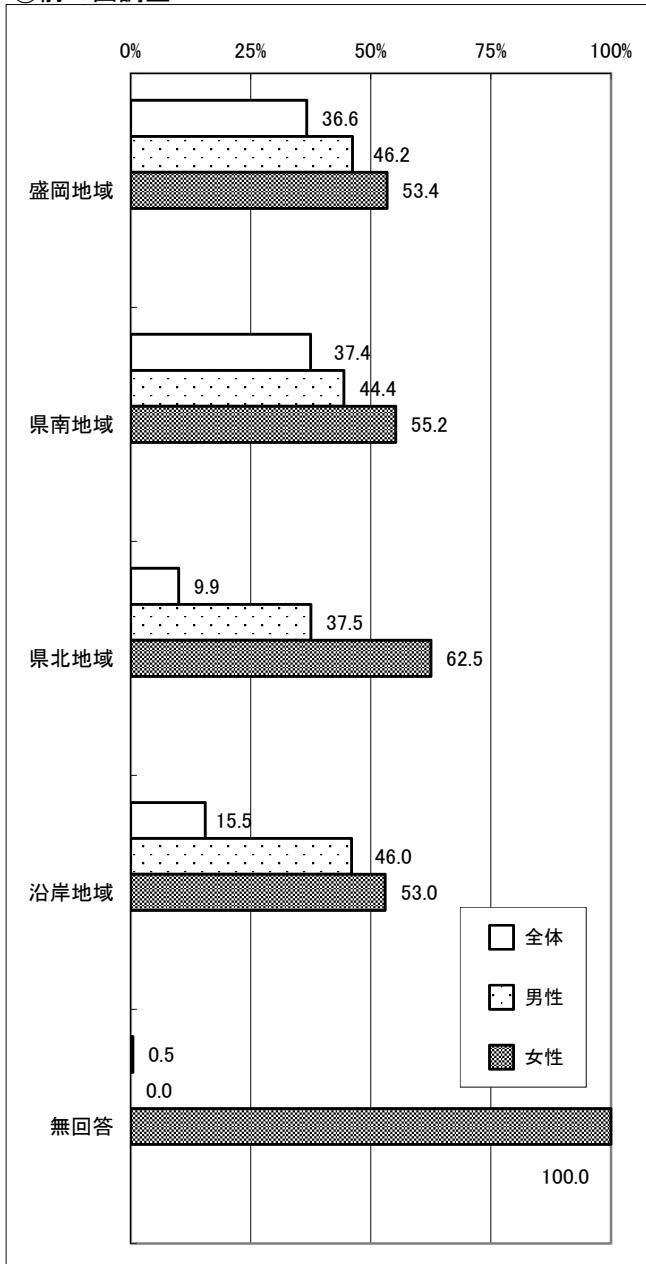
①今回調査



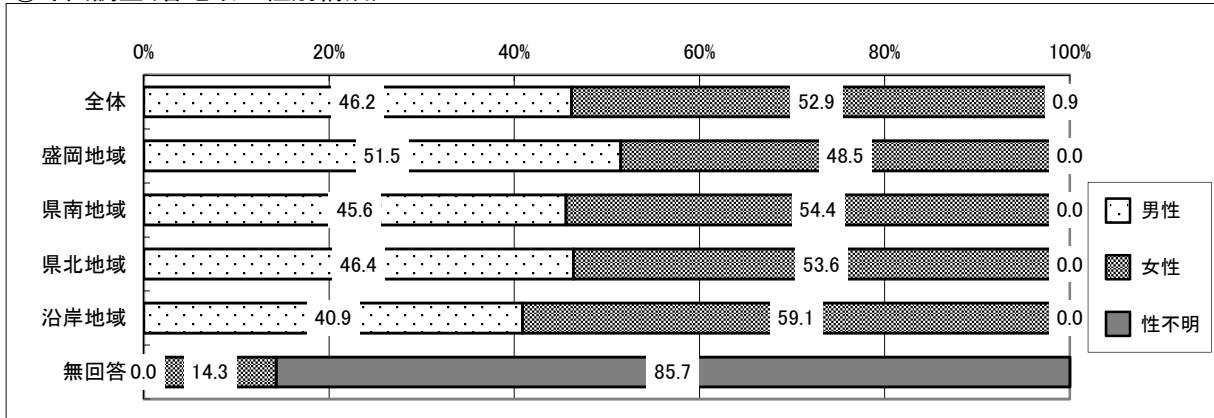
②前回調査(N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)



③前々回調査



④今回調査(各地域の性別構成)



以降、「III 調査テーマによる分析」からはその他、性別無回答者の回答を表記から除く。

III 調査テーマによる分析

III 調査テーマによる分析

1 男女平等について

問1 あなたは今の社会で、次のような各分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

次の①～⑧の項目ごとに1～6の中から1つずつ選んで○をつけてください。

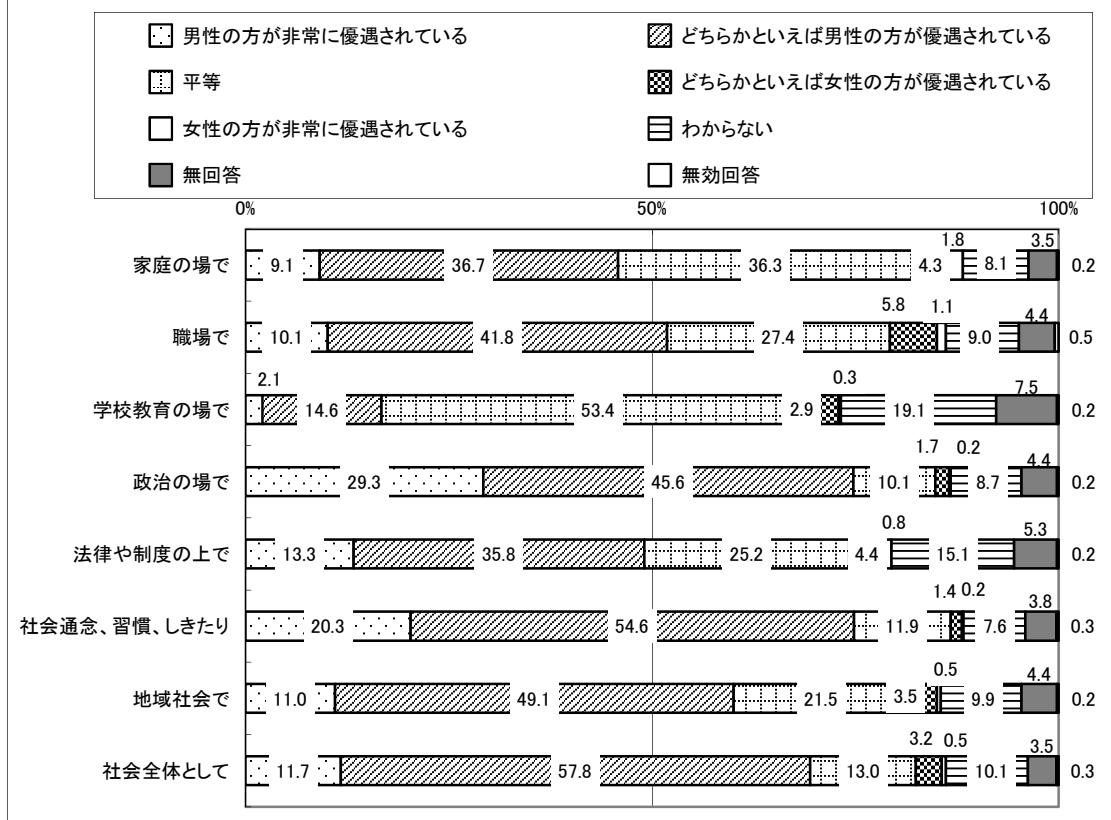
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

※「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答したものを『男性が優遇されている』、「女性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答したものを『女性が優遇されている』とする。

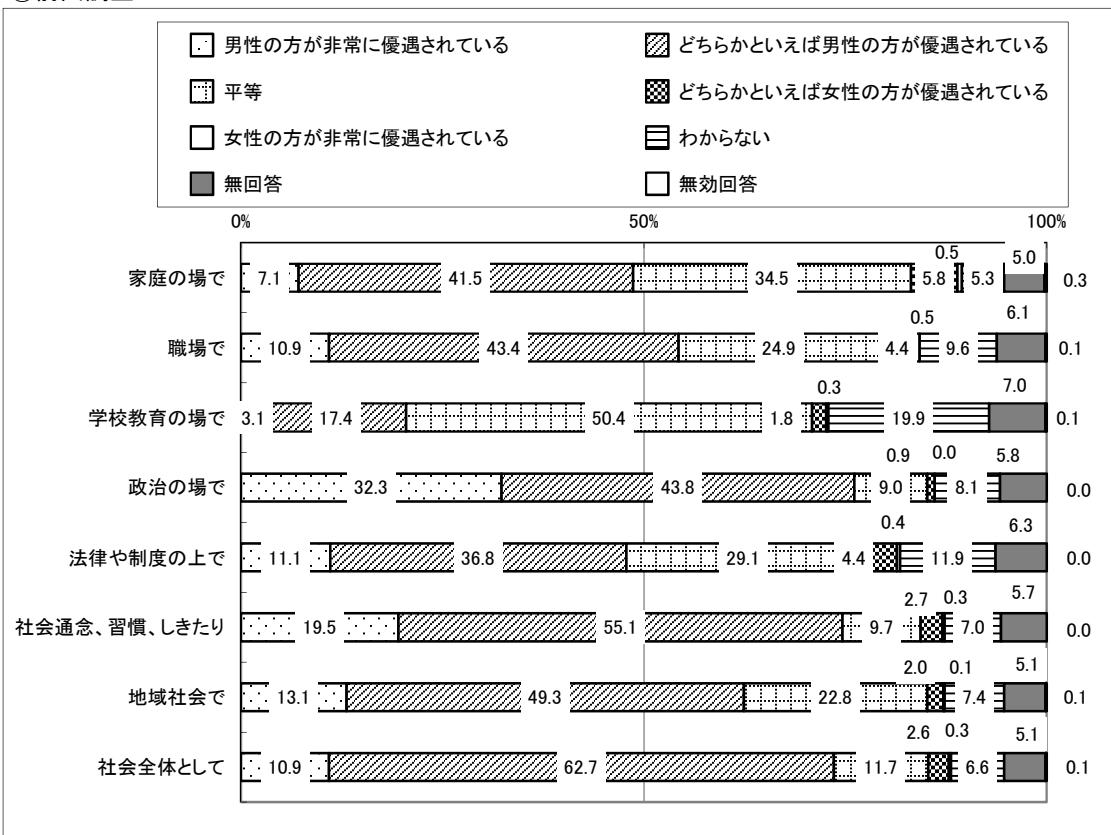
男女平等について、全体をみると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が低いのは「学校教育の場で」(16.7%)と「家庭の場で」(45.8%)である。次いで「法律や制度の上で」(49.1%)と続き、それ以外の分野においては全て『男性が優遇されている』と回答したものが半数を超えており。

前回調査と比較すると、「法律や制度の上で」『男性が優遇されている』と回答したもの(49.1%)は、前回調査(47.9%)より1.2ポイント増加し、「社会通念、習慣、しきたり」(74.9%)は、前回調査(74.6%)より0.3ポイント増加している。それ以外はすべて前回調査より『男性が優遇されている』が減少している。「学校教育の場で」(16.7%)が前回調査(20.5%)より3.8ポイント減少、「家庭の場で」(45.8%)が前回調査(48.6%)より2.8ポイント減少、「職場で」(51.9%)が前回調査(54.3%)より2.4ポイント減少している。

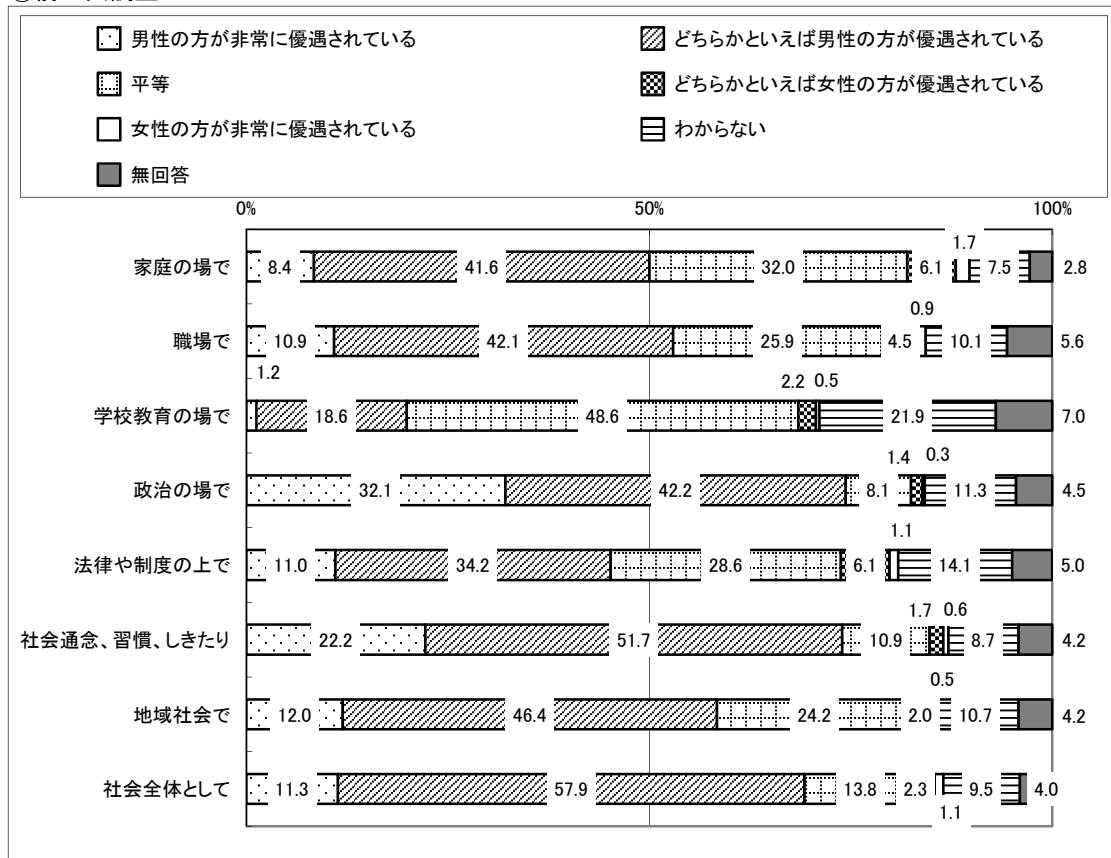
①今回調査



②前回調査



③前々回調査



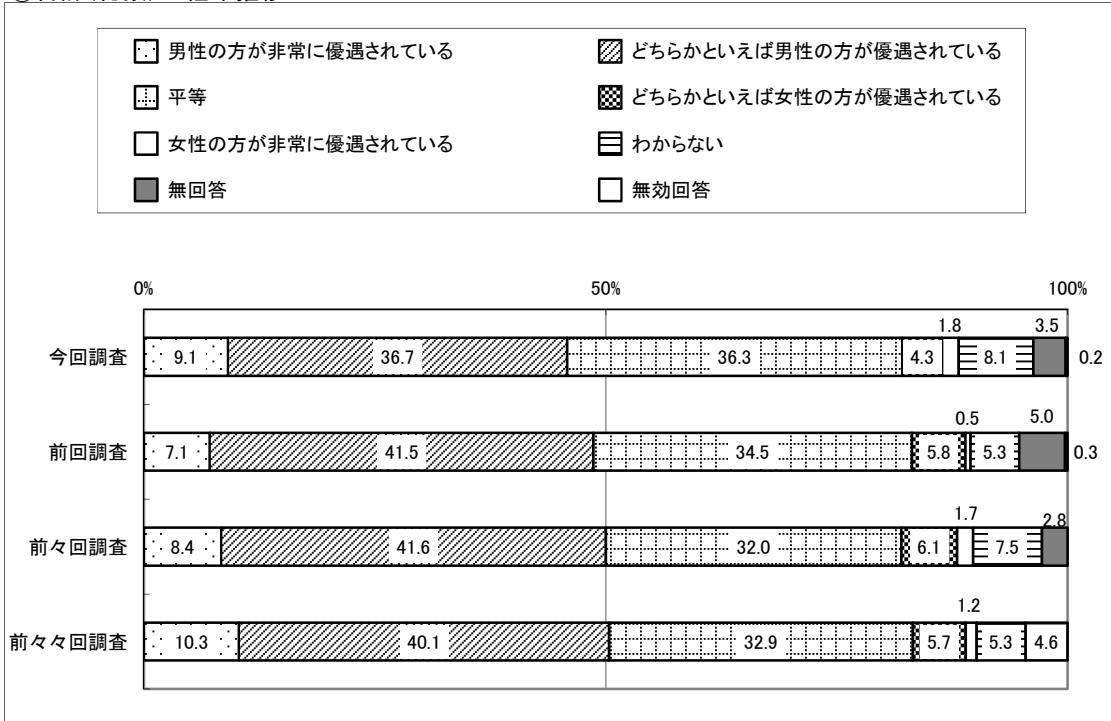
(1)家庭の場で

家庭の場で『男性が優遇されている』と回答したものは45.8%、『女性が優遇されている』と回答したものは6.1%である。

『男性が優遇されている』(45.8%)と回答したものは、前回調査(48.6%)より2.8ポイント減と前々回調査から連続して減少した。

ただし、『女性が優遇されている』(6.1%)も前回調査(6.3%)から0.2ポイント減少、「平等」(36.3%)が前回調査(34.5%)より1.8ポイント増加した。

①合計(総数)の経年推移

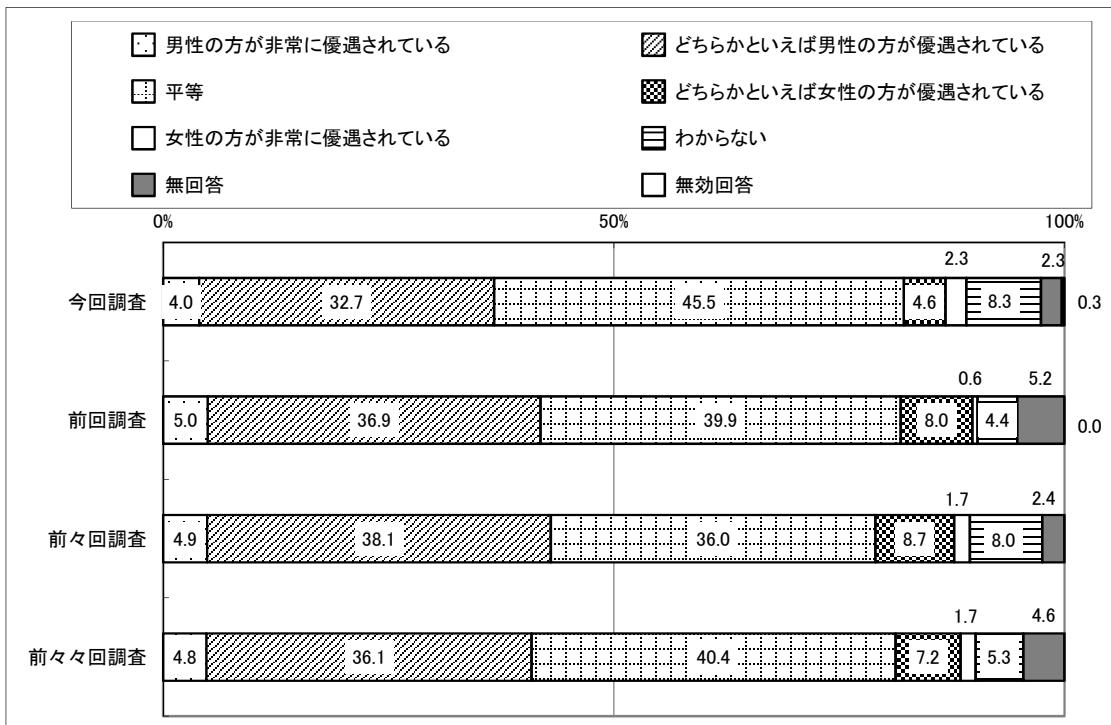


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは36.7%である。前回調査(41.9%)より5.2ポイント減少した。

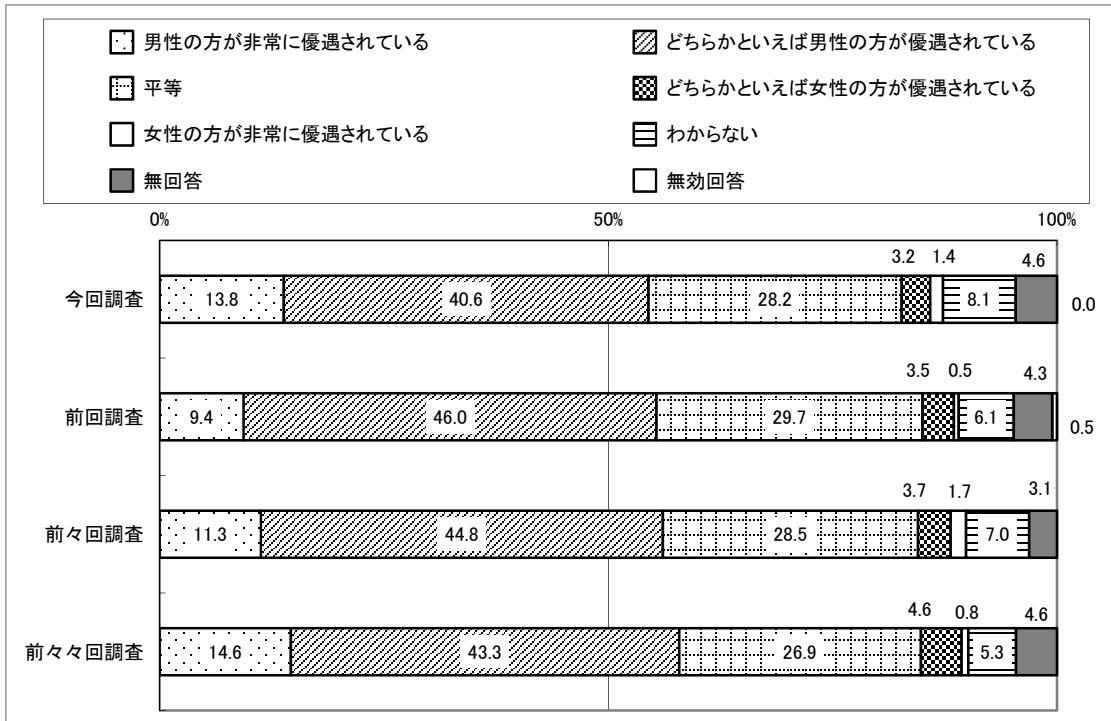
女性で『男性が優遇されている』と回答したものは54.4%である。前回調査(55.4%)より1.0ポイント減少、前々回調査(56.1%)より1.7ポイント減少しており、減少傾向であるが、依然として過半数を超えるものが『男性が優遇されている』と回答しており、男性と女性との間での認識の差が見られる。

尚、男性で「平等」(45.5%)と回答したものは前回調査(39.9%)より5.6ポイント増加している。一方、女性で「平等」(28.2%)と回答したものは前回調査(29.7%)より1.5ポイント

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)



③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)



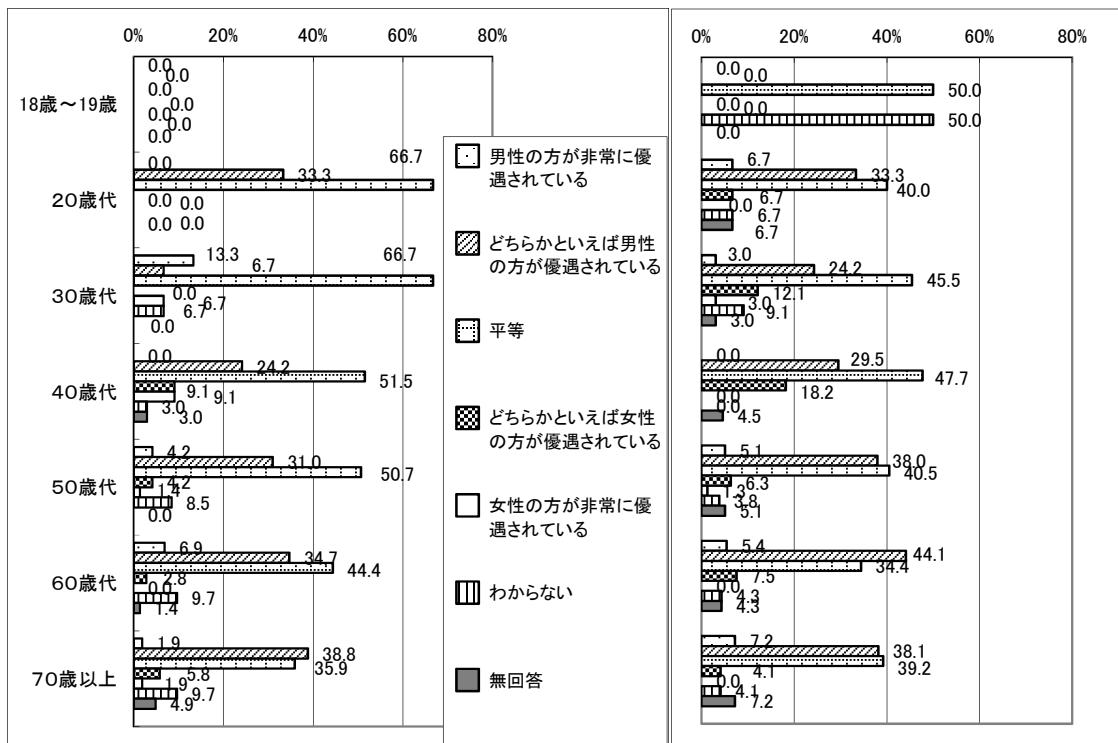
性別・年代別に見ると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「60歳代」(41.6%)であり、次いで「70歳以上」(40.7%)、「50歳代」(35.2%)と続く。前回調査と比較して、すべての年代で前回調査より減少しているが、最も差が大きかったのは「60歳代」(41.6%)であり、前回調査(49.5%)より7.9ポイント減少している。

女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「60歳代」(62.4%)であり、次いで「50歳代」(57.7%)、「70歳以上」(55.9%)と続く。

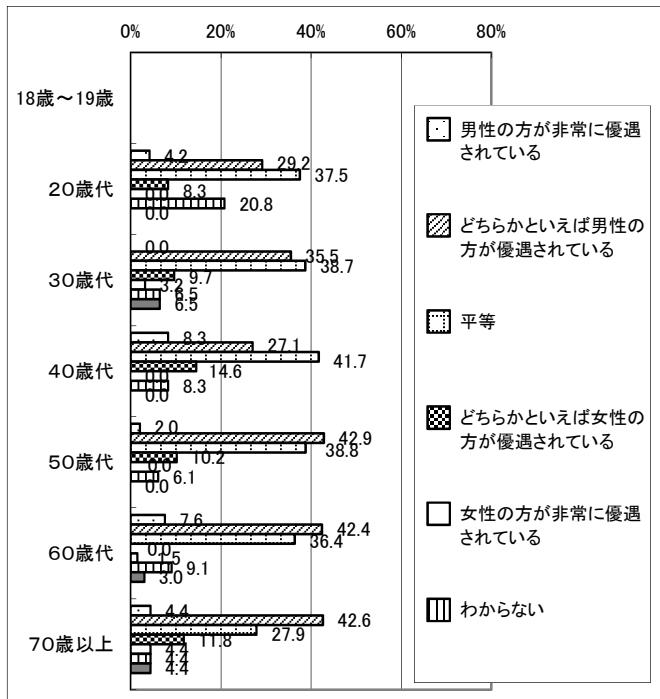
今回調査では前回調査より、男性は「平等」と回答した割合が増加。「平等」と回答した年代の割合が最も高いのは、男性は同率で「20歳代」「30歳代」(66.7%)、女性は「18歳～19歳」(66.7%)である。

「平等」と回答した男性「20歳代」(66.7%)では、前回調査(40.0%)より26.7ポイントと大きく増加、一方、女性「20歳代」(42.9%)では、前回調査(61.9%)より19.0ポイントと大きく減少している。

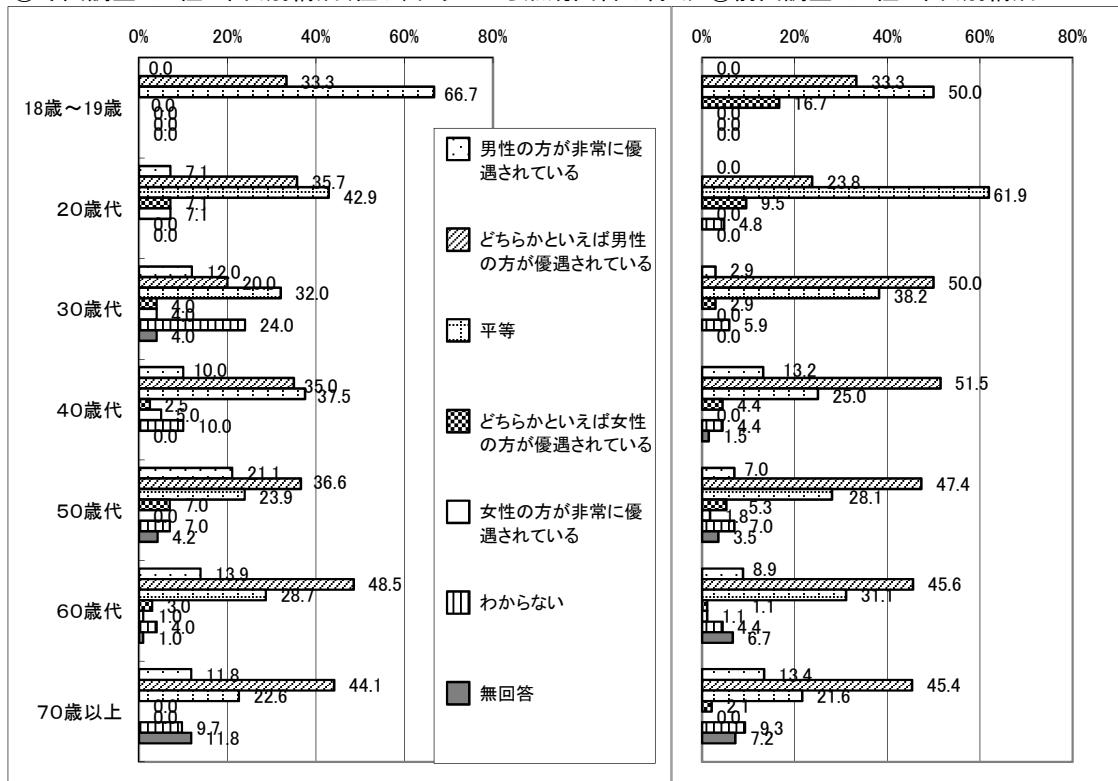
④今回調査 男性・年代別構成(但しグラフからは無効回答を除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



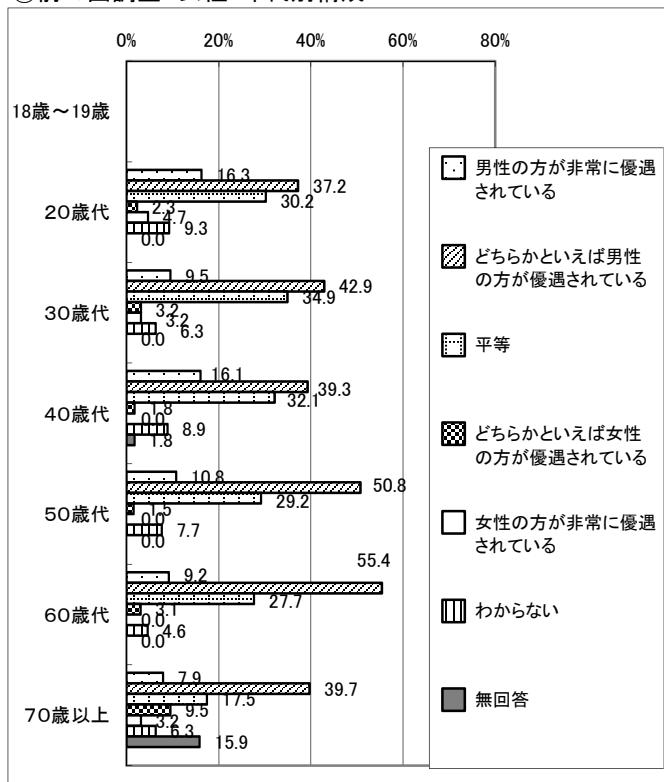
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



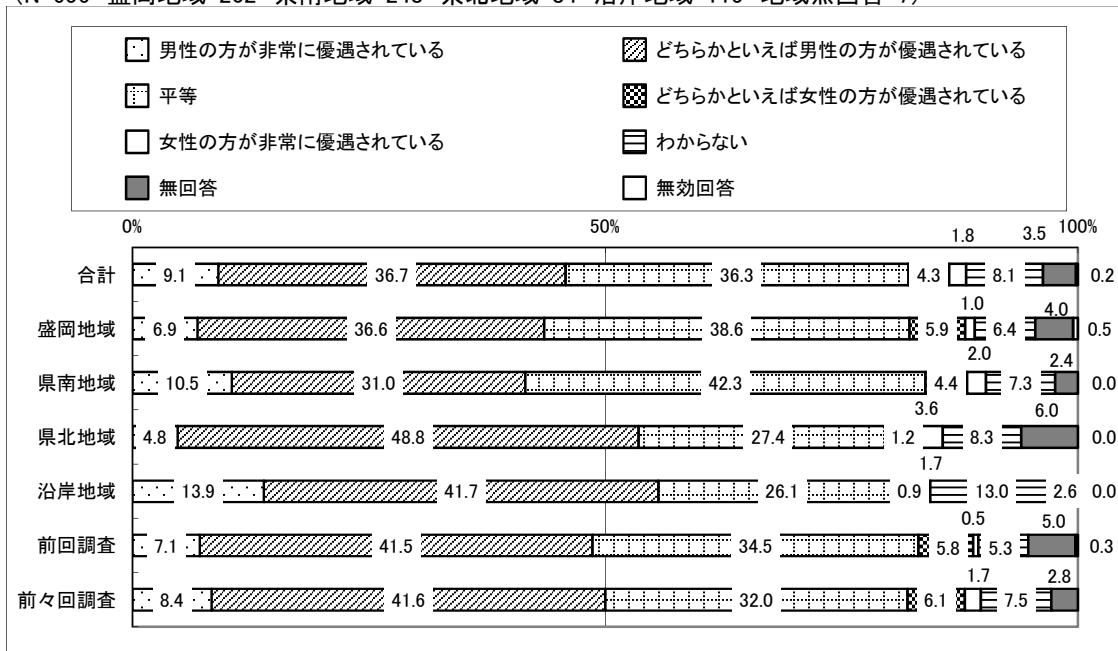
⑨前々回調査 女性・年代別構成



地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高かったのは「沿岸地域」(55.6%)であり、次いで「県北地域」(53.6%)、「盛岡地域」(43.5%)となっている。

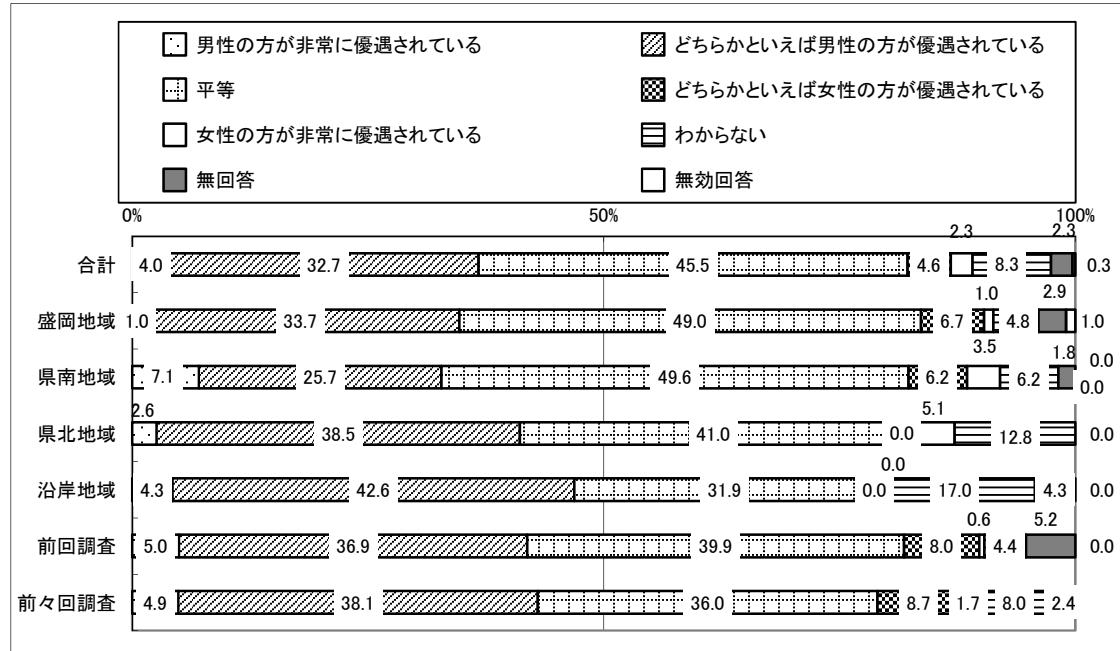
⑩今回調査 地域別による構成

(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

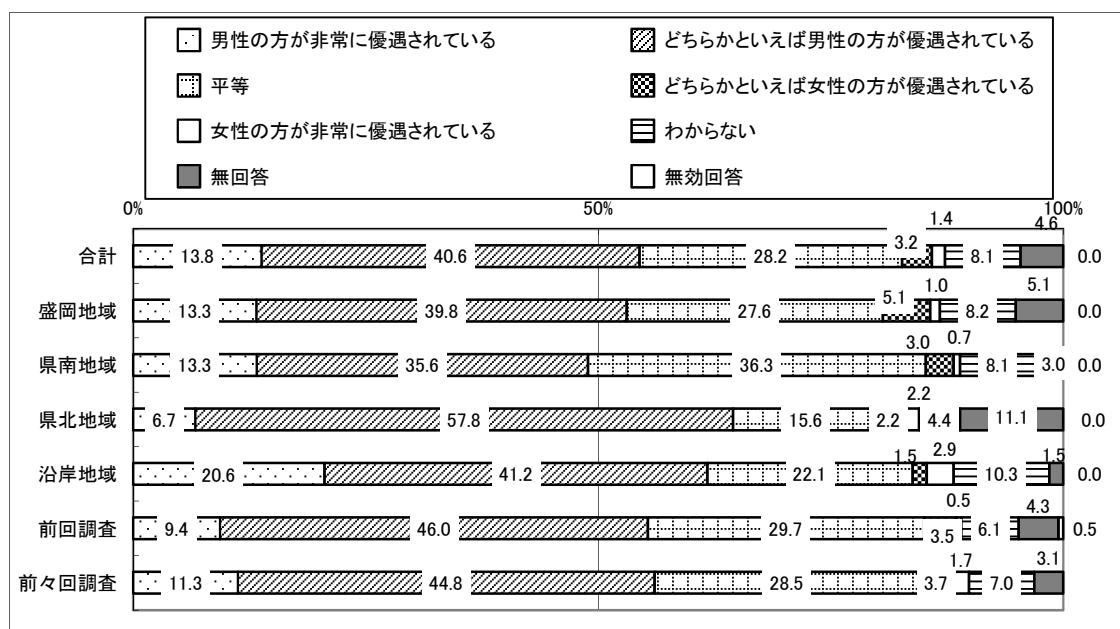


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものが多かった地域は、沿岸地域(46.9%)であり、女性で『男性が優遇されている』と回答したものが多かった地域は、「県北地域」(64.5%)となっている。

⑪今回調査 男性の地域別構成



⑫今回調査 女性の地域別構成



(2)職場で

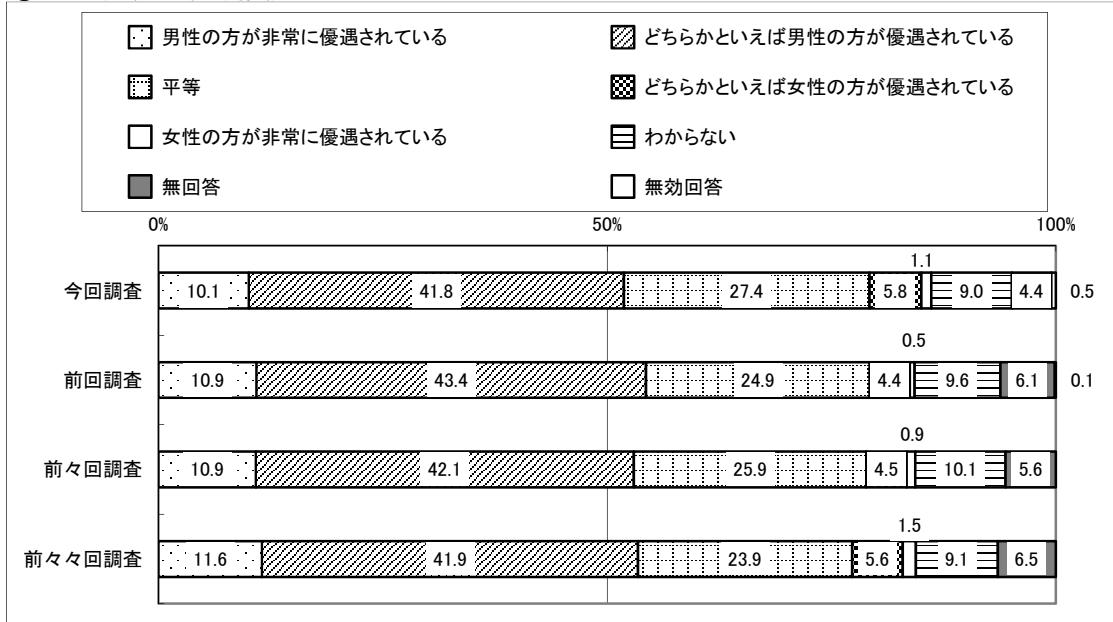
職場で『男性が優遇されている』と回答したものは51.9%、『女性が優遇されている』と回答したものは6.9%である。

『男性が優遇されている』(51.9%)と回答したものは、前回調査(54.3%)より2.4ポイント減少した。前回調査において増加したが、今回調査では減少に転じた。

「平等」と回答したものは27.4%であり、前回調査(24.9%)より2.5ポイント増加した。

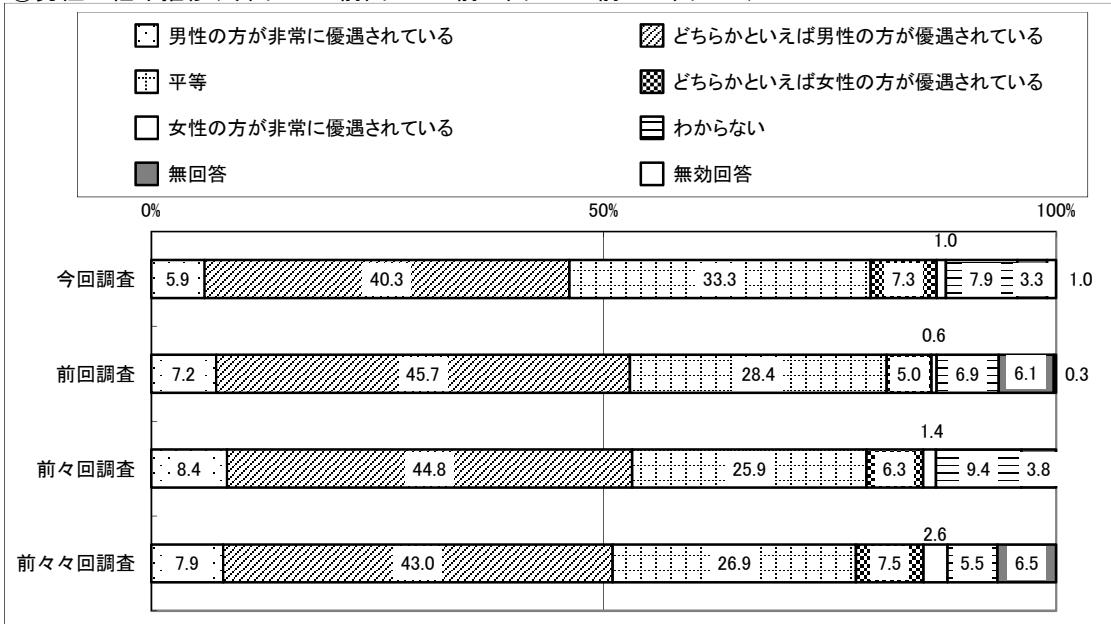
『女性が優遇されている』(6.9%)と回答したものは前回調査(4.9%)より2.0ポイント増加し

①合計(総数)の経年推移

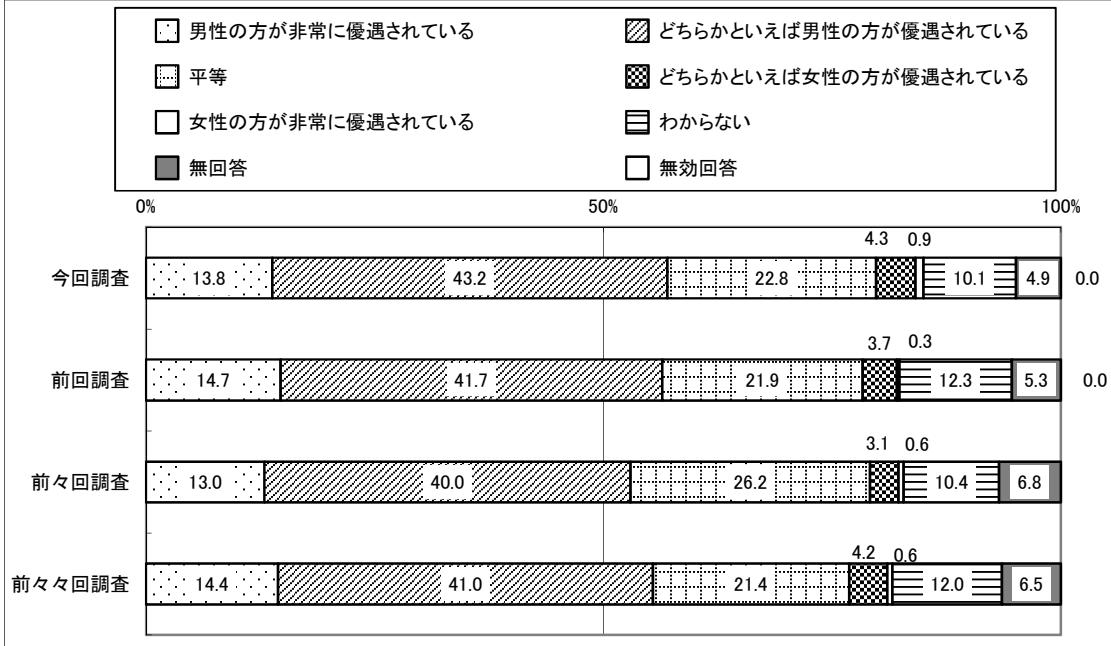


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは46.2%である。前回調査(52.9%)より6.7ポイント減少している。「平等」と回答したものは33.3%であり、前回調査(28.4%)より4.9ポイント増加した。女性で『男性が優遇されている』と回答したものは57.0%で、前回調査(56.4%)より0.6ポイント増加している。「平等」は22.8%と前回調査(21.9%)より0.9ポイント増加している。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)



③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)



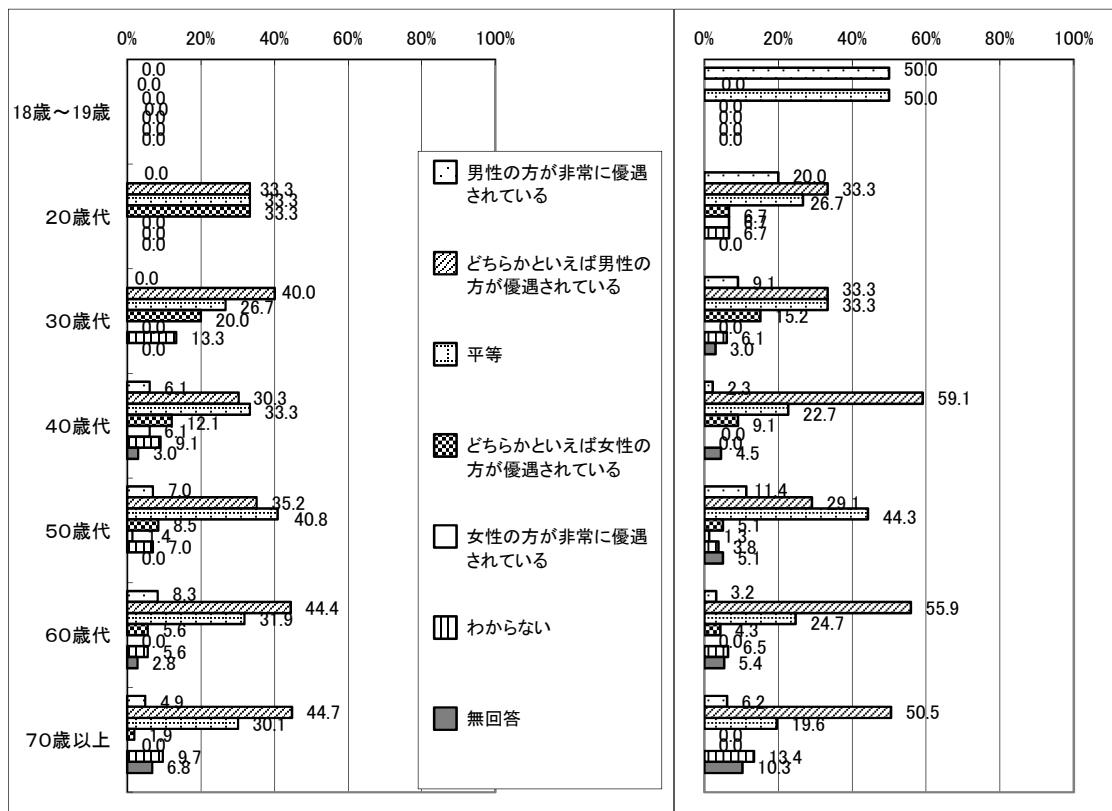
性別・年代別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「60歳代」(52.7%)であり、次いで「70歳以上」(49.6%)、「50歳代」(42.2%)と続く。

前回調査と比較して最も差が大きかったのは、「40歳代」(36.4%)であり、前回調査(61.4%)より25.0ポイントと大幅に減少している。一方「50歳代」(42.2%)は前回調査(40.5%)より1.7ポイント増加している。

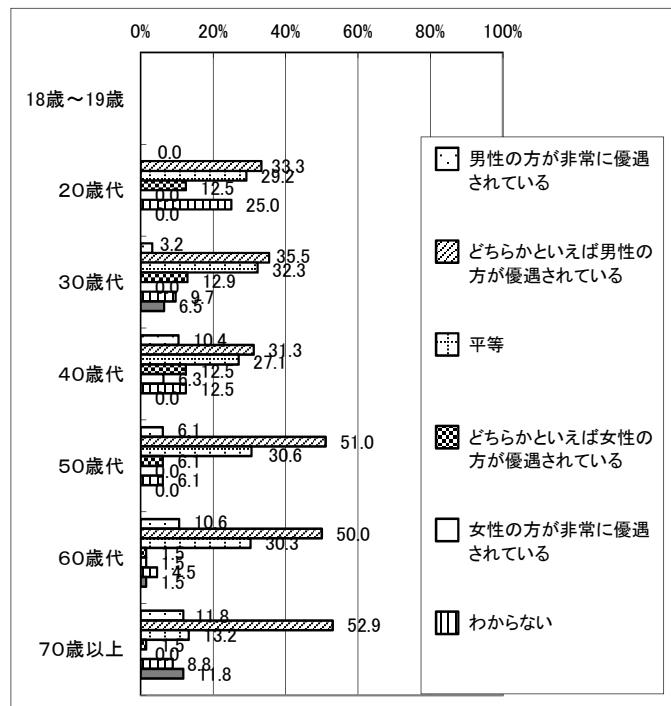
女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、「60歳代」(63.4%)であり、次いで同率で「50歳代」、「70歳以上」(59.1%)、「30歳代」(52.0%)と続く。

『男性が優遇されている』と回答したもので、年代別で最も男女差が大きかったのは「50歳代」であり、男性(42.2%)と女性(59.1%)では、女性の方が16.9ポイント高い。また、すべての年代で男性より女性の方が『男性が優遇されている』と回答した割合が高くなっている。

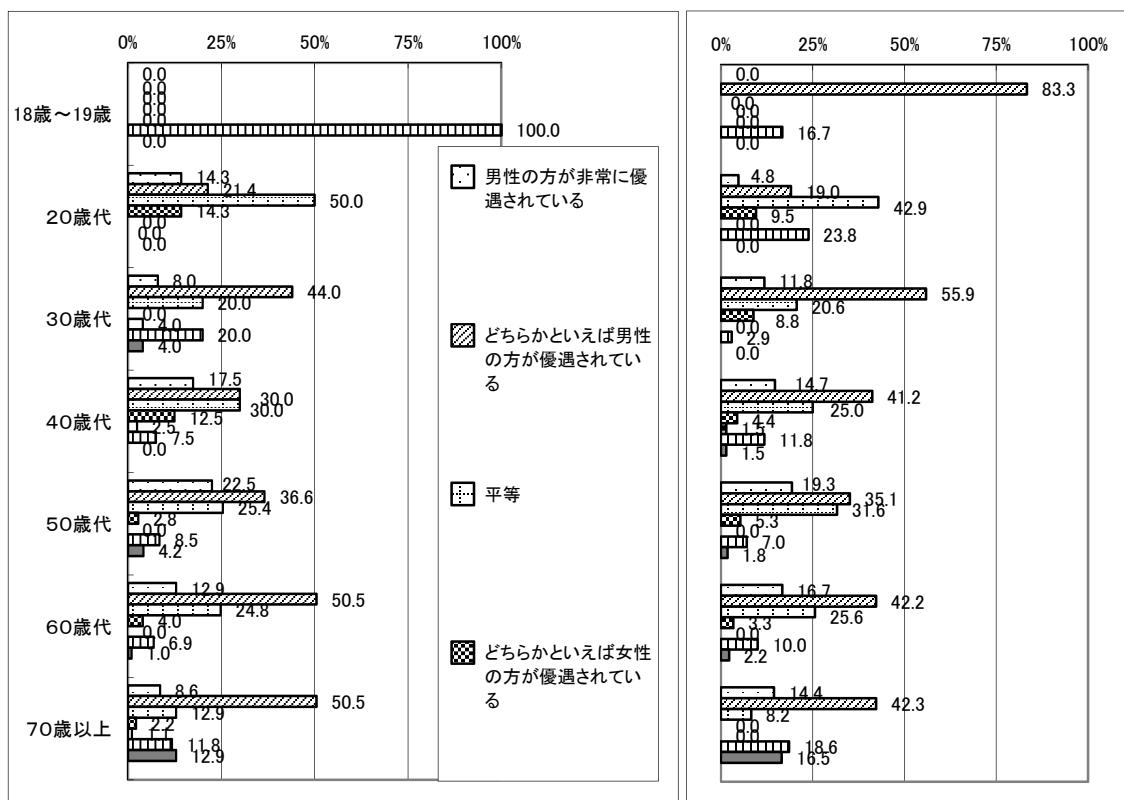
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



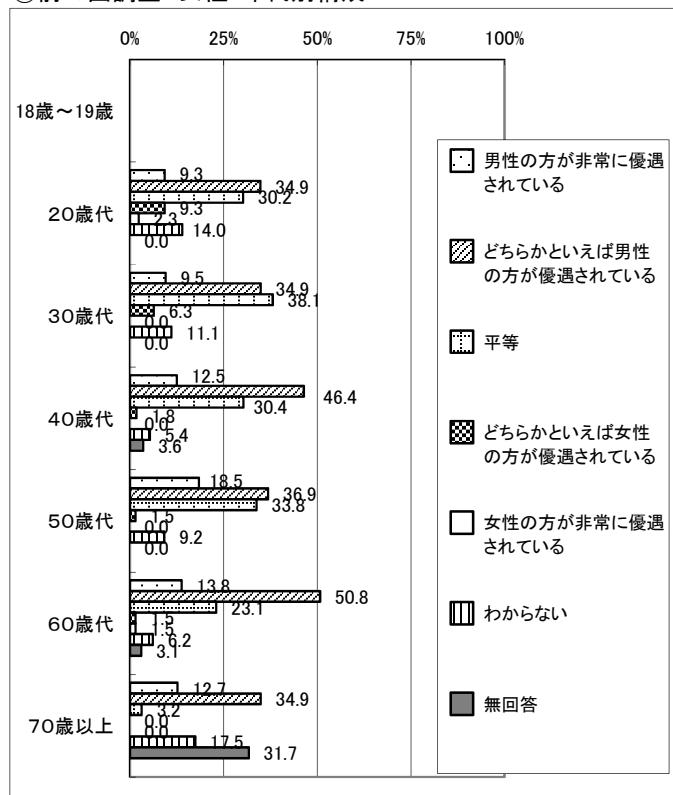
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



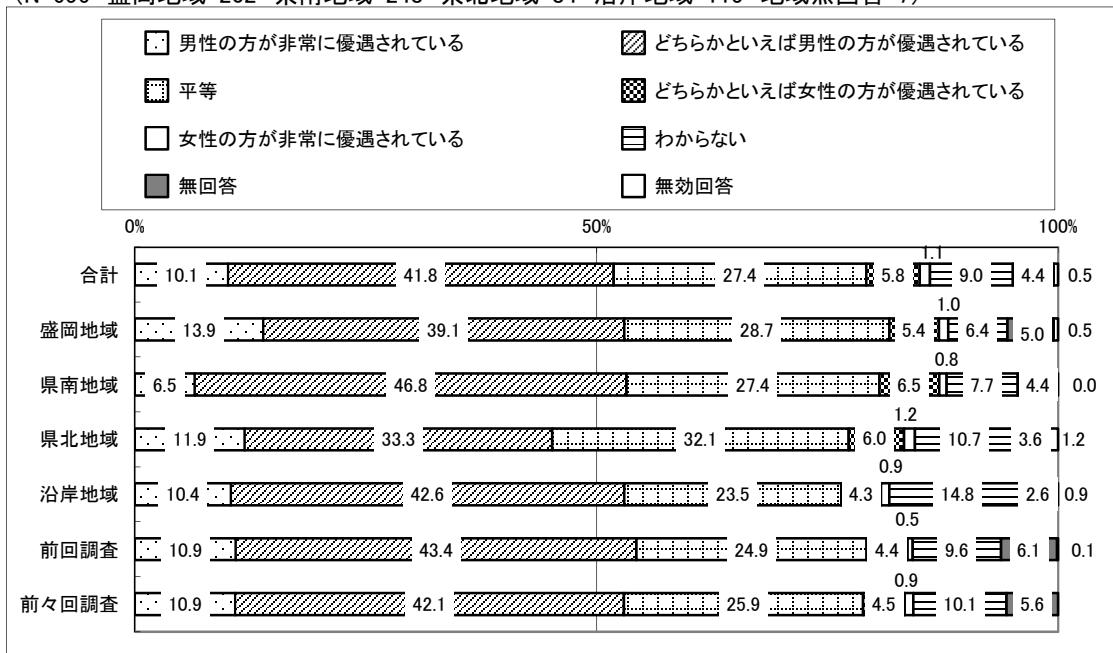
⑨前々回調査 女性・年代別構成



地域別にみると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高かったのは「県南地域」(53.3%)であり、次いで「盛岡地域」、「沿岸地域」(それぞれ51.9%)と続く。
 「平等」と回答したものの割合が最も高かったのは「県北地域」が(32.1%)、「盛岡地域」(28.7%)と続く。

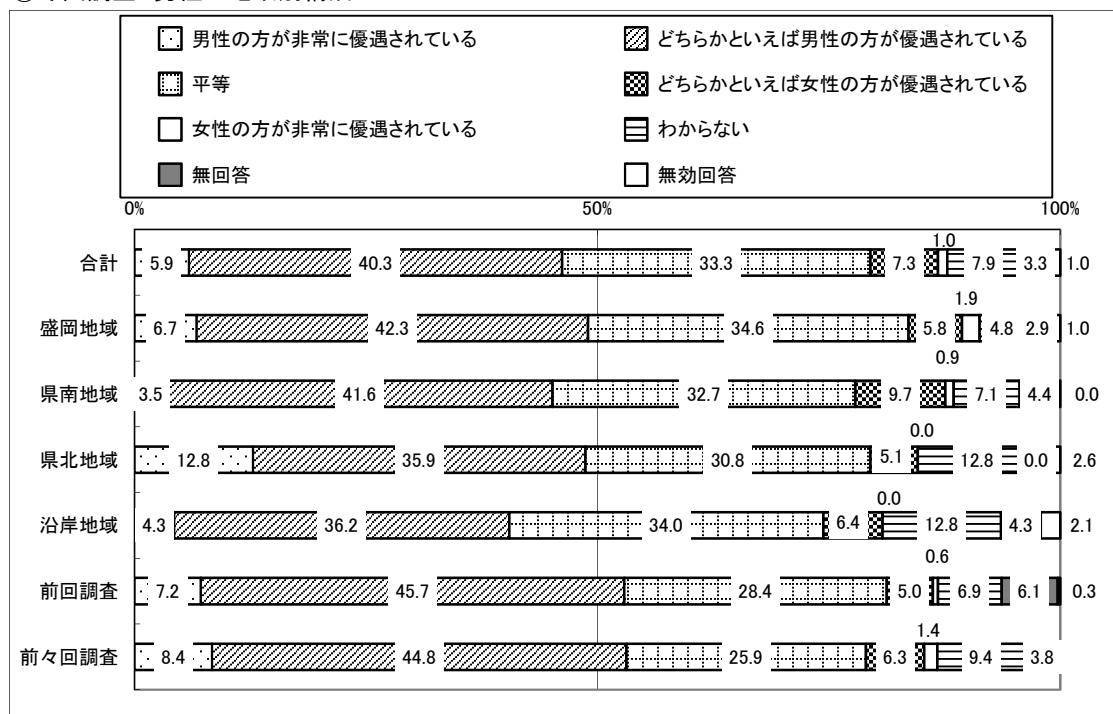
⑩今回調査 地域別による構成

(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

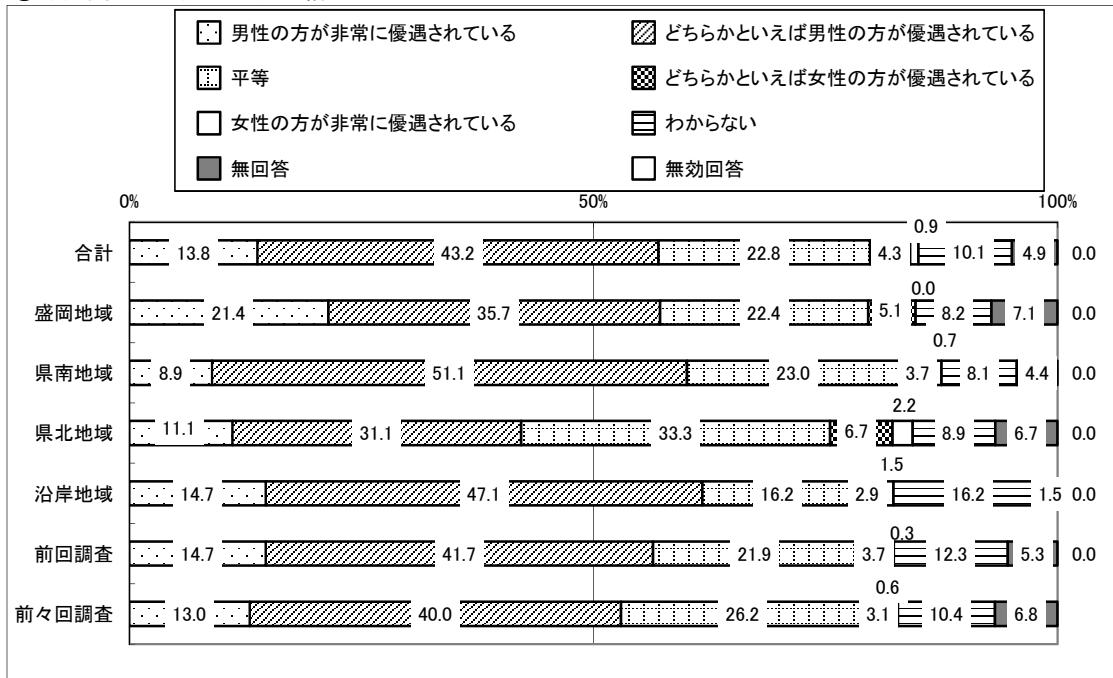


地域別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が男性で最も高いのは、「盛岡地域」(49.0%)、女性では「沿岸地域」(61.8%)である。男女差が最も大きいのは「沿岸地域」であり、男性(40.5%)と女性(61.8%)では、女性の方が21.3ポイント高い。

⑪今回調査 男性の地域別構成



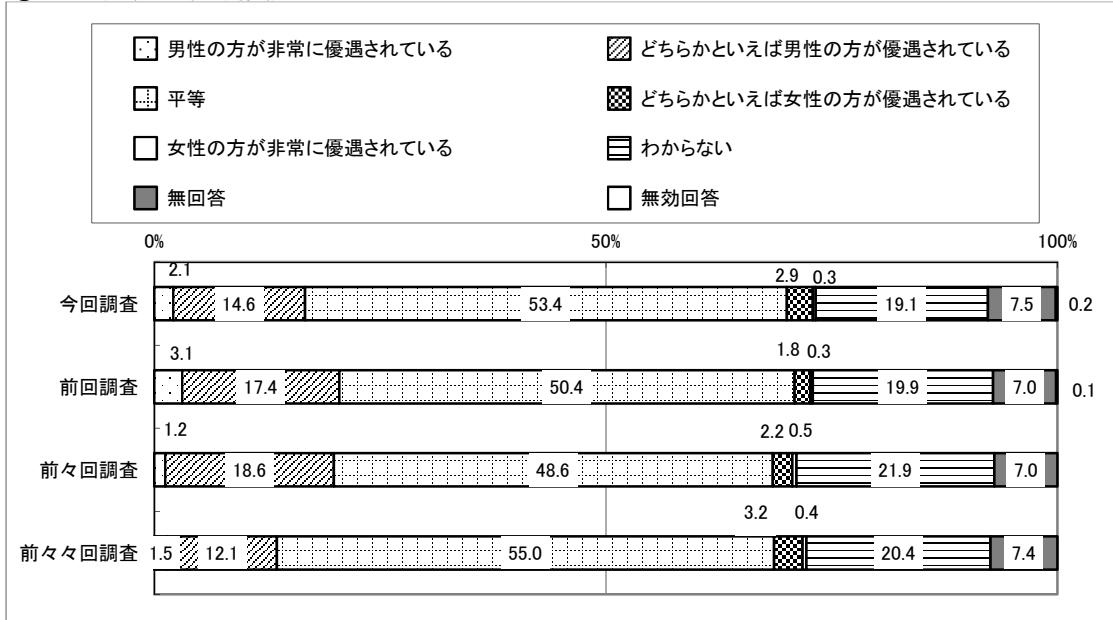
⑫今回調査 女性の地域別構成



(3)学校教育の場で

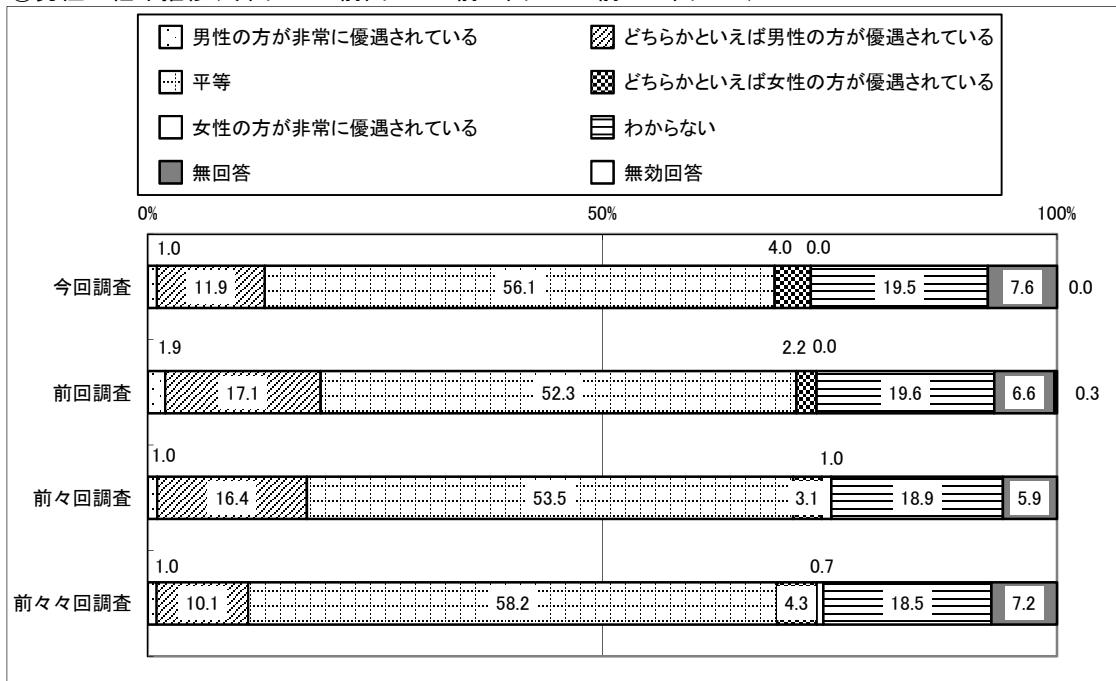
学校教育の場で『男性が優遇されている』と回答したものは16.7%、『女性が優遇されている』と回答したものは3.2%である。『男性が優遇されている』(16.7%)と回答したものは、前回調査(20.5%)より3.8ポイント減少した。『平等』と回答したものは53.4%であり、前回調査(50.4%)より3.0ポイント増加している。

①合計(総数)の経年推移

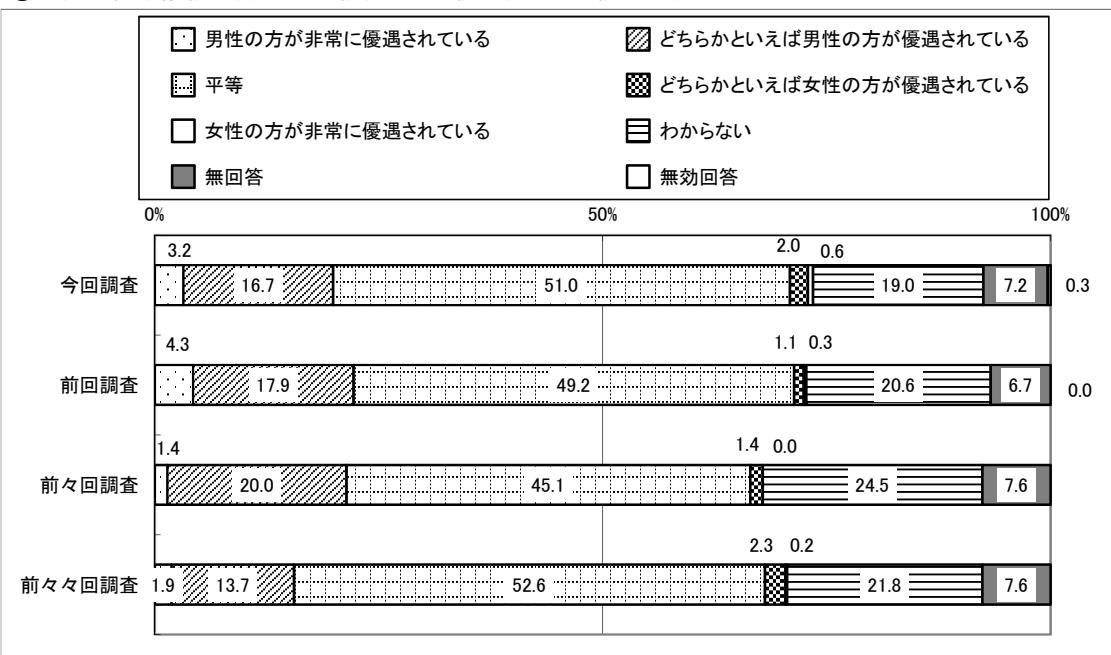


男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答した男性は12.9%、女性は19.9%である。前回調査（男性：19.0%、女性：22.2%）と比較すると、男性は6.1ポイント、女性は2.3ポイントそれぞれ減少している。『平等』と回答した男性は、今回調査（56.1%）であり、前回調査（52.3%）より3.8ポイント増加している。女性は今回調査（51.0%）であり、前回調査（49.2%）より1.8ポイント増加している。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)



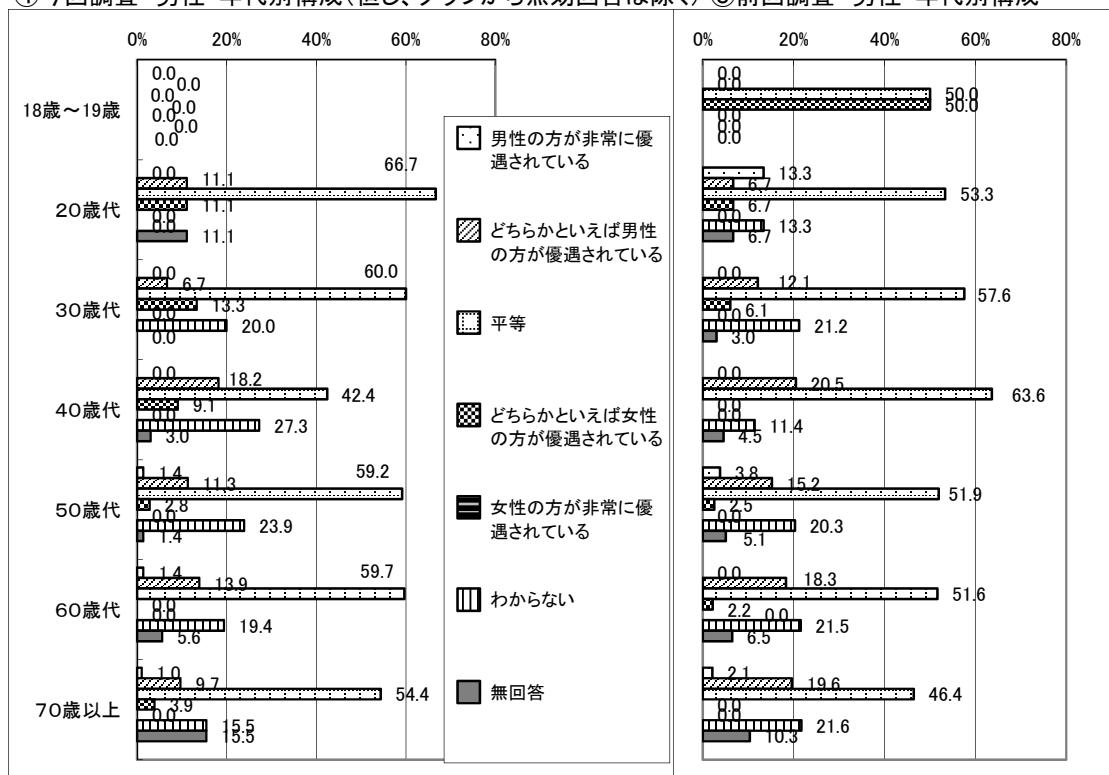
③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)



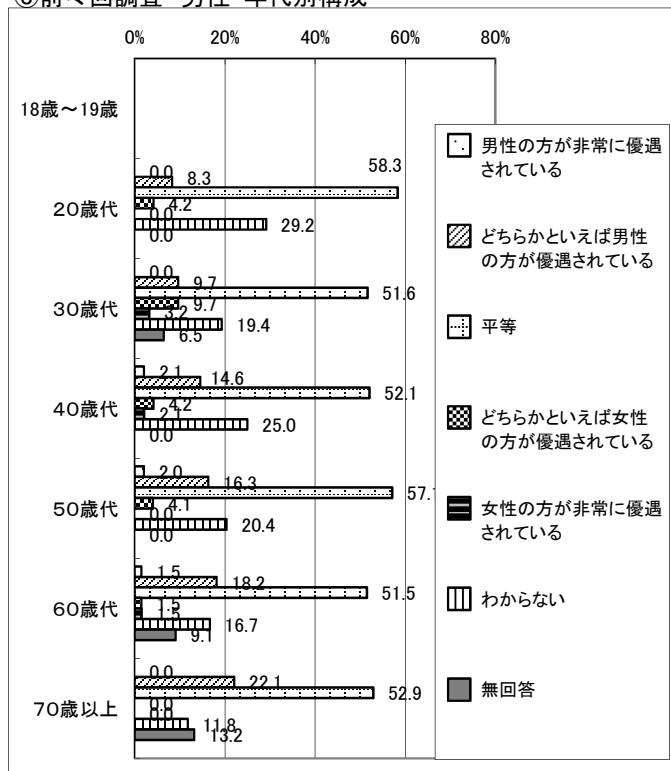
性別・年代別にみると、『男性が優遇されている』と回答した男性が最も多いのは「40歳代」(18.2%)であり、次いで「60歳代」(15.3%)である。男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、『男性が優遇されている』と回答した男性(0.0%)と女性(33.3%)では、33.3ポイント差で女性が高かった。

前回調査と比較すると、『男性が優遇されている』と回答した男性の「60歳代」(15.3%)では、前回調査(18.3%)より3.0ポイント減少している。一方、女性の「60歳代」(27.7%)では、前回調査(21.1%)より6.6ポイント増加している。

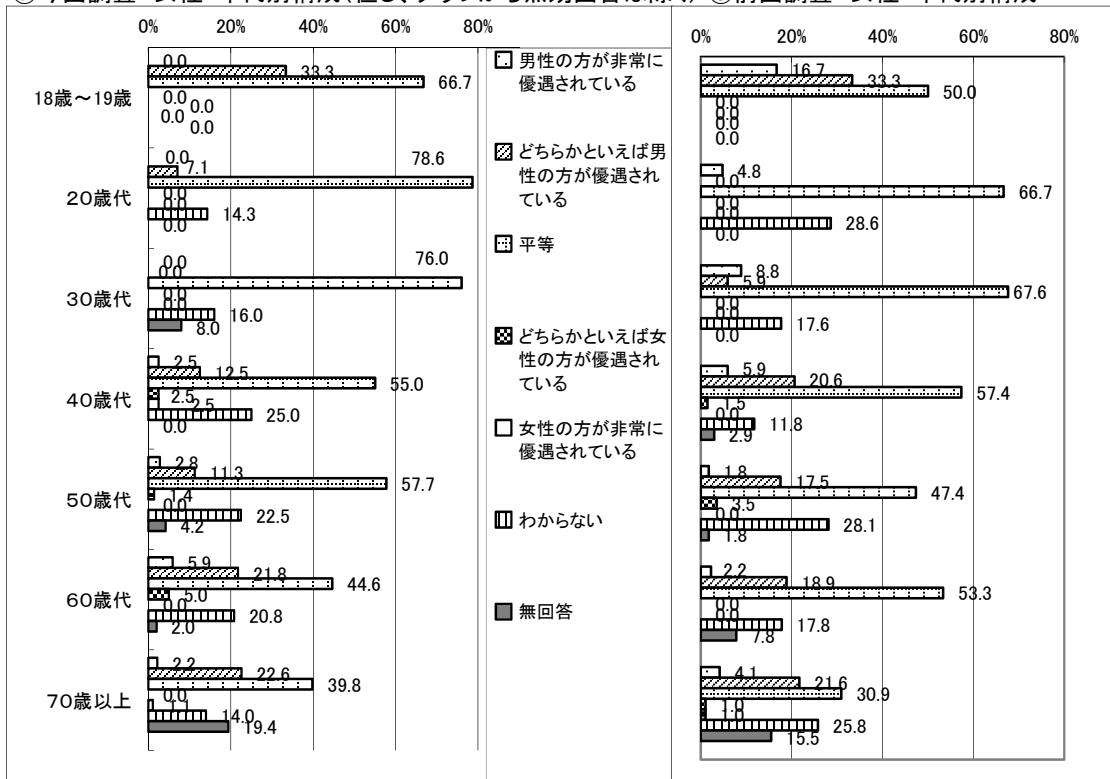
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



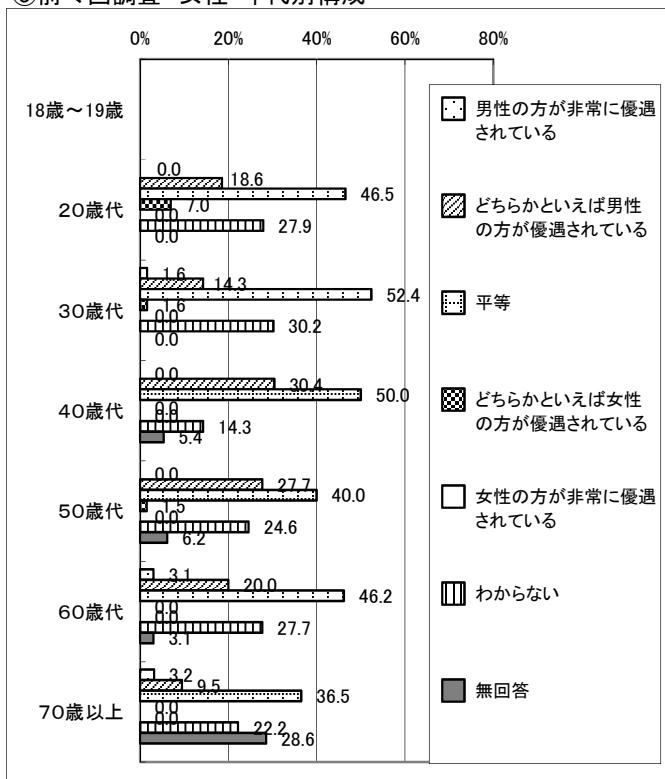
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



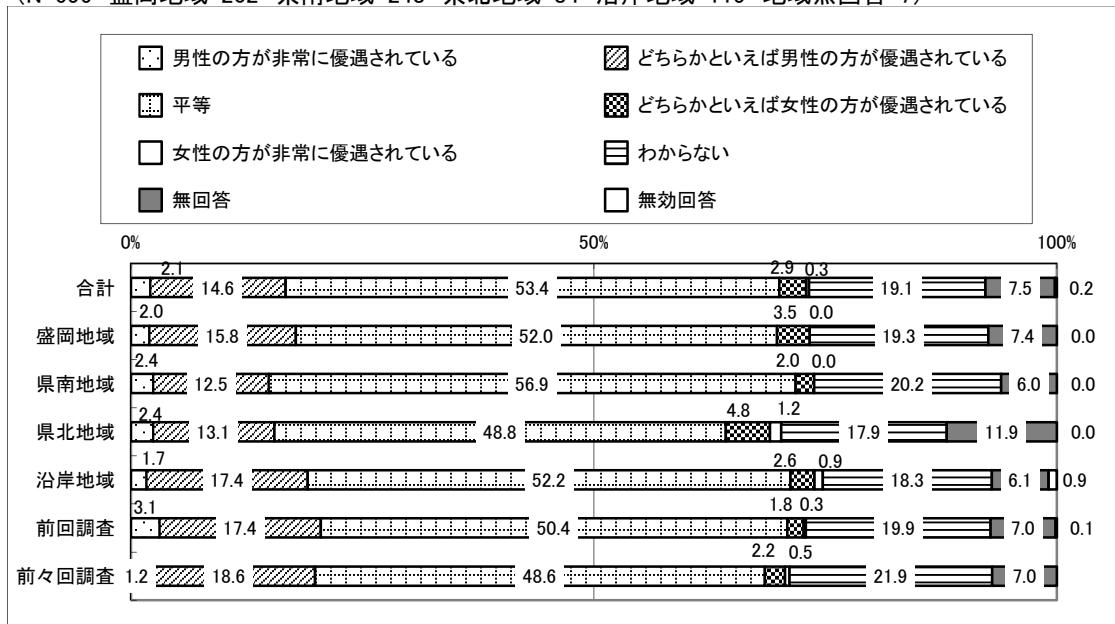
⑨前々回調査 女性・年代別構成



地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「沿岸地域」(19.1%)であり、次いで「盛岡地域」(17.8%)、「県北地域」(15.5%)、「県南地域」(14.9%)と続

⑩今回調査 地域別による構成

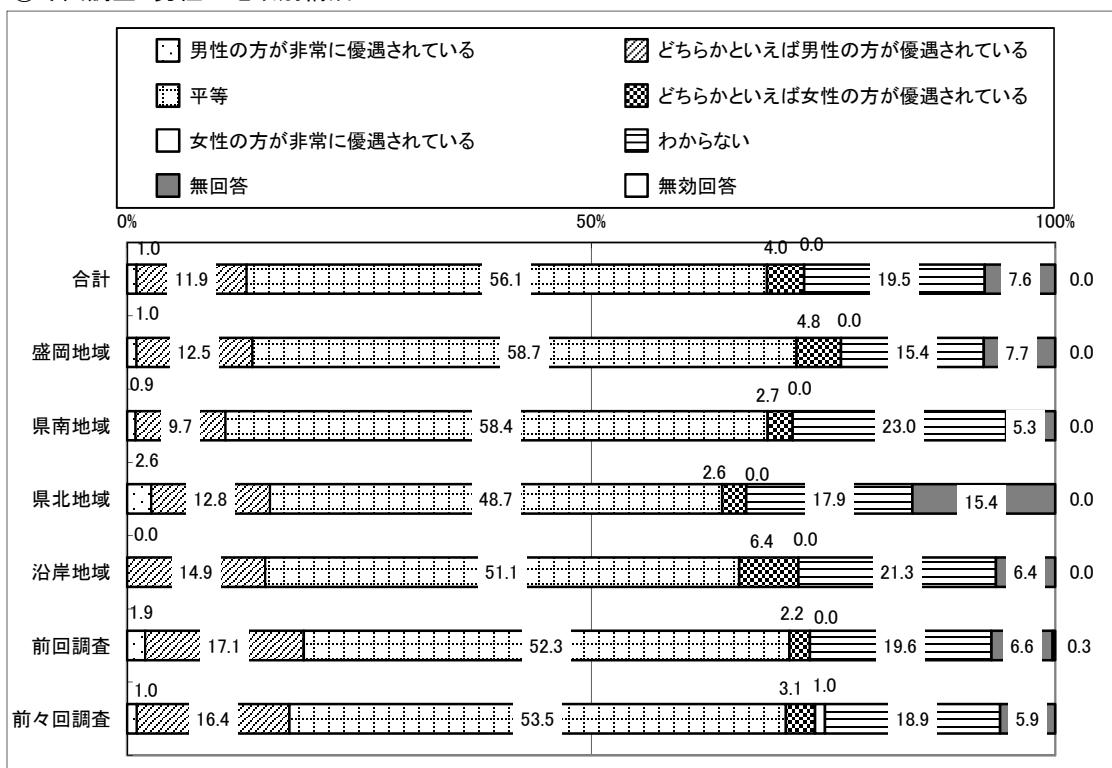
(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)



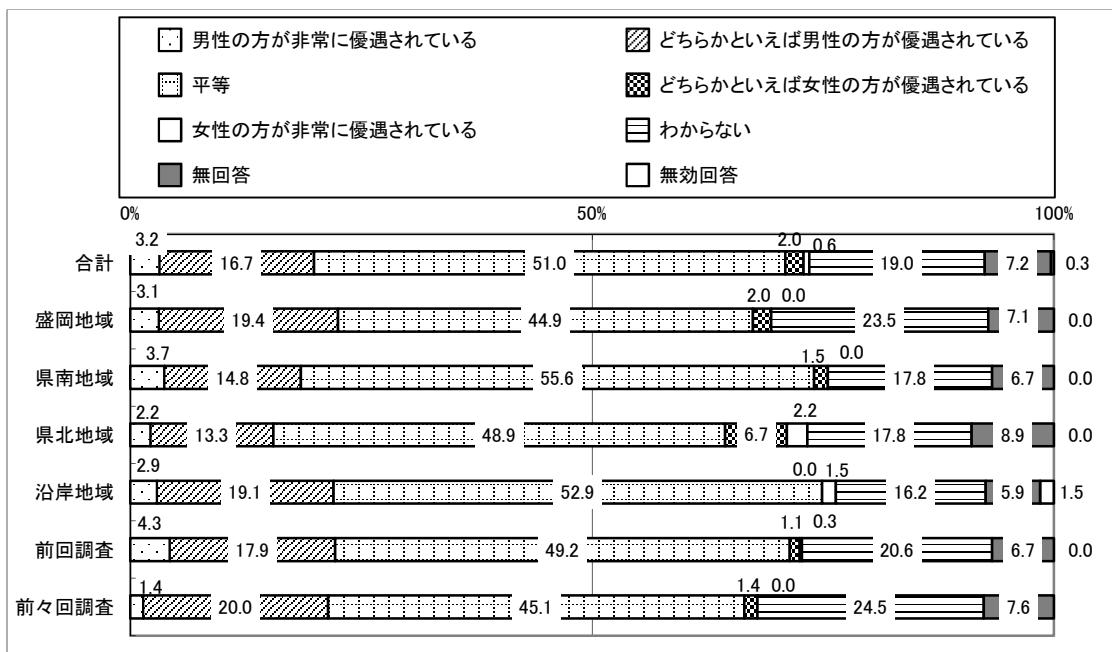
地域別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が男性で最も高いのは、「県北地域」(15.4%)、女性では「盛岡地域」(22.5%)である。

男女差が最も大きいのは「盛岡地域」であり、男性(13.5%)と女性(22.5%)では、男性の方が9.0ポイント低い。

⑪今回調査 男性の地域別構成



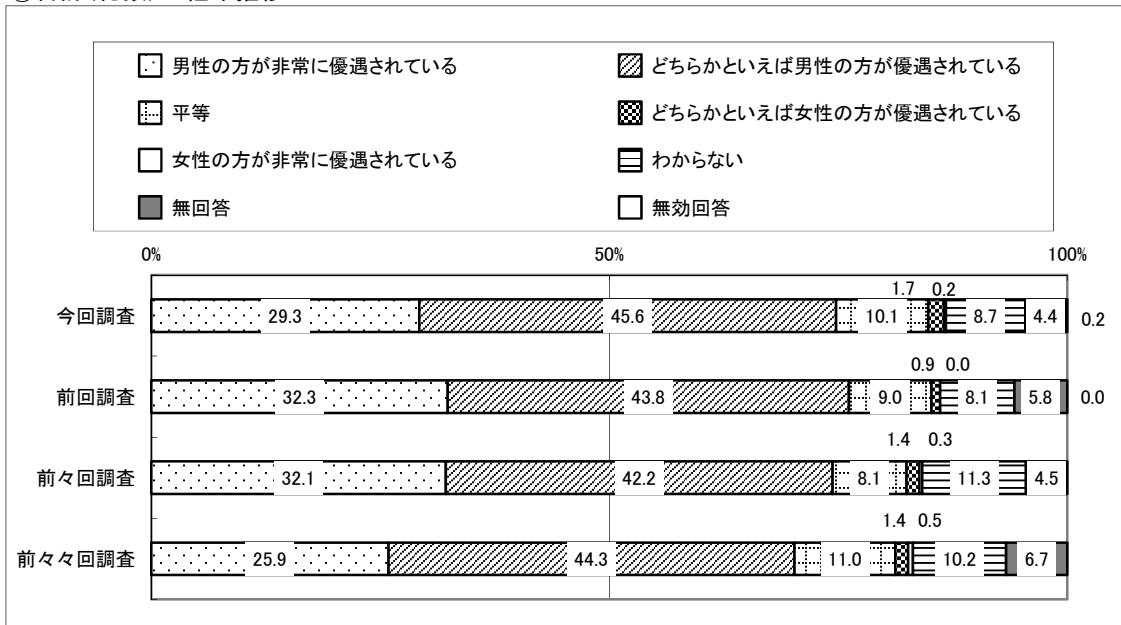
⑫今回調査 女性の地域別構成



(4) 政治の場

政治の場で『男性が優遇されている』と回答したものは74.9%、『女性が優遇されている』と回答したものは1.9%である。『男性が優遇されている』(74.9%)と回答したものは、前回調査(76.1%)より1.2ポイント減少している。『平等』と回答したものは10.1%であり、前回調査(9.0%)より1.1ポイント増加した。前々回調査と比較して増加傾向で推移している。

①合計(総数)の経年推移

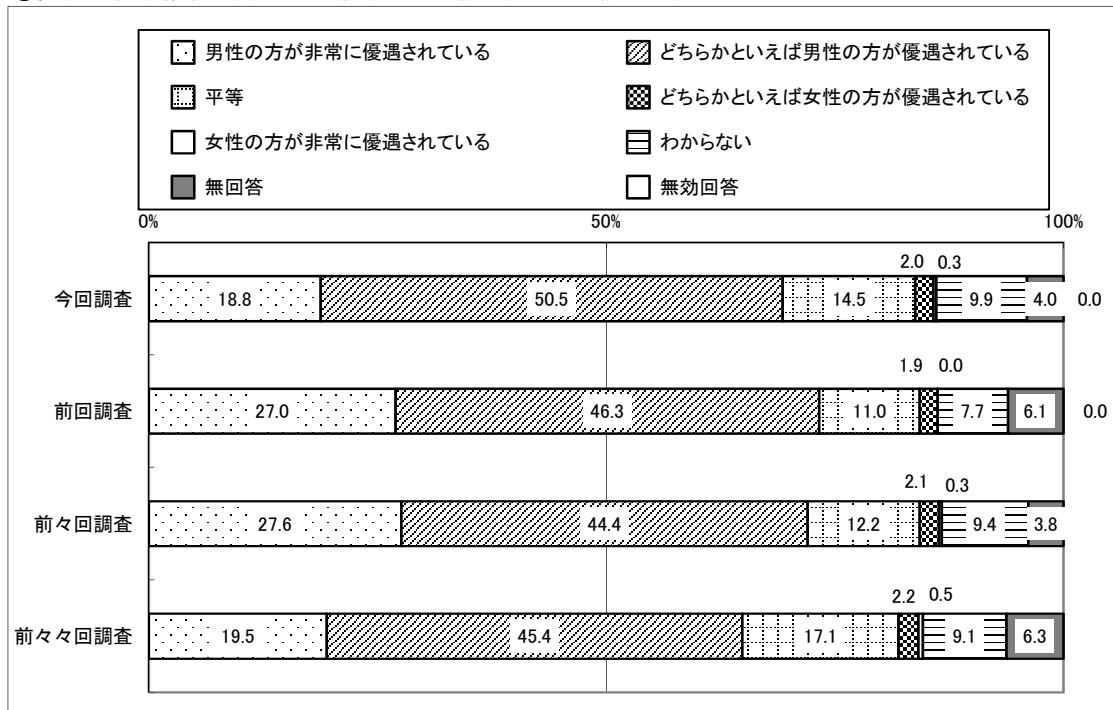


男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものは、男性では69.3%、女性では79.5%であった。

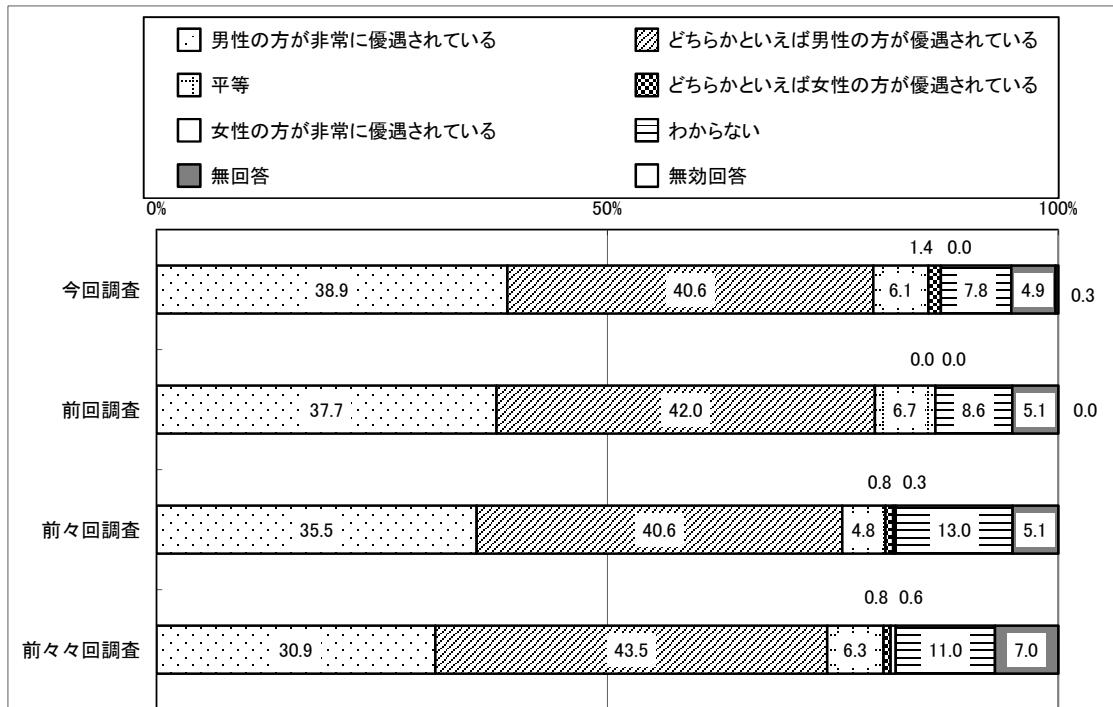
前回調査と比較すると、男女ともに減少傾向にあり、男性（69.3%）は前回調査（73.3%）より4.0ポイント、女性（79.5%）は前回調査（79.7%）より0.2ポイント減少した。

「平等」と回答したものは、男性（14.5%）は前回調査（11.0%）より3.5ポイント増加し、女性（6.1%）は前回調査（6.7%）より0.6ポイント減少した。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)



③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)



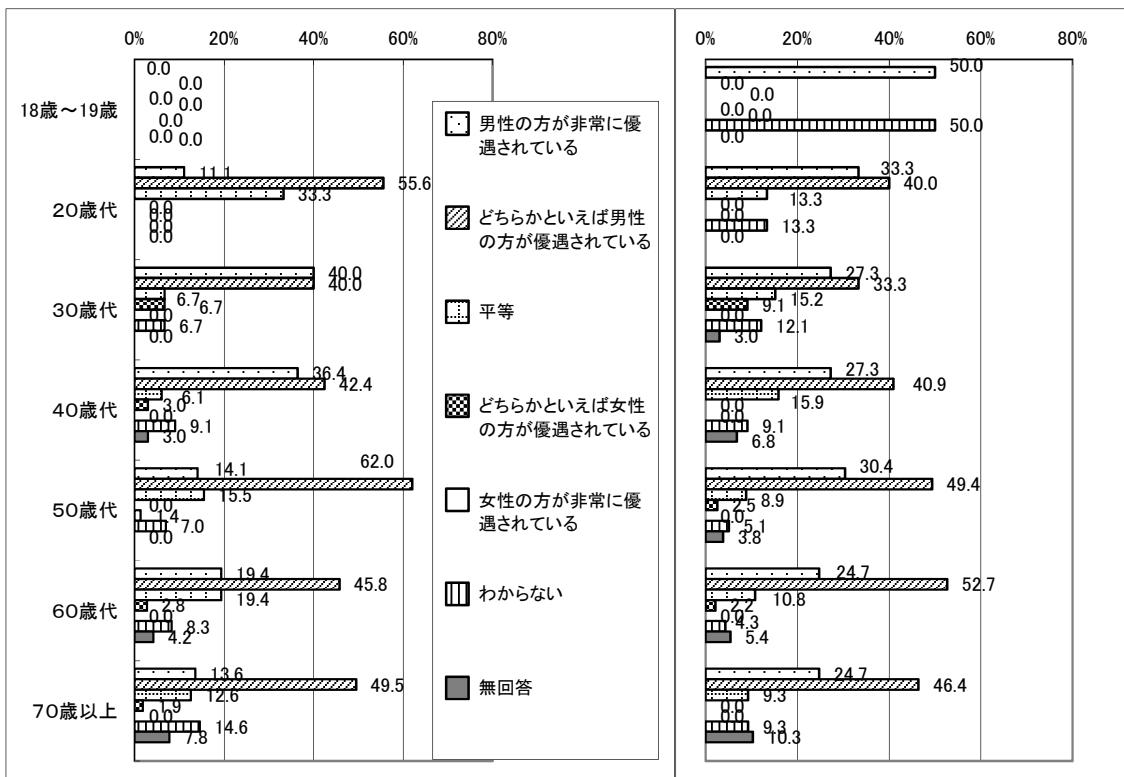
年代別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「30歳代」(80.0%)、次いで「40歳代」(78.8%)、「50歳代」(76.1%)と続く。

女性では、「60歳代」(89.1%)が最も高く、次いで「40歳代」(85.0%)、「30歳代」(84.0%)と続く。

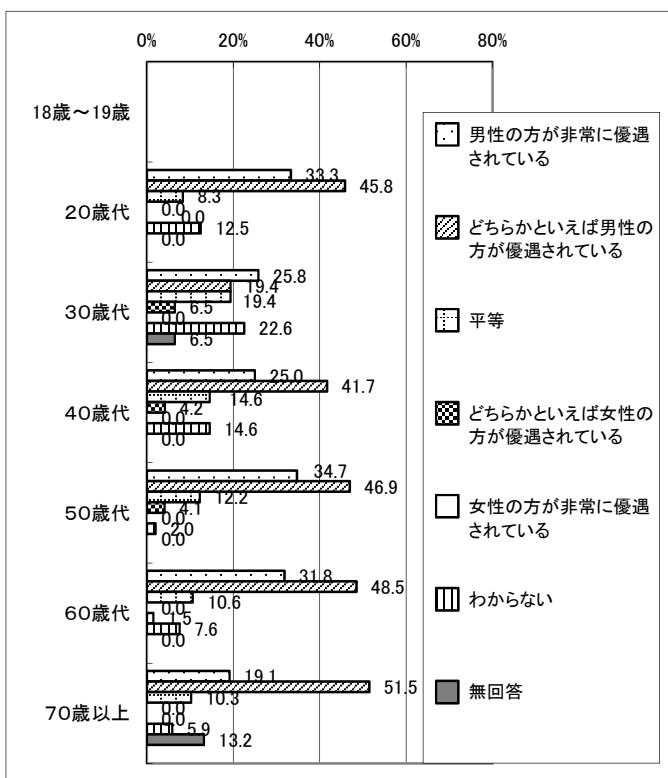
男女差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性の方が66.7ポイント高い。

前回調査と比較すると、男性では「30歳代」(80.0%)は前回調査(60.6%)より19.4ポイント増加している。女性では「18歳～19歳」(66.7%)は前回調査(50.0%)より16.7ポイント増加している。

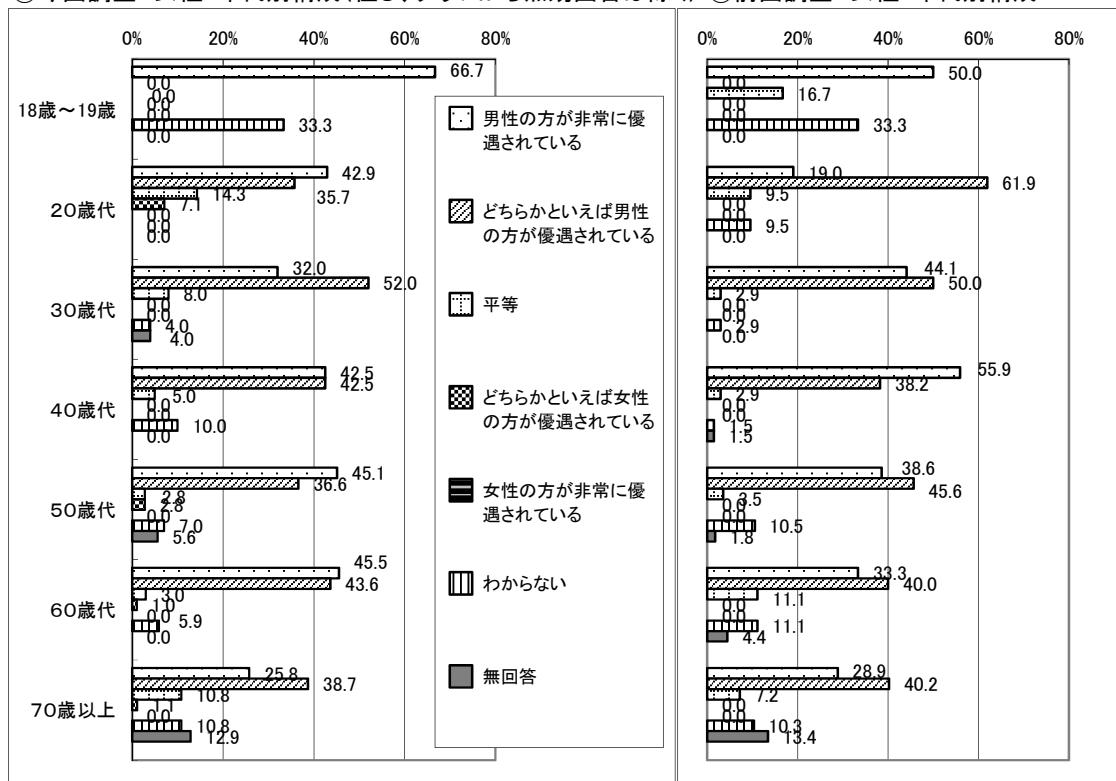
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



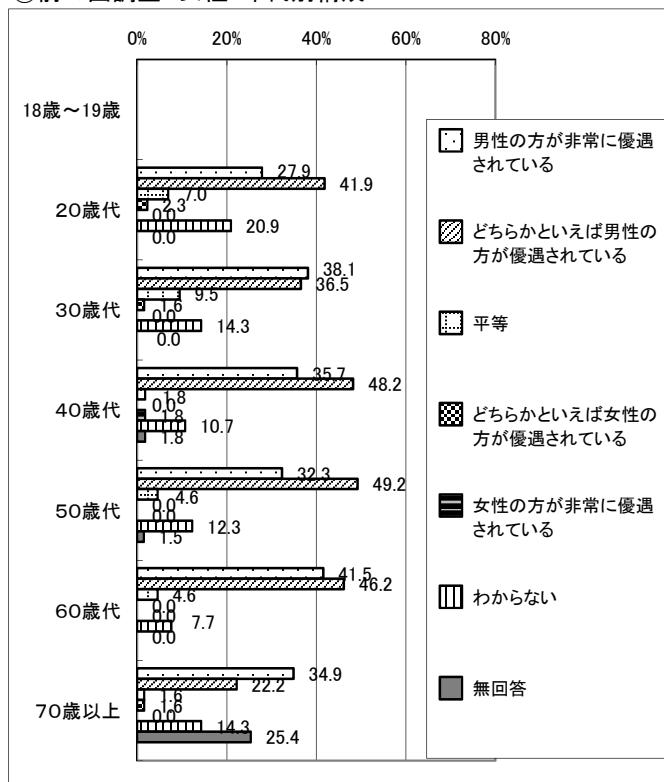
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



⑨前々回調査 女性・年代別構成

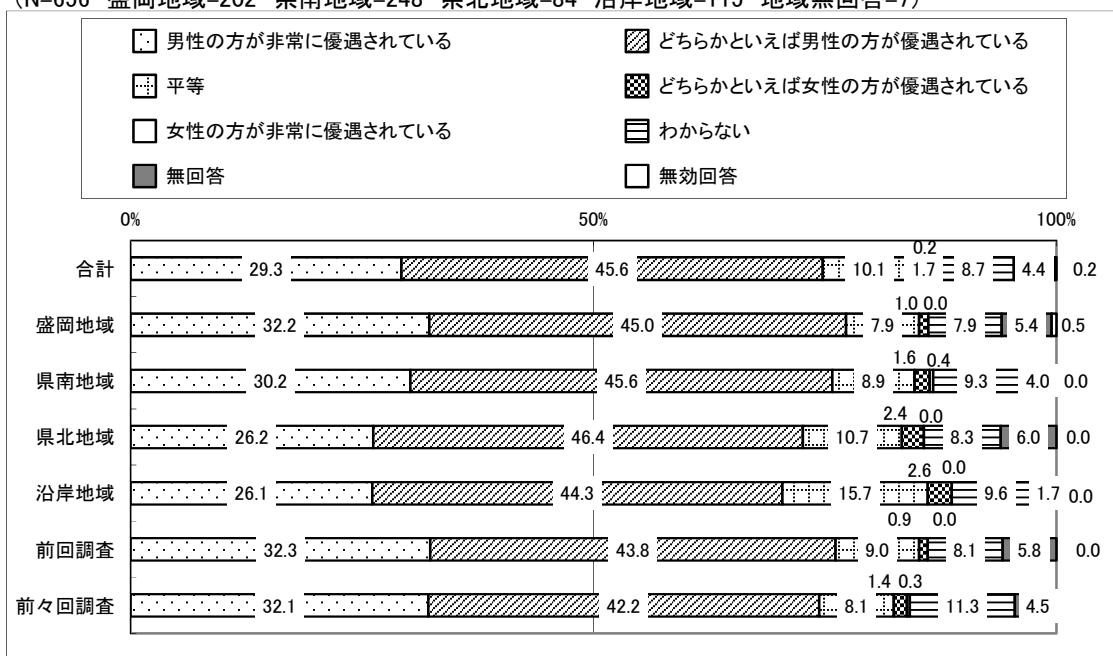


地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものは「盛岡地域」(77.2%)が最も高く、次いで「県南地域」(75.8%)、「県北地域」(72.6%)、「沿岸地域」(70.4%)であり、全ての地域で7割を超えている。

「平等」と回答したものの差が最も大きいのは、「沿岸地域」(15.7%)と、「盛岡地域」(7.9%)であり、沿岸地域の方が7.8ポイント高い。

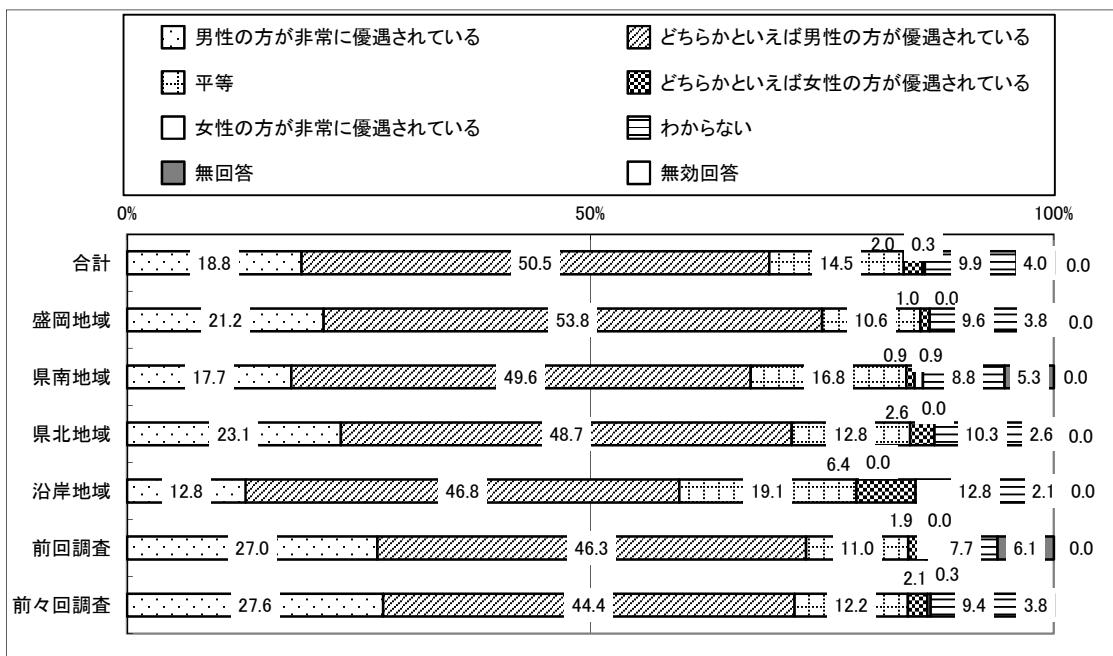
⑩今回調査 地域別による構成

(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

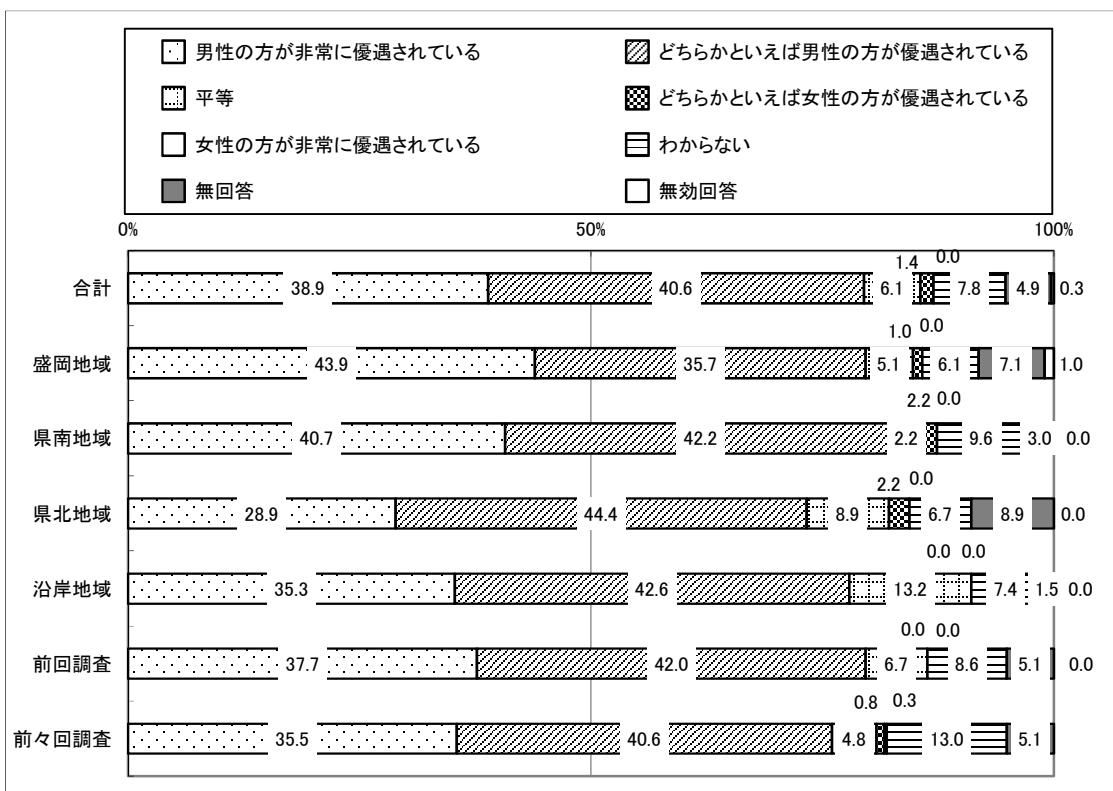


地域別・男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「盛岡地域」(75.0%)であり、女性では「県南地域」(82.9%)である。男女差が最も大きいのは「沿岸地域」であり、男性(59.6%)と女性(77.9%)では、女性の方が18.3ポイント高い。

⑪今回調査 男性の地域別構成



⑫今回調査 女性の地域別構成

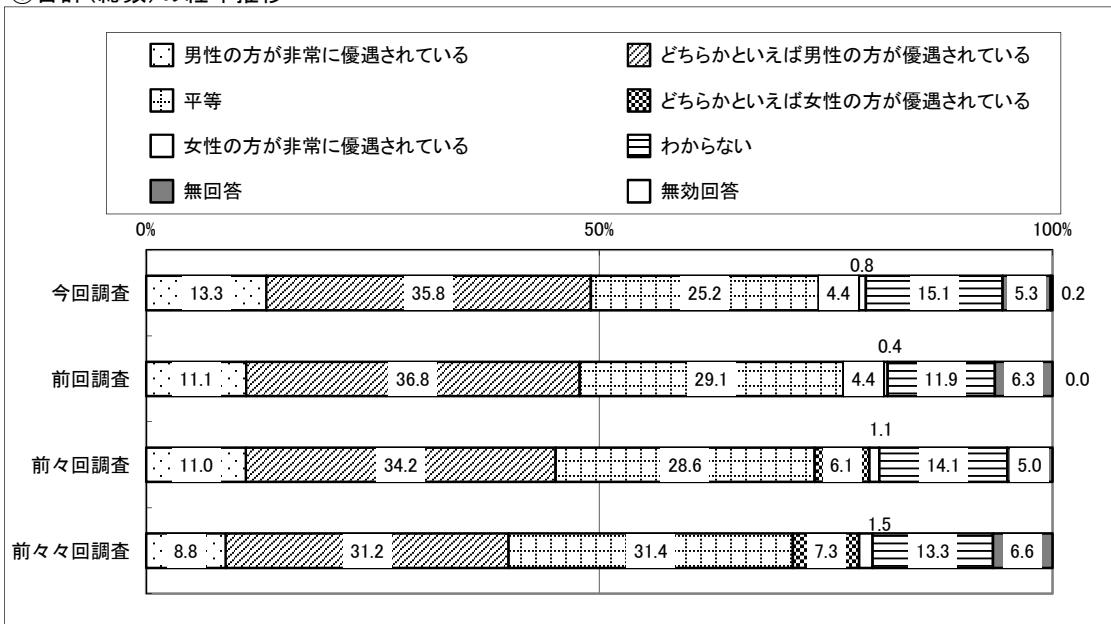


(5)法律や制度の上で

法律や制度の上で『男性が優遇されている』と回答したものは49.1%、『女性が優遇されている』と回答したものは5.2%である。

『男性が優遇されている』(49.1%)と回答したものは、前回調査(47.9%)より1.2ポイント増加、前々回調査(45.2%)より3.9ポイント増加しており、増加傾向で推移している。

①合計(総数)の経年推移



男女別にみると、『男性が優遇されている』と回答した男性は41.6%、女性は55.9%である。

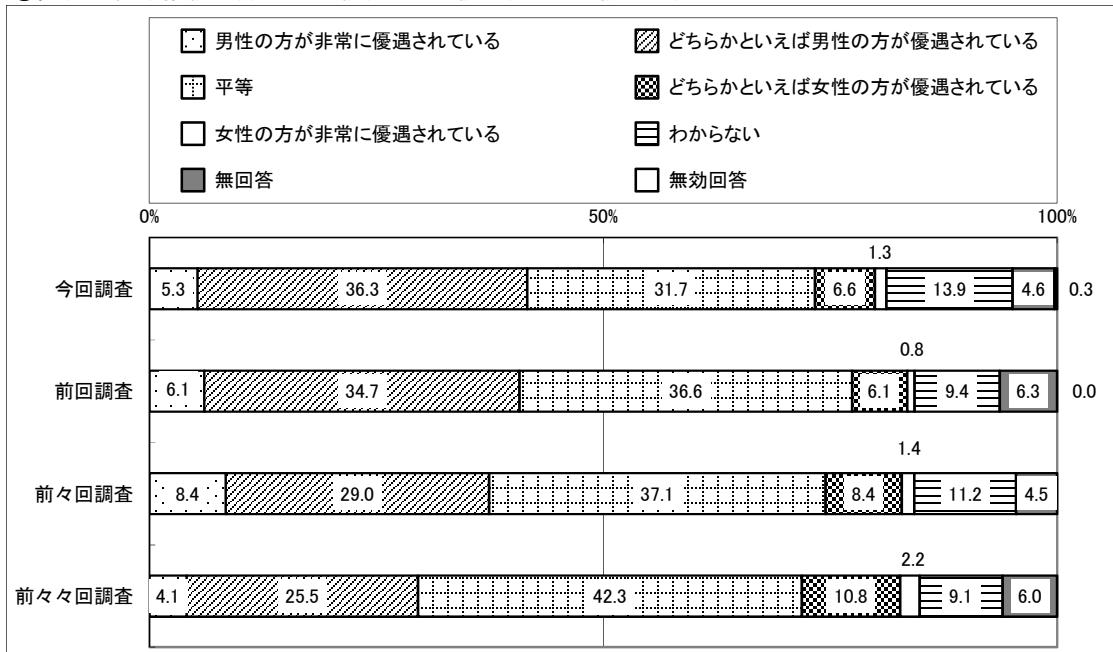
男性（41.6%）は前回調査（40.8%）より0.8ポイント増加、女性（55.9%）も前回調査

（55.0%）より0.9ポイント増加し、男女ともに増加傾向にある。

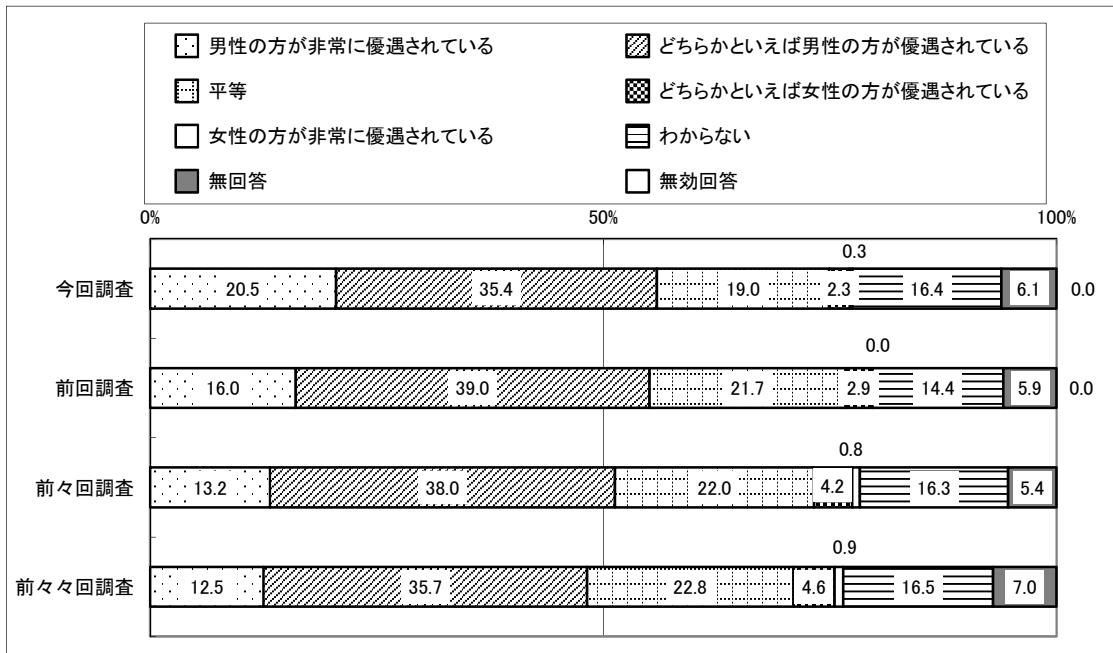
「平等」と回答したものは、男性（31.7%）と女性（19.0%）では、男性の方が12.7ポイント高く、男女による差が大きい。

また「平等」は男女ともに減少傾向にある。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)

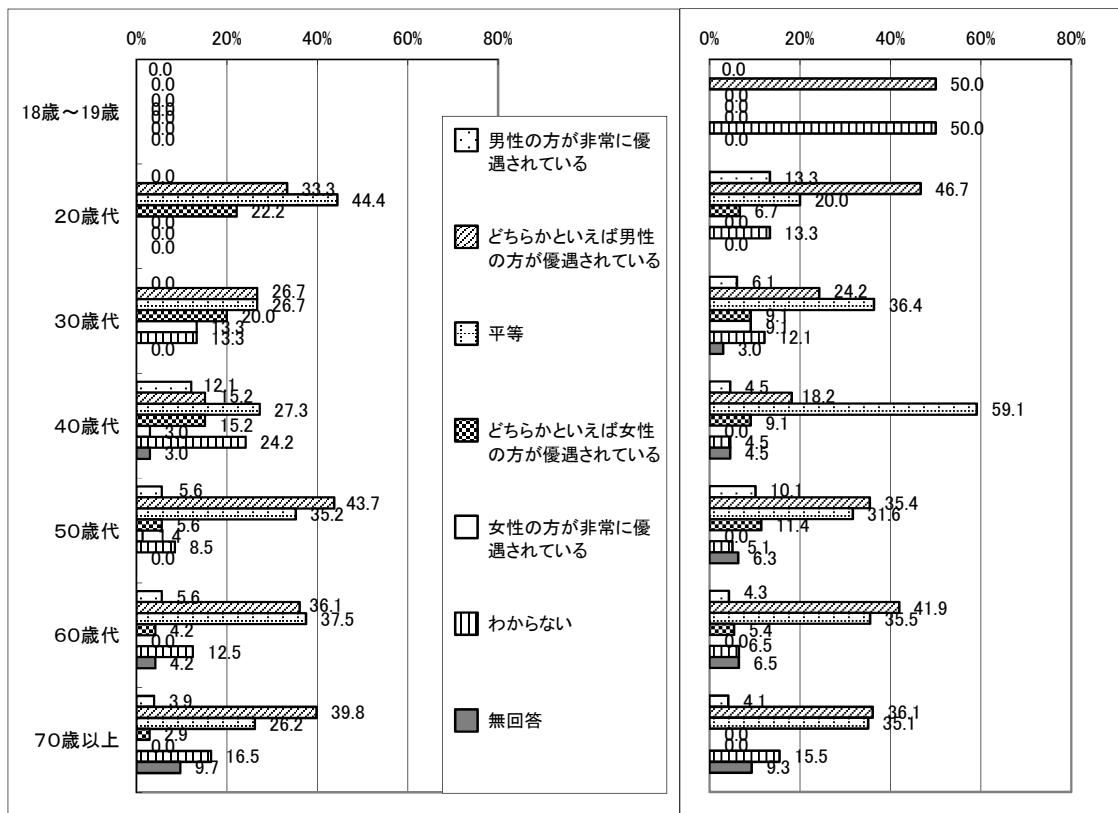


③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)

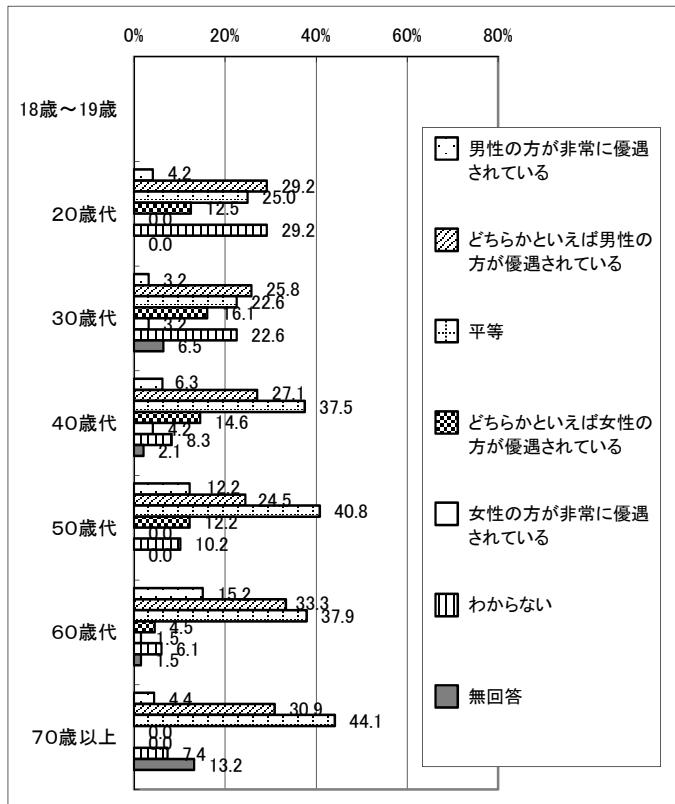


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは「50歳代」(49.3%)であり、次いで「70歳以上」(43.7%)、「60歳代」(41.7%)と続く。男女差が最も多い年代は「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性の方が66.7ポイント高い。

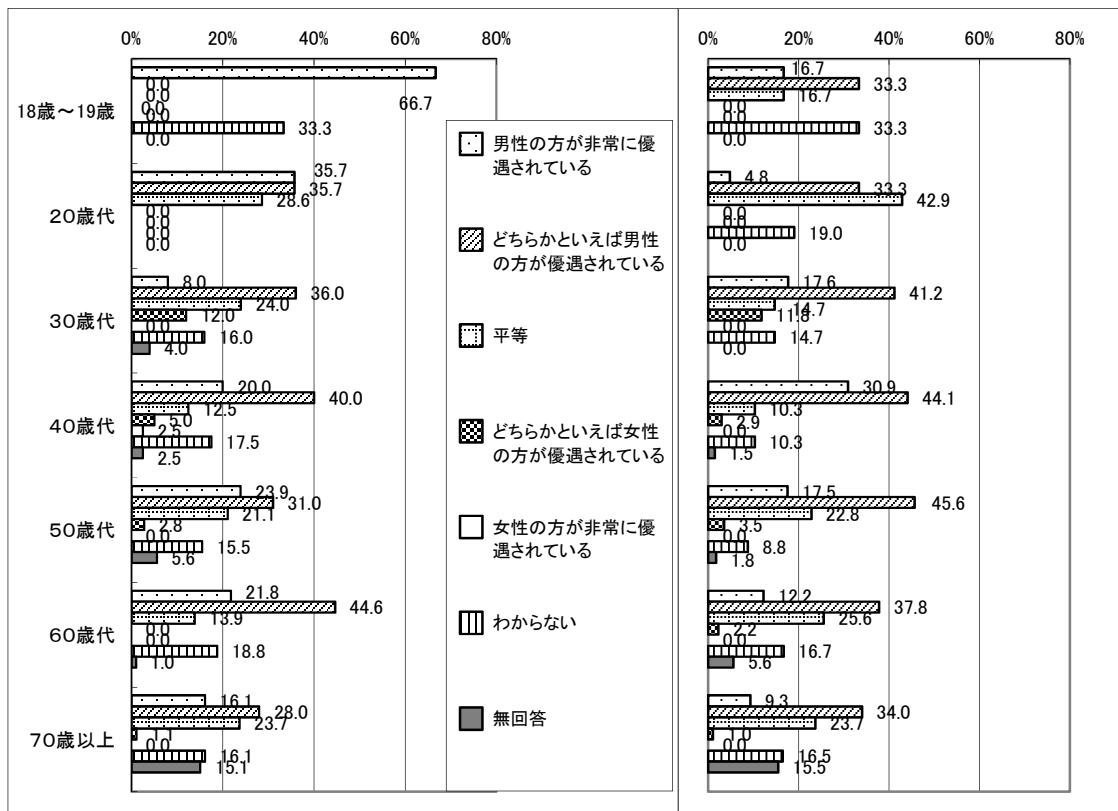
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



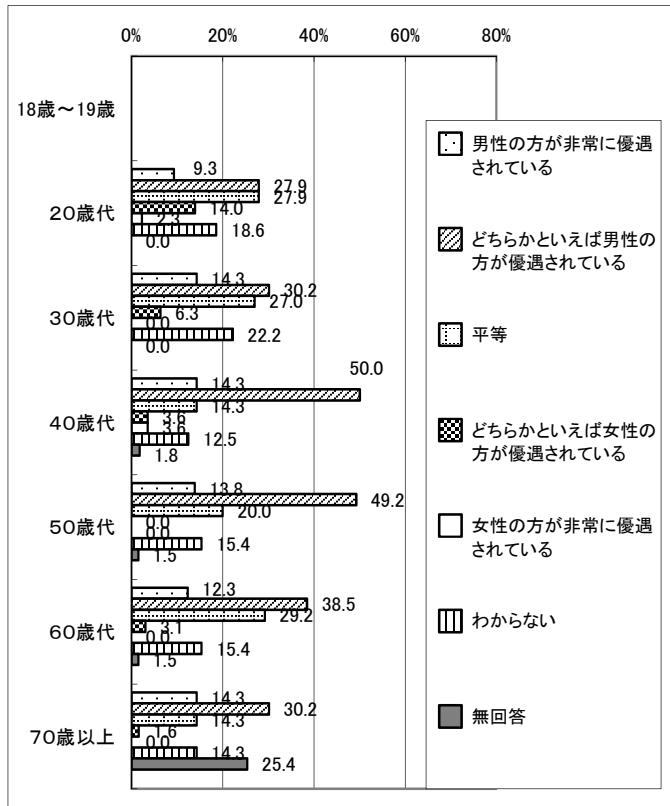
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



⑨前々回調査 女性・年代別構成

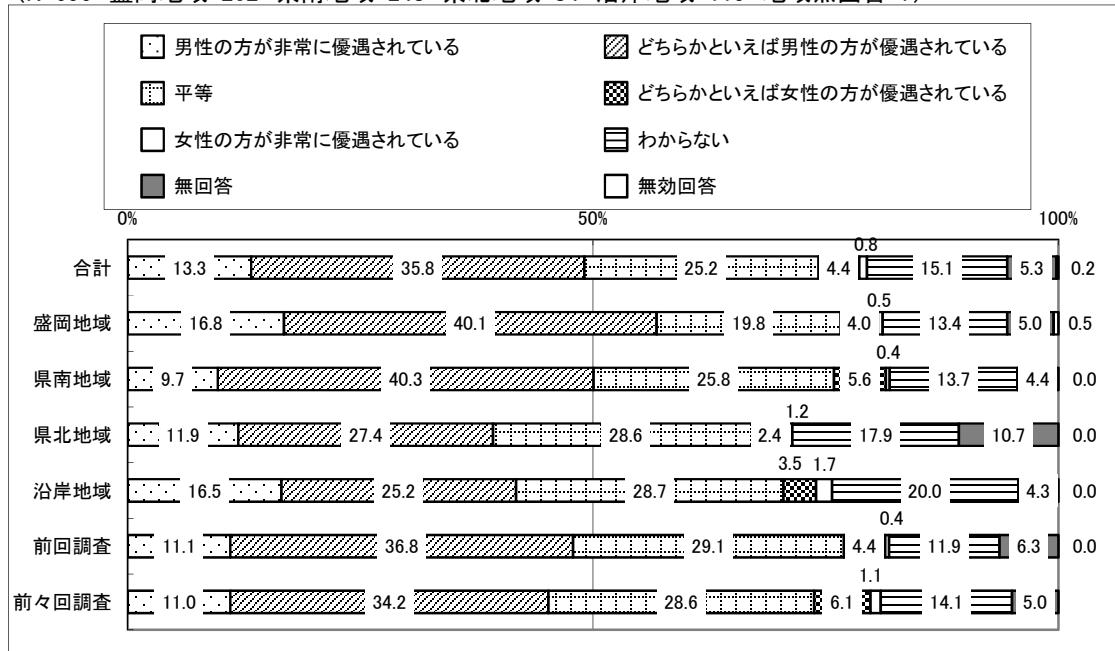


地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高いのは、「盛岡地域」(56.9%)であり、次いで「県南地域」(50.0%)、「沿岸地域」(41.7%)、「県北地域」(39.3%)である。

「平等」と回答したものの割合が最も高いのは「沿岸地域」(28.7%)であり、最も低いのは「盛岡地域」(19.8%)であり、その差は8.9ポイントである。

⑩今回調査 地域別による構成

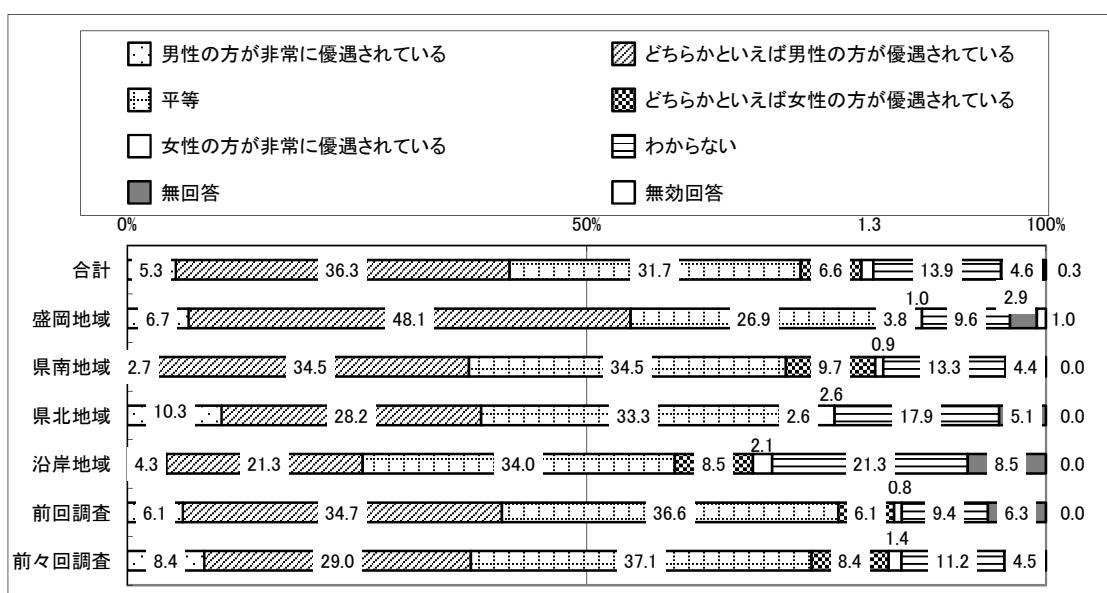
(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)



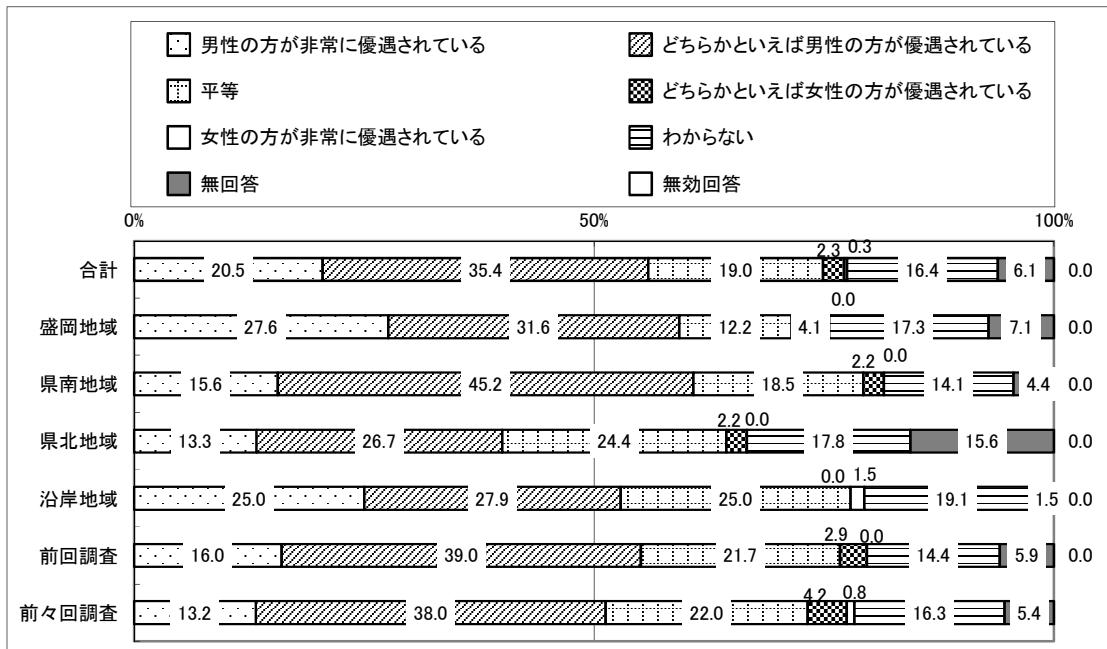
地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「盛岡地域」(54.8%)であり、女性では「県南地域」(60.8%)であった。

男女差が最も大きいのは「沿岸地域」であり、男性(25.6%)と女性(52.9%)では、女性の方が27.3ポイント高い。

⑫今回調査 男性の地域別構成



⑬今回調査 女性の地域別構成



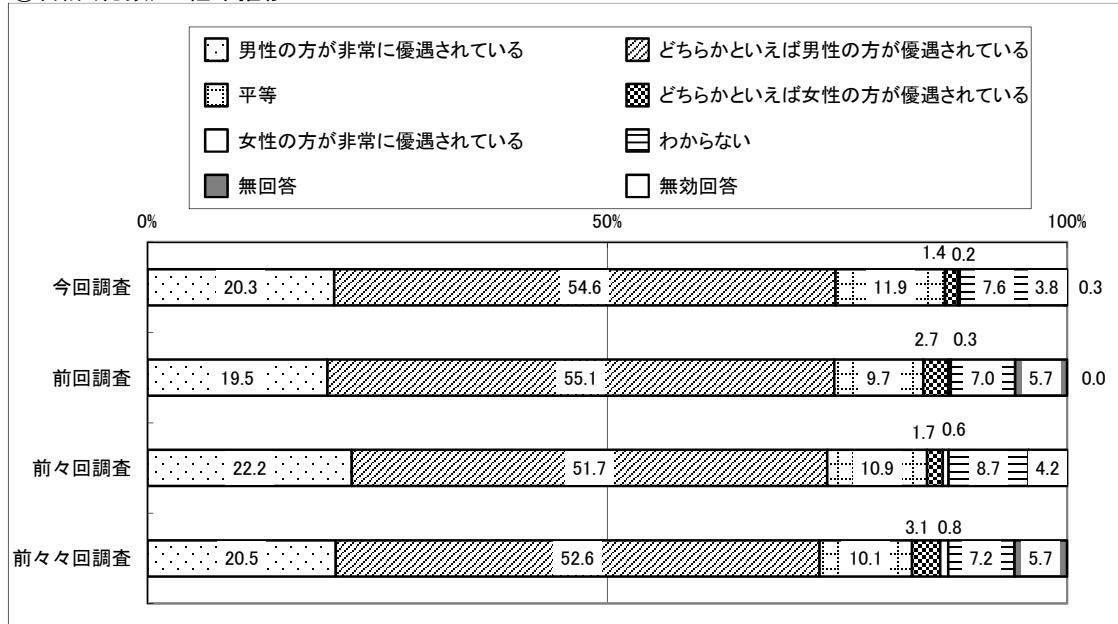
(6)社会通念・慣習・しきたりなどで

社会通念・慣習・しきたりなどで『男性が優遇されている』と回答したものは74.9%であり、

『女性が優遇されている』と回答したものは1.6%である。

『男性が優遇されている』(74.9%)と回答したものは前回調査(74.6%)より0.3ポイント増加した。前々回調査(73.9%)と比較しても1.0ポイント増加しており、緩やかに増加の一途を辿っている。

①合計(総数)の経年推移

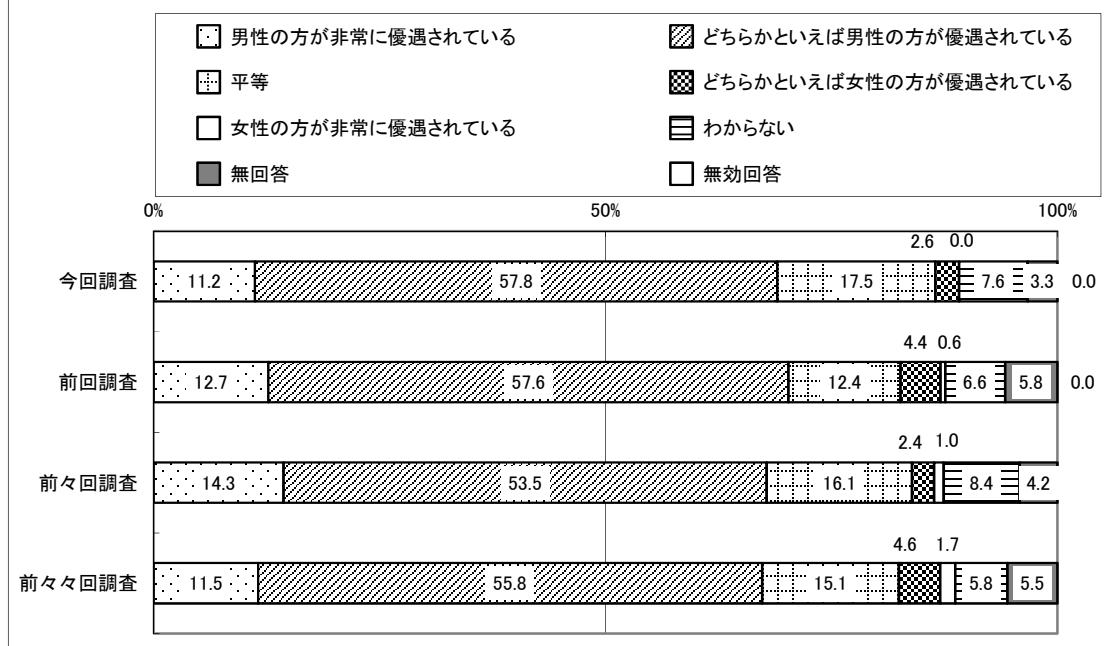


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは69.0%であり、前回調査(70.3%)より1.3ポイント減少している。

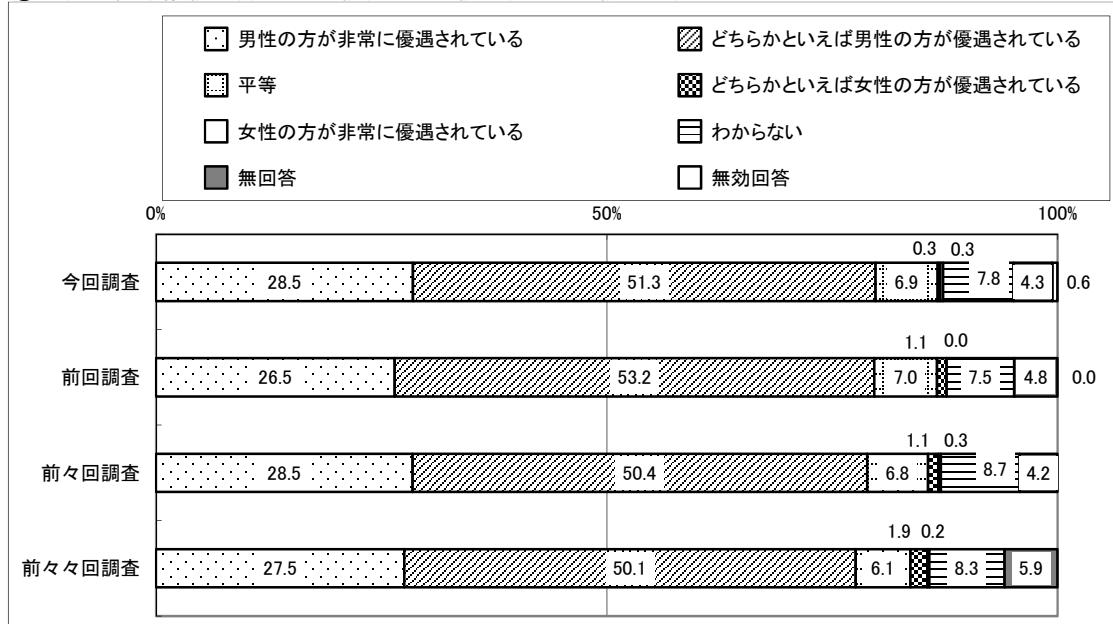
女性で『男性が優遇されている』と回答したものは79.8%であり、前回調査(79.7%)より0.1ポイント増加している。

「平等」と回答したものについては、男性(17.5%)と女性(6.9%)では、男性の方が10.6ポイント高く、男女による差が大きい。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)



③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)

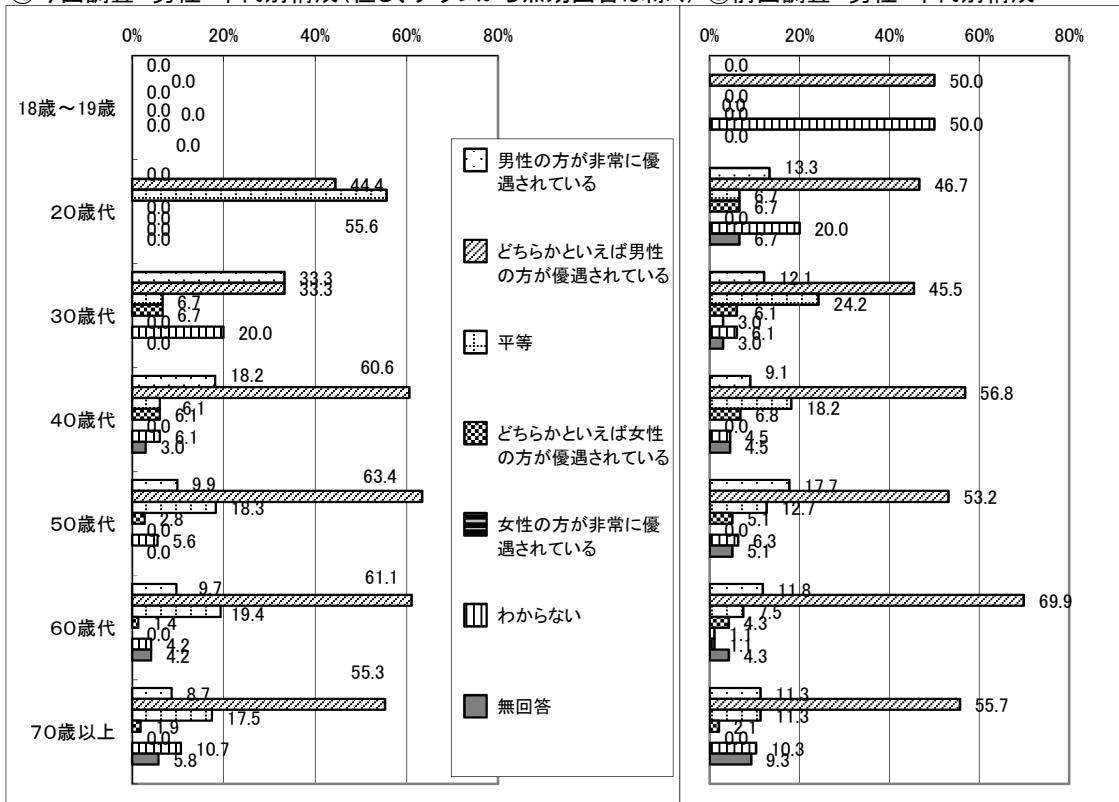


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「40歳代」(78.8%)であり、次いで「50歳代」(73.3%)、「60歳代」(70.8%)と続く。

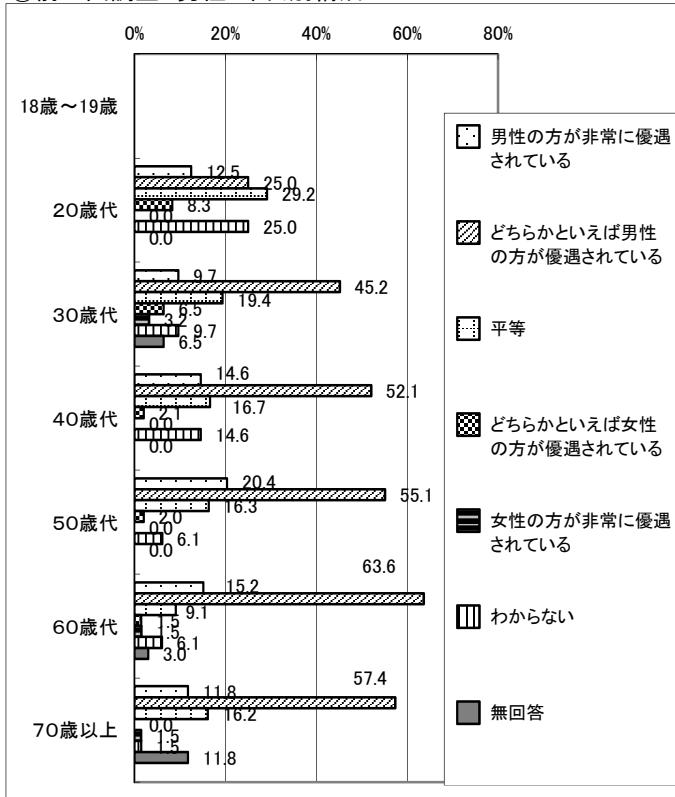
女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「60歳代」(86.2%)であり、次いで「20歳代」(85.7%)、「40歳代」(80.0%)、「70歳以上」(76.3%)と続く。

男女による差が大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、

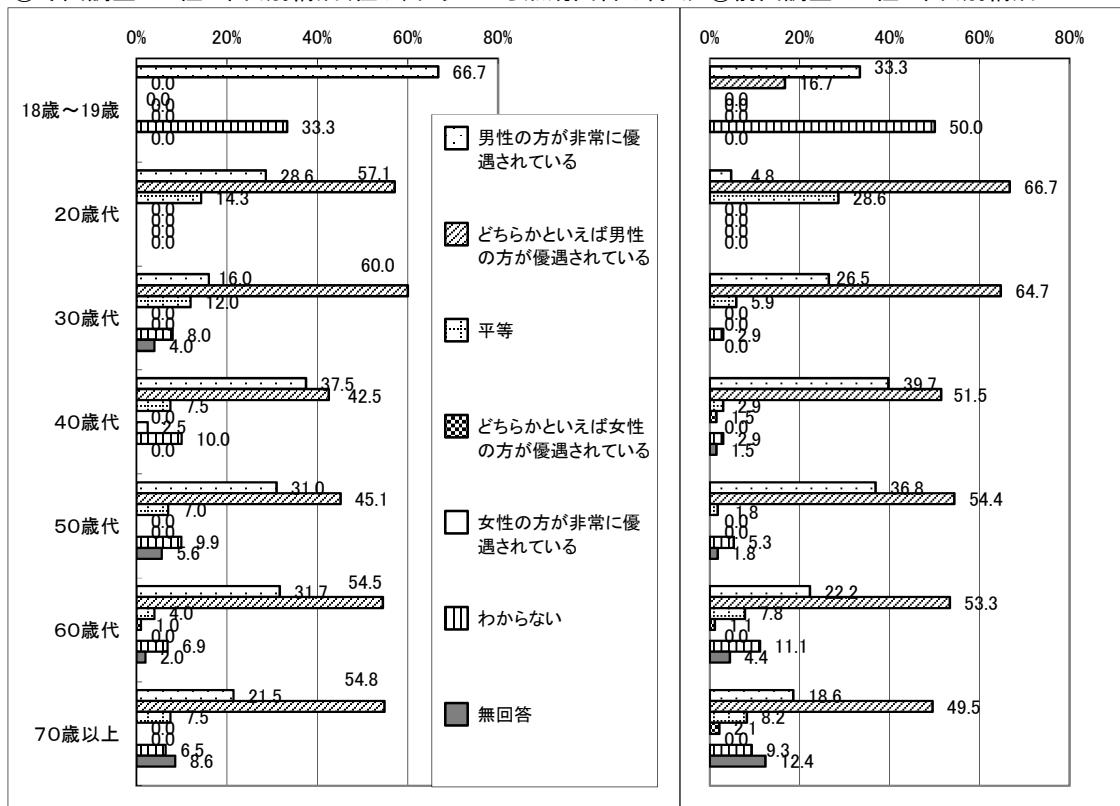
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



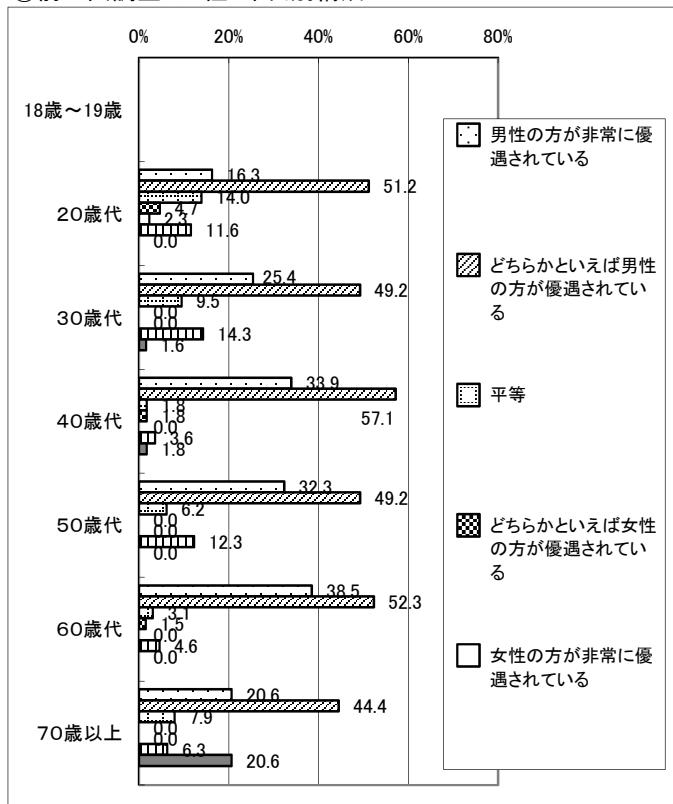
⑥前々回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



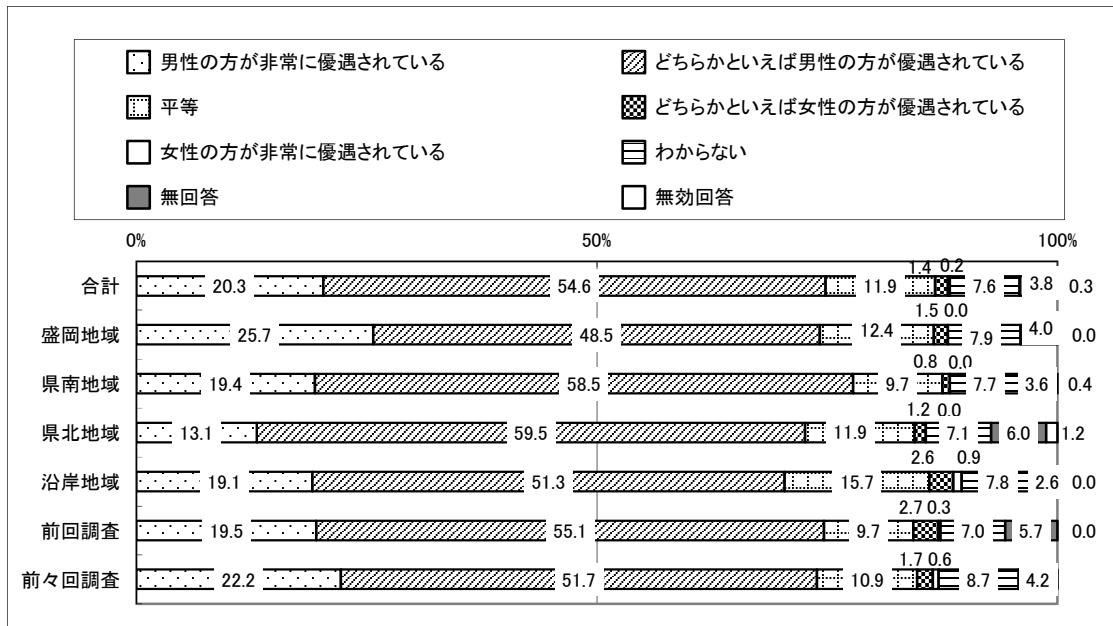
⑨前々回調査 女性・年代別構成



地域別にみると、『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「県南地域」(77.9%)であり、次いで「盛岡地域」(74.2%)、「県北地域」(72.6%)、「沿岸地域」(70.4%)と続く。最も高いのは「県南地区」(77.9%)、最も低いのは「沿岸地区」(70.4%)である。

⑩今回調査 地域別による構成

(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

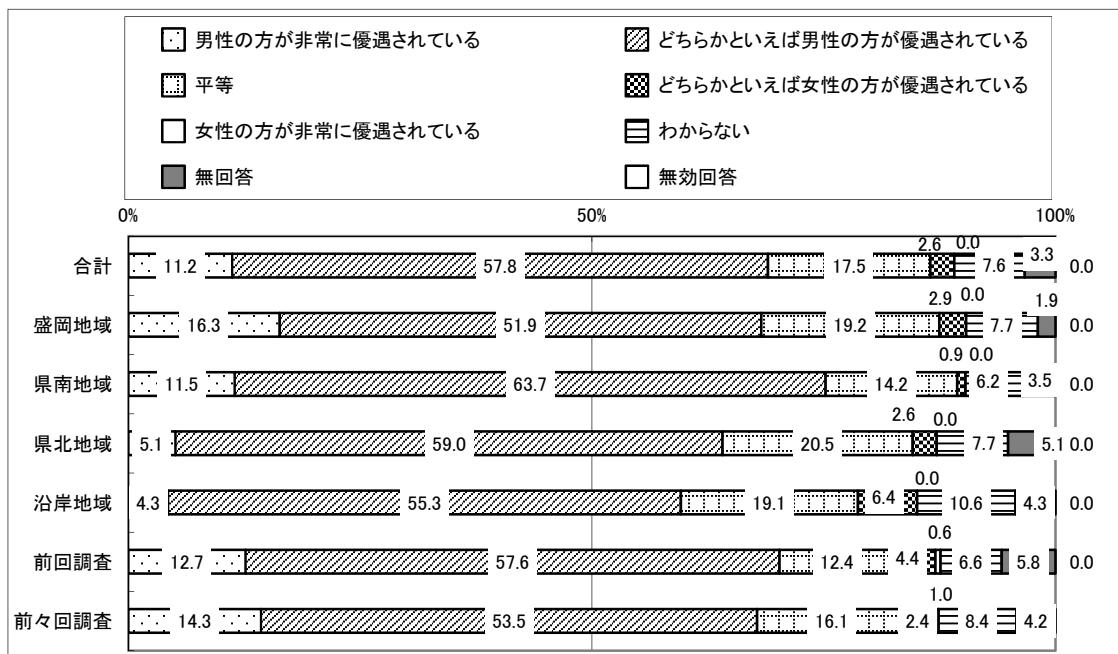


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「県南地域」(75.2%)であり、次いで「盛岡地域」(68.2%)、「県北地域」(64.1%)、「沿岸地域」(59.6%)である。

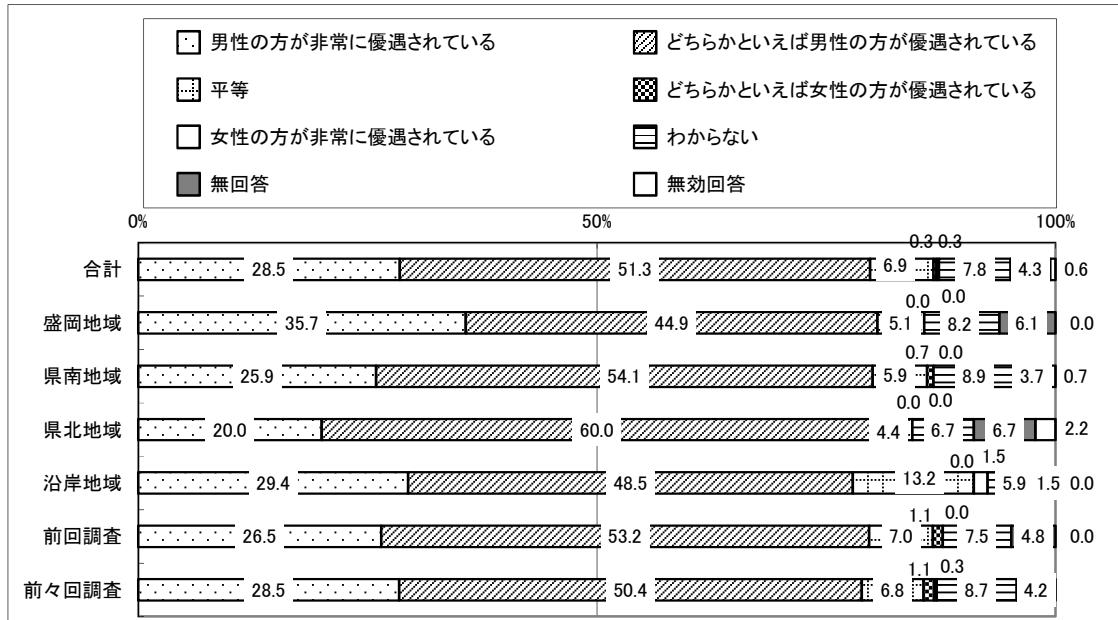
女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「盛岡地域」(80.6%)であり、次いで、同率で「県南地域」、「県北地域」(80.0%)、「沿岸地域」(77.9%)である。

男女差が最も大きかった地域は「沿岸地域」であり、男性(59.6%)と女性(77.9%)では、女性の方が18.3ポイント高い。

⑫今回調査 男性の地域別構成



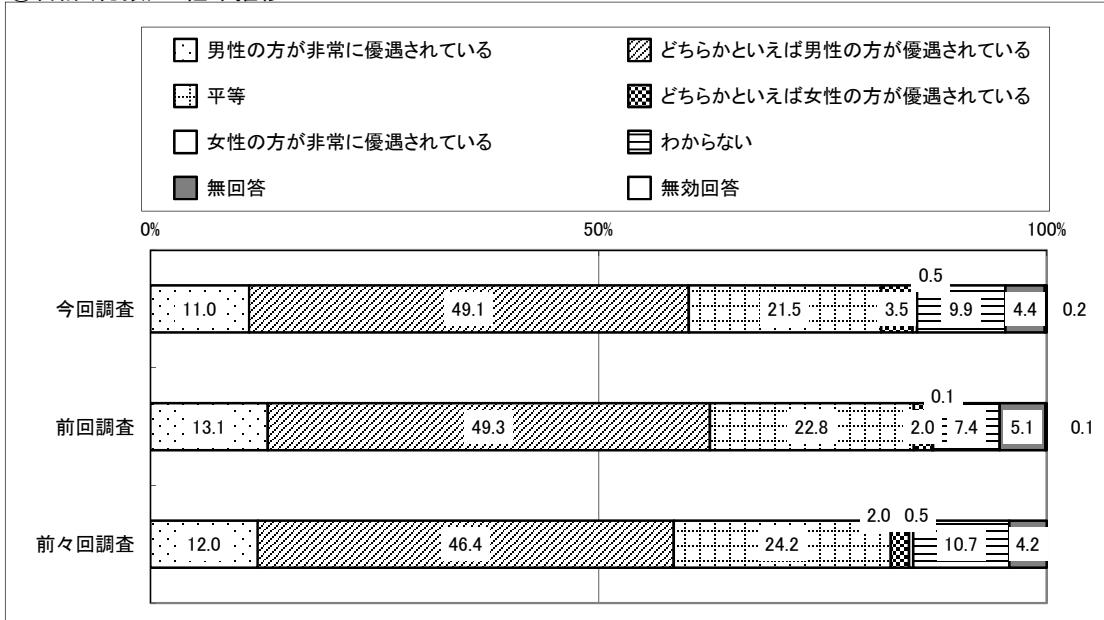
⑬今回調査 女性の地域別構成



(7) 地域社会で

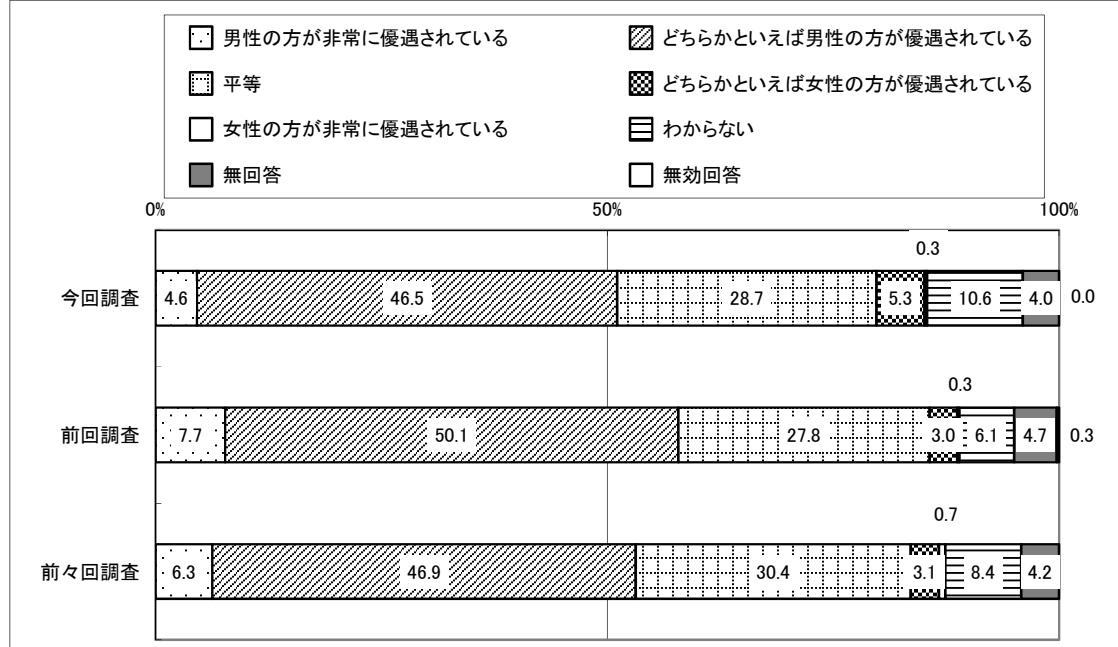
地域社会で『男性が優遇されている』と回答したものは60.1%で、『女性が優遇されている』と回答したものは4.0%である。『男性が優遇されている』(60.1%)と回答したものは前回調査(62.4%)より2.3ポイント減少している。『平等』と回答したものは21.5%で、前回調査(22.8%)より1.3ポイント減少している。

①合計(総数)の経年推移

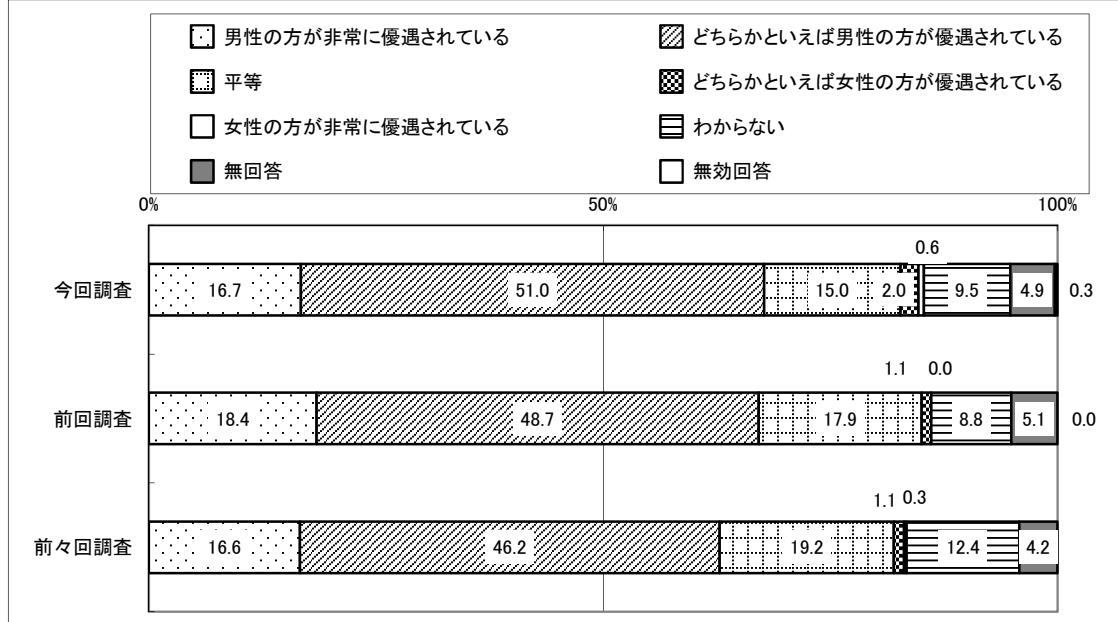


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは51.1%であった。女性で『男性が優遇されている』と回答したものは67.7%であった。男性は前回調査（57.8%）より6.7ポイント減少し、女性は前回調査（67.1%）より0.6ポイント増加している。男女ともに半数を超えており、男性（51.1%）と女性（67.7%）では、女性の方が16.6ポイント高い。「平等」と回答したものは、男性（28.7%）と女性（15.0%）で、男性の方が13.7ポイント高い。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286)

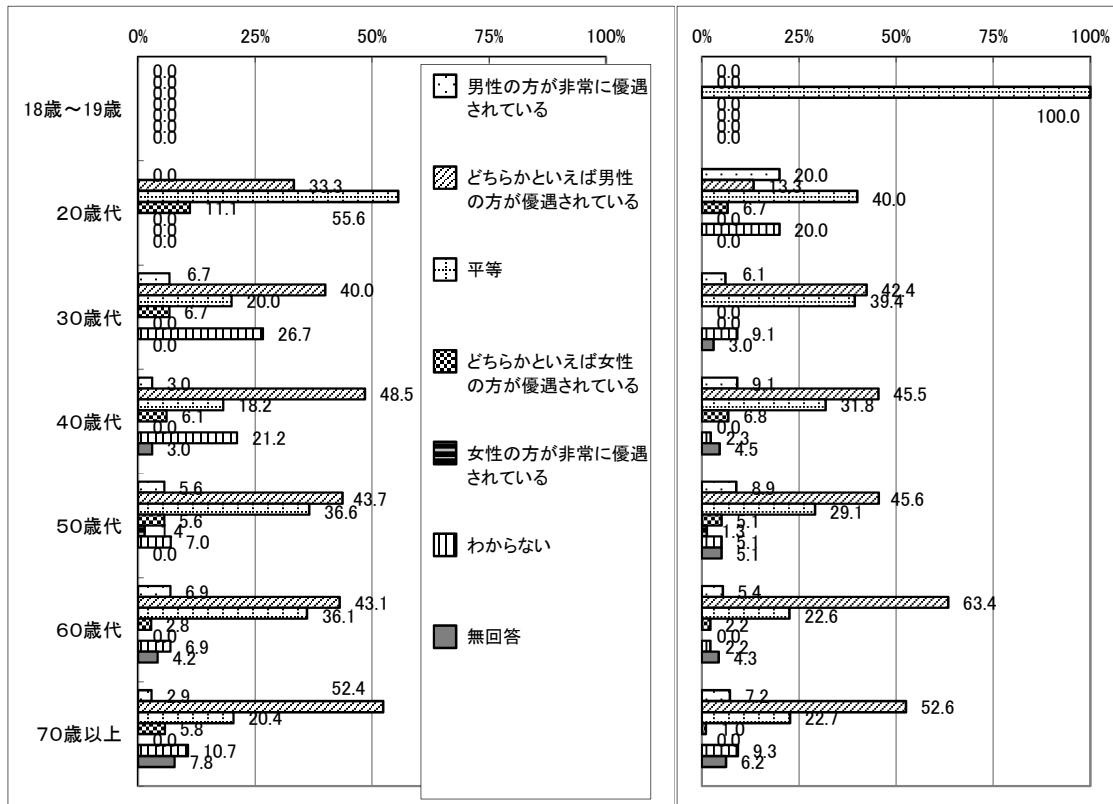


③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355)

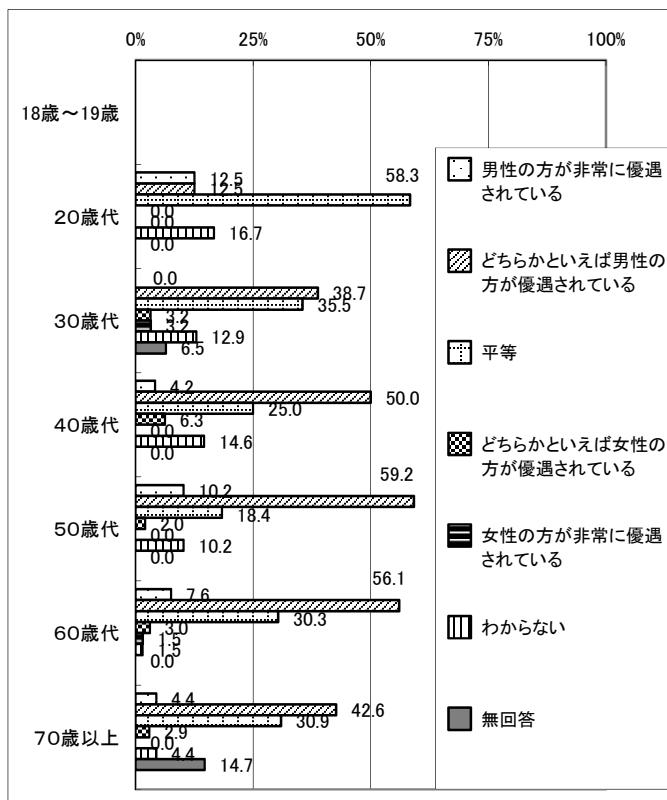


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「70歳以上」(55.3%)であり、次いで「40歳代」(51.5%)、「60歳代」(50.0%)、「50歳代」(49.3%)と続く。女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は、「60歳代」(80.2%)であり、次いで「50歳代」(71.8%)、「18歳~19歳」(66.7%)と続く。男女差が最も大きい年代は、「18歳~19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性の方が66.7ポイント高い。

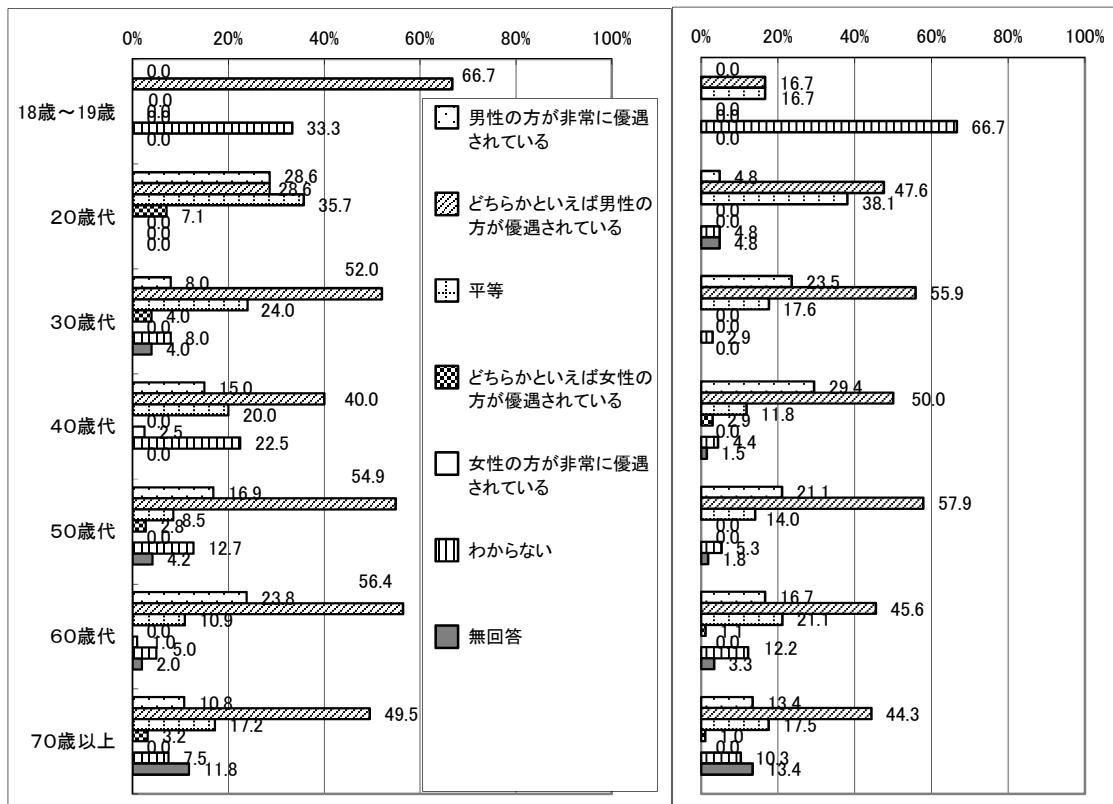
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤前回調査 男性・年代別構成



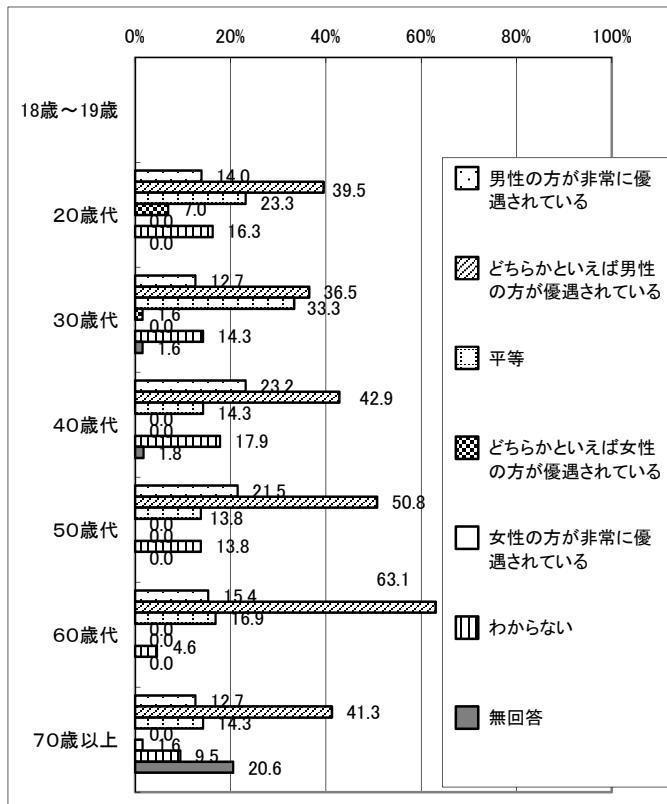
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



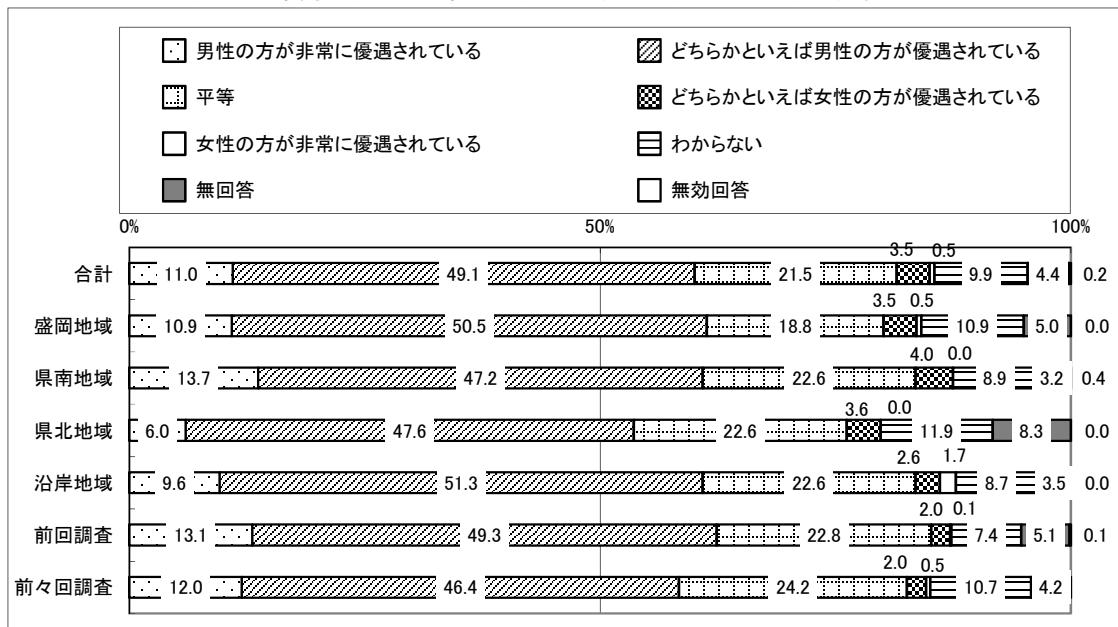
⑨前々回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く)



地域別にみると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「盛岡地域」(61.4%)であり、次いで、同率で「県南地域」、「沿岸地域」(60.9%)、「県北地域」(53.6%)と続く。

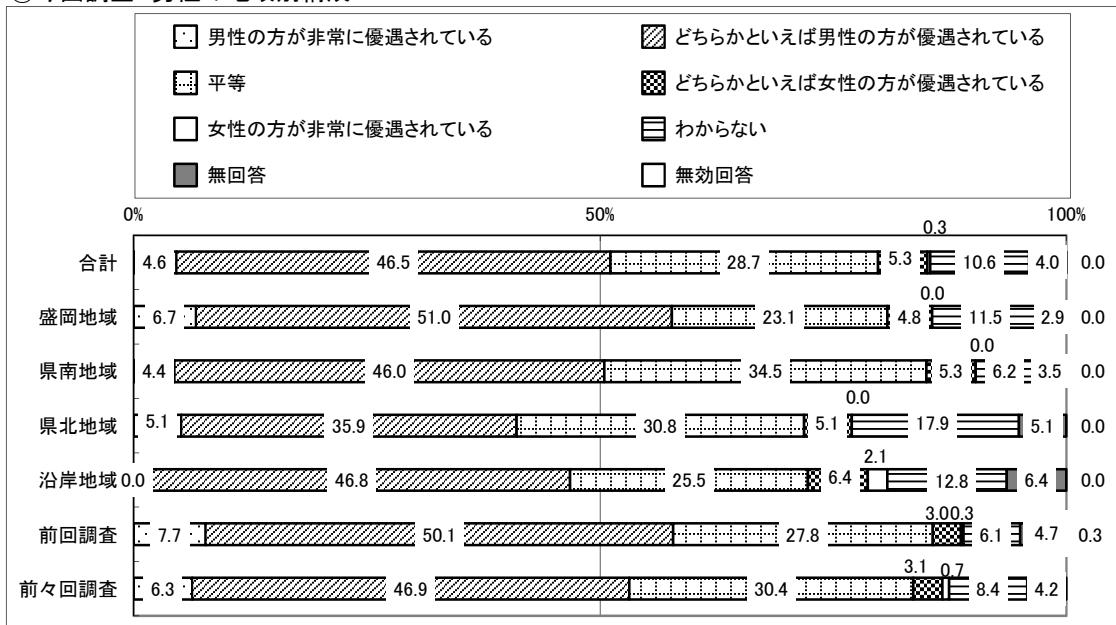
⑩今回調査 地域別による構成

(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

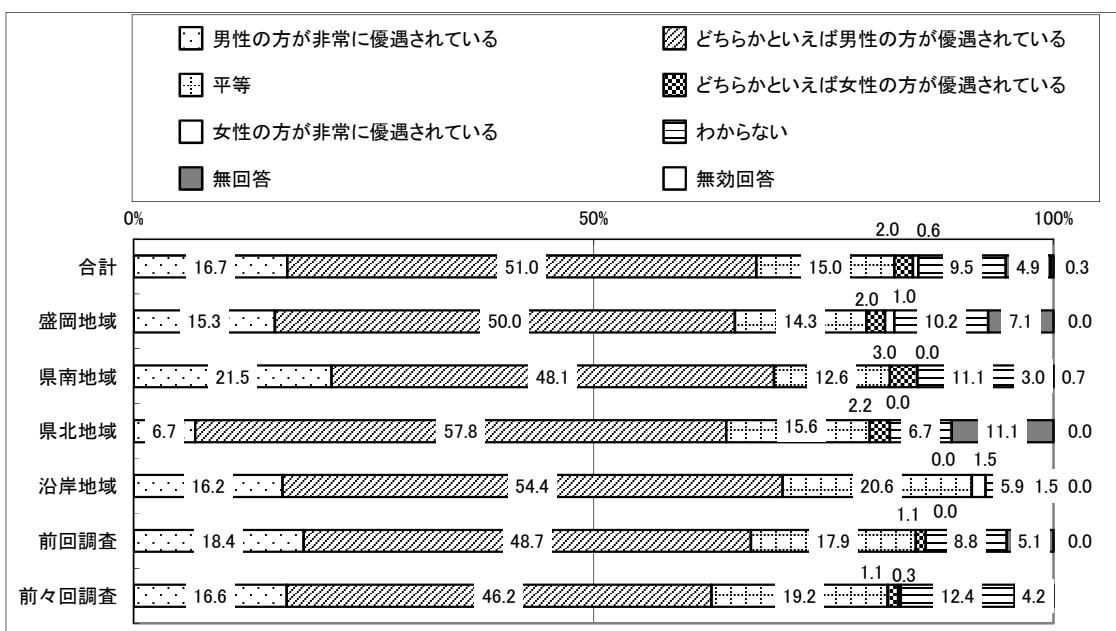


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は「盛岡地域」(57.7%)であり、次いで「県南地域」(50.4%)、「沿岸地域」(46.8%)、「県北地域」(41.0%)と続く。女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「沿岸地域」(70.6%)であり、次いで「県南地域」(69.6%)、「盛岡地域」(65.3%)、「県北地域」(64.5%)と続く。男女差が最も大きいのは「沿岸地域」であり、男性(46.8%)と女性(70.6%)では、女性の方が23.8ポイント高い。女性は全ての地域において、6割を超えてる。

⑪今回調査 男性の地域別構成



⑫今回調査 女性の地域別構成



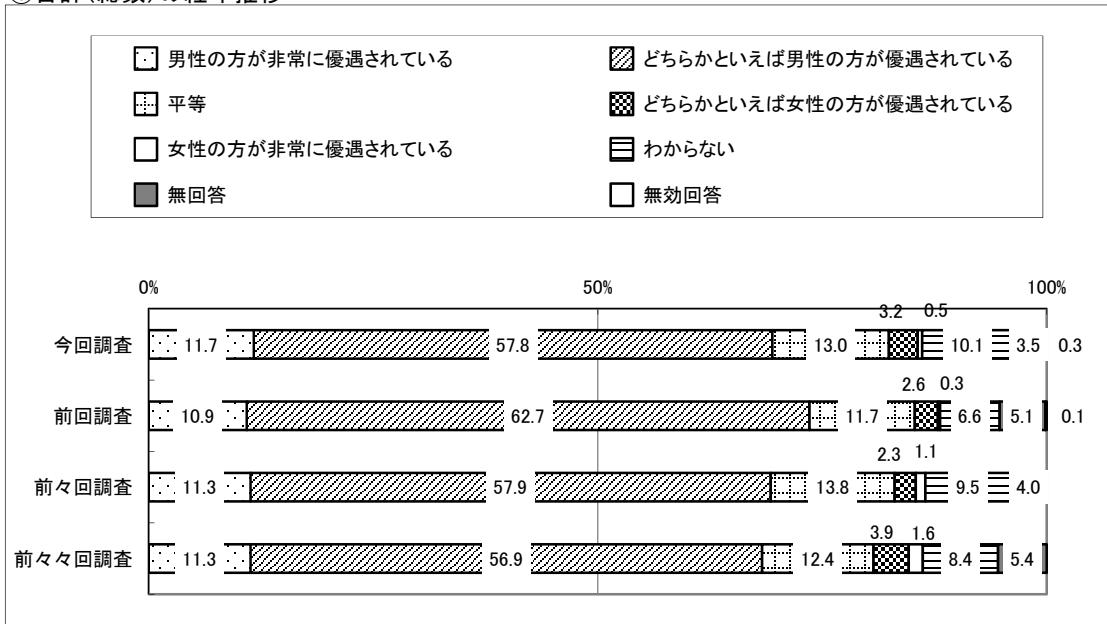
(8)社会全体として

社会全体として『男性が優遇されている』と回答したものは69.5%であり、前回調査（73.6%）より4.1ポイント減少している。

『女性が優遇されている』と回答したものは3.7%であり、前回調査（2.9%）より0.8ポイント増加している。

「平等」と回答したものは13.0%であり、前回調査（11.7%）より1.3ポイント増加している。

①合計(総数)の経年推移

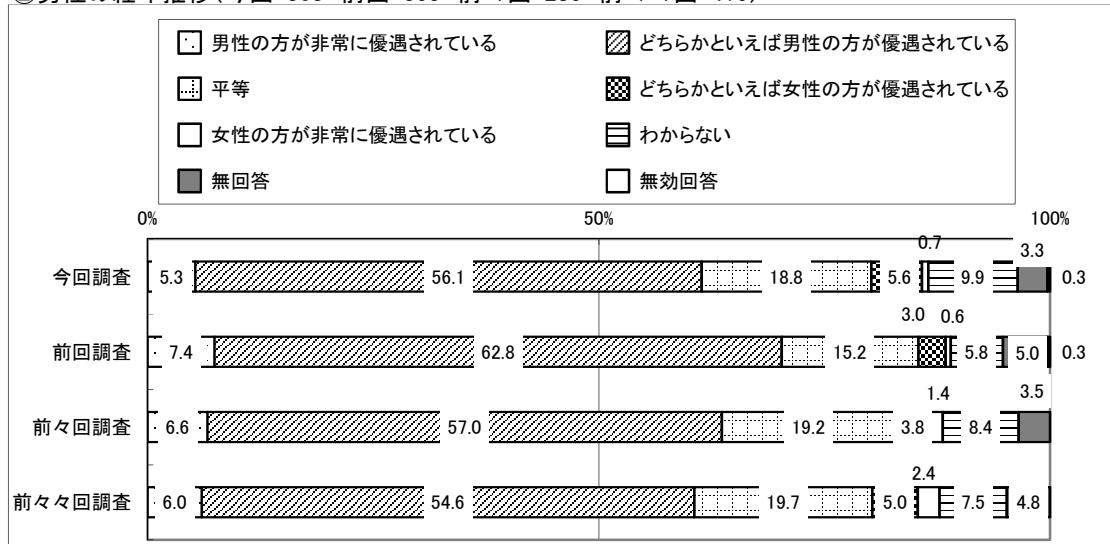


男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものは61.4%であり、前回調査(70.2%)より8.8ポイント減少している。

女性で『男性が優遇されている』と回答したものは77.0%であり、前回調査(77.2%)より0.2ポイント減少している。

「平等」と回答した男性(18.8%)と女性(7.2%)では、男性の方が11.6ポイント高く、男女による差がみられる。

②男性の経年推移(今回=303 前回=363 前々回=286 前々々回=416)



③女性の経年推移(今回=347 前回=374 前々回=355 前々々回=527)

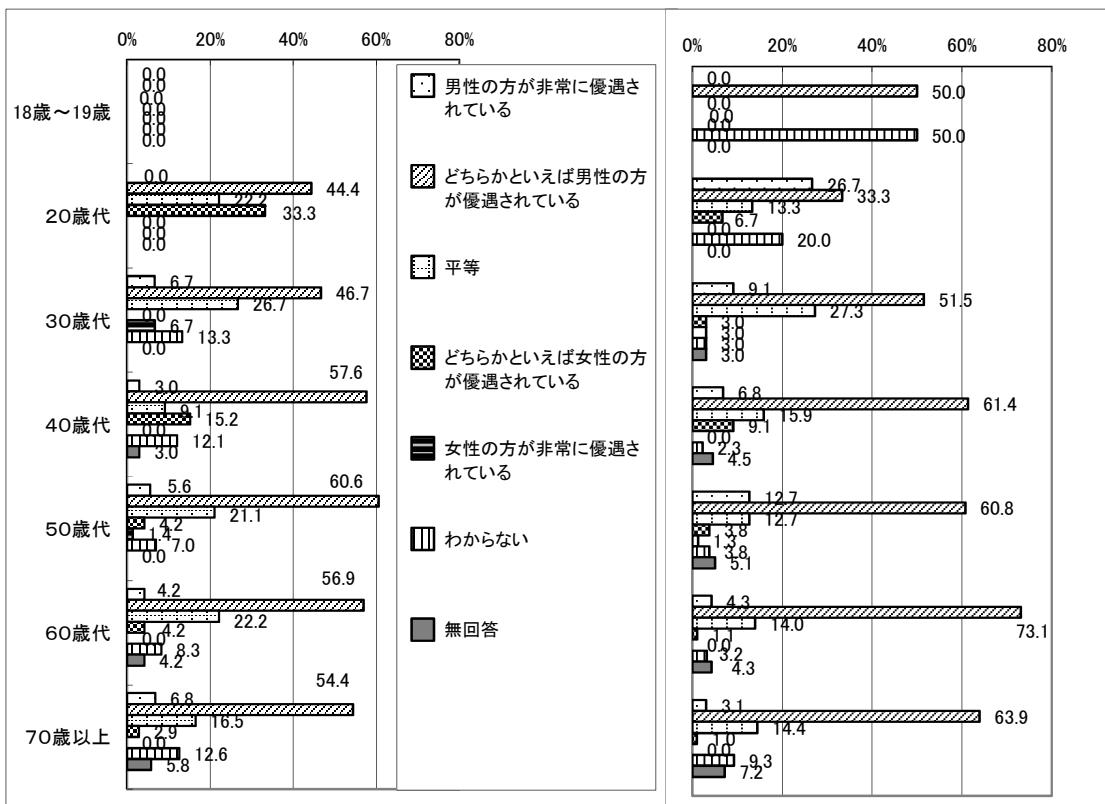


年代別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「50歳代」(66.2%)、次いで「70歳以上」(61.2%)、「60歳代」(61.1%)と続く。

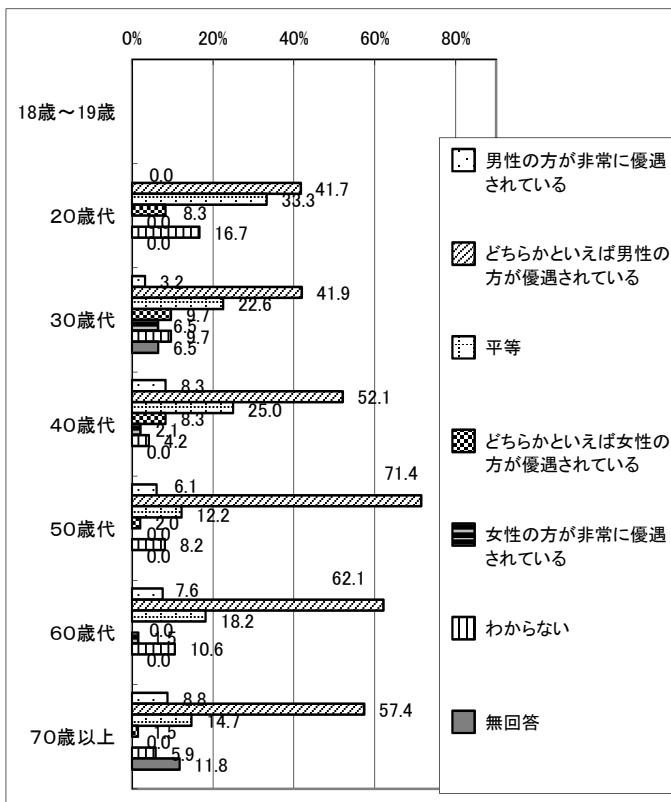
女性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い年代は「60歳代」(87.1%)、次いで「50歳代」(81.7%)、「40歳代」(80.0%)と続く。

男女による差が最も大きい年代は「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性の方が66.7ポイント高い。

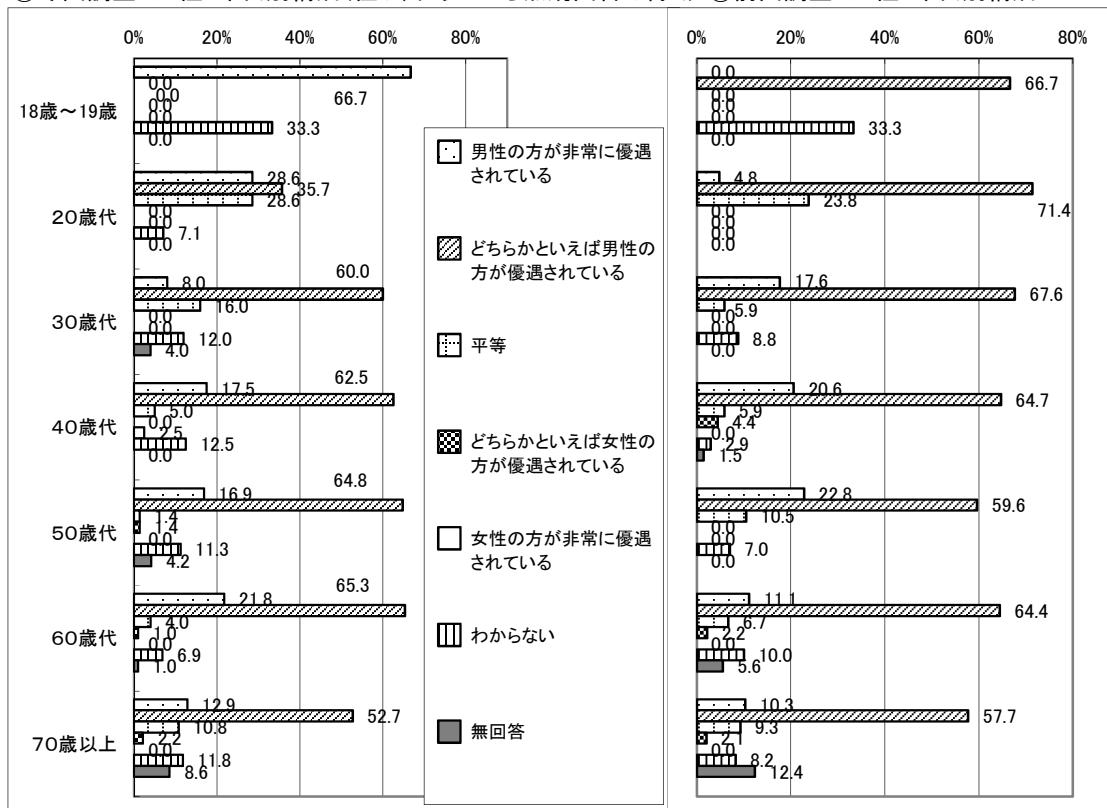
④今回調査 男性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑤今回調査 男性・年代別構成



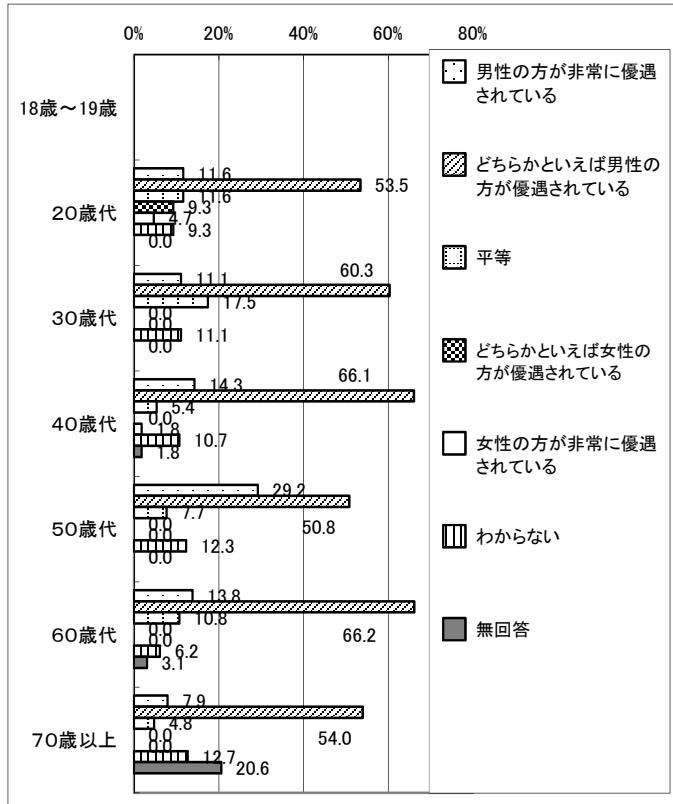
⑥前回調査 男性・年代別構成



⑦今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く) ⑧前回調査 女性・年代別構成



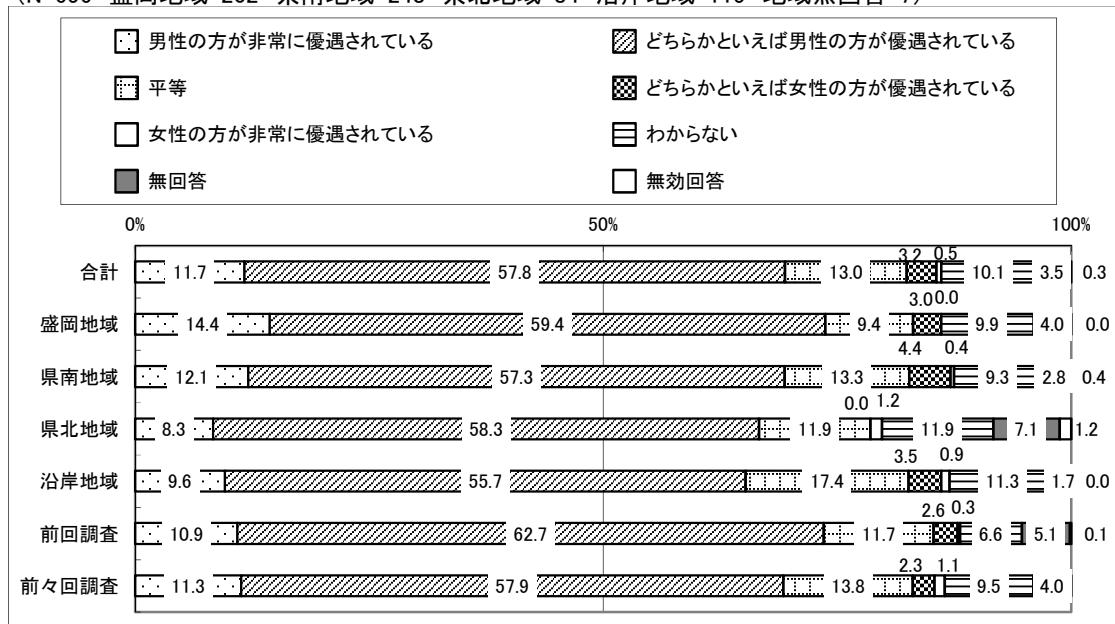
⑨今回調査 女性・年代別構成(但し、グラフから無効回答は除く)



地域別に見ると『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「盛岡地域」(73.8%)であり、次いで「県南地域」(69.4%)、「県北地域」(66.6%)、「沿岸地域」(65.3%)と続く。

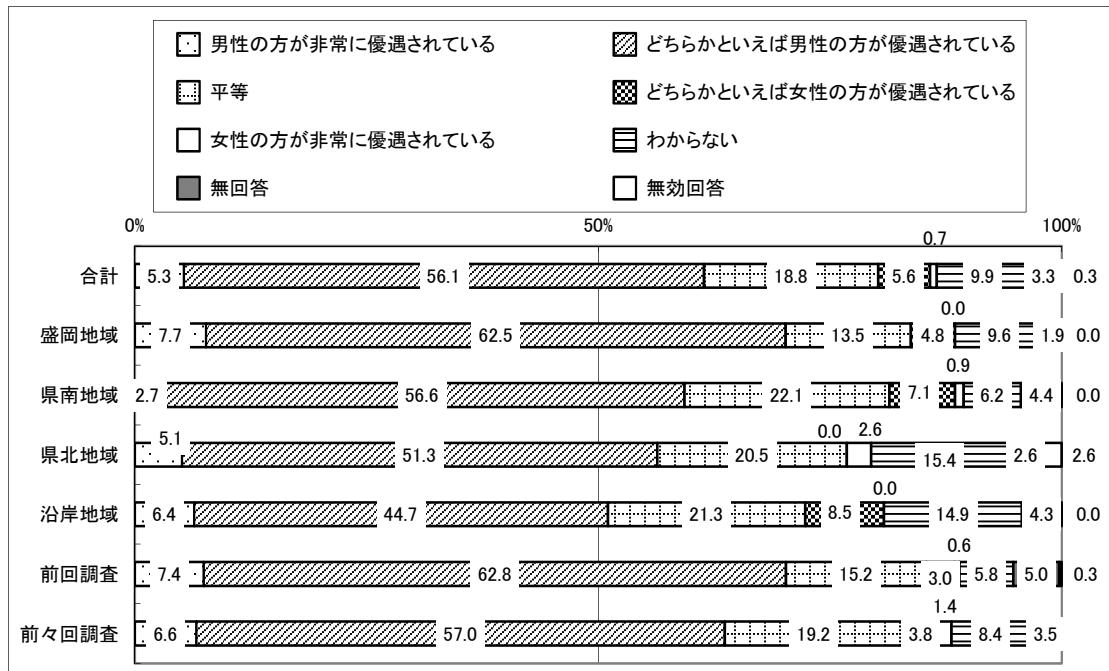
⑩今回調査 地域別による構成

(N=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

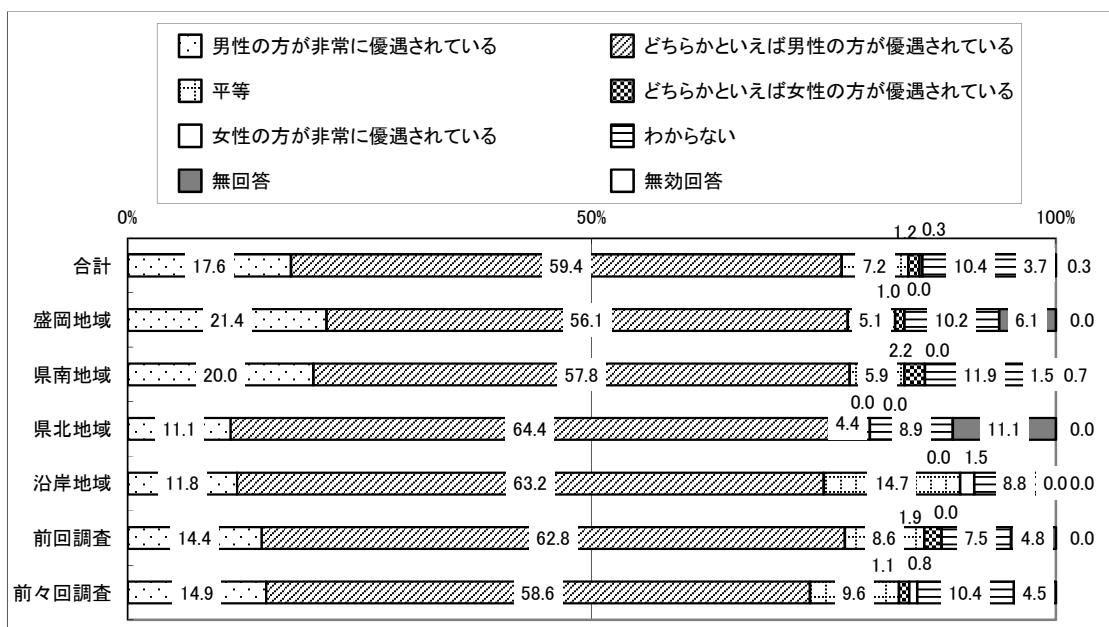


地域別・男女別にみると、男性で『男性が優遇されている』と回答したものの割合が最も高い地域は、「盛岡地域」(70.2%)であり、次いで「県南地域」(59.3%)、「県北地域」(56.4%)、「沿岸地域」(51.1%)と続く。女性で『男性が優遇されている』と回答したものが最も多い地域は、「県南地域」(77.8%)であり、次いで「盛岡地域」(77.5%)、「県北地域」(75.5%)、「沿岸地域」(75.0%)と続く。男女による差が最も大きい地域は「沿岸地域」であり、男性(51.1%)と女性(75.0%)では、女性の方が23.9ポイント高い。

⑪今回調査 男性の地域別構成



⑫今回調査 女性の地域別構成



問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、重要と思われるものは何ですか。
次の中から2つ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

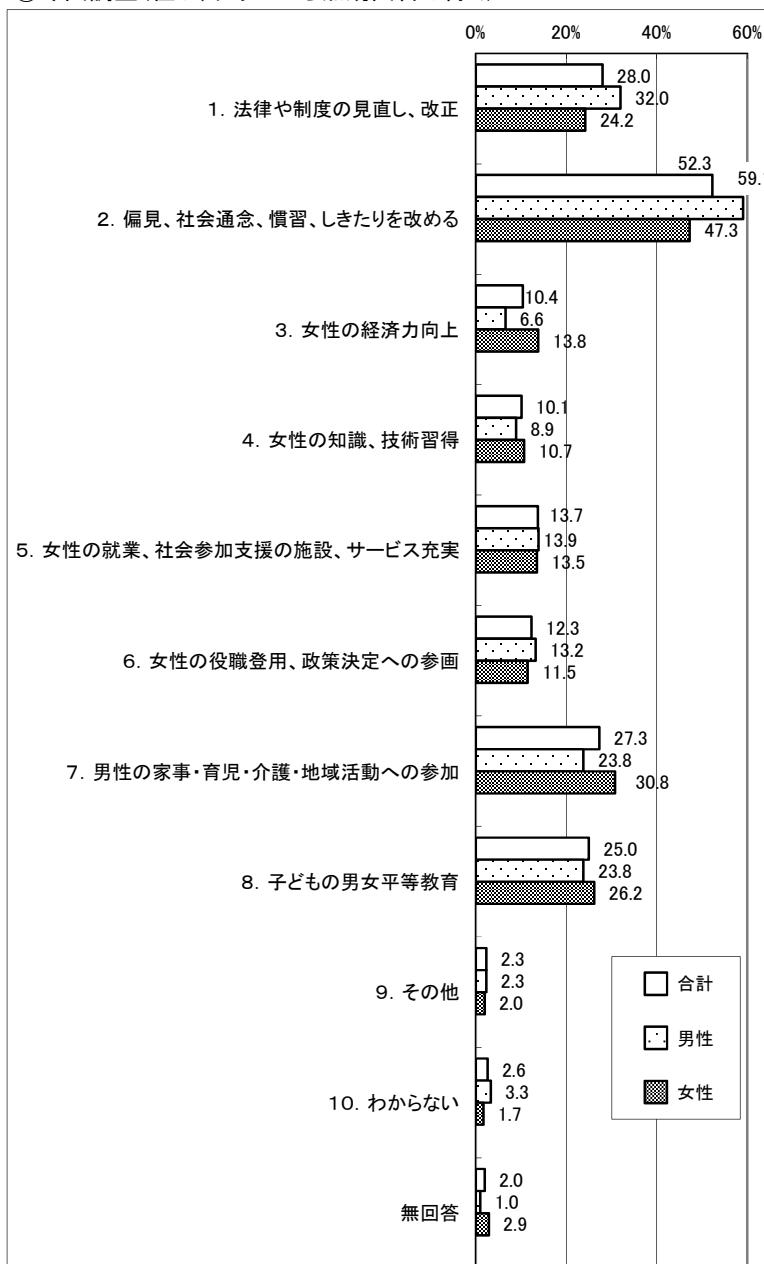
男女平等のために重要なものは、「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」(52.3%)の割合が最も高く、次いで「法律や制度の見直し、改正」(28.0%)、「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」(27.3%)と続く。

前回調査と比較すると、「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」(52.3%)は1.8ポイント増加した。また「法律や制度の見直し、改正」(28.0%)は2.5ポイント増加した。一方、「女性の知識、技術習得」(10.1%)は前回調査(13.5%)より3.4ポイント減少した。

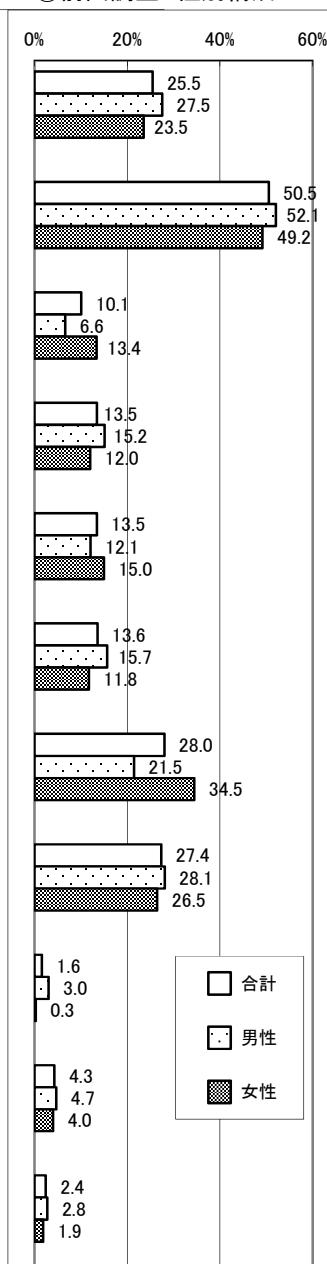
男女別にみると、男女ともに「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」(男性59.1% 女性47.3%)の割合が最も高い。次いで男性は「法律や制度の見直し、改正」(32.0%)、同率で「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」、「子どもの男女平等教育」(23.8%)と続く。女性は「男性の家事・育児・介護・地域活動への参加」(30.8%)、「子どもの男女平等教育」(26.2%)と続く。

男女の差が最も大きいのは「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」であり、男性(59.1%)と女性(47.3%)では男性の方が11.8ポイント高い。

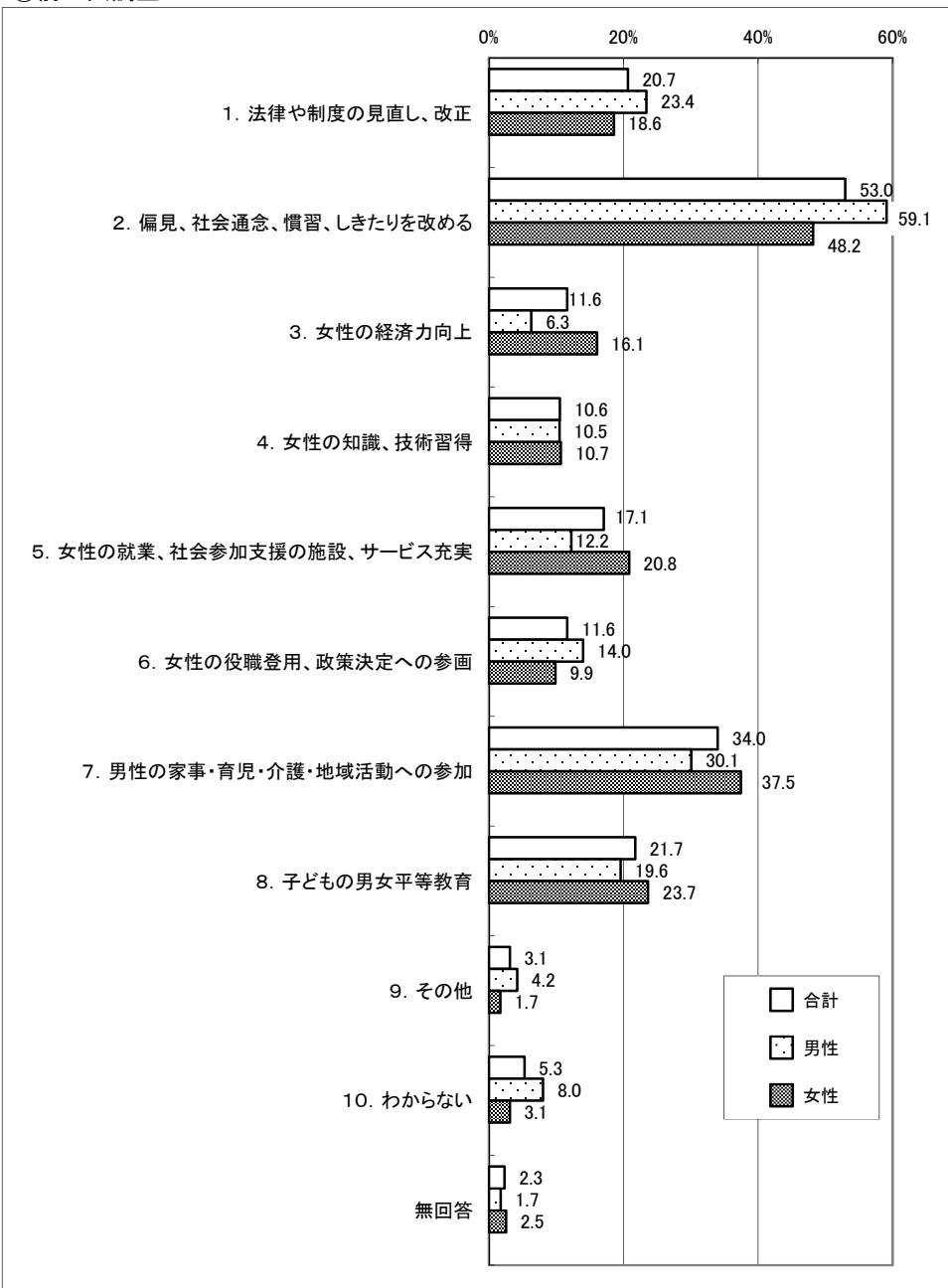
①今回調査(但し、グラフから無効回答は除く)



②前回調査 性別構成



③前々回調査

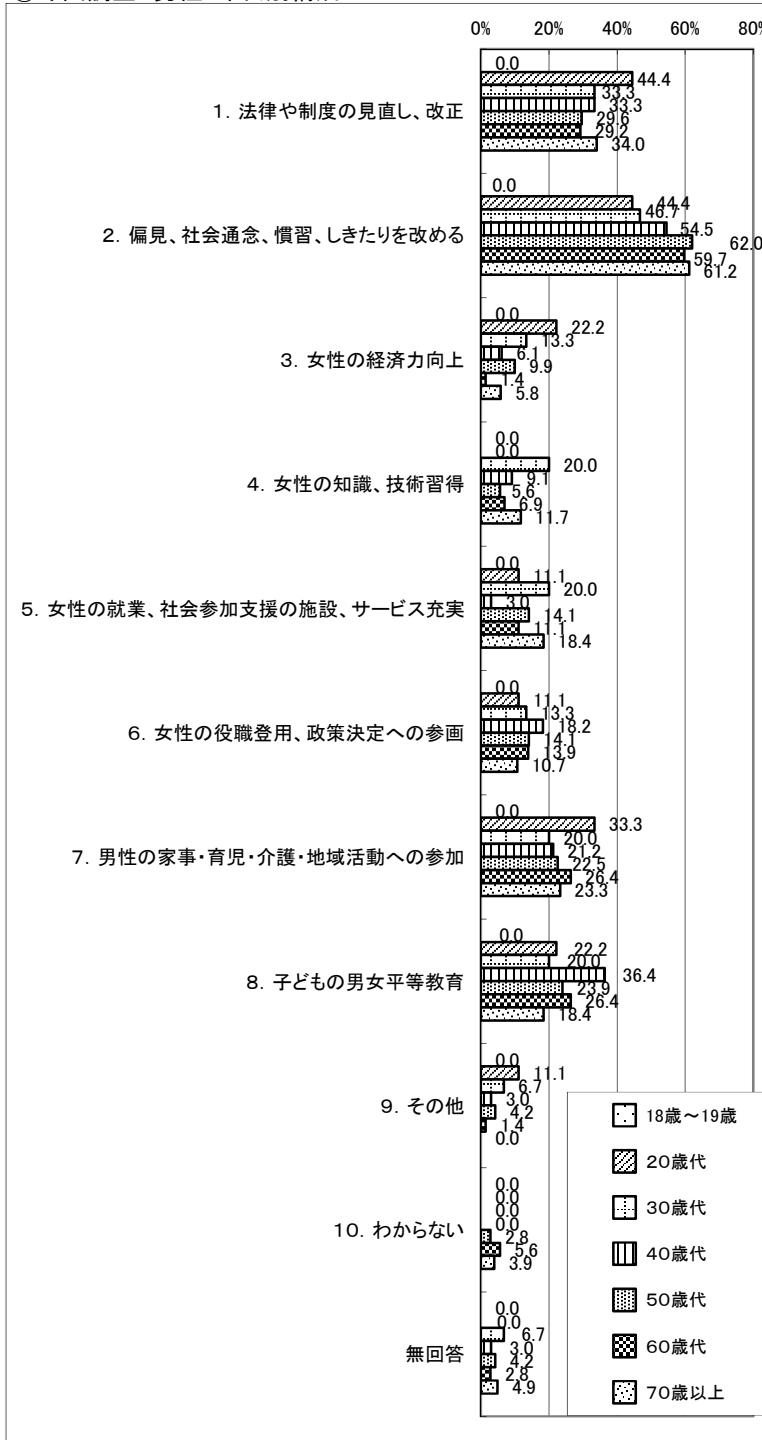


年代別・男女別にみると、男女とも「18歳～19歳」を除くすべての年代において「偏見、社会通念、慣習、しきたりを改める」と回答したものの割合が最も高かった。

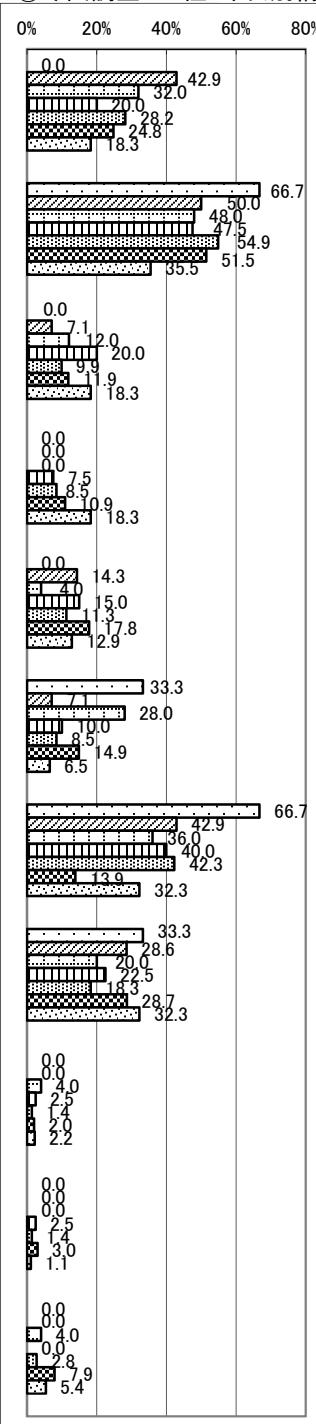
男性では「女性の経済力向上」において「20歳代」(22.2%)と「60歳代」(1.4%)では20.8ポイントの差となっている。

女性では「女性の知識、技術習得」において「20歳代」(0%)と「70歳以上」(18.3%)では18.3ポイントの差で、高齢になるほど割合が高くなる傾向にある。

③今回調査 男性・年代別構成



④今回調査 女性・年代別構成



2 女性の社会参画について

問3 あなたは、次の分野において、女性の意見や考え方方が反映されていると思いますか。
次の①～④の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

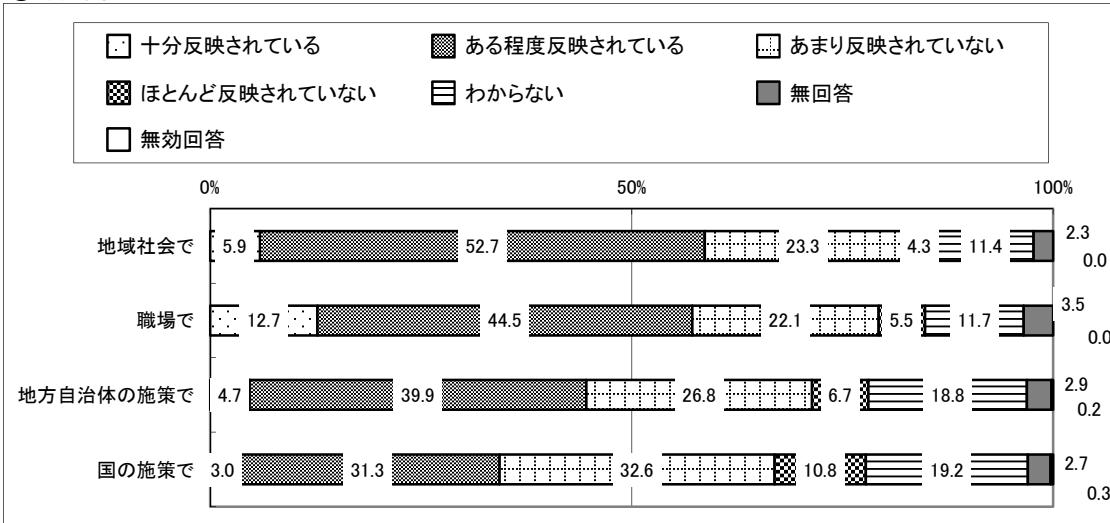
※「十分反映されている」または「ある程度反映されている」と回答したものを『反映されている』、「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と回答したものを『反映されていない』とする。

女性の社会参画について、女性の意見や考え方方が『反映されている』と回答したものは、「地域社会で」は58.6%、「職場で」は57.2%、「地方自治体の施策で」は44.6%、「国の施策で」は34.3%である。

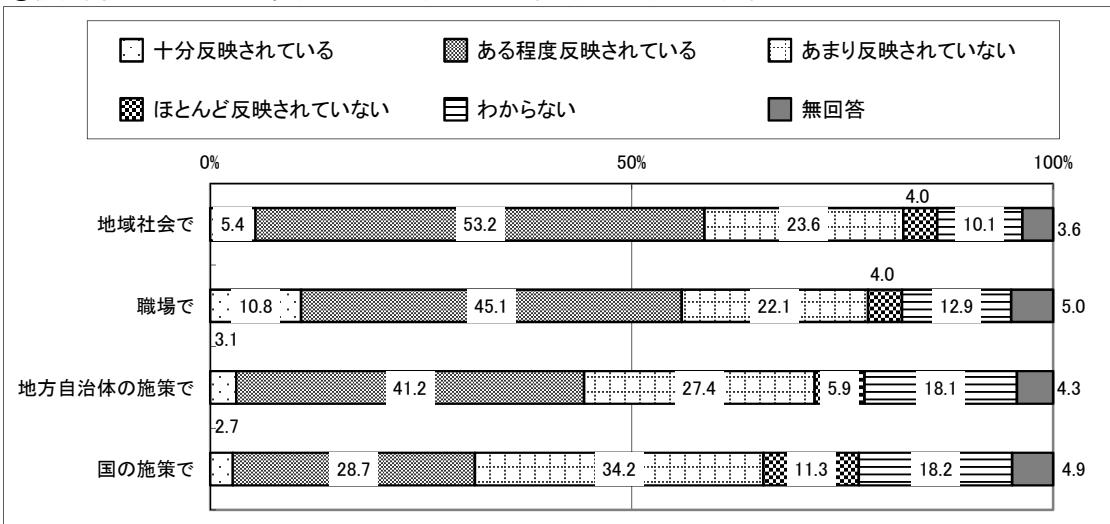
『反映されていない』と回答したものは、「地域社会で」27.6%、「職場で」27.6%、「地方自治体の施策で」33.5%、「国の施策で」43.4%である。「国の施策で」は4割を超え、『反映されていない』が9.1ポイント上回った。

前回調査と比較して、全ての項目において『反映されている』と回答したものは増加（「地域社会で」は同数）した。

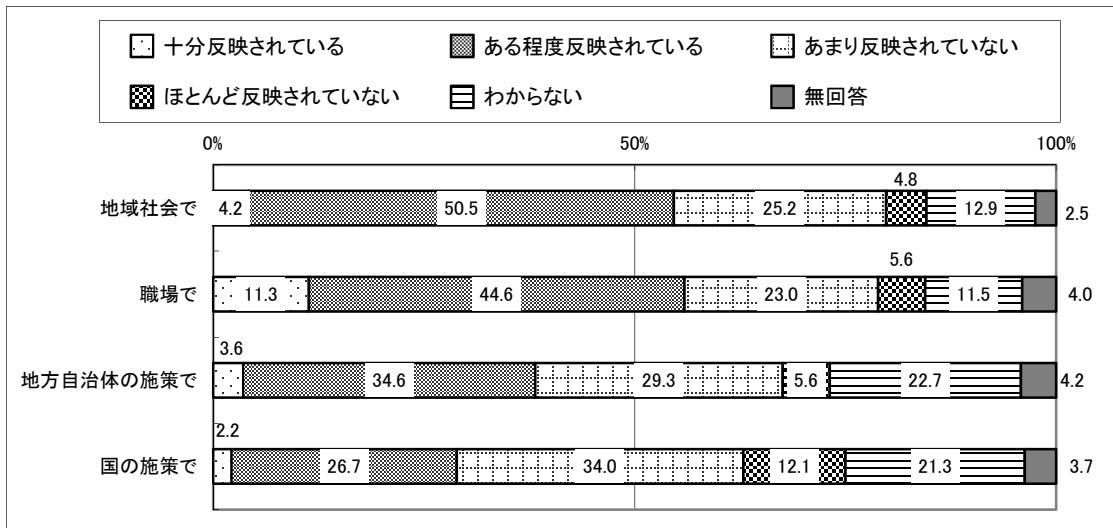
①今回調査



②前回調査 (N=742 男性=363 女性=374 その他=0 性別無回答=5)



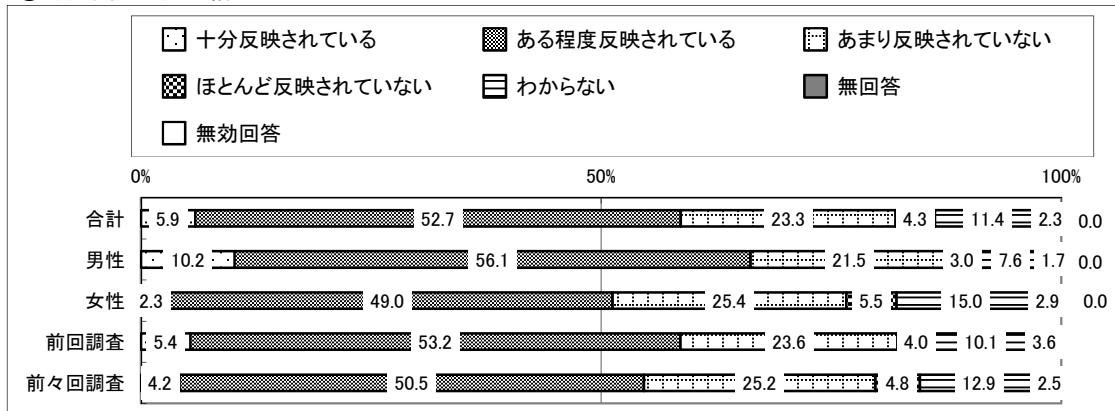
③前々回調査 (N=644 男性=286 女性=355 その他=2 性別無回答=1)



(1) 地域社会で

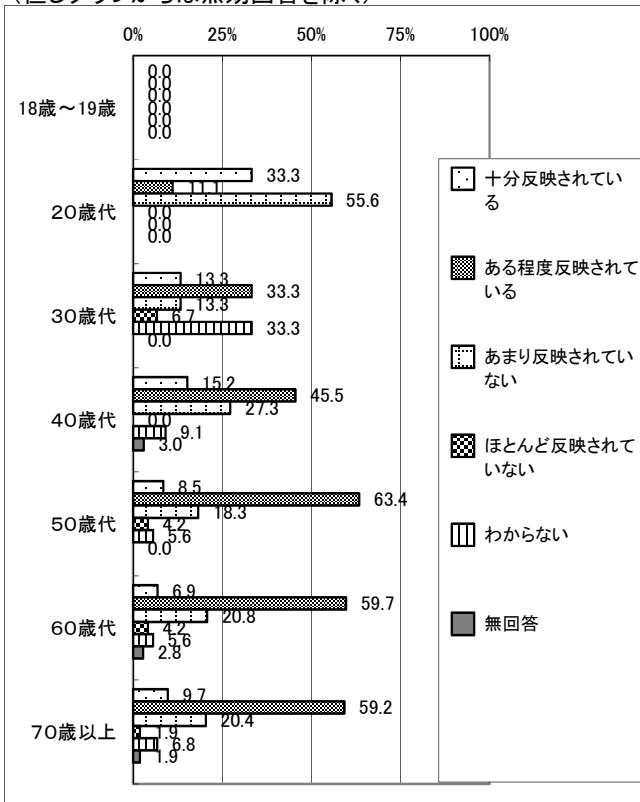
地域社会において、『反映されている』と回答した男性は66.3%、女性は51.3%であり、男女による差は15.0ポイント男性が高い。『反映されていない』と回答した男性は24.5%、女性は30.9%と6.4ポイント女性のほうが高い。

① 今回調査 性別構成

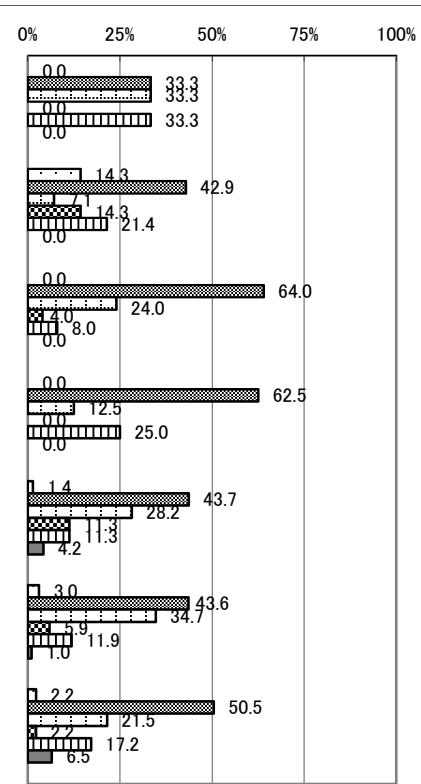


年代別・男女別にみると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「50歳代」(71.9%)であり、最も低いのは「18歳～19歳」(0.0%)であった。なお、前回調査では「30歳代」(51.6%)が最も低かった。女性では「30歳代」(64.0%)が最も高く、最も低いのは「18歳～19歳」(33.3%)であり、その差は30.7ポイントである。尚、前回調査では「50歳代」(49.2%)が最も低かった。男女の差が最も大きいのは、「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(33.3%)では、女性の方が33.3ポイント高い。次いで「50歳代」で男性(71.9%)、女性(45.1%)では男性の方が26.8ポイント高い。

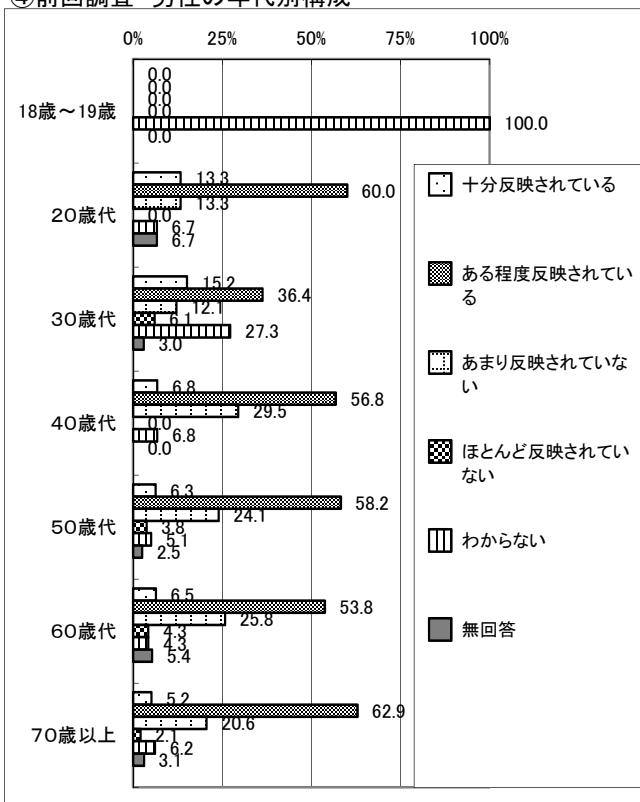
②今回調査 男性の年代別構成
(但しグラフからは無効回答を除く)



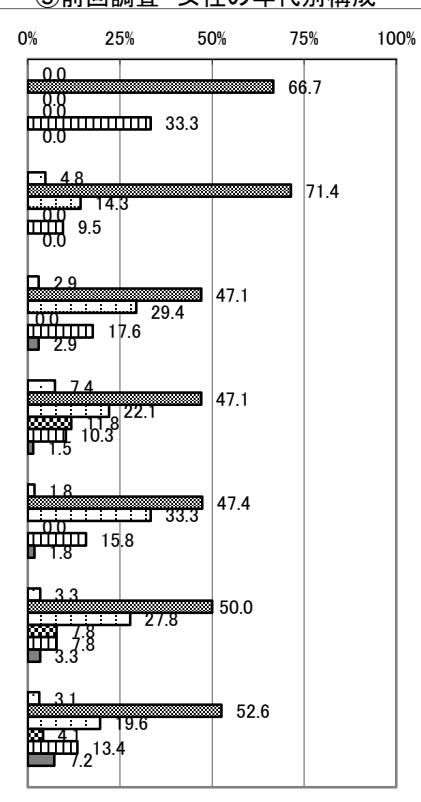
③今回調査 女性の年代別構成



④前回調査 男性の年代別構成



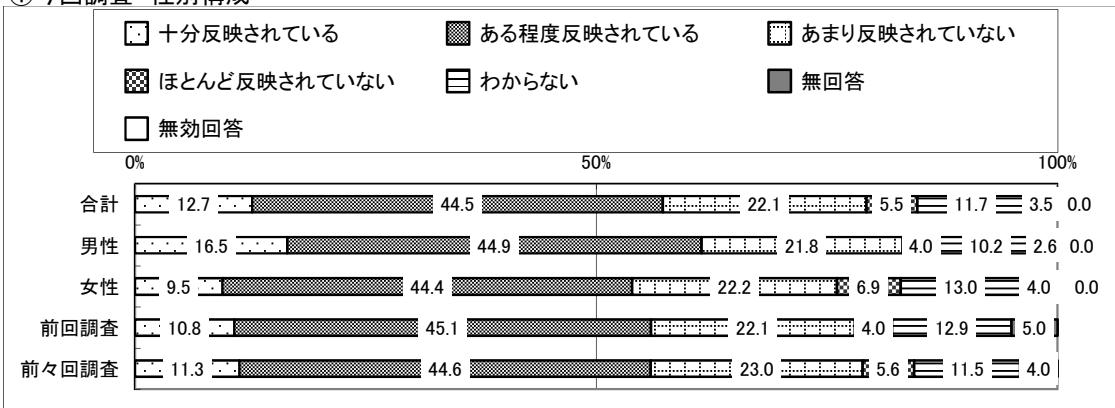
⑤前回調査 女性の年代別構成



(2)職場で

職場で『反映されている』と回答したものは、男性61.4%、女性は53.9%である。『反映されていない』と回答した男性は25.8%、女性は29.1%である。

①今回調査 性別構成

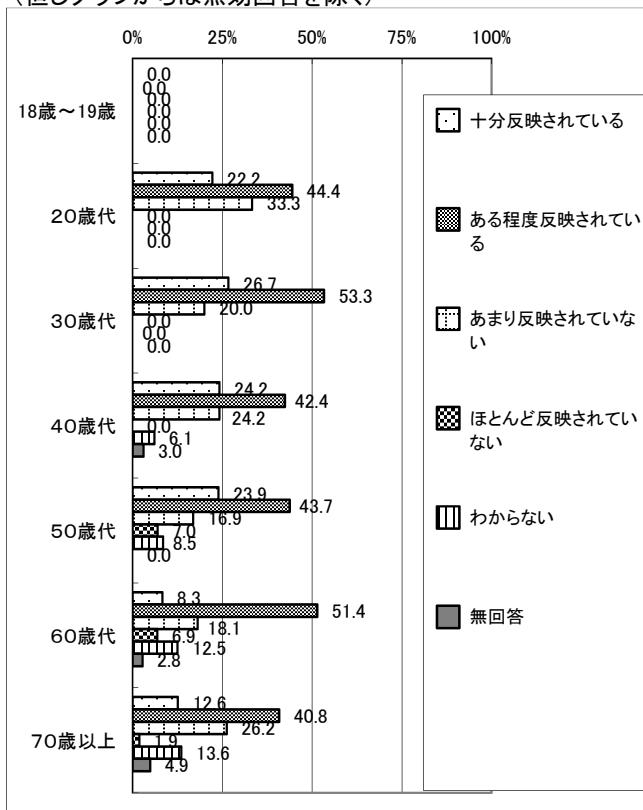


年代別・男女別でみると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「30歳代」(80.0%)であり、最も低いのは「18歳～19歳」(0.0%)であった。

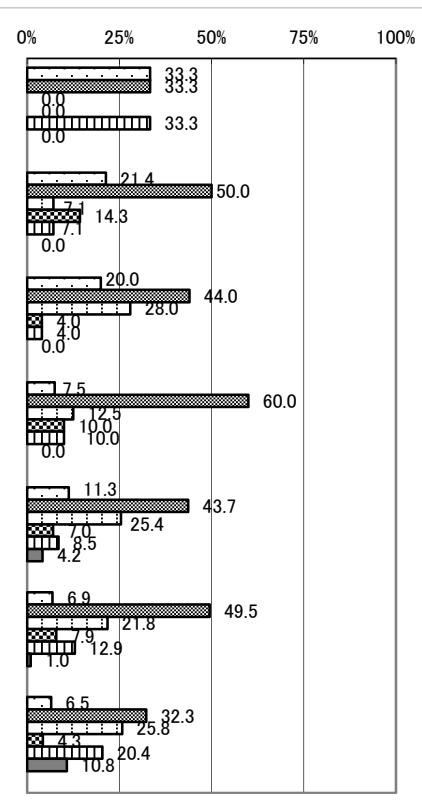
女性では『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、「20歳代」(71.4%)であり、最も低いのは「70歳以上」(38.8%)である。

男女の差が最も大きいのは「18歳～19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.6%)では、女性の方が66.6ポイント高い。次いで「30歳以上」であり、男性(80.0%)と女性(64.0%)では、男性の方が16.0ポイント高い。

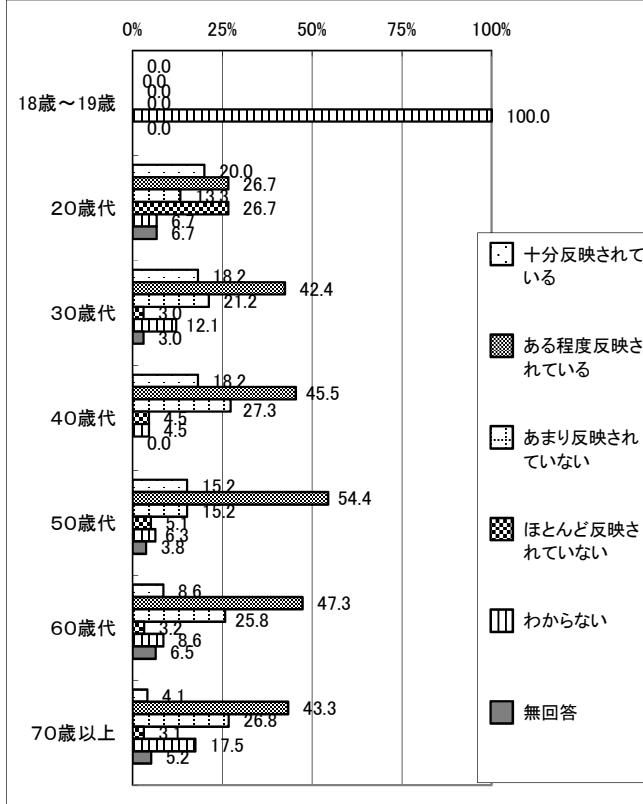
②今回調査 男性の年代別構成
(但しグラフからは無効回答を除く)



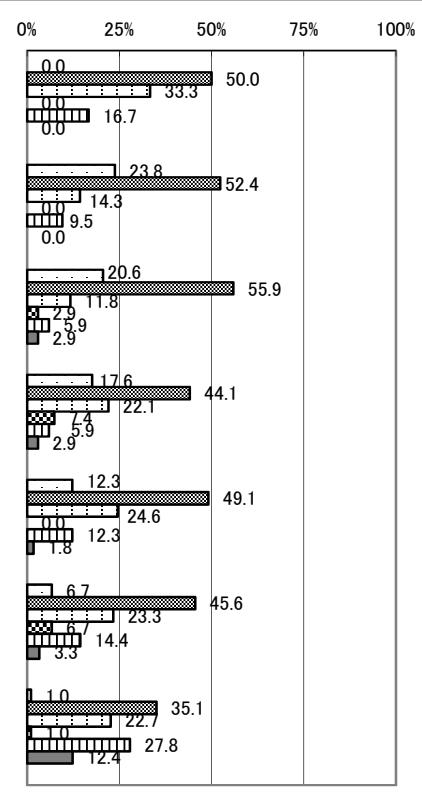
③今回調査 女性の年代別構成



④前回調査 男性の年代別構成



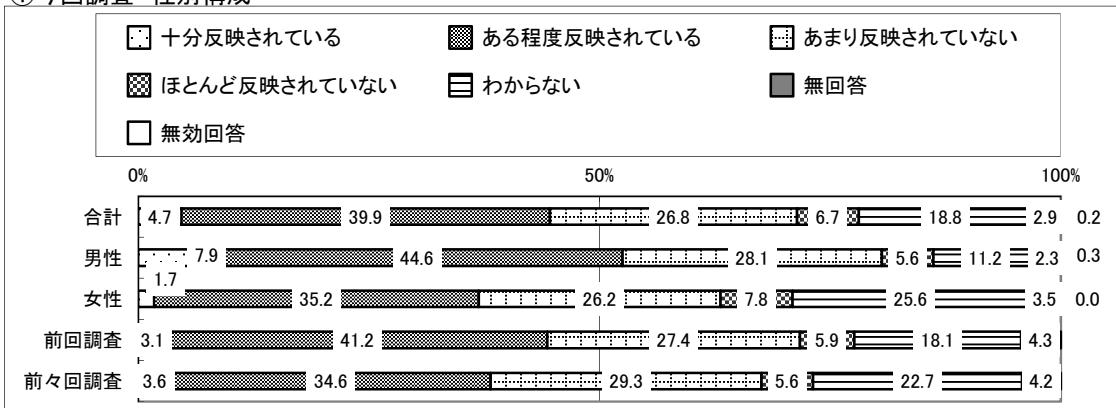
⑤前回調査 女性の年代別構成



(3)地方自治体(県や市町村)の施策で

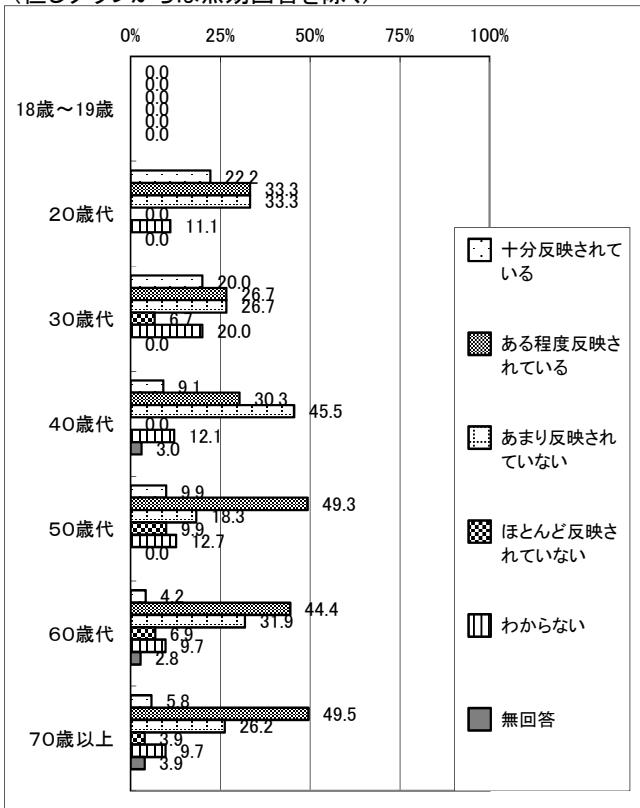
地方自治体(県や市町村)の施策で、『反映されている』と回答した男性は52.5%、女性は36.9%である。『反映されていない』と回答した男性は33.7%、女性は34.0%である。

①今回調査 性別構成

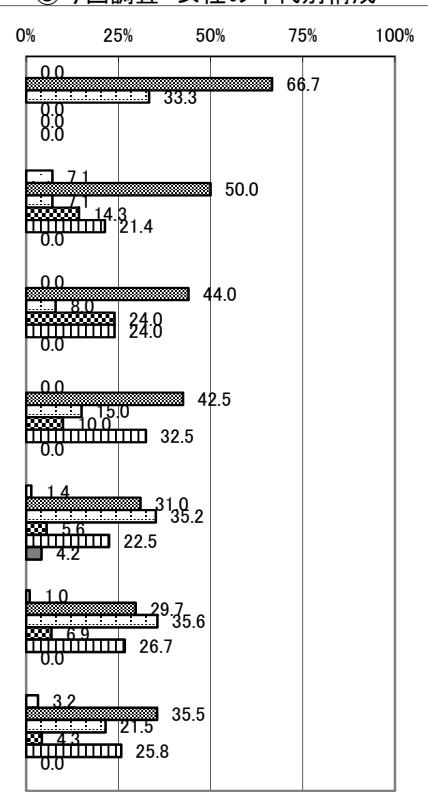


年代別・男女別にみると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「50歳代」(59.2%)であり、最も低いのは「18歳~19歳」(0.0%)。女性では、「18歳~19歳」(66.7%)が最も高く、最も低いのは「60歳代」(30.7%)であり、その差は36.0ポイントである。男女の差が最も大きいのは「18歳~19歳」であり、男性(0.0%)と女性(66.7%)では、女性の方が66.7ポイント高い。

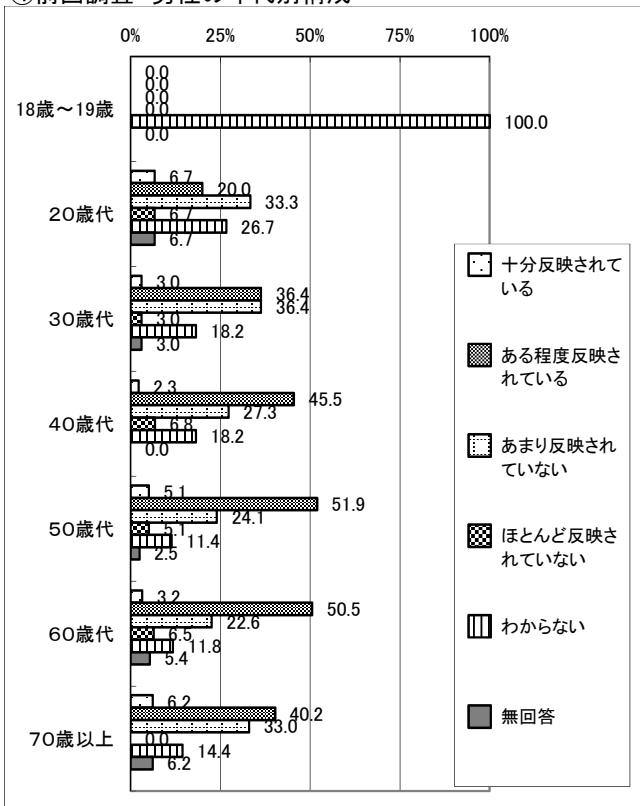
②今回調査 男性の年代別構成
(但しグラフからは無効回答を除く)



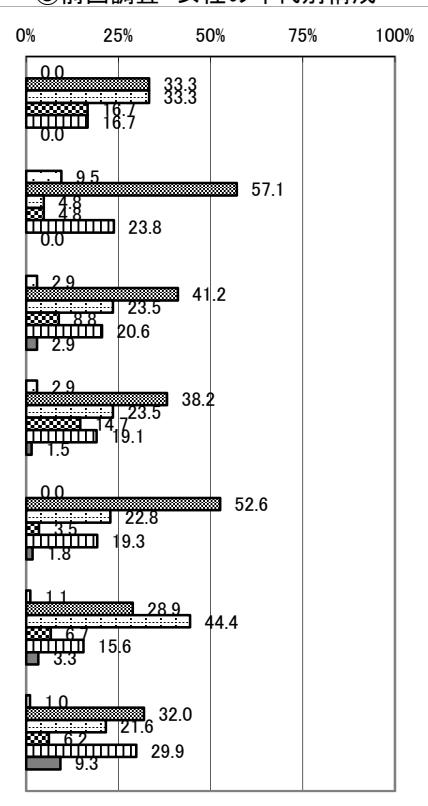
③今回調査 女性の年代別構成



④前回調査 男性の年代別構成



⑤前回調査 女性の年代別構成

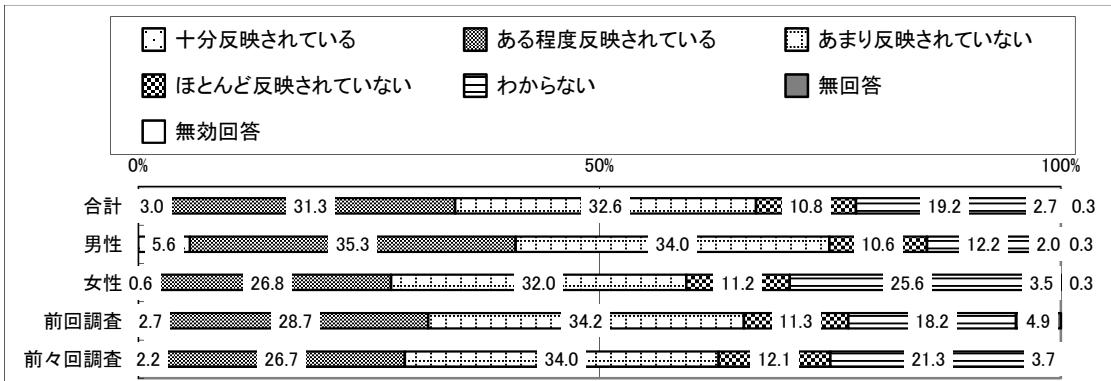


(4) 国の施策で

国の施策で『反映されている』と回答した男性は40.9%、女性は27.4%で、男性の方が13.5ポイント高い。

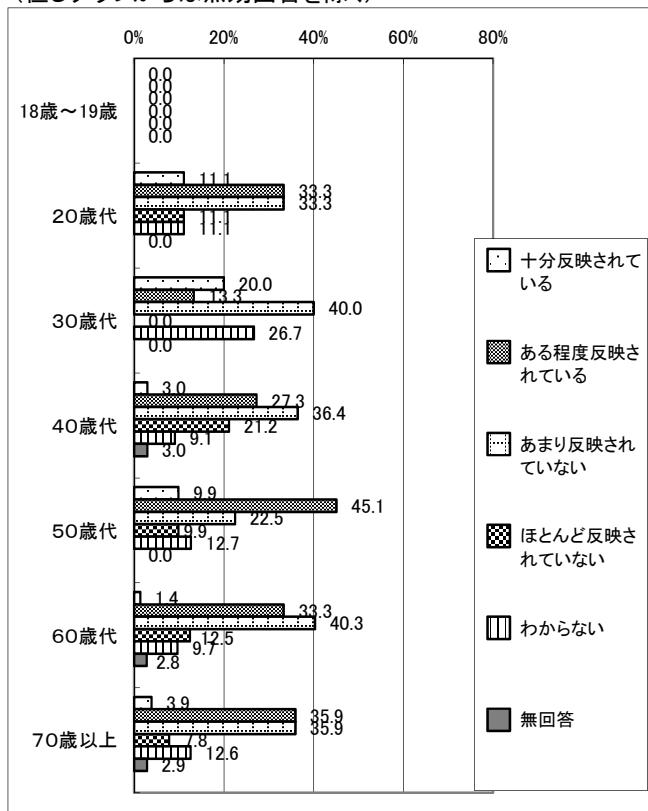
『反映されていない』と回答した男性は44.6%、女性は43.2%である。

①今回調査 性別構成

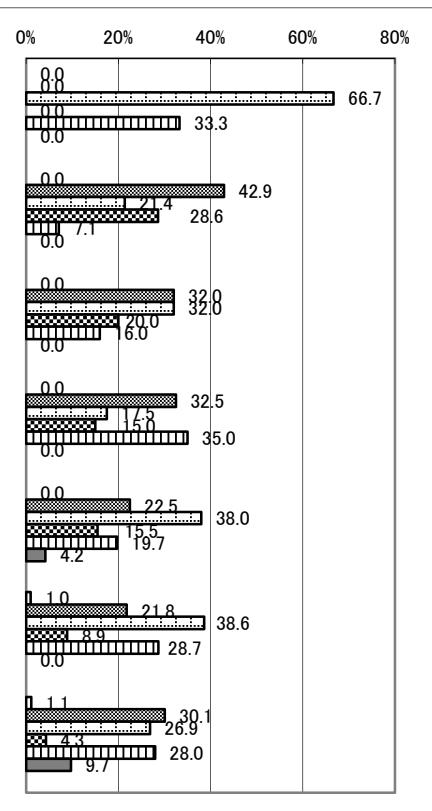


年代別・男女別にみると、『反映されている』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「50歳代」(55.0%)であり、最も低いのは「18歳～19歳」(0.0%)である。女性では「20歳代」(42.9%)が最も高く、最も低いのは「18歳～19歳」(0.0%)であり、その差は42.9ポイントである。男女の差が最も大きいものは、「50歳代」であり、『反映されている』と回答した男性(55.0%)と女性(22.5%)では、男性の方が32.5ポイント高い。尚、男性の「20歳代」(44.4%)は前回調査(26.6%)より17.8ポイント増加している。

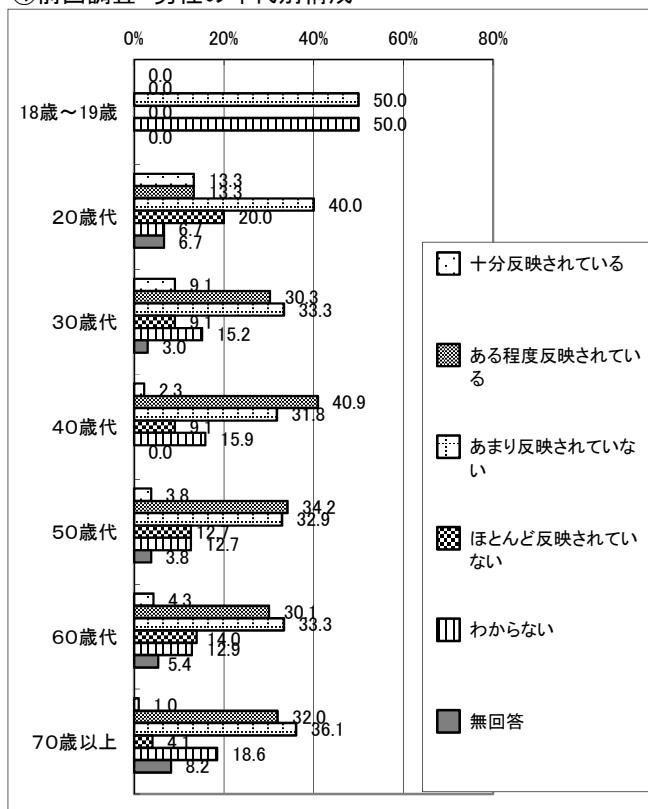
②今回調査 男性の年代別構成
(但しグラフからは無効回答を除く)



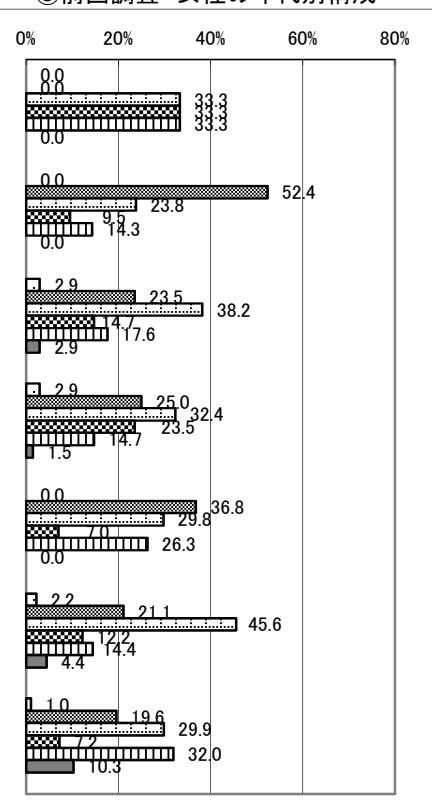
③今回調査 女性の年代別構成



④前回調査 男性の年代別構成



⑤前回調査 女性の年代別構成



問4 (問3で「3あまり反映されていない」または「4ほとんど反映されていない」と答えた項目があつた方に
お伺いします)

反映されていない理由は何だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。
(N=356 男性=162 女性=192 その他=0 性別不明=2)

女性の意見や考え方、「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と回答したものに、その理由について尋ねた。

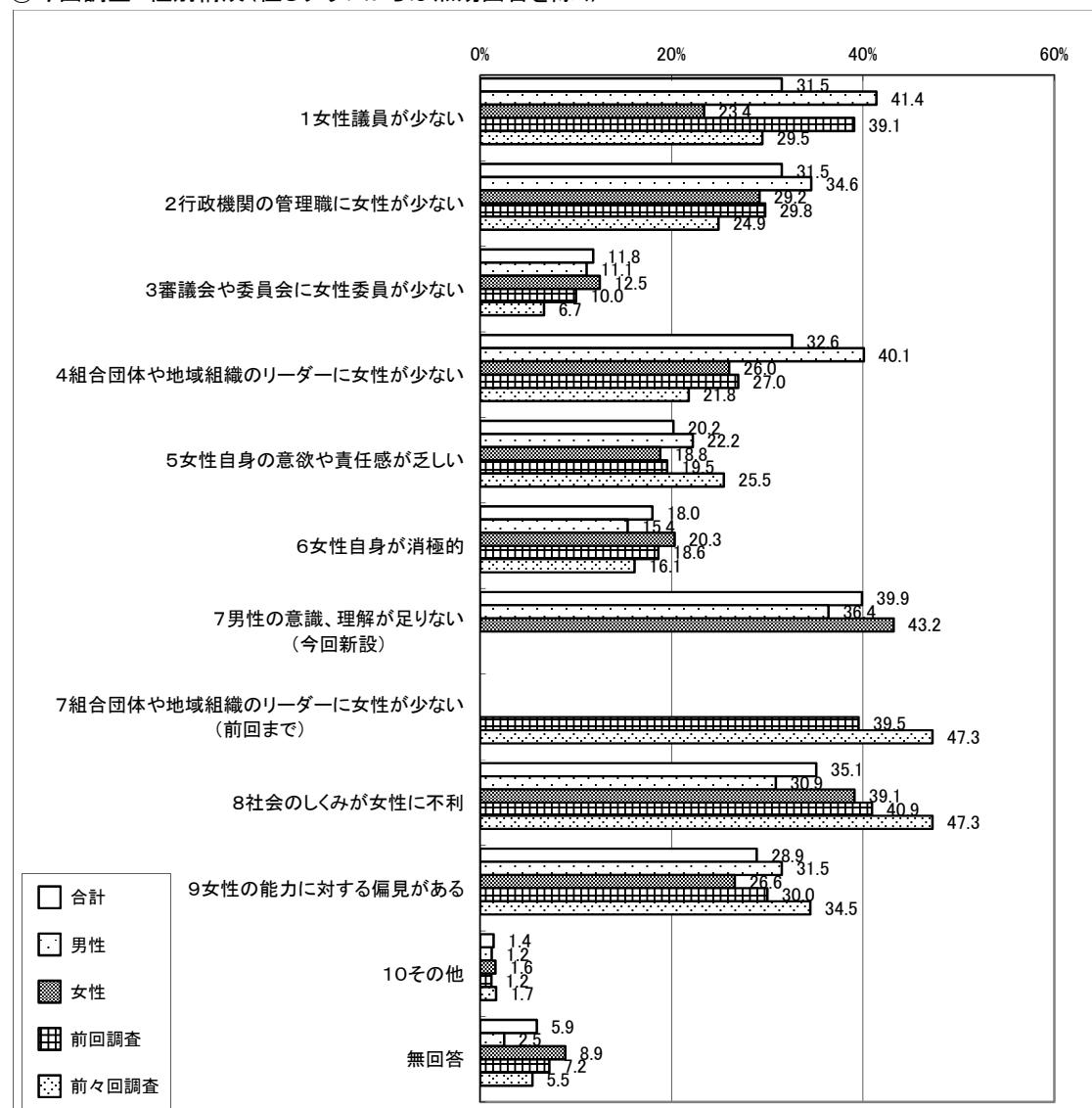
回答割合で最も高かったのは「男性の意識、理解が足りない」(39.9%)であり、次いで「社会のしくみが女性に不利」(35.1%)、「組合団体や地域組織のリーダーに女性が少ない」(32.6%)と続く。

男女別にみると、男性では「女性議員が少ない」(41.4%)が最も高く、次いで「組合団体や地域組織のリーダーに女性が少ない」(40.1%)、「男性の意識、理解が足りない」(36.4%)と続く。

女性では「男性の意識、理解が足りない」(43.2%)、次いで「社会のしくみが女性に不利」(39.1%)と続く。

最も男女の差が大きいのは「女性議員が少ない」であり、男性(41.4%)と女性(23.4%)では、男性の方が18.0ポイント高い。

①今回調査 性別構成(但しグラフからは無効回答を除く)

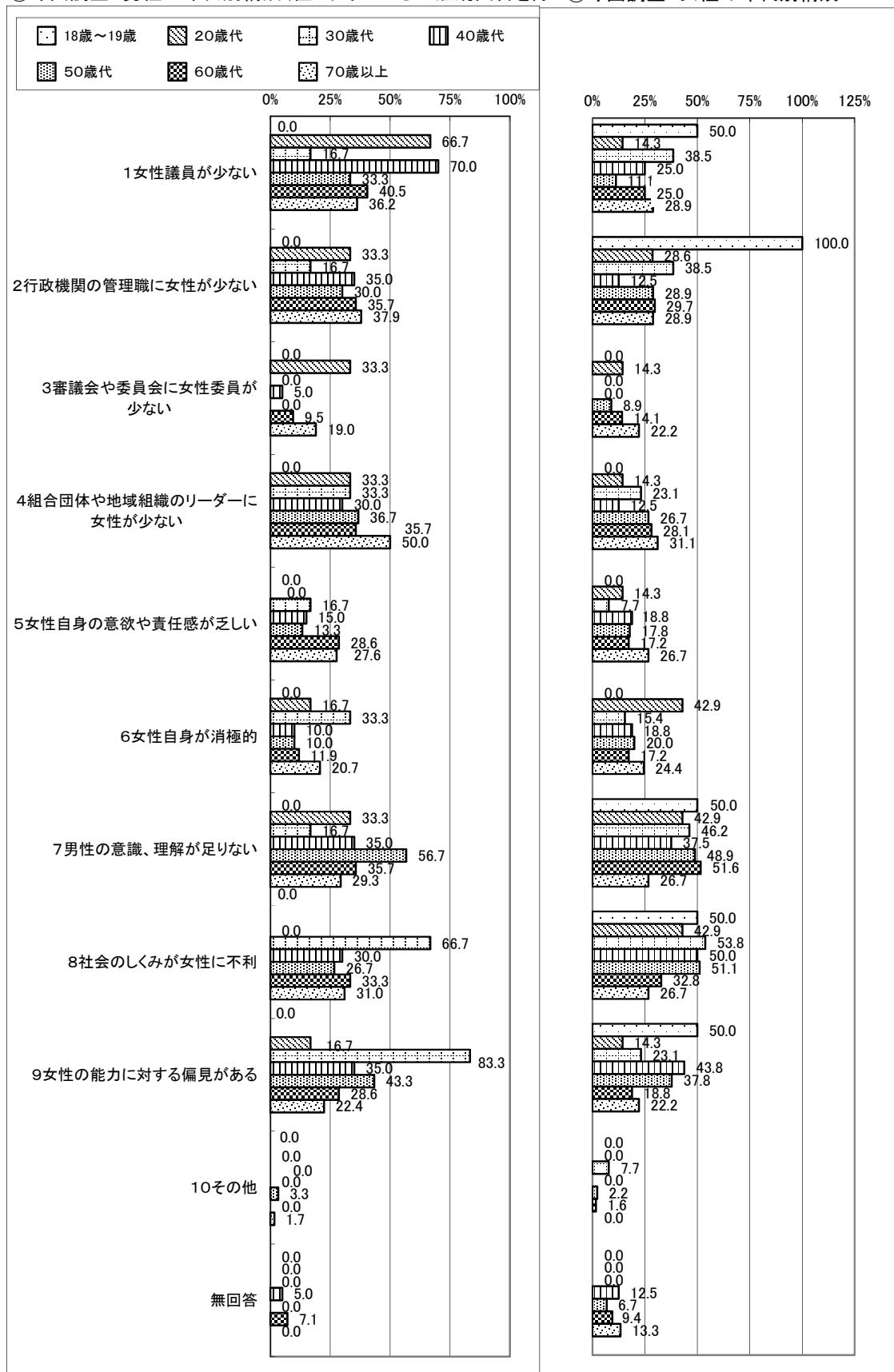


年代別・男女別にみると、「男性の意識、理解が足りない」と回答したものは、男性では「50歳代」(56.7%)で、女性では「60歳代」(51.6%)、「18歳～19歳」(50.0%)で5割を超えた。

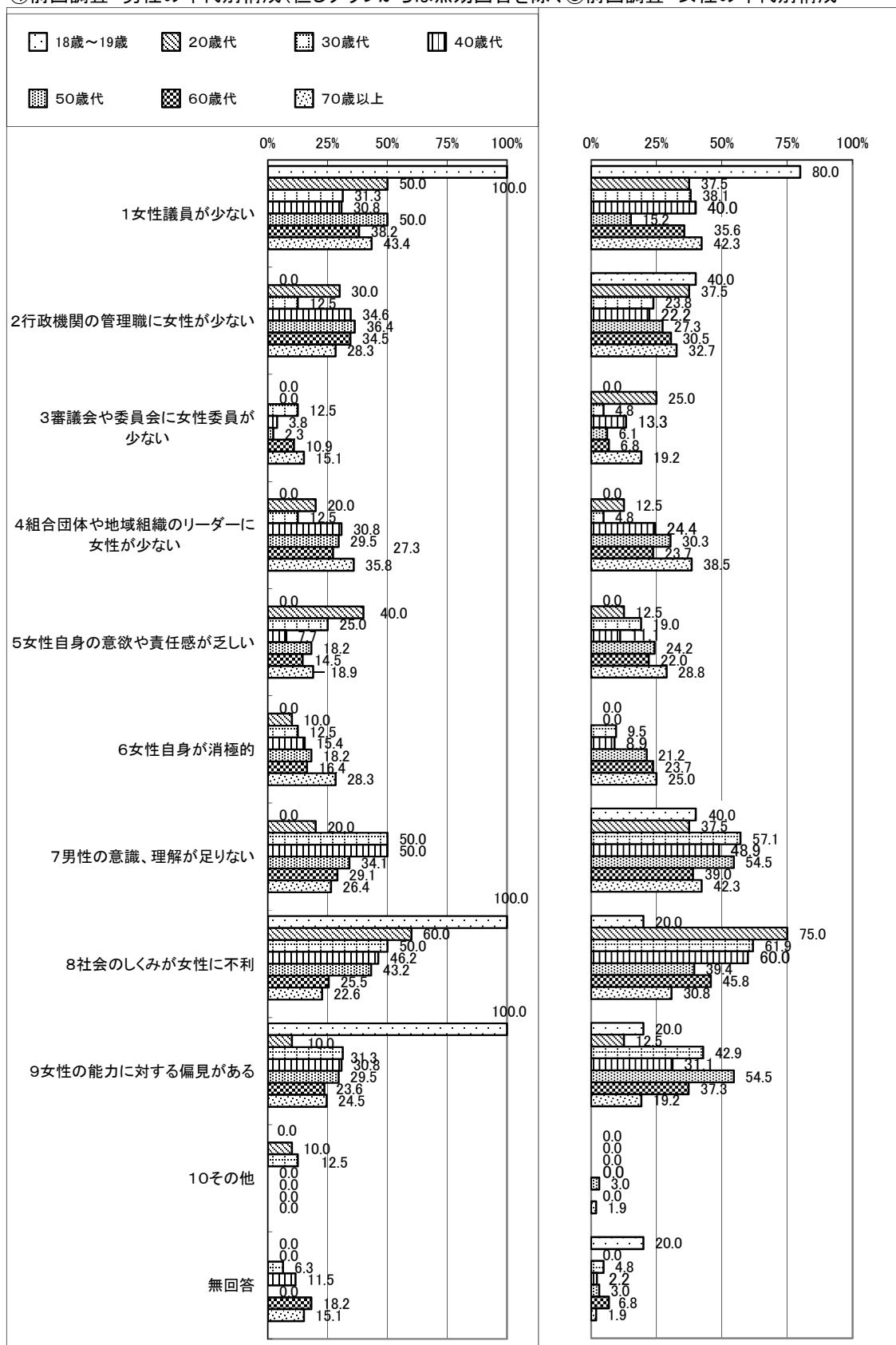
「社会のしくみが女性に不利」と回答したものは、男性では「30歳代」(66.7%)で、女性は「30歳代」(53.8%)、「50歳代」(51.1%)、「18歳～19歳」、「40歳代」(50.0%)で5割を超えた。

「社会のしくみが女性に不利」と回答したものは、女性で若年層の方が回答した割合が高くなつ

②今回調査 男性の年代別構成(但しグラフからは無効回答を除) ③今回調査 女性の年代別構成



④前回調査 男性の年代別構成(但しグラフからは無効回答を除く)⑤前回調査 女性の年代別構成



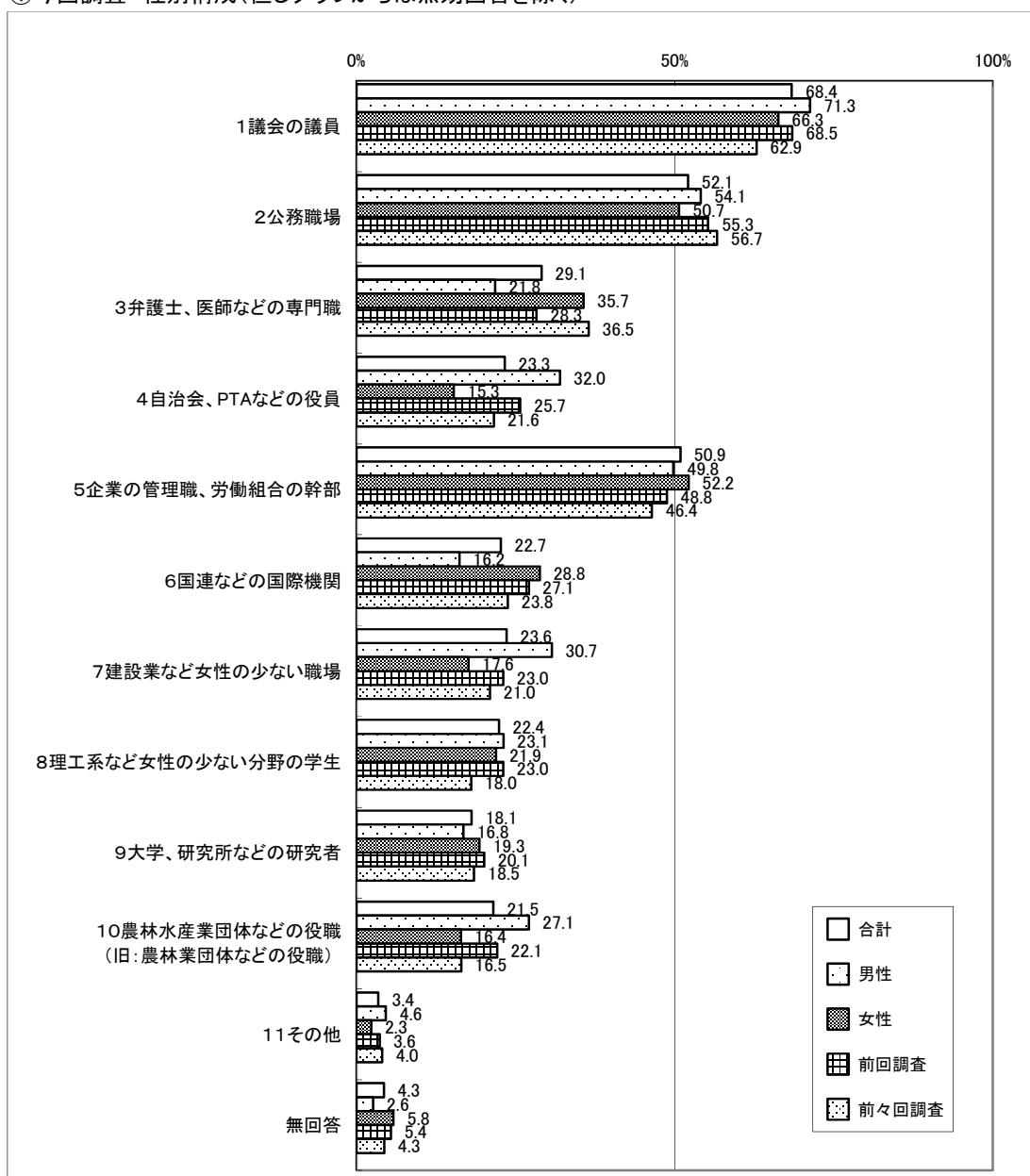
問5 あなたは、今後、特にどのような分野で女性の参画が進むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

今後どのような分野で女性の参画が進むべきだと思いますかについて、「議会の議員」(68.4%)の割合が最も高く、次いで「公務職場」(52.1%)、「企業の管理職、労働組合の幹部」(50.9%)と続く。尚、前回調査と比較し「企業の管理職、労働組合の幹部」(50.9%)が前回調査(48.8%)から2.1ポイント増加している。一方で「国連などの国際機関」(22.7%)が前回調査(27.1%)より4.4ポイント減少している。

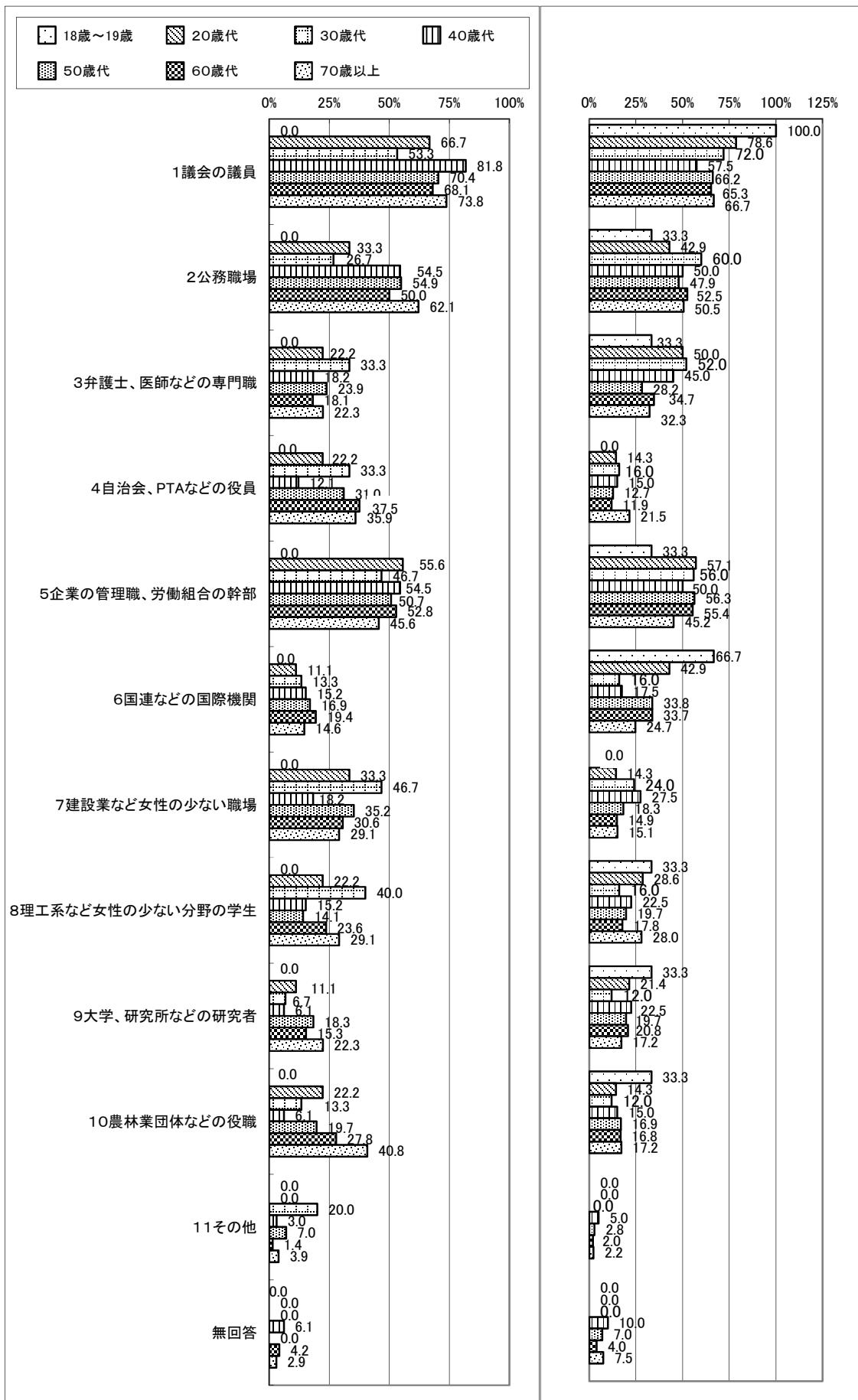
男女別にみると、最も男女差が大きかったのは「自治会、PTAなどの役員」であり、男性(32.0%)と女性(15.3%)では、男性の方が16.7ポイント高く、次いで「弁護士、医師などの専門職」の、男性(21.8%)と女性(35.7%)では、女性の方が13.9ポイント高い。

年代別・男女別にみると、「議会の議員」の男性で最も割合の高かった「40歳代」(81.8%)は、前回調査(59.1%)より22.7ポイント増加している。また、男性、女性ともに「議会の議員」は全ての年代で5割を超えた。

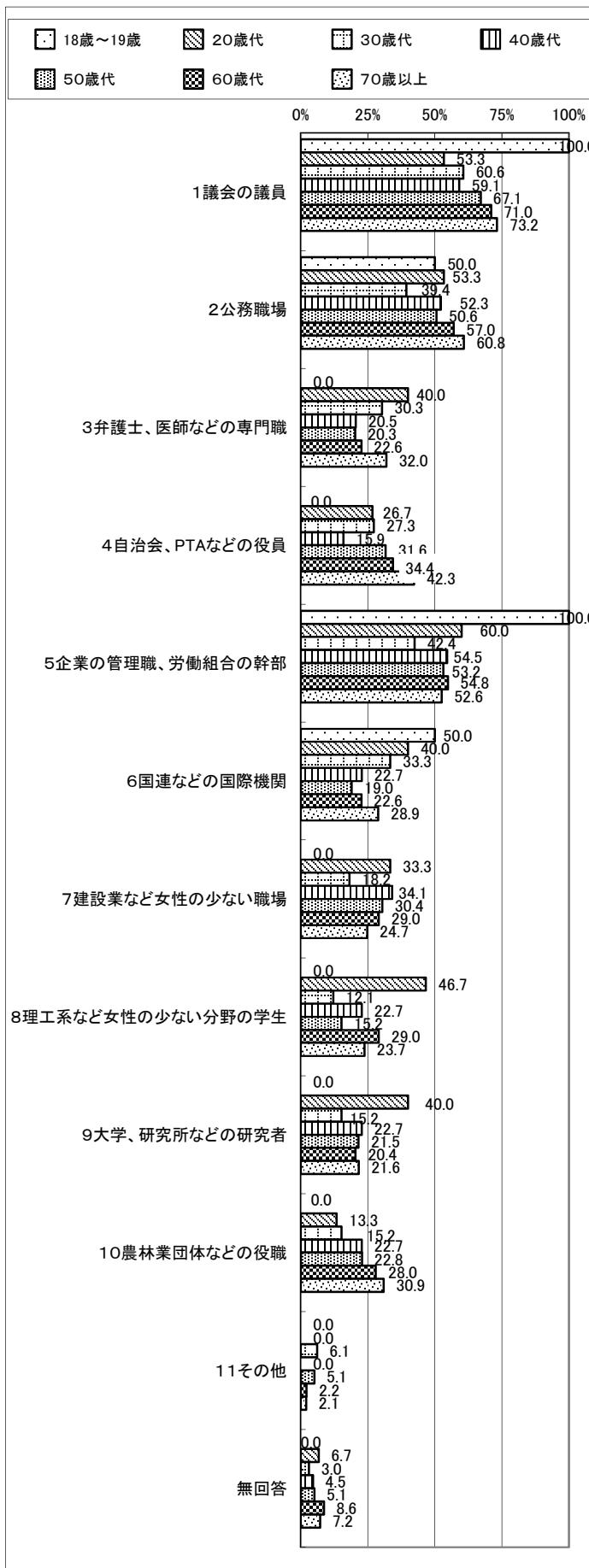
①今回調査 性別構成(但しグラフからは無効回答を除く)



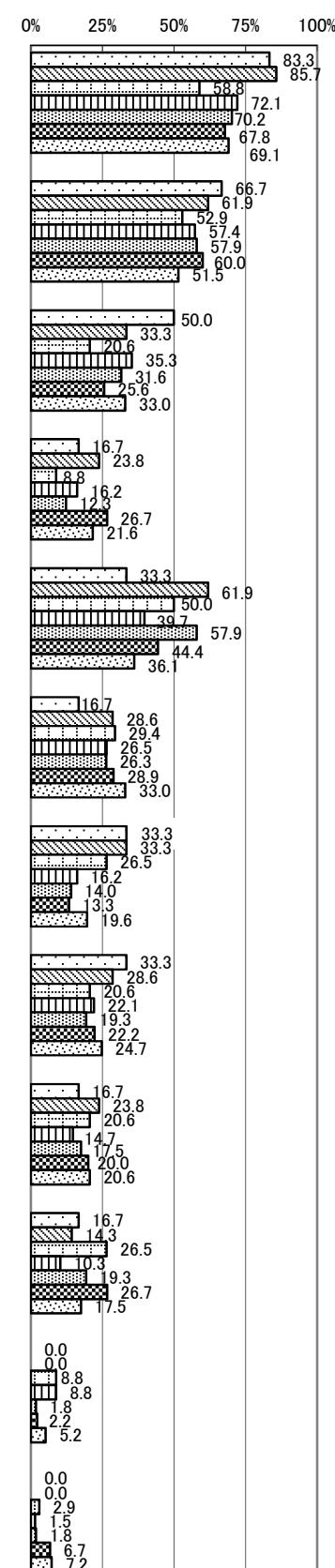
②今回調査 男性の年代別構成(但しグラフからは無効回答を除く)③今回調査 女性の年代別構成



④前回調査 男性の年代別構成



⑤前回調査 女性の年代別構成



3 家庭生活及び結婚・家庭観について

問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。

次の中から1つ選んで○をつけてください。

(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

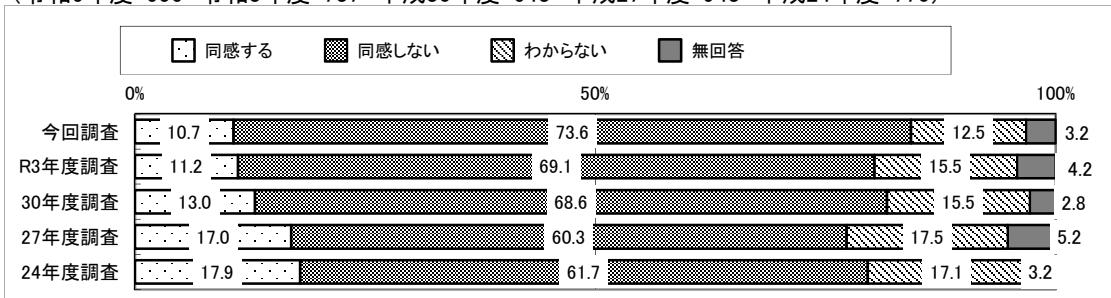
※「無効回答」がなかったためグラフから除いている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感する」は10.7%、「同感しない」は73.6%である。

前回調査と比較すると、「同感する」は0.5ポイント減少、「同感しない」は4.5ポイント増加している。

①合計(総数)の経年推移

(令和6年度=656 令和3年度=737 平成30年度=643 平成27年度=943 平成24年度=770)

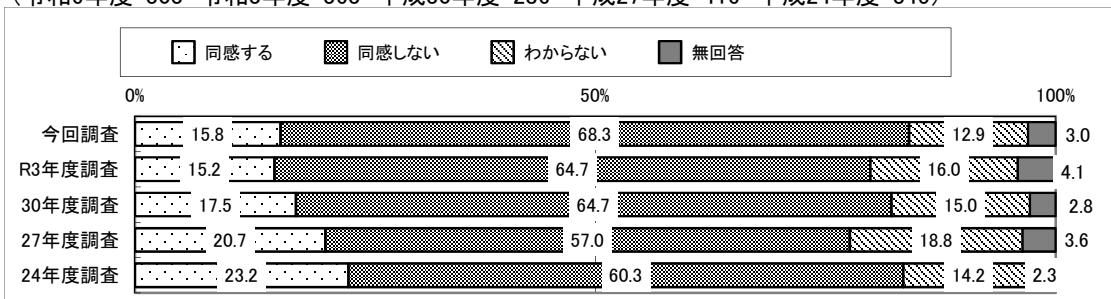


男女別にみると、今回調査、令和3年度調査、平成30年度調査、平成27年度調査、平成24年度調査において、「同感する」と回答したものの割合は、女性よりも男性の方が高い。

前回(令和3年度)調査において「同感しない」と回答した男性は64.7%であり、女性の73.8%とは9.1ポイントの差であったが、今回調査においては男性(68.3%)は前回調査(64.7%)と3.6ポイント増加、女性(79.0%)は前回調査(73.8%)より5.2ポイント増加しており、男女の差は10.7ポイントと広がった。

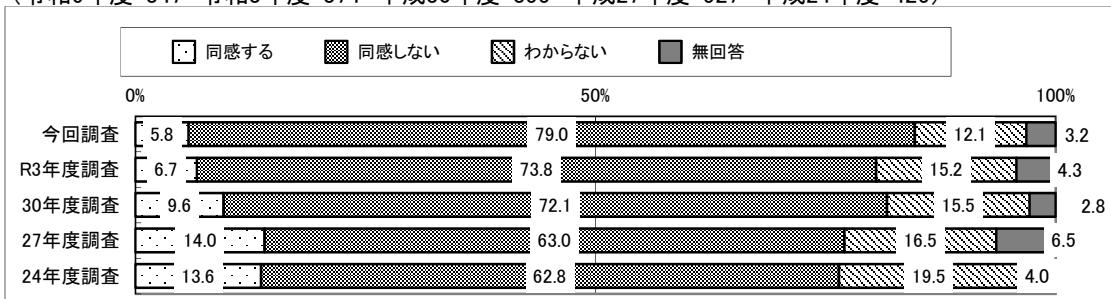
②男性の経年推移

(令和6年度=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移

(令和6年度=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)



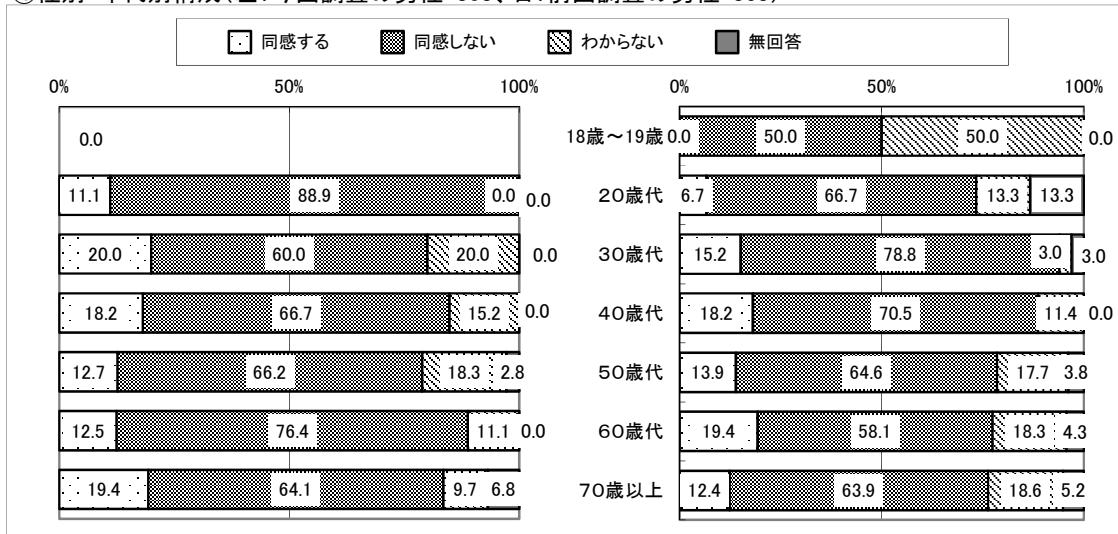
年代別・男女別にみると、男性で「同感する」と回答したものは「30歳代」(20.0%)の割合が最も高く、最も低い「18歳～19歳」(0.0%)との差は20.0ポイントとなった。

「同感しない」と回答したものは「20歳代」(88.9%)の割合が最も高く、最も低い「18歳～19歳」(0.0%)との差は88.9ポイントである。

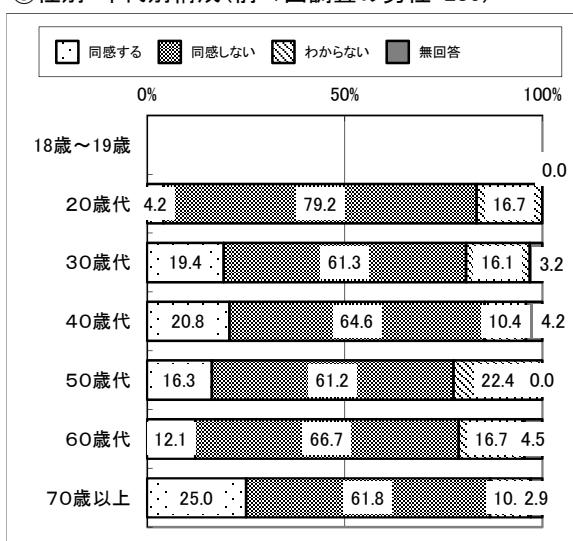
前回調査と比較すると、「同感する」と回答したものは「50歳代」(12.7%)と「60歳代」

(12.5%)で減少しており、「同感しない」と回答したものは「20歳代」(88.9%)、「50歳代」(66.2%)、「60歳代」(76.4%)、「70歳以上」(64.1%)で増加している。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303、右:前回調査の男性=363)

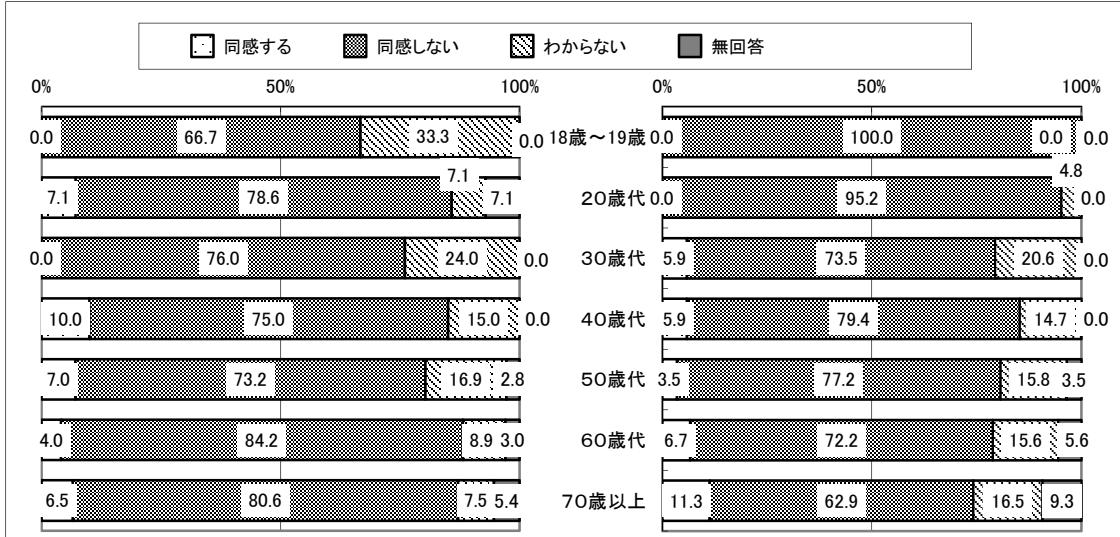


⑤性別・年代別構成(前々回調査の男性=286)

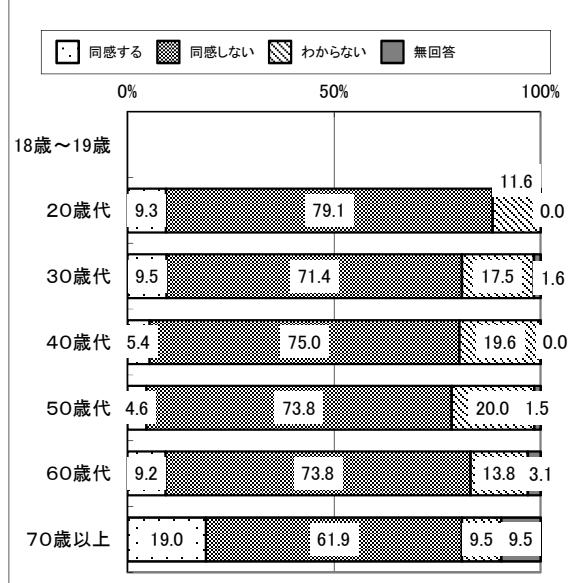


年代別・男女別にみると、女性で「同感する」と回答したものは「40歳代」(10.0%)の割合が最も高く、最も低い「18~19歳」、「30歳代」(0.0%)との差は10.0ポイントとなった。「同感しない」と回答したものは「60歳代」(84.2%)の割合が最も高く、最も低い「18歳~19歳」(66.7%)との差は17.5ポイントである。前回調査と比較すると、「同感しない」と回答した「20歳代」(78.6%)は前回調査(95.2%)より16.6ポイント減少した。

⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347、右:前回調査の女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査の女性=355)



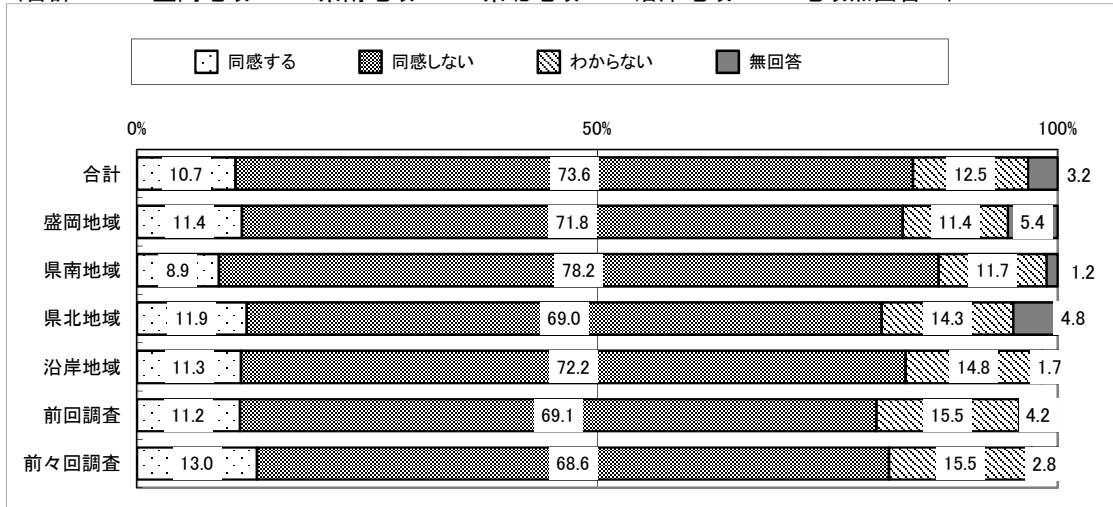
地域別にみると、「同感する」と回答した割合が最も高いのは「県北地域」(11.9%)である。

最も低い「県南地域」(8.9%)との差は3.0ポイントである。

「同感しない」と回答した割合が最も高いのは「県南地域」(78.2%)であり、最も低い「県北地域」(69.0%)との差は9.2ポイントである。

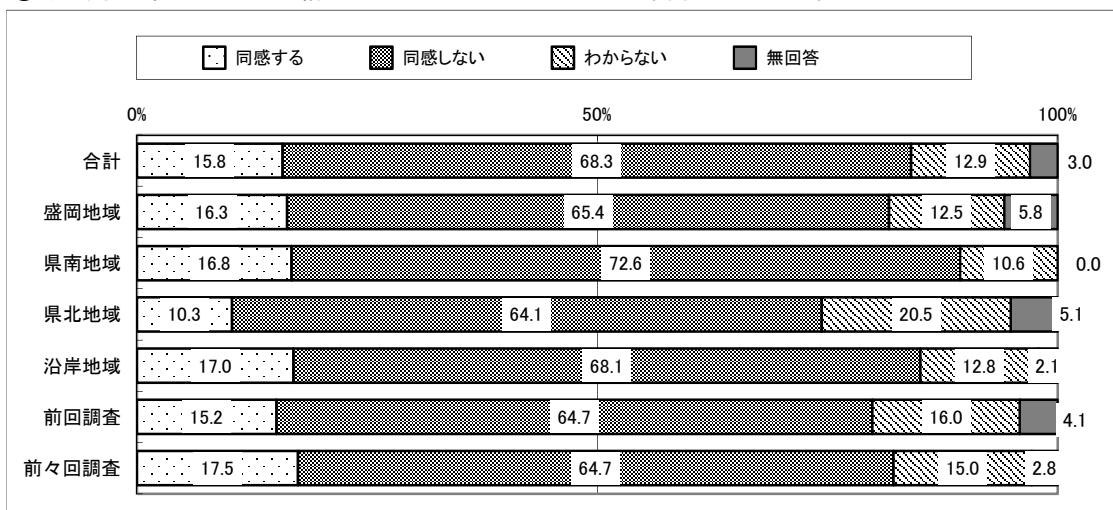
⑧今回調査 地域別による構成

(合計=656 盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7)

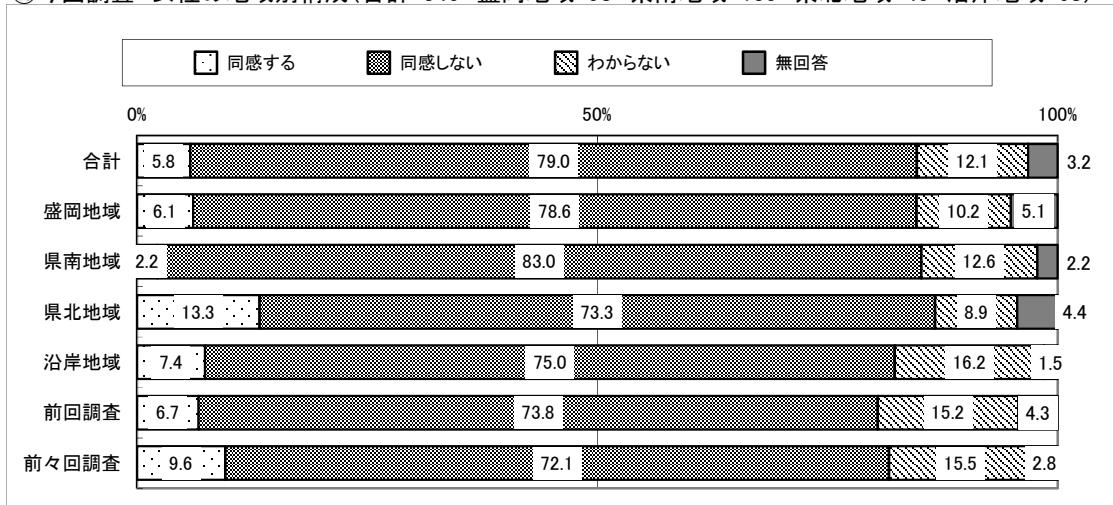


地域別・男女別にみると、男性で「同感する」と回答した割合が最も高いのは「沿岸地域」(17.0%)である。女性で「同感する」と回答した割合が最も高いのは、「県北地域」(13.3%)である。「同感する」と回答したもので、男女の差が最も大きいのは「県南地域」であり、男性(16.8%)と女性(2.2%)では、男性の方が14.6ポイント高い。

⑨今回調査 男性の地域別構成(合計=303 盛岡地域=104 県南地域=113 県北地域=39 沿岸地域=47)



⑩今回調査 女性の地域別構成(合計=346 盛岡地域=98 県南地域=135 県北地域=45 沿岸地域=68)



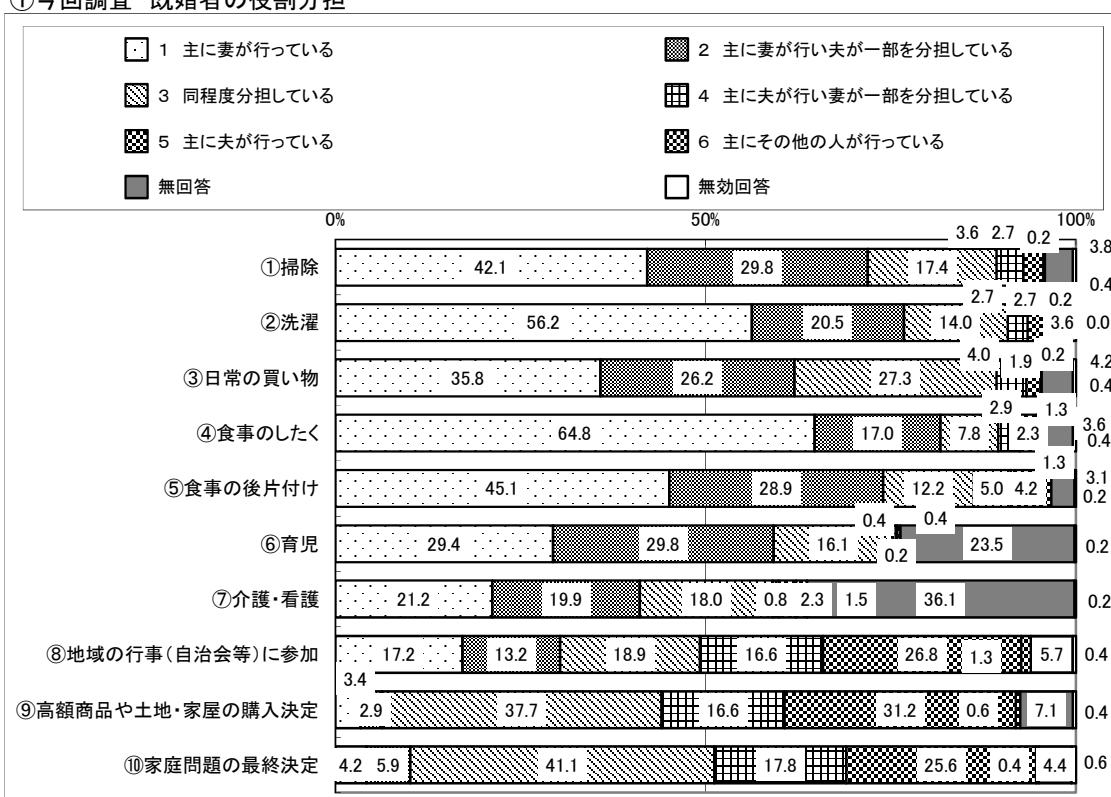
問7 現在結婚されている方にお伺いします。あなたの家庭では、次にあげるような家事などを、主に誰が分担していますか。次の①～⑩の項目ごとに1～6の中から1つずつ選んで○をつけてください。
(N=477 男性=232 女性=245 無回答=0)

令和3年度調査より従来の選択肢「その他」から「主にその他の人が行っている」に項目を変更した。

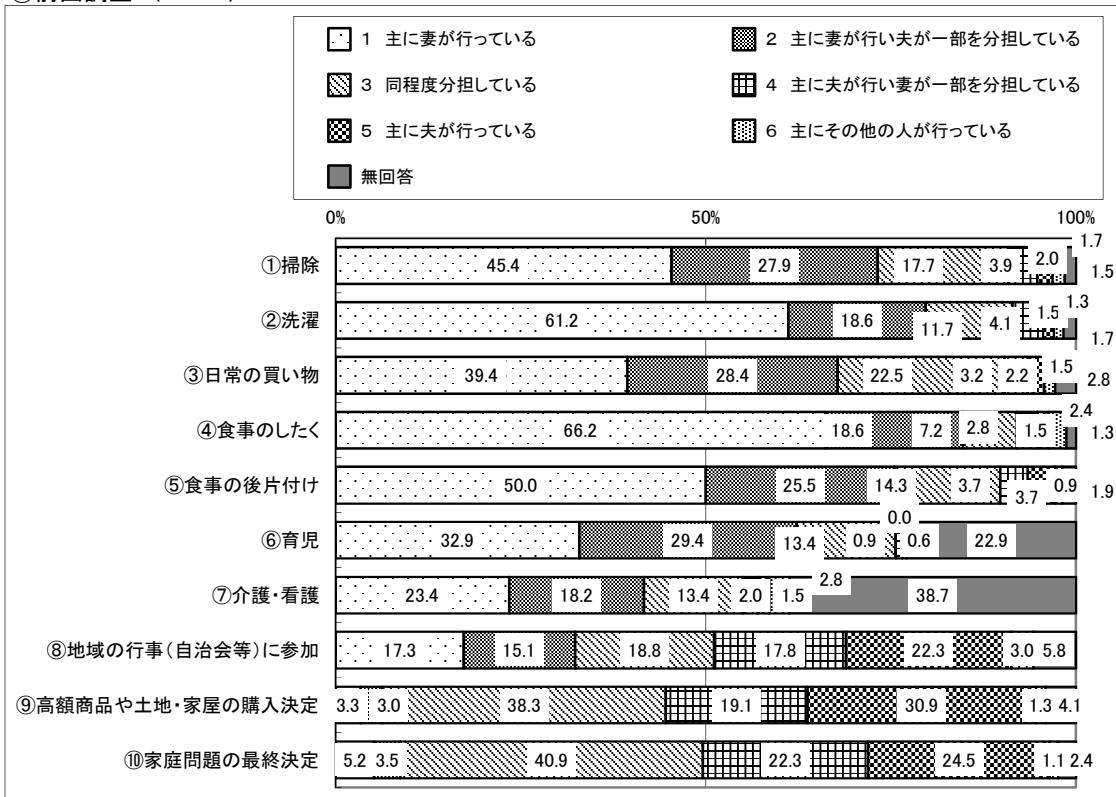
家事などを主に誰が分担しているかでは、「主に妻が行っている」と「主に妻が行い夫が一部を分担している」をあわせた『主に妻が行っている(夫が一部負担を含む)』と回答したものは「食事のしたく」(81.8%)、「洗濯」(76.7%)、「食後の後片付け」(74.0%)、「掃除」(71.9%)、「日常の買い物」(62.0%)、「育児」(59.2%)であり、過半数を越えて、いわゆる家事・育児については『主に妻が行っている』といえる。

「同等程度分担している」の割合が高い「家庭問題の最終決定」(41.1%)は、前回調査(40.9%)より0.2ポイント増加、「高額商品や土地・家屋の購入決定」(37.7%)は前回調査(38.3%)より0.6ポイント減少している。

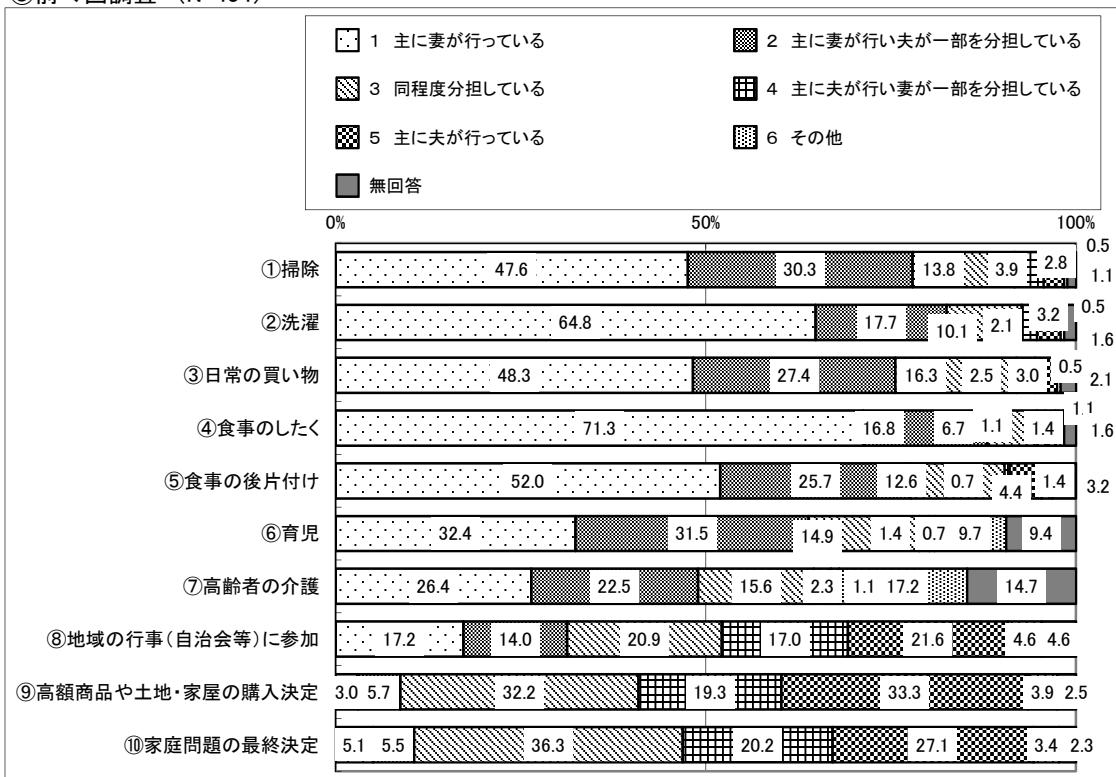
①今回調査 既婚者の役割分担



②前回調査 (N=538)



③前々回調査 (N=434)



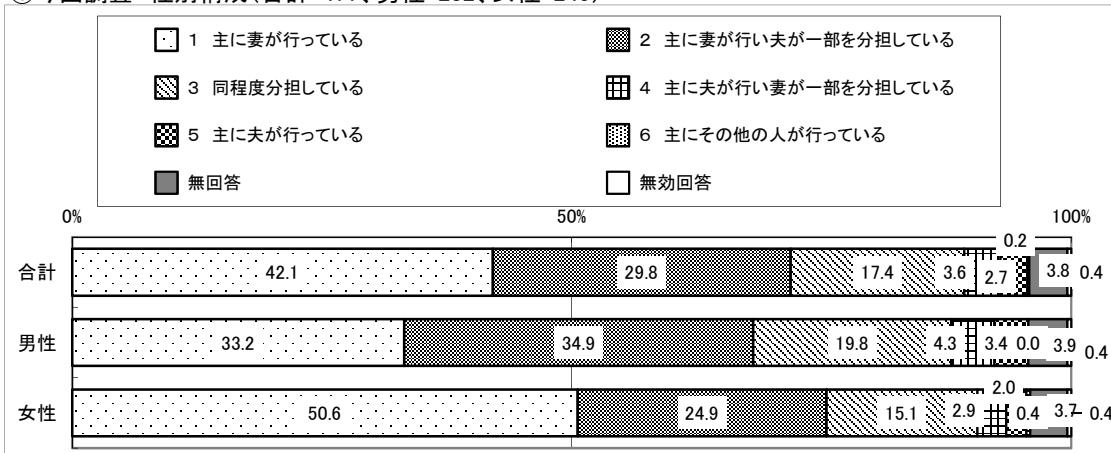
問7(1)掃除

掃除を主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは71.9%であり、前回調査（73.3%）より1.4ポイント減少している。

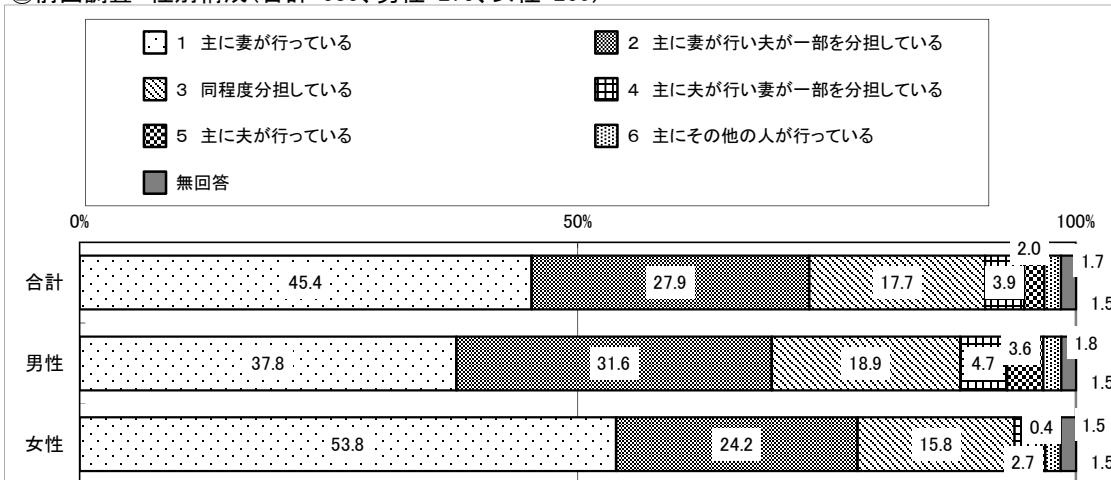
男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（68.1%）は前回調査（69.4%）より1.3ポイント減少し、女性（75.5%）は前回調査（78.0%）より2.5ポイント減少している。

また、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（68.1%）と女性（75.5%）では、女性の方が7.4ポイント高い。

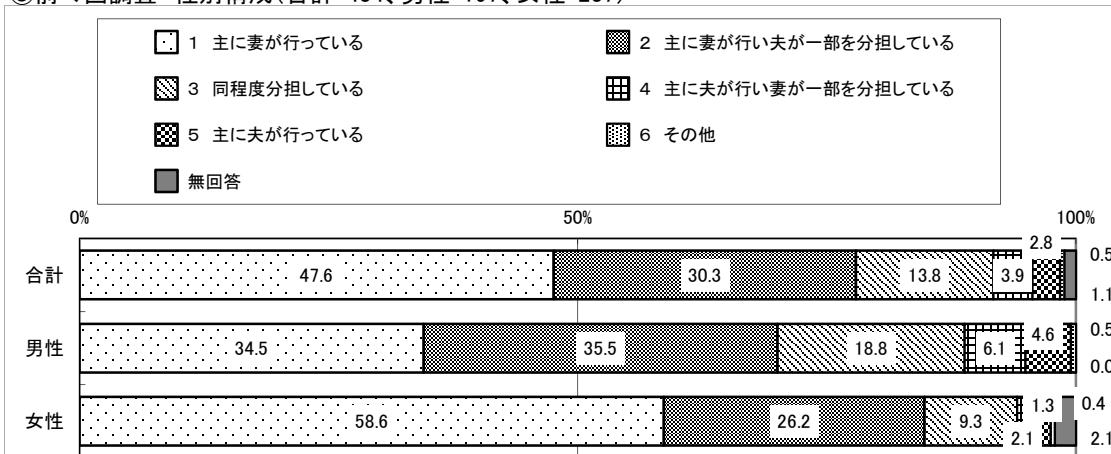
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)



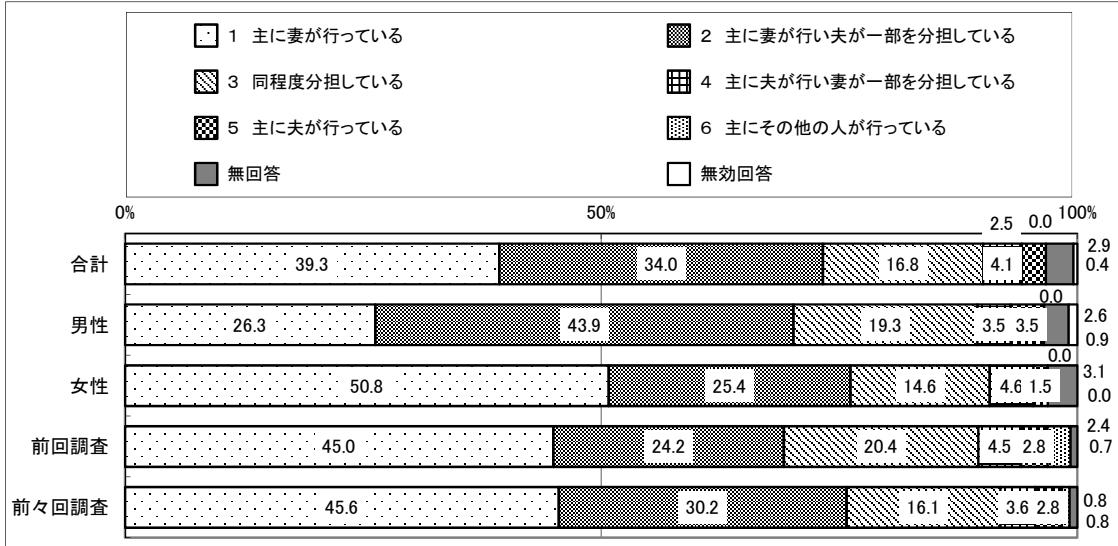
③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、掃除を主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは73.3%であり、既婚回答者全体（71.9%）より1.4ポイント多い。

前回調査（69.2%）と比較すると4.1ポイント増加している。

④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



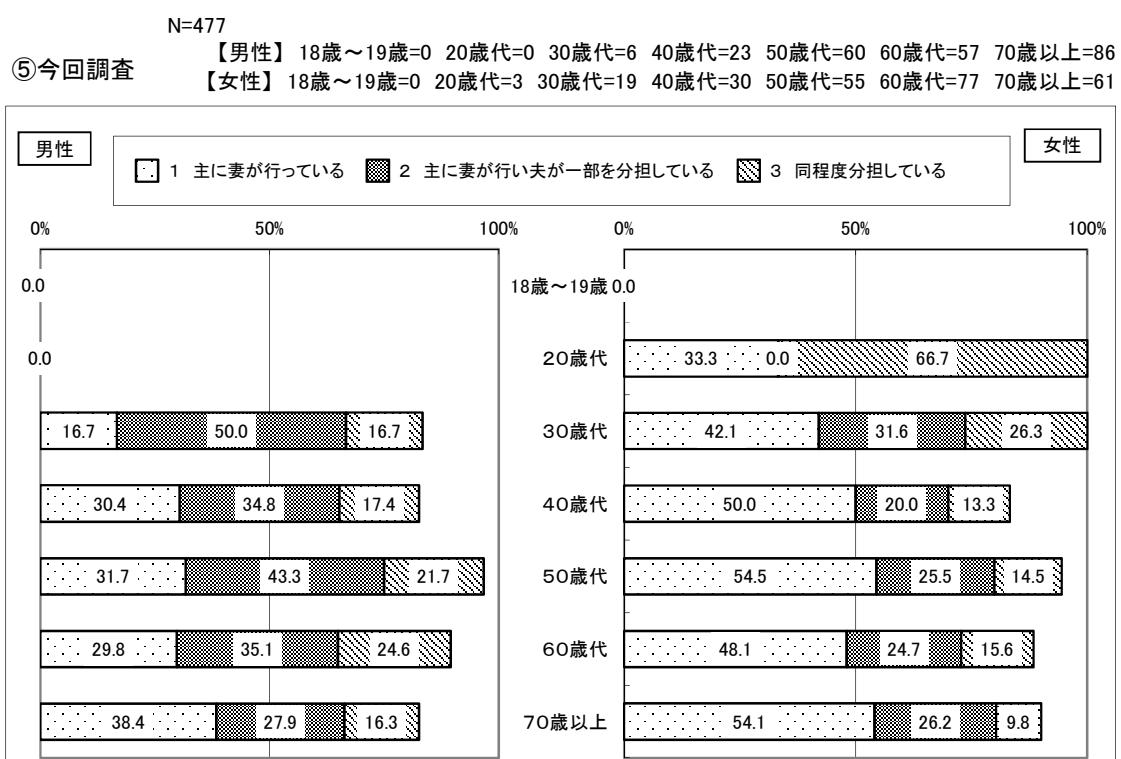
※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、

④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

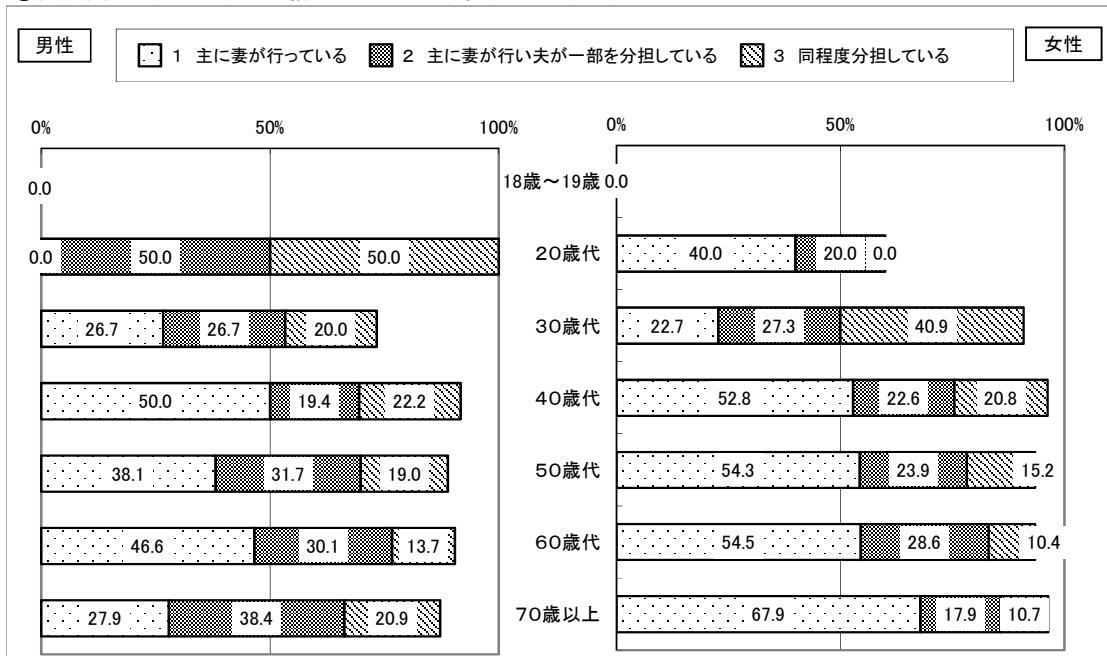
既婚者全体を年代別・男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもののが最も高い年代は、男性では「50歳代」（75.0%）、女性では「70歳以上」（80.3%）である。

『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（33.3%）では女性の方が33.3ポイント高く、次いで「70歳以上」では、男性（66.3%）と女性（80.3%）では、女性の方が14.0ポイント高い。

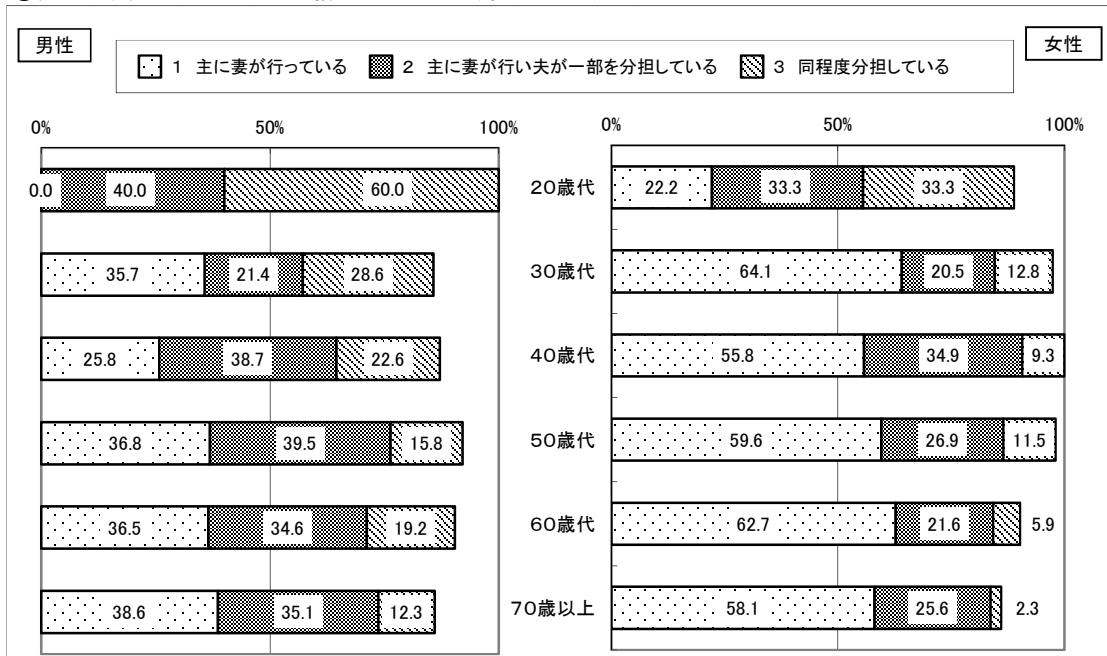
前回調査と比較すると、「女性・20歳代」（33.3%）は前回調査（60.0%）より26.7ポイントと大きく減少、また「女性・30歳代」（73.7%）は前回調査（50.0%）より23.7ポイントと大きく増加している。



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



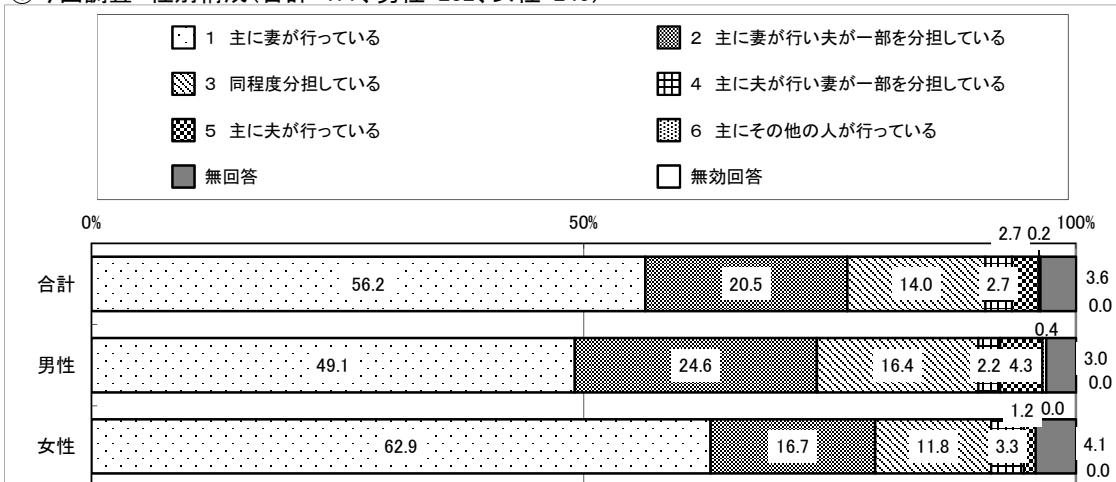
問7(2)洗濯

洗濯を主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは76.7%であり、前回調査（79.8%）より3.1ポイント減少している。

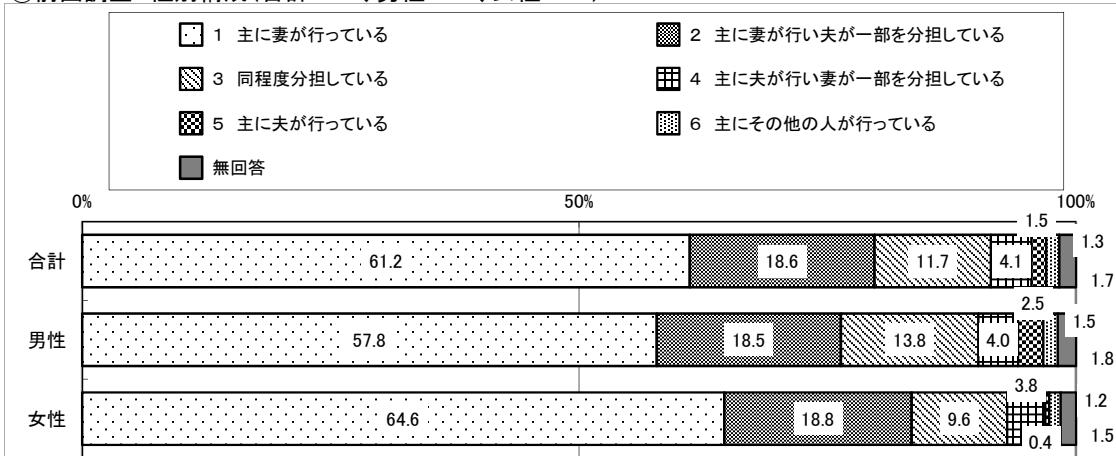
男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（73.7%）は前回調査（76.3%）より2.6ポイント、女性（79.6%）は前回調査（83.4%）より3.8ポイントそれぞれ減少している。

『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（73.7%）と女性（79.6%）では、女性の方が5.9ポイント高い。

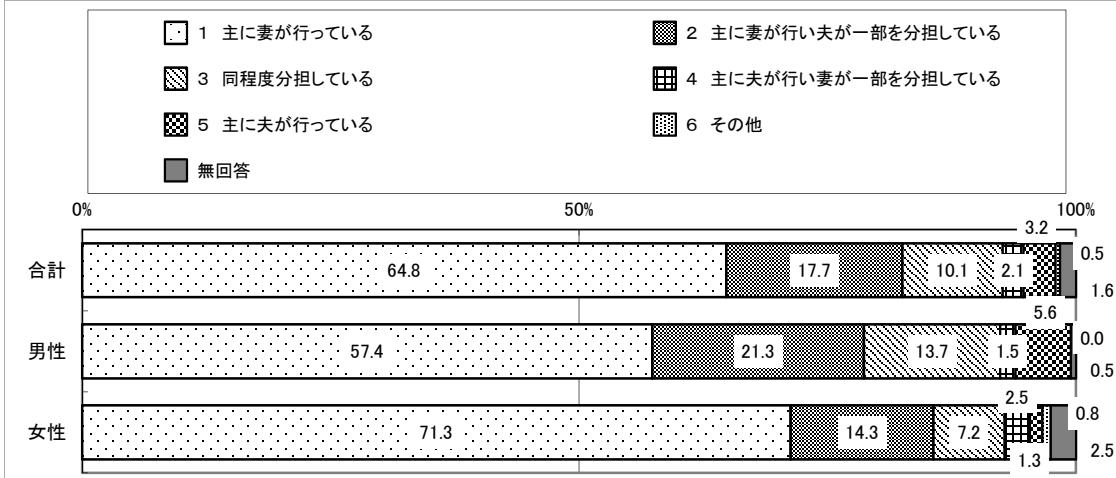
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)

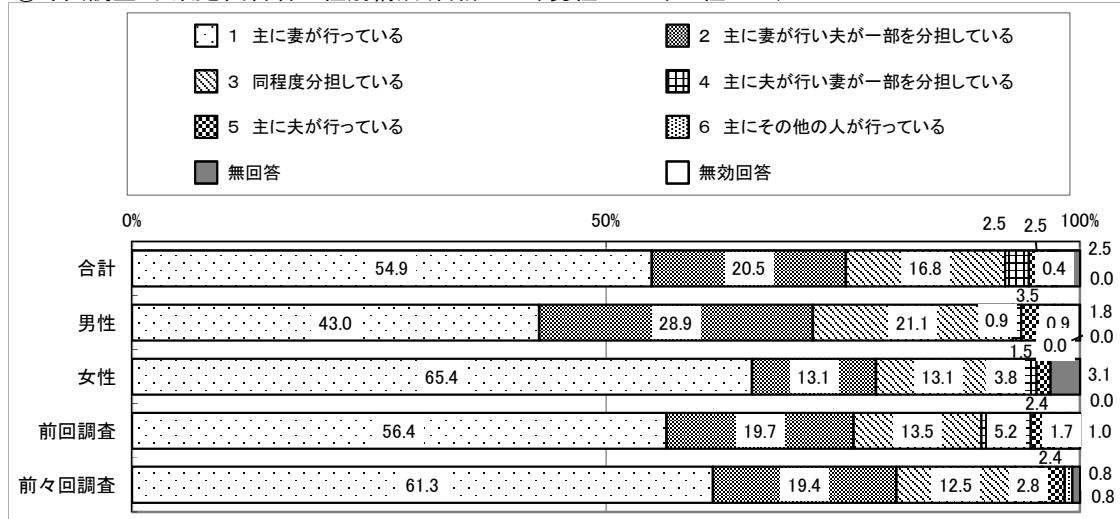


③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、洗濯を主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは75.4%であり、既婚回答者全体（76.7%）より1.3ポイント少ない。

④今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244、男性=114、女性=130)

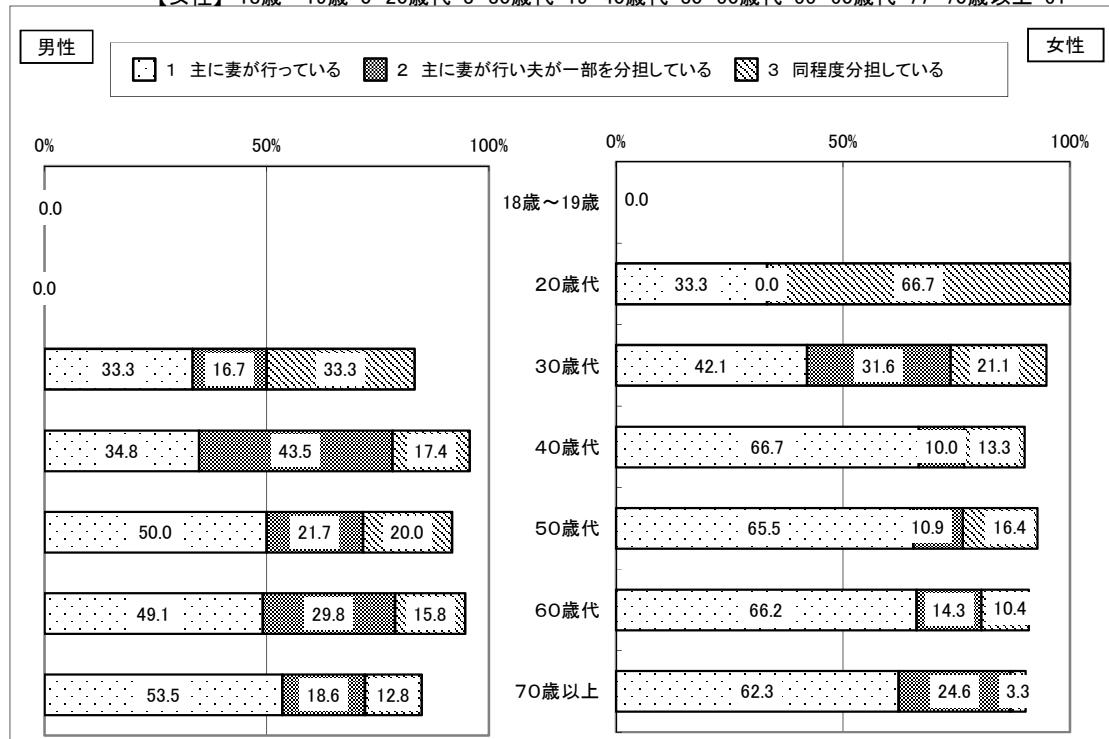


※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

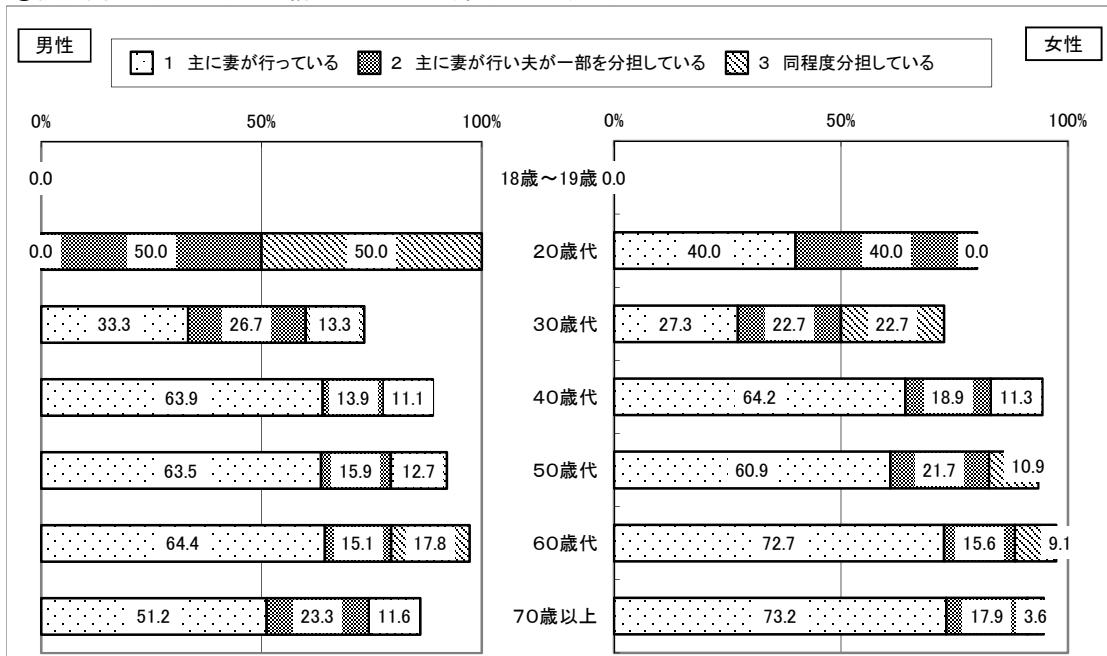
既婚者全体を年代別・男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもののが最も高い年代は、男性では「60歳代」（78.9%）、女性では「70歳以上」（86.9%）で、この傾向は前回調査でも同様である。

『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（33.3%）では33.3ポイント女性の方が高く、次いで「30歳代」で男性（50.0%）と女性（73.7%）では23.7ポイント女性の方が高い。

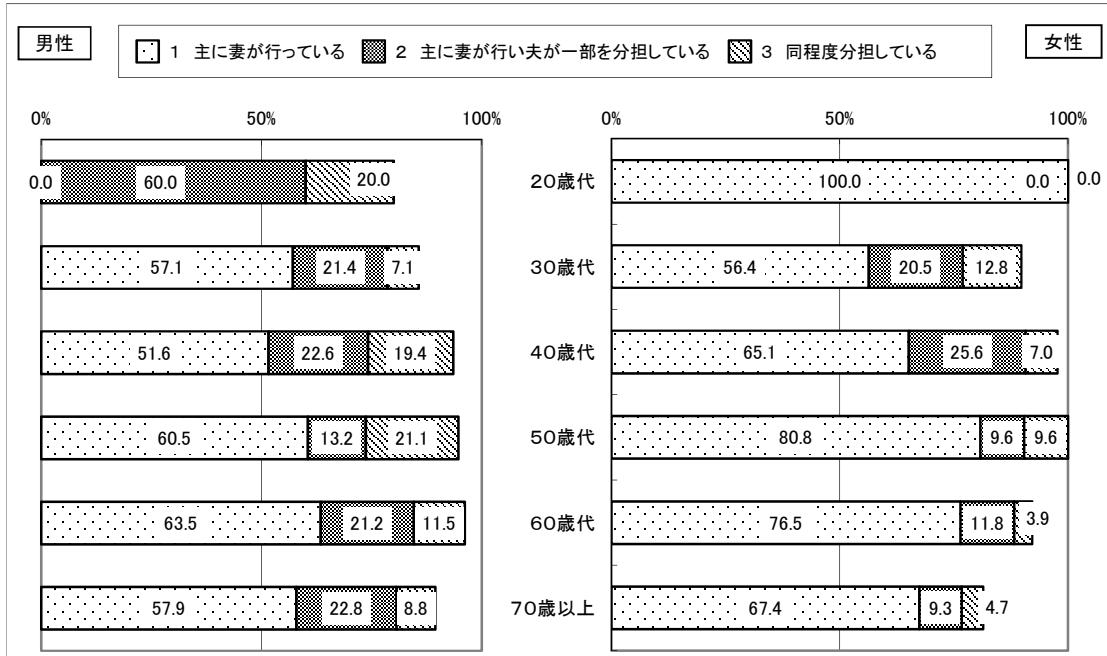
N=477
⑤今回調査 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=0 30歳代=6 40歳代=23 50歳代=60 60歳代=57 70歳以上=86
【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=3 30歳代=19 40歳代=30 50歳代=55 60歳代=77 70歳以上=61



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



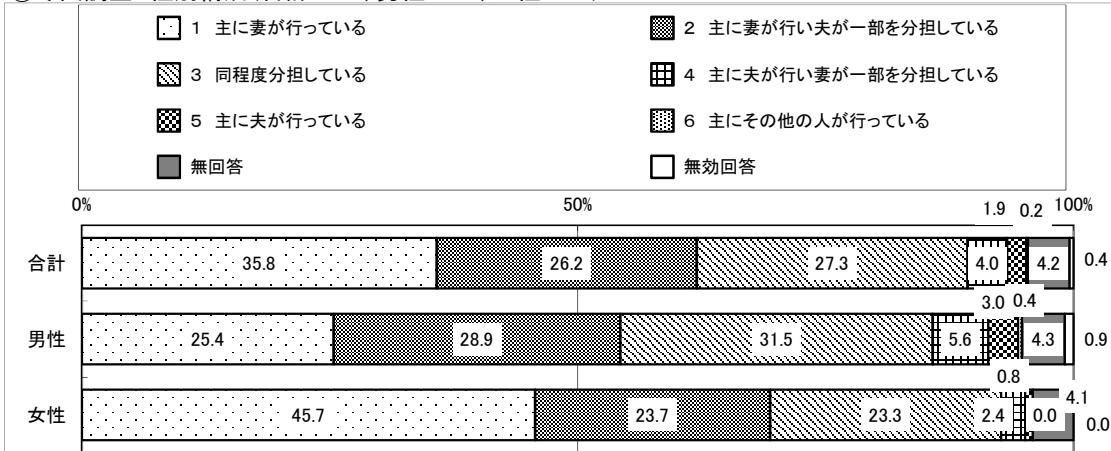
⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



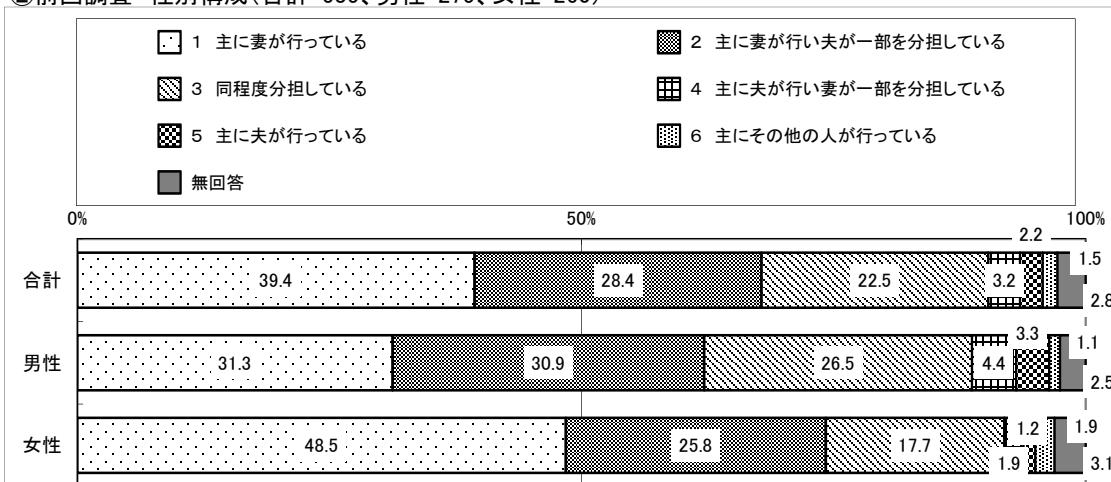
問7(3)日常の買い物

日常の買い物を主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは62.0%であり、前回調査（67.8%）より5.8ポイント減少している。男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（54.3%）は前回調査（62.2%）より7.9ポイント減少し、女性（69.4%）は前回調査（74.3%）より4.9ポイント減少している。『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（54.3%）と女性（69.4%）では、女性の方が15.1ポイント高い。

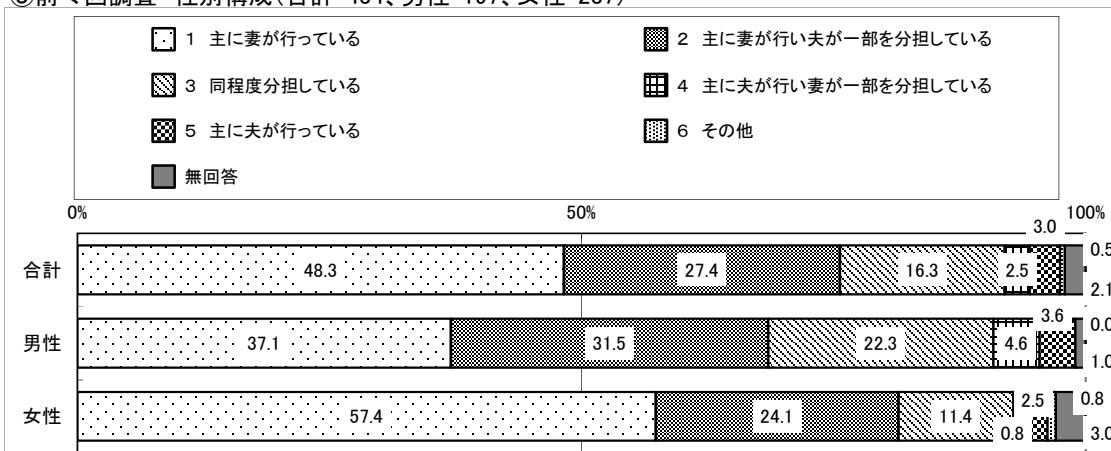
①今回調査 性別構成（合計=477、男性=232、女性=245）



②前回調査 性別構成（合計=535、男性=275、女性=260）

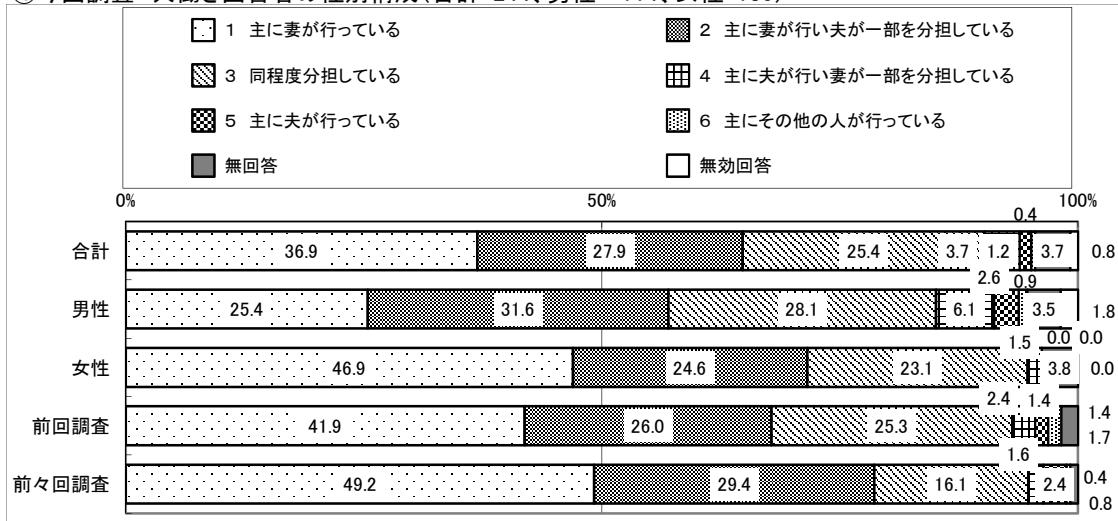


③前々回調査 性別構成（合計=434、男性=197、女性=237）



共働きの回答者に着目すると、日常の買い物を主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは64.8%であり、既婚回答者全体（62.0%）より2.8ポイント高い。

④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「40歳代」で、男性（69.6%）、女性（80.0%）である。

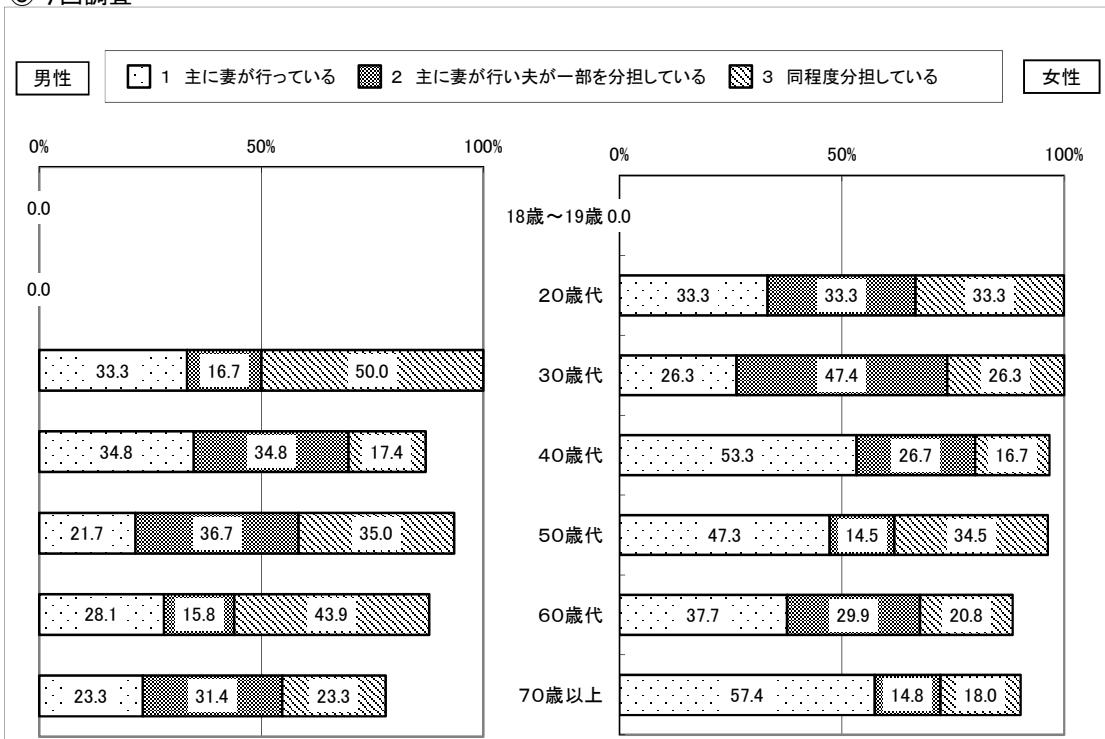
『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（66.6%）では66.6ポイント女性が高く、次い同率で「30歳代」、「60歳代」で男性（30歳代：50.0%、60歳代：43.9%）と女性（30歳代：73.7%、60歳代：67.6%）ではそれぞれ23.7ポイント女性のほうが高い。

N=477

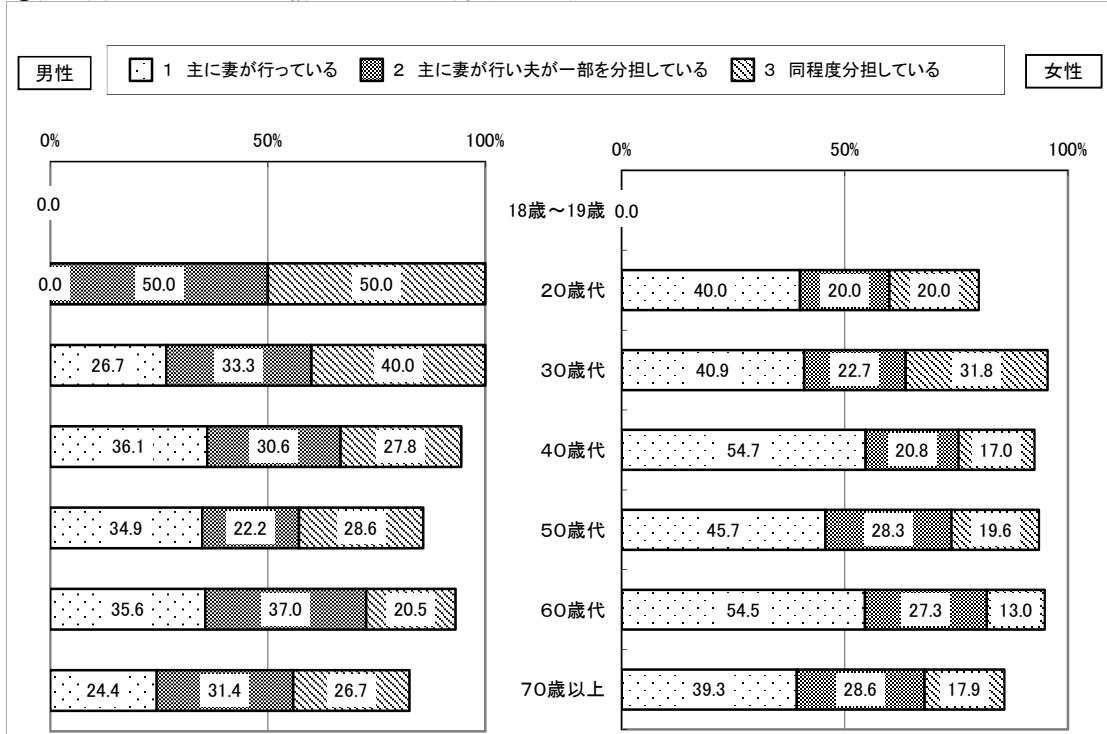
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=0 30歳代=6 40歳代=23 50歳代=60 60歳代=57 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=3 30歳代=19 40歳代=30 50歳代=55 60歳代=77 70歳以上=61

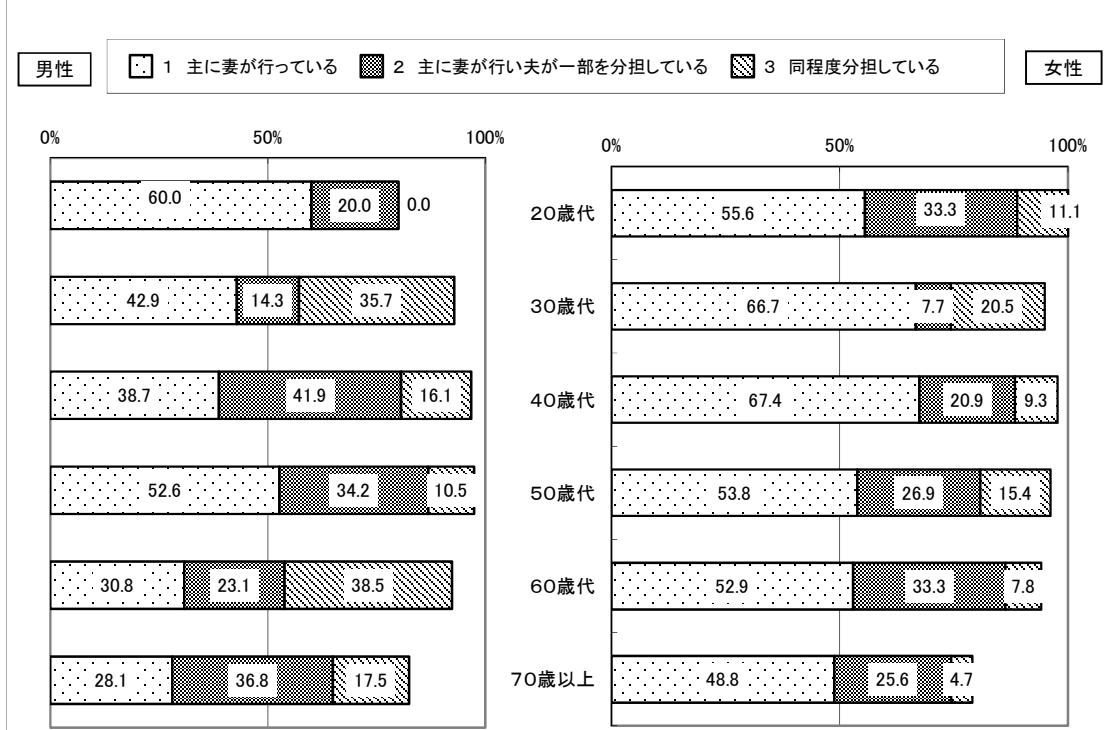
⑤今回調査



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



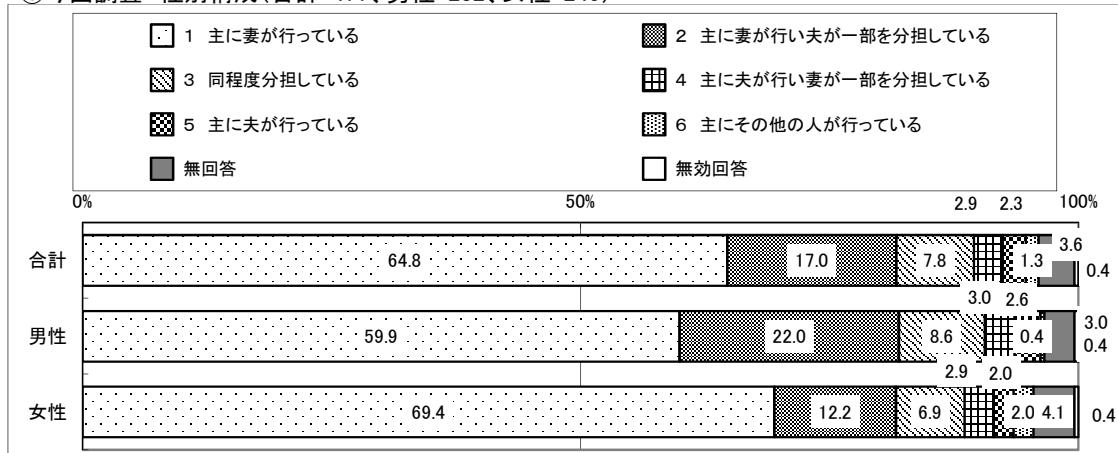
⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



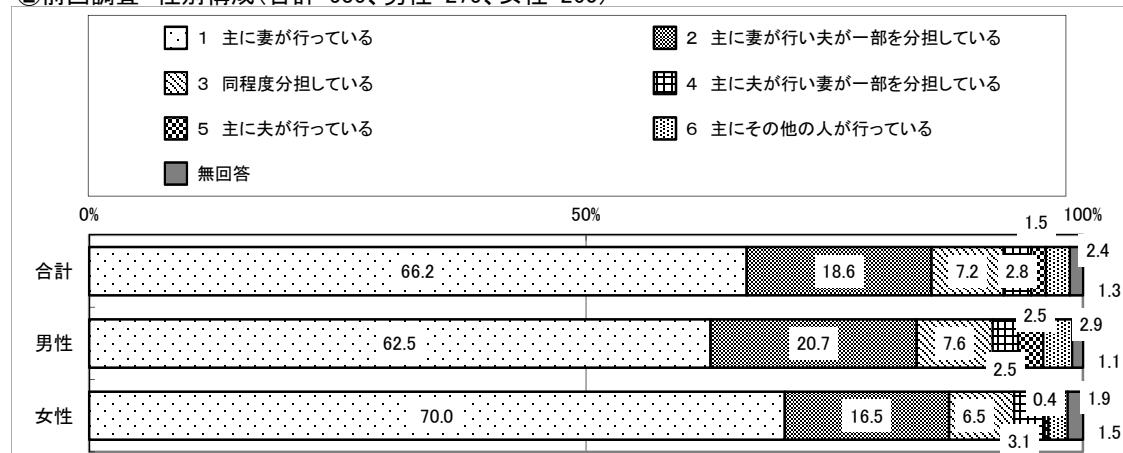
問7(4)食事のしたく

食事のしたくを主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは81.8%であり、前回調査（84.8%）より3.0ポイント減少している。男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（81.9%）は前回調査（83.2%）より1.3ポイント減少し、女性（81.6%）は前回調査（86.5%）より4.9ポイント減少している。男性（81.9%）と女性（81.6%）では、男性の方が0.3ポイント高い。

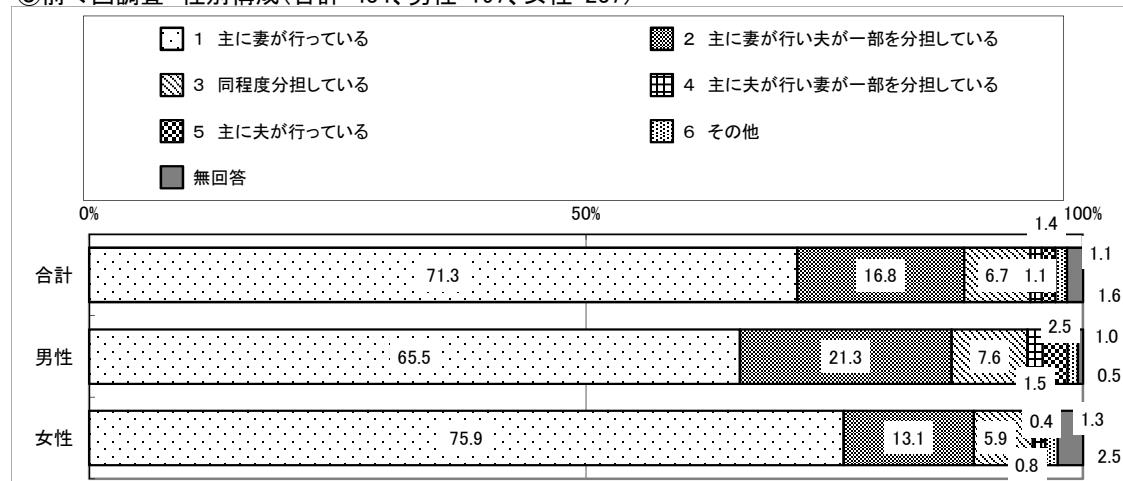
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)

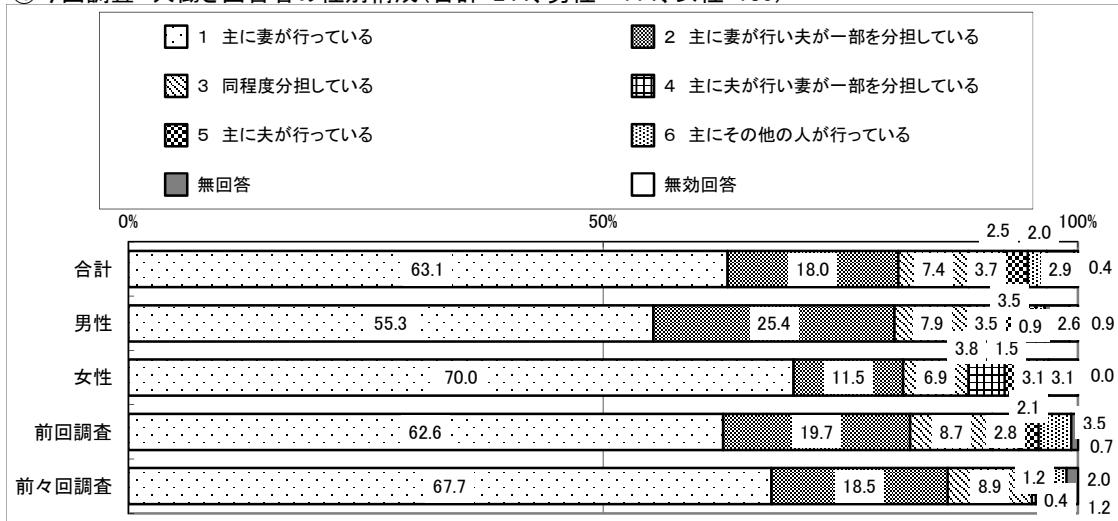


③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、食事のしたくを主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは81.1%であり、既婚回答者全体（81.8%）より0.7ポイント低い。前回調査（82.3%）と比較すると1.2ポイント減少している。

④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

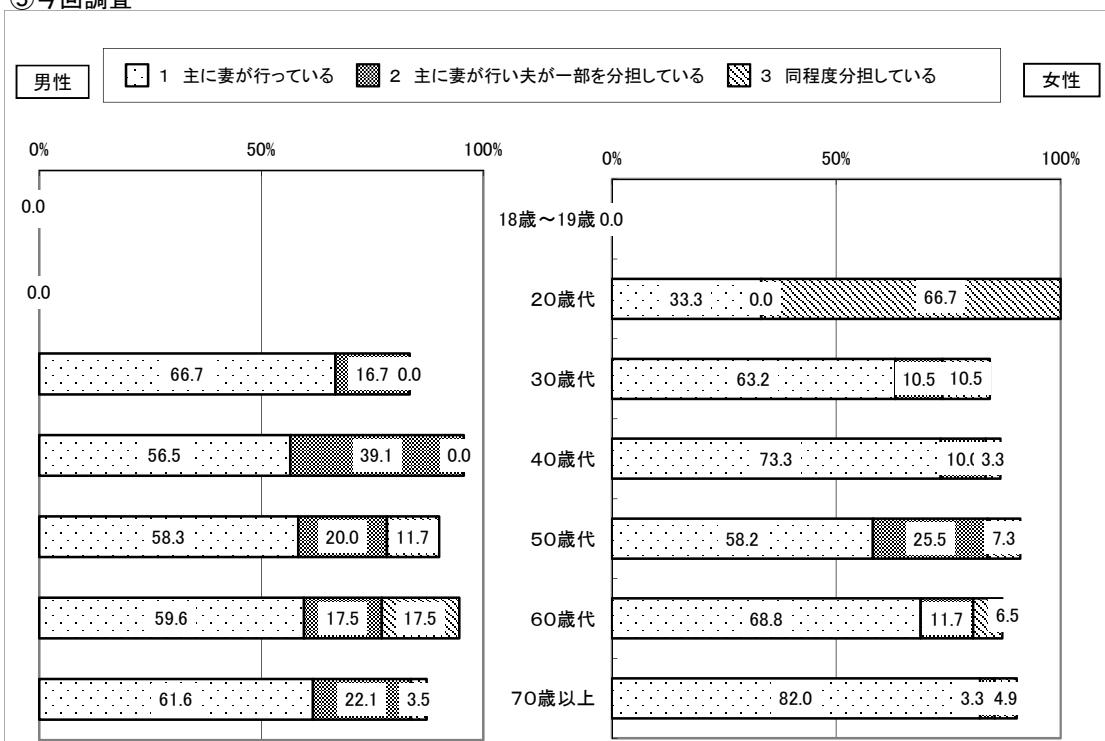
既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「40歳代」（95.6%）、女性では「70歳以上」（85.3%）である。

『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（33.3%）では33.3ポイント女性が高く、次いで「40歳代」で男性（95.6%）と女性（83.3%）では12.3ポイント男性のほうが高い。

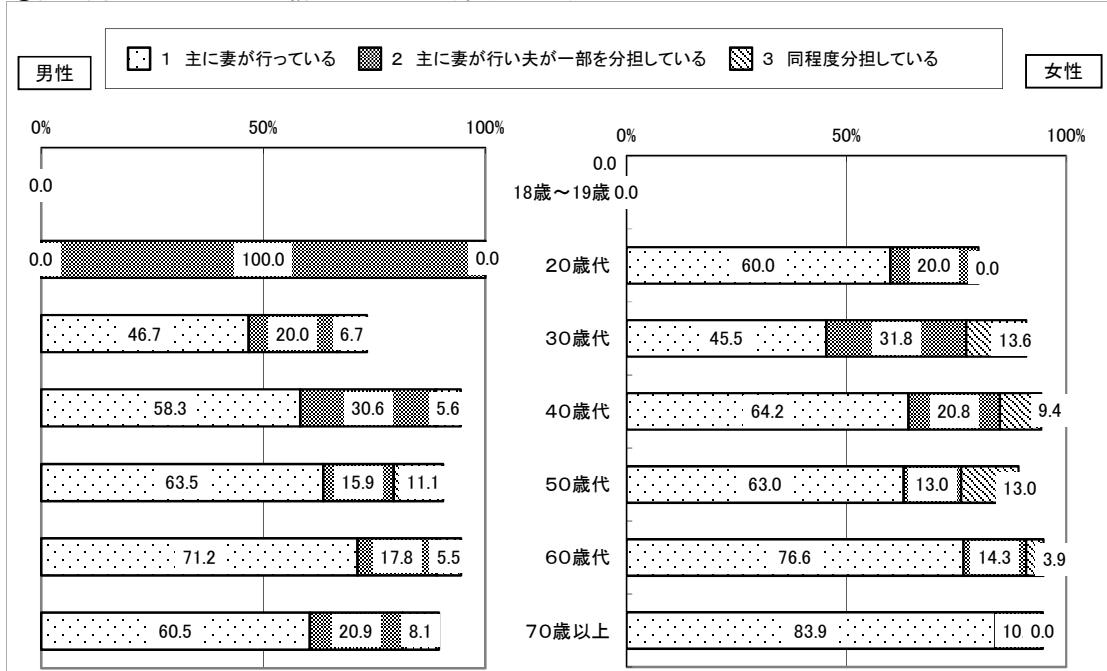
N=477

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=0 30歳代=6 40歳代=23 50歳代=60 60歳代=57 70歳以上=86

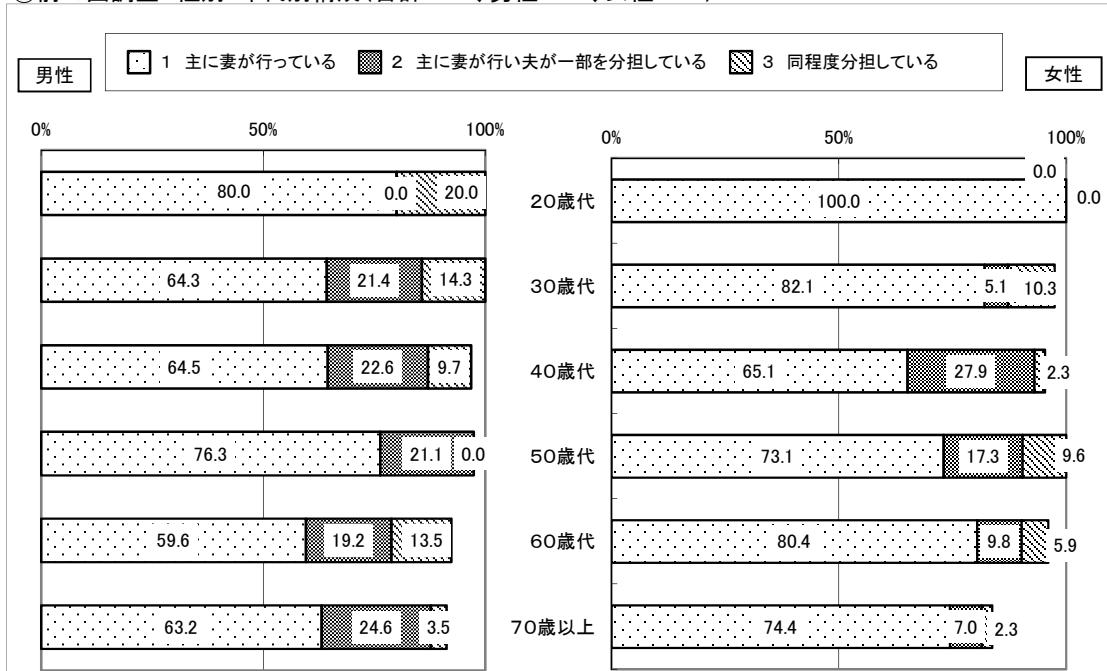
⑤今回調査 【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=3 30歳代=19 40歳代=30 50歳代=55 60歳代=77 70歳以上=61



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



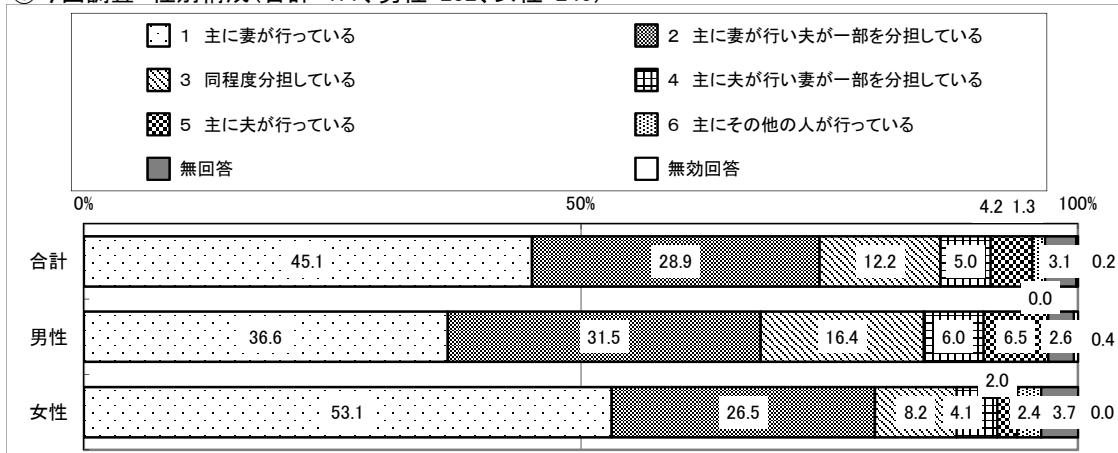
⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



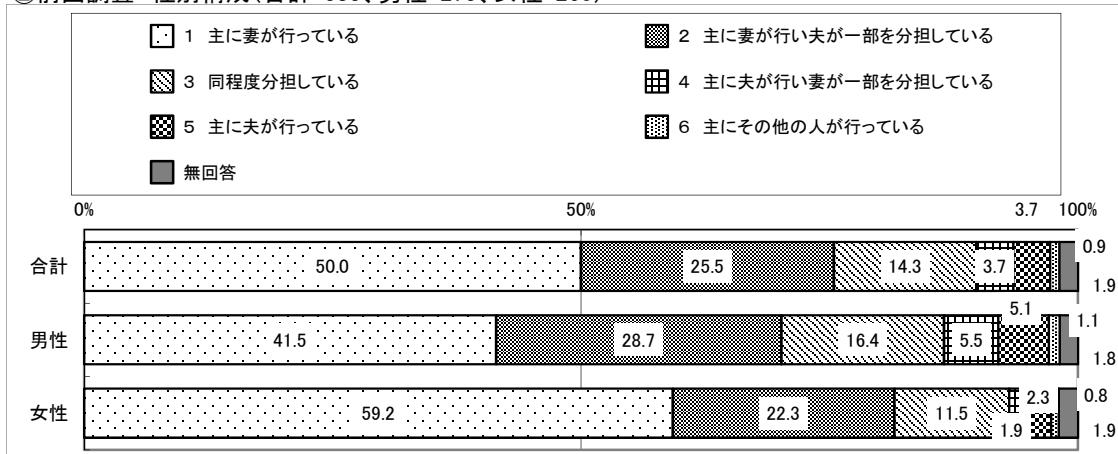
問7(5)食事の後片付け

食事の後片付けを主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは74.0%であり、前回調査（75.5%）より1.5ポイント減少している。男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（68.1%）は前回調査（70.2%）より2.1ポイント減少し、女性（79.6%）は前回調査（81.5%）より1.9ポイント減少している。男性（68.1%）と女性（79.6%）では、女性の方が11.5ポイント高い。

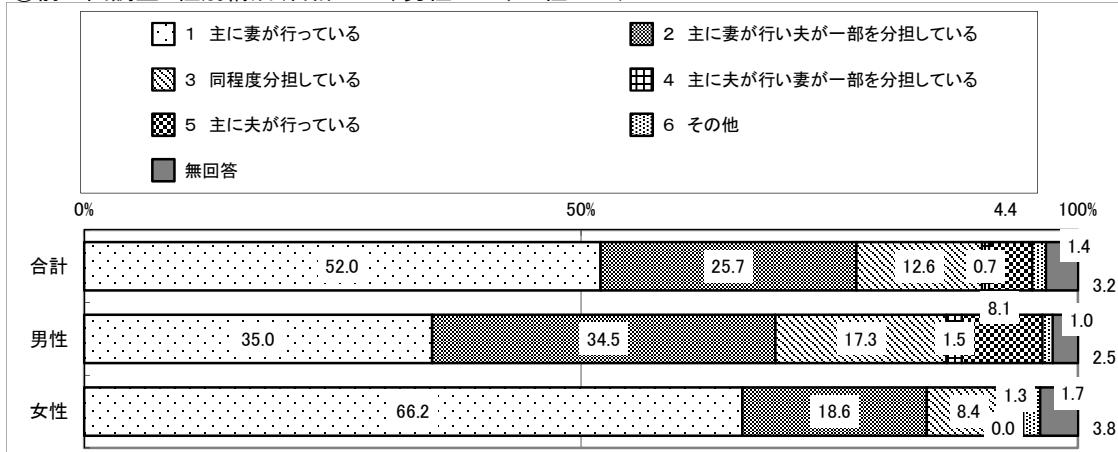
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)



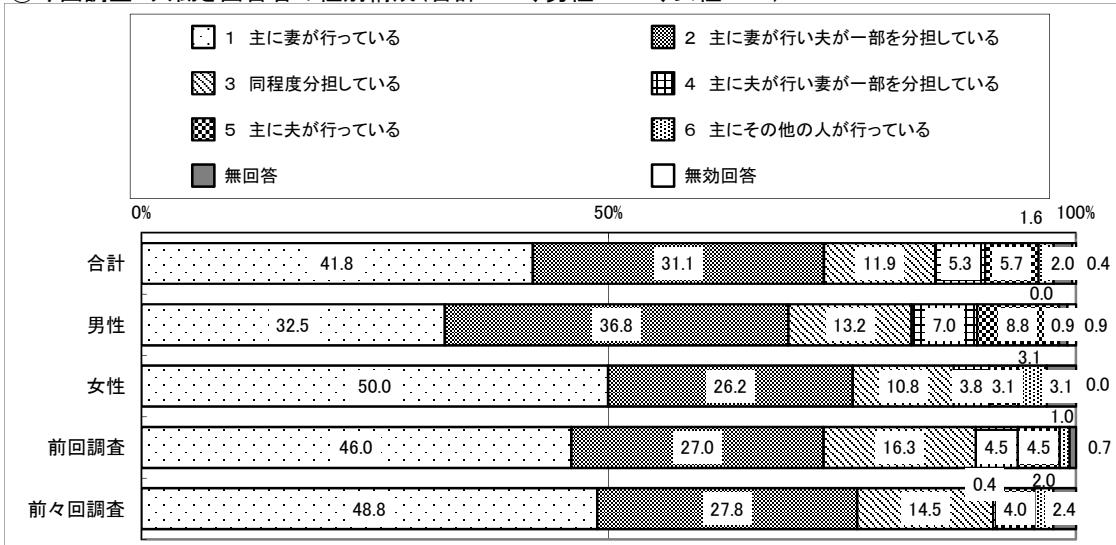
③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、食事の後片付けを主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは72.9%であり、既婚回答者全体（74.0%）より1.1ポイント低い。

前回調査（73.0%）と比較すると0.1ポイント減少している。

④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、
④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

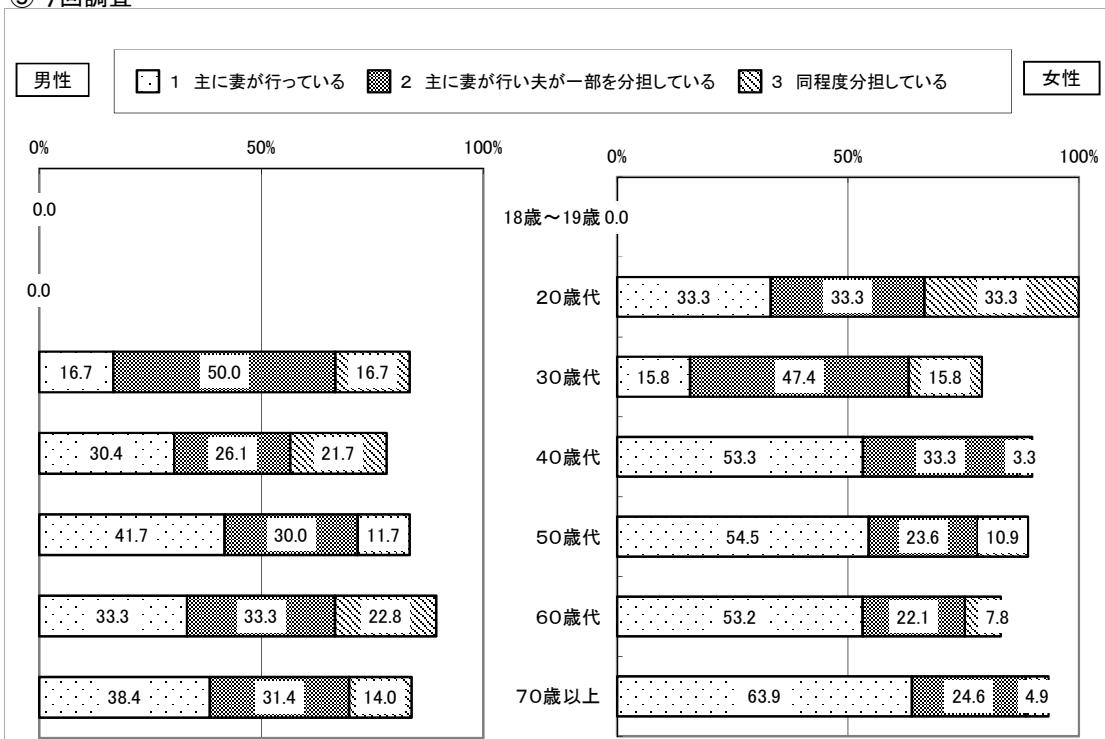
既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「50歳代」（71.7%）、女性では「70歳以上」（88.5%）である。

『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（66.6%）では66.6ポイント女性が高く、次いで「40歳代」で男性（56.5%）と女性（86.6%）では30.1ポイント女性のほうが高い。

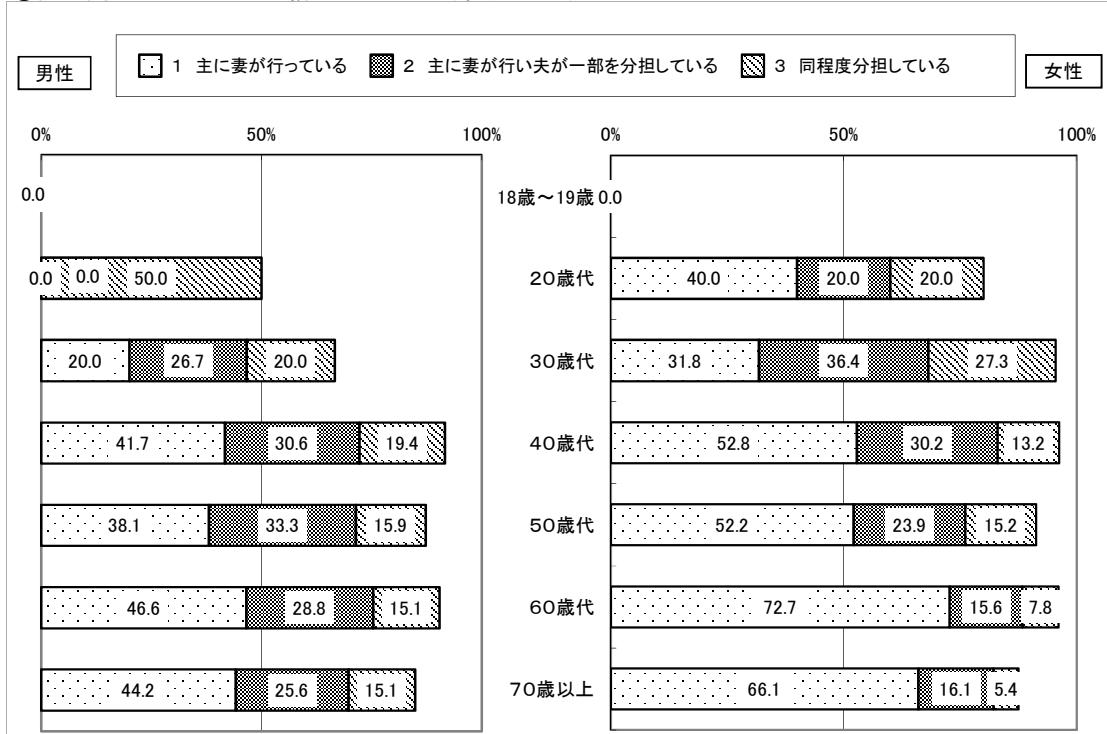
N=477

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=0 30歳代=6 40歳代=23 50歳代=60 60歳代=57 70歳以上=86

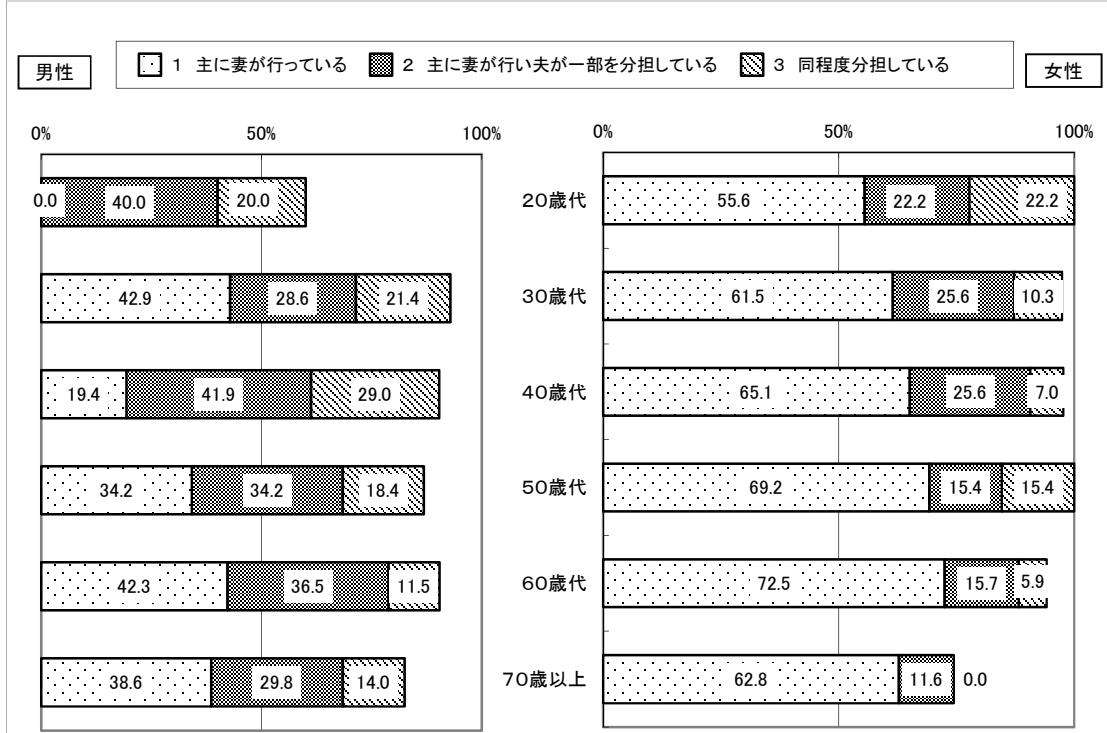
⑤今回調査 【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=3 30歳代=19 40歳代=30 50歳代=55 60歳代=77 70歳以上=61



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)

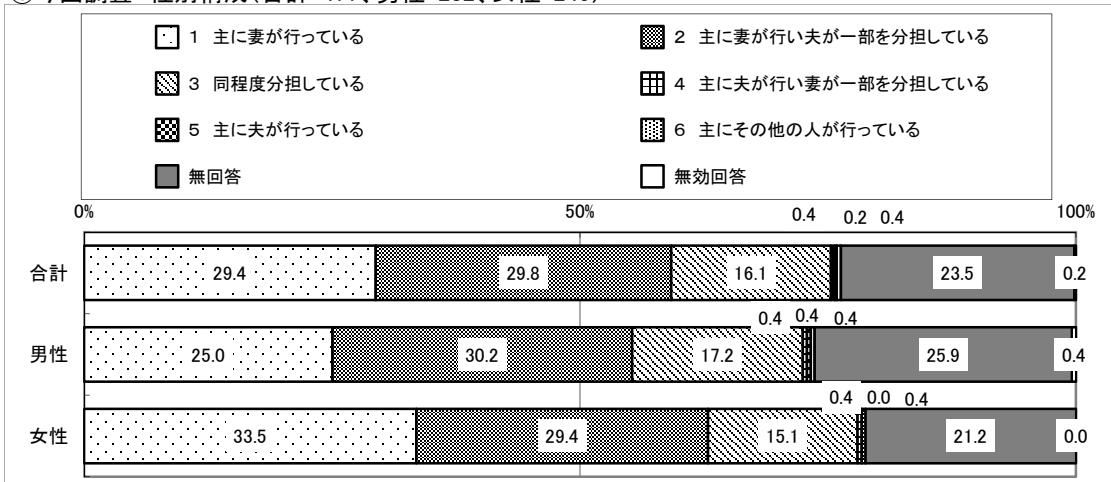


問7(6)育児

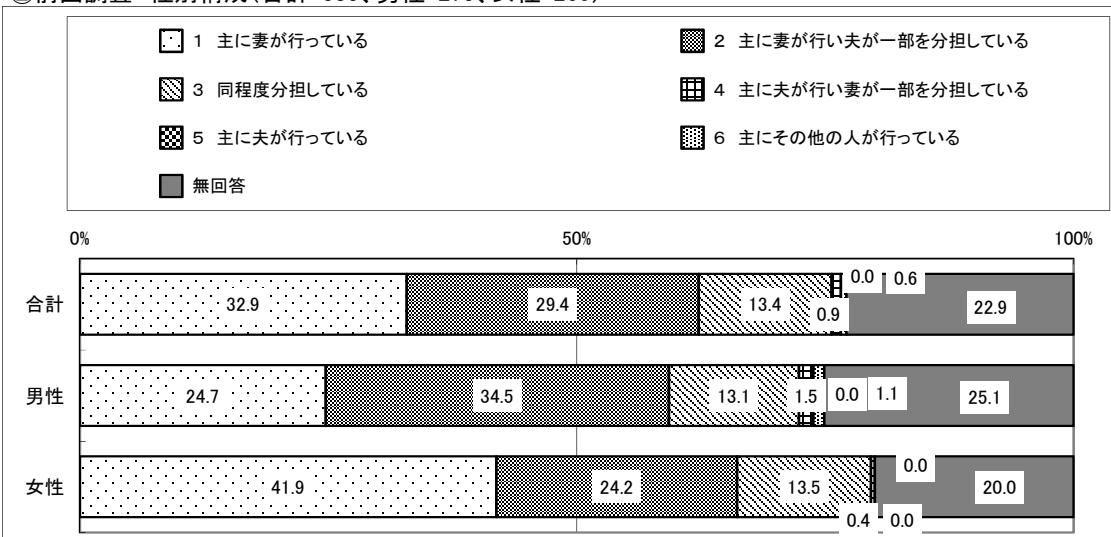
育児を主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは59.2%であり、前回調査（62.3%）より3.1ポイント減少している。

男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（55.2%）は、前回調査（59.2%）より4.0ポイント減少し、女性（62.9%）は前回調査（66.1%）より3.2ポイント減少している。男性（55.2%）と女性（62.9%）では、女性の方が7.7ポイント高い。

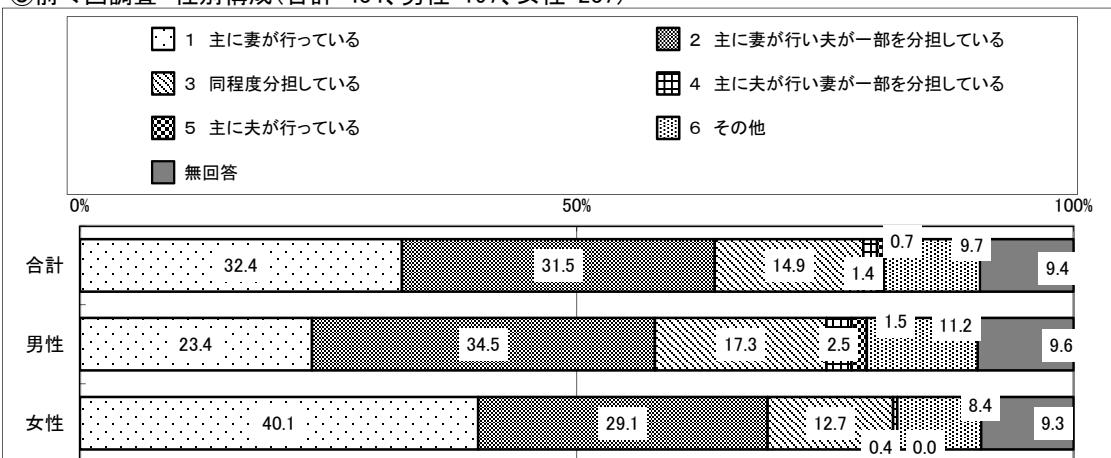
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)

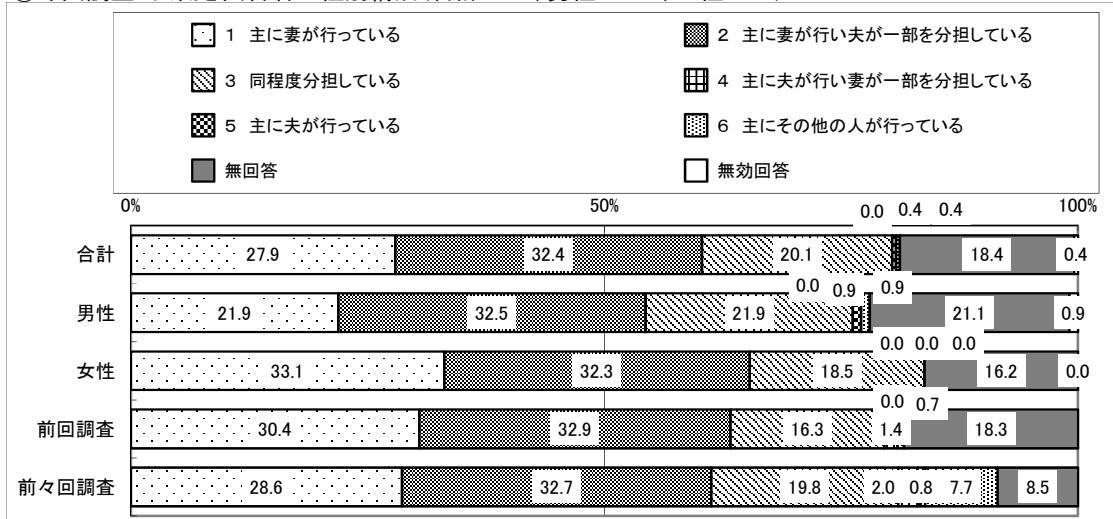


③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、育児を主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは60.3%であり、既婚回答者全体（59.2%）より1.1ポイント高い。

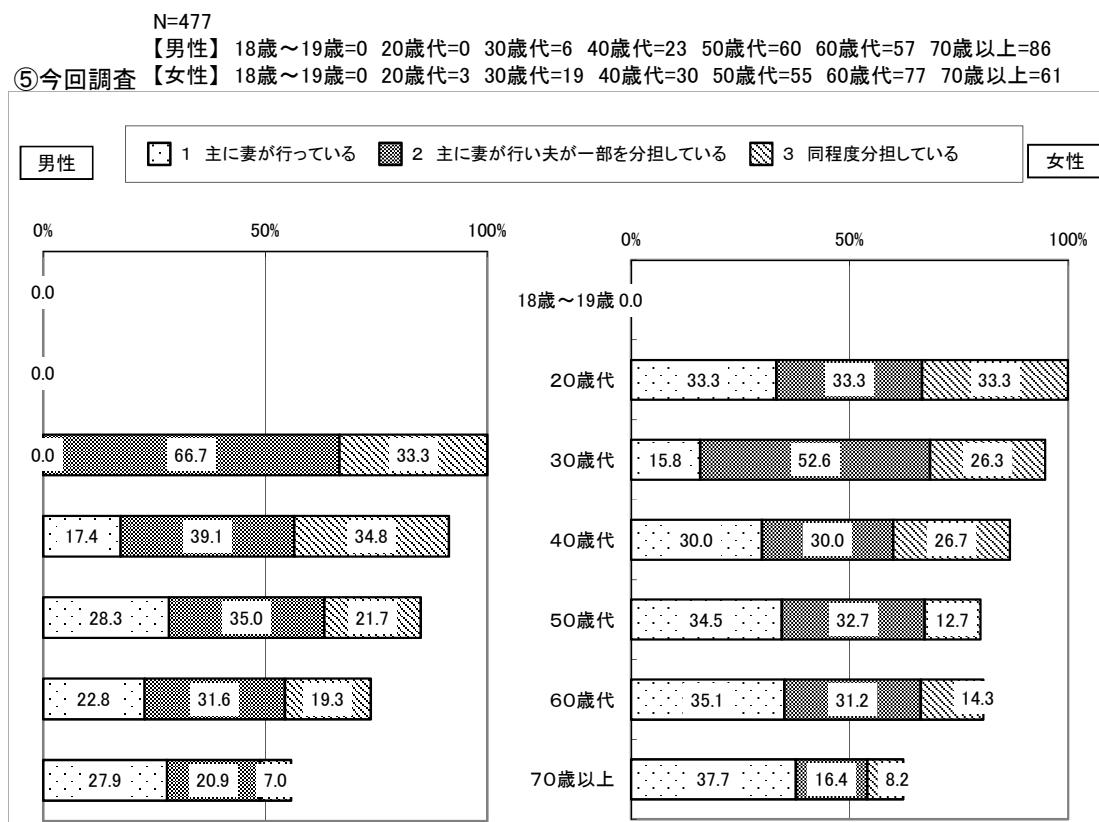
④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



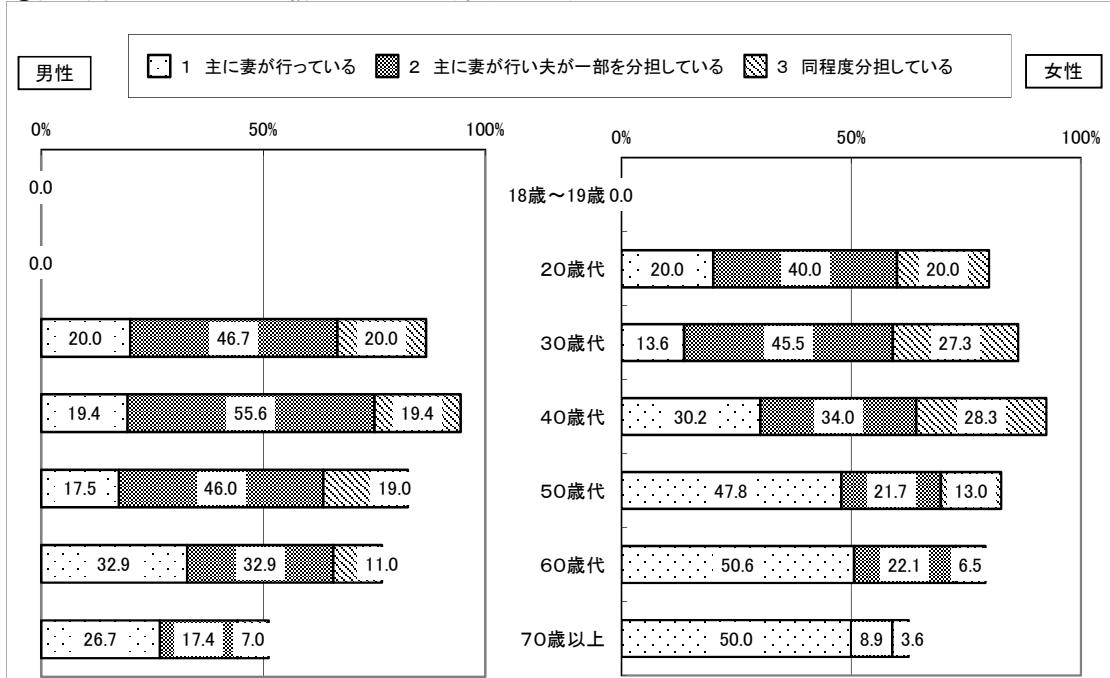
※「共働き」とは、「Ⅲ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、
④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「30歳代」で、男性で66.7%、女性で68.4%である。

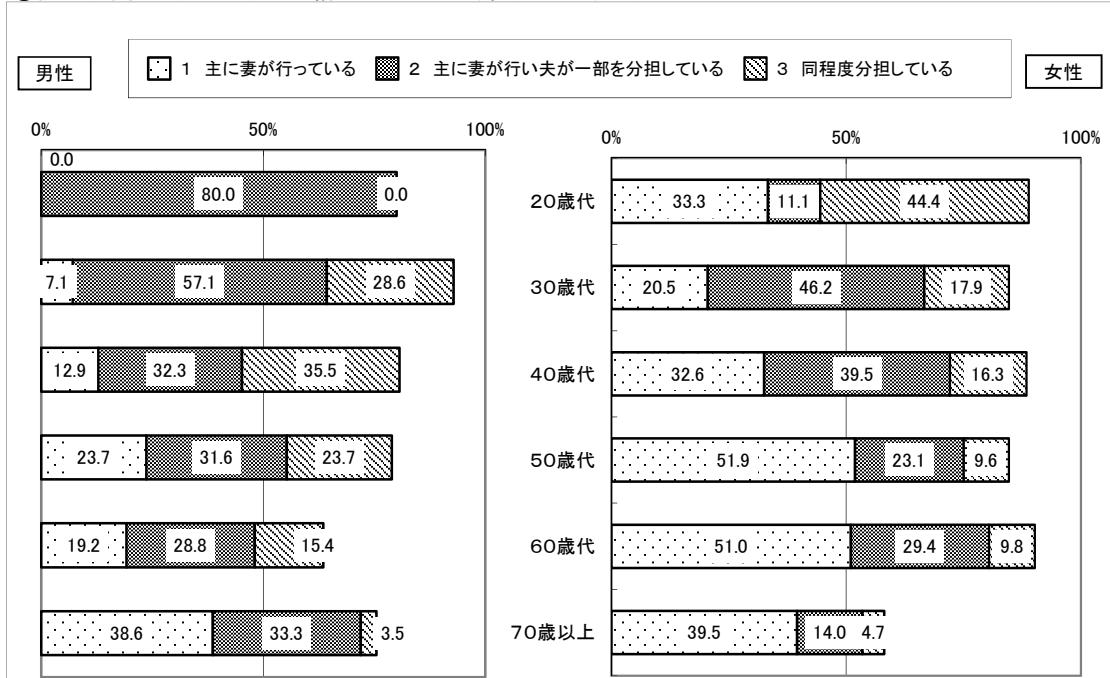
『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（66.6%）では女性の方が66.6ポイント高く、次いで「60歳代」では男性（54.4%）と女性（66.3%）では女性の方が11.9ポイント高い。



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



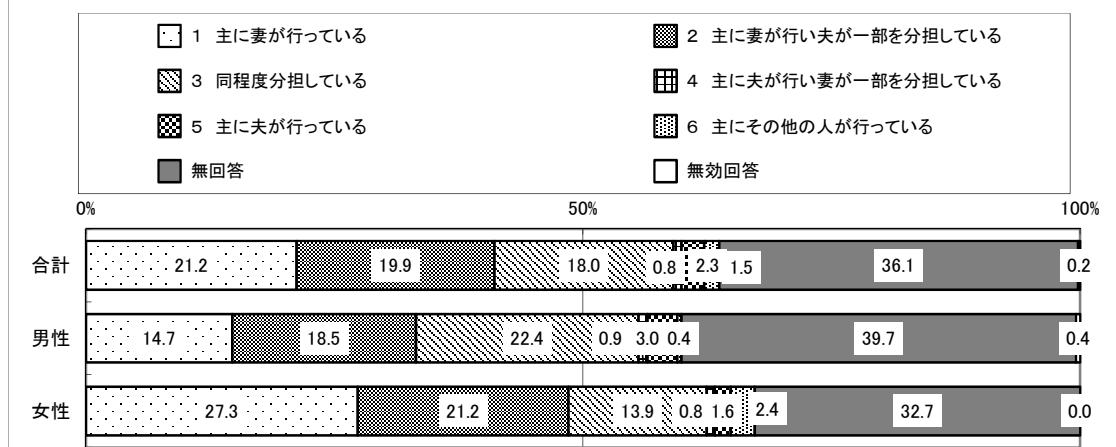
⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



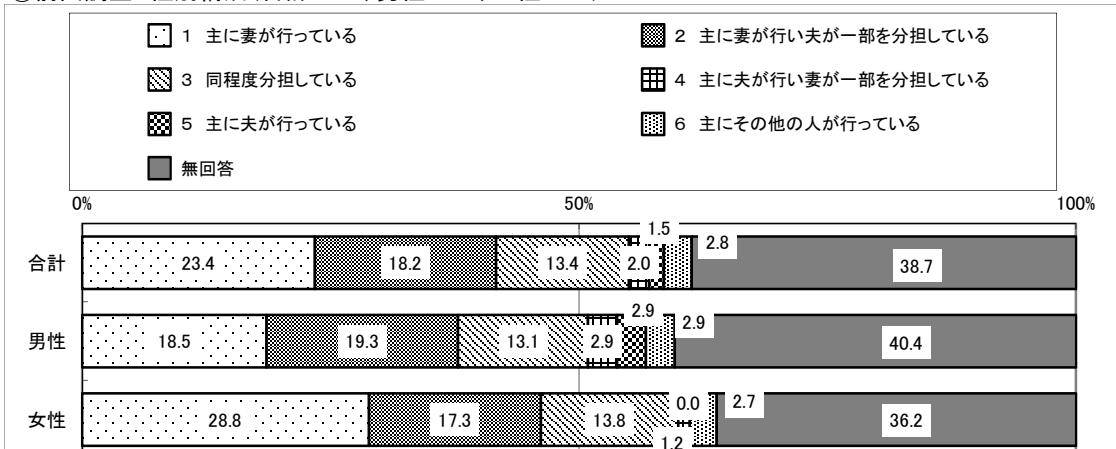
問7(7)介護・看護

介護・看護を主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは41.1%であり、前回調査（41.6%）より0.5ポイント減少している。男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（33.2%）は前回調査（37.8%）より4.6ポイント減少し、女性（48.5%）は前回調査（46.1%）より2.4ポイント増加している。男性（33.2%）と女性（48.5%）では、女性の方が15.3ポイント高い。

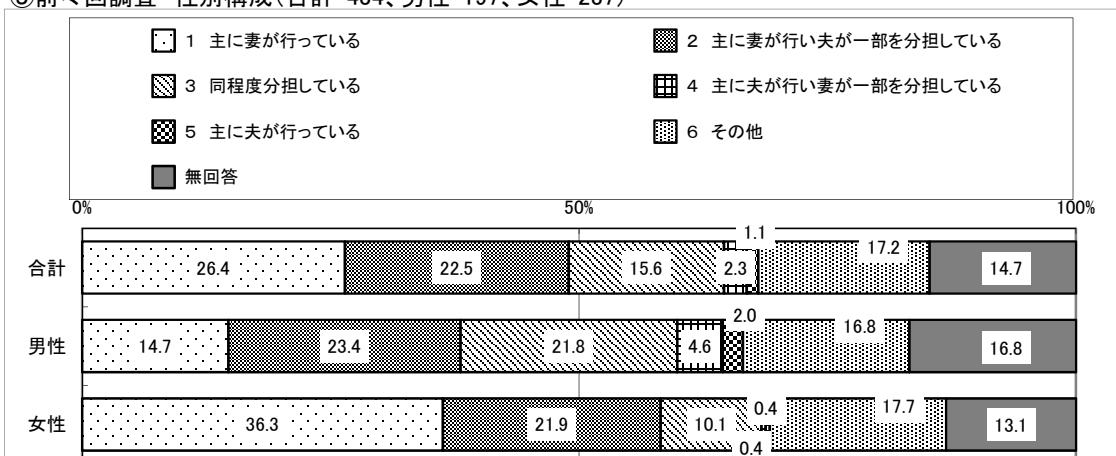
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)

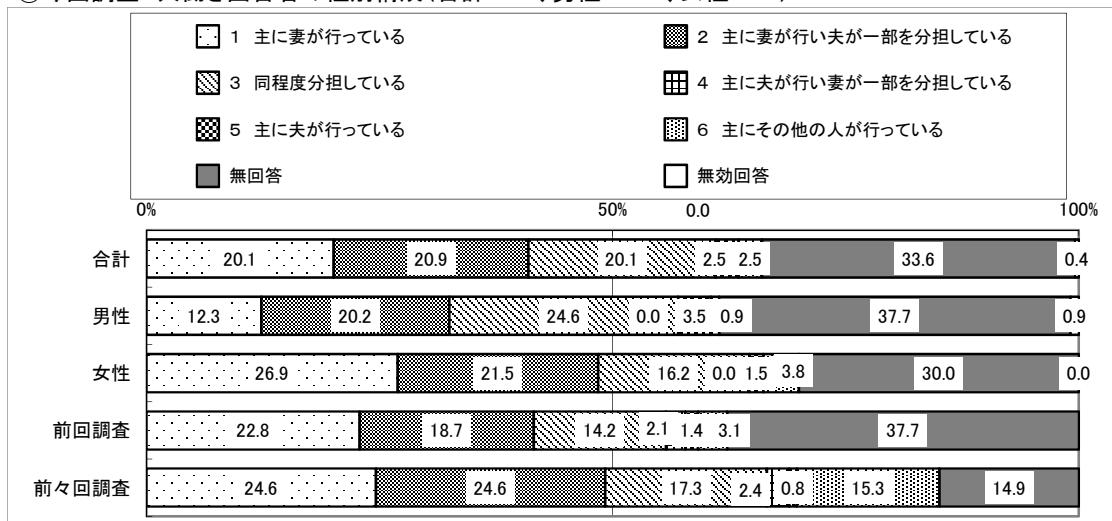


③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、介護・看護を主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは41.0%であり、既婚回答者全体（41.1%）より0.1ポイント低い。前回調査（41.5%）と比較すると0.5ポイント減少している。

④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

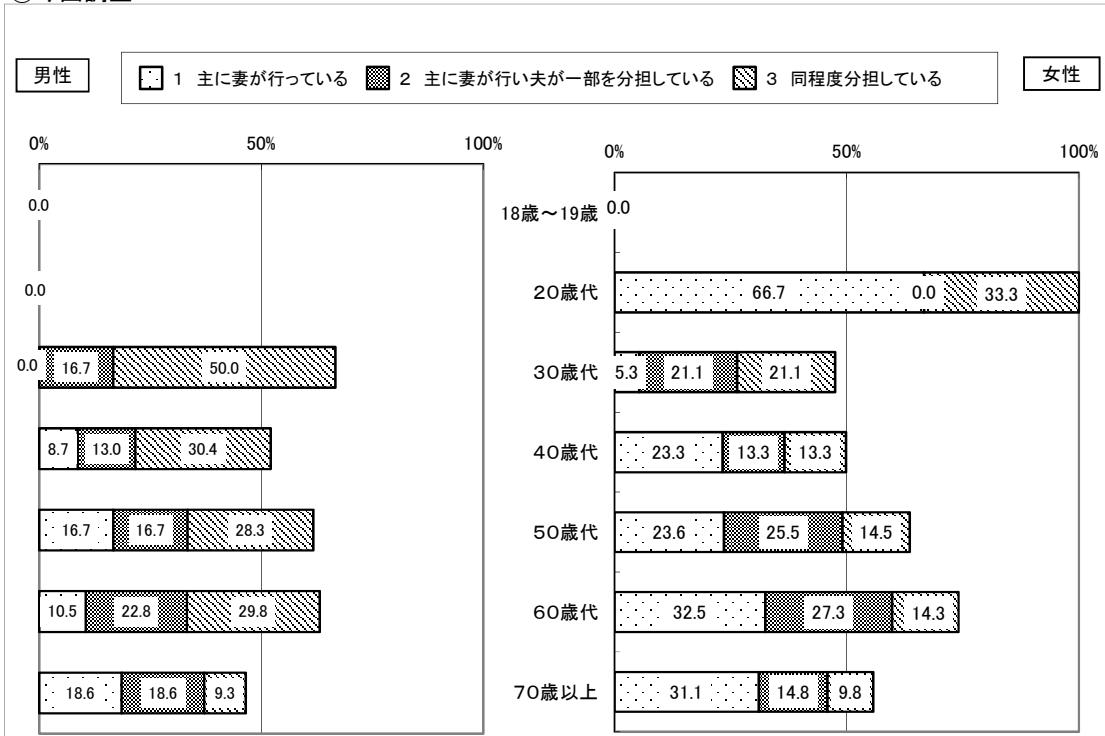
既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「70歳以上」（37.2%）で、女性では「20歳代」（66.7%）である。『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最もあった年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（66.7%）では女性の方が66.7ポイント高く、次いで「60歳代」で男性（33.3%）と女性（59.8%）では女性の方が26.5ポイント高い。

N=477

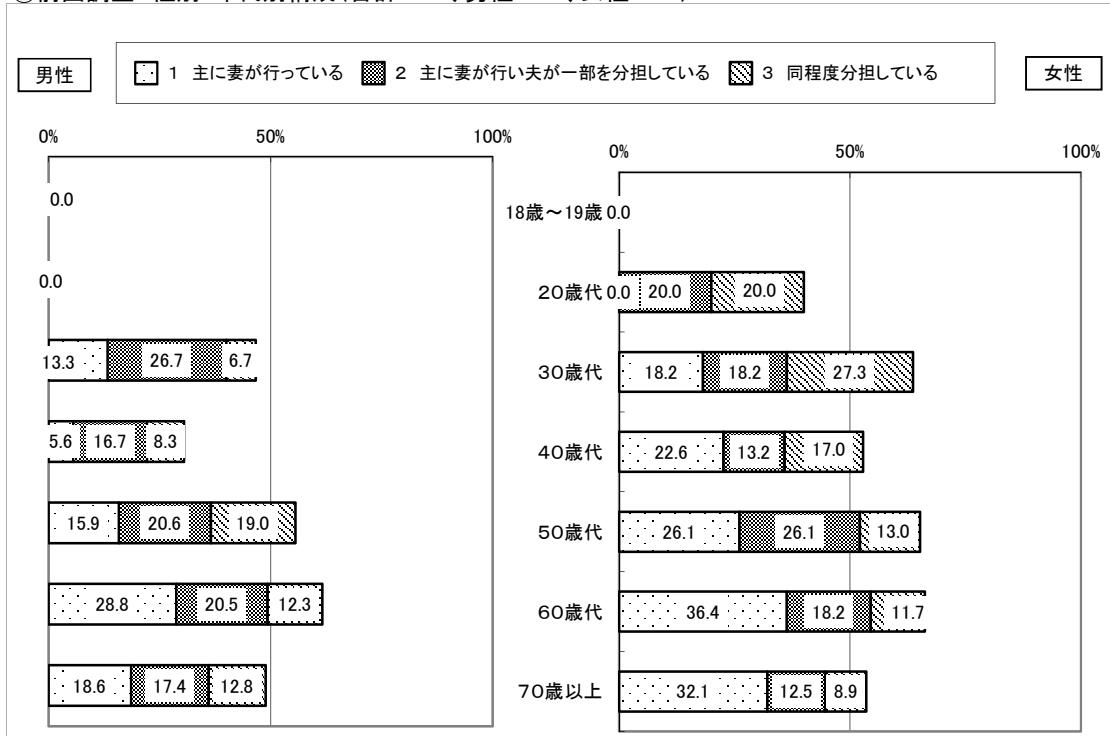
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=0 30歳代=6 40歳代=23 50歳代=60 60歳代=57 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=3 30歳代=19 40歳代=30 50歳代=55 60歳代=77 70歳以上=61

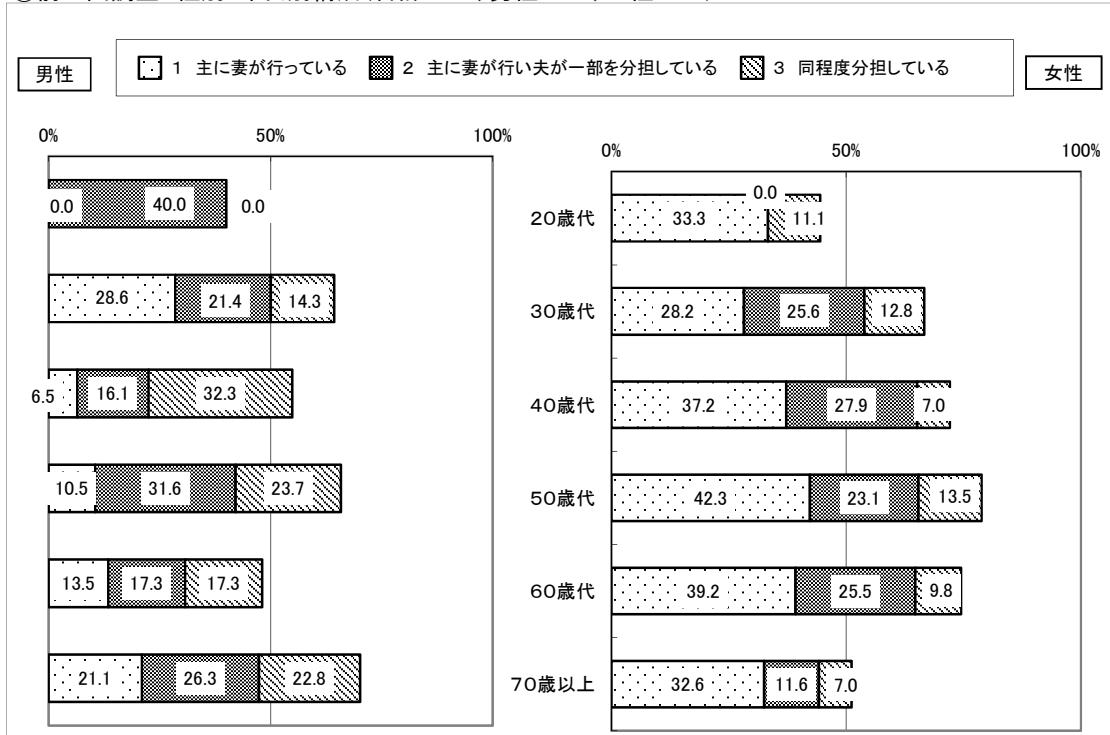
⑤今回調査



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



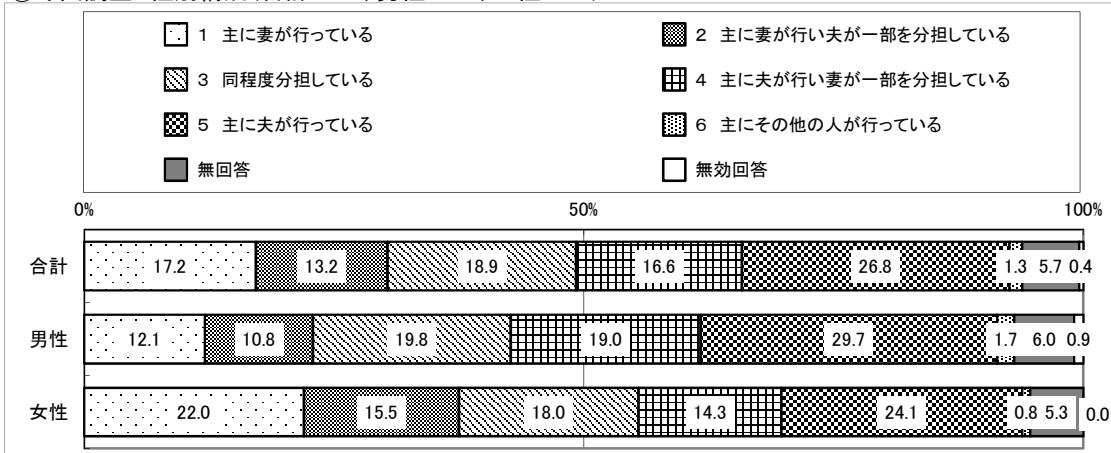
問7(8)地域の行事に参加

地域の行事に参加を主に誰が分担しているかは、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは30.4%であり、前回調査（32.4%）より2.0ポイント減少している。

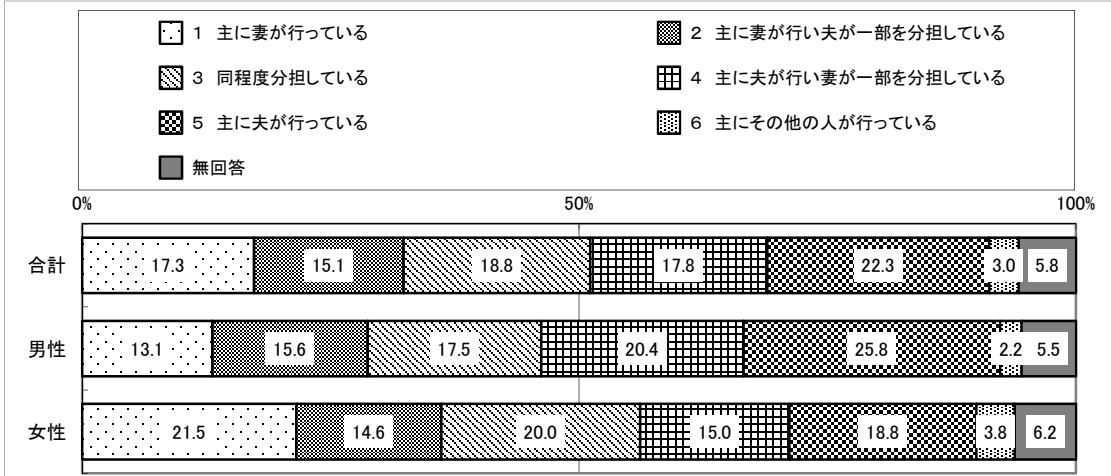
男女別にみると、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答した男性（22.9%）は前回調査（28.7%）より5.8ポイント減少し、女性（37.5%）は前回調査（36.1%）より1.4ポイント増加している。

男性（22.9%）と女性（37.5%）では、女性の方が14.6ポイント高い。

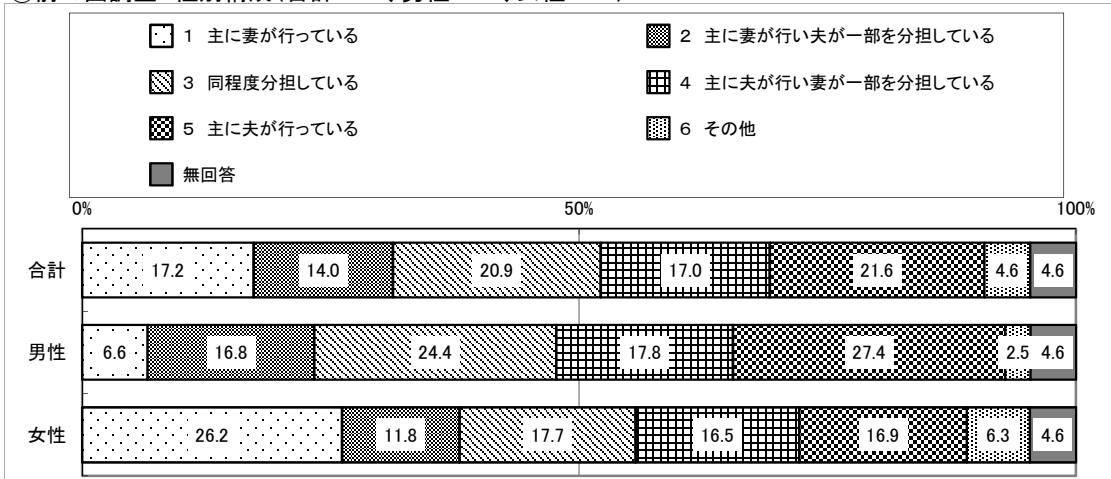
①今回調査 性別構成（合計=477、男性=232、女性=245）



②前回調査 性別構成（合計=535、男性=275、女性=260）

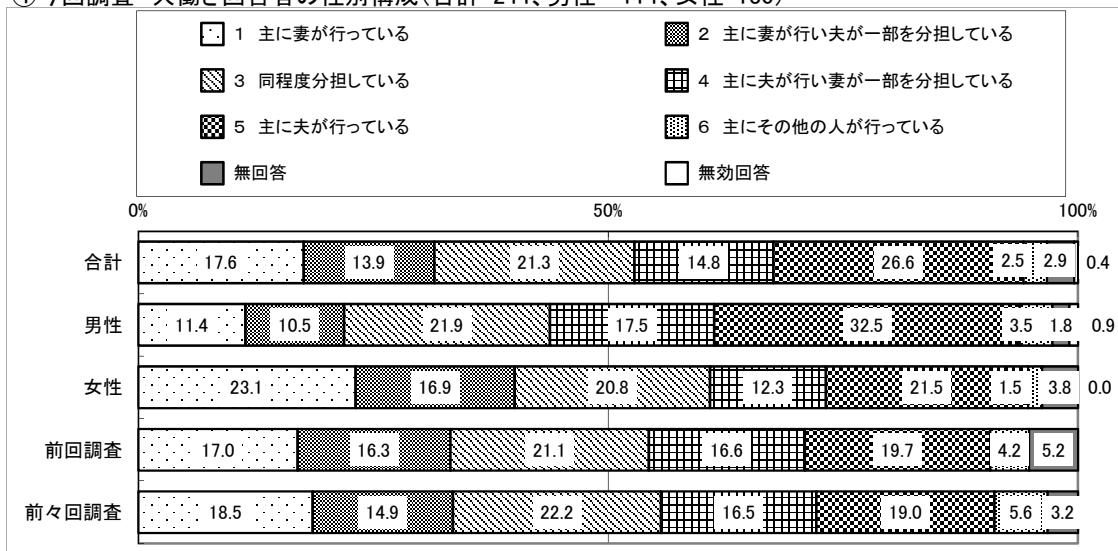


③前々回調査 性別構成（合計=434、男性=197、女性=237）



共働きの回答者に着目すると、地域の行事に参加を主に誰が分担しているかは『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは31.5%であり、既婚回答者全体（30.4%）より1.1ポイント高い。
前回調査（33.3%）と比較すると1.8ポイント減少している。

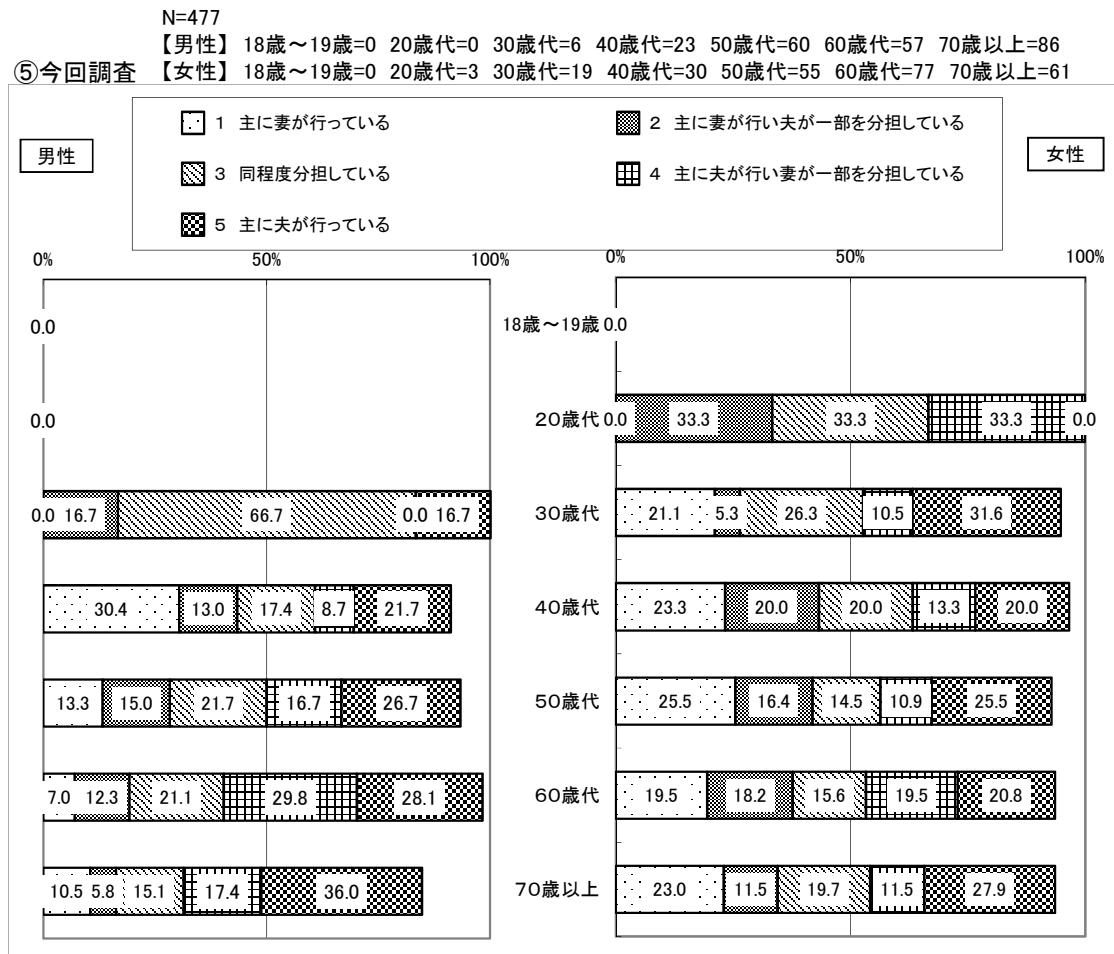
④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



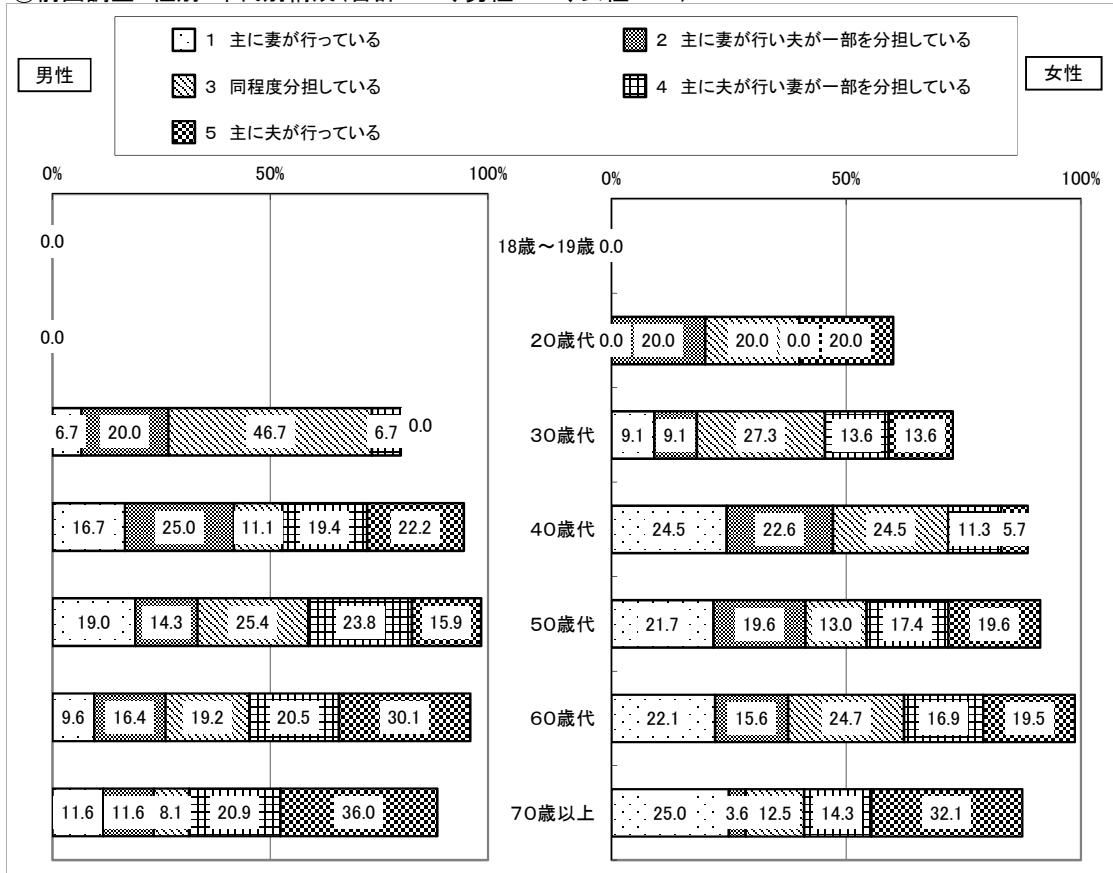
※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、
④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男女ともに「40歳代」で男性（43.4%）、女性（43.3%）である。

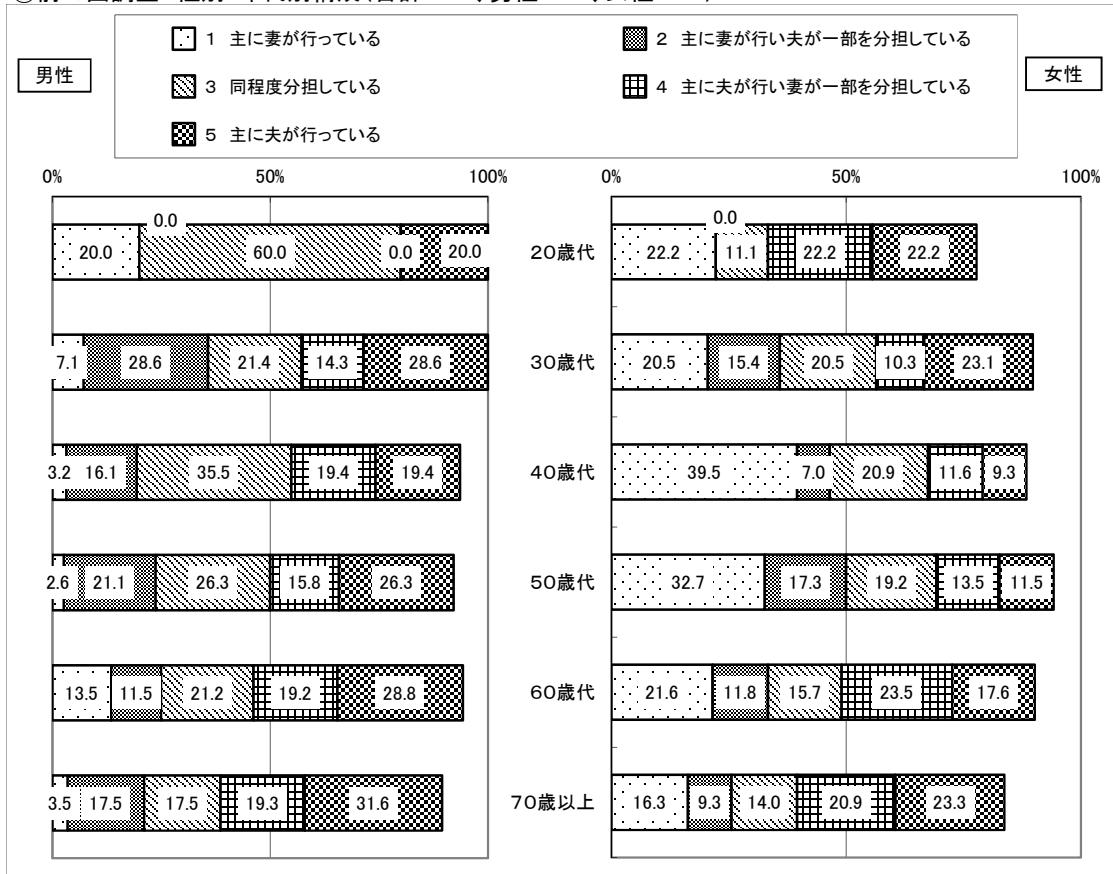
『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したもので、男女差が最もあった年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（33.3%）では女性の方が33.3ポイント高く、次いで「60歳代」で男性（19.3%）と女性（37.7%）では女性の方が18.4ポイント高い。



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



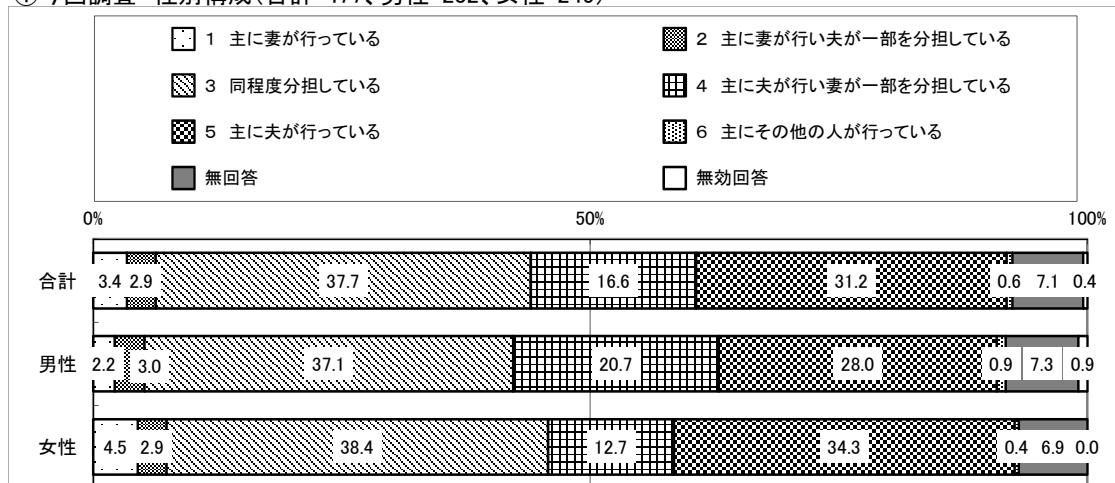
⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



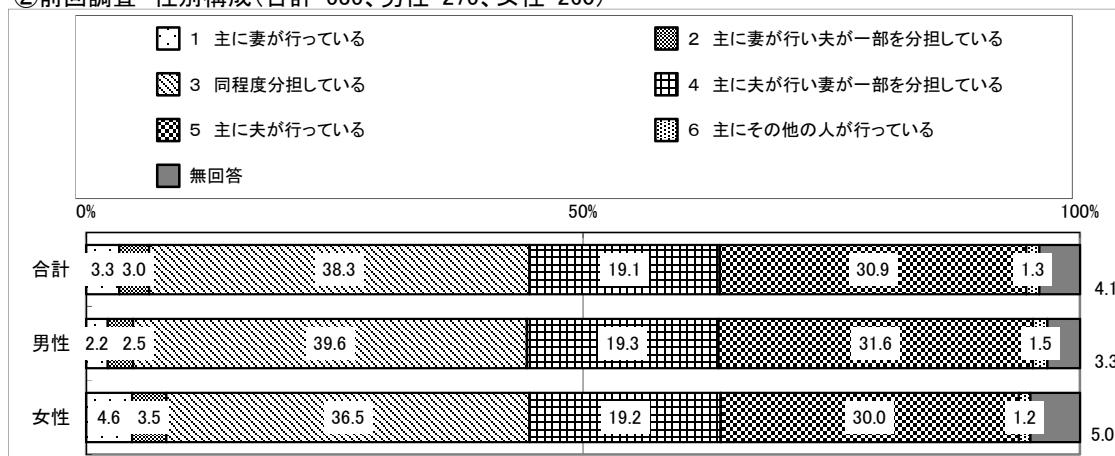
問7(9)高額商品や土地・家屋の購入の決定

高額商品や土地・家屋の購入の決定を主に誰が分担しているかは、「同程度分担している」(37.7%)と回答した割合が最も高く、次いで「主に夫が行っている」(31.2%)と続く。「主に夫が行い妻が一部を分担している」(16.6%)または「主に夫が行っている」(31.2%)と回答したものがあわせると47.8%であり、妻より夫が分担していると回答したものの方が多い。この傾向は前回調査と同様である。「同程度分担している」(37.7%)と回答したものは、前回調査(38.3%)より0.6ポイント減少している。

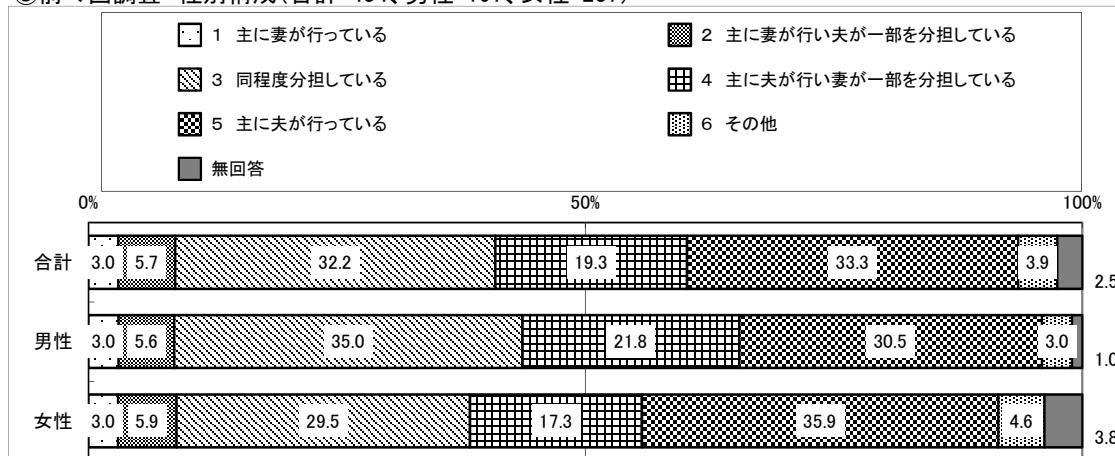
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)

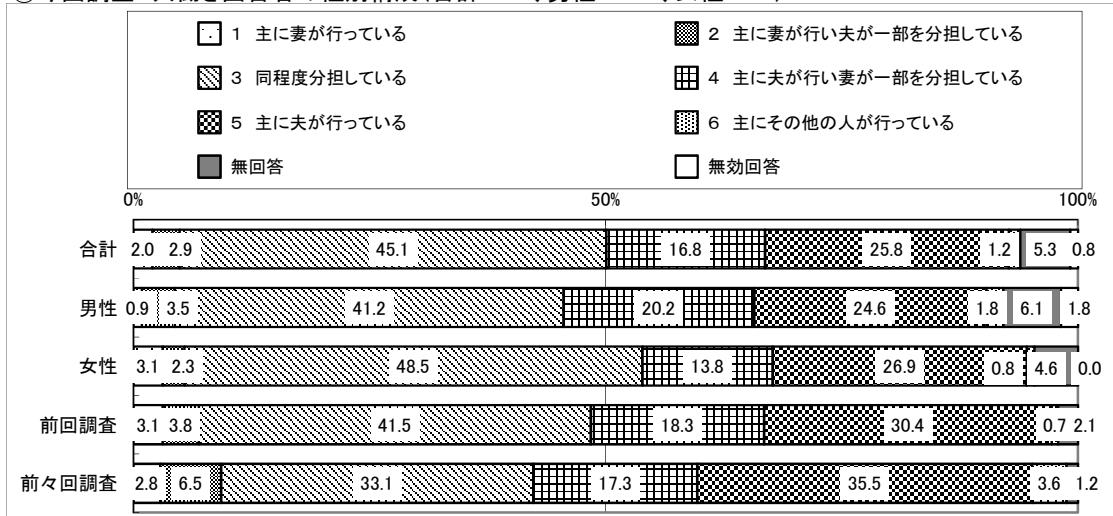


③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、高額商品や土地・家屋の購入の決定を主に誰が分担しているかは「同程度分担している」(45.1%)の割合が最も高く、既婚回答者全体(37.7%)の回答よりも7.4ポイント高い。また、前回調査(41.5%)と比較すると3.6ポイント増加している。

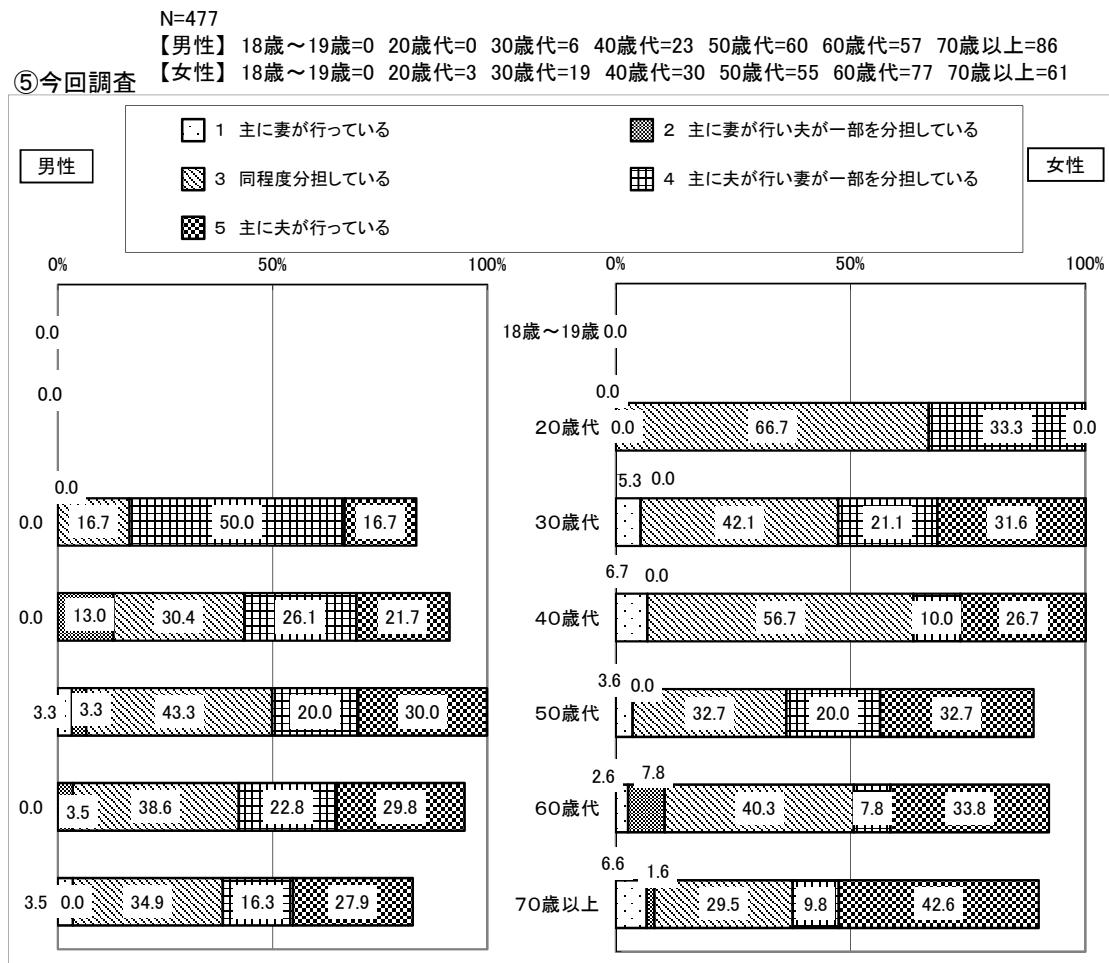
④今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244、男性=114、女性=130)



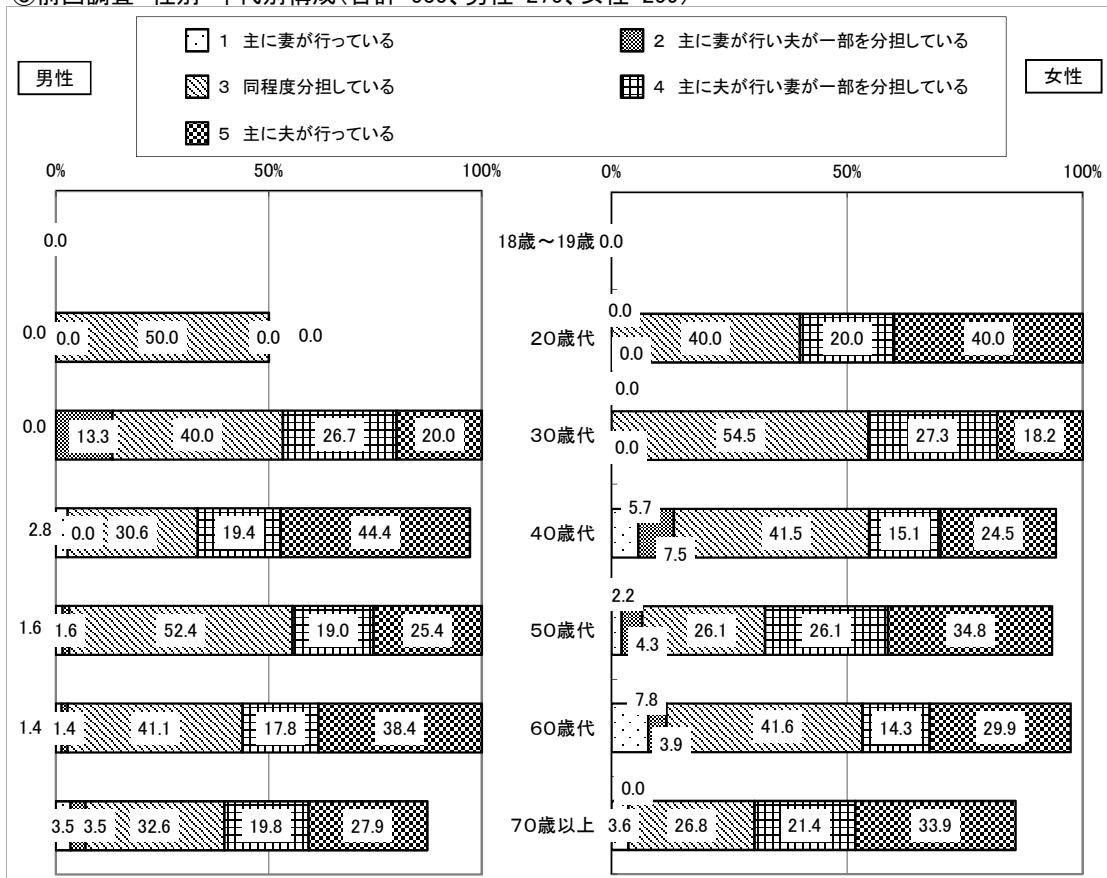
※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、

④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

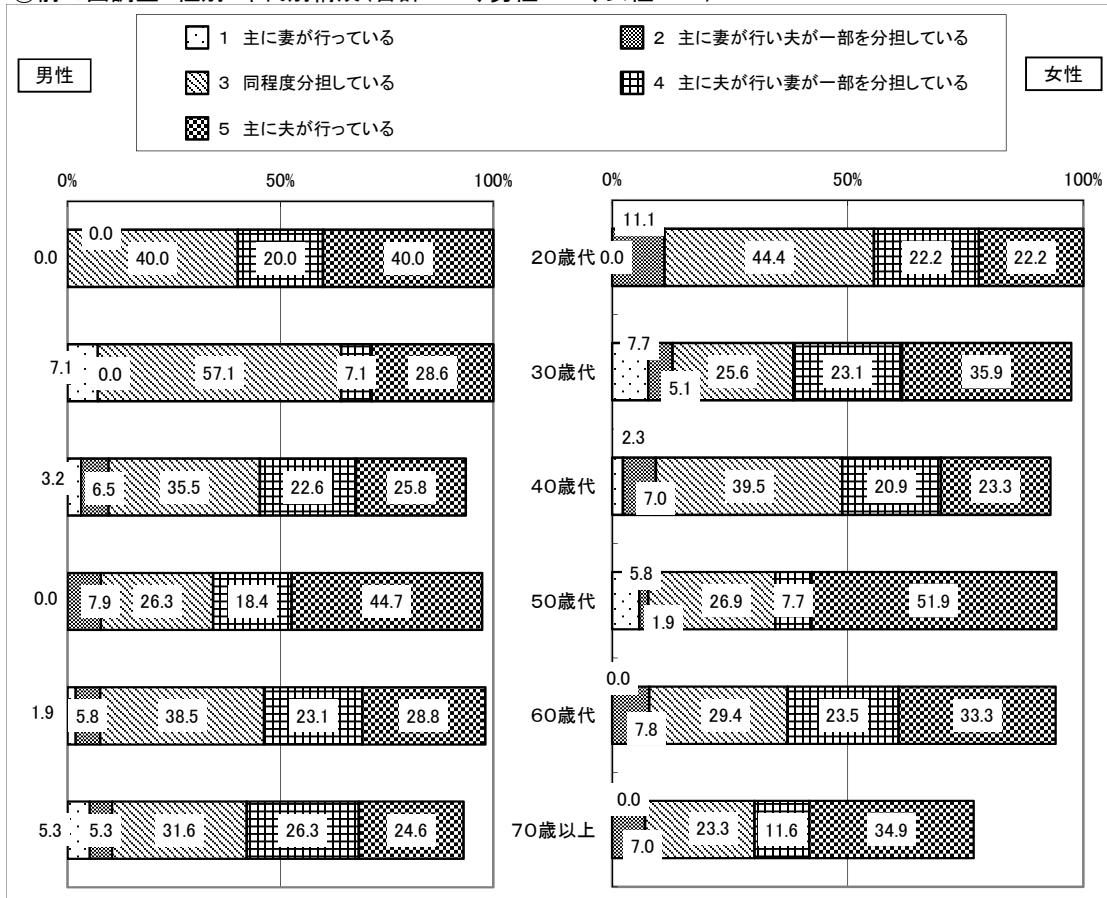
既婚者全体を年代別・男女別にみると『主に夫が行っている（妻が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「30歳代」（66.7%）、女性では同率で「30歳代」、「50歳代」（いずれも52.7%）である。
 「同程度分担している」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性（0.0%）と女性（66.7%）では66.7ポイント女性が高く、次いで「40歳代」では男性（30.4%）と女性（56.7%）では26.3ポイント女性が高い。



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



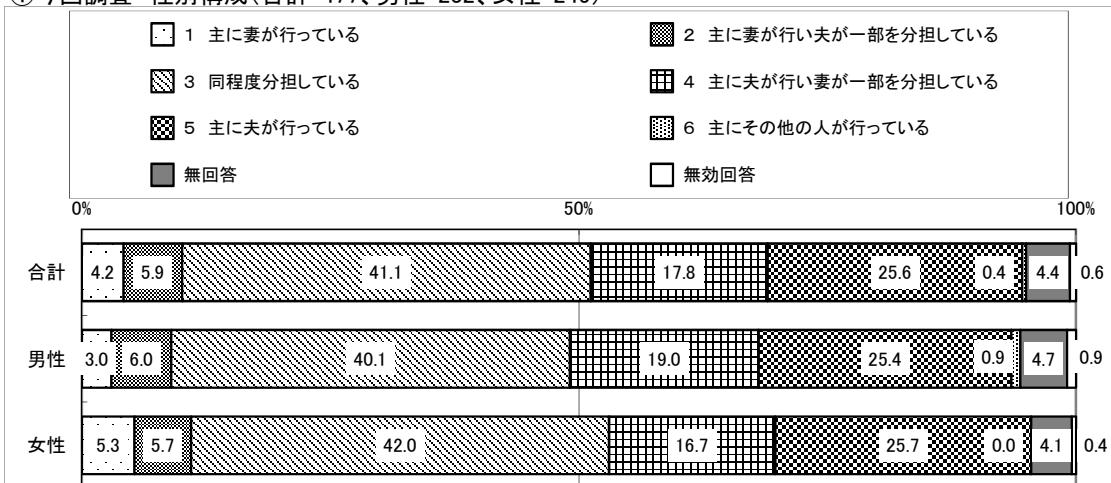
問7(10)家庭問題の最終決定

家庭問題の最終決定を主に誰が分担しているかは、「同程度分担している」と回答したものの割合が高く、41.1%である。

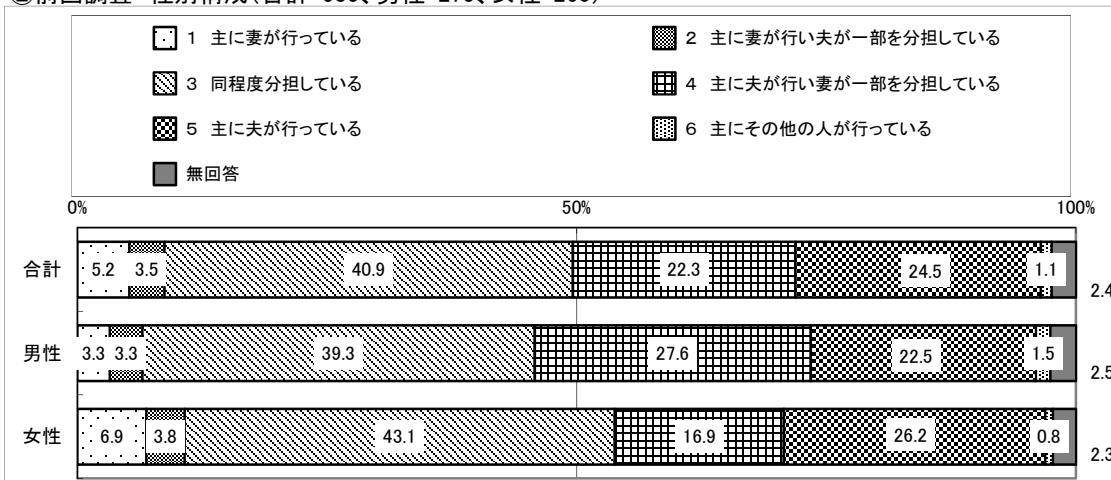
『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものは10.1%であり、『主に夫が行っている（妻が一部負担含む）』と回答したものは43.4%である。

「同程度分担している」(41.1%)は前回調査(40.9%)より0.2ポイント増加し、『主に夫が行っている（妻が一部負担含む）』(43.4%)は前回調査(46.8%)より3.4ポイント減少している。

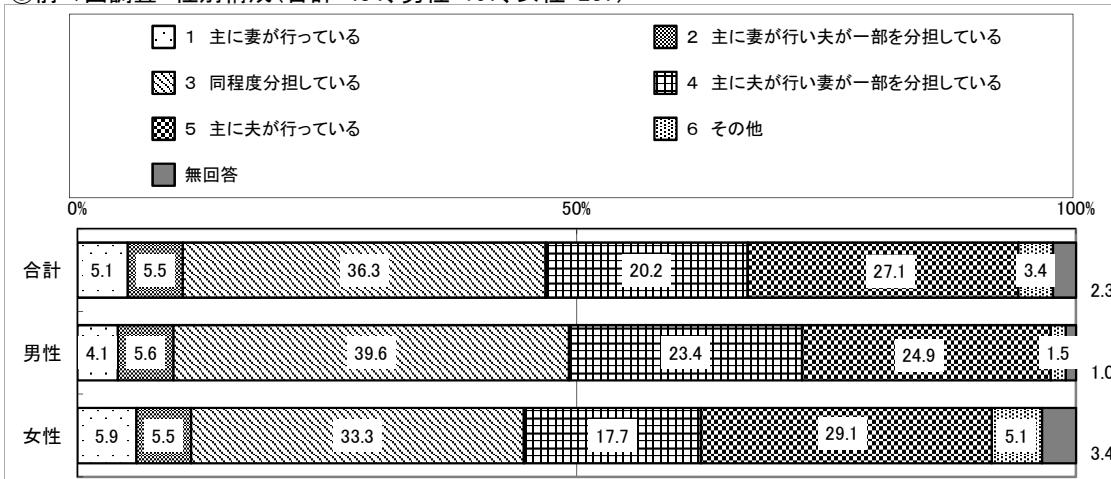
①今回調査 性別構成(合計=477、男性=232、女性=245)



②前回調査 性別構成(合計=535、男性=275、女性=260)

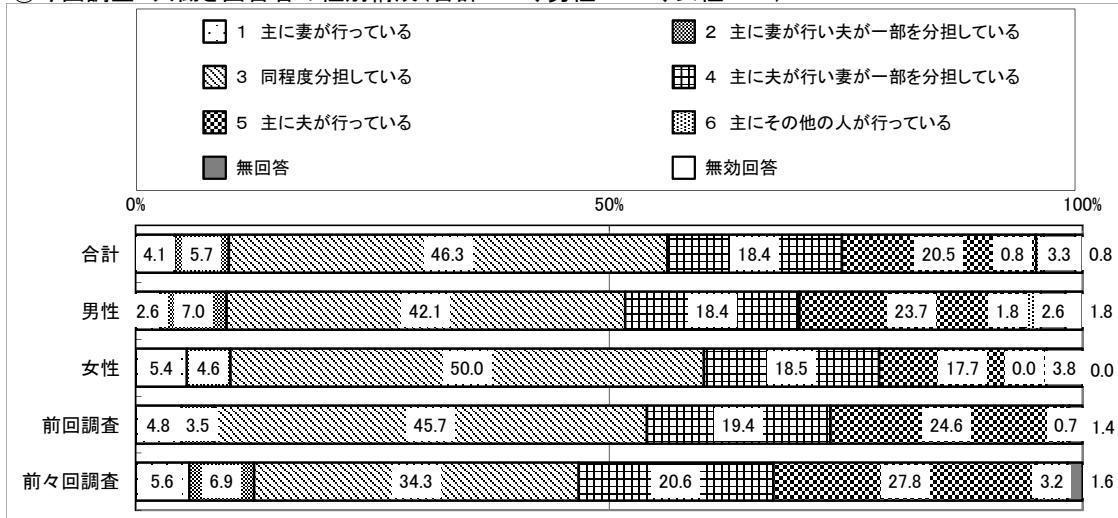


③前々回調査 性別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



共働きの回答者に着目すると、家庭問題の最終決定を主に誰が分担しているかは「同程度分担している」と回答したものが46.3%であり、既婚回答者全体（41.1%）より5.2ポイント高い。前回調査（45.7%）と比較すると0.6ポイント増加している。「同程度分担している」と回答した男性（42.1%）と女性（50.0%）では、女性の方が7.9ポイント

④今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244、男性=114、女性=130）



※「共働き」とは、「Ⅱ 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

既婚者全体を年代別・男女別にみると、「同程度分担している」と回答したものの割合が最も高いのは男性では「30歳代」(50.0%)であり、女性では「20歳代」(66.7%)である。今回調査で、女性の一番高かった「20歳代」(66.7%)が前回調査では60.0%であり、6.7ポイント増加している。

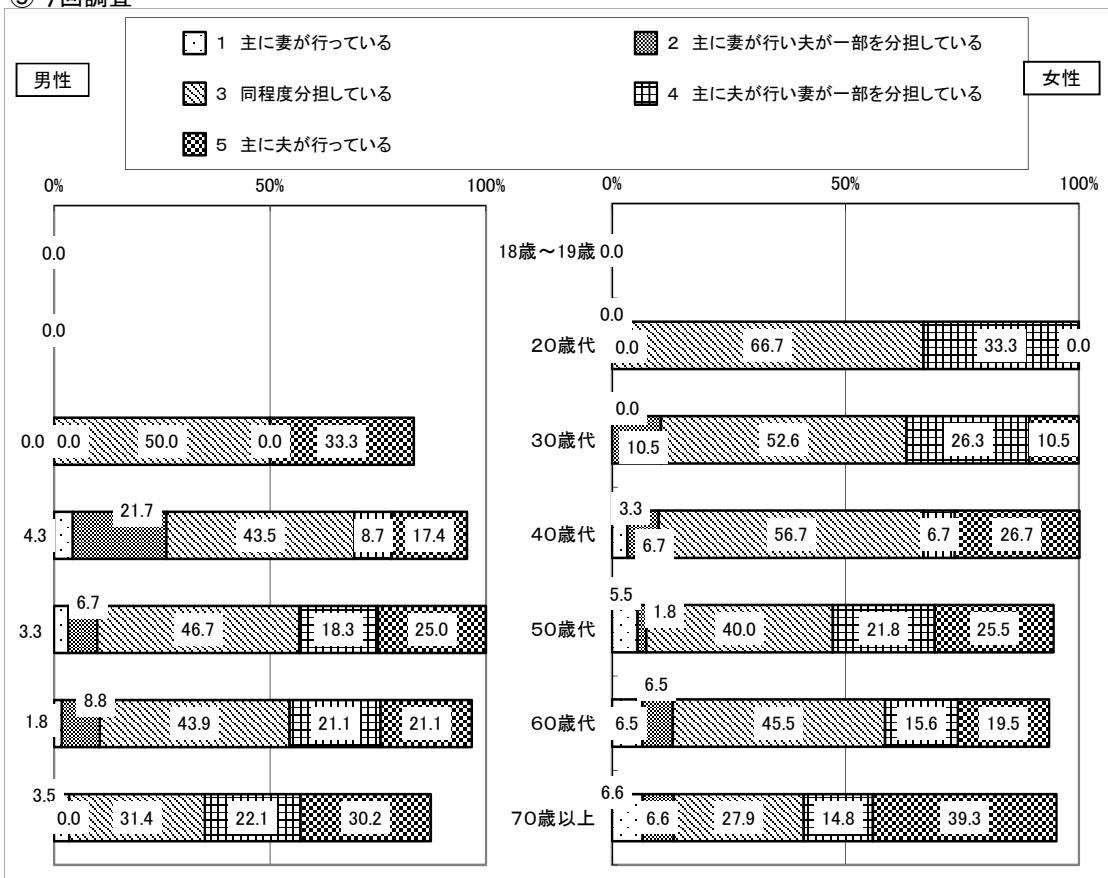
なお、『主に妻が行っている（夫が一部負担含む）』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「40歳代」(26.0%)、女性では「70歳以上」(13.2%)である。

N=477

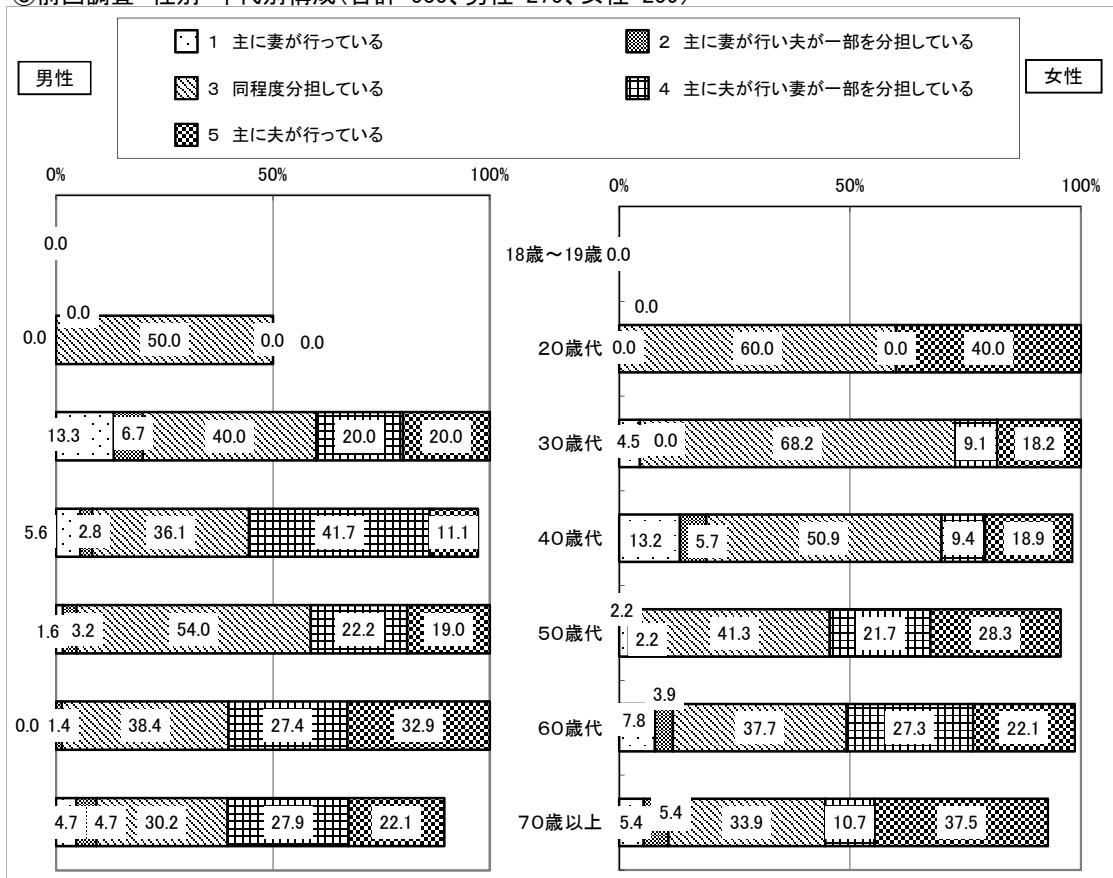
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=0 30歳代=6 40歳代=23 50歳代=60 60歳代=57 70歳以上=86

【女性】 18歳～19歳=0 20歳代=3 30歳代=19 40歳代=30 50歳代=55 60歳代=77 70歳以上=61

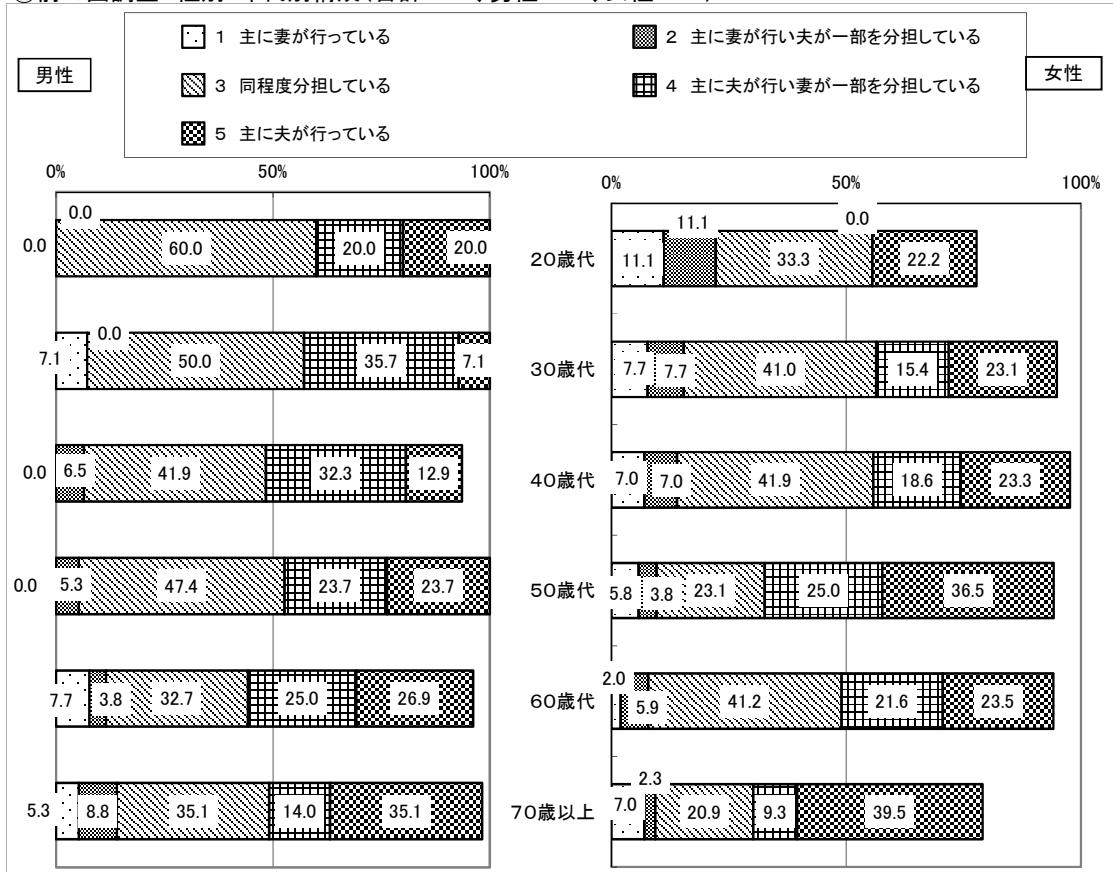
⑤今回調査



⑥前回調査 性別・年代別構成(合計=535、男性=275、女性=259)



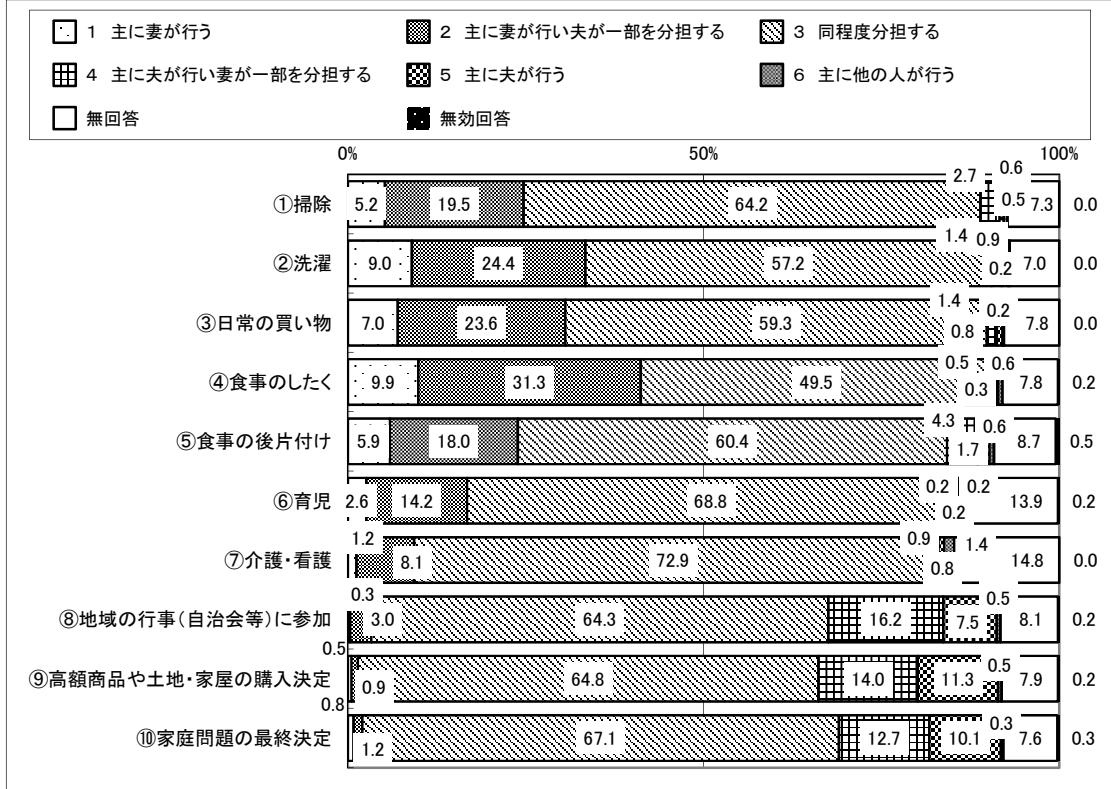
⑦前々回調査 性別・年代別構成(合計=434、男性=197、女性=237)



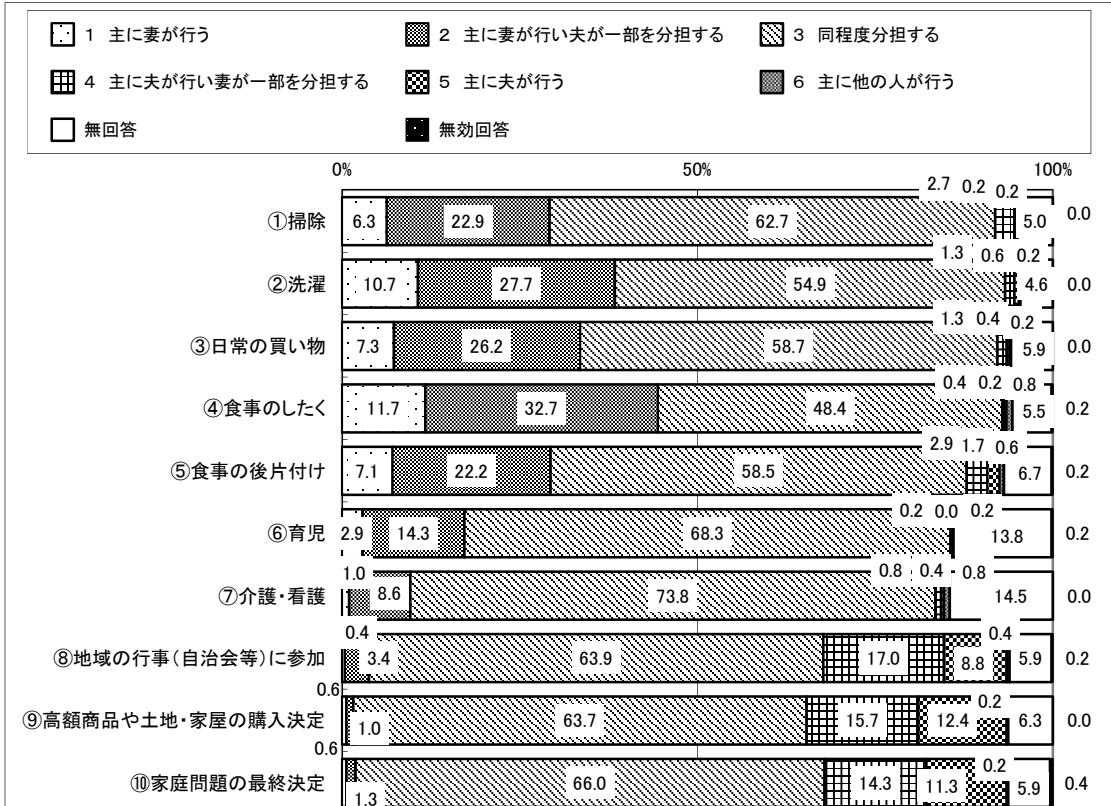
問8 理想としては、どのように分担するのがよいとお考えですか。
 次の①～⑩の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。
 (N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

令和3年度調査より選択肢に「主にその他の人が行う」が新たに追加された。
 家事、家庭生活の役割分担の理想について、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した割合が最も高いのは「食事のしたく」(41.2%)、次いで「洗濯」(33.4%)、「日常の買い物」(30.6%)であり、この傾向は前回調査と同様である。上位3つの項目以外は「同程度分担する」と回答した割合が高く、なかでも「介護・看護」については72.9%と最も高かった。
 既婚者の理想の役割分担を聞いたところ、全回答と概ね同じ傾向を示すが「家庭問題の最終決定」以外では「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した割合が高くなかった。

①今回調査



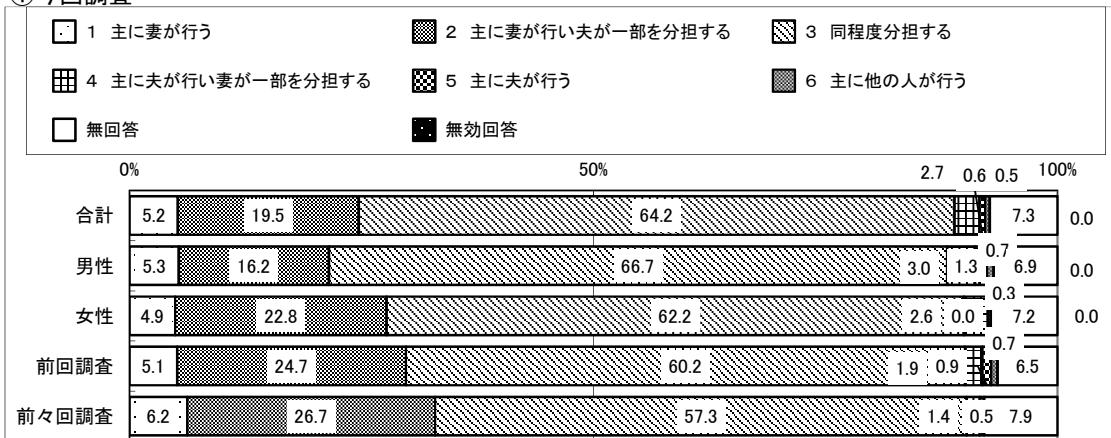
②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



問8(1)理想の役割分担 掃除

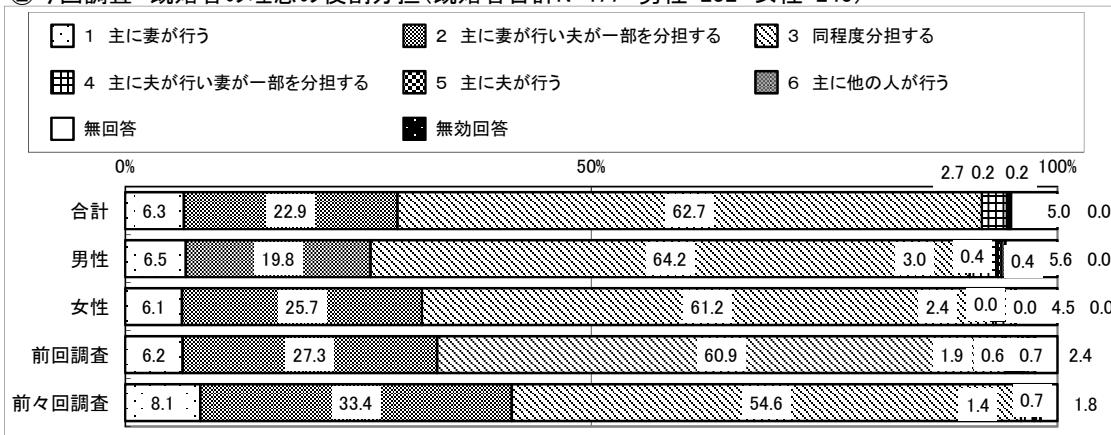
掃除の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは24.7%であり、前回調査(29.8%)より5.1ポイント減少している。男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(21.5%)は前回調査(29.2%)より7.7ポイント減少し、女性(27.7%)は前回調査(30.4%)より2.7ポイント減少している。

①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは29.2%であり、回答者全体(24.7%)と比較すると、4.5ポイント高い。「同程度分担する」は回答者全体(64.2%)、既婚者(62.7%)ともに6割を超えてい

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)

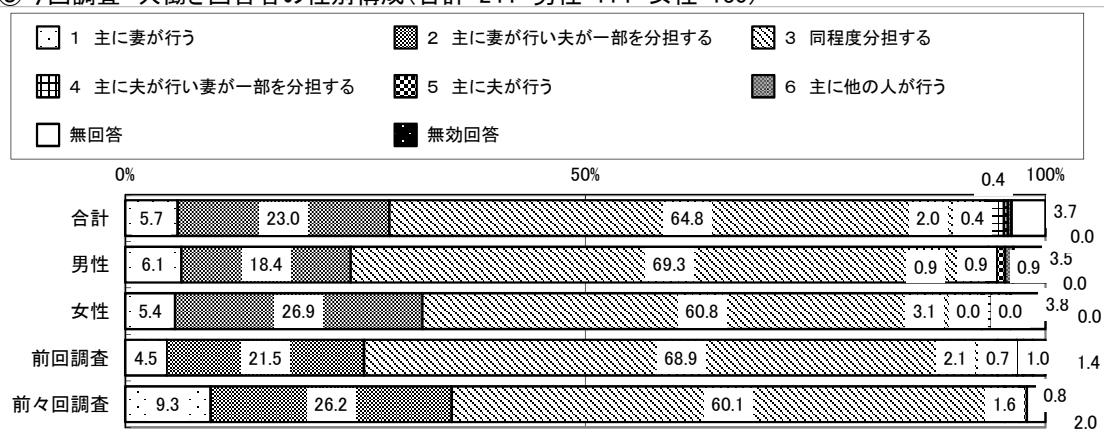


共働きの回答者に着目すると、掃除を主に誰が担当するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは28.7%であり、回答者全体(24.7%)より4.0ポイント高い。

前回調査(26.0%)と比較すると、2.7ポイント増加している。

男女別にみると、男性(24.5%)は前回調査(28.9%)より4.4ポイント減少、女性(32.3%)は前回調査(22.6%)より9.7ポイント増加している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



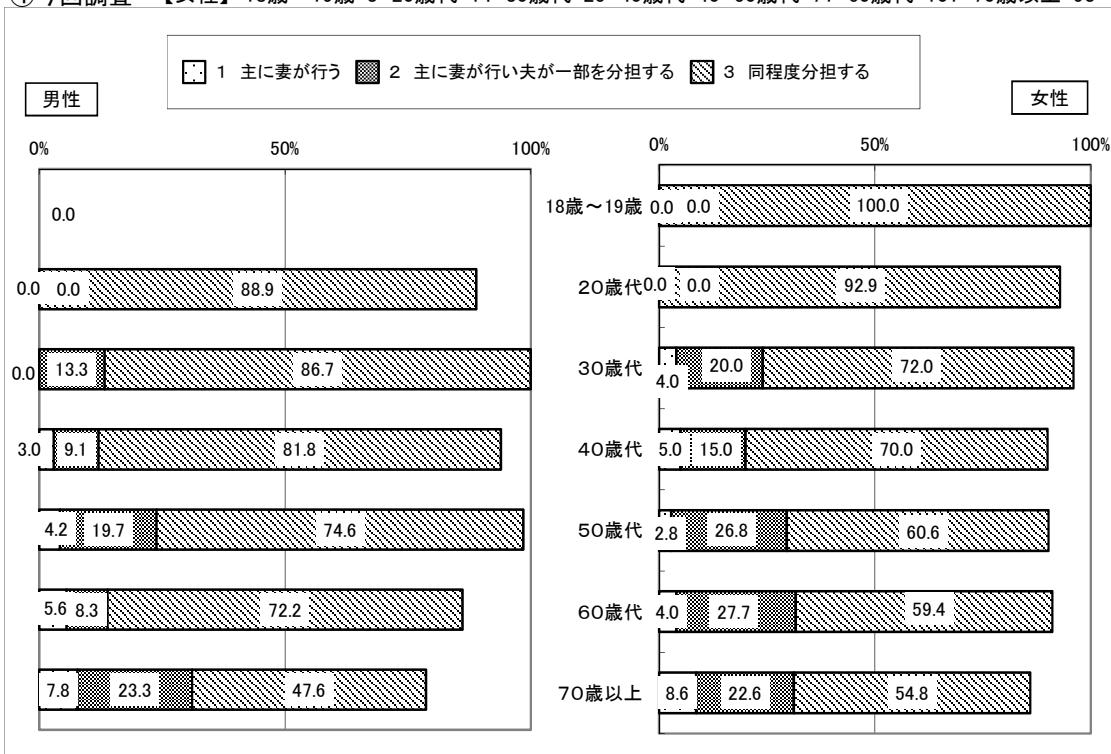
※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性は「70歳以上」(31.1%)、女性は「60歳代」(31.7%)である。「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したので、男女差が最も大きい年代は「60歳代」であり、男性(13.9%)と女性(31.7%)では、女性が17.8ポイント高い。

N=650

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103

④今回調査 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93

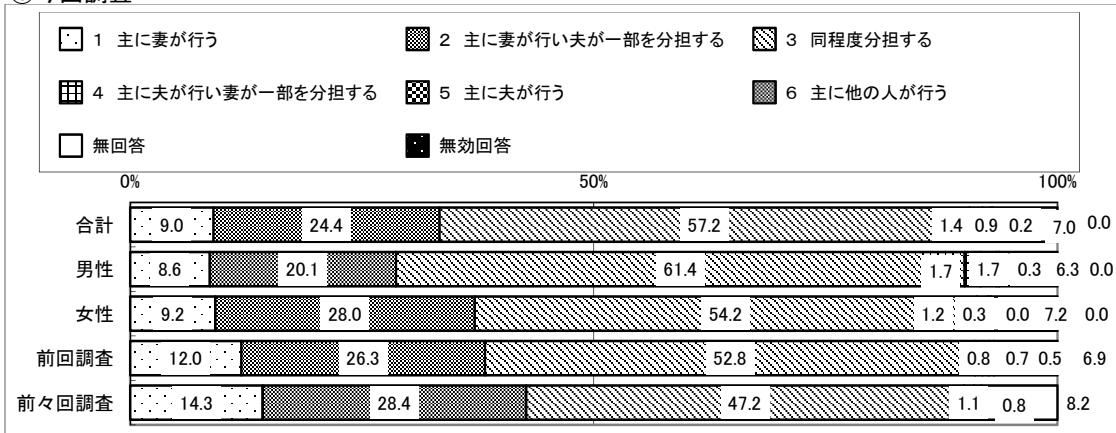


問8(2)理想の役割分担 洗濯

洗濯の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは33.4%であり、前回調査(38.3%)より4.9ポイント減少している。

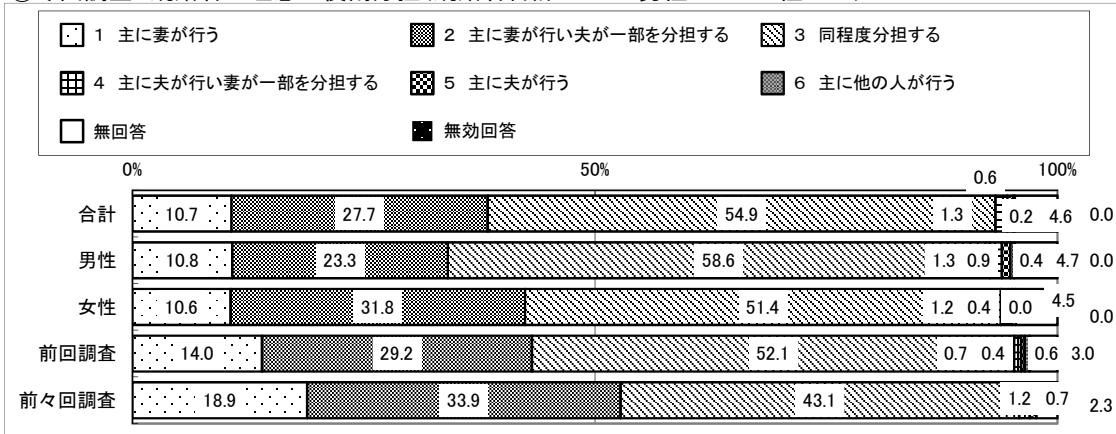
男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(28.7%)は前回調査(37.2%)より8.5ポイント減少し、女性(37.2%)は前回調査(39.3%)より2.1ポイント減少している。

①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは38.4%であり、回答者全体(33.4%)と比較すると5.0ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)

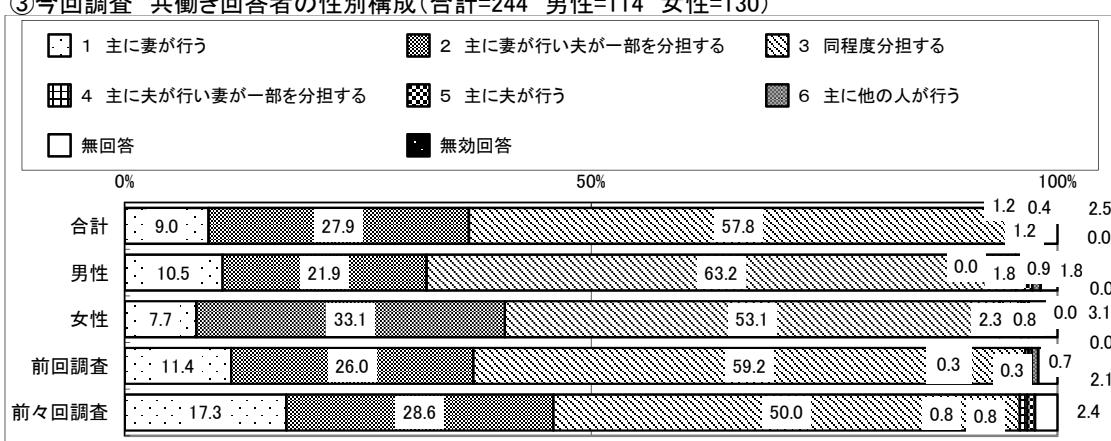


共働きの回答者に着目すると、洗濯を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは36.9%であり、回答者全体(33.4%)より3.5ポイント高い。

前回調査(37.4%)と比較すると、0.5ポイント減少している。

男女別にみると、男性(32.4%)は前回調査(38.2%)より5.8ポイント減少、女性(40.8%)は前回調査(36.5%)より4.3ポイント増加している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い

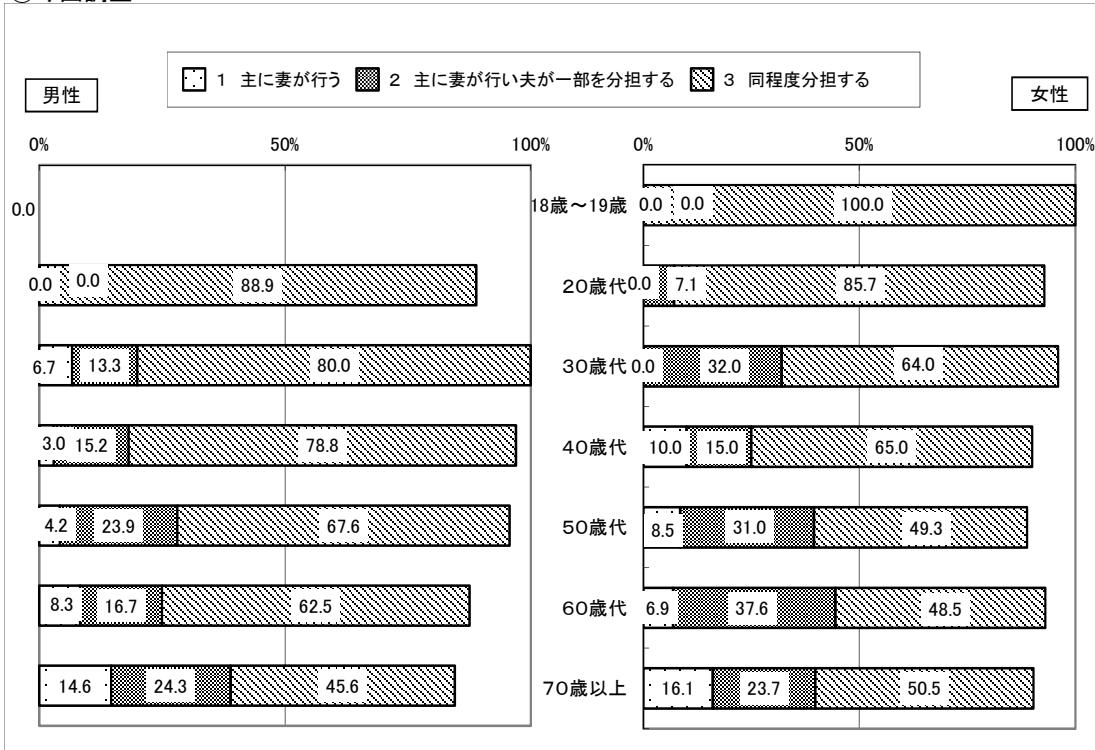
年代は男性では「70歳以上」(38.9%)であり、女性では「60歳代」(44.5%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「60歳代」であり、男性(25.0%)と女性(44.5%)では、女性が19.5ポイント高い。次いで「30歳代」男性(20.0%)、女性(32.0%)では女性が12.0ポイント高い。

N=650

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103

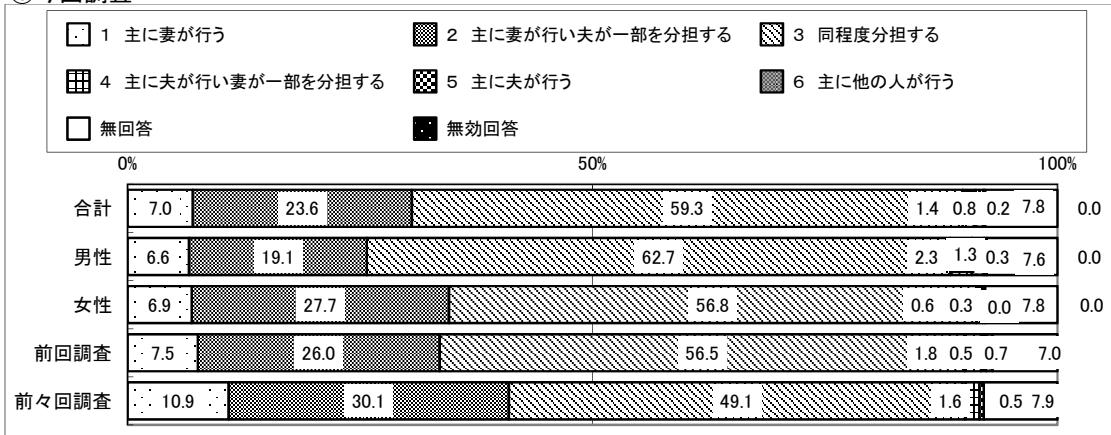
④今回調査 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



問8(3)理想の役割分担 日常の買い物

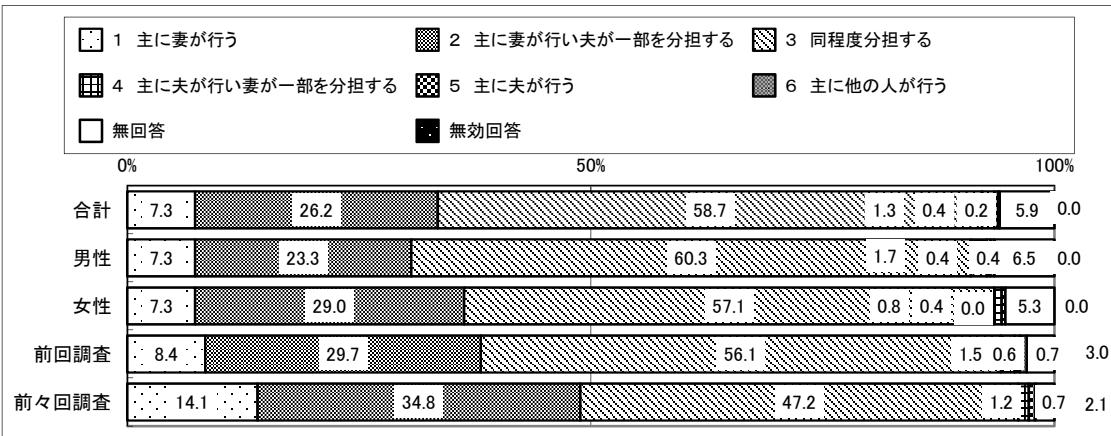
日常の買い物の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは30.6%であり、前回調査(33.6%)より3.0ポイント減少している。男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(25.7%)は前回調査(30.0%)より4.3ポイント減少し、女性(34.6%)は前回調査(36.9%)より2.3ポイント減少している。

①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは33.5%であり、回答者全体(30.6%)と比較すると2.9ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)

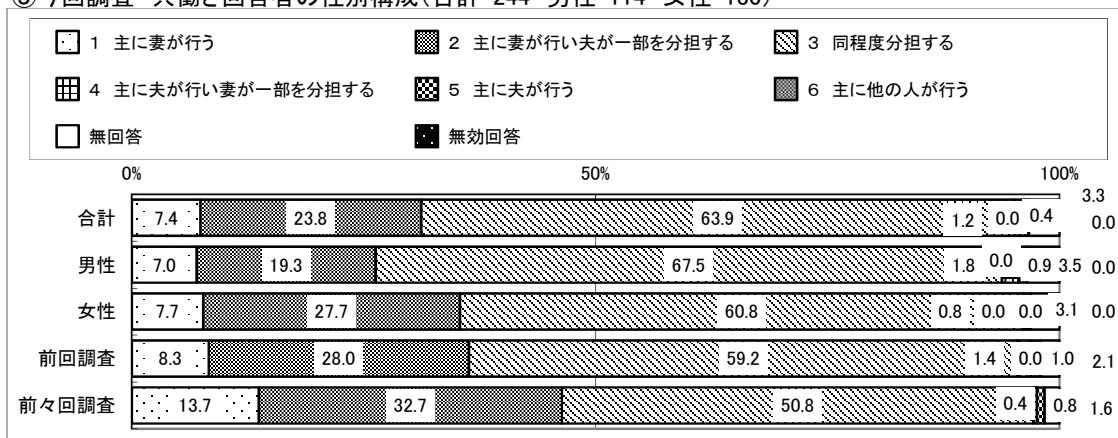


共働きの回答者に着目すると、日常の買い物を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは31.2%であり、回答者全体(30.6%)より0.6ポイント高い。

前回調査(36.3%)と比較すると、5.1ポイント減少している。

男女別にみると、男性(26.3%)は前回調査(32.9%)より6.6ポイント減少、女性(35.4%)は前回調査(40.1%)より4.7ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)

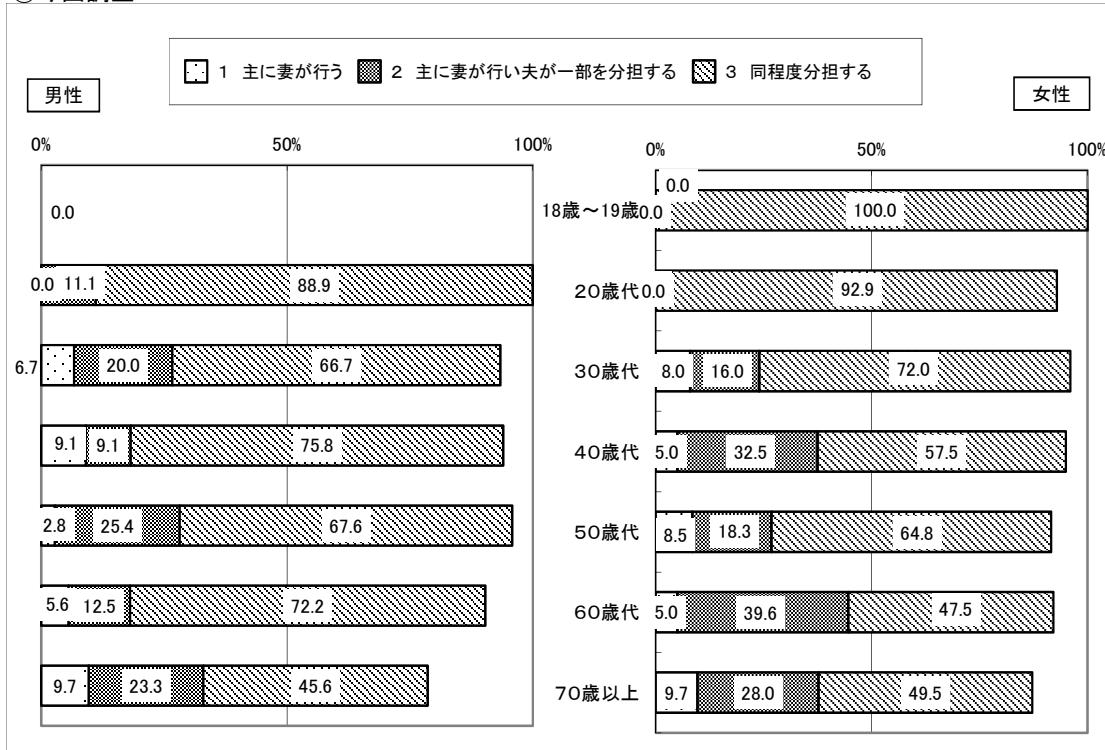


※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「70歳以上」(33.0%)であり、女性では「60歳代」(44.6%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「60歳代」であり、男性(18.1%)と女性(44.6%)では、女性が26.5ポイント高い。次いで「40歳代」男性(18.2%)、女性(37.5%)では女性が19.3ポイント高い。

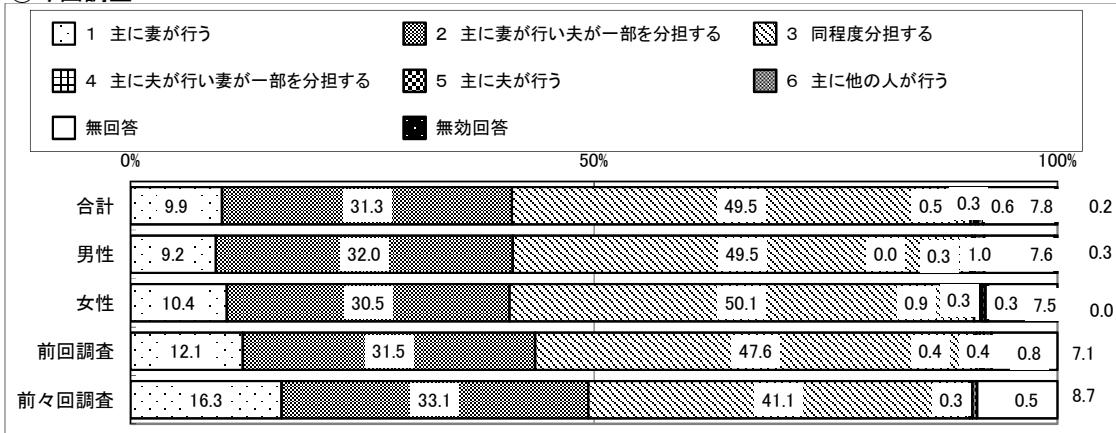
N=650
 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103
 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



問8(4)理想の役割分担 食事のしたく

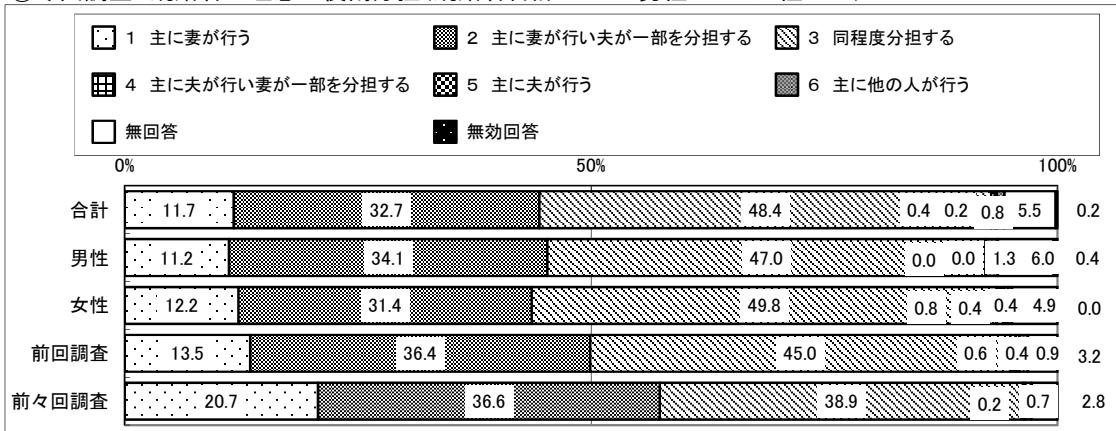
食事のしたくの役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは41.2%であり、前回調査(43.6%)より2.4ポイント減少している。

①今回調査



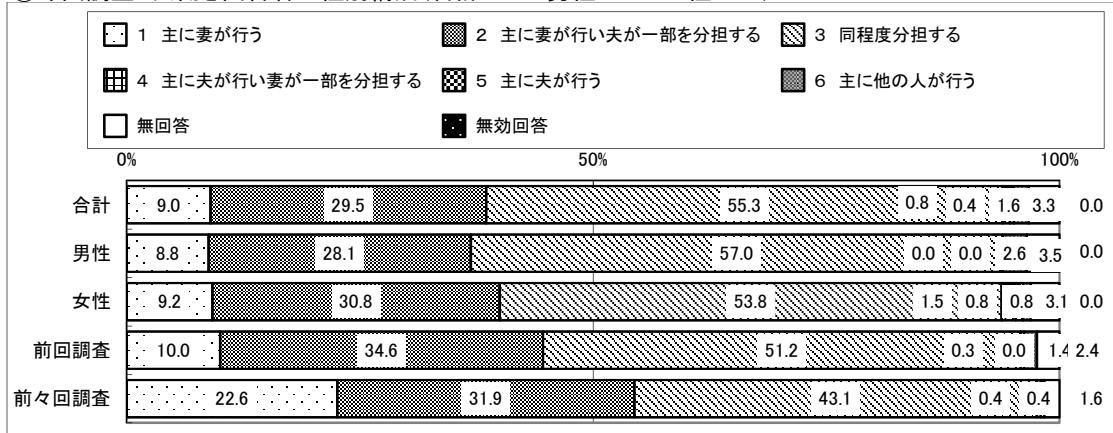
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは44.4%であり、回答者全体(41.2%)と比較すると3.2ポイント高い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、食事のしたくを主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは38.5%であり、回答者全体(41.2%)より2.7ポイント低い。前回調査(44.6%)と比較すると、6.1ポイント減少している。

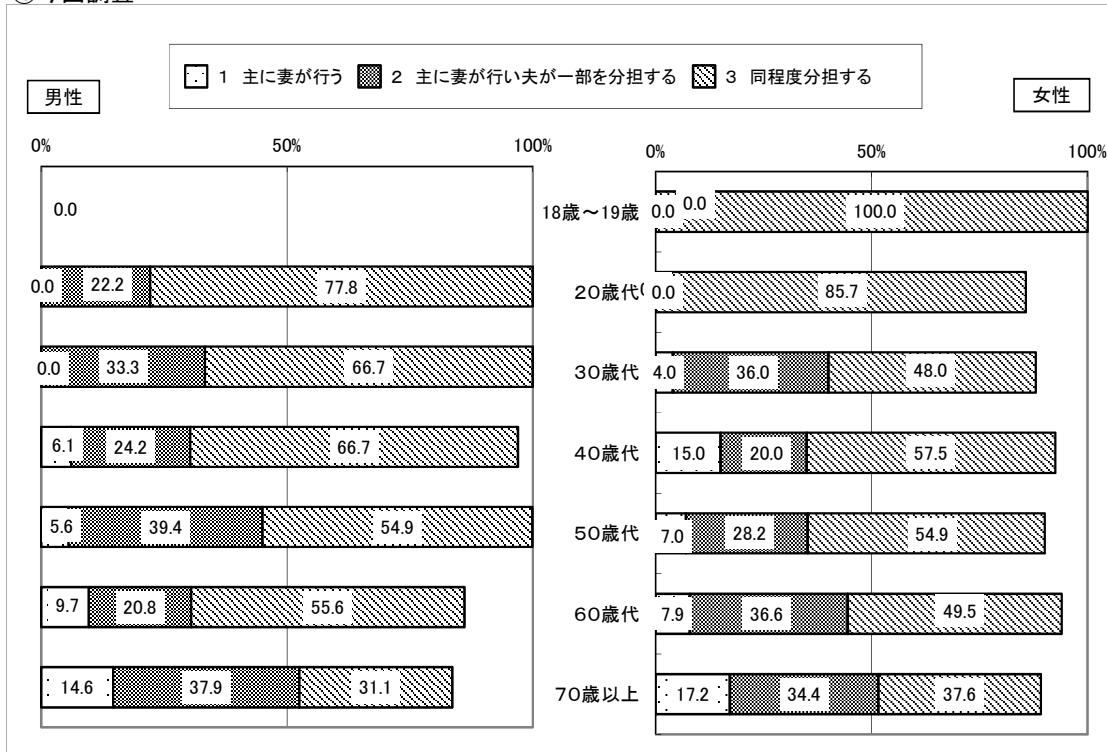
③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性では「70歳以上」(52.5%)であり、女性では「70歳以上」(51.6%)である。「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性(22.2%)と女性(0.0%)では、男性が22.2ポイント高い。次いで「60歳代」であり、男性(30.5%)、女性(44.5%)では女性が14.0ポイント高い。

N=650
 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103
 ④今回調査 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93

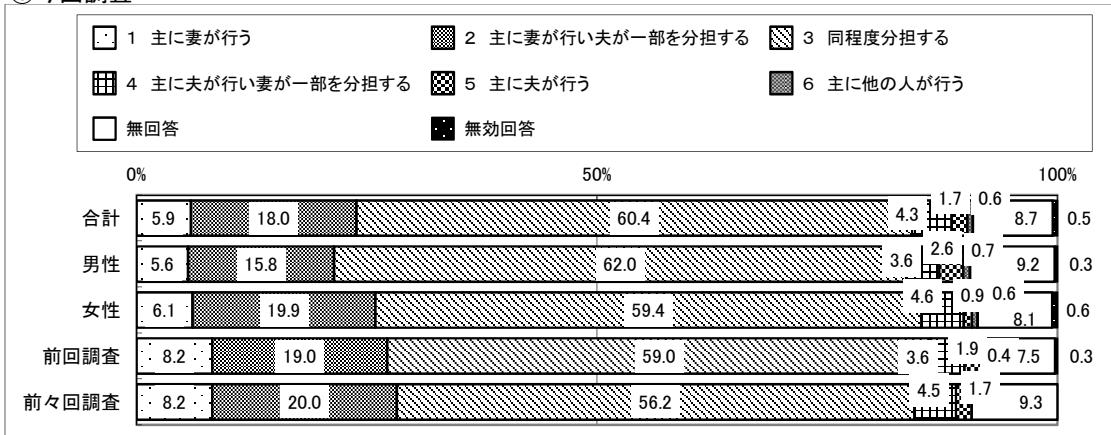


問8(5)理想の役割分担 食事の後片付け

食事の後片付けの役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは23.9%であり、前回調査(27.2%)より3.3ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(21.4%)は前回調査(26.7%)より5.3ポイント増加し、女性(26.0%)は前回調査(27.5%)より1.5ポイント減少している。

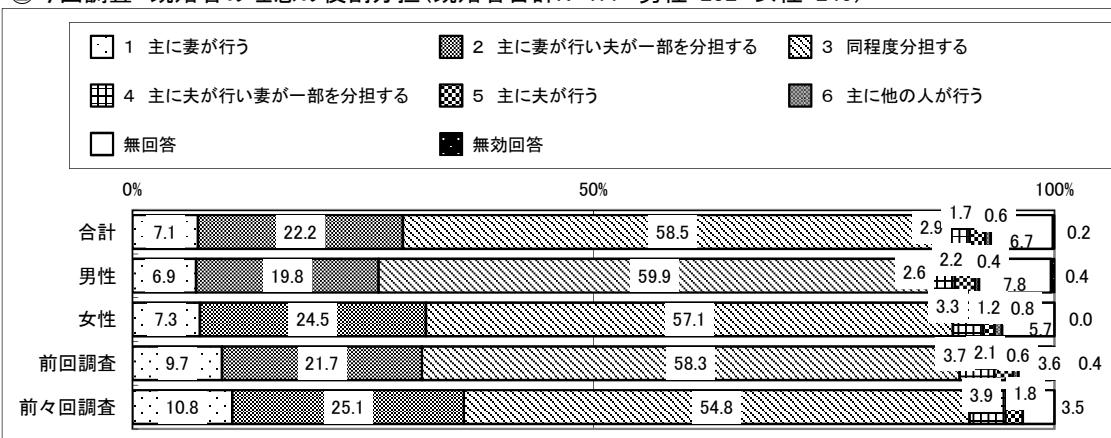
①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは29.3%であり、回答者全体(23.9%)と比較すると5.4ポイント高い。

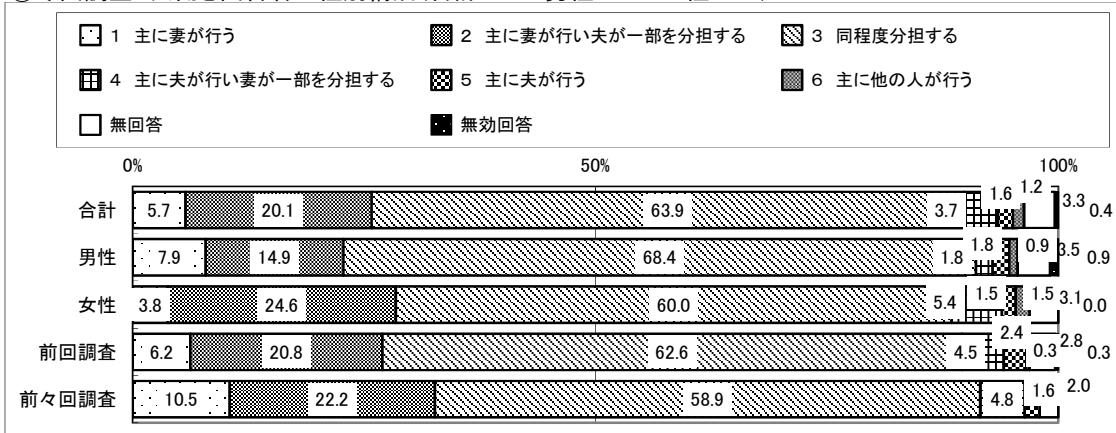
「同程度分担する」は回答者全体(60.4%)と既婚者(58.5%)ともに過半数を超えてい。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、食事の後片付けを主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う（夫が一部負担含む）」と回答したものは25.8%であり、回答者全体(23.9%)より1.9ポイント低い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は男性では男性では「70歳以上」(29.1%)であり、女性では「60歳代」(29.8%)である。「主に妻が行う（夫が一部負担含む）」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「60歳代」であり、男性(13.9%)と女性(29.8%)では、女性の方が15.9ポイント高い。次いで「40歳代」で男性(15.1%)、女性(25.0%)で女性が9.9ポイント高い。

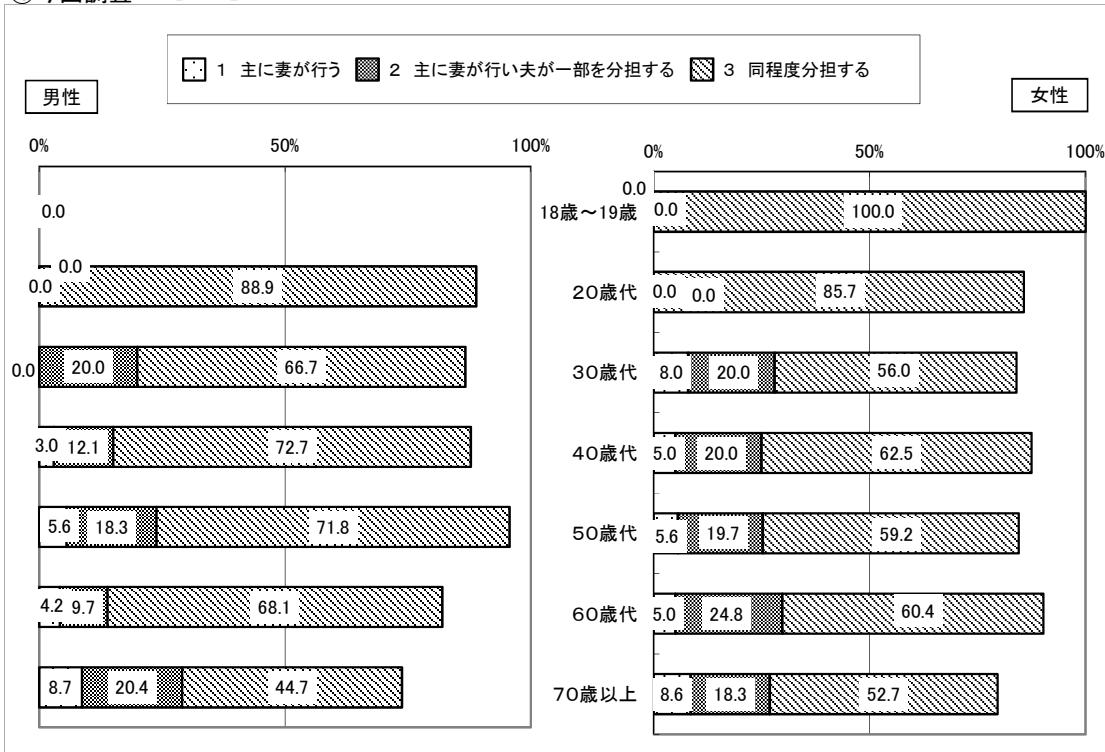
「同程度分担する」と回答した女性は、全ての年代で5割を超えてい。

N=650

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103

④今回調査

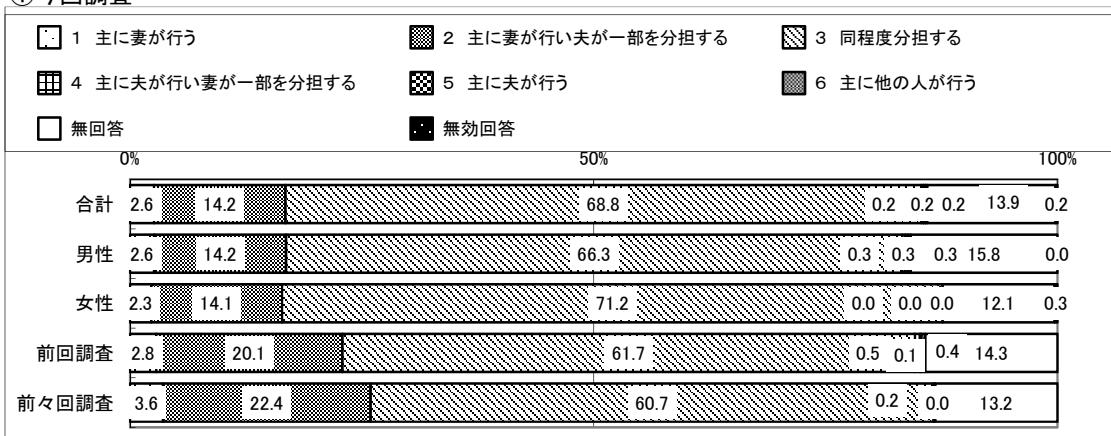
【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



問8(6)理想の役割分担 育児

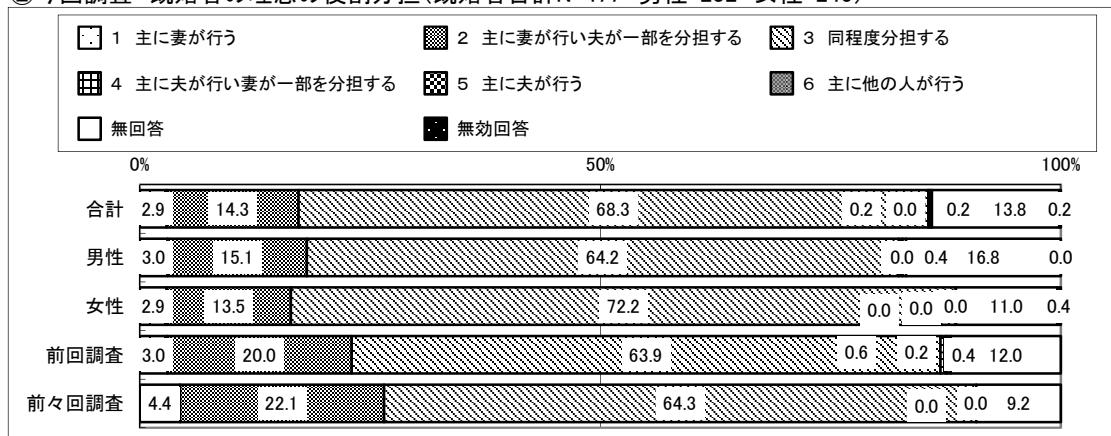
育児の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは16.8%であり、前回調査(22.9%)より6.1ポイント減少している。男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(16.8%)は前回調査(22.0%)より5.2ポイント減少し、女性(16.4%)は前回調査(23.5%)より7.1ポイント減少している。

①今回調査



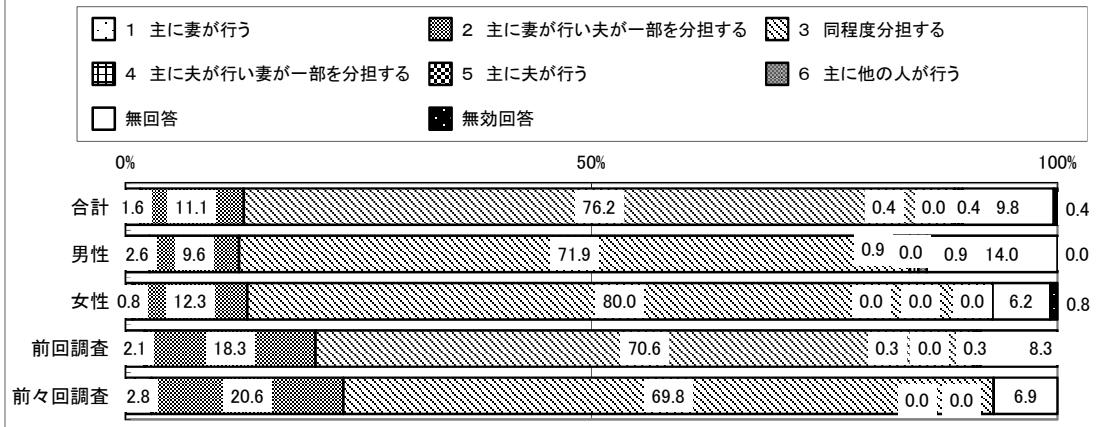
既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは17.2%であり、回答者全体(16.8%)と比較すると0.4ポイント高い。「同程度分担する」は回答者全体(68.8%)においても、既婚者(68.3%)においても6割を超える。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、育児を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは12.7%であり、回答者全体(16.8%)より4.1ポイント低い。前回調査(20.4%)と比較すると7.7ポイント減少している。男女別にみると、男性(12.2%)は前回調査(22.4%)より10.2ポイント減少、女性(13.1%)は前回調査(18.2%)より5.1ポイント減少している。「同程度分担する」と回答したものは76.2%であり、回答者全体(68.8%)より7.4ポイント高く、既婚者回答者(68.3%)より7.9ポイント高い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女共に「70歳以上」で、男性(24.3%)、女性(24.8%)である。

「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したもので、男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性(11.1%)と女性(0.0%)は、男性が11.1ポイント高い。

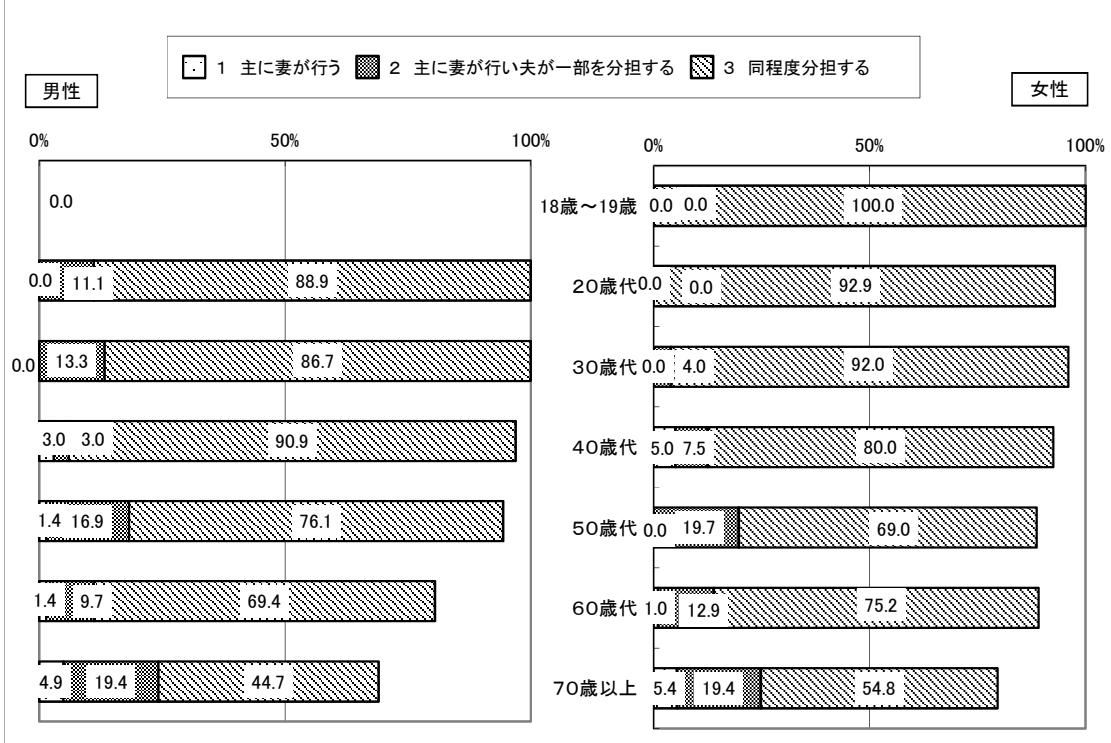
男女共に「同程度分担する」と回答したものが8割を超えたのは男性では「20歳代」(88.9%)、「30歳代」(86.7%)、「40歳代」(90.9%)、女性では「18歳～19歳」(100%)、「20歳代」(92.9%)、「30歳代」(92.0%)、「40歳代」(80.0%)、「50歳代」(69.0%)、「60歳代」(75.2%)、「70歳以上」(54.8%)であった。

N=650

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103

【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93

④今回調査



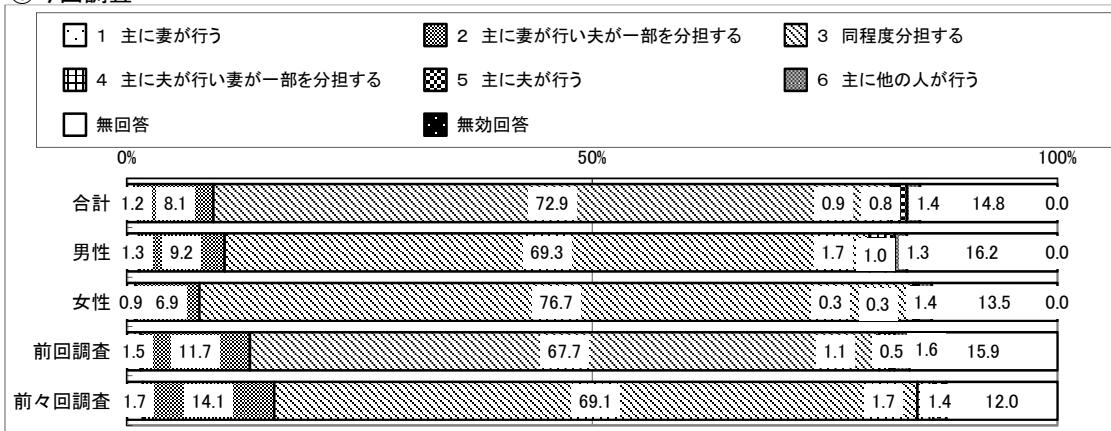
問8(7)理想の役割分担 介護・看護

介護・看護の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは9.3%であり、前回調査(13.2%)より3.9ポイント減少している。

男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答した男性(10.5%)は前回調査(12.1%)より1.6ポイント減少し、女性(7.8%)は前回調査(13.9%)より6.1ポイント減少している。

「同程度分担する」と回答したものは72.9%であり、前回調査(67.7%)より5.2ポイント増加している。

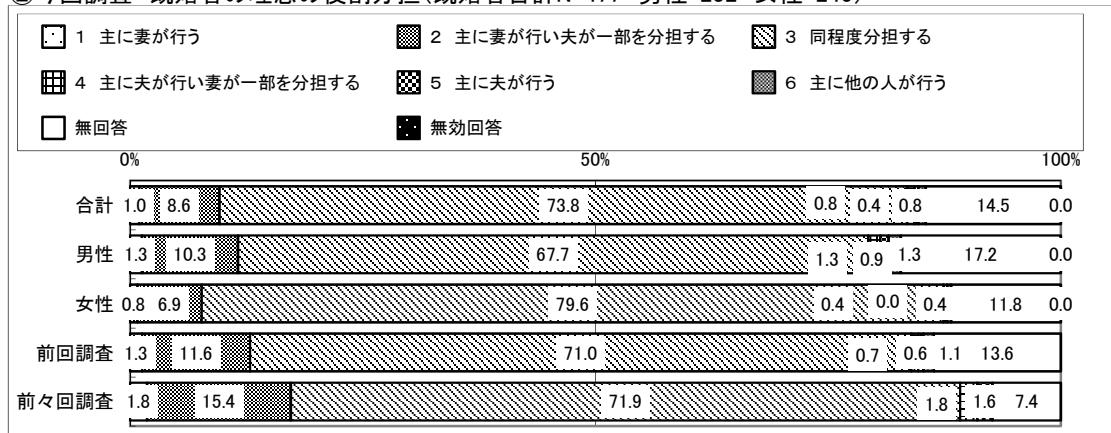
①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは9.6%であり、回答者全体(9.3%)と比較すると0.3ポイント高い。

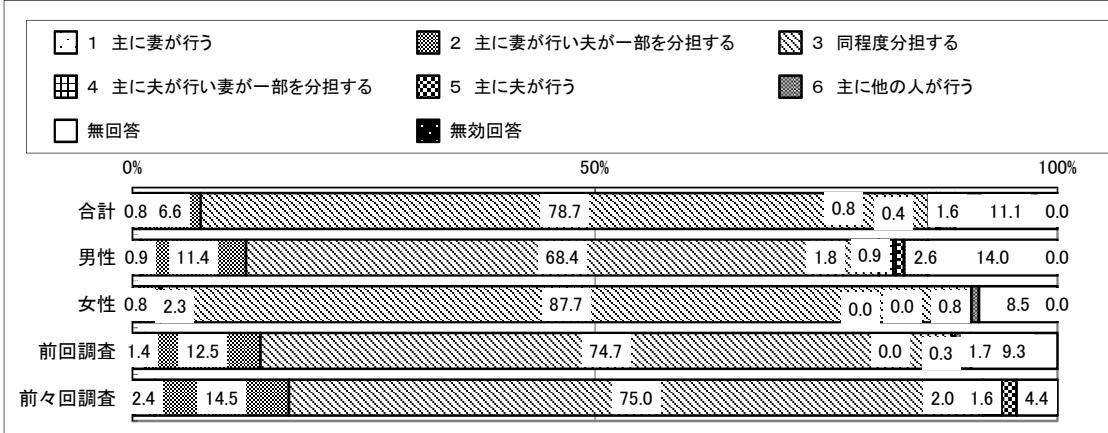
「同程度分担する」と回答したものは73.8%であり、前回調査(71.0%)より2.8ポイント増加している。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、介護・看護を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは7.4%であり、回答者全体(9.3%)より1.9ポイント低い。前回調査(13.8%)と比較すると、6.4ポイント減少している。男女別にみると、男性(12.3%)は前回調査(15.1%)より2.8ポイント減少、女性(3.1%)は前回調査(12.4%)より9.3ポイント減少している。「同程度分担する」と回答したものは78.7%であり、前回調査(74.7%)より4.0ポイント増加している。男女別にみると、男性(68.4%)、女性(87.7%)と、19.3ポイントの差がある。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものの割合が最も高い年代は、男女共に「70歳以上」で、男性(13.6%)、女性(11.9%)である。

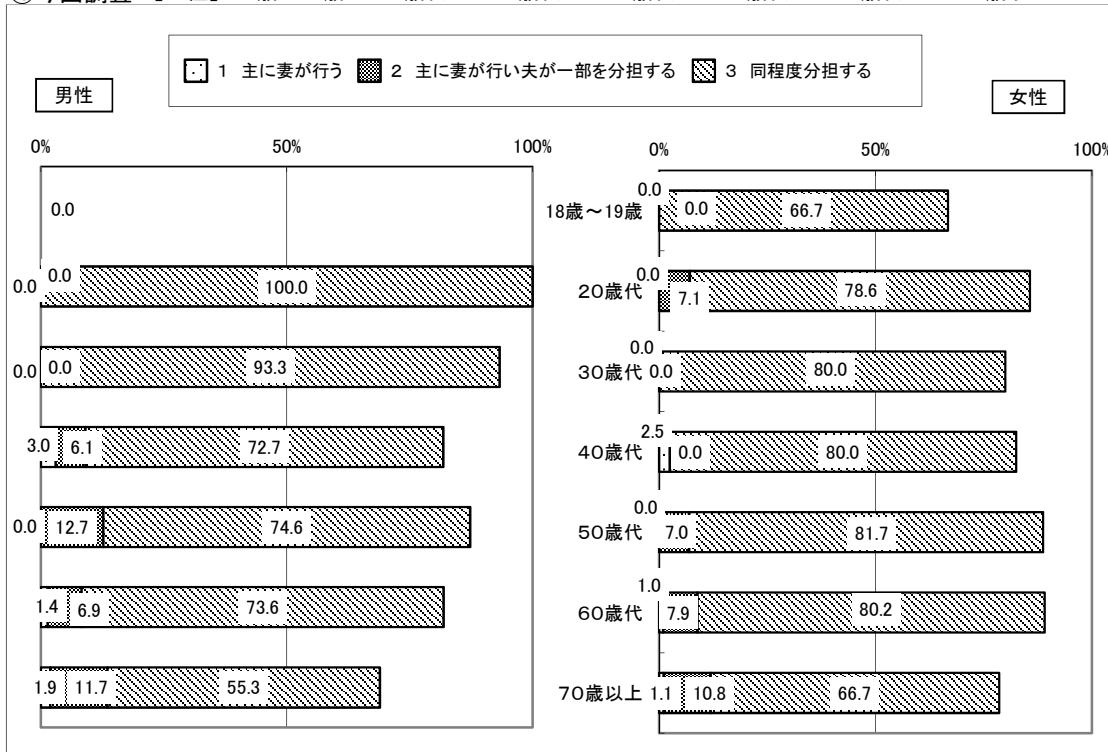
男女差が最も大きい年代は「20歳代」であり男性(0.0%)、女性(7.1%)で女性が7.1ポイント高い。次いで「40歳以上」で男性(9.1%)、女性(2.5%)で男性が6.6ポイント高い。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性「20歳代」(100.0%)、女性「50歳代」(81.7%)であった。

N=650

【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103

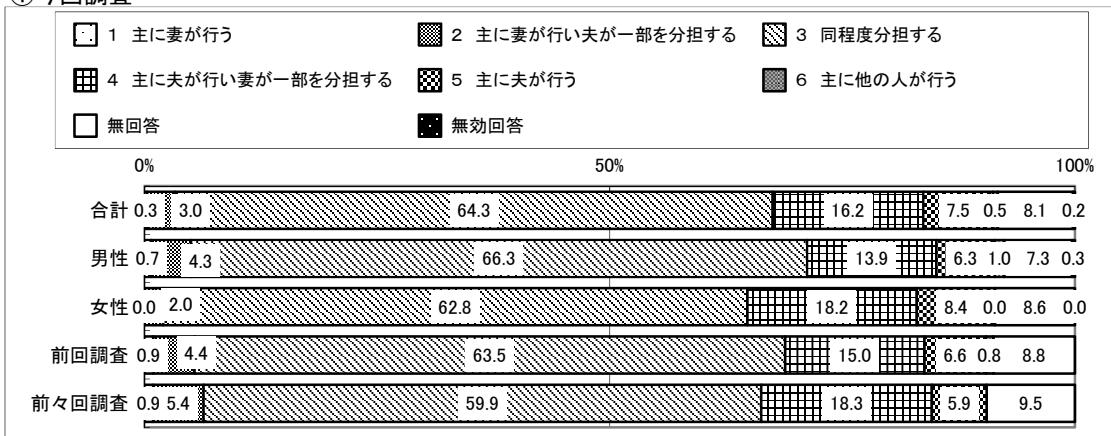
④今回調査 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



問8(8)理想の役割分担 地域の行事に参加

地域の行事に参加の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは3.3%であり、前回調査(5.4%)より2.1ポイント減少している。
 「同程度分担する」と回答したものは64.3%であり、前回調査(63.5%)より0.8ポイント増加している。

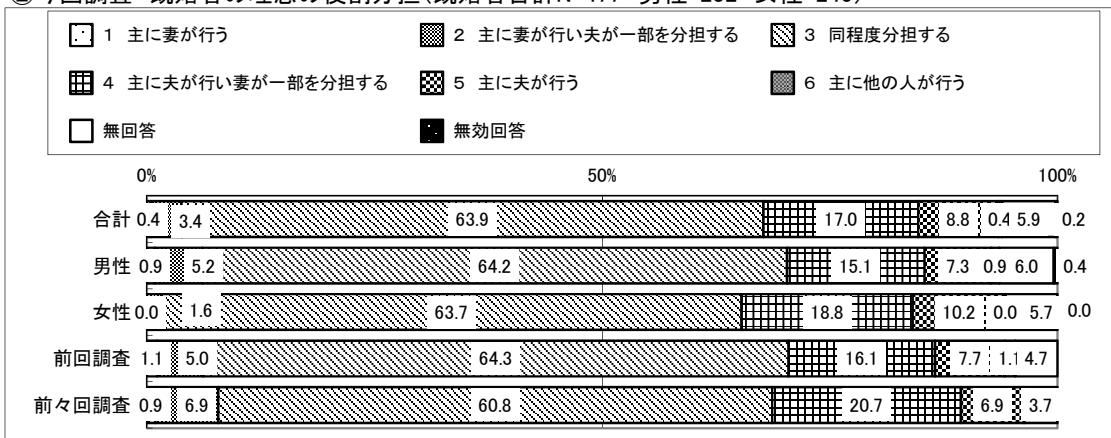
①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは3.8%であり、回答者全体(3.3%)と比較すると0.5ポイント高い。

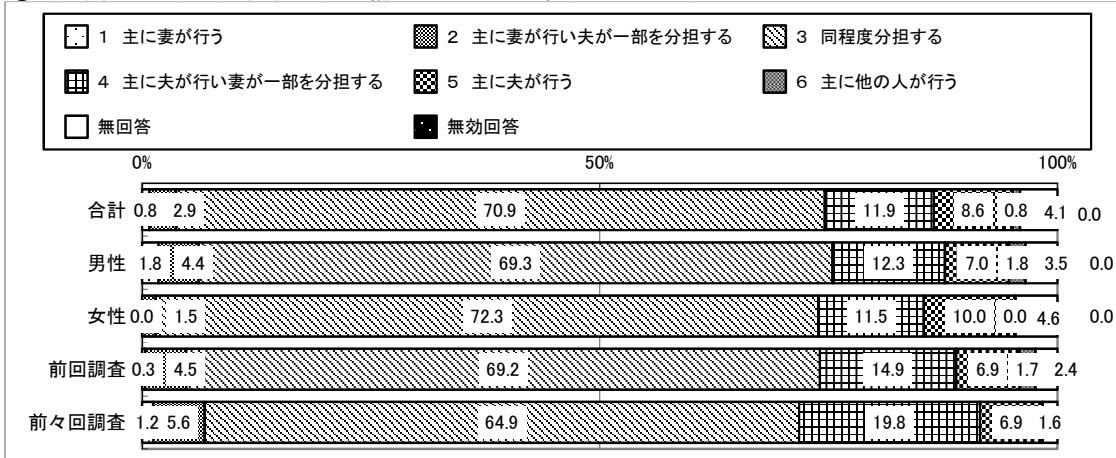
「同程度分担する」と回答したものは63.9%であり、前回調査(64.3%)より0.4ポイント減少している。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、地域の行事に参加を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う（夫が一部負担含む）」と回答したものは3.7%であり、前回調査（4.8%）と比較すると、1.1ポイント減少している。
 「同程度分担する」と回答したものは70.9%であり、回答者全体（64.3%）より6.6ポイント高く、既婚者回答者（63.9%）より7.0ポイント高い。

③今回調査 共働き回答者の性別構成（合計=244 男性=114 女性=130）

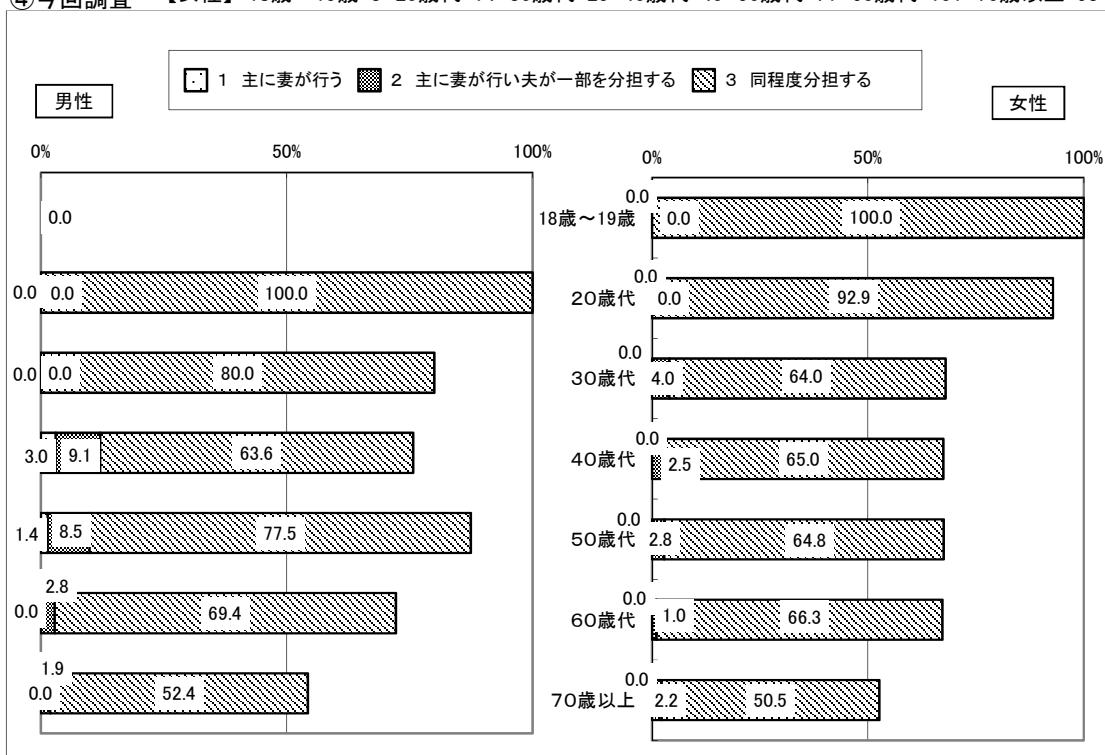


※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、③配偶者の職業が「無職（職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答）」以外、
 ④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「主に妻が行う（夫が一部負担含む）」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性で「40歳代」（12.1%）、女性で「30歳」（4.0%）である。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高い年代は、男性で「20歳代」（100.0%）、女性で「18歳～19歳」（100.0%）である。

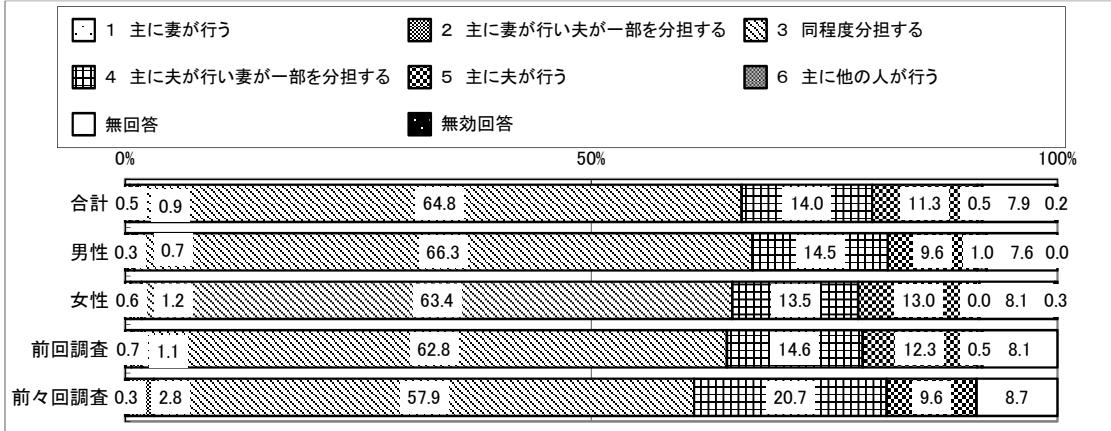
N=650
 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103
 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



問8(9)理想の役割分担 高額商品や土地・家屋の購入の決定

高額商品や土地・家屋の購入の決定の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは1.4%であり、前回調査(1.8%)より0.4ポイント減少している。男女別に見ると、「同程度分担する」と回答した男性(66.3%)は前回調査(64.5%)より1.8ポイント増加し、女性(63.4%)は前回調査(61.0%)より2.4ポイント増加している。「同程度分担する」と回答したものは64.8%であり、前回調査(62.8%)より2.0ポイント増加している。

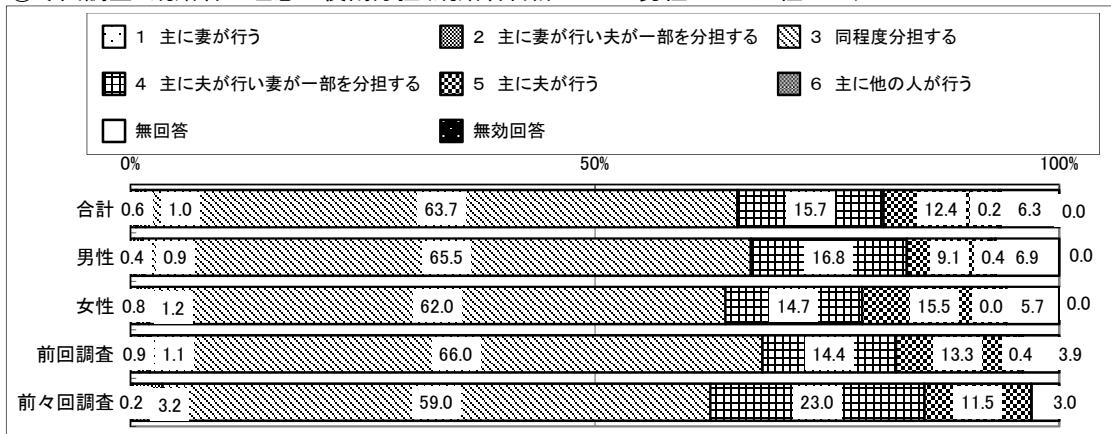
①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは1.6%であり、前回調査(2.1%)と比較すると0.5ポイント減少している。

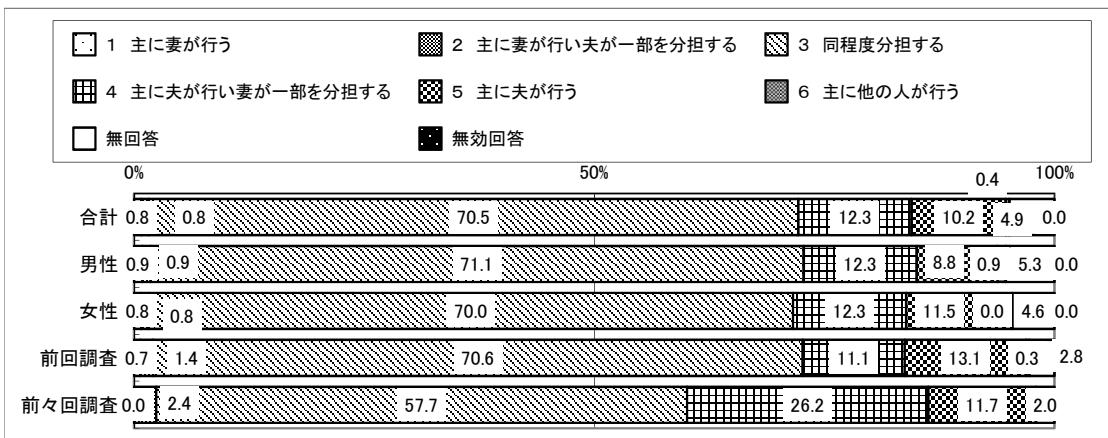
「同程度分担する」と回答した既婚者は63.7%であり、回答者全体(64.8%)より1.1ポイント低い。

②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、高額商品や土地・家屋の購入を主に誰が分担するかの理想は、「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは1.6%であり、回答者全体(1.4%)より0.2ポイント高い。「同程度分担する」と回答したものは70.5%であり、前回調査(70.6%)より0.1ポイント減少している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



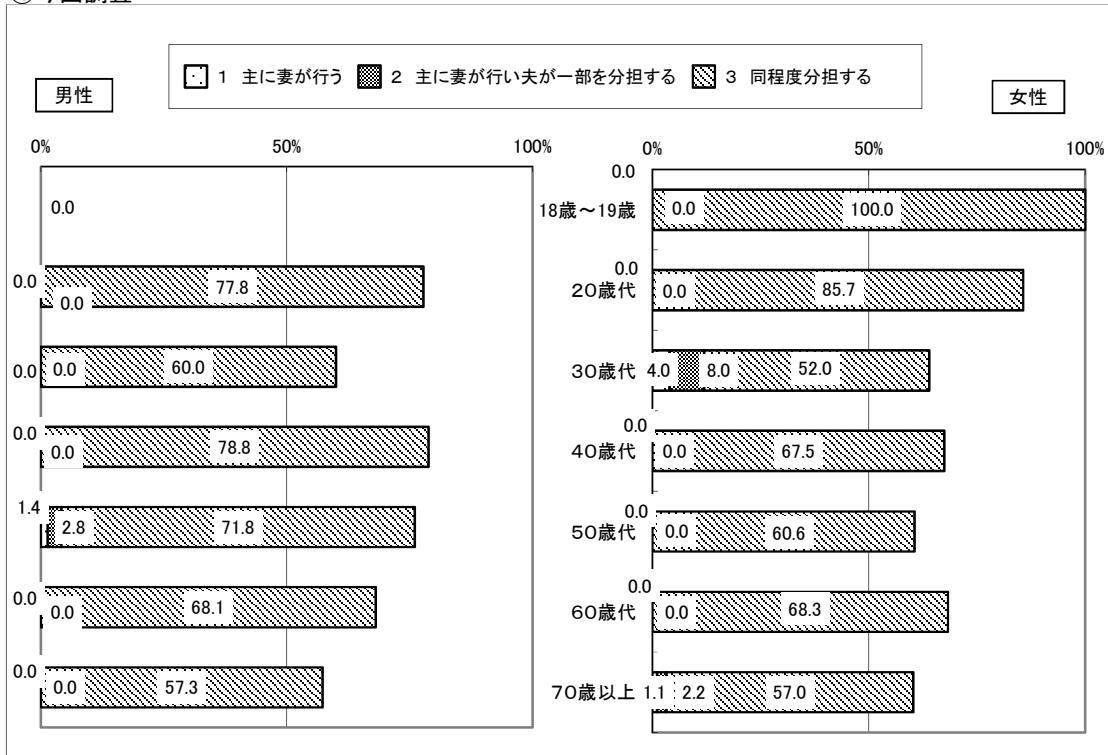
※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、男性は「50歳代」以外全ての年代で、女性は「30歳代」、「70歳以上」以外の年代で「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものはいなかった。

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高いのは、男性で「40歳」(78.8%)、女性で「18歳～19歳」(100.0%)である。

「同程度分担する」と回答したものは、男性では「18歳～19歳」以外の全ての年代で、女性では全ての年代で5割を超えていた。

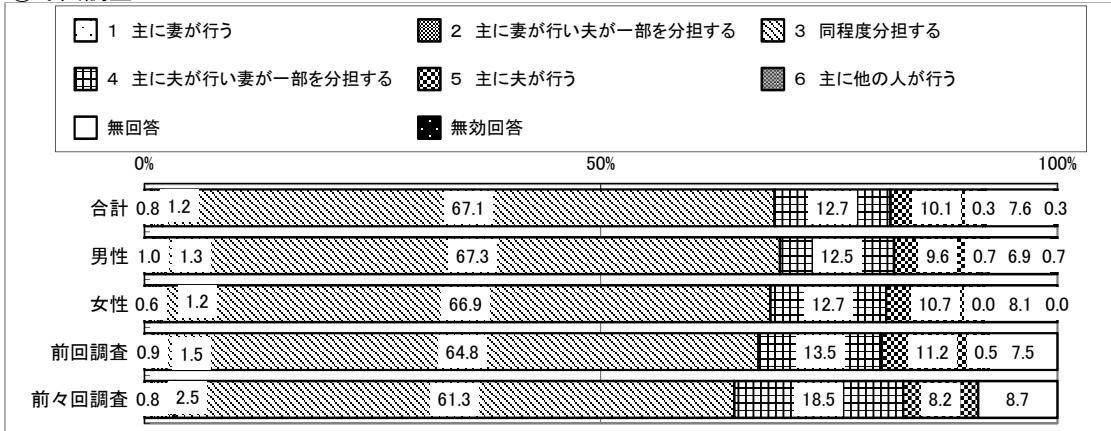
N=650
 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103
 ④今回調査 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



問8(10)理想の役割分担 家庭問題の最終決定

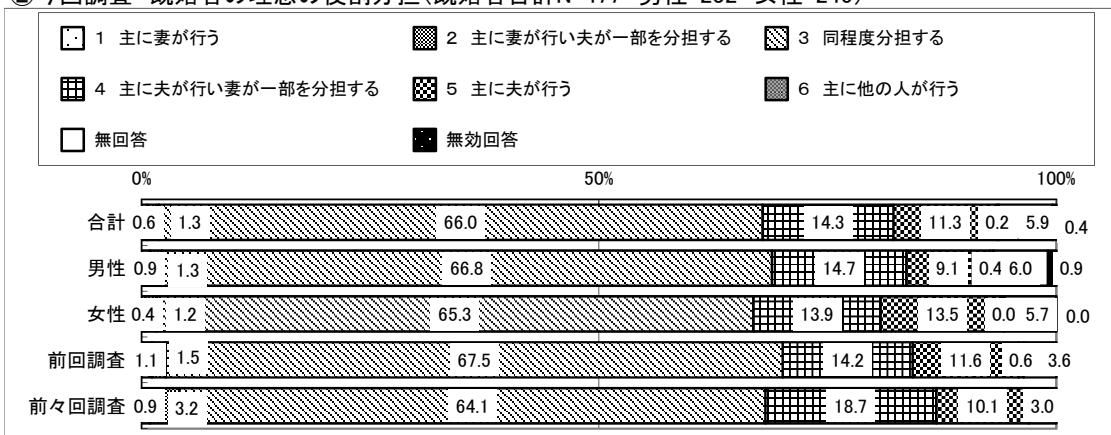
家庭問題の最終決定の役割分担の理想については「主に妻が行う(夫が一部負担含む)」と回答したものは2.0%であり、前回調査(2.4%)より0.4ポイント減少した。
 「同程度分担する」と回答したものは67.1%と、前回調査(64.8%)より2.3ポイント増加した。

①今回調査



既婚者の回答に着目すると、既婚者の理想は、「同程度分担する」と回答したものは66.0%であり、回答者全体(67.1%)と比較すると1.1ポイント低い。

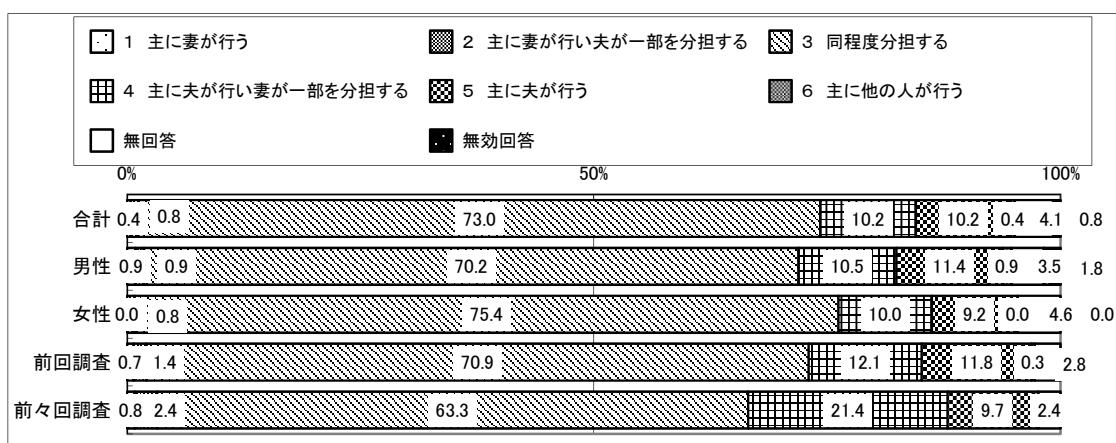
②今回調査 既婚者の理想の役割分担(既婚者合計N=477 男性=232 女性=245)



共働きの回答者に着目すると、家庭問題の最終決定を主に誰が分担するかの理想は、「同程度分担する」と回答したものは73.0%であり、回答者全体(67.1%)より5.9ポイント高く、既婚者(66.0%)より7.0ポイント高い。

「同程度分担する」と回答した男性は70.2%で前回調査(73.0%)より2.8ポイント減少、女性は75.4%で前回調査(68.6%)より6.8ポイント増加している。

③今回調査 共働き回答者の性別構成(合計=244 男性=114 女性=130)



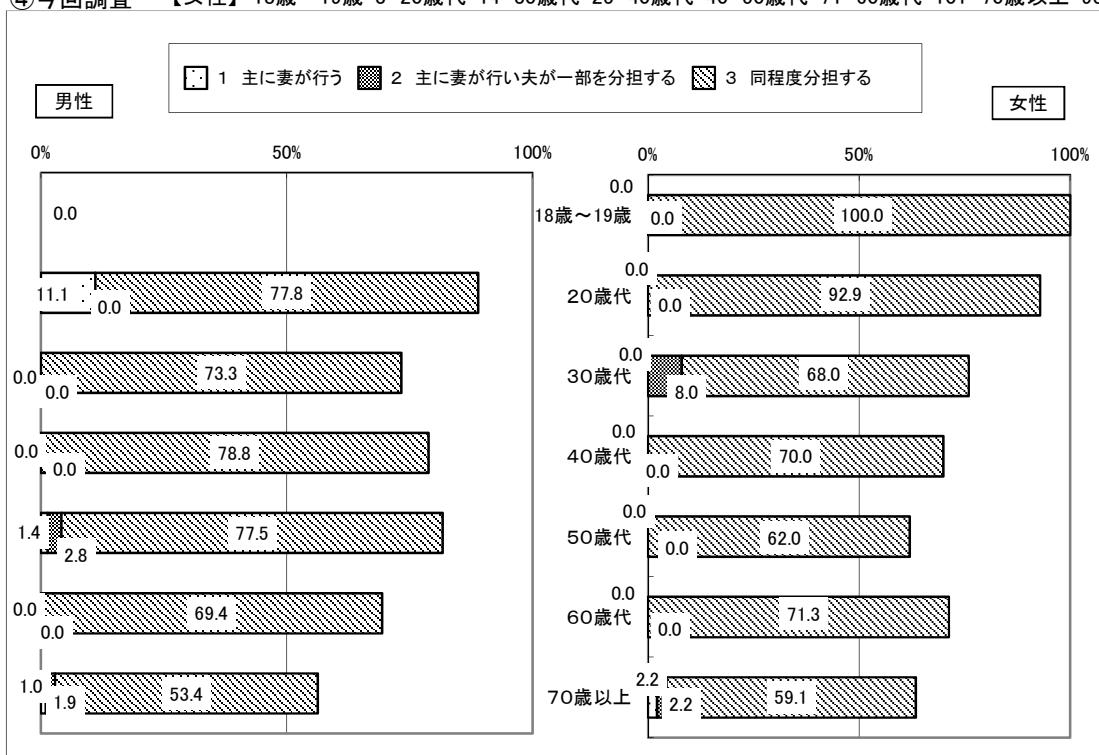
※「共働き」とは、「II 回答者の基本属性」において、①既婚であり、②回答者自身の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、③配偶者の職業が「無職(職業選択肢(7)、(8)、(9)、無回答、無効回答)」以外、④性別・年代の記載がある、以上すべての条件を満たすもの

年代別・男女別にみると、「同程度分担する」と回答したものは、男性では「18歳～19歳」以外の全ての年代で、女性では全ての年代で5割を超えており、

「同程度分担する」と回答したものの割合が最も高いのは、男性は「40歳代」(78.8%)、女性は「18歳～19歳」(100.0%)である。

「同程度分担する」と回答したもので男女差が最も大きい年代は「50歳代」であり、男性(77.5%)と女性(62.0%)では男性の方が15.5ポイント高い。次いで「20歳代」で男性(77.8%)と女性(73.3%)では女性の方が15.1ポイント高い。

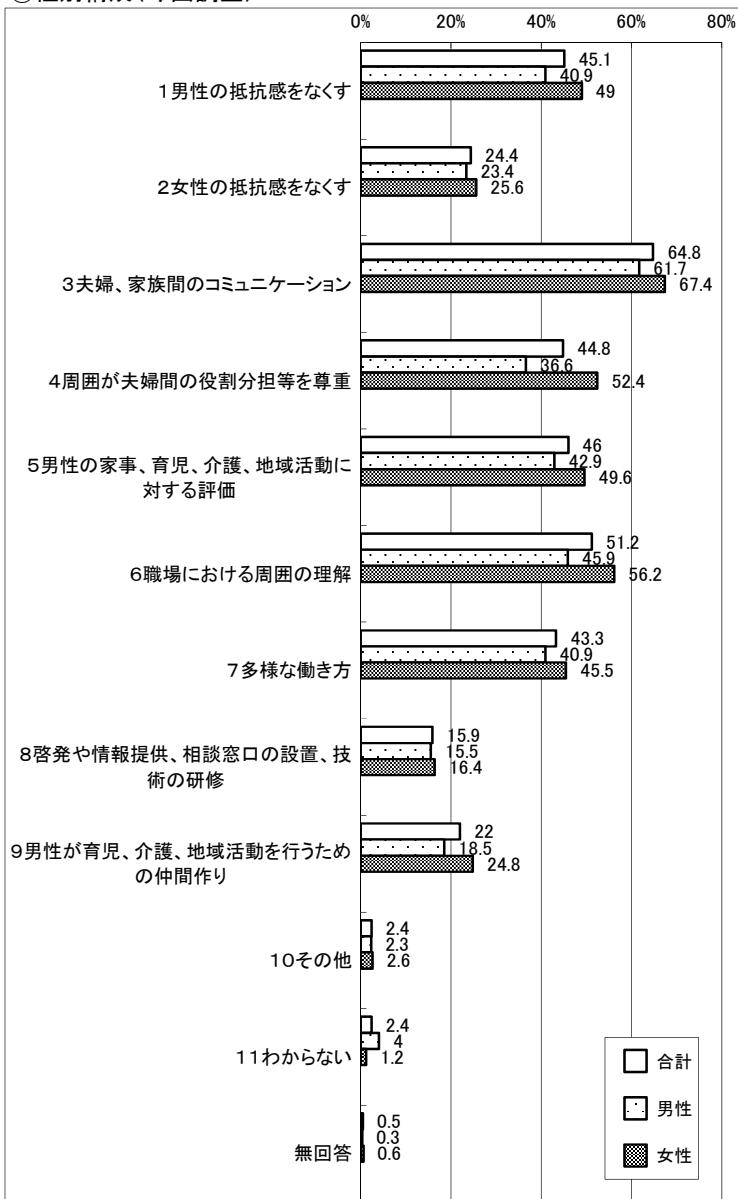
N=650
 【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103
 ④今回調査 【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93



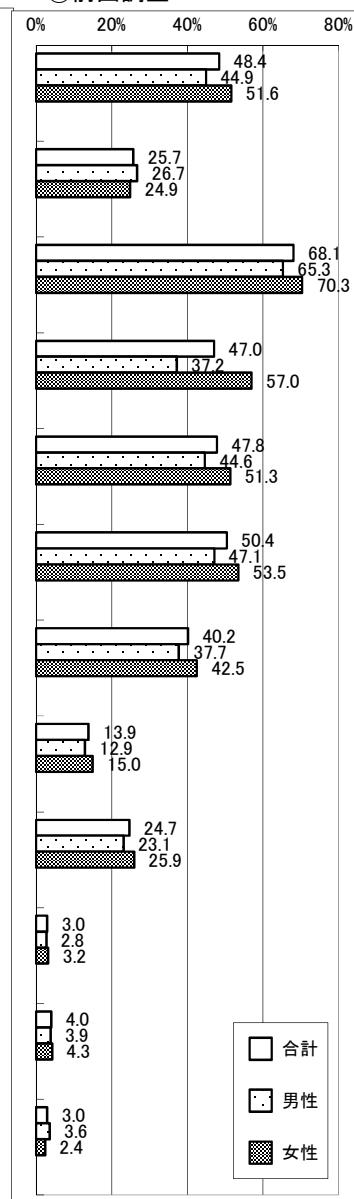
問9 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦、家族間のコミュニケーション」(64.8%)の割合が最も高く、次いで「職場における周囲の理解」(51.2%)、「男性の家事、育児、介護、地域活動に対する評価」(46.0%)が続く。

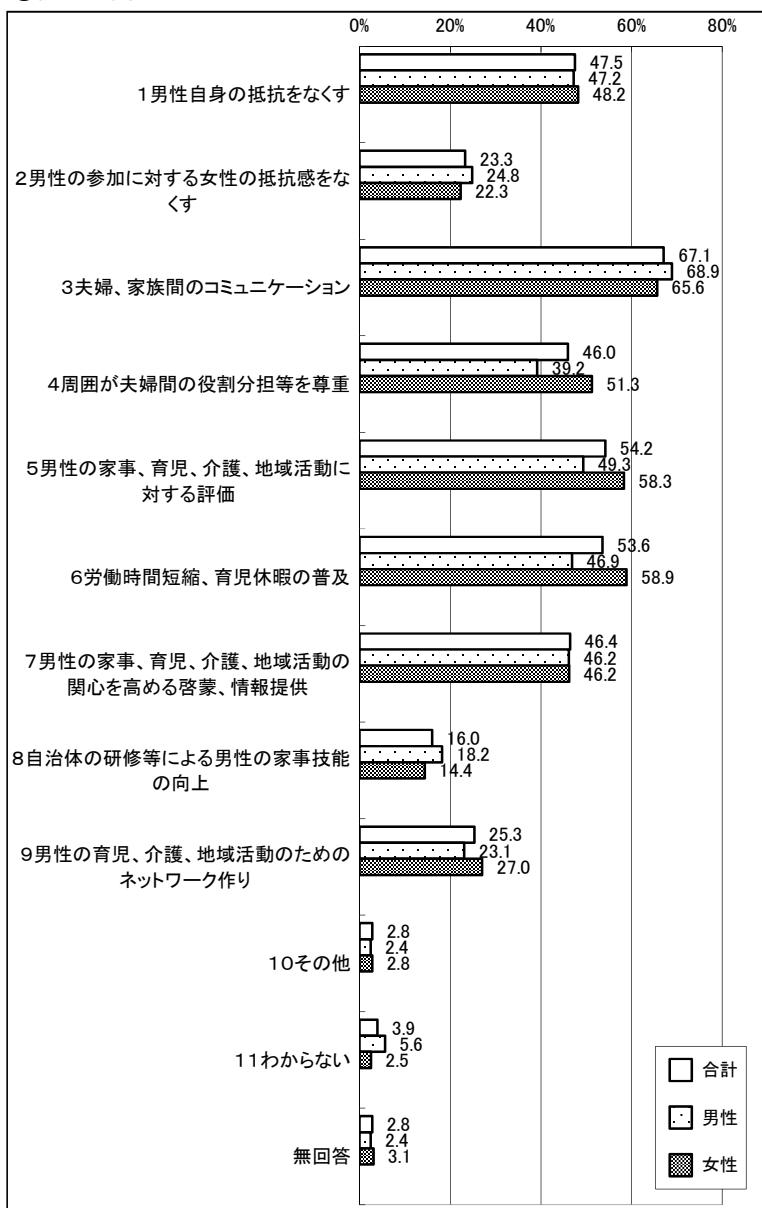
①性別構成(今回調査)



②前回調査



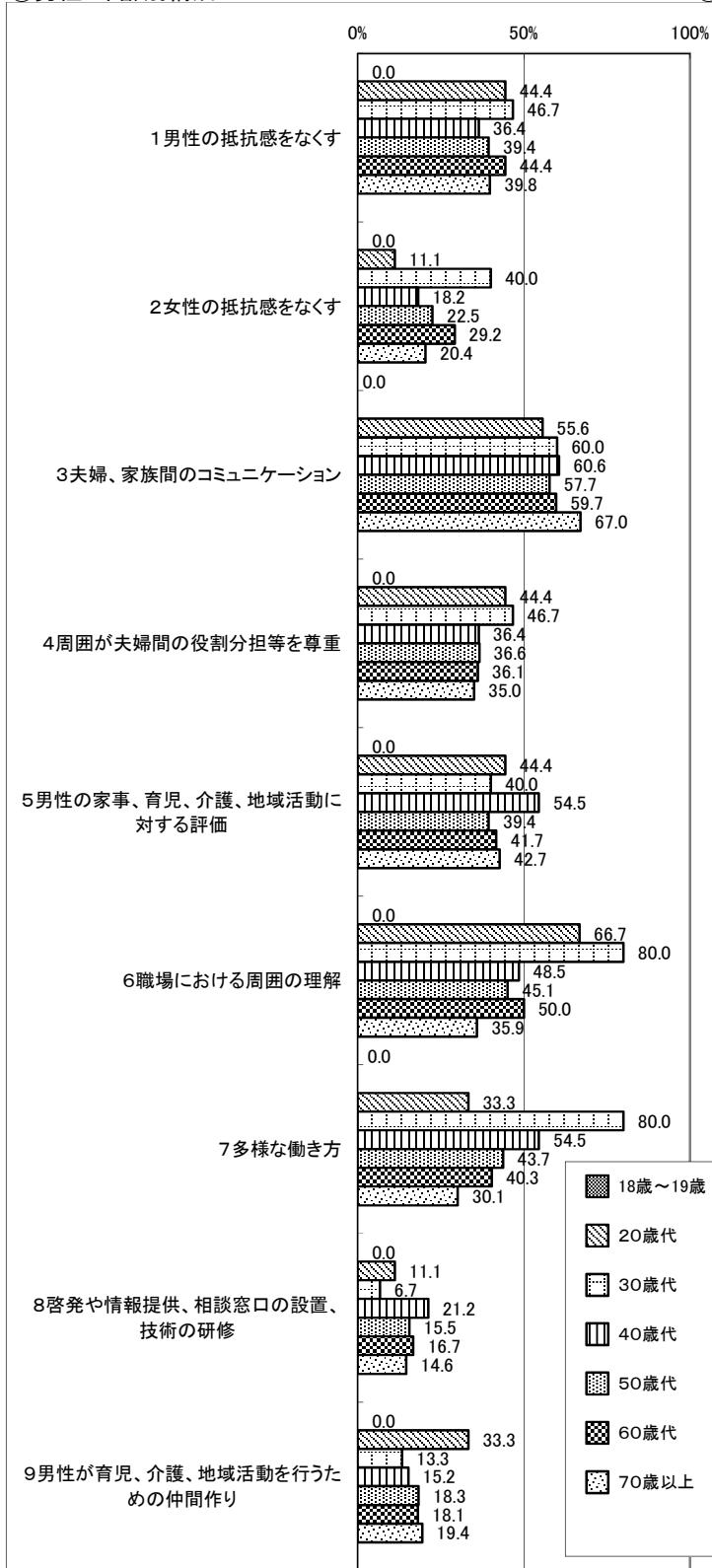
③前々回調査



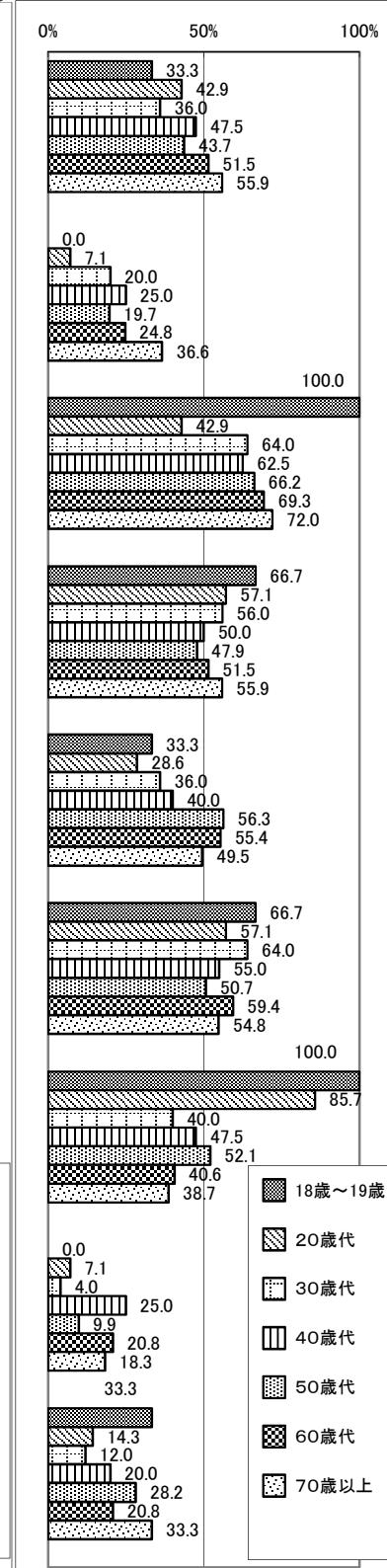
年代別・男女別にみると、男性では18～19歳を除く全ての年代にて「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が5割を超えてい

男女差が最も大きいのは、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」（男性：36.6%、女性：52.4%）であり、女性の方が15.8ポイント高い。次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」（男性：45.9%、女性：56.2%）では女性の方が10.3ポイント高い。

② 男性・年齢別構成



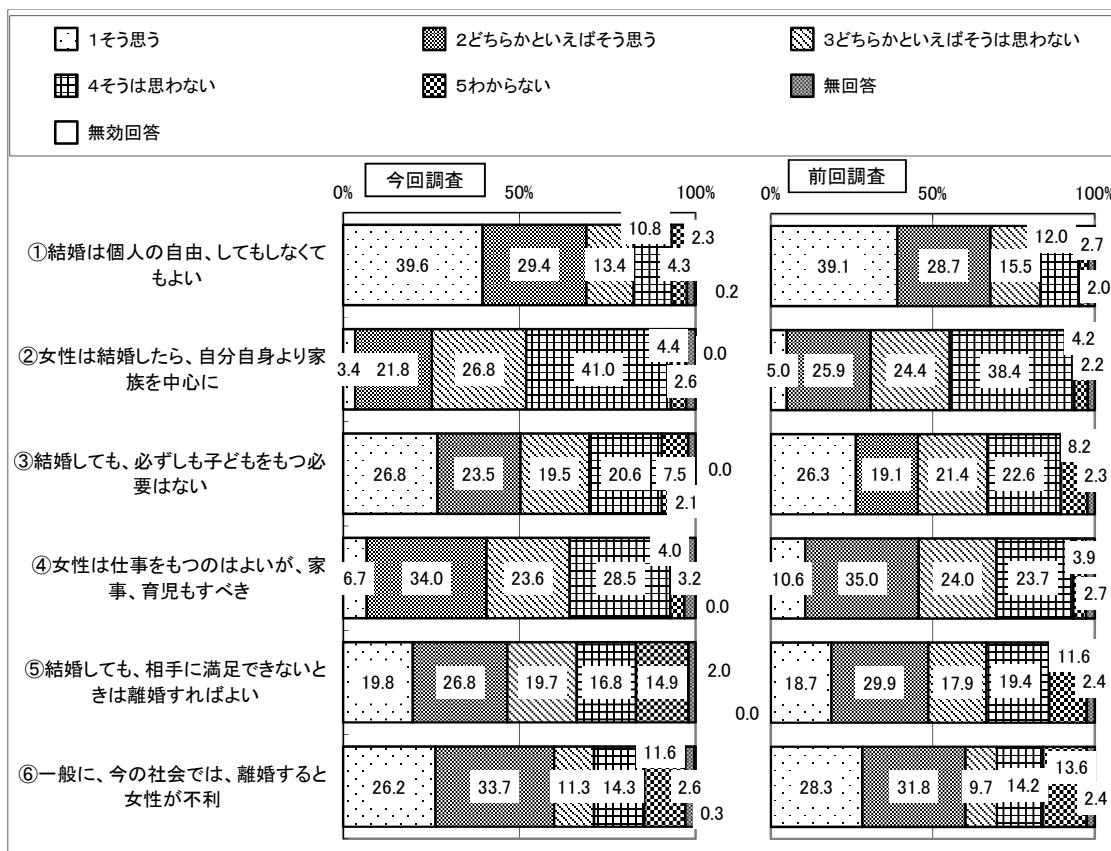
③女性・年齢別構成



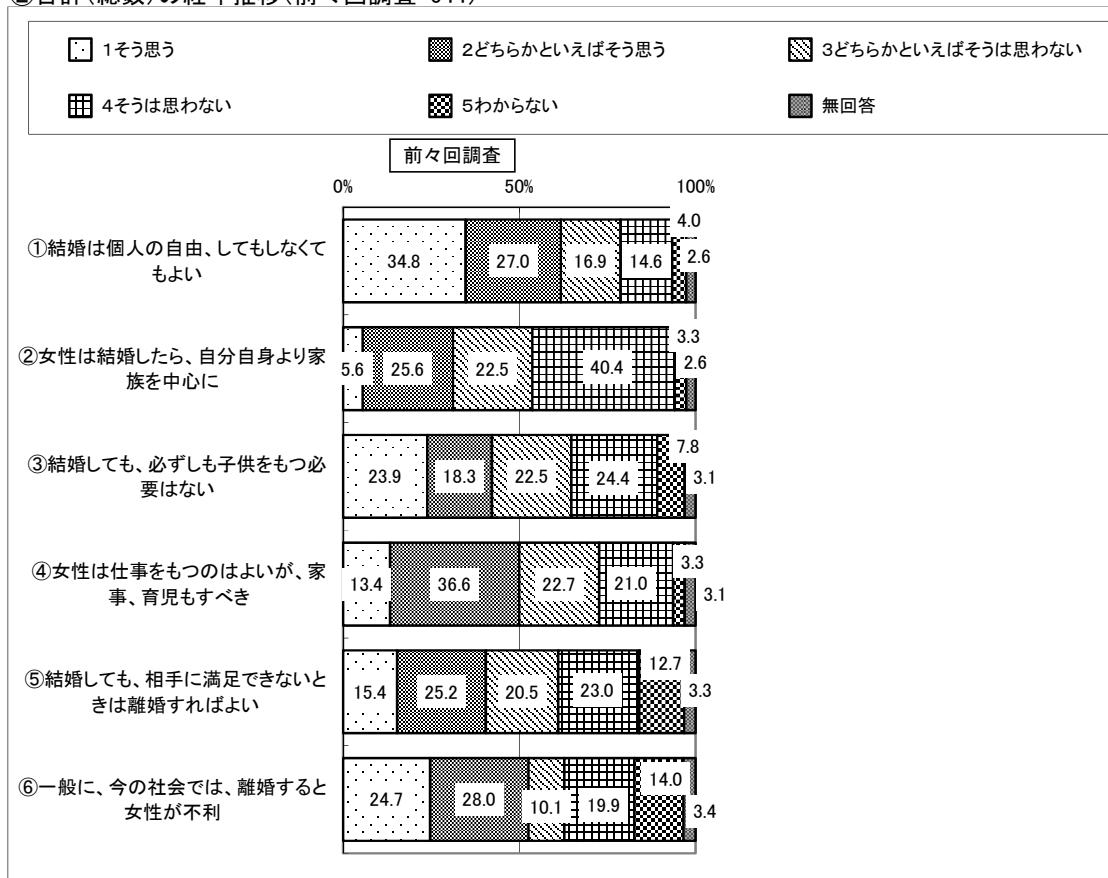
問10 次のうち、あなたのご意見に近いものはどれでしょうか。次の①～⑥の項目ごとに1～5の中から1つずつ選んで番号に○をしてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答したものについて、前回調査と比較して最も多く増加したのは「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」(50.3%)であり、前回調査(45.4%)より4.9ポイント増加した。次いで増加したのは「結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくともどちらでもよい」(69.0%)で前回調査(67.8%)より1.2ポイント増加した。

①合計(総数)の経年推移(今回調査=656 前回調査=742)



②合計(総数)の経年推移(前々回調査=644)



※以下、各テーマごとに行った分析では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答したものを『そう思う』、「どちらかといえばそう思わない」または「そうは思わない」と回答したものを『そうは思わない』と表記する。

問10(1)結婚について

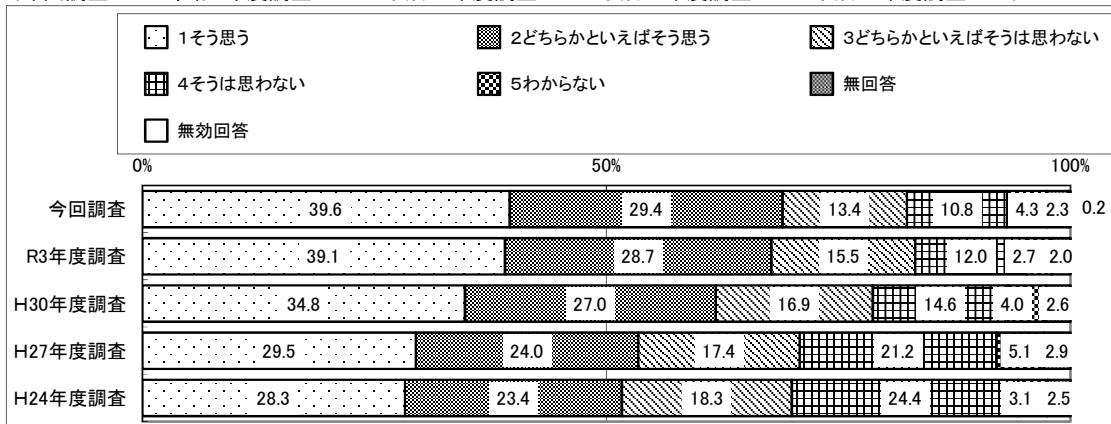
設問「①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくともどちらでもよい」

人は結婚してもしなくともどちらでもよいに対して「そう思う」(39.6%)または「どちらかといふとそう思う」(29.4%)（以下、『そう思う』）と回答したものは69.0%であり、前回調査(67.8%)より1.2ポイント増加した。調査回数を重ねるごとに増加傾向にある。

「そうは思わない」(10.8%)または「どちらかといふとそうは思わない」(13.4%)（以下、『そうは思わない』）と回答したものは24.2%であり、前回調査(27.5%)より3.3ポイント減少した。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

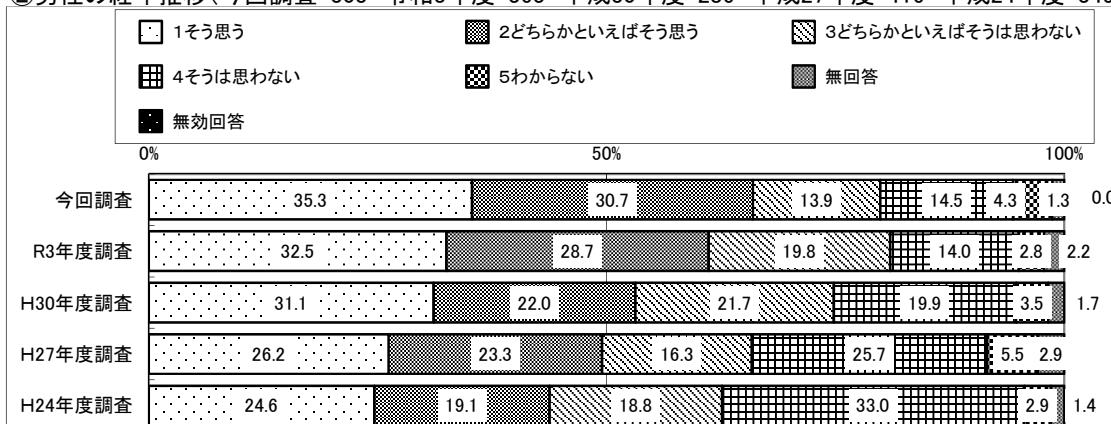


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは66.0%であり、前回調査(61.2%)より4.8ポイント増加した。

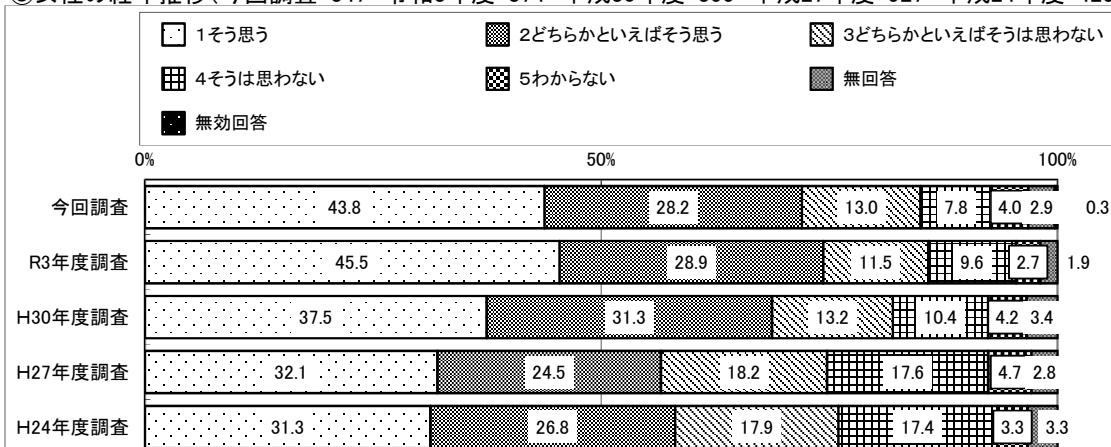
女性で『そう思う』と回答したものは72.0%であり、前回調査(74.4%)より2.4ポイント減少した。

男性より女性の方が『そう思う』と回答したものが多いため傾向は前回調査と同様である。

②男性の経年推移(今回調査=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

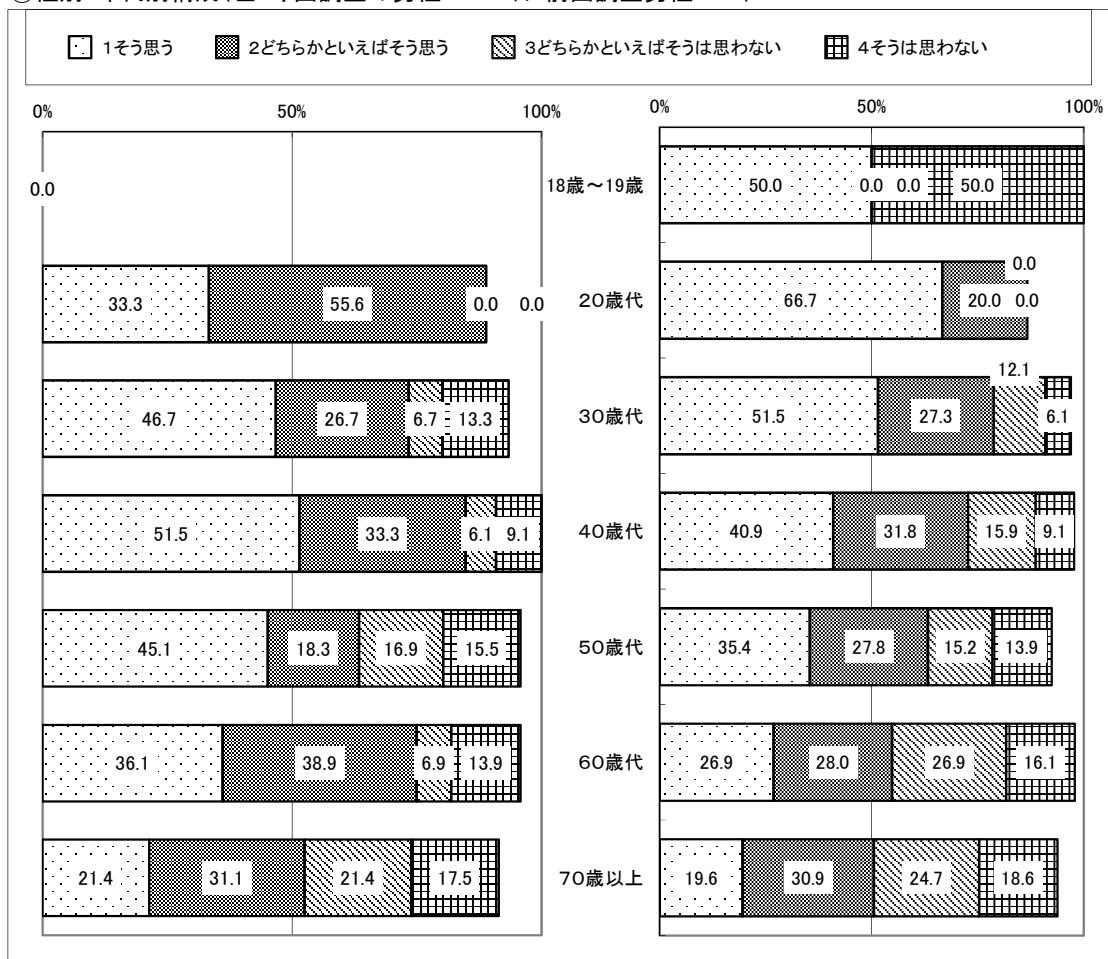


③女性の経年推移(今回調査=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

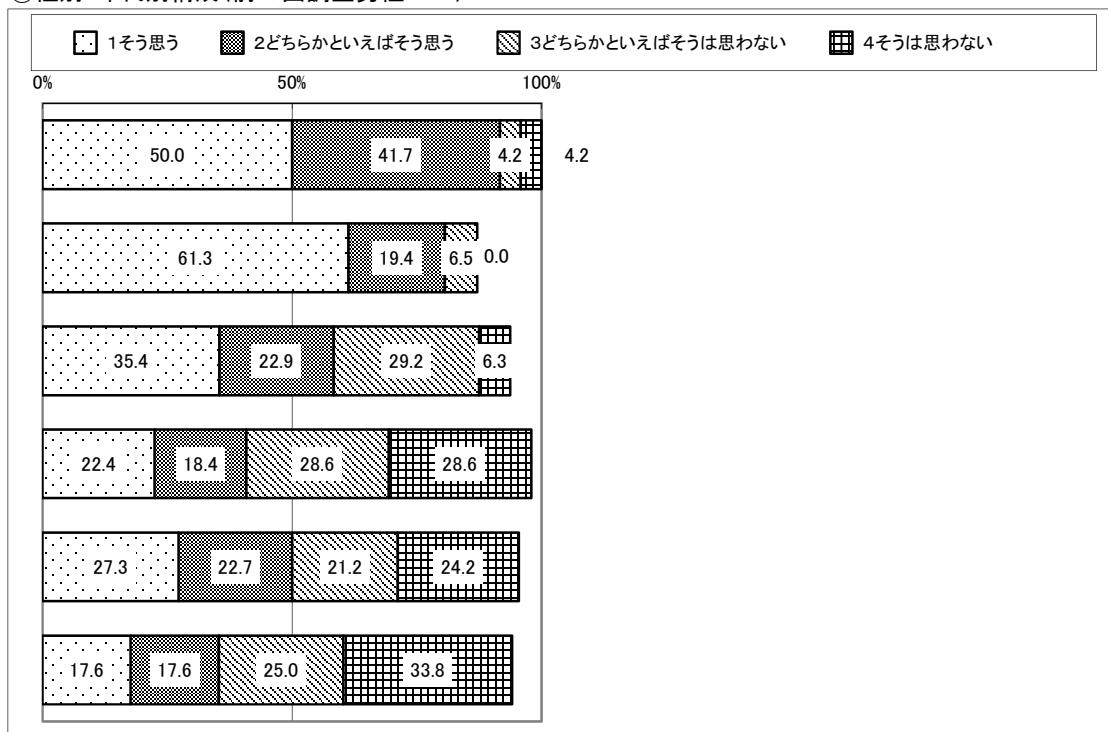


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したもの最も高い年代は、男性では「20歳代」(88.9%)、女性では「20歳代」(100.0%)である。

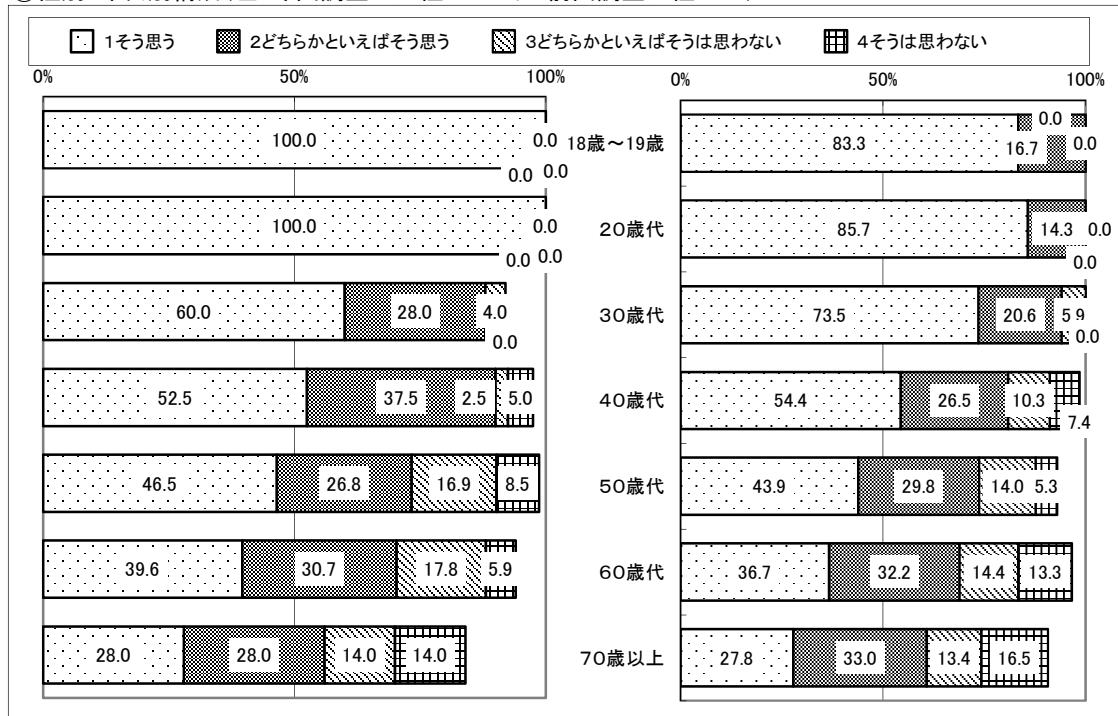
④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)



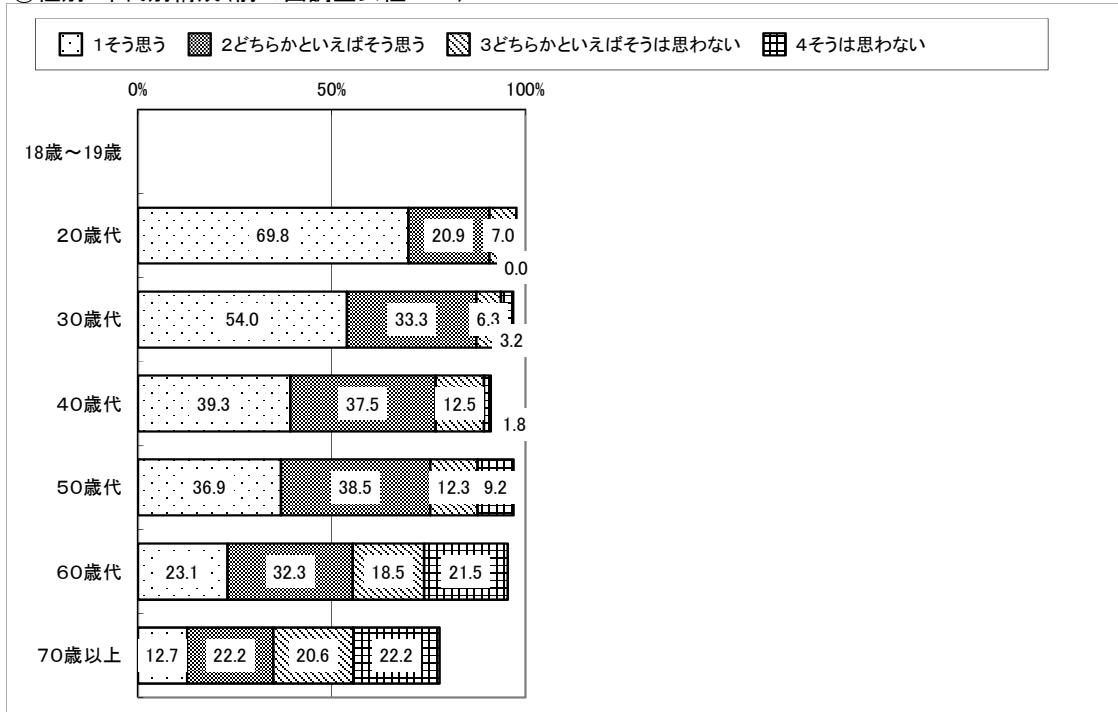
⑤性別・年代別構成(前々回調査男性=286)



⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347 右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)



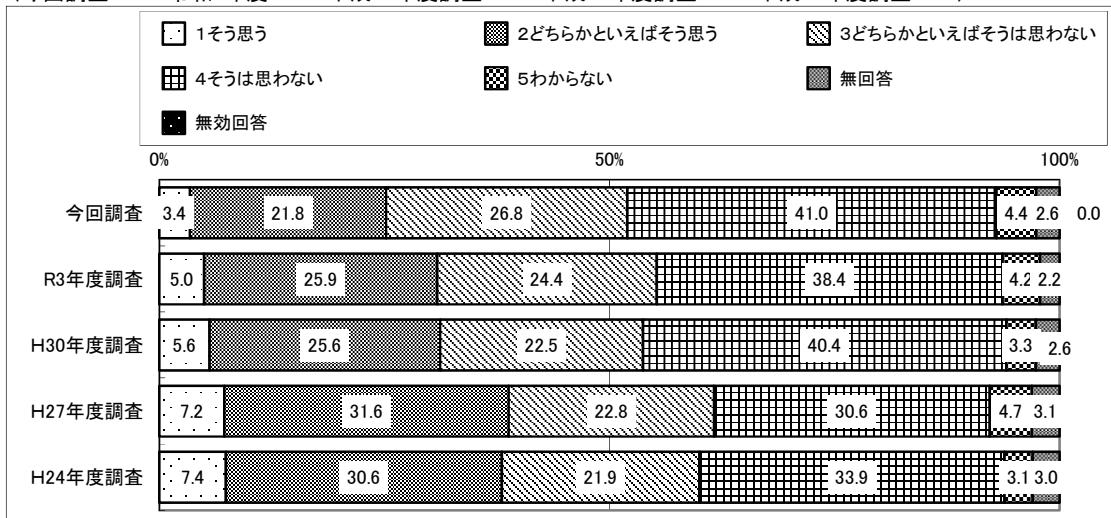
問10(2)家庭について

設問「②女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど、家族を中心に考えて生活したほうがよい」

女性は結婚したら、自分自身のことより家族を中心に考えて生活したほうがよいかどうかに対して『そう思う』と回答したものは25.2%であり、前回調査(30.9%)より5.7ポイント減少した。『そうは思わない』と回答したものは67.8%であり、前回調査(62.8%)より5.0ポイント増加した。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

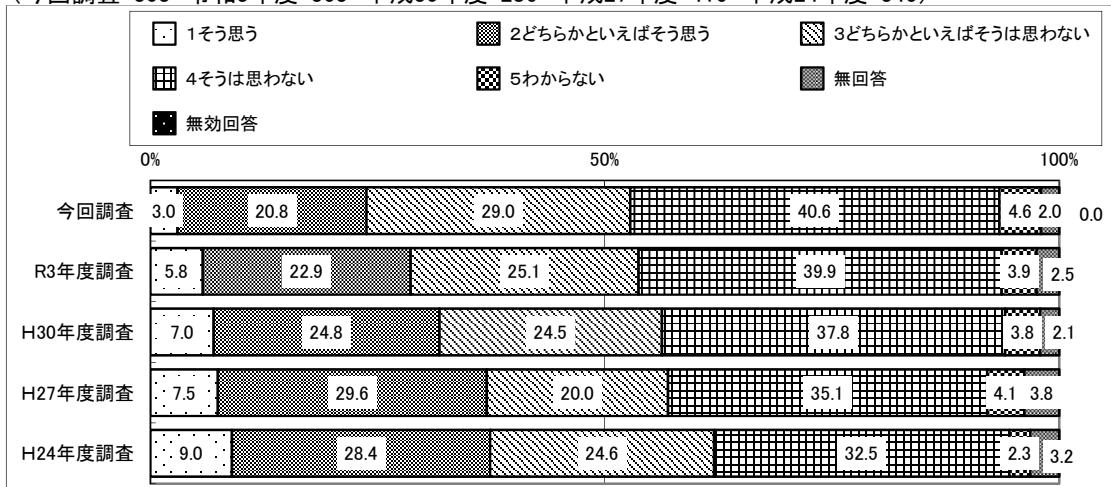


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは23.8%であり、前回調査(28.7%)より4.9ポイント減少している。調査回数を重ねるごとに減少傾向にある。

女性で『そう思う』と回答したものは26.2%であり、前回調査(32.3%)より6.1ポイント減少している。

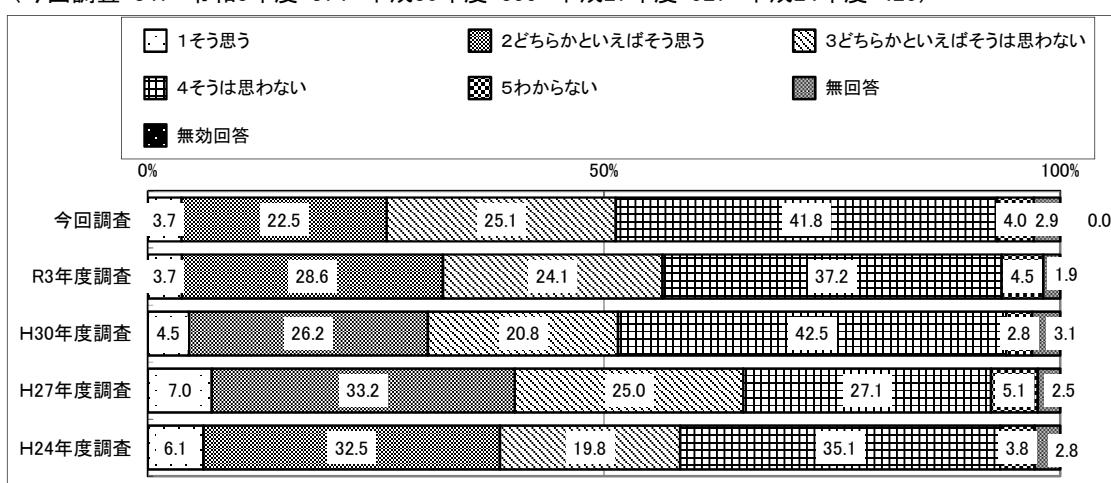
②男性の経年推移

(今回調査=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



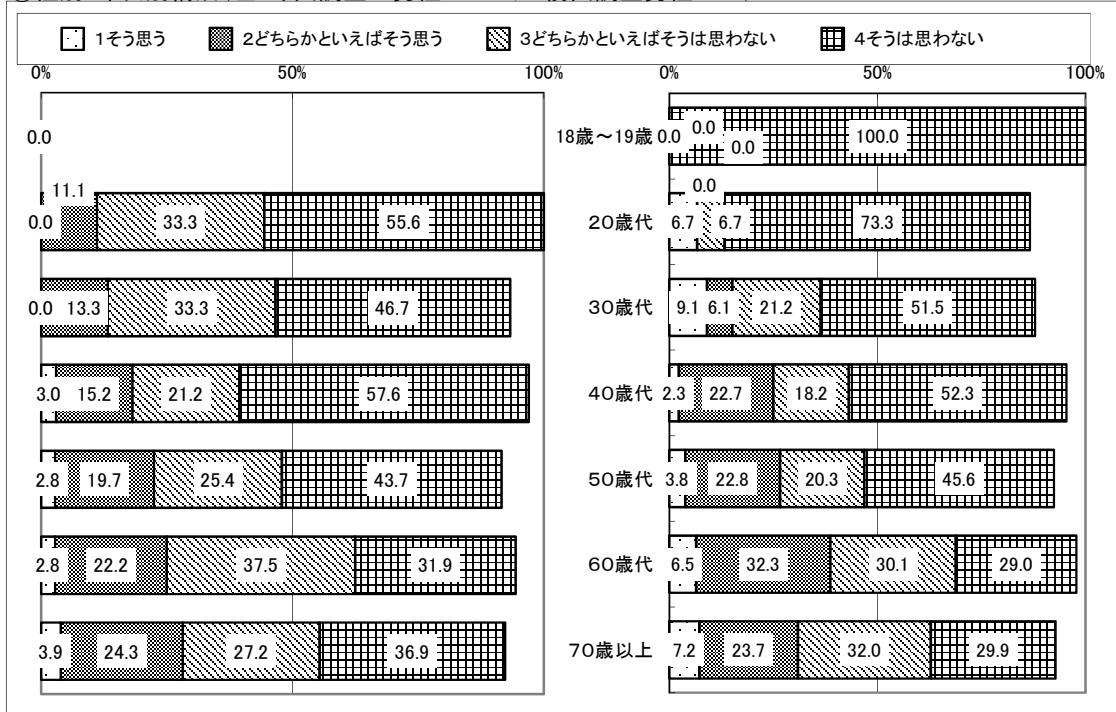
③女性の経年推移

(今回調査=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

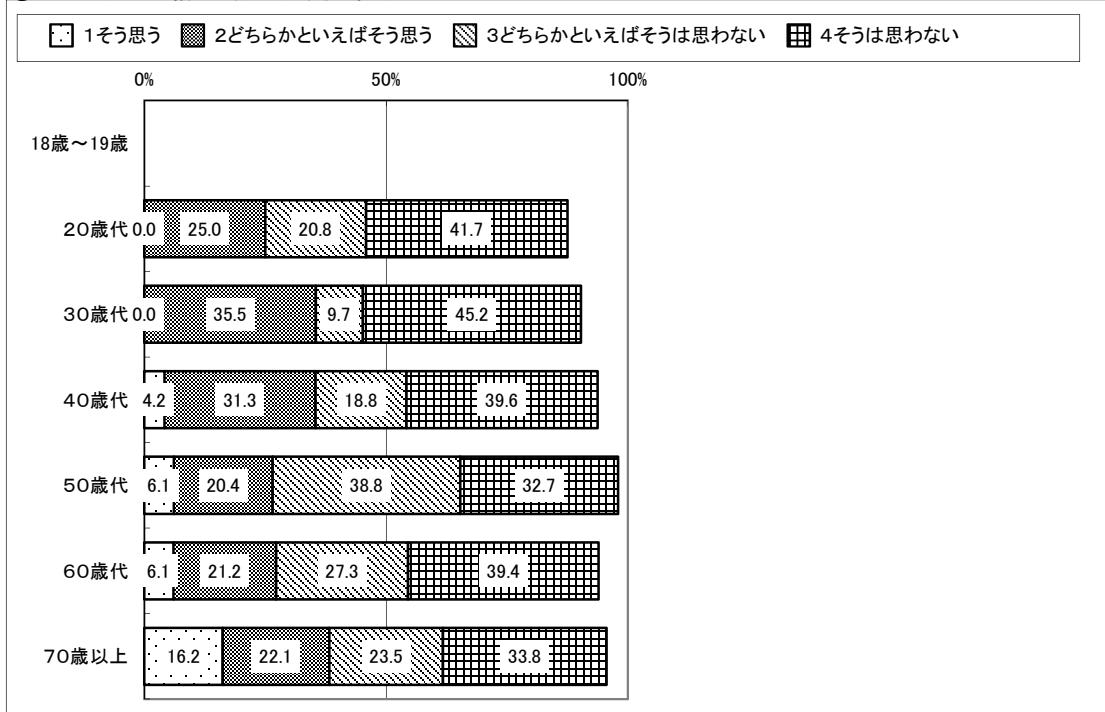


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「70歳代以上」(28.2%)、女性では「70歳以上」(33.4%)である。

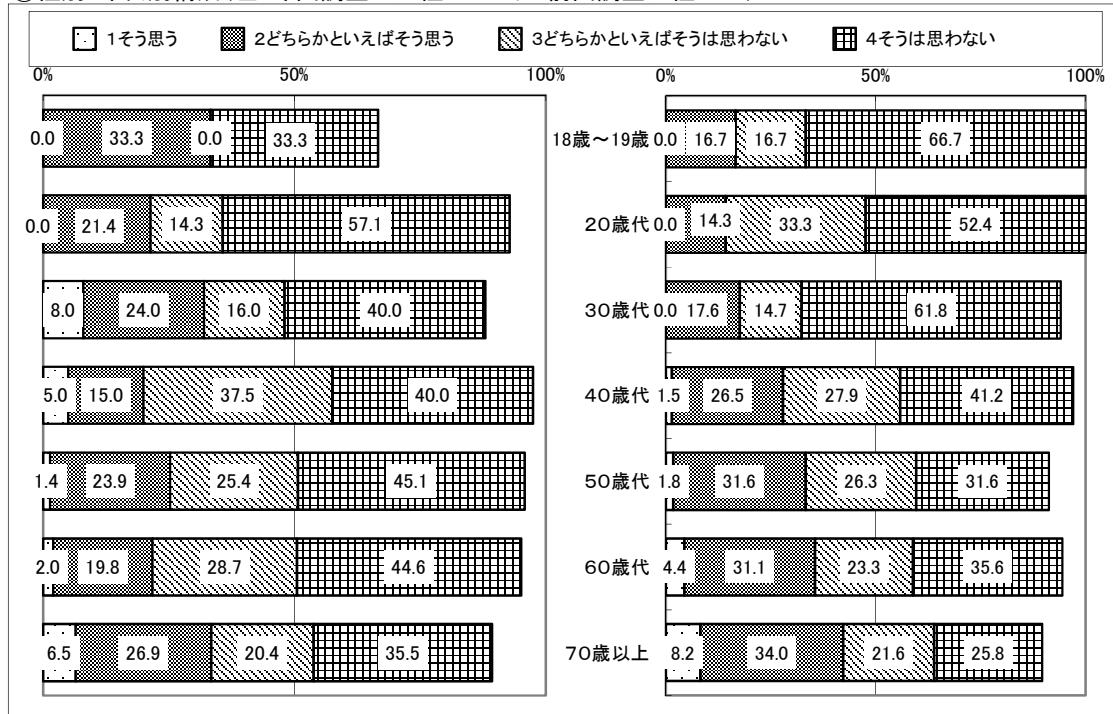
④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)



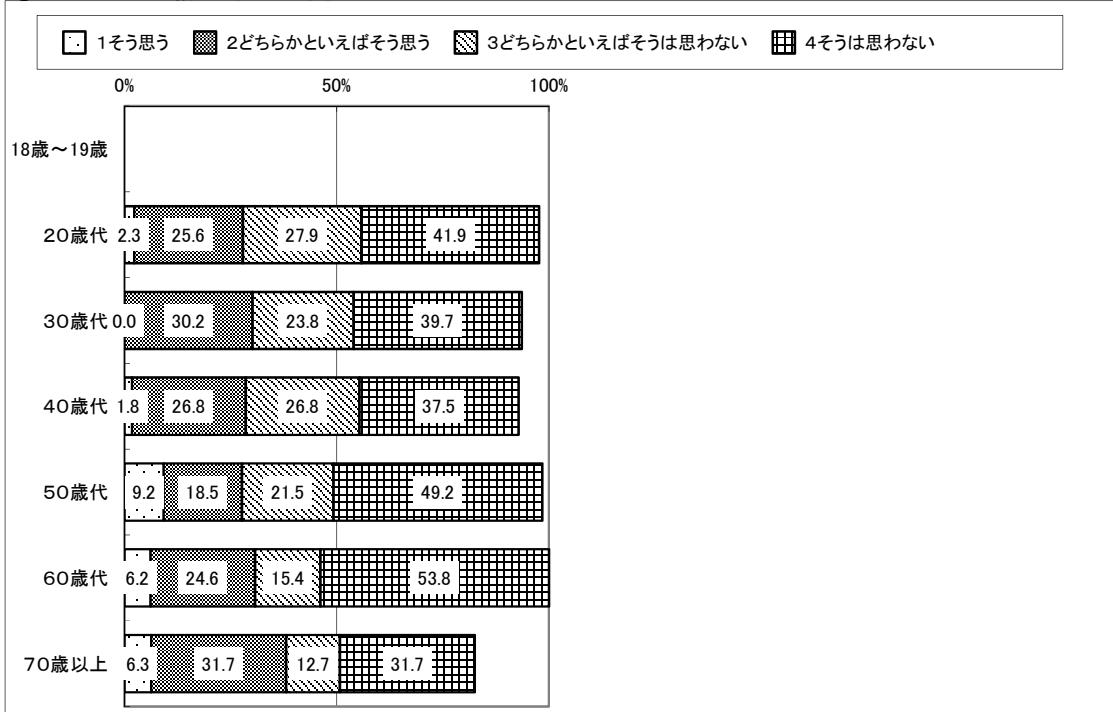
⑤性別・年代別構成(前々回調査男性=286)



⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347 右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)



設問「③結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」

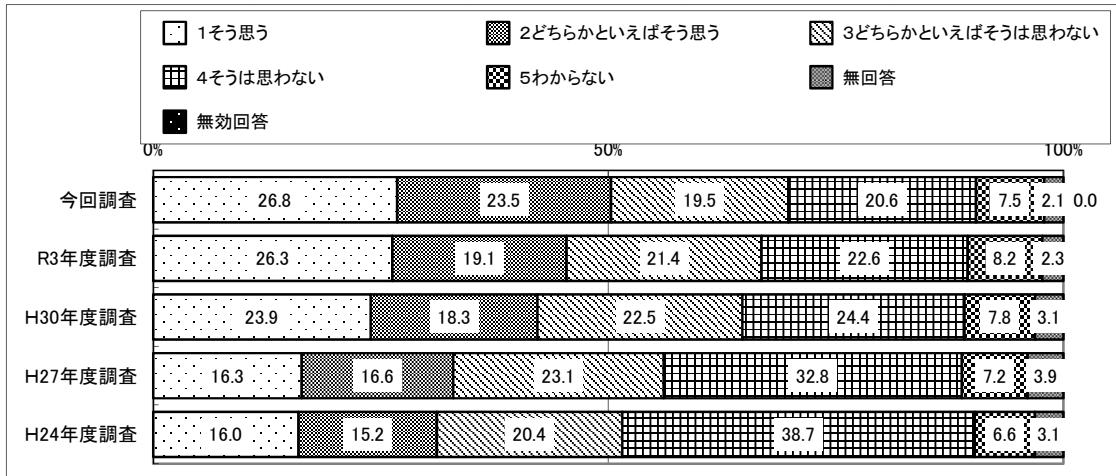
結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はないに対して『そう思う』と回答したものは50.3%であり、前回調査(45.4%)より4.9ポイント増加した。

また、『そうは思わない』と回答したものは40.1%であり、前回調査(44.0%)より3.9ポイント減少している。

調査回数を重ねるごとに『そう思う』は増加し、『そう思わない』は減少している。

①合計(総数)の経年推移

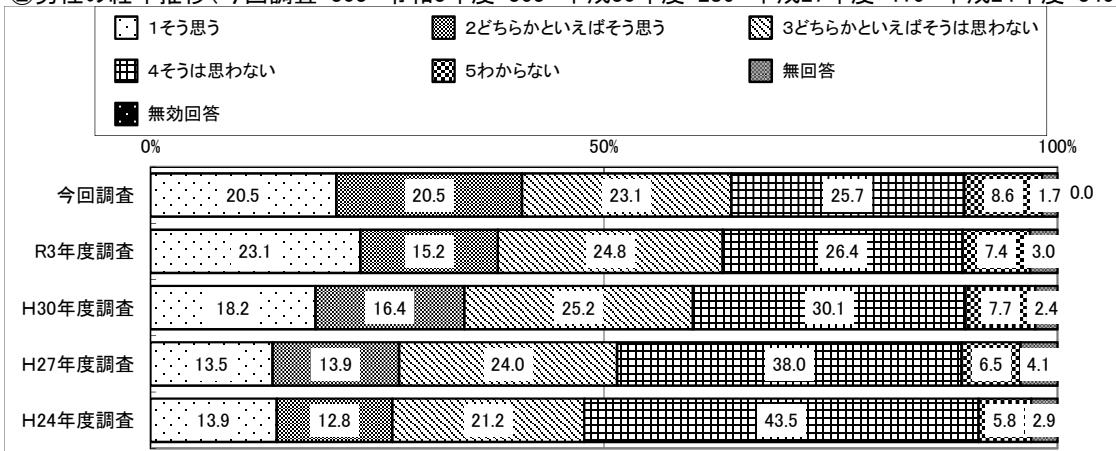
(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



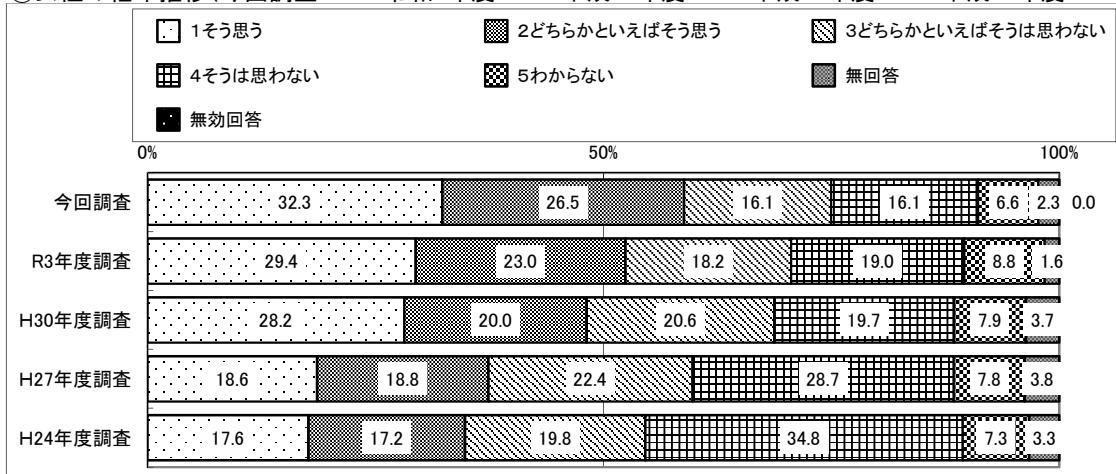
男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは41.0%であり、前回調査(38.3%)より2.7ポイント増加している。

女性で『そう思う』と回答したものは58.8%であり、前回調査(52.4%)より6.4ポイント増加している。また、女性で『そう思う』と回答したものは、調査回数を重ねるごとに増加している。全ての調査年度においても、男性より女性の方の割合が高い。

②男性の経年推移(今回調査=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

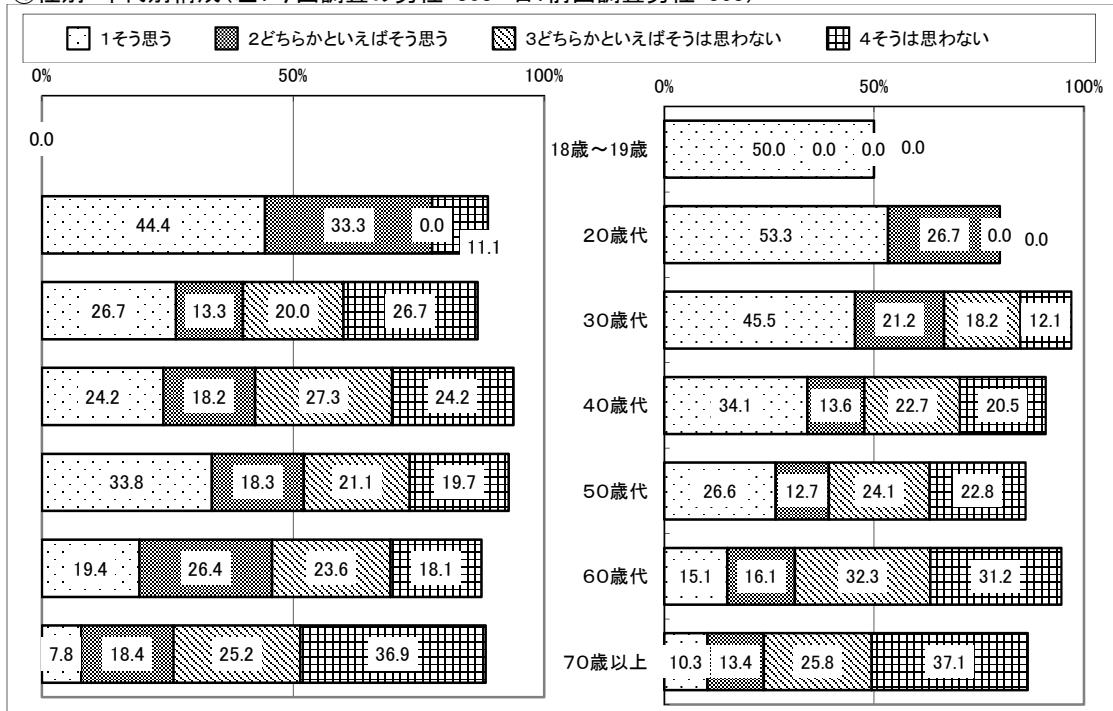


③女性の経年推移(今回調査=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

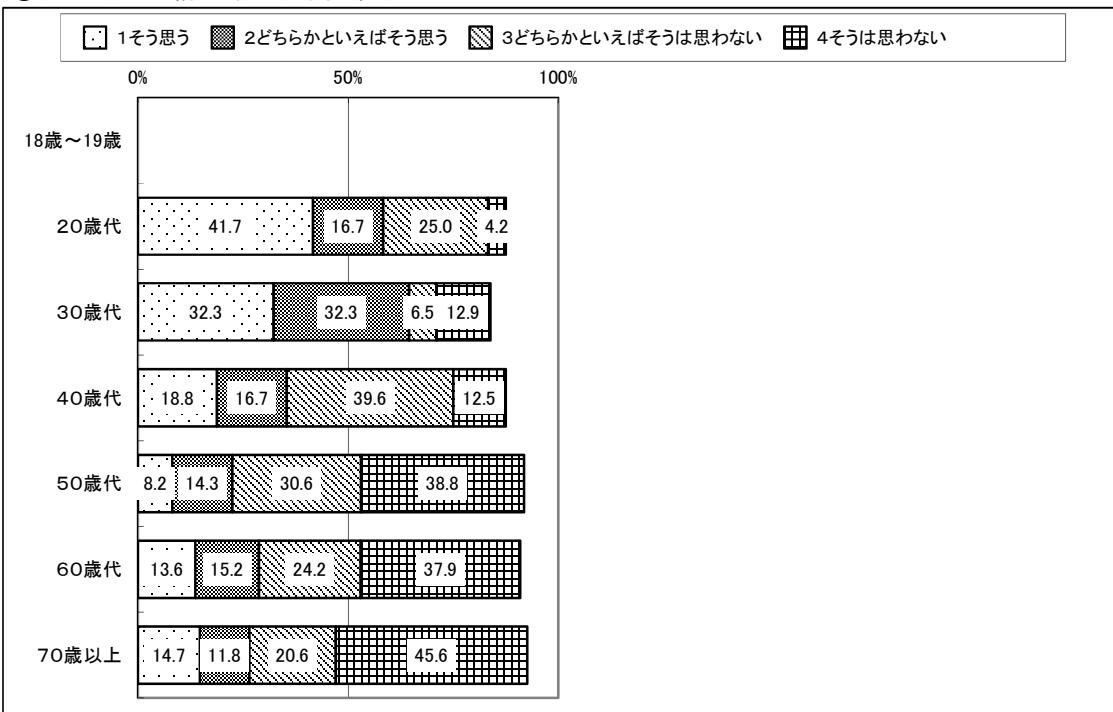


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したもののが最も高い年代は、男性は「20歳代」(77.7%)、女性は「18~19歳」、「20歳代」で(100.0%)である。

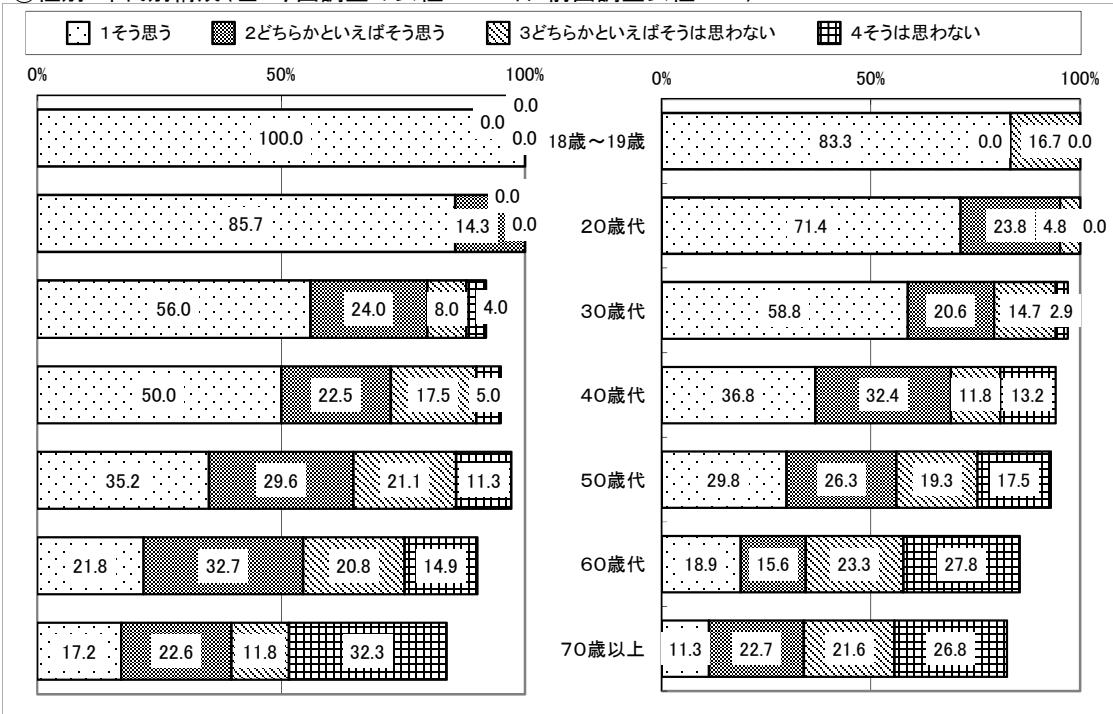
④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)



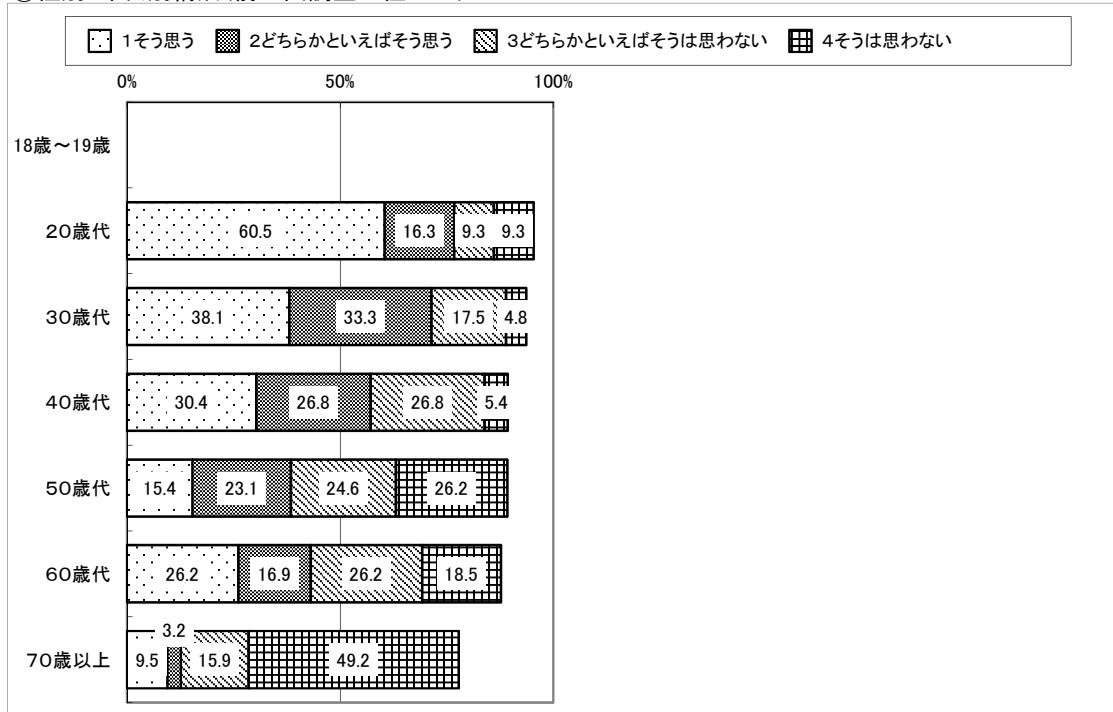
⑤性別・年代別構成(前々回調査男性=286)



⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347 右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)



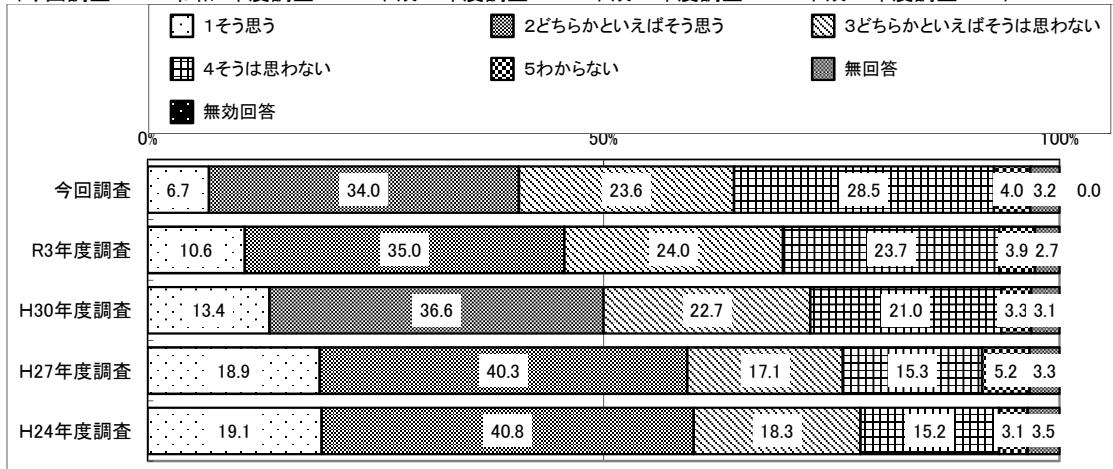
設問「④女性は仕事をもつのはよいが、家事、育児もきちんとすべきである」

女性は仕事をもつのはよいが、家事、育児もきちんとすべきであるに対して『そう思う』と回答したものは40.7%であり、前回調査(45.6%)より4.9ポイント減少し、調査回数を重ねるごとに減少しており、減少傾向で推移している。

『そうは思わない』と回答したものは52.1%であり、前回調査(47.7%)より4.4ポイント増加している。

①合計(総数)の経年推移

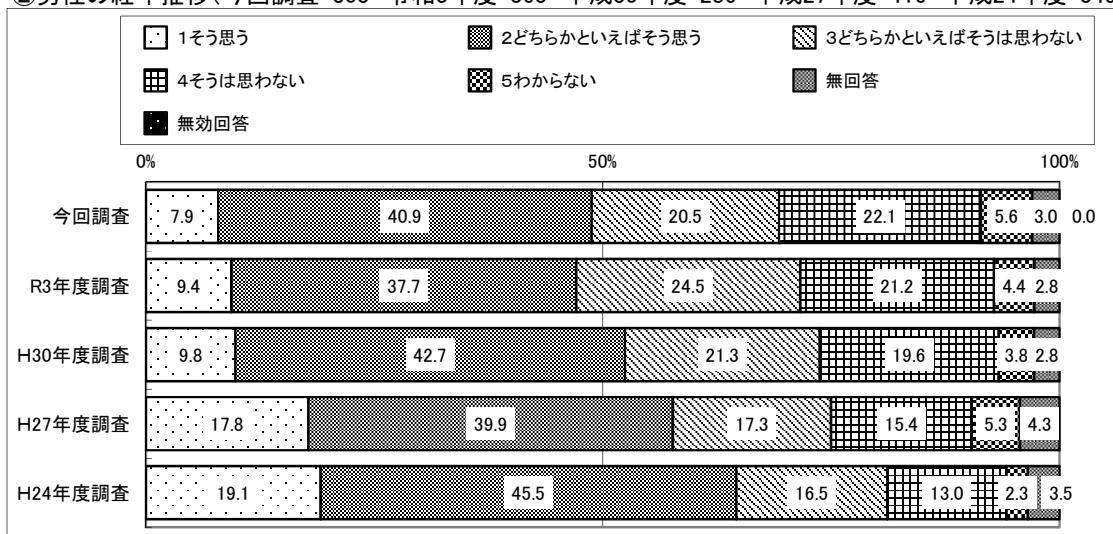
(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



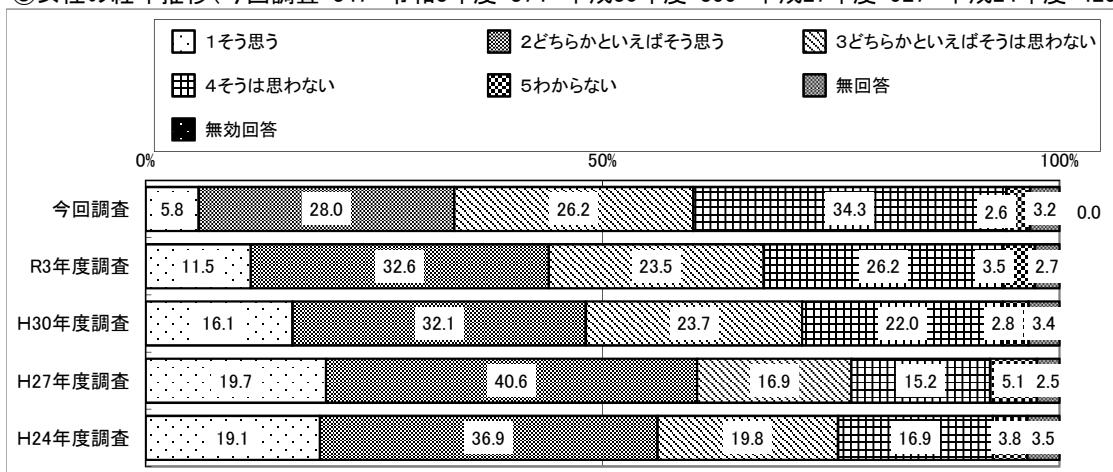
男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは48.8%であり、前回調査(47.1%)より1.7ポイント増加している。

女性で『そう思う』と回答したものは33.8%であり、前回調査(44.1%)より10.3ポイント減少している。

②男性の経年推移(今回調査=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

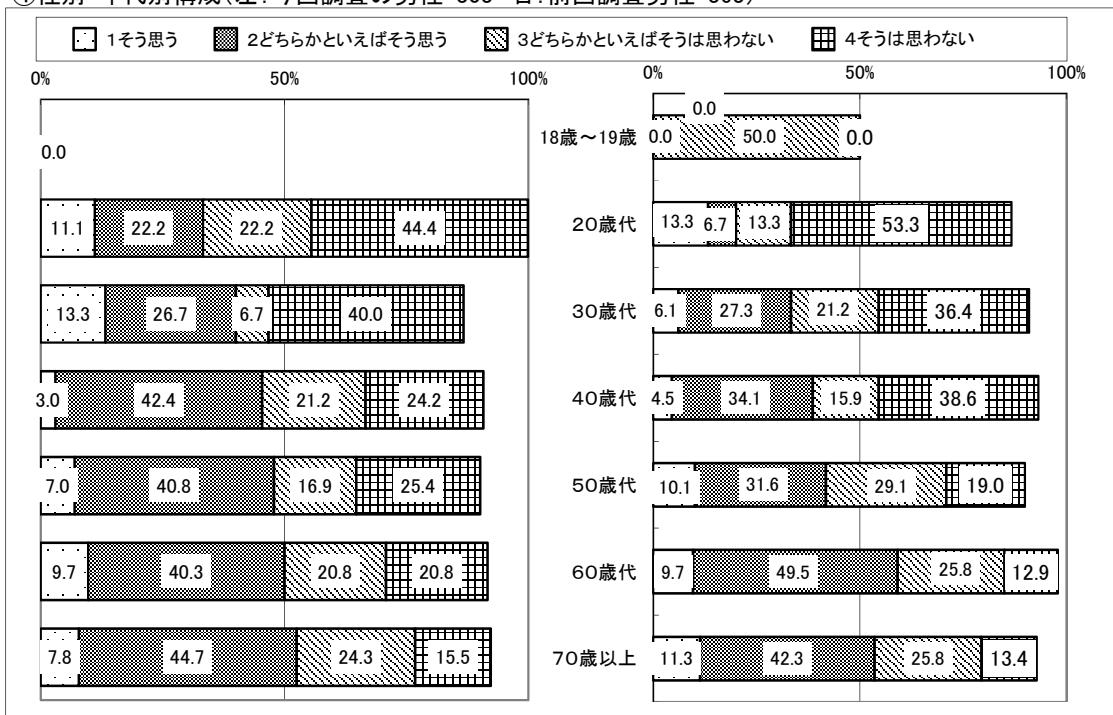


③女性の経年推移(今回調査=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

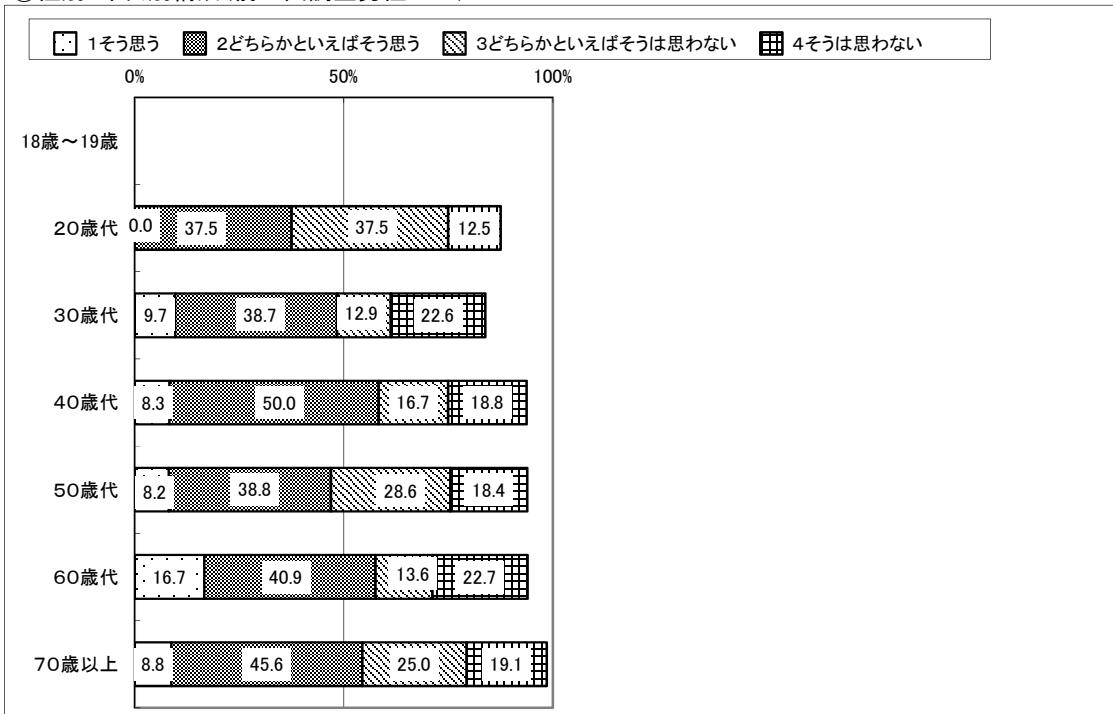


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したもの最も高い年代は、男性では「70歳代」(52.5%)、女性では「20歳代」(50.0%)である。

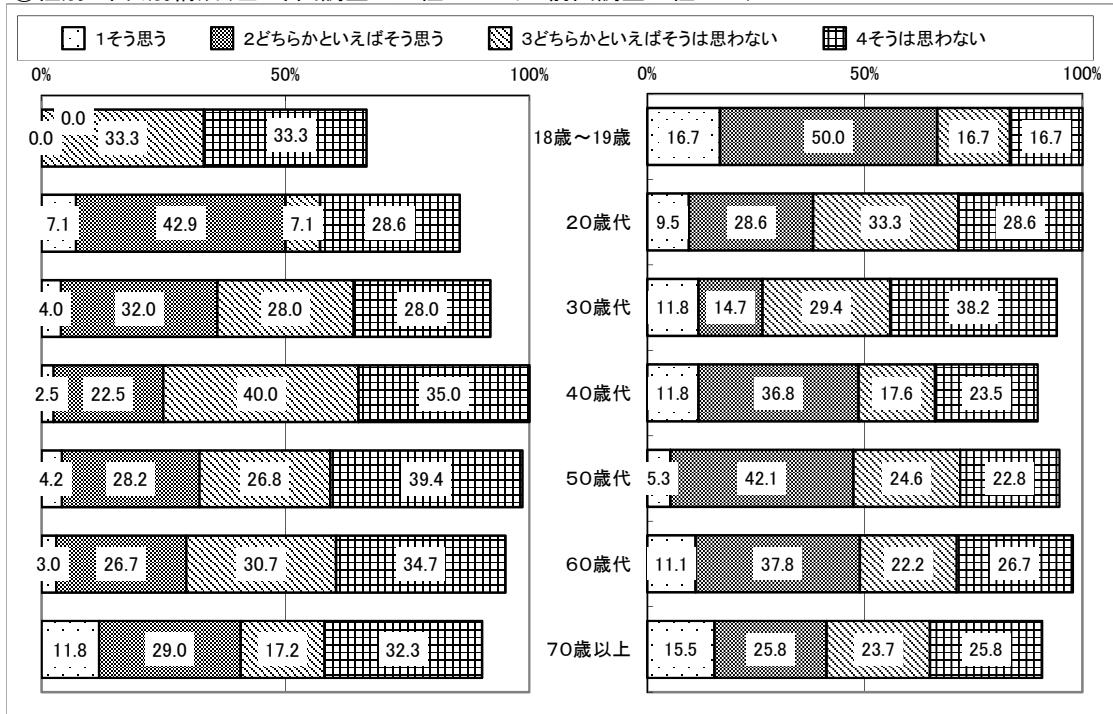
④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)



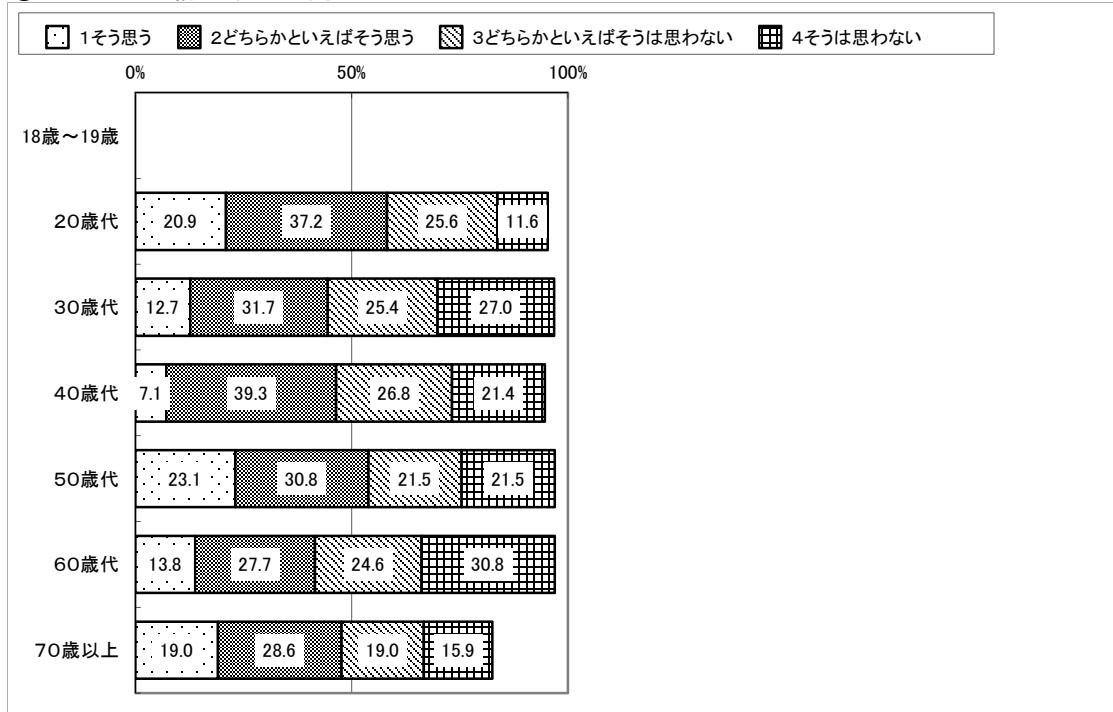
⑤性別・年代別構成(前々回調査男性=286)



⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347 右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)



問10(3)離婚について

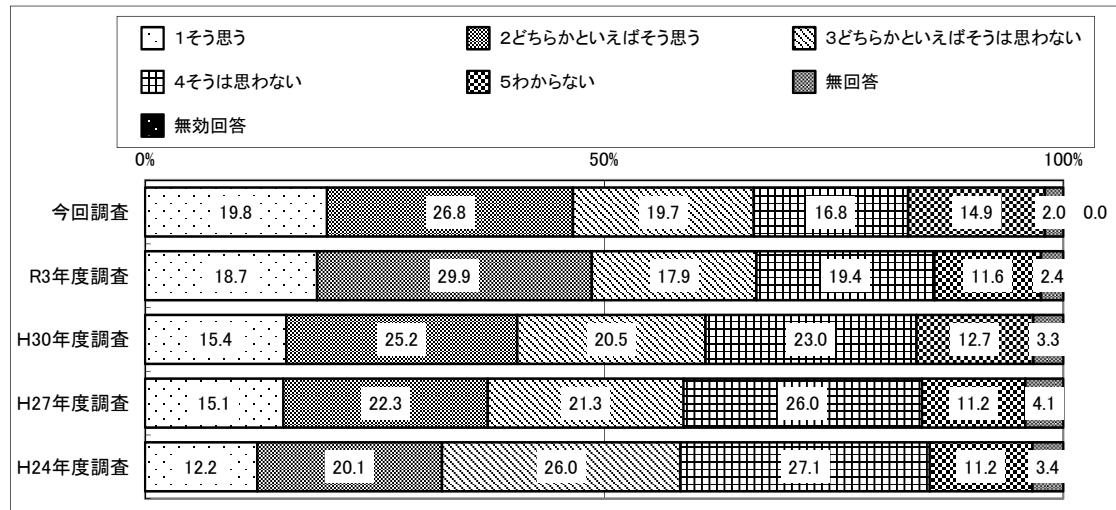
設問「⑤結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよい」

結婚しても、相手に満足できないときは離婚すればよいに対して『そう思う』と回答したものは46.6%であり、前回調査(48.6%)より2.0ポイント減少した。

『そうは思わない』と回答したものは36.5%であり、前回調査(37.3%)より0.8ポイント減少した。

①合計(総数)の経年推移

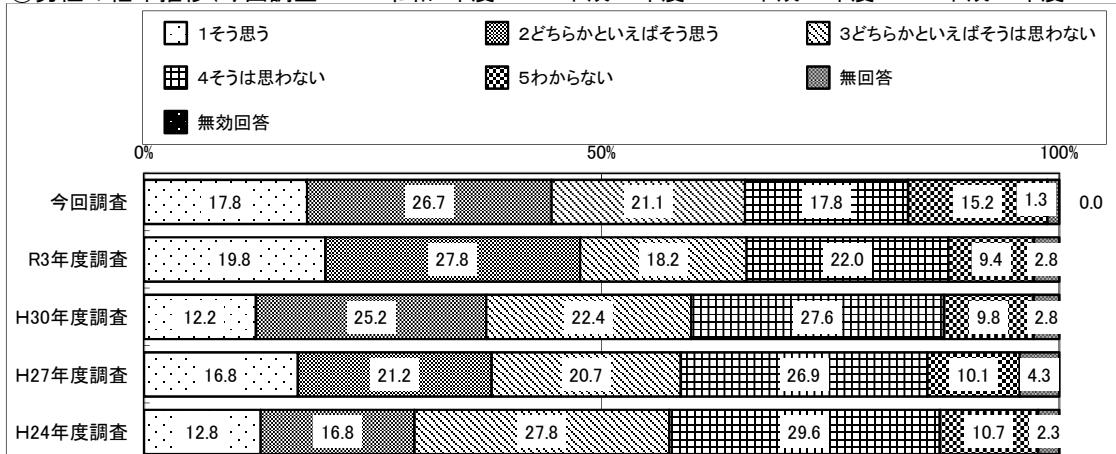
(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



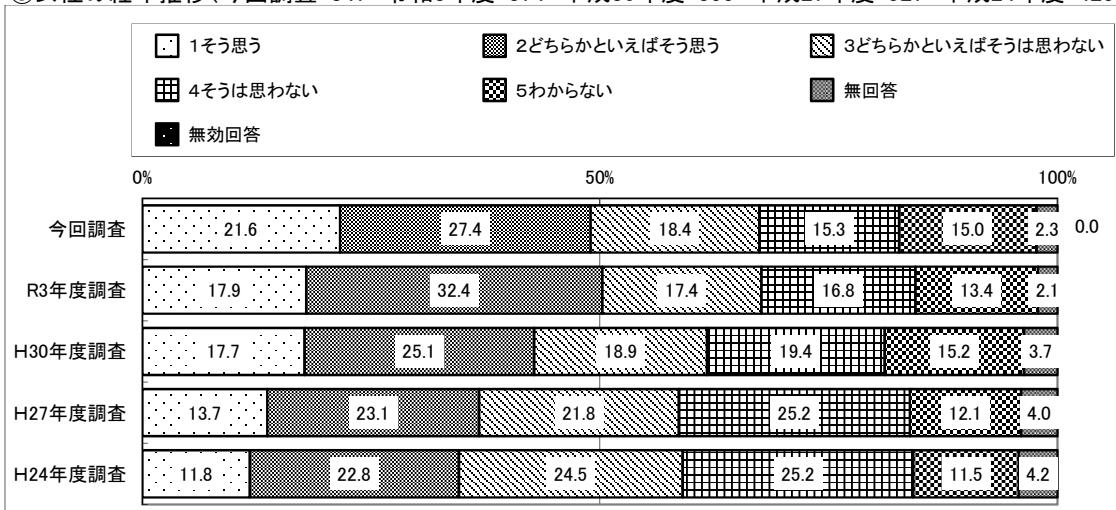
男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは44.5%であり、前回調査(47.6%)より3.1ポイント減少している。

女性で『そう思う』と回答したものは49.0%であり、前回調査(50.3%)より1.3ポイント減少している。

②男性の経年推移(今回調査=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

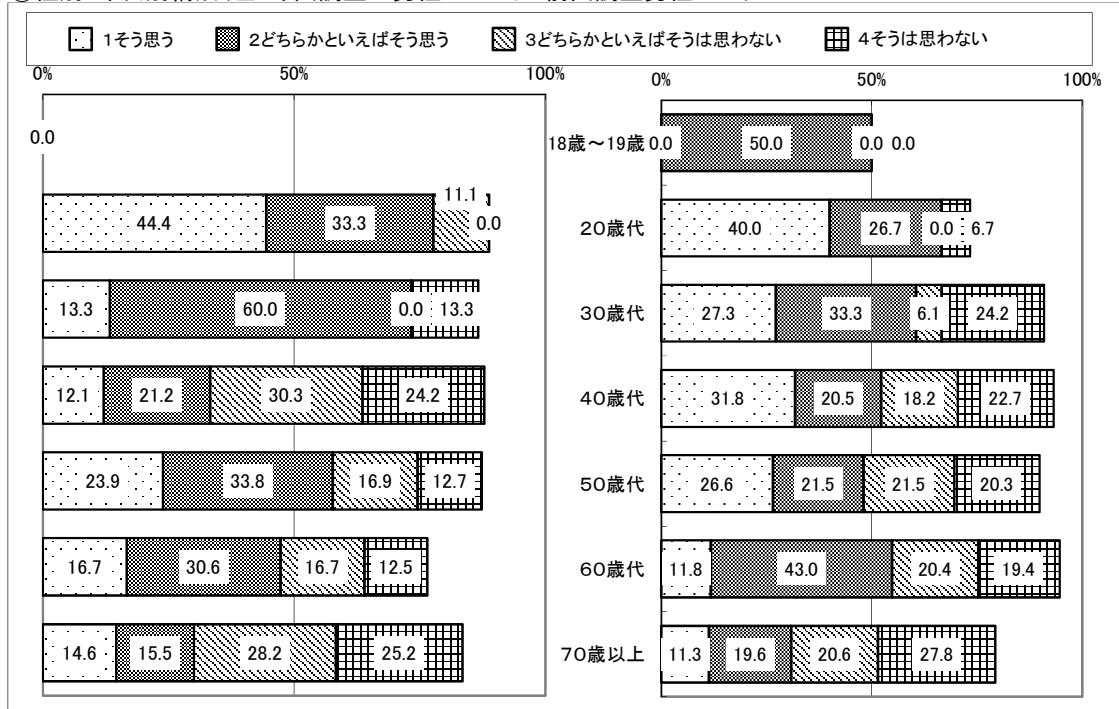


③女性の経年推移(今回調査=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

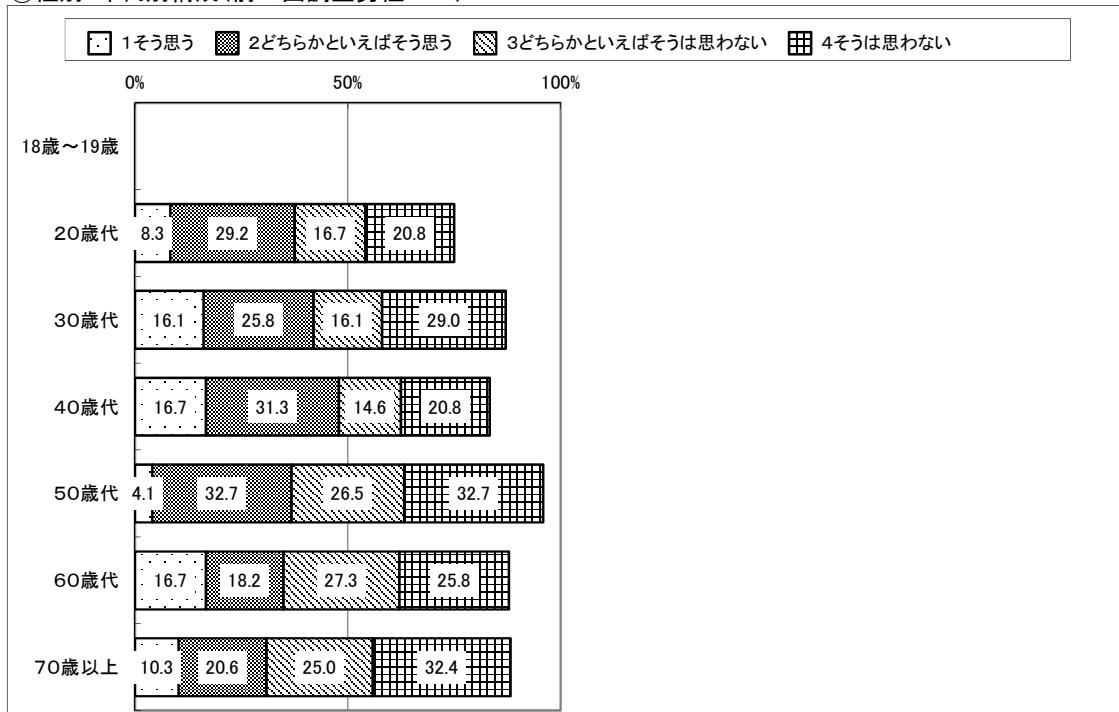


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したものの最も高い年代は、男性では「20歳代」(77.7%)、女性では「20歳代」(85.7%)である。

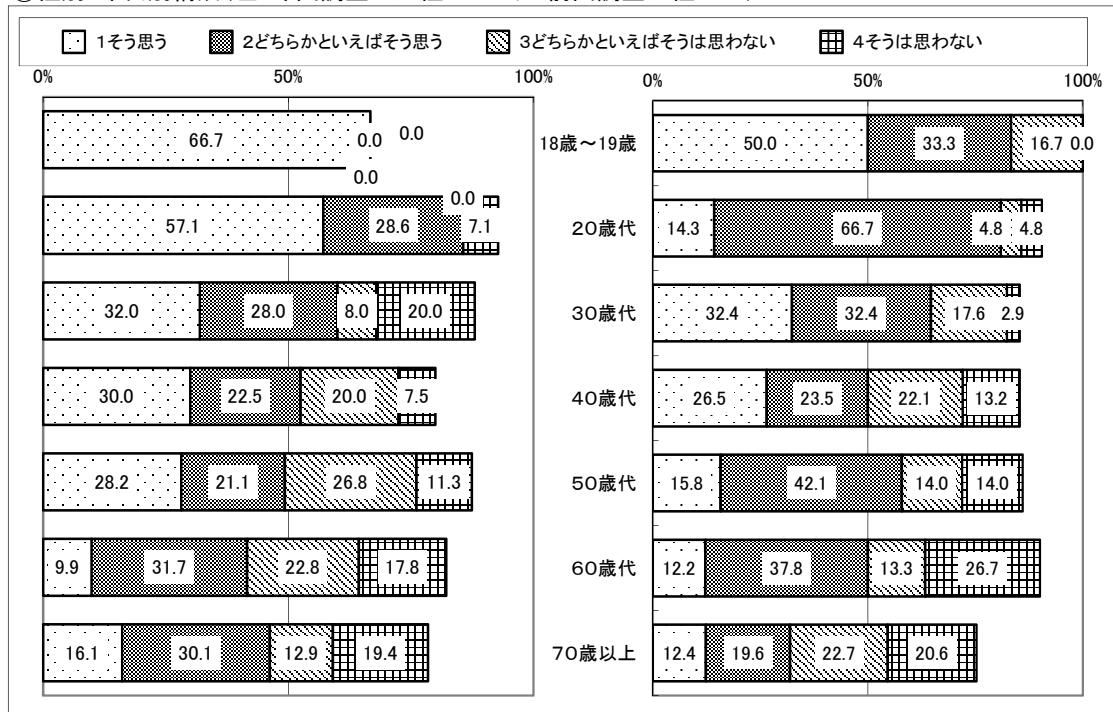
④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)



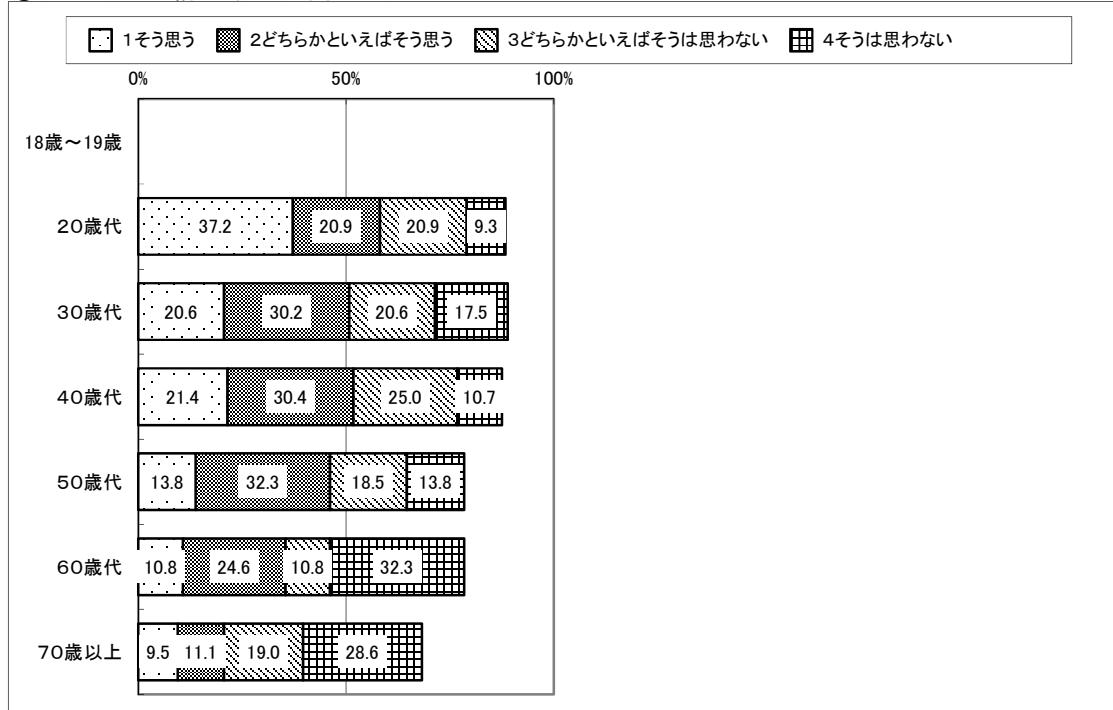
⑤性別・年代別構成(前々回調査男性=286)



⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347 右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)



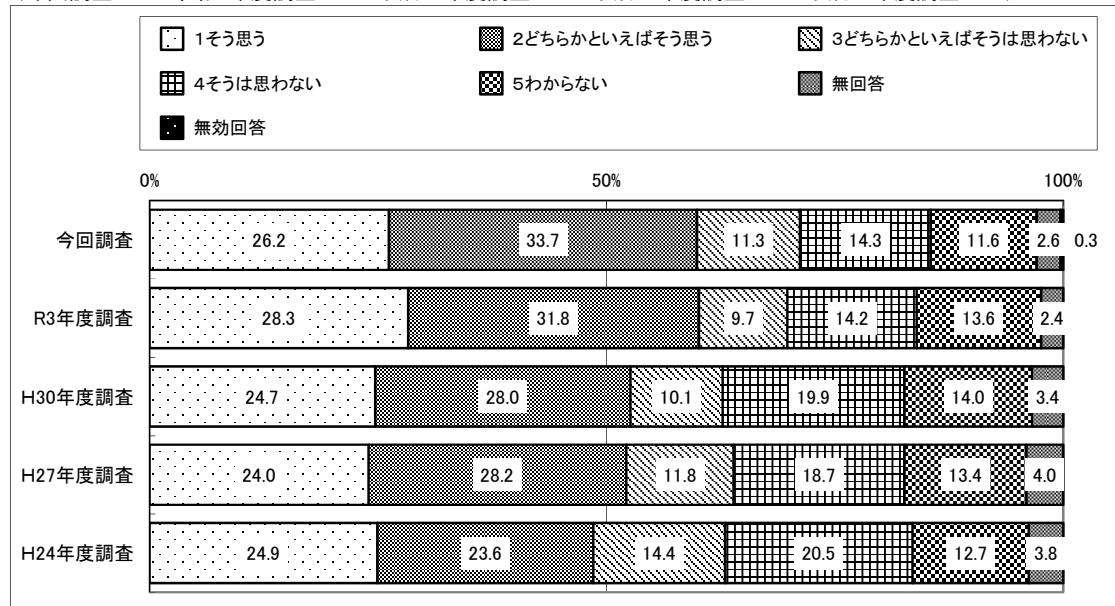
設問「⑥一般に、今の社会では、離婚すると女性の方が不利である」

離婚すると女性の方が不利であるかに対して『そう思う』と回答したものは59.9%であり、前回調査(60.1%)より0.2ポイント減少している。

『そうは思わない』と回答したものは25.6%であり、前回調査(23.9%)より1.7ポイント増加している。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)

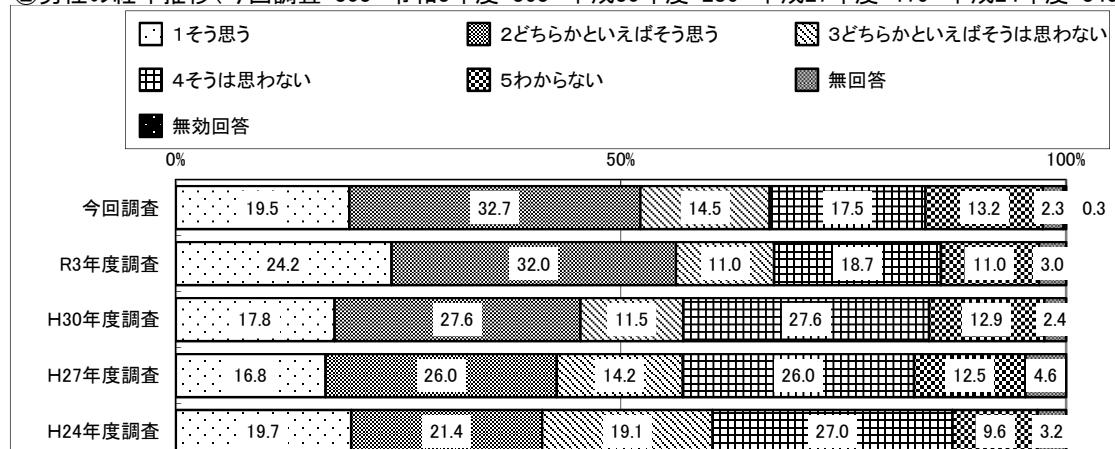


男女別にみると、男性で『そう思う』と回答したものは52.2%であり、前回調査(56.2%)より4.0ポイント減少している。

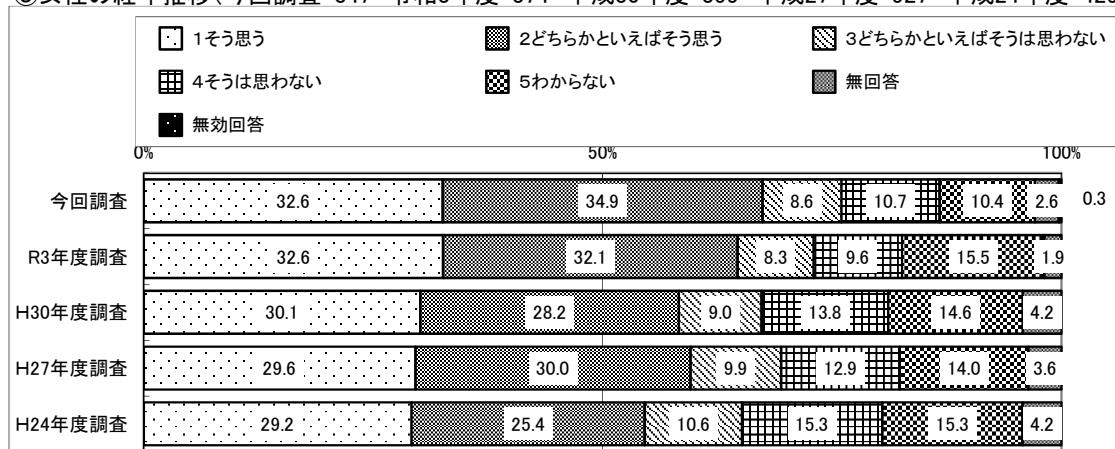
女性で『そう思う』と回答したものは67.5%であり、前回調査(64.7%)より2.8ポイント増加している。

『そう思う』と回答したものは、男性より女性の方が多く、この傾向はこれまでの調査と同じである。

②男性の経年推移(今回調査=303 令和3年度=363 平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

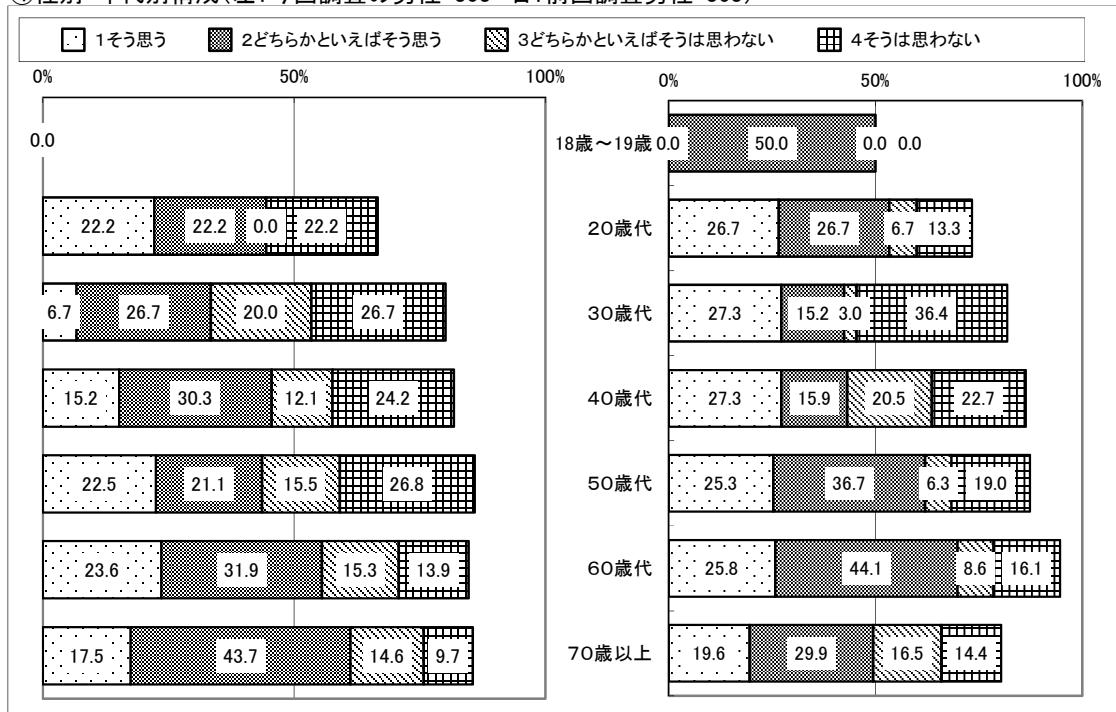


③女性の経年推移(今回調査=347 令和3年度=374 平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)

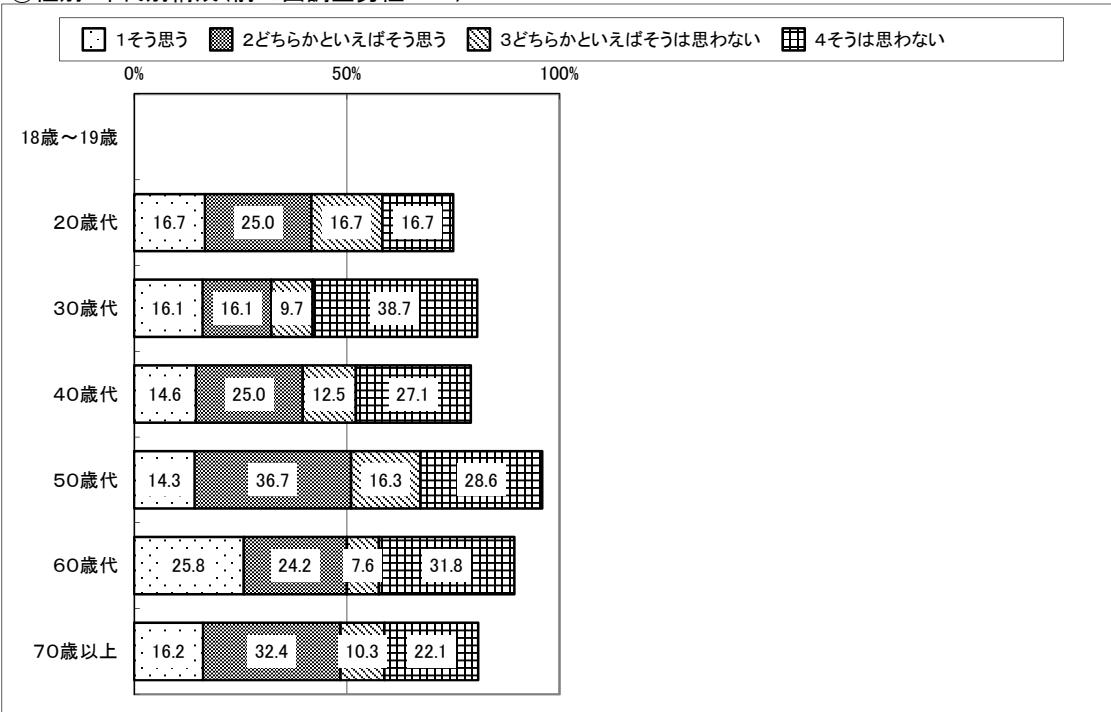


年代別・男女別にみると、『そう思う』と回答したもの最も高い年代は、男性では「70歳代」(61.2%)、女性では「50歳代」(74.6%)である。

④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)

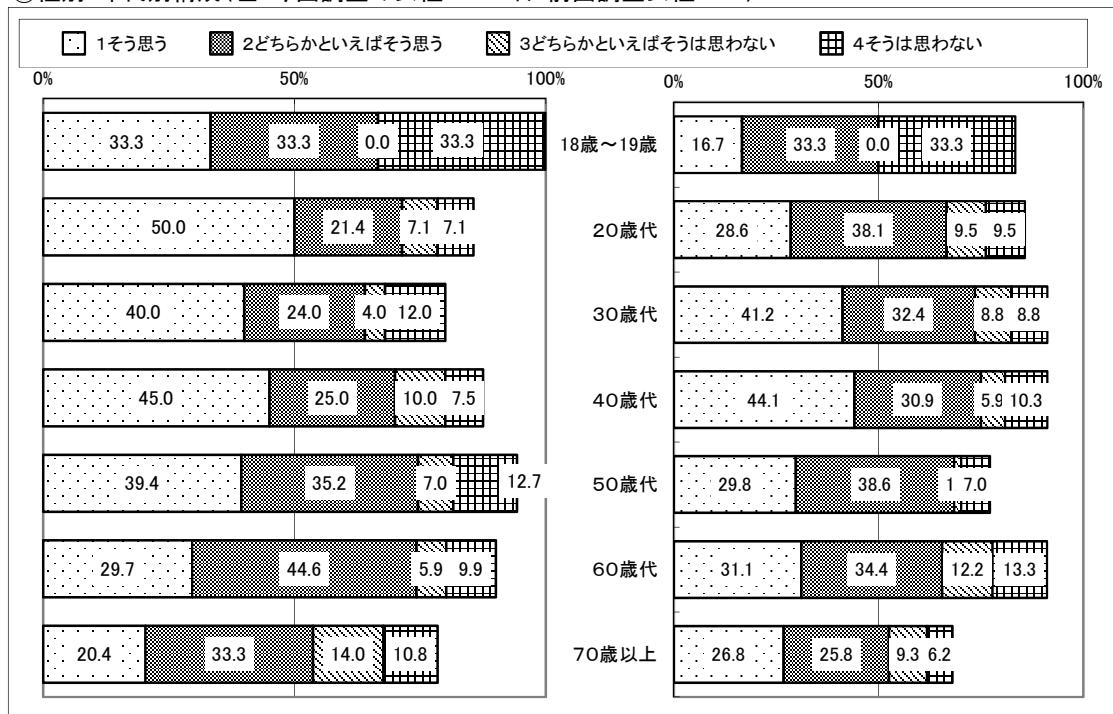


⑤性別・年代別構成(前々回調査男性=286)

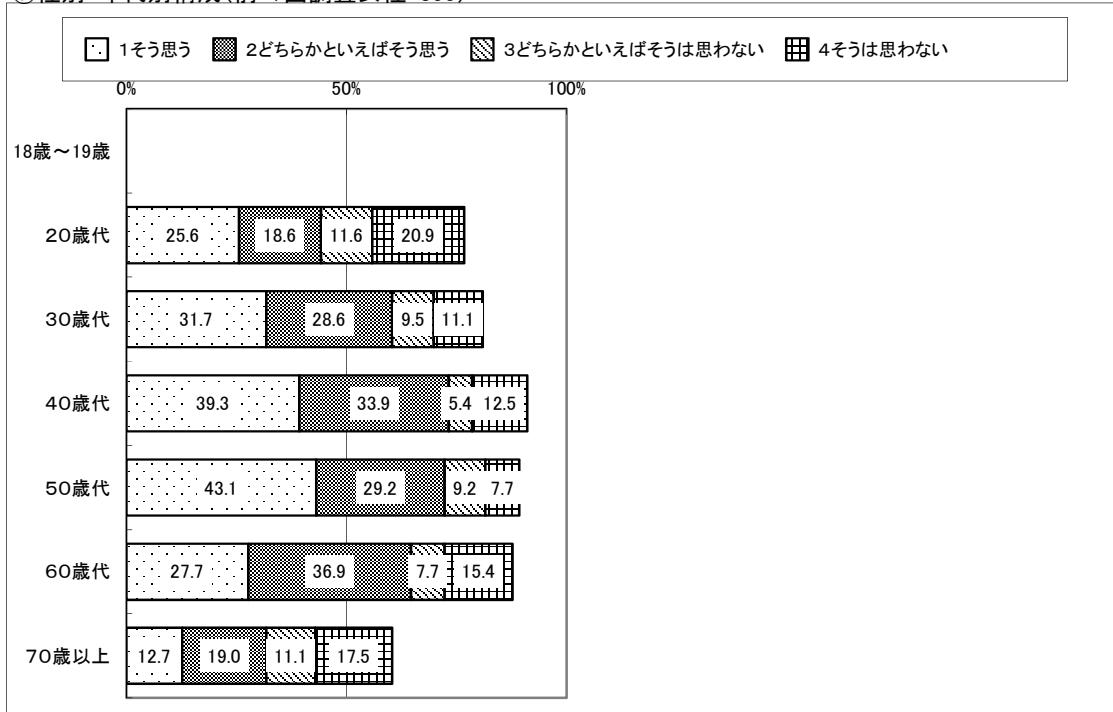


＜III 調査テーマによる分析 3家庭生活及び結婚・家庭観について＞

⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347 右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)

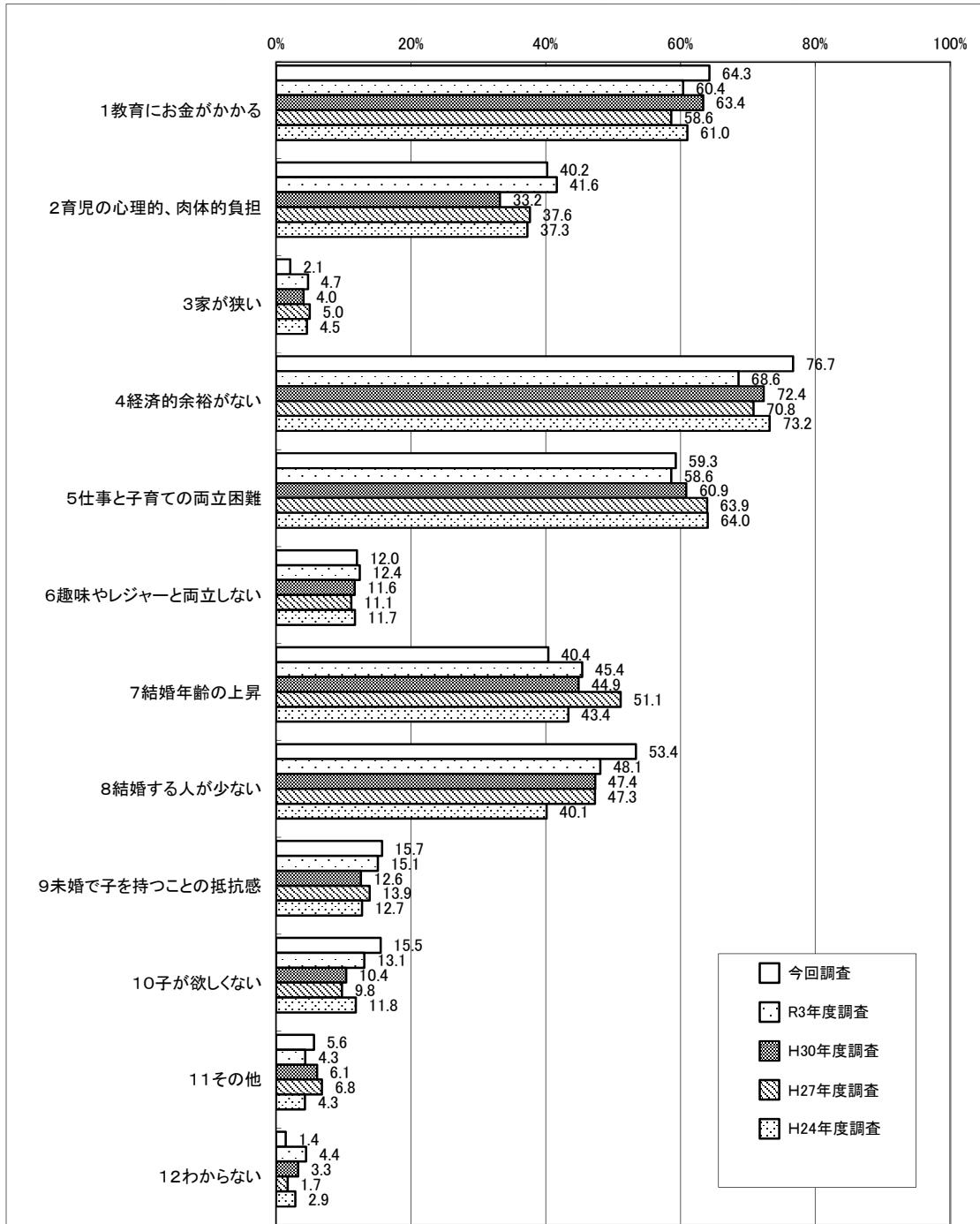


問11 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思いますか。
 次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

出生数が少なくなっている理由は「経済的余裕がない」(76.7%)の割合が最も高く、次いで「教育にお金がかかる」(64.3%)、「仕事と子育ての両立困難」(59.3%)と続く。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



4 職業について

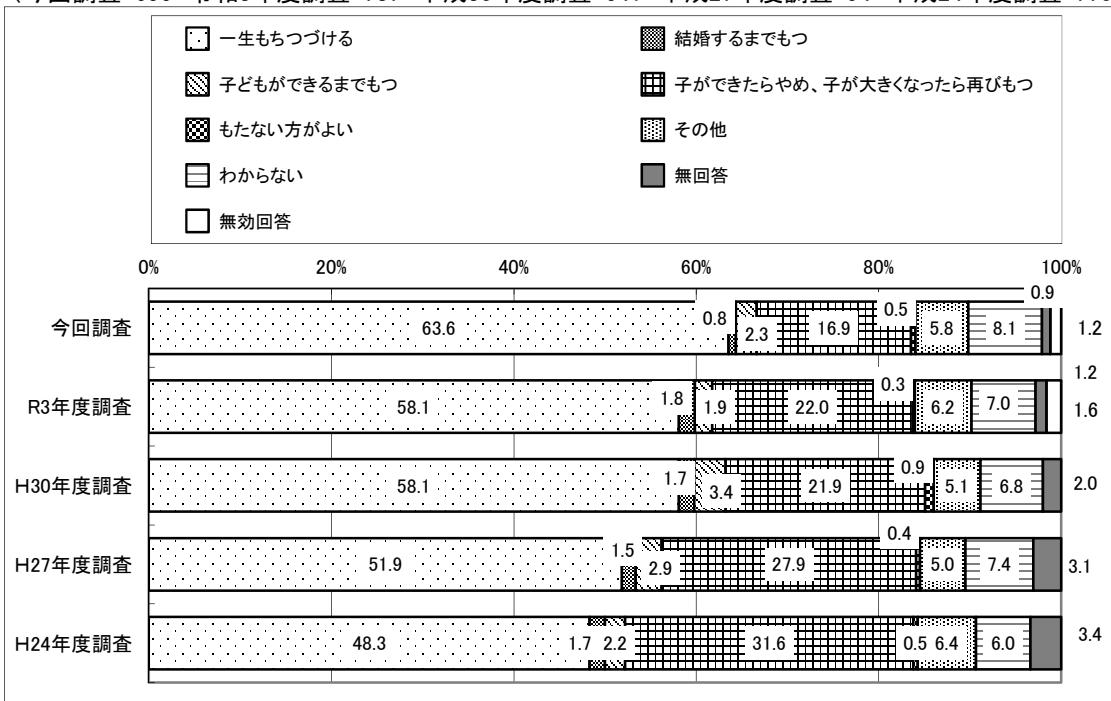
問12 一般的に、女性が職業をもつことについてどう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

女性が職業をもつことについて、「一生もちつづける」(63.6%)が最も多く、次いで「子ができたらやめ、子が大きくなったら再びもつ」(16.9%)と続く。

「一生もちつづける」(63.6%)は、前回調査(58.1%)より5.5ポイント増加した。「子ができたらやめ、子が大きくなったら再びもつ」(16.9%)は、前回調査(22.0%)より5.1ポイント減少となっている。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度調査=737 平成30年度調査=641 平成27年度調査=94 平成24年度調査=770)



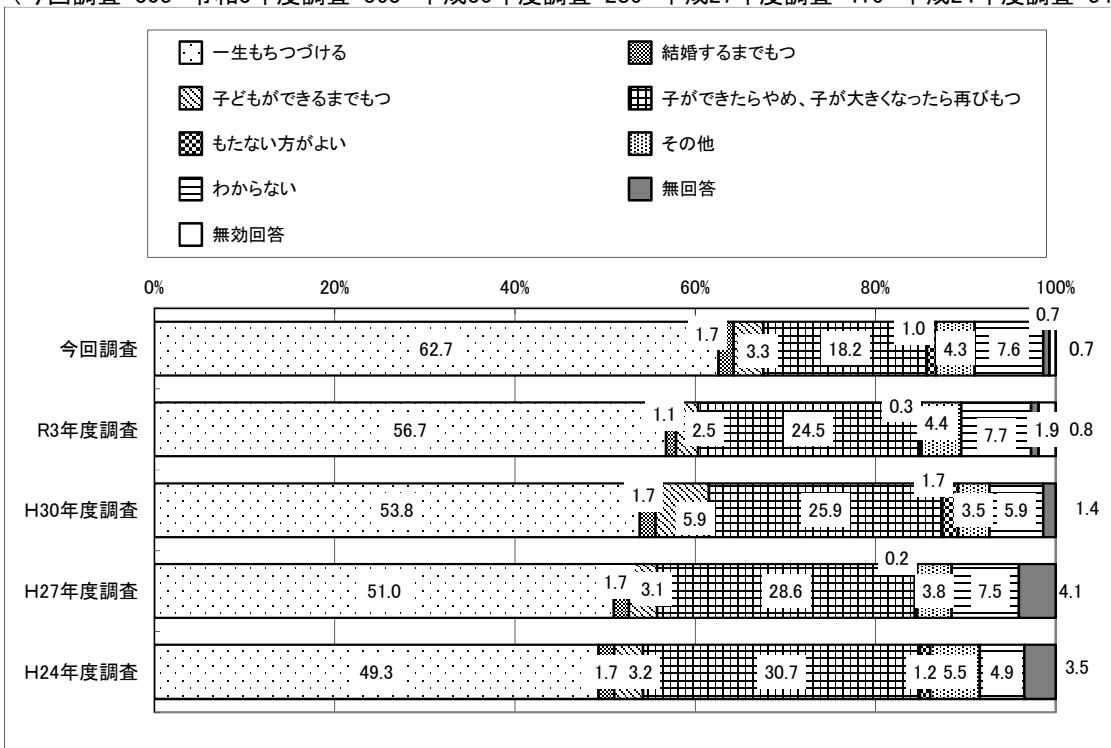
男女別にみると、男女共に「一生もちつづける」の割合が最も高く、男性は62.7%、女性は64.8%である。男女ともに6割を超えており、男性(62.7%)より女性(64.8%)の方が2.1ポイント高い。

男性より女性の方が高い傾向はこれまでの調査と同じである。

「子ができたらやめ、子が大きくなったら再びもつ」と回答した男性(18.2%)は前回調査(24.5%)より6.3ポイント減少し、女性(15.3%)は前回調査(19.3%)より4.0ポイント減少している。

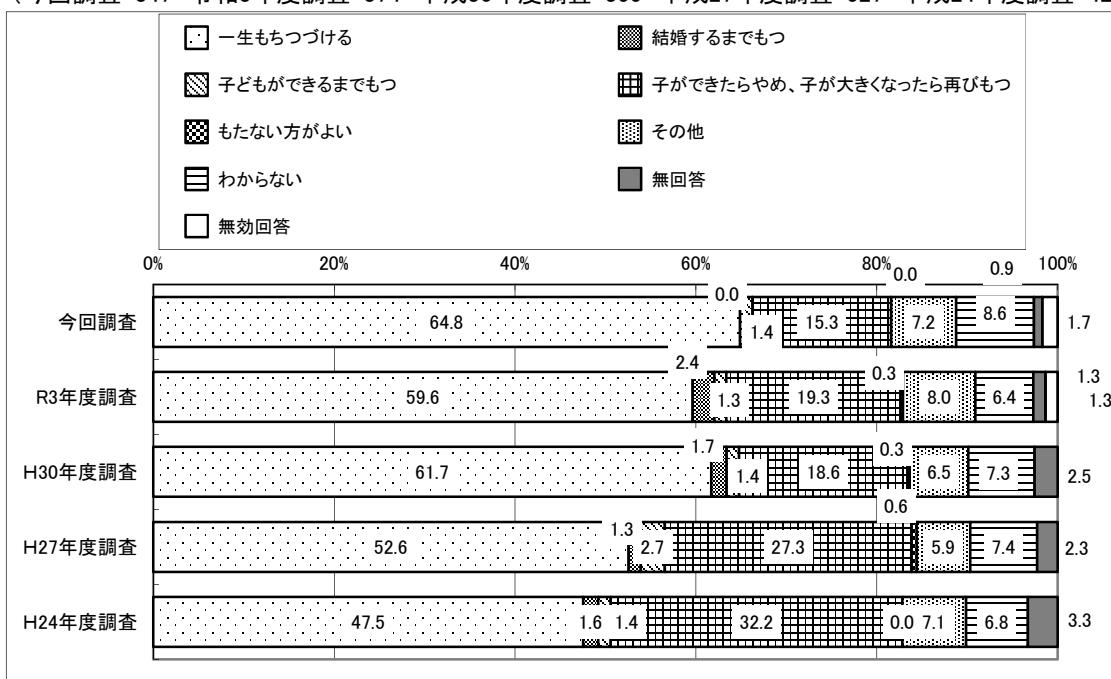
②男性の経年推移

(今回調査=303 令和3年度調査=363 平成30年度調査=286 平成27年度調査=416 平成24年度調査=345)



③女性の経年推移

(今回調査=347 令和3年度調査=374 平成30年度調査=355 平成27年度調査=527 平成24年度調査=425)

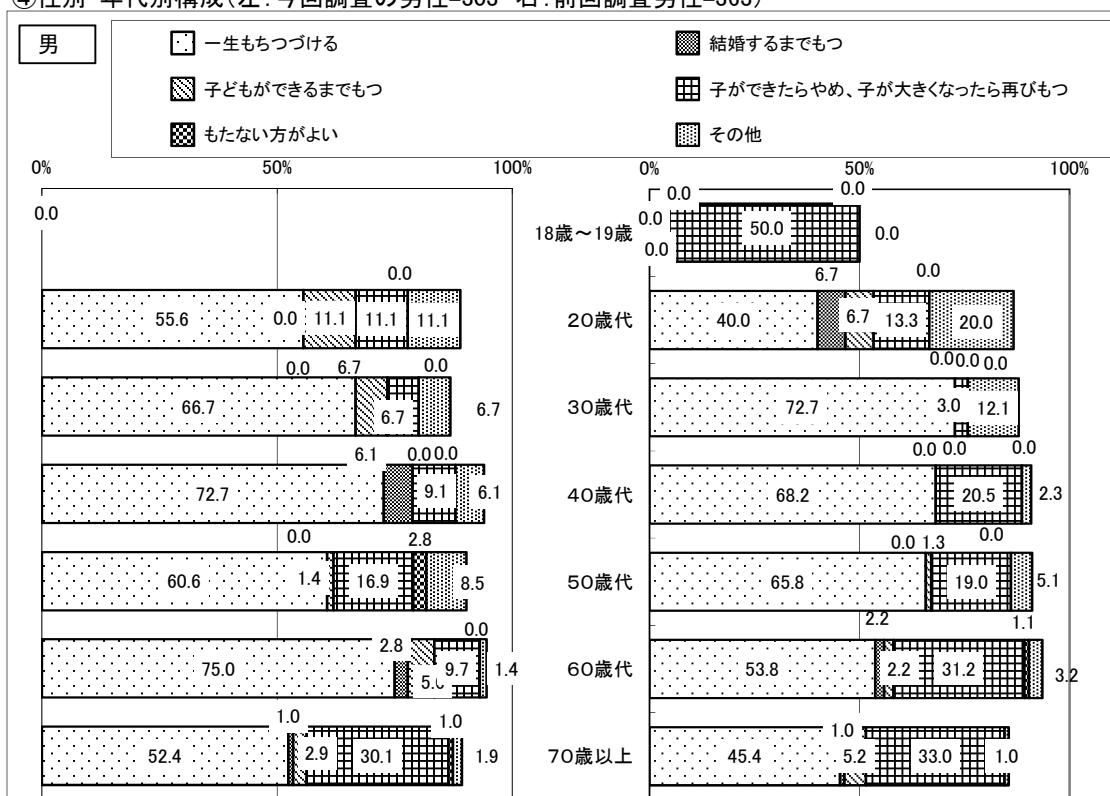


年代別・男女別にみると、男性で「一生もちつづける」と回答したものの割合が最も高い年代は「60歳代」(75.0%)であり、次いで「40歳代」(72.7%)、「30歳代」(66.7%)と続く。

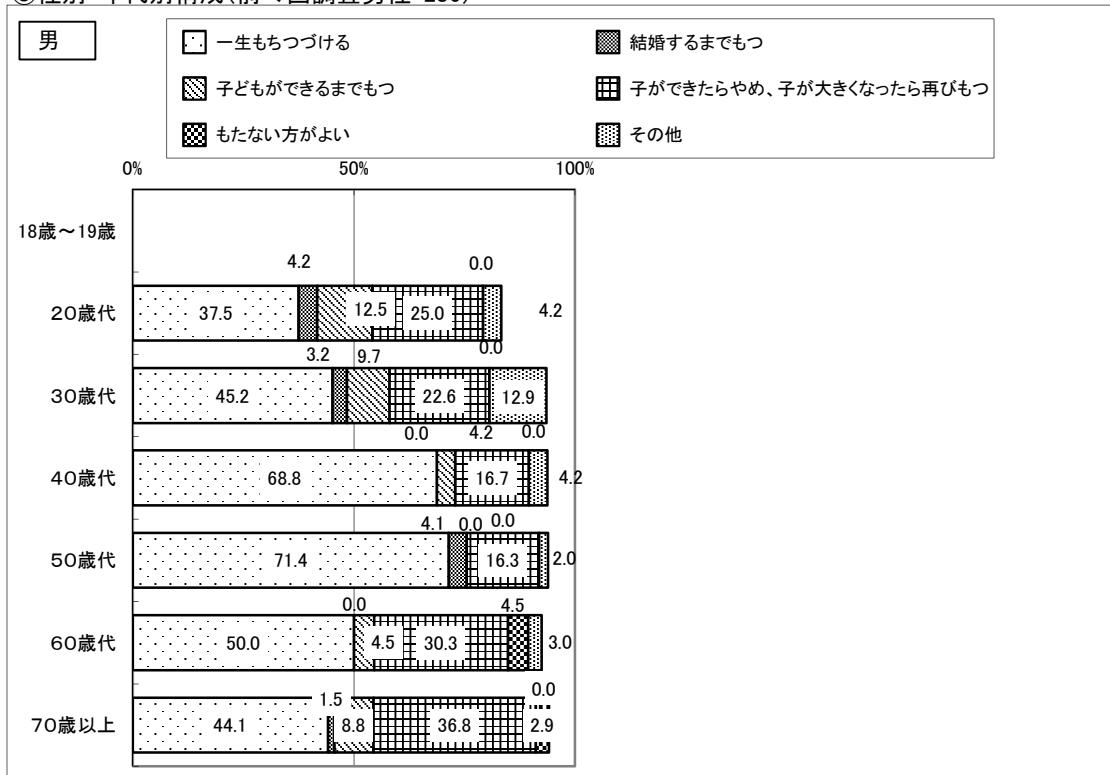
女性では「40歳代」(72.5%)が最も高く、次いで「20歳代」(71.4%)、「60歳代」(71.3%)と続く。

男女の差が最も大きい年代は「20歳代」であり、男性(55.6%)と女性(71.4%)では、女性が15.8ポイント高く差がついた。

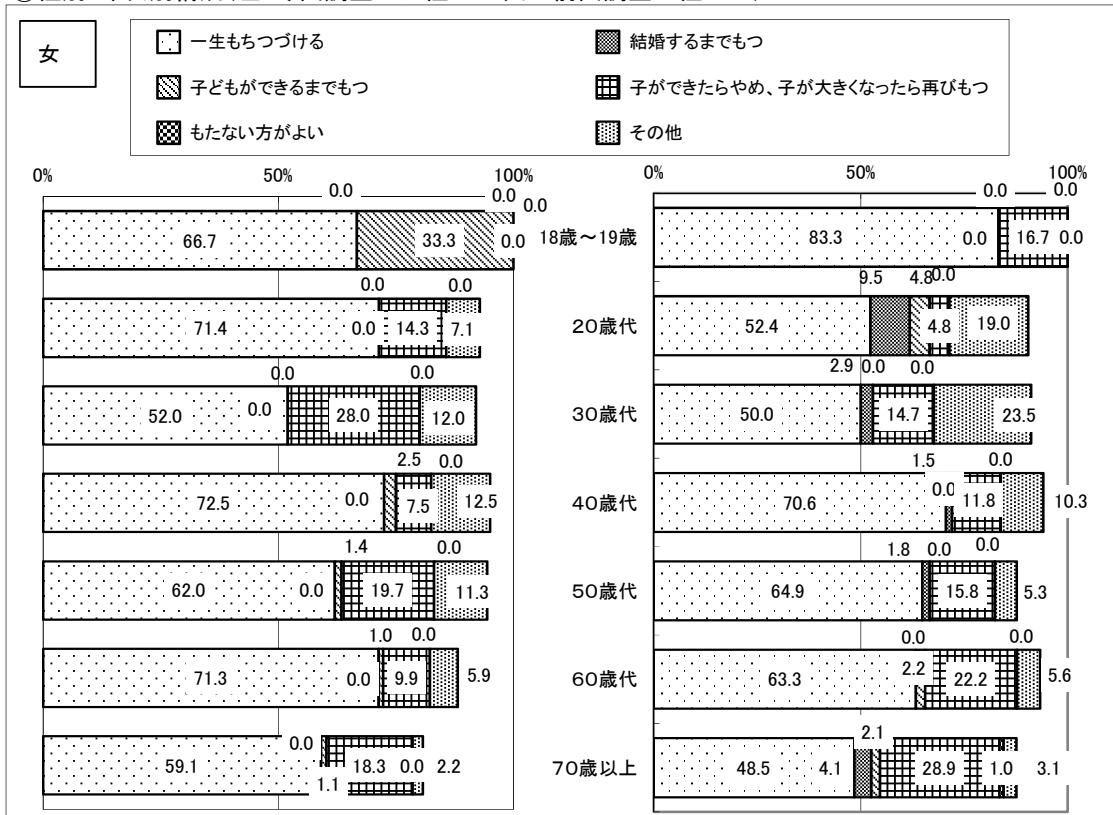
④性別・年代別構成(左:今回調査の男性=303 右:前回調査男性=363)



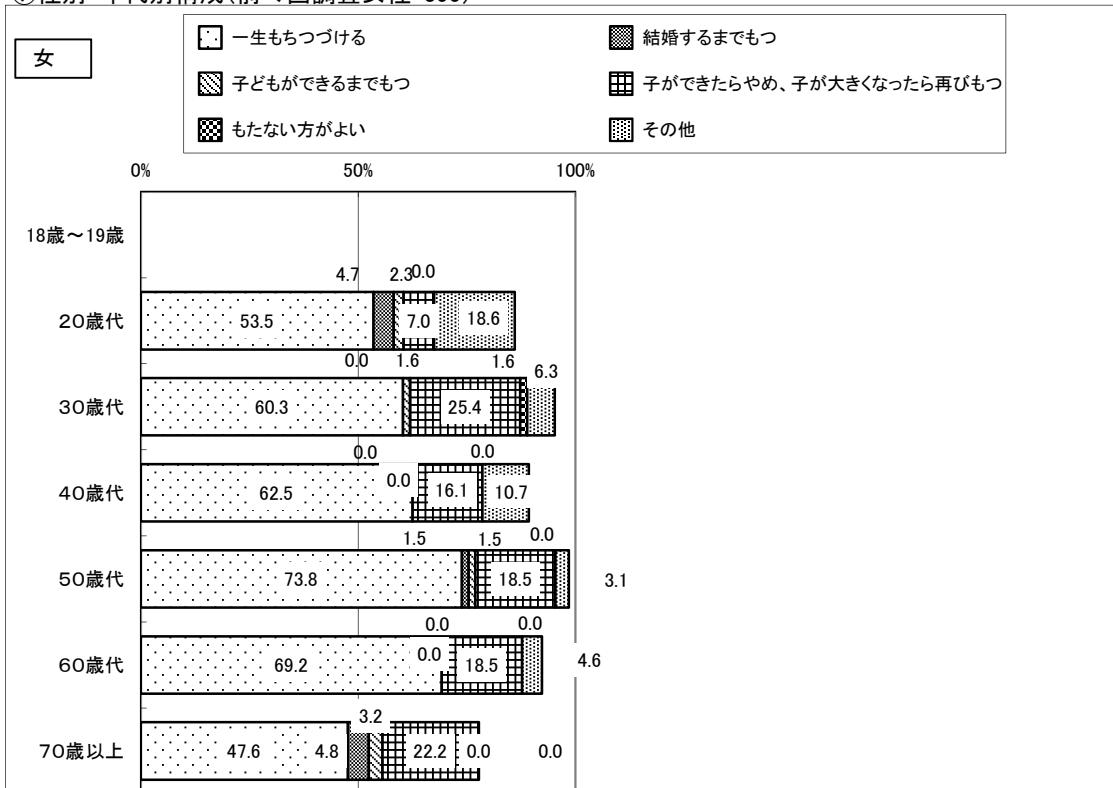
⑤性別・年代別構成(前回調査男性=286)



⑥性別・年代別構成(左:今回調査の女性=347、右:前回調査女性=374)



⑦性別・年代別構成(前々回調査女性=355)



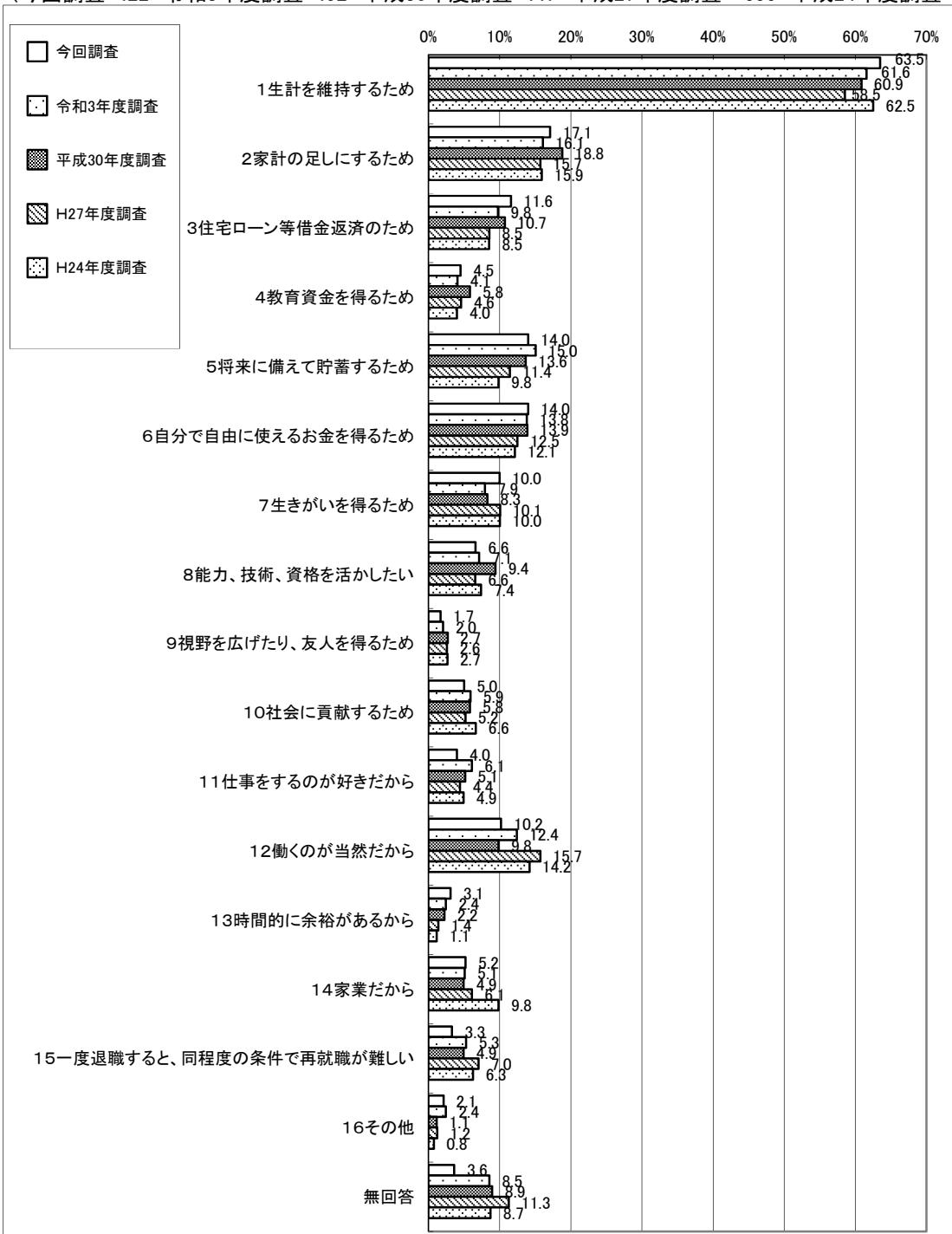
問13 現在職業をもっている方にお伺いします。職業をもっている主な理由は何ですか。
 次の中から2つ選んで○をつけてください。
 (N=422 男性=211 女性=211 その他=0 性別不明=0)

職業をもっている理由は「生計を維持するため」(63.5%)の割合が最も高く、次いで「家計の足しにするため」(17.1%)、「将来に備えて貯蓄するため」と「自分で自由に使えるお金を得るため」(各14.0%)と続く。

「将来に備えて貯蓄するため」(14.0%)は、平成24年調査から連続して増加傾向にあったが、前回調査より1.0ポイント減少した。一方で「自分で自由に使えるお金を得るため」は(14.0%)は前回調査(13.8%)と0.2ポイント増と横ばいで推移している。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=422 令和3年度調査=492 平成30年度調査=447 平成27年度調査=656 平成24年度調査=528)



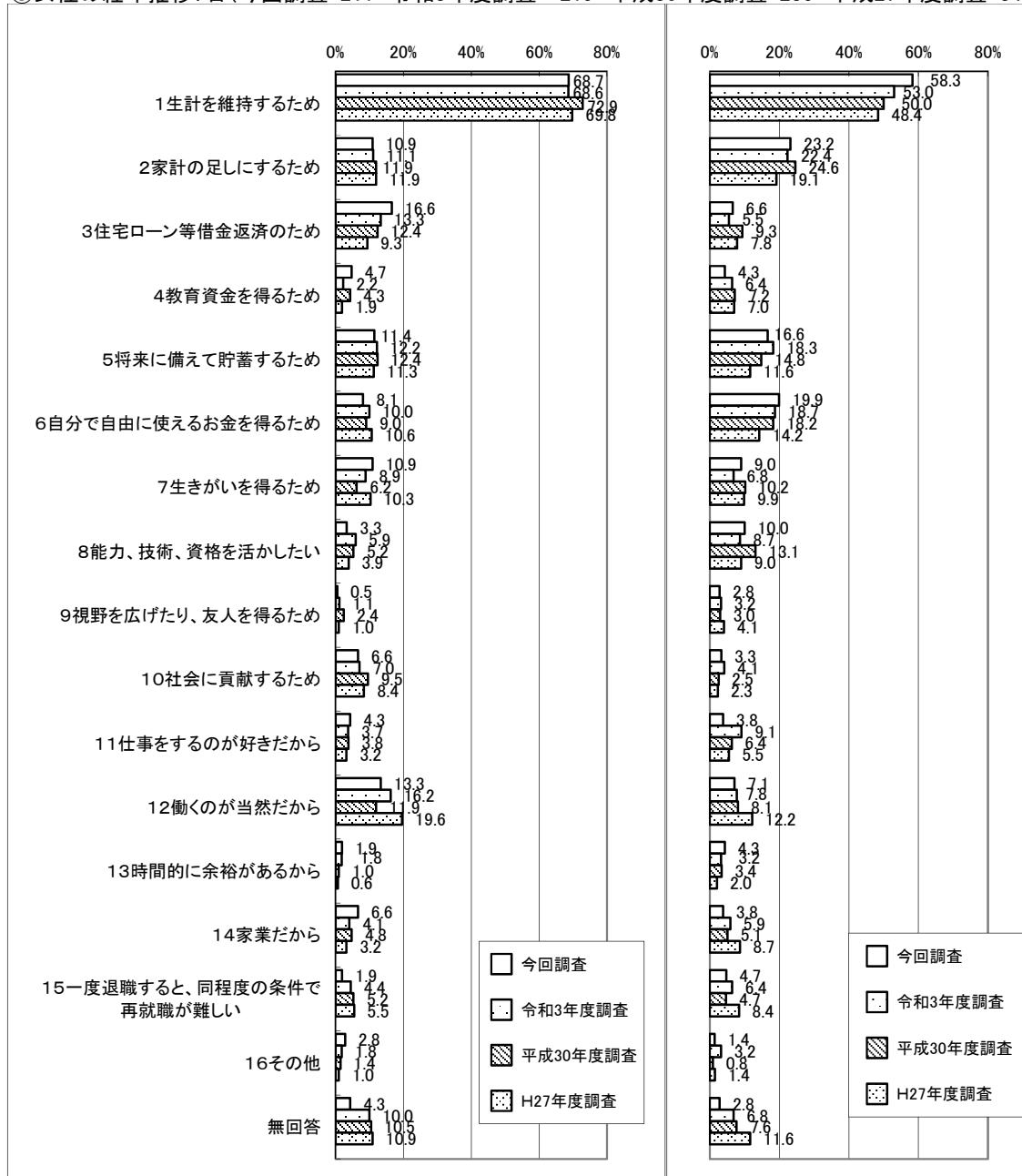
※全回答者のうち、「無職(専業主婦・主夫)」、「無職(学生)」、「無職(その他)」と主たる職業が「無回答」のものを除いて集計対象とした。
 ※グラフから「無効回答」は除く。

職業をもっている理由を男女別にみると、職業を持っている理由は男性では「生計を維持するため」(68.7%)の割合が最も高く、次いで「住宅ローン等借金返済のため」(16.6%)、「働くのが当然だから」(13.3%)と続く。

女性では「生計を維持するため」(58.3%)の割合が最も高く、次いで「家計の足しにするため」(23.2%)、「自分で自由に使えるお金を得るため」(19.9%)と続く。

女性では「生計を維持するため」(58.3%)と前回調査(53.0%)より5.3ポイント増加し、平成27年度調査から連続して増加傾向、一方で「仕事をするのが好きだから」(3.8%)と前回調査(9.1%)より5.3ポイント減少した。

②男性の経年推移:左(今回調査=211 令和3年度調査=271 平成30年度調査=210 平成27年度調査=311)
 ③女性の経年推移:右(今回調査=211 令和3年度調査=219 平成30年度調査=236 平成27年度調査=345)

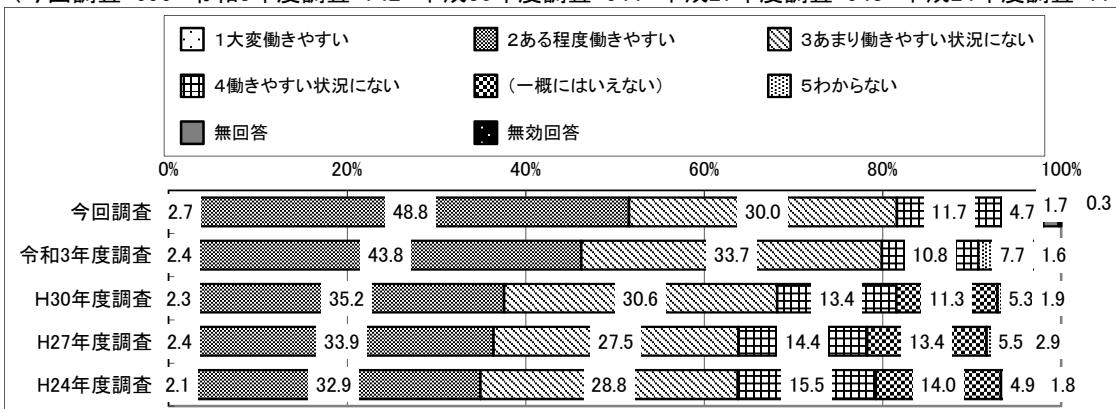


問14 現在の社会は、女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

令和3年度調査より従来の選択肢「一概にはいえない」をなくした。
女性が働きやすい状況にあるかについて、「大変働きやすい」(2.7%)または「ある程度働きやすい」(48.8%)と回答したもの(以下、『働きやすい』)は51.5%であり、前回調査(46.2%)より5.3ポイント増加している。
「あまり働きやすい状況がない」(30.0%)または「働きやすい状況がない」(11.7%)と回答したもの(以下、『働きにくい』)は41.7%であり、前回調査(44.5%)より2.8ポイント減少している。
『働きやすい』は調査回数を重ねるごとに増加している。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度調査=742 平成30年度調査=644 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



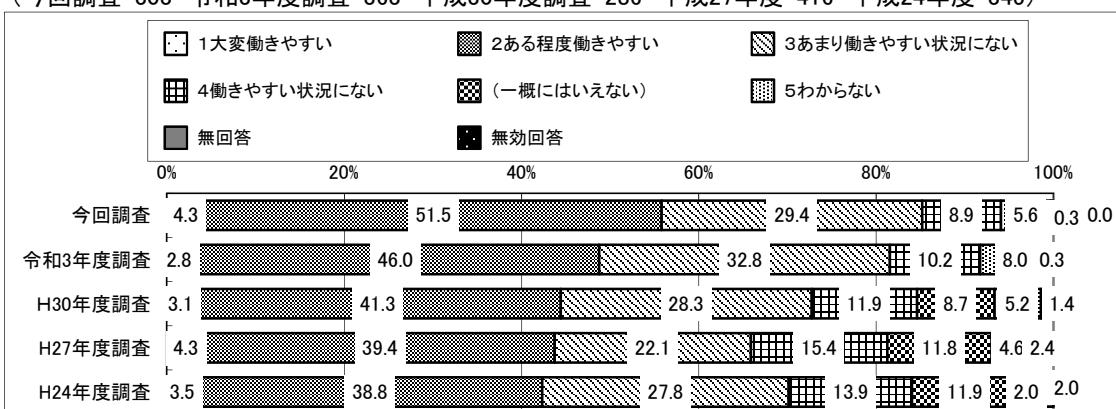
男女別に見ると、男性で『働きやすい』と回答したものは55.8%であり、前回調査(48.8%)より7.0ポイント増加している。女性は47.2%であり、前回調査(43.9%)より3.3ポイント増加している。

『働きにくい』と回答したものは、男性38.3%、女性45.5%であり、女性が7.2ポイント高い。

男性よりも、女性の方が『働きにくい』と回答したものが多いため傾向は、これまでの調査と同じである。

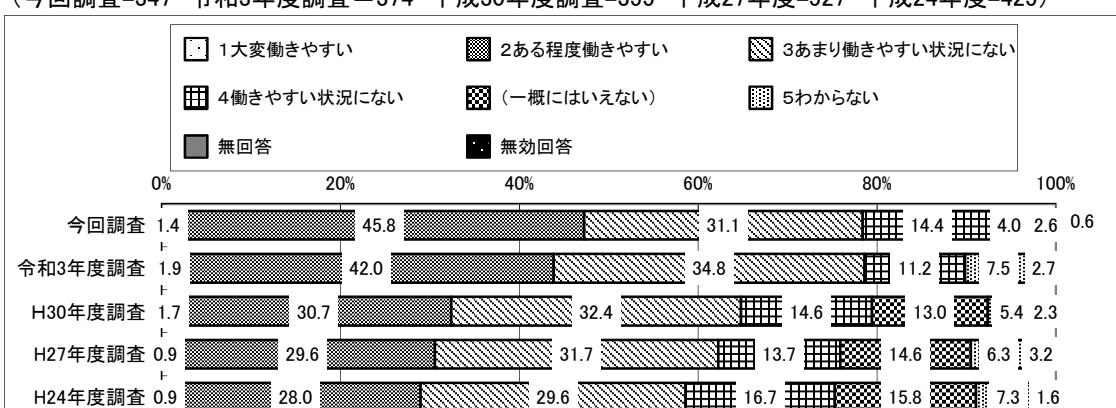
②男性の経年推移

(今回調査=303 令和3年度調査=363 平成30年度調査=286 平成27年度=416 平成24年度=345)



③女性の経年推移

(今回調査=347 令和3年度調査=374 平成30年度調査=355 平成27年度=527 平成24年度=425)



年代別・男女別にみると、男性で『働きやすい』と回答した割合が最も高い年代は「20歳代」(66.7%)であり、女性では「18歳～19歳」(66.7%)である。

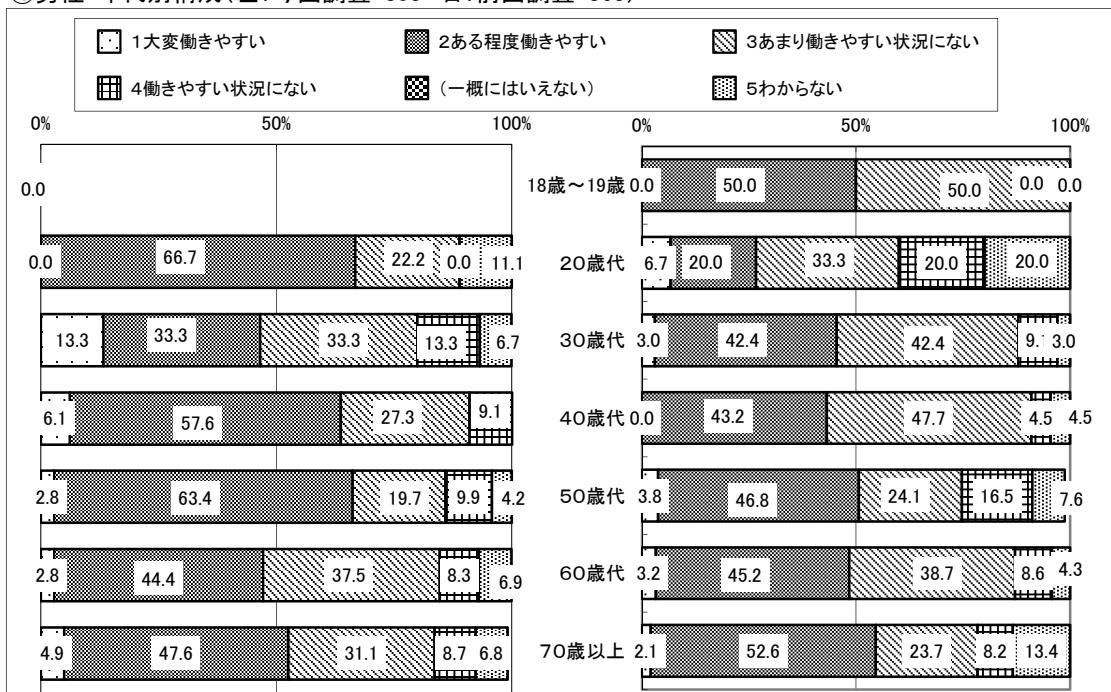
前回調査と比較すると、男性では「60歳代」(47.2%、前回48.4%)、「70歳以上」(52.5%、前回54.6%)において『働きやすい』と回答した割合が減少。一方で「20歳代」～「50歳代」では、前回調査より『働きやすい』との回答が増加している。女性では「18歳～19歳」(66.7%、前回16.7%)と「70歳以上」(50.6%、前回34.0%)において『働きやすい』と回答した割合が増加、一方で「20歳代」～「60歳代」において『働きやすい』との回答が減少している。男女で最も差が大きい年代は「40歳代」で、(男性63.7%、女性45.0%)で、男性が18.7ポイント高い。

N=650 男性=303 女性=347

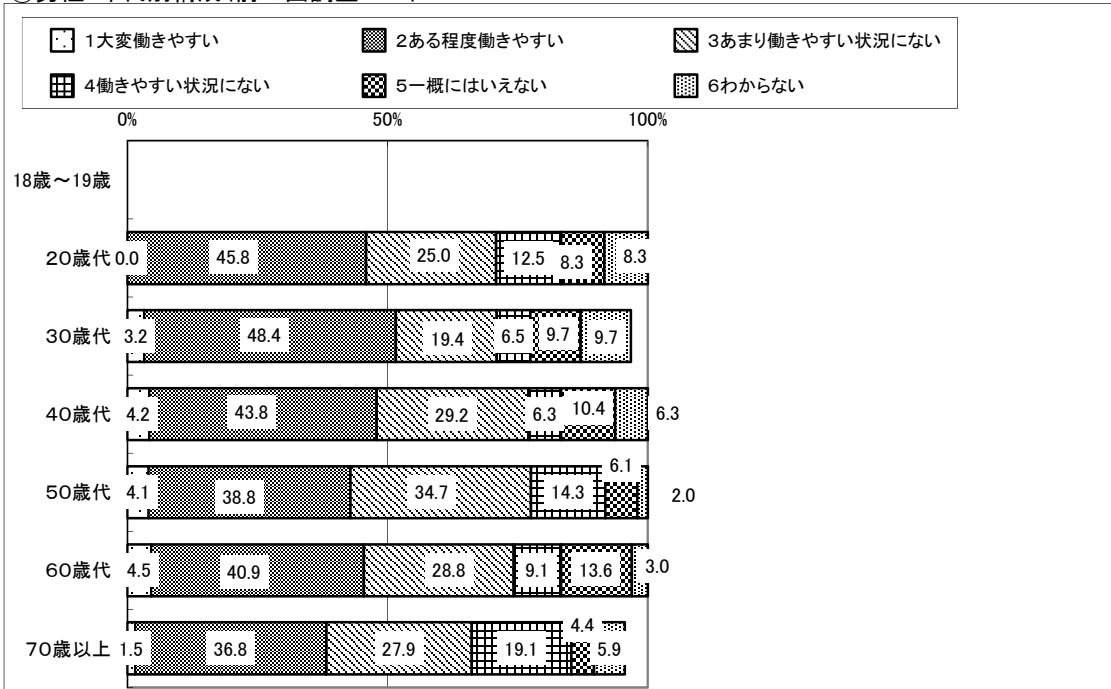
【男性】 18歳～19歳=0 20歳代=9 30歳代=15 40歳代=33 50歳代=71 60歳代=72 70歳以上=103

【女性】 18歳～19歳=3 20歳代=14 30歳代=25 40歳代=40 50歳代=71 60歳代=101 70歳以上=93

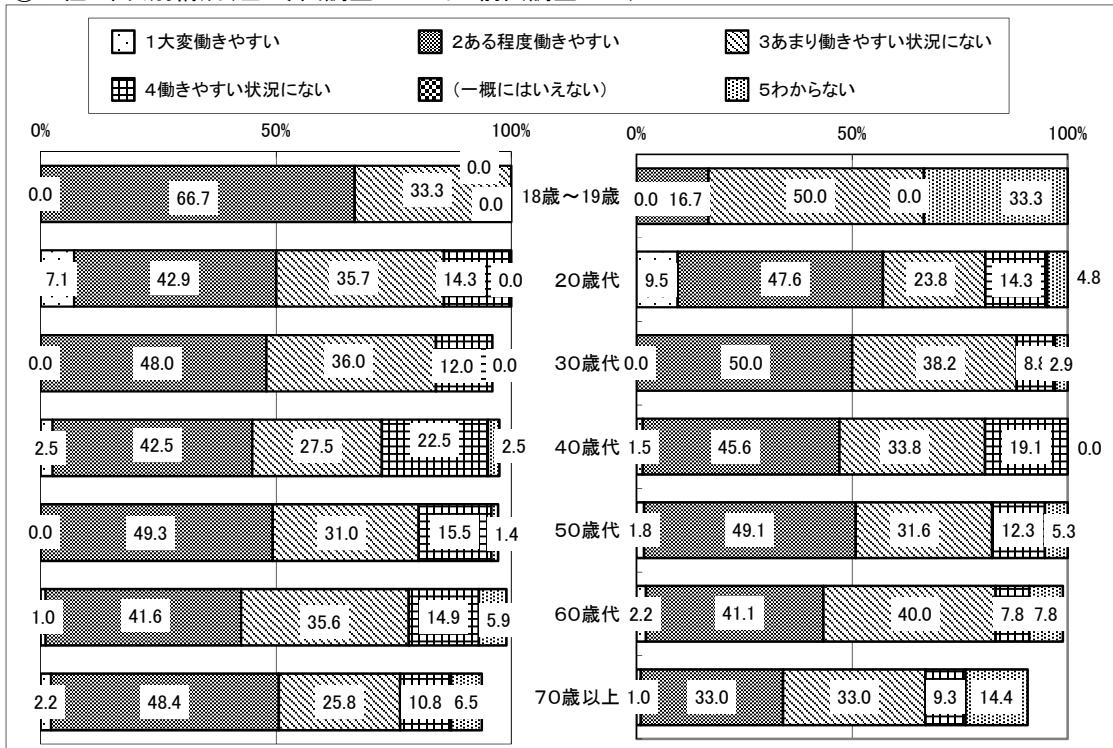
④男性・年代別構成(左:今回調査=303 右:前回調査=363)



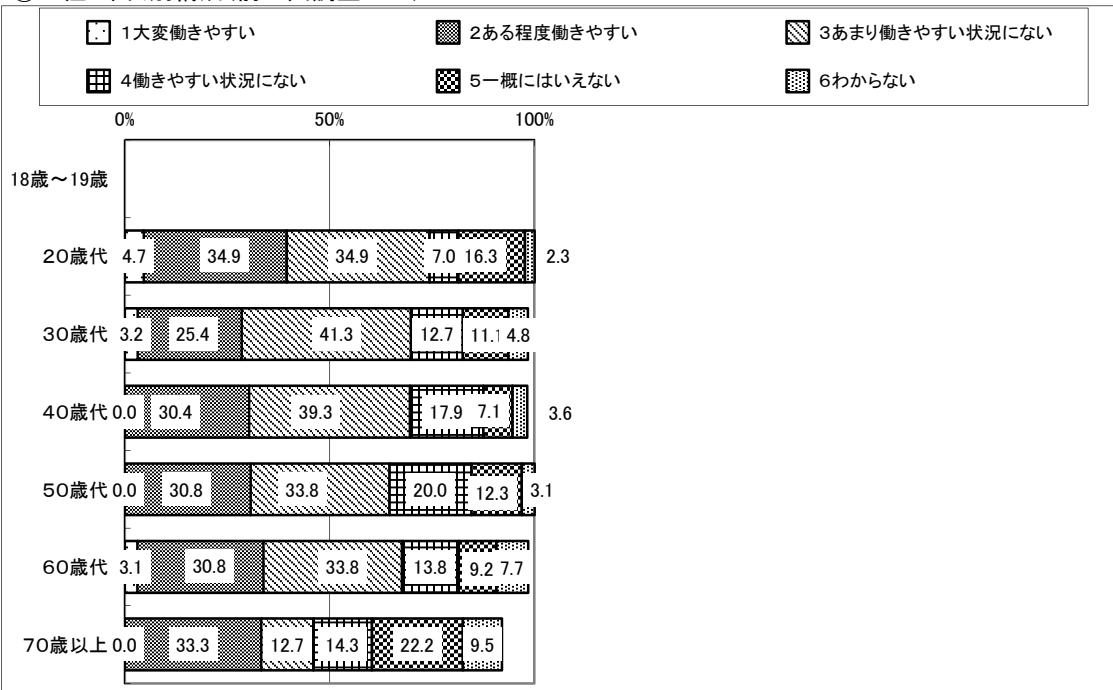
⑤男性・年代別構成(前々回調査=286)



⑥女性・年代別構成(左:今回調査=347 右:前回調査=373)



⑦女性・年代別構成(前々回調査=355)



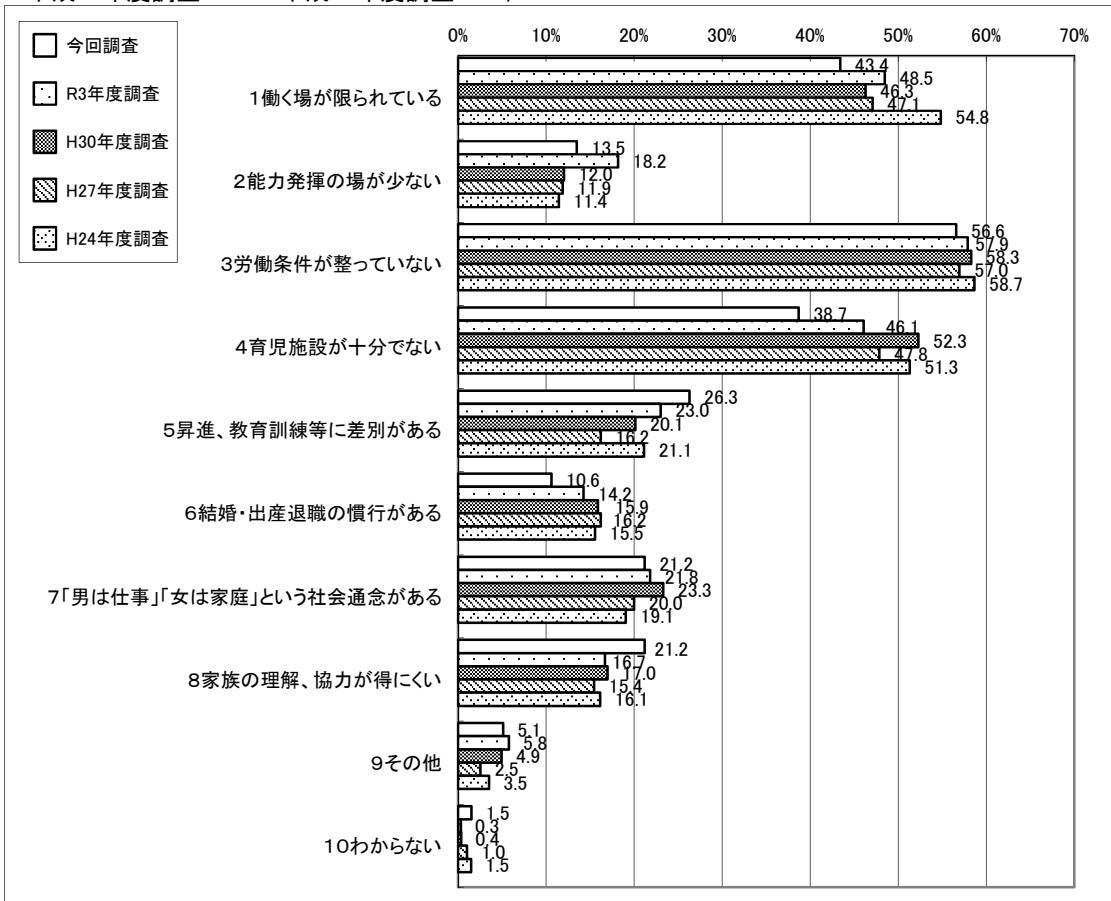
問15 [問14で「3あまり働きやすい状況はない」または「4働きやすい状況はない」と答えた方にお伺いします。] それは、どのような理由からでしょうか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。
(N=274 男性=116 女性=158 その他=0 性別不明=0)

問14において、「あまり働きやすい状況はない」または「働きやすい状況はない」と回答したものに、その理由についてたずねた。
回答の割合で最も高いのは「労働条件が整っていない」(56.6%)であり、次いで「働く場が限られている」(43.4%)、「育児施設が十分でない」(38.7%)と続き、上位3位は前回同様である。
前回調査と比較すると、「家族の理解、協力が得にくい」(21.2%)の回答は、前回調査(16.7%)より4.5ポイント増加。一方「育児施設が十分ではない」(38.7%)は、前回調査(46.1%)より7.4ポイント減少し、減少傾向が続いている。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=274 令和3年度調査=330 平成30年度調査=282

平成27年度調査=395 平成24年度調査=341)



男女別にみると、男性では「労働条件が整っていない」(54.3%)が最も高く、次いで「働く場が限られている」(44.8%)で「育児施設が十分でない」(40.5%)と続く。

女性では「労働条件が整っていない」(58.2%)の割合が最も高く、次いで「働く場が限られている」(42.4%)、「育児施設が十分でない」(37.3%)と続く。

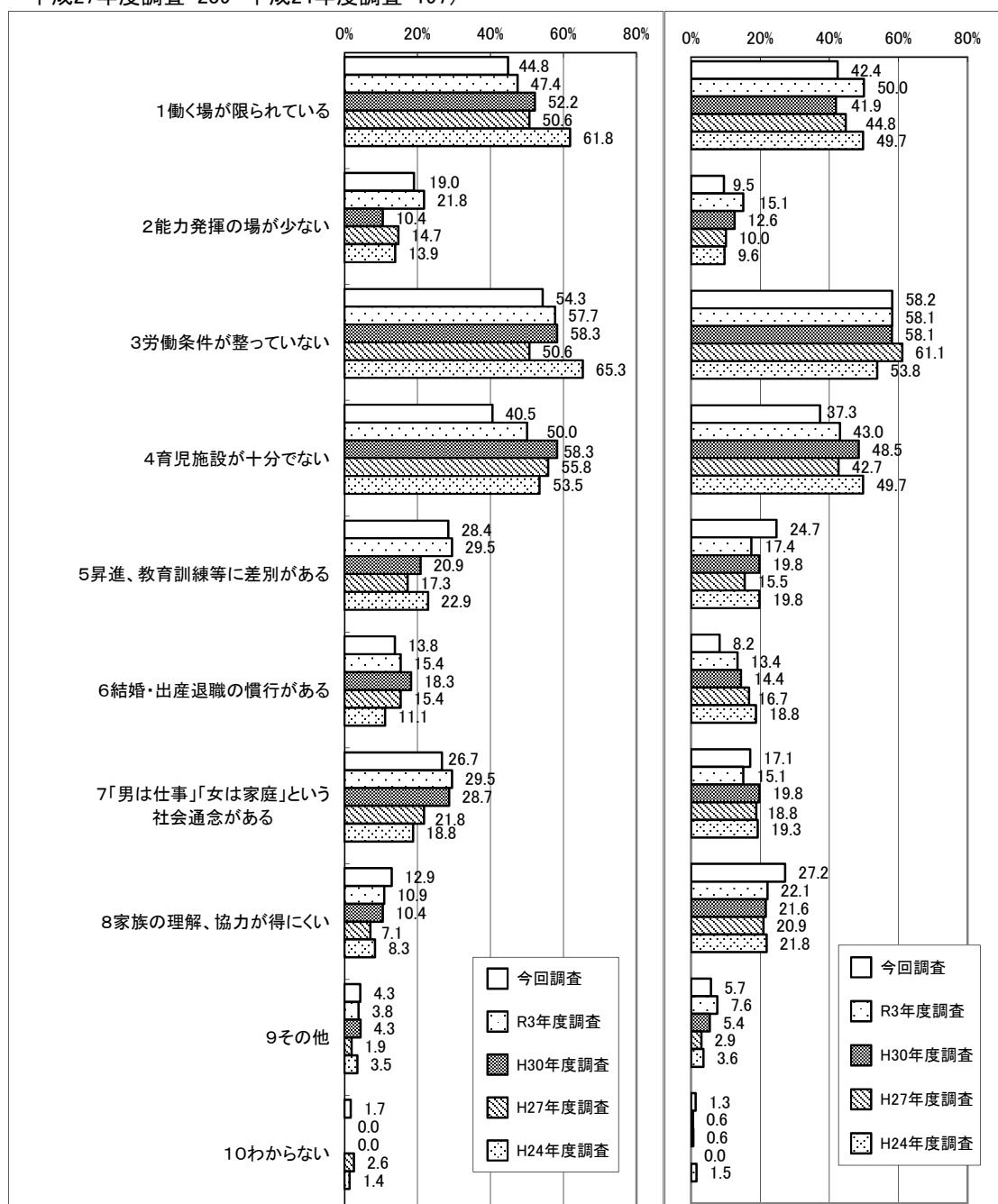
男女差が最も大きいのは「家族の理解、協力が得にくい」（男性12.9%、女性27.2%）であり、女性が14.3ポイント高い。また「「男は仕事」「女は家庭」という社会通念がある」（男性26.7%、女性17.1%）では、男性が9.6ポイント高い。

②男性の経年推移：左(今回調査=116 令和3年度調査=156 平成30年度調査=115

平成27年度調査=156 平成24年度調査=144)

③女性の経年推移：右(今回調査=158 令和3年度調査=172 平成30年度調査=167

平成27年度調査=239 平成24年度調査=197)

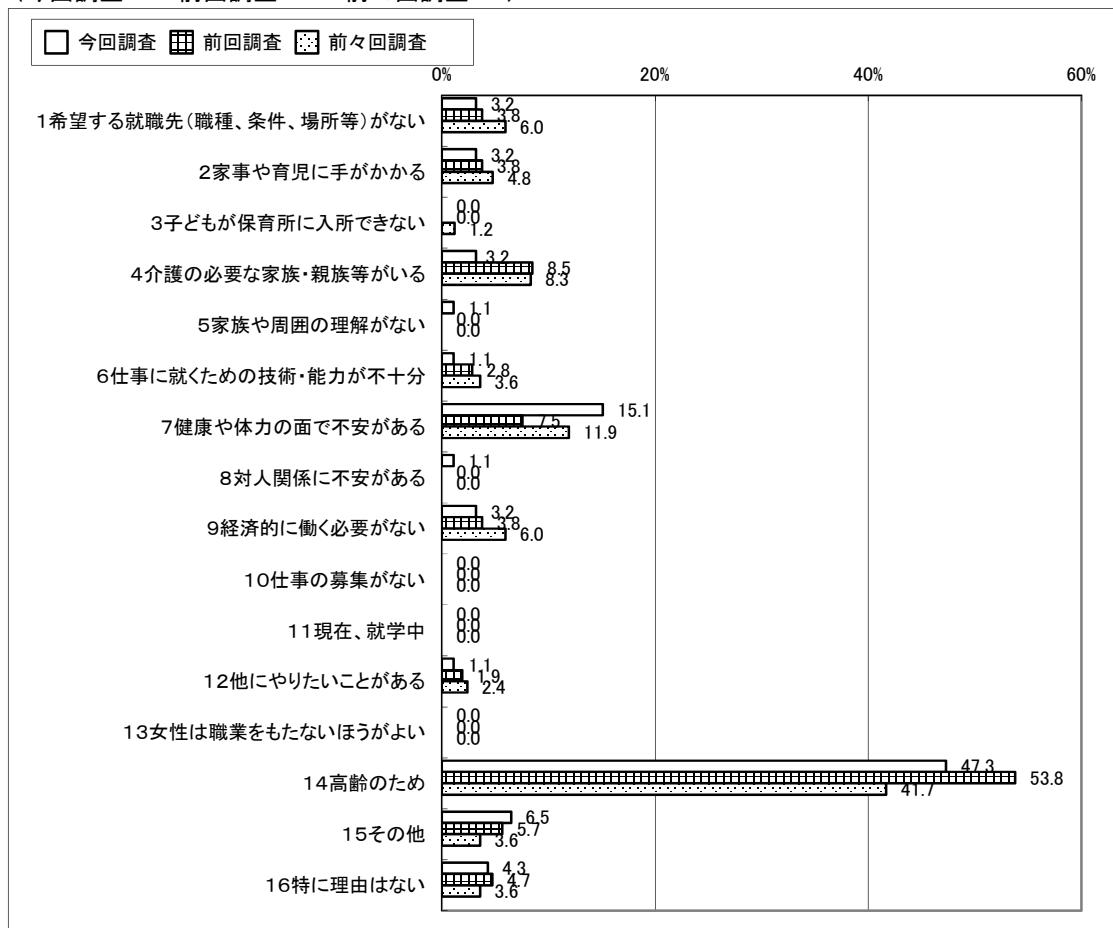


問16 [女性で、現在職業をもっていない方にお伺いします。]

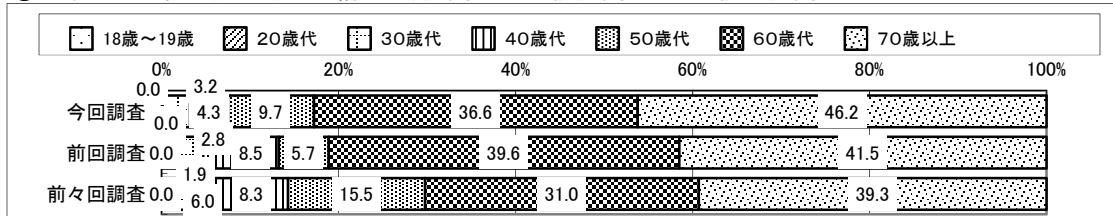
現在仕事に就いていないのは、主にどのような理由からですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
(無職女性N=135 無職女性既婚=93 無職女性過去就業経験有=125)

無職女性で職業をもっていないものの、職業に就いていない理由について調査した。
既婚かつ無職女性では「高齢のため」(47.3%)が割合が最も高い回答であった。次いで「健康や体力の面で不安がある」(15.1%)となった。
「高齢のため」(47.3%)は前回調査(53.8%)より6.5ポイント減少、「健康や体力の面で不安がある」(15.1%)は前回調査(7.5%)より7.6ポイント増加した。

①既婚かつ無職女性の回答経年推移
(今回調査=93 前回調査=106 前々回調査=84)

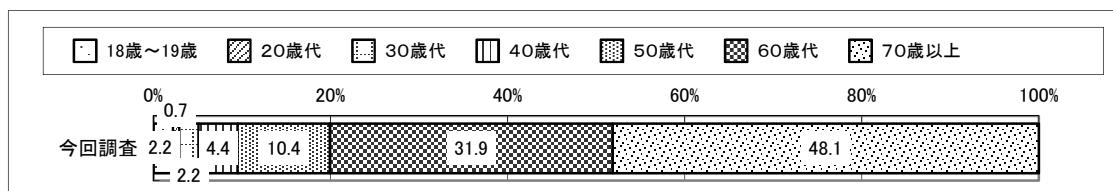


②既婚かつ無職女性の年代別構成(今回調査=93 前回調査=106 前々回調査=84)



③無職女性の年代構成

(N=135 18歳～19歳=3 20歳代=1 30歳代=3 40歳代=6 50歳代=14 60歳代=43 70歳以上=65)



問17 [女性で、現在職業をもっていない方にお伺いします。]

今後仕事に就きたいとお考えですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

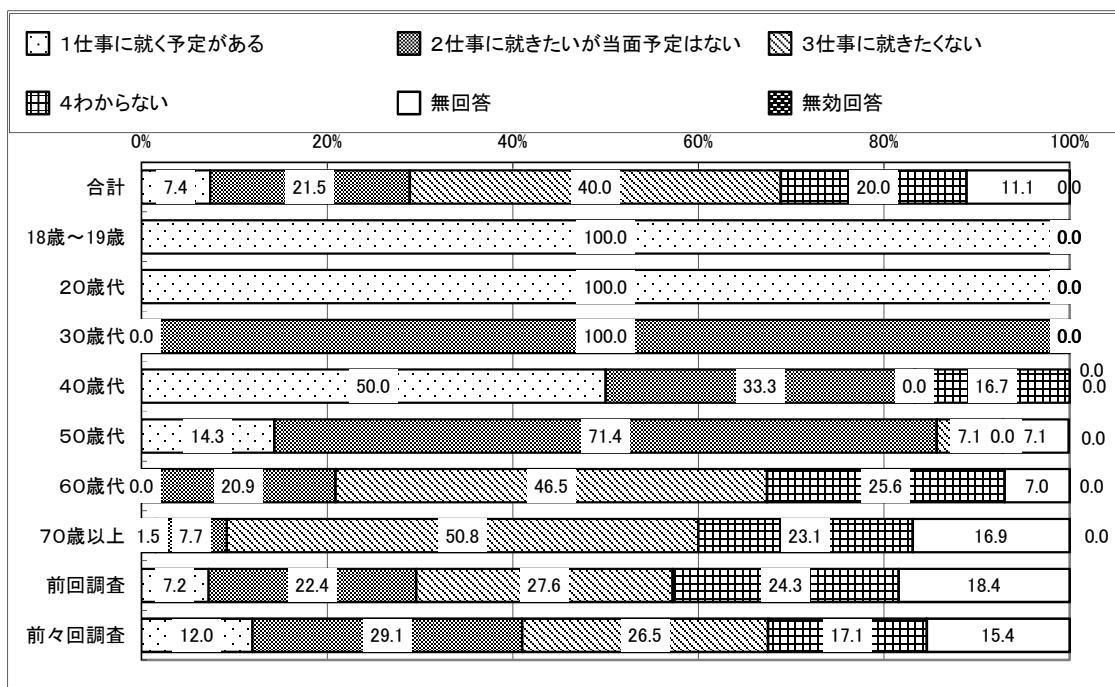
(N=135 18歳～19歳=3 20歳代=1 30歳代=3 40歳代=6 50歳代=14 60歳代=43 70歳以上=65)

現在職業をもっていない女性に、今後仕事に就きたいかどうかを調査した。

「仕事に就く予定がある」と回答したものは「18歳～19歳」、「20歳代」で100.0%となり、次いで「40歳代」(50.0%)であった。

「仕事に就きたいが当面予定はない」と回答したものは、「30歳代」で100.0%となり、次いで「50歳代」(71.4%)と続く。

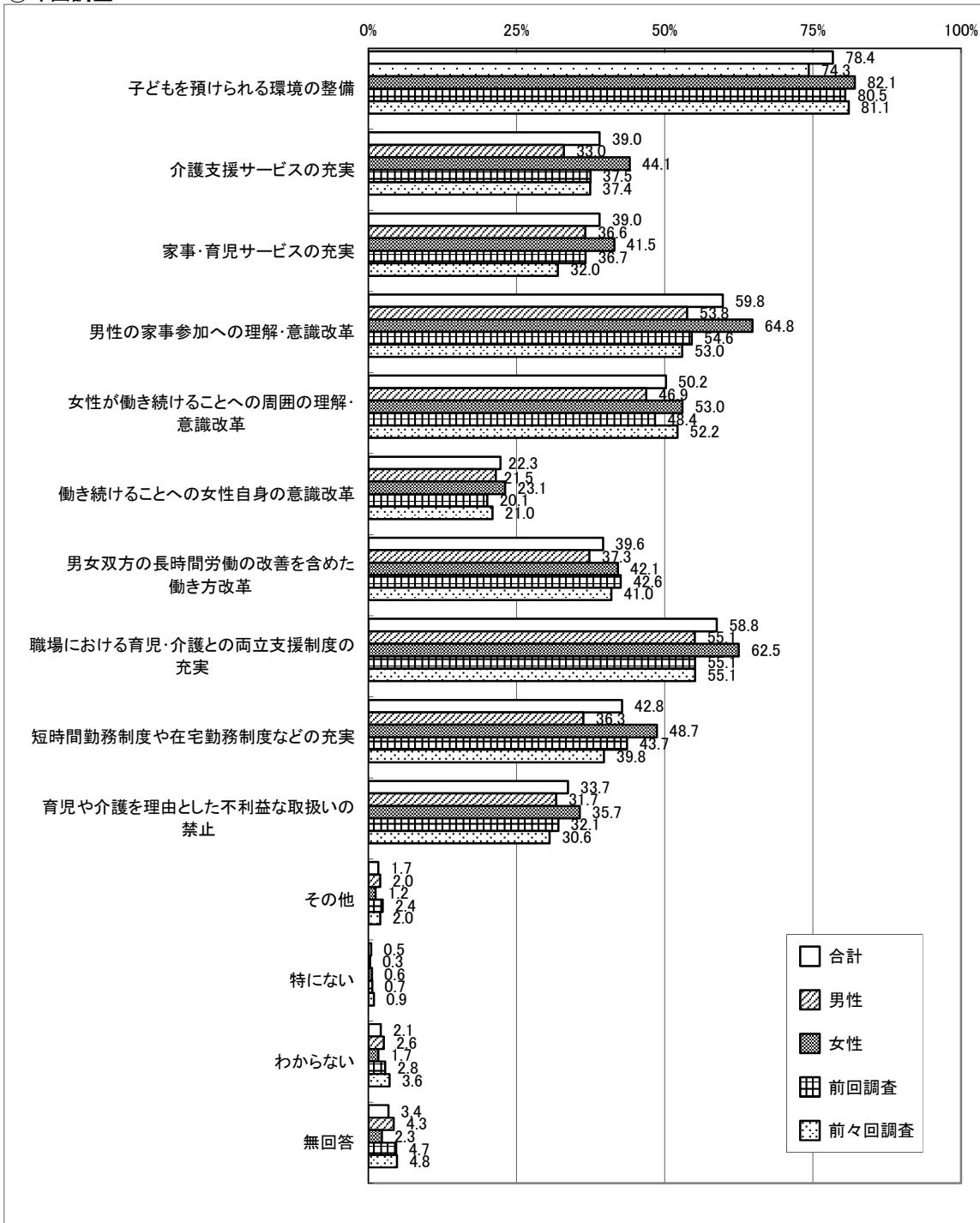
「仕事に就きたくない」と回答したものは「70歳以上」(50.8%)で最も高く、次いで「60歳代」(46.5%)、「50歳代」(7.1%)となった。「18～19歳」から「40歳代」はいなかつた。



問18 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要な事は何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことは、「子どもを預けられる環境の整備」(78.4%)の割合が最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」(59.8%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(58.8%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(50.2%)と続き、2番目と3番目が逆転している。男女差が最も大きいのは「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの充実」であり、男性(36.3%)と女性(48.7%)では、女性が12.4ポイント高い。

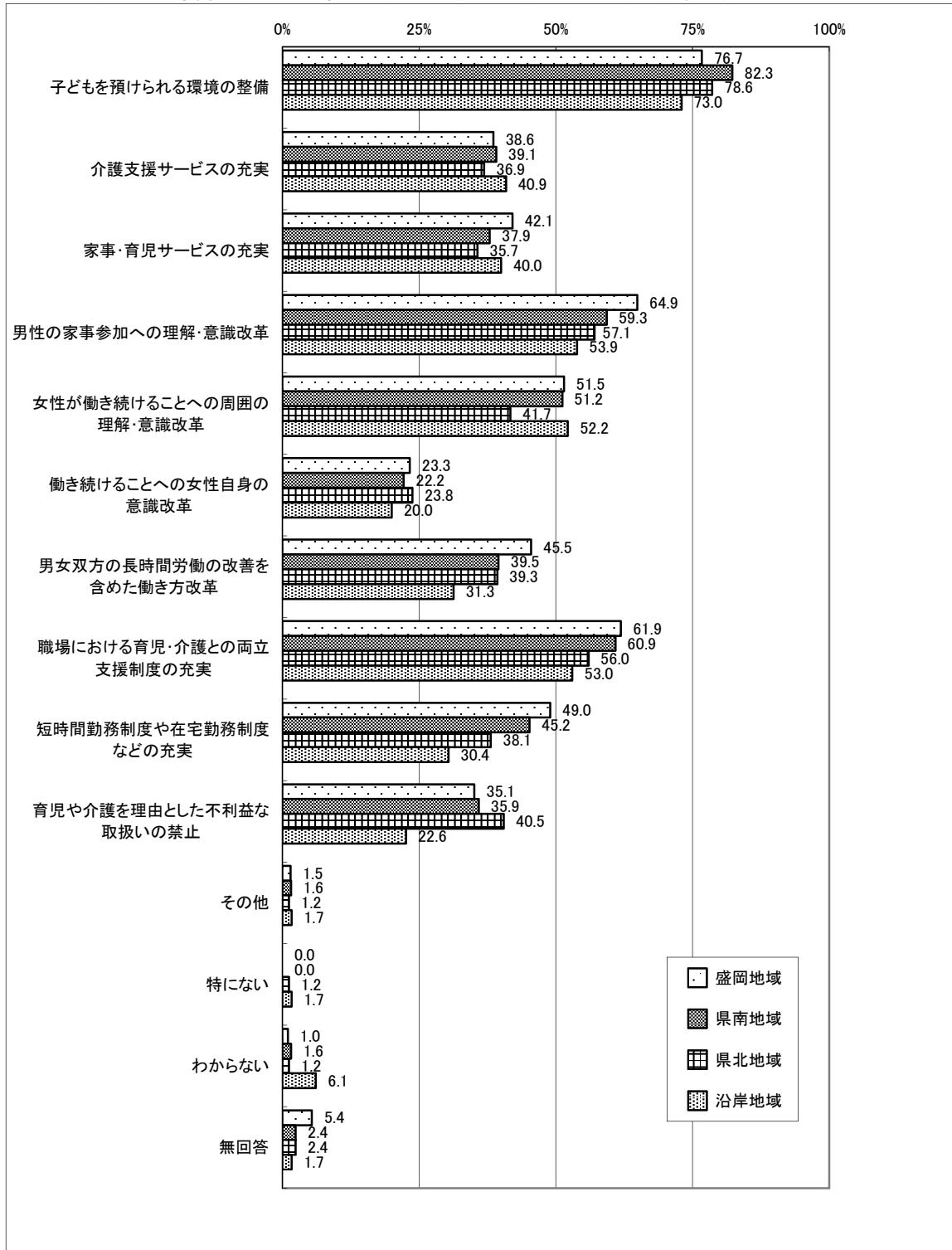
①今回調査



地域別にみると、全ての地域で5割を超えたのは「子どもを預けられる環境の整備」と「男性の家事参加への理解・意識改革」と「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の3項目である。

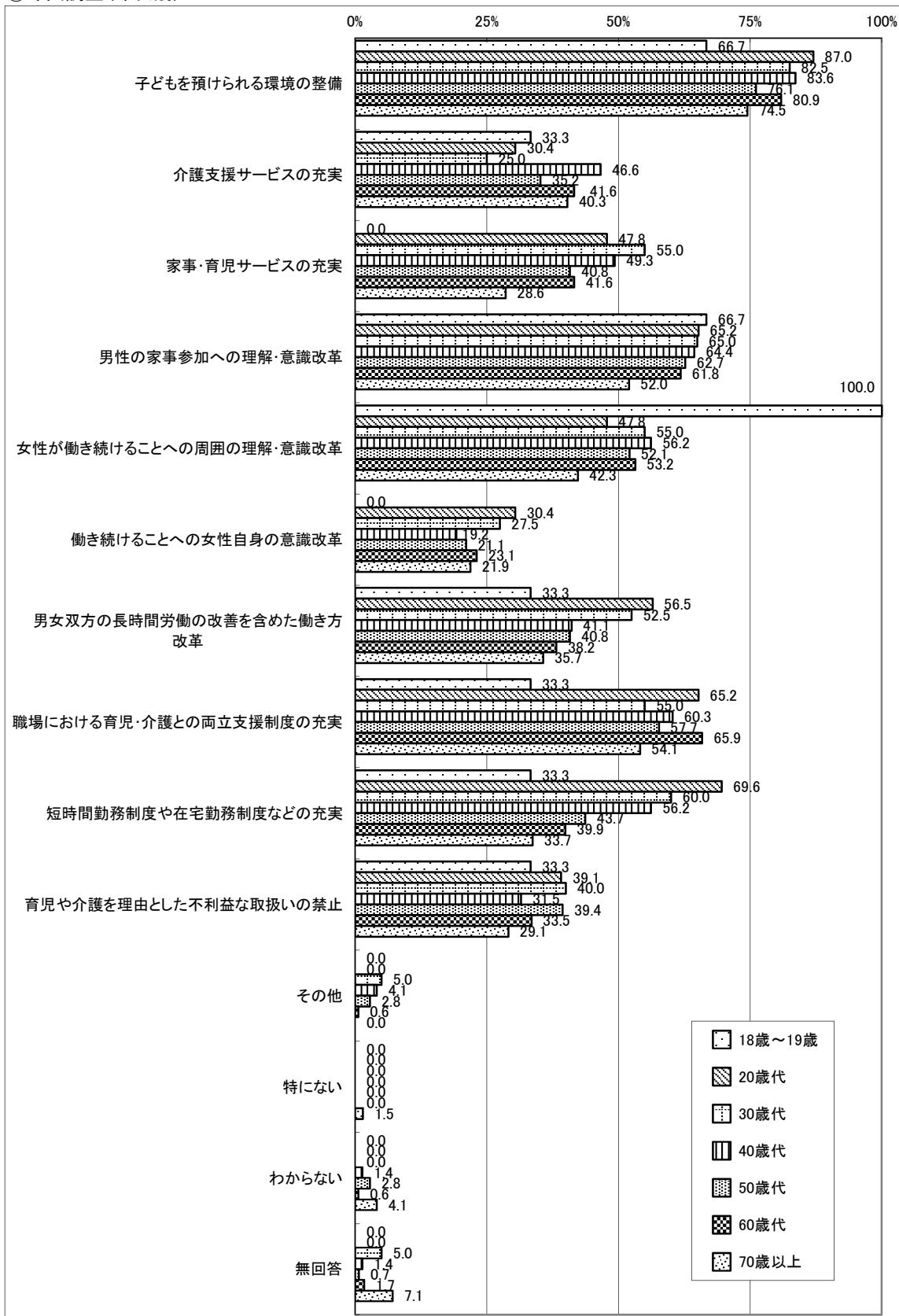
②今回調査（地域別）

（盛岡地域=202 県南地域=248 県北地域=84 沿岸地域=115 地域無回答=7）



年代別にみると、「子どもを預けられる環境の整備」は全ての年代で6割を超えており、年代差が最も大きいのは「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」であり、最も高い「18～19歳」(100.0%)と最も低い「70歳以上」(42.3%)では、「18歳～19歳代」が57.7ポイント高い。

③今回調査(年代別)



5 仕事と家庭・社会活動の両立について

問19 仕事との関係において、家庭生活または町内会やボランティア、サークル活動などの社会活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(1)女性及び(2)男性それぞれの場合について、望ましいと思うものを1つ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

※以下、「家庭生活又は社会活動よりも、仕事に専念する」または「家庭生活又は社会活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」と回答したものを『仕事優先』と表記し、「仕事にも携わるが、家庭生活又は社会活動を優先させる」または「仕事よりも、家庭生活又は社会活動に専念する」と回答したものを『家庭生活・社会活動優先』と表記する。

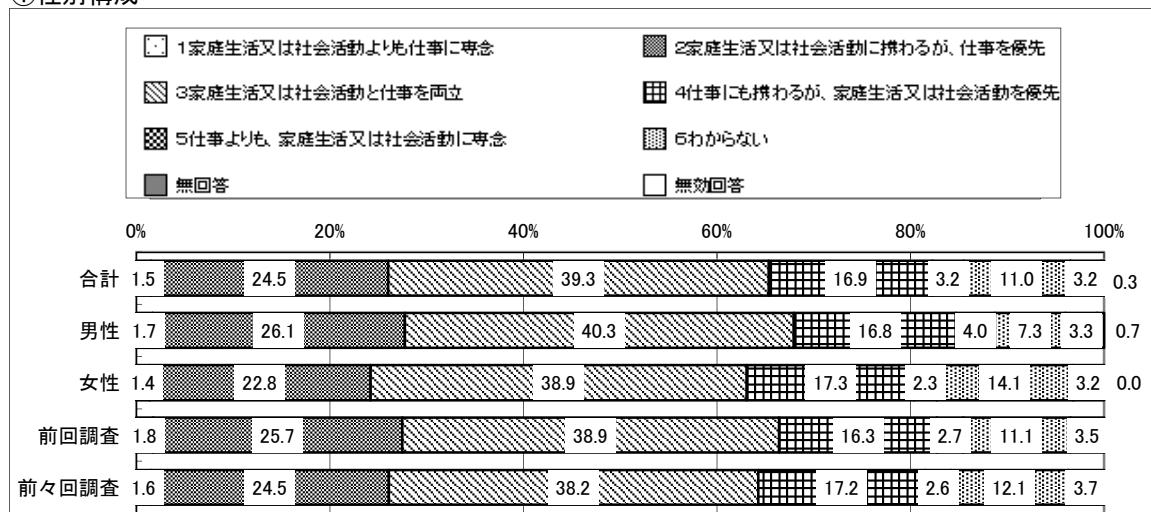
(1)女性についてはどうでしょうか。(男性の方もお答えください)

仕事と家庭生活・社会活動の望ましい位置づけについて、『仕事優先』と回答したものは26.0%、『家庭生活・社会活動優先』と回答したものは20.1%である。

『仕事優先』と回答したものは、男性(27.8%)は前回調査(25.9%)より1.9ポイント増加しているが、女性(24.2%)は前回調査(29.4%)より5.2ポイント減少した。

「家庭生活又は社会活動と仕事を両立」(以下、『両立』とする)と回答したものは39.3%であり、前回調査(38.9%)より0.4ポイント微増としている。

①性別構成



<Ⅲ 調査テーマによる分析 5 仕事と家庭・社会活動の両立について>

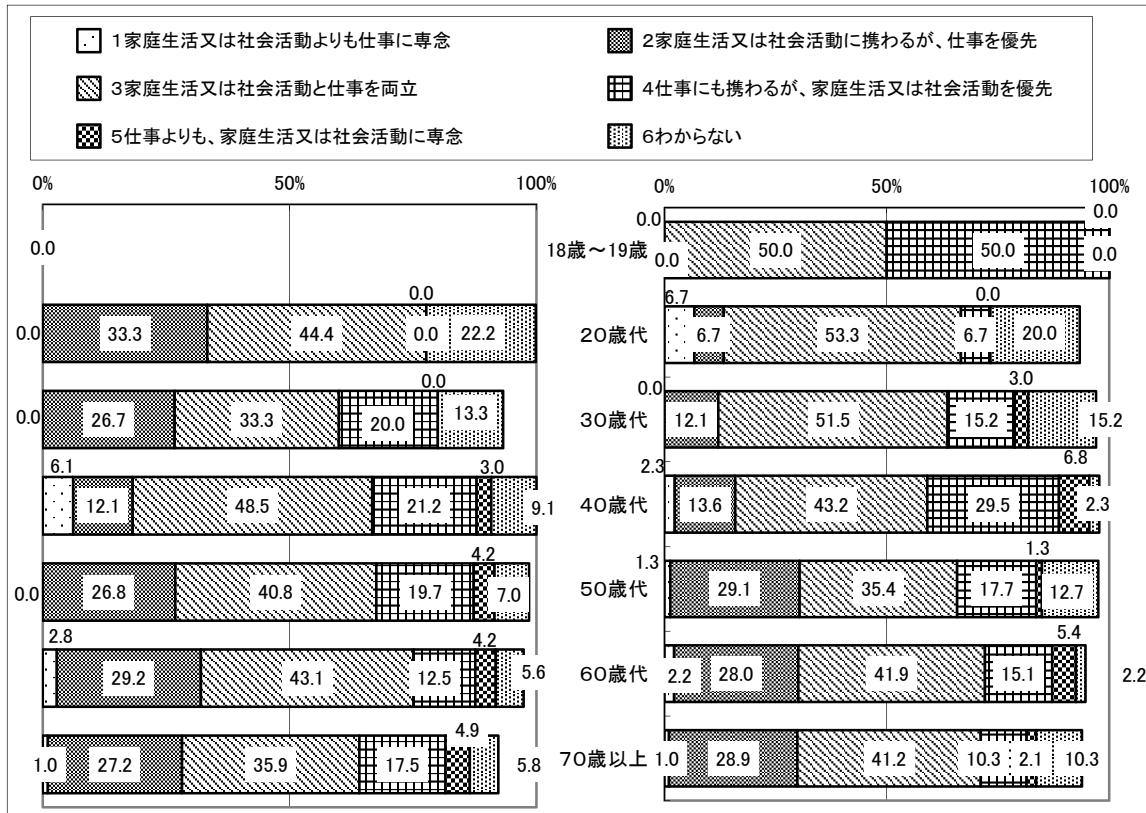
年代別にみると『仕事優先』と回答したものの割合が最も高いのは、男性では「20歳代」

(33.3%)、女性では「60歳代」(32.7%)である。

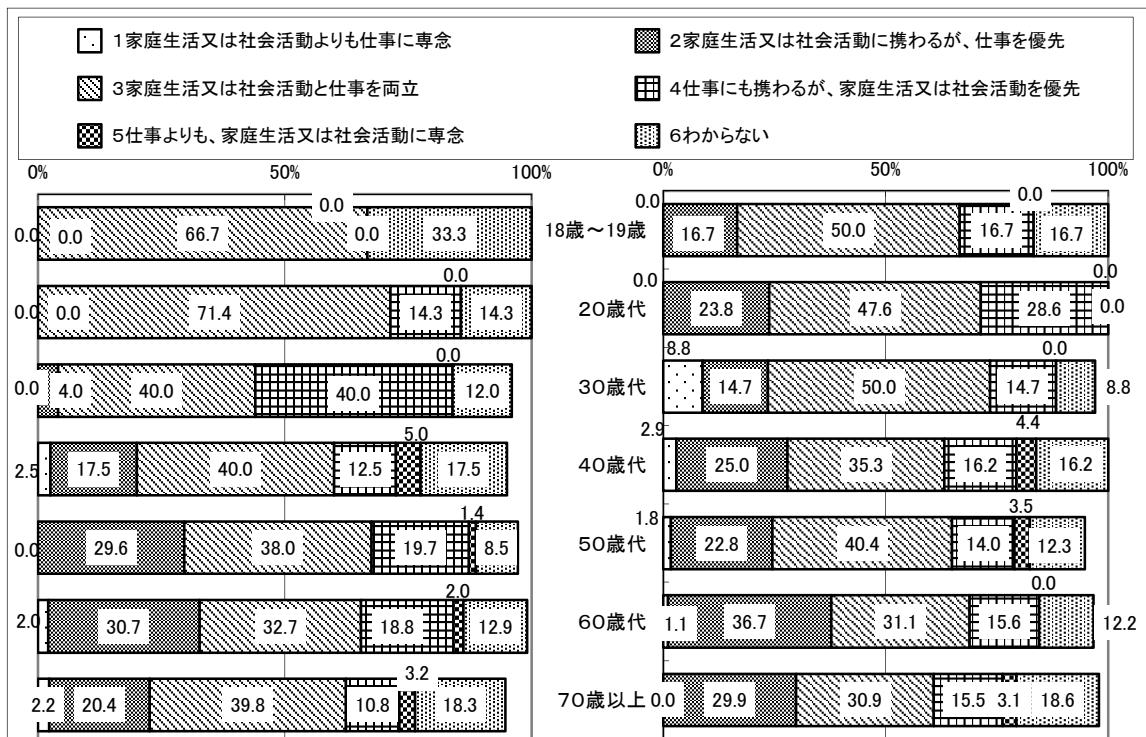
「家庭生活又は社会活動よりも仕事に専念する」と回答したものが全くない年代は、男女ともに「18歳～19歳」であった。

前回調査では『両立』が男性では「18～19歳」(50.0%)、「20歳代」(53.3%)、「30歳代」(51.5%)であったが、今回調査では男性で5割を超えた年代はいなかった。女性では、「18～19歳」が前回調査(50.0%)、今回調査(66.7%)と16.7ポイントの増加、「20歳代」が前回調査(47.6%)、今回調査(71.4%)と23.8ポイント増加した。

②男性・年代別構成(左:今回調査=303 右:前回調査=363)



③女性・年代別構成(左:今回調査=347 右:前回調査=363)



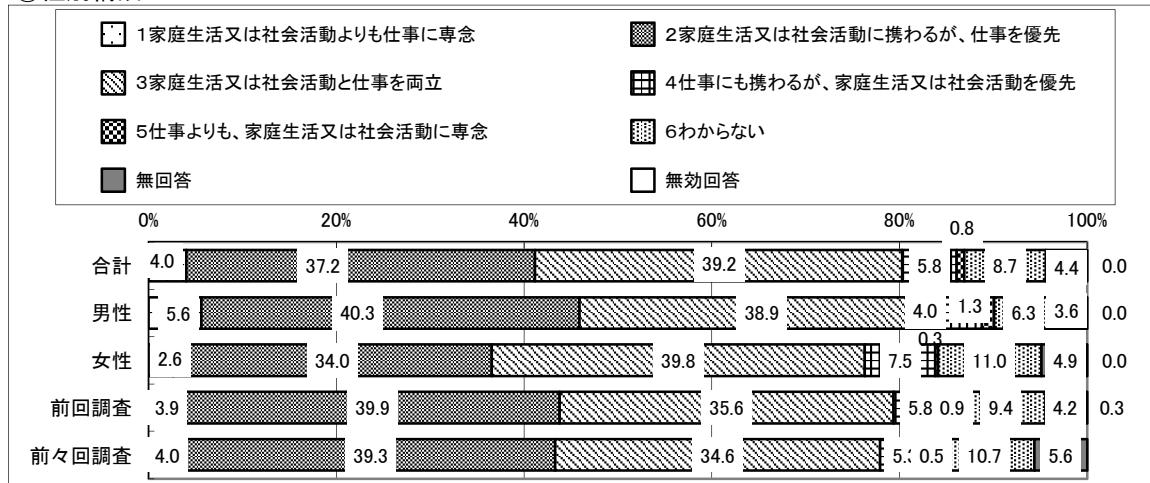
(2) 男性についてはどうでしょうか。(女性の方もお答えください)

仕事と家庭生活・社会活動の望ましい位置づけについて、『仕事優先』と回答したものは41.2%であり、前回調査(43.8%)と比較すると2.6ポイント減少している。

『仕事優先』と回答したものは、男性(45.9%)は前回調査(44.1%)より1.8ポイント増加したが、女性(36.6%)は前回調査(43.8%)より7.2ポイント減少している。

『家庭生活・社会活動優先』と回答したものは6.6%で前回調査(6.7%)より0.1ポイント微減した。

①性別構成

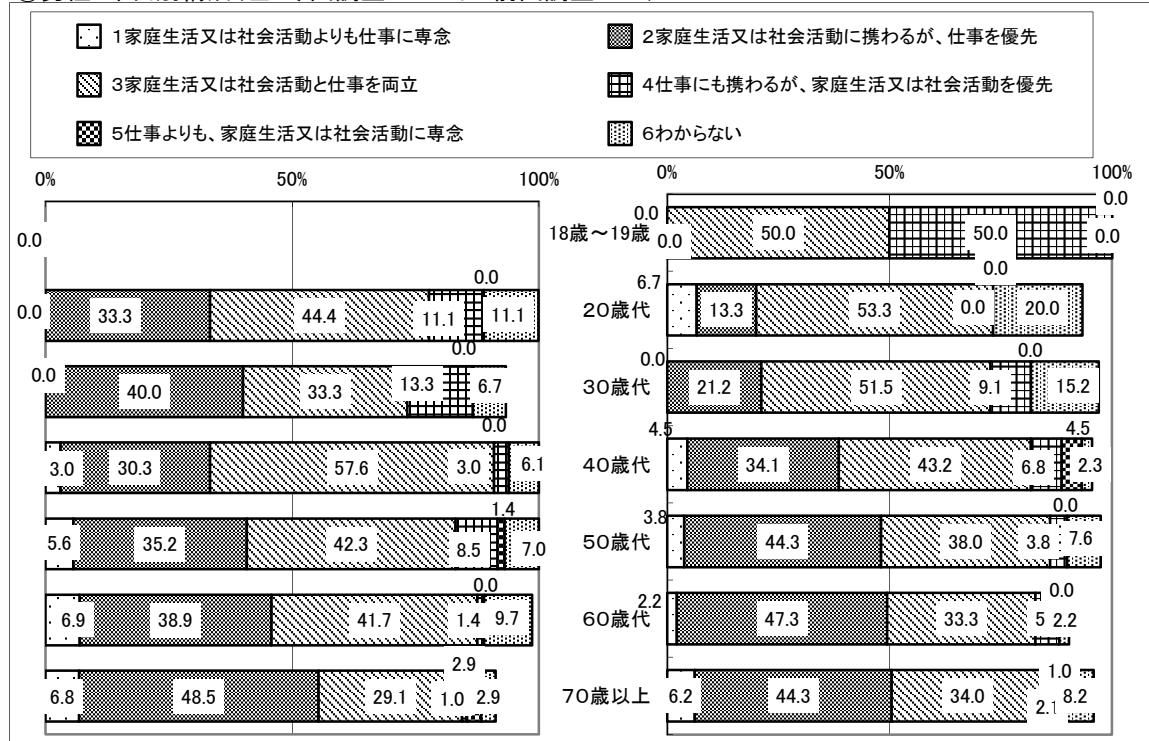


<Ⅲ 調査テーマによる分析 5 仕事と家庭・社会活動の両立について>

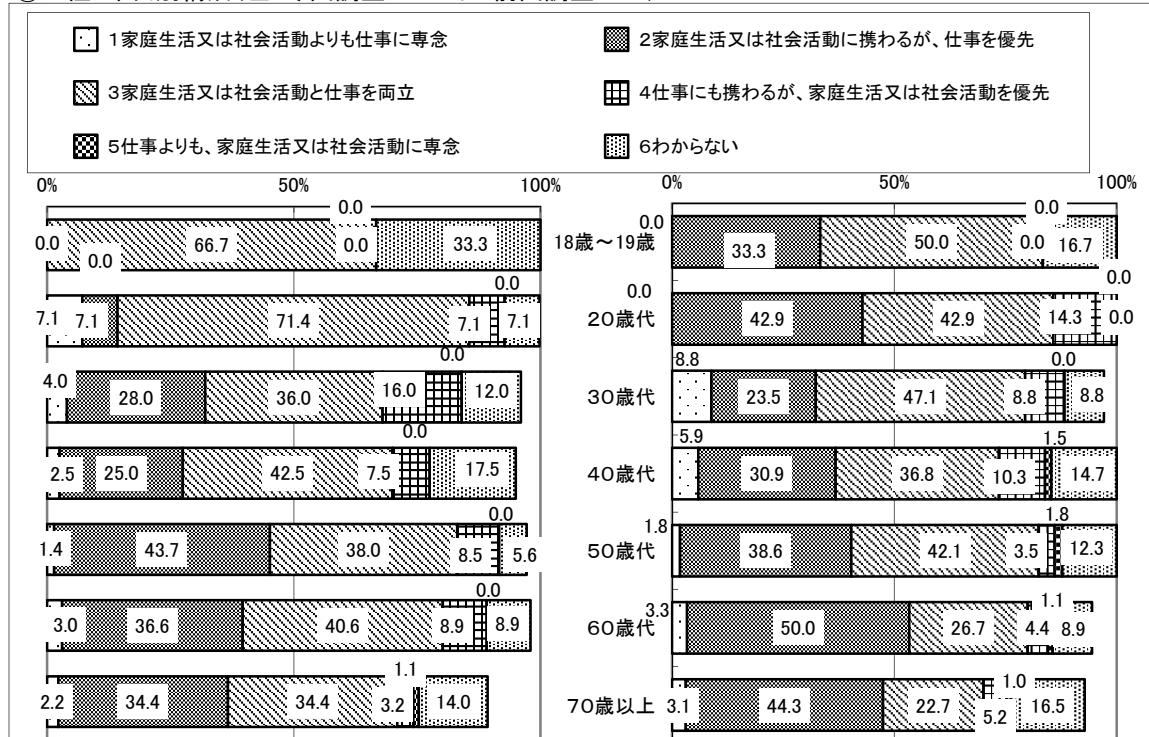
年代別にみると『仕事優先』と回答したものは、男性では「70歳以上」(55.3%)、女性では「50歳代」(45.1%)が多くなっている。

前回調査と比較すると、『仕事優先』と回答した男性は、「30歳代」(40.0%)は前回調査(21.2%)より18.8ポイント増加、「20歳代」(33.3%)は前回調査(20.0%)より13.3ポイント増加している。女性では「50歳代」(45.1%)は前回調査(40.4%)より4.7ポイント増加しており、そのほかの年代では減少傾向にある。

②男性・年代別構成(左:今回調査=303 右:前回調査=363)



③女性・年代別構成(左:今回調査=347 右:前回調査=363)



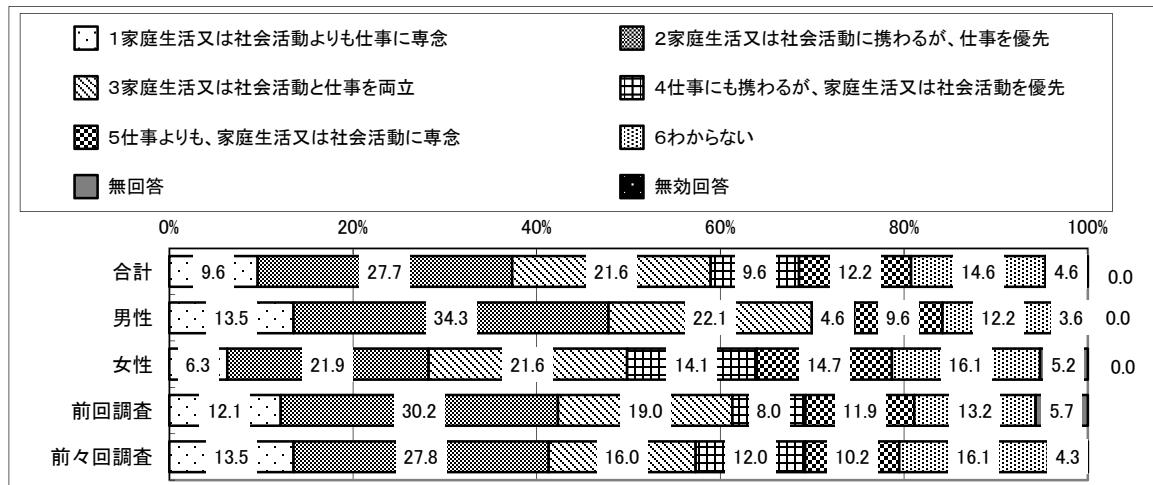
問20 (仕事と家庭・社会活動の両立について)

現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

回答者自身の仕事と家庭生活・社会活動の現状の位置づけについて、『仕事優先』と回答したものは37.3%であり、『家庭生活・社会生活優先』と回答したものは21.8%である。

『仕事優先』と回答した男性(47.8%)は、前回調査(54.0%)より6.2ポイント減少し、女性(28.2%)は前回調査(31.6%)より3.4ポイント減少した。

①性別構成

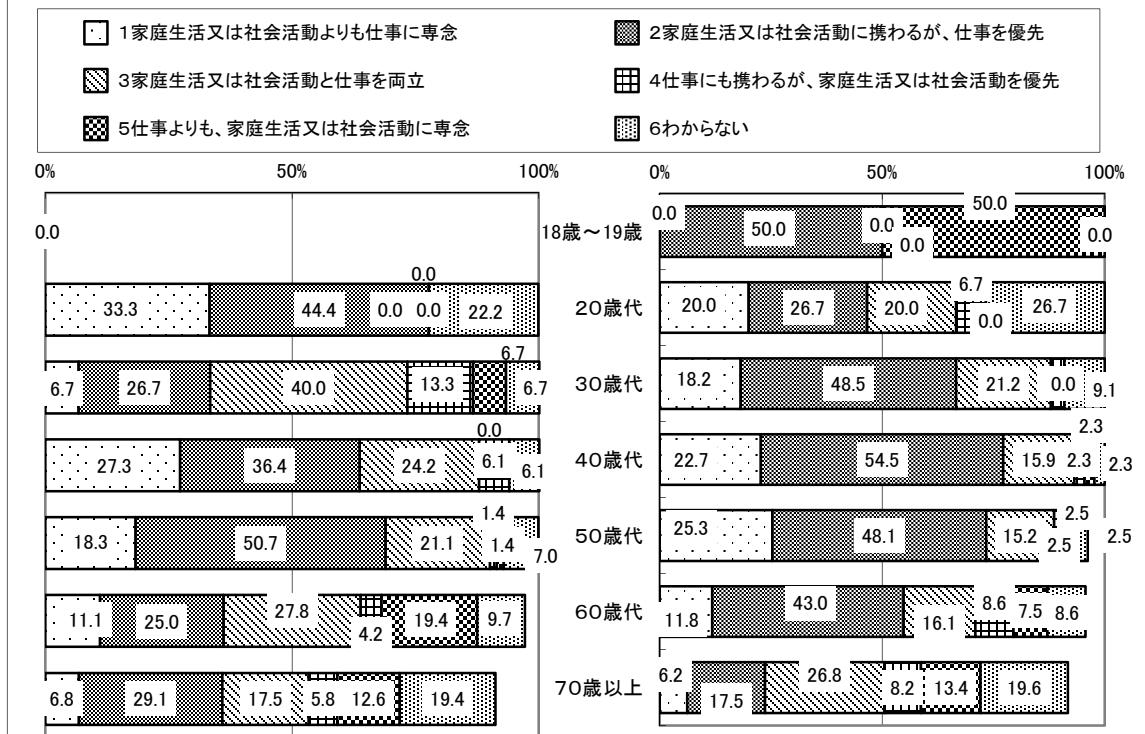


年代別にみると『仕事優先』と回答した割合が最も高いのは、男女ともに「20歳代」で男性(77.7%)、女性(57.1%)となった。

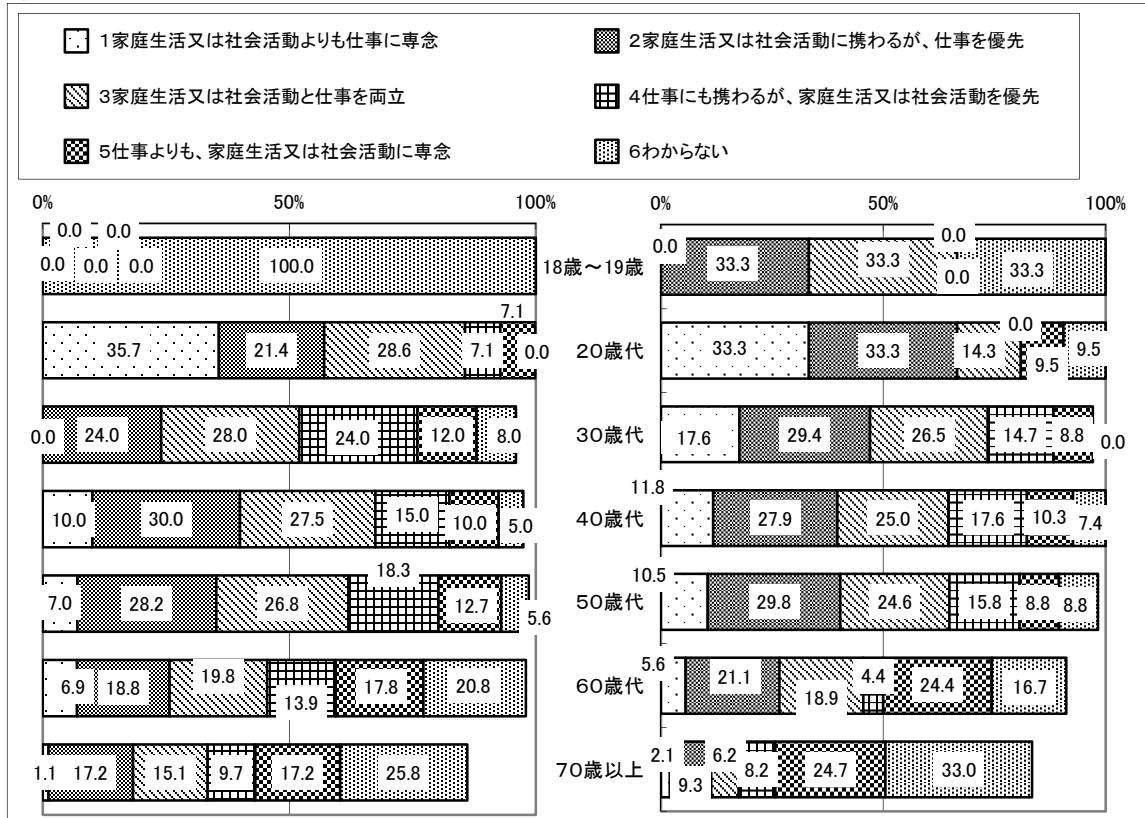
『仕事優先』が5割を超えたのは、男性では「20歳代」(77.7%)、「40歳代」(63.7%)、「50歳代」(69.0%)なのに対し、女性では「20歳代」(57.1%)のみとなった。

『家庭生活・社会活動優先』と回答した割合が高いのは、女性の「30歳代」(36.0%)、「50歳代」(31.0%)、「60歳代」(31.7%)でいずれも3割を超えてい。

②男性・年代別構成(左:今回調査=303 右:前回調査=363)



③女性・年代別構成(左:今回調査=363 右:前回調査=286)



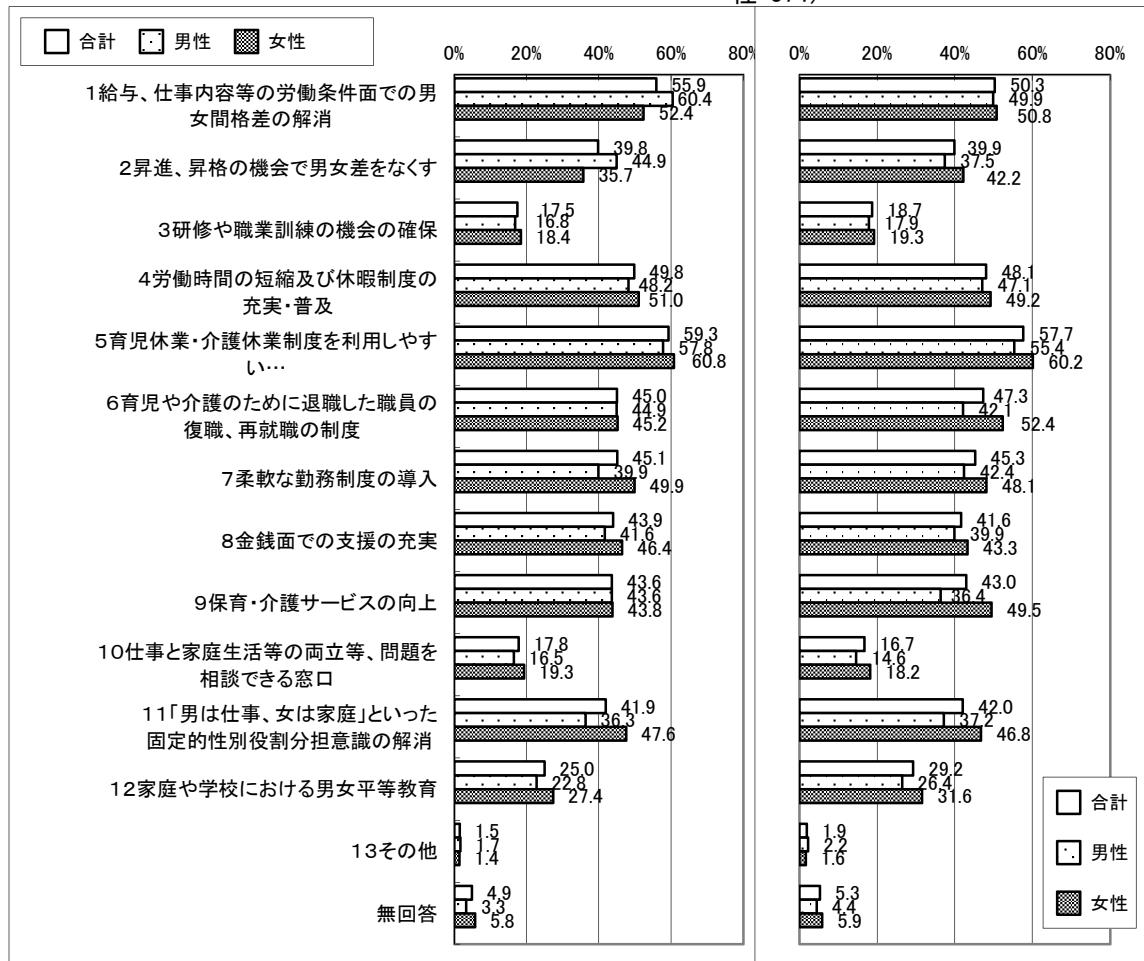
問21 一般に、男女が共に仕事と家庭・社会活動の両立を可能とするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(1)女性及び(2)男性それぞれの場合について、次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

(1)女性についてはどうでしょうか。(男性の方もお答えください。)

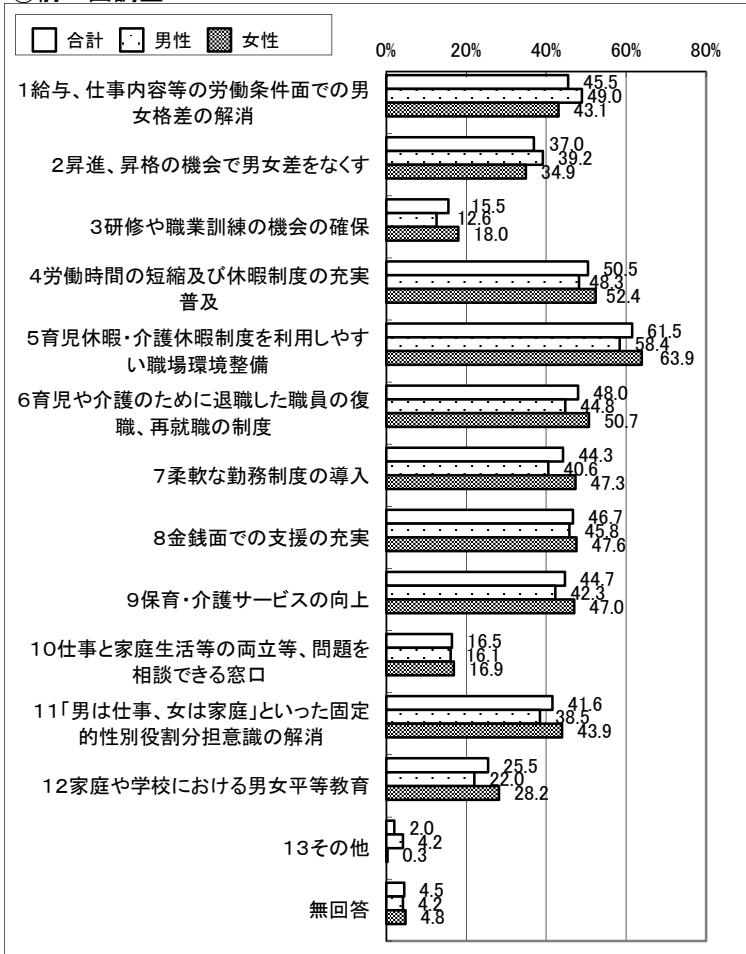
仕事と家庭・社会活動の両立を可能とするために必要なことは、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(59.3%)の割合が最も高く、次いで「給与、仕事内容等の労働条件面での男女間格差の解消」(55.9%)、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(49.8%)と続く。前回調査では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(57.7%)の割合が最も高く、次いで「給与、仕事内容等の労働条件面での男女間格差の解消」(50.3%)、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(48.1%)と今回調査と同じ順となっている。

①今回調査

②前回調査(合計=742 男性=363 女性=374)



③前々回調査

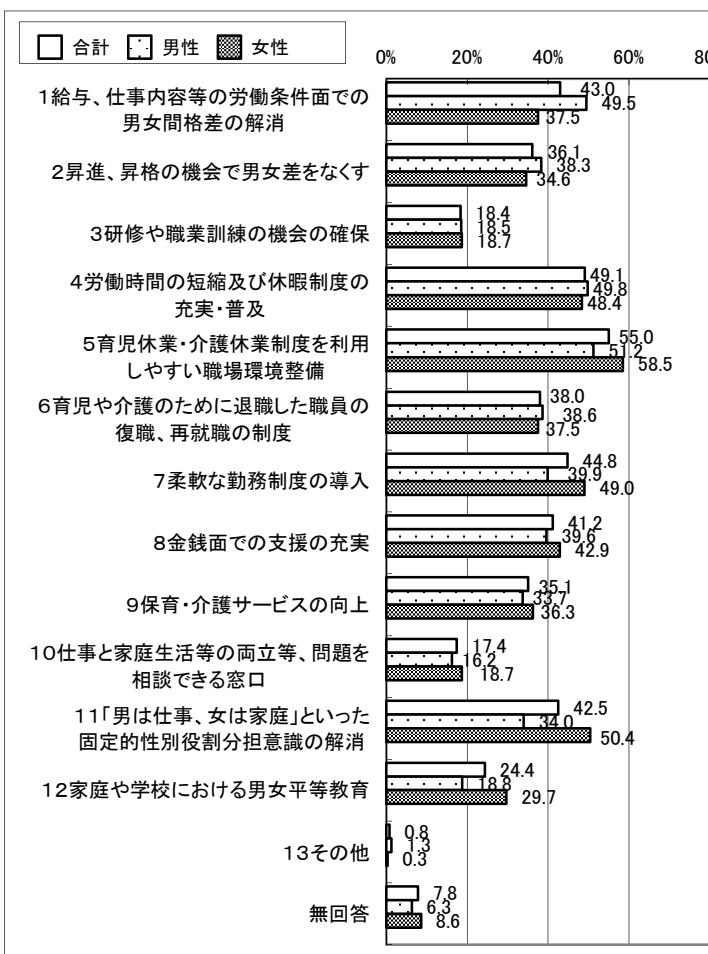


(2) 男性についてはどうでしょうか。(女性の方もお答えください。)

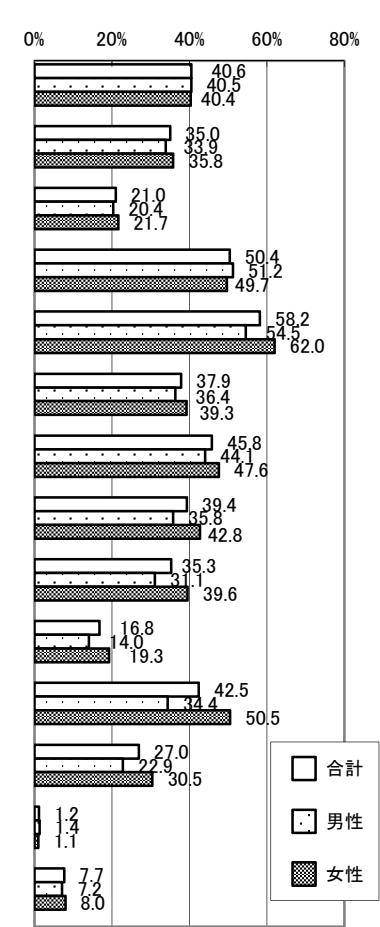
仕事と家庭・社会活動の両立を可能とするために必要なことは、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(55.0%)の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(49.1%)、「柔軟な勤務制度の導入」(44.8%)と続く。

前回調査では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境整備」(58.2%)の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(50.4%)、「柔軟な勤務制度の導入」(45.8%)と前回調査と同じ順となっている。

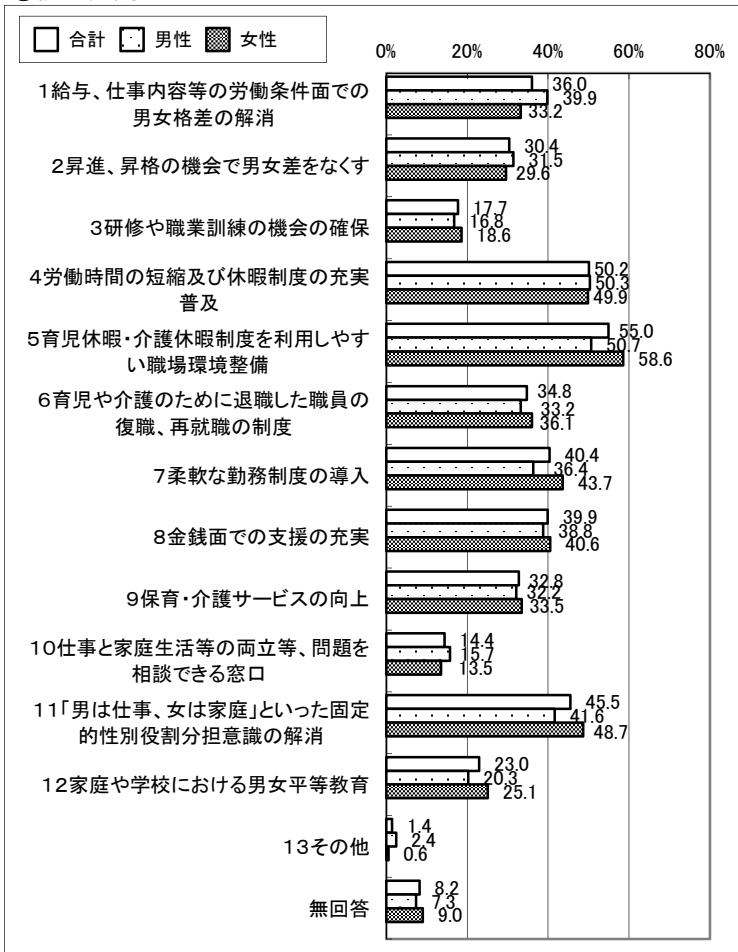
①今回調査



②前回調査(合計=742 男性=363 女性=374)



③前々回調査



6 女性支援、ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて

問22 あなたは、女性支援に関する次のことについて知っていますか。

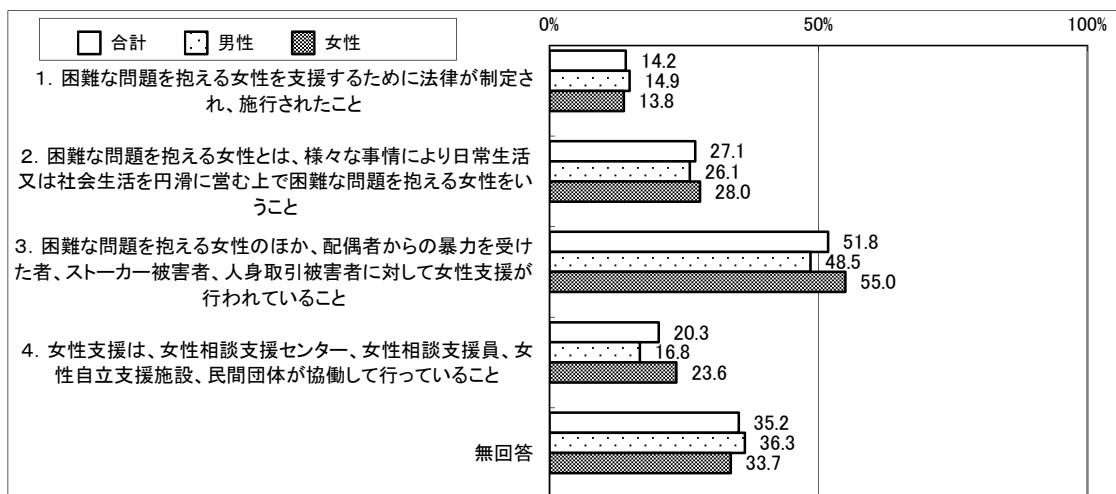
次の中から知っているものをすべて選んで○をつけてください。

(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

女性支援に関することについて知っていることとして、「困難な問題を抱える女性のほか、配偶者からの暴力を受けた者、ストーカー被害者、人身取引被害者に対して女性支援が行われていること」(51.8%)の割合が最も高く、次いで「困難な問題を抱える女性とは、様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性をいうこと」(27.1%)、「女性支援は、女性相談支援センター、女性相談支援員、女性自立支援施設、民間団体が協働して行っていること」(20.3%)と続いた。

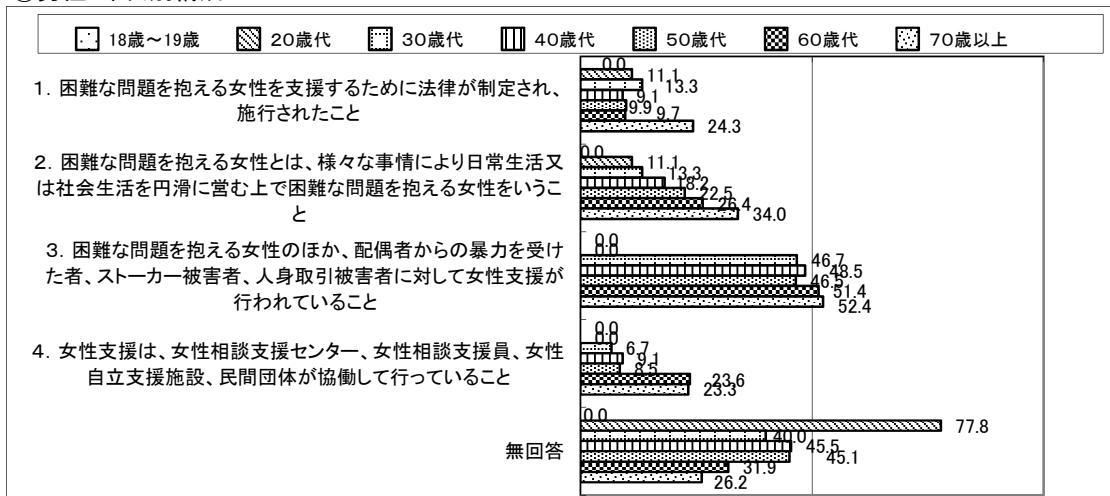
「困難な問題を抱える女性のほか、配偶者からの暴力を受けた者、ストーカー被害者、人身取引被害者に対して女性支援が行われていること」は男女ともに最も認知度が高いが、女性(55.0%)に対し、男性(48.5%)は5割を下回った。

①今回調査

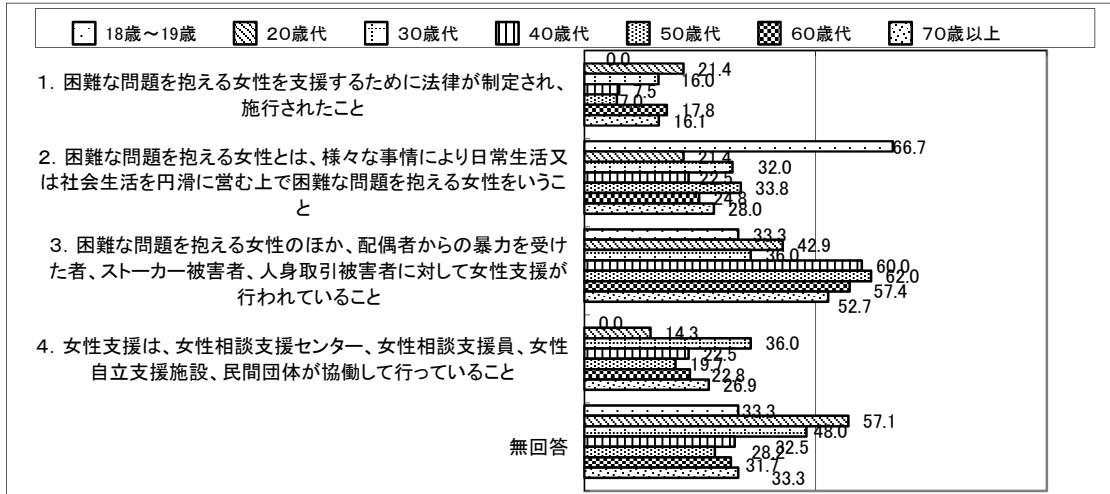


年代別・男女別にみると、「困難な問題を抱える女性のほか、配偶者からの暴力を受けた者、ストーカー被害者、人身取引被害者に対して女性支援が行われていること」は、男性では60歳代(51.4%)、70歳以上(52.4%)で5割を超える高くなっているが、女性では40歳代(60.0%)、50歳代(62.0%)で6割を超える高くなっているが、男女で認知度の高い年代が異なった。

②男性・年代別構成



③女性・年代別構成

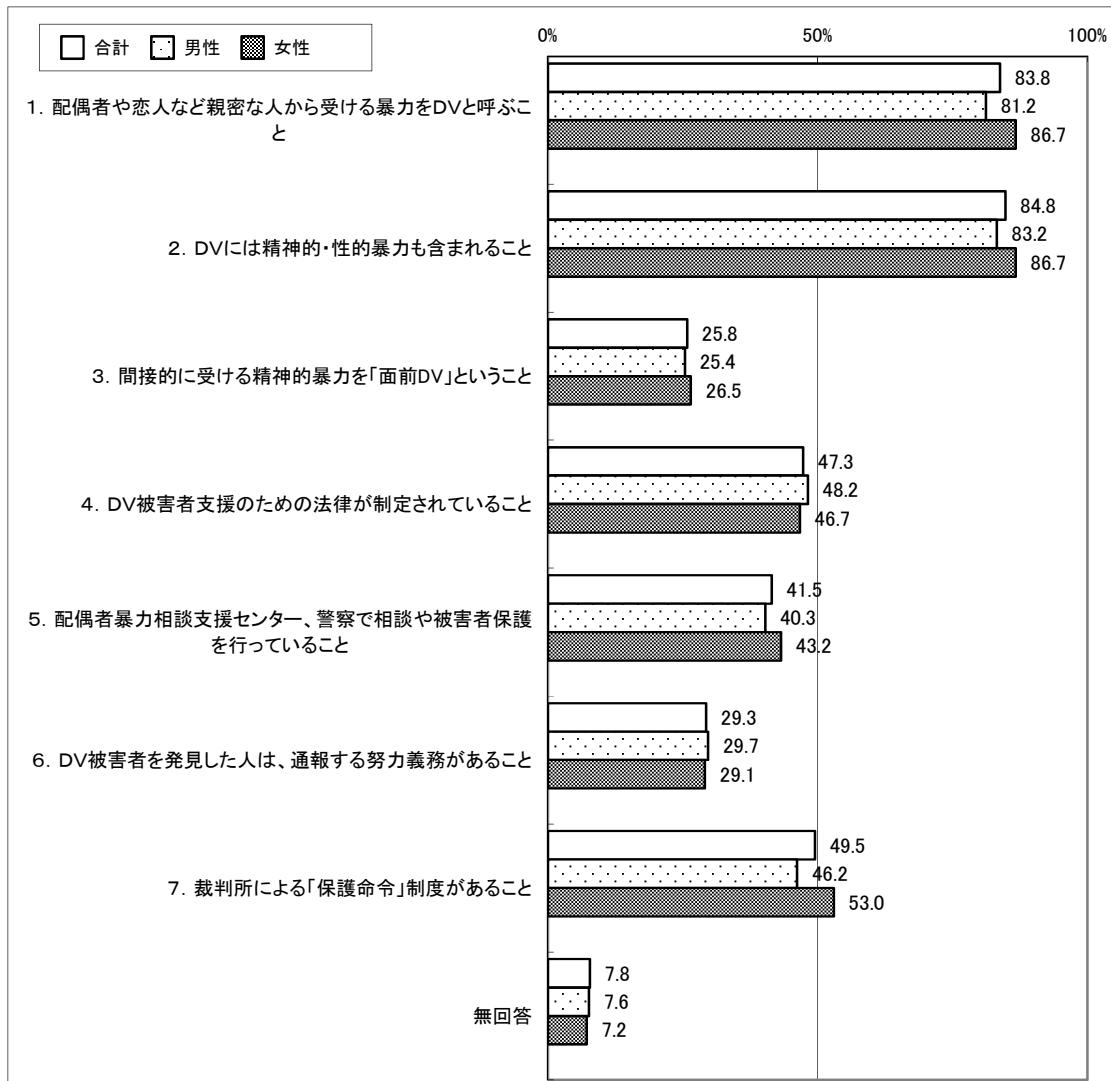


問23 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する次のことについて知っていますか。
 次の中から知っているものをすべて選んで○をつけてください。
 (N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

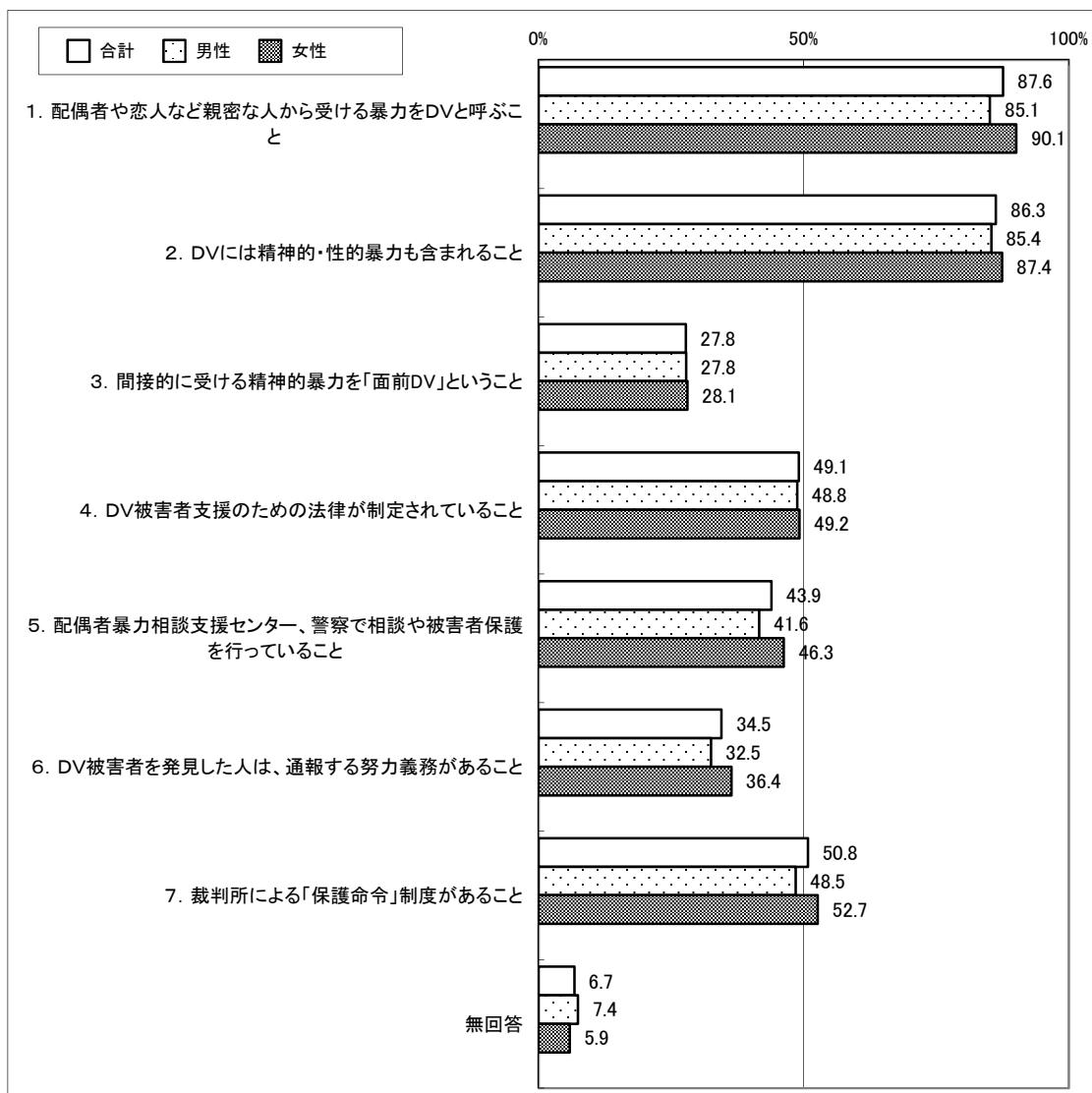
ドメスティック・バイオレンス(DV)について知っていることとして「DVには精神的・性的暴力も含まれること」(84.8%)の割合が最も高く、次いで「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力をDVと呼ぶこと」(83.8%)、「裁判所による「保護命令」制度があること」(49.5%)と続き、「DV被害者を支援するために、法律が制定されていること」(47.3%)、「配偶者暴力相談支援センター、警察で相談や被害者保護を行っていること」(41.5%)を含めて4割を超えていた。

「DV被害者を発見した人は、通報する努力義務があること」(29.3%)、「間接的に受ける精神的暴力を「面前DV」ということ」(25.8%)は認知度が低く、3割を下回った。

①今回調査



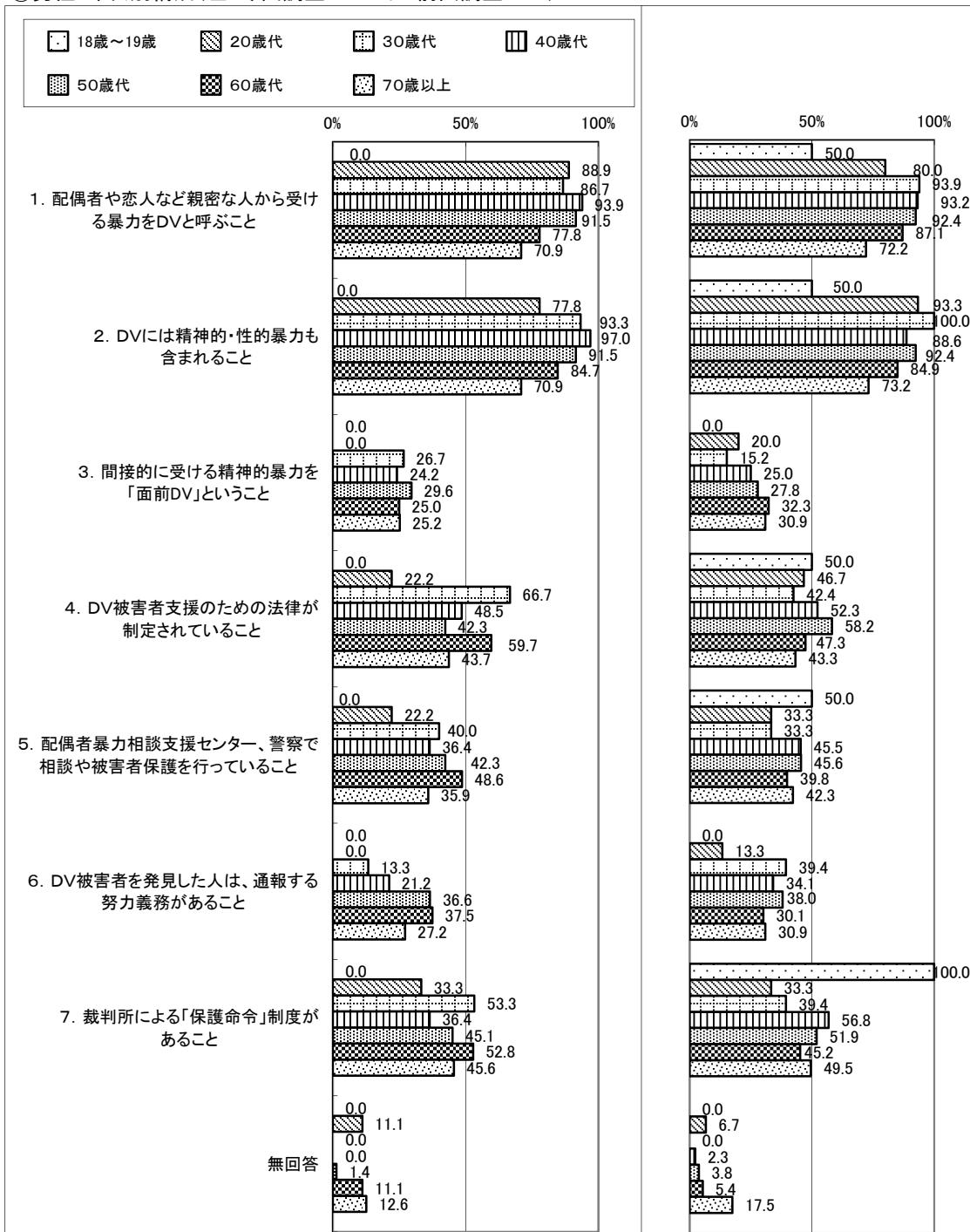
②前回調査



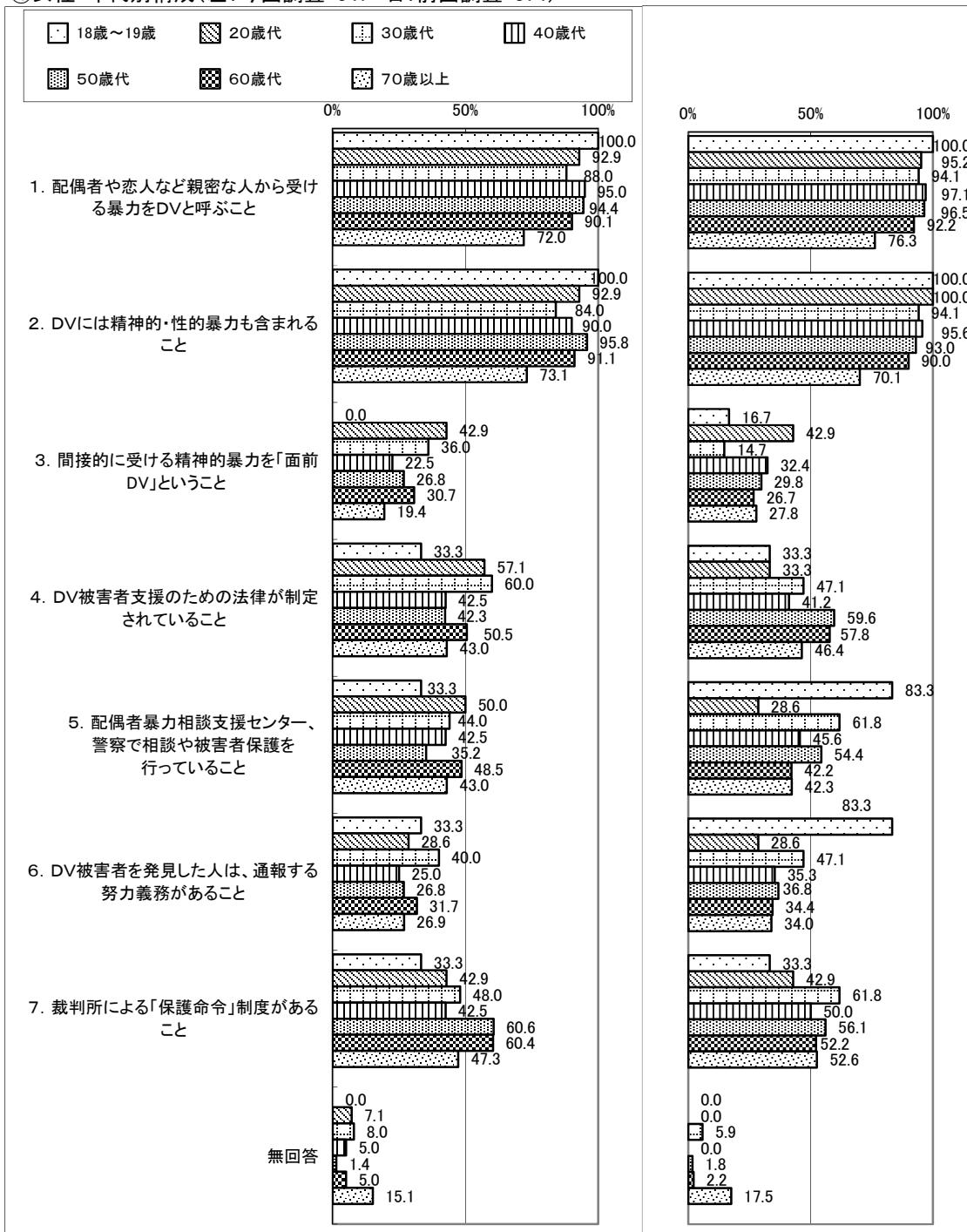
年代別・男女別にみると、「配偶者や恋人など親密な人から受ける暴力をDVと呼ぶこと」の認知度は、すべての年代において女性が男性を上回っており、特に60歳代では、その差が12.3ポイントと大きくなっている。

「DV被害者を発見した人は、通報する努力義務があること」の認知度は、男性の30歳代(13.3%)が男女すべての年代、項目で最も低く、唯一1割台となっている。

③男性・年代別構成(左:今回調査=303 右:前回調査=363)



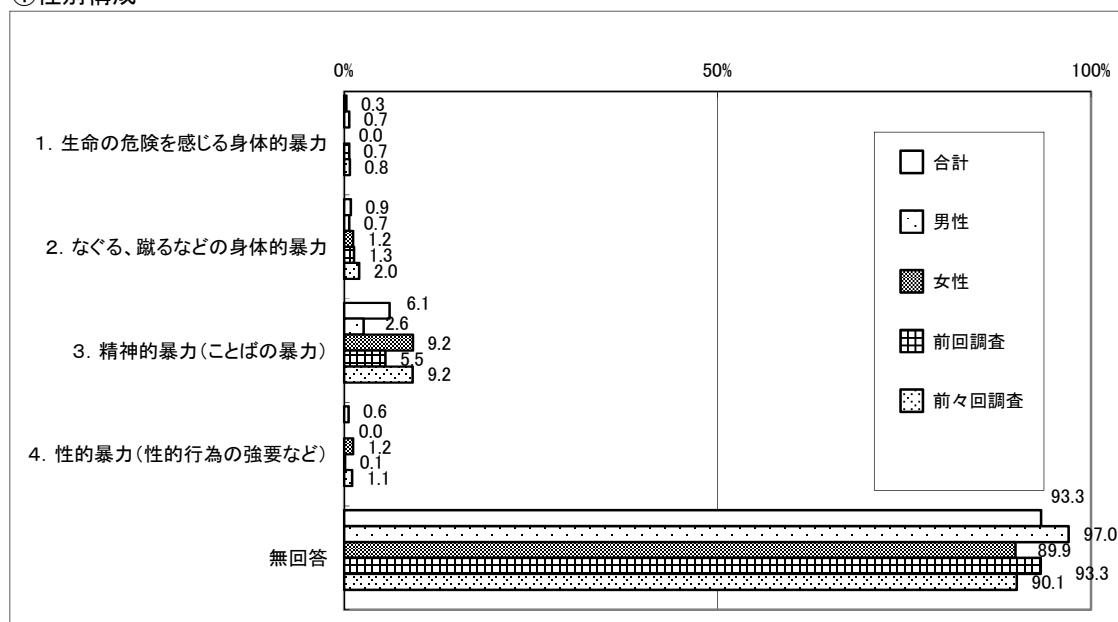
④女性・年代別構成(左:今回調査=347 右:前回調査=374)



問24 あなたは、過去5年間に次に掲げるDVを受けたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

過去5年間に受けたDVの中で最も割合が高いものは、「精神的暴力(ことばの暴力)」(6.1%)で、男性(2.6%)、女性(9.2%)が受けた経験を持つと回答している。次いで「なぐる、蹴るなどの身体的暴力」(0.9%)、「性的暴力(性的行為の強要など)」(0.6%)と続いている。前回調査同様、選択肢に「DVを受けたことがない」という項目がないため、無回答が全体の9割を超えて考えられる。

①性別構成



問25 [問24で1つでも〇をした方にお伺いします。]

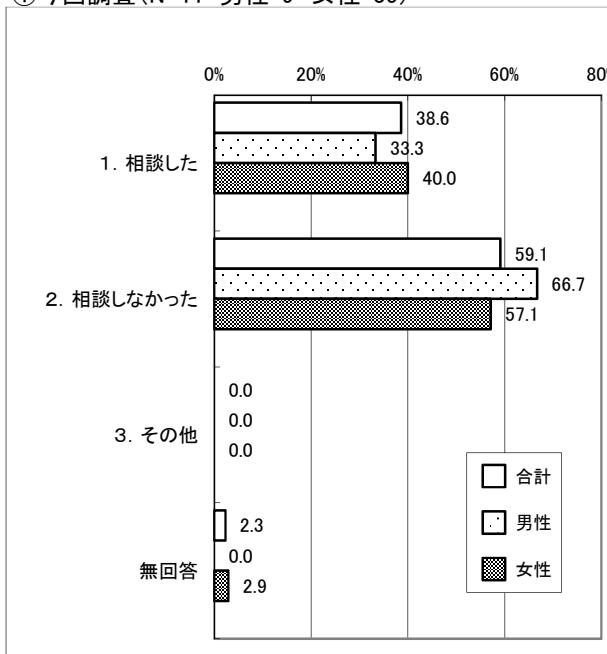
被害を受けたことについて、誰か(親族、友人、相談機関など)に相談したり打ち明けたりしましたか。
次の中から1つに選んで〇をつけてください。
(N=44 男性=9 女性=35)

DVを受けたことについて、「相談した」と回答したものは38.6%、「相談しなかった」と回答したものは59.1%である。

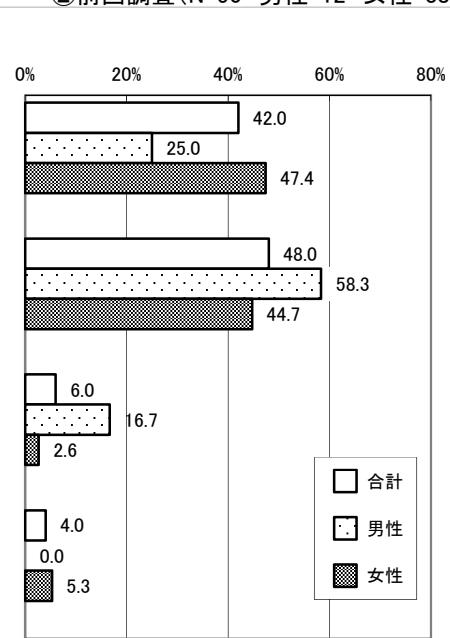
「相談した」と回答したもの（男性33.3%、女性40.0%）は、前回調査（男性25.0%、女性47.4%）より、男性は8.3ポイント増加したが、女性は7.4ポイント減少した。

「相談しなかった」と回答したもの（男性66.7%、女性57.1%）は、前回調査（男性58.3%、女性44.7%）より、男性は8.4ポイントの増加、女性も12.4ポイント増加している。

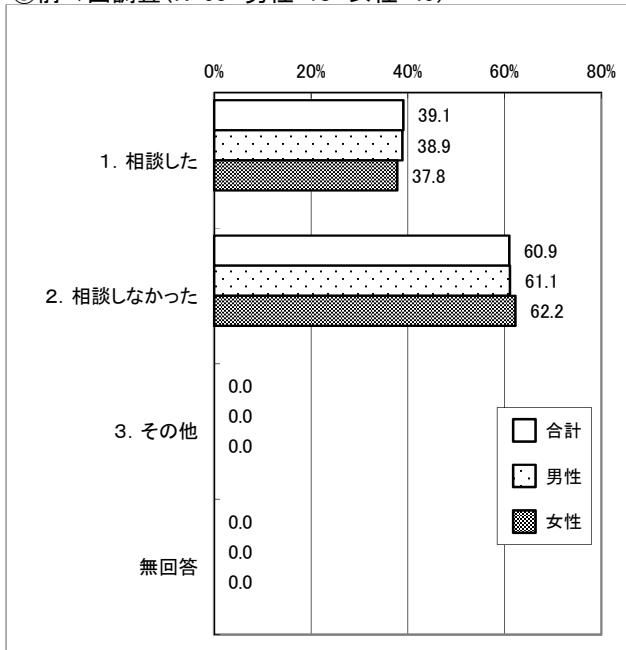
①今回調査(N=44 男性=9 女性=35)



②前回調査(N=50 男性=12 女性=38)

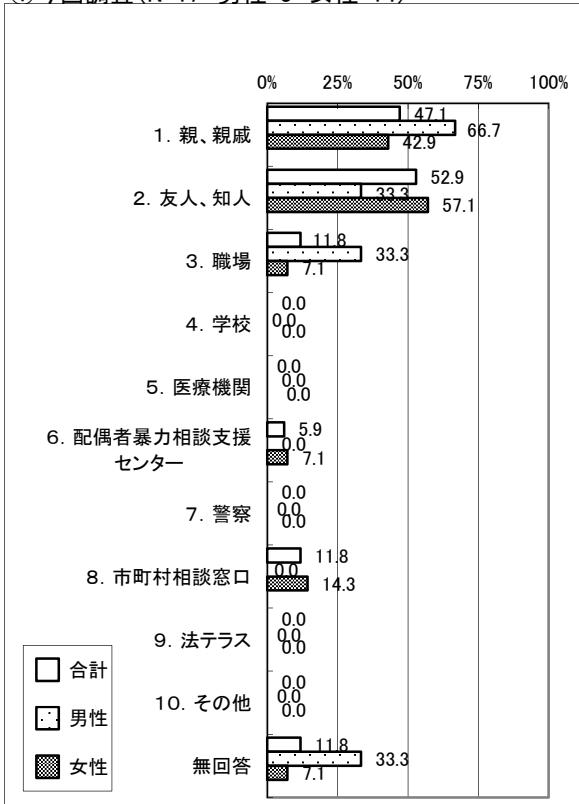


③前々回調査(N=63 男性=18 女性=45)



問26 [問25で「1. 相談した」と回答した方にお伺いします。]
相談した相手について、次の中からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=17 男性=3 女性=14)

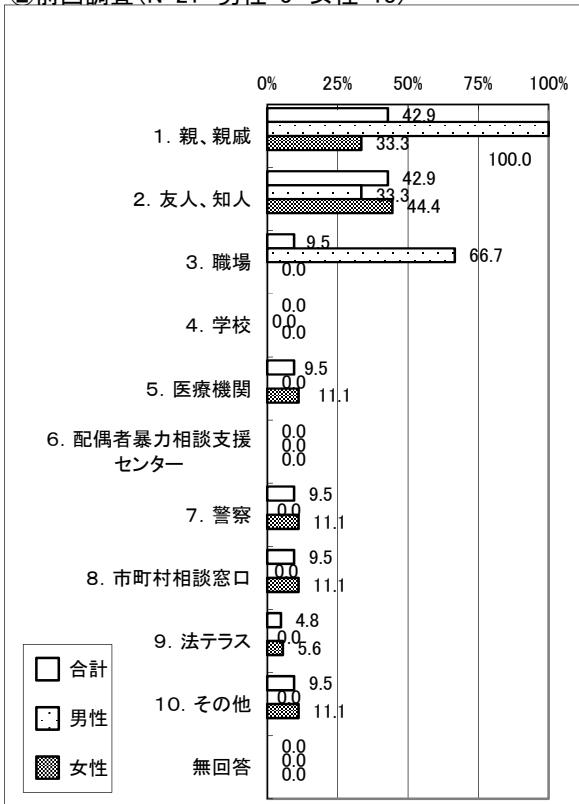
①今回調査(N=17 男性=3 女性=14)



DVを受けたものが、相談した相手については、「友人、知人」(52.9%)の割合が最も高く、女性の回答(57.1%)も、ともに5割を超えている。

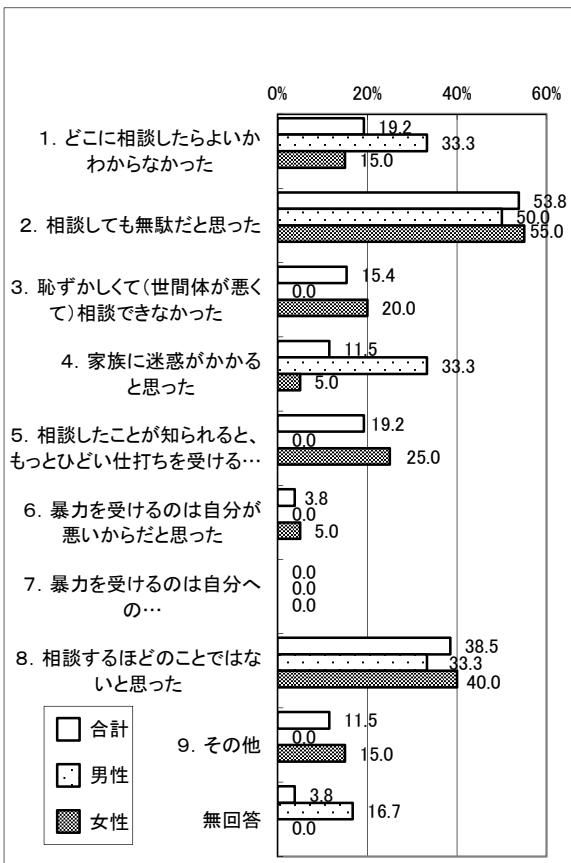
前回調査で回答が0となった「配偶者暴力相談支援センター」は今回5.9%の回答があった。一方、「医療機関」、「警察」、「法テラス」は前回調査では回答があったが、今回は回答が0であった。

②前回調査(N=21 男性=3 女性=18)



問27 [問25で「2. 相談しなかった」と回答した方にお伺いします。]
相談しなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。
(N=26 男性=6 女性=20)

①今回調査(N=26 男性=6 女性=20)



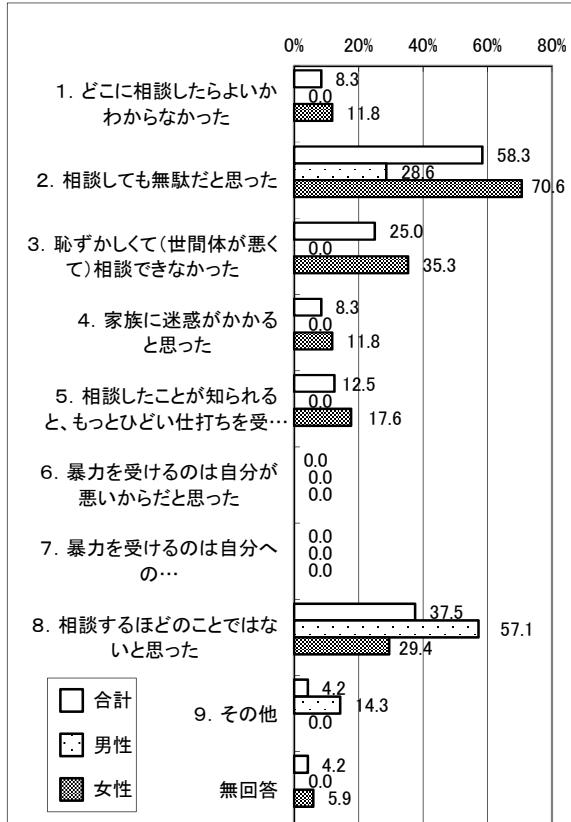
DVを受けたものが、相談しなかった理由は「相談しても無駄だと思った」(全体

53.8%、男性50.0%、女性55.0%)の割合が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」(全体38.5%、男性33.3%、女性40.0%)と続く。

前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思った」(53.8%)は前回調査(58.3%)より4.5ポイント減少している。

男女別でみると、「相談するほどのことではないと思った」と回答した男性(33.3%)は前回調査(57.1%)より23.8ポイント減少、一方で女性(40.0%)は前回調査(29.4%)より10.6ポイント増加している。

②前回調査(N=24 男性=7 女性=17)



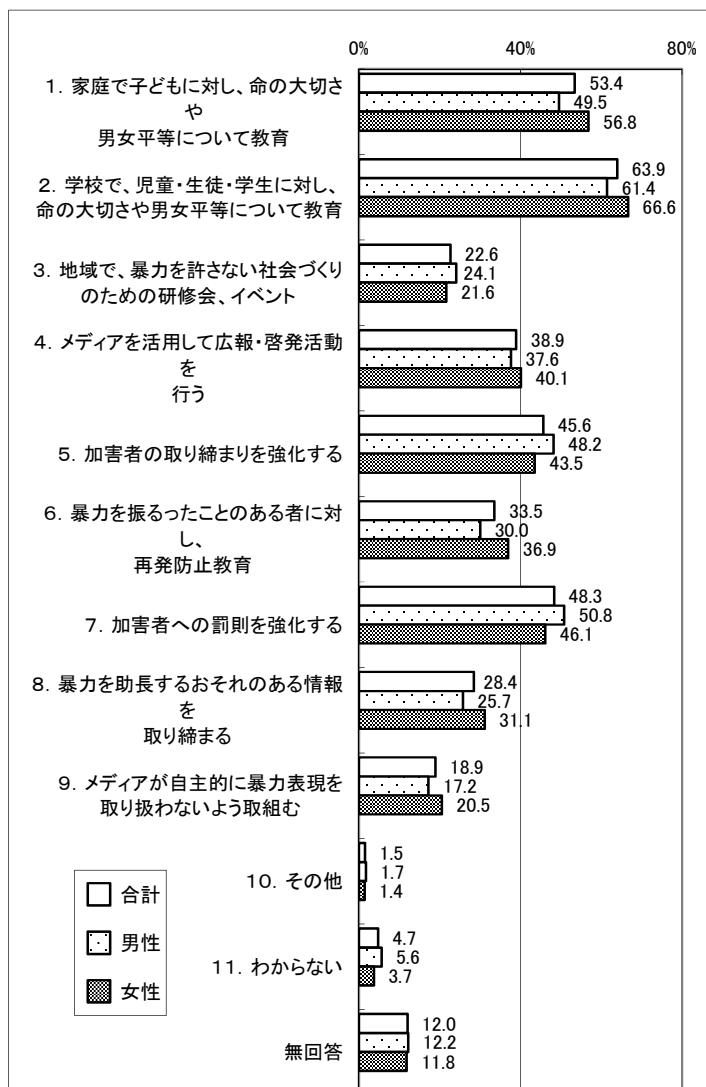
問28 「配偶者からの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメント等」を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
次のなかあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

配偶者からの暴力を防止するために必要なことは「学校で、児童・生徒・学生に対し、命の大切さや男女平等について教育」(63.9%)の割合が最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育」(53.4%)、「加害者への罰則を強化する」(48.3%)と続く。

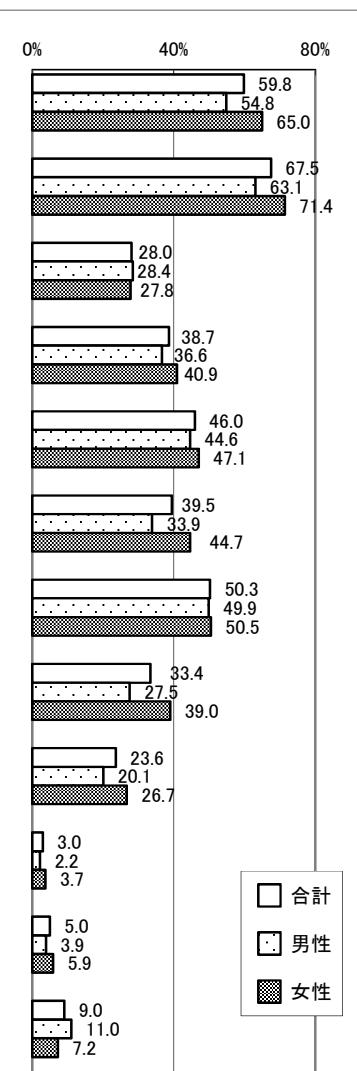
前回調査と比較すると、女性の回答にて「家庭で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育」(女性56.8%)は前回調査(女性65.0%)より8.2ポイント減少、「暴力を振るったことのある者に対し、再発防止教育」(女性36.9%)は前回調査(女性44.7%)より7.8ポイント減少している。

男女の差が最も大きいのは「家庭で子どもに対し、命の大切さや男女平等について教育」であり、男性(49.5%)と女性(56.8%)では、女性の方が7.3ポイント高い。

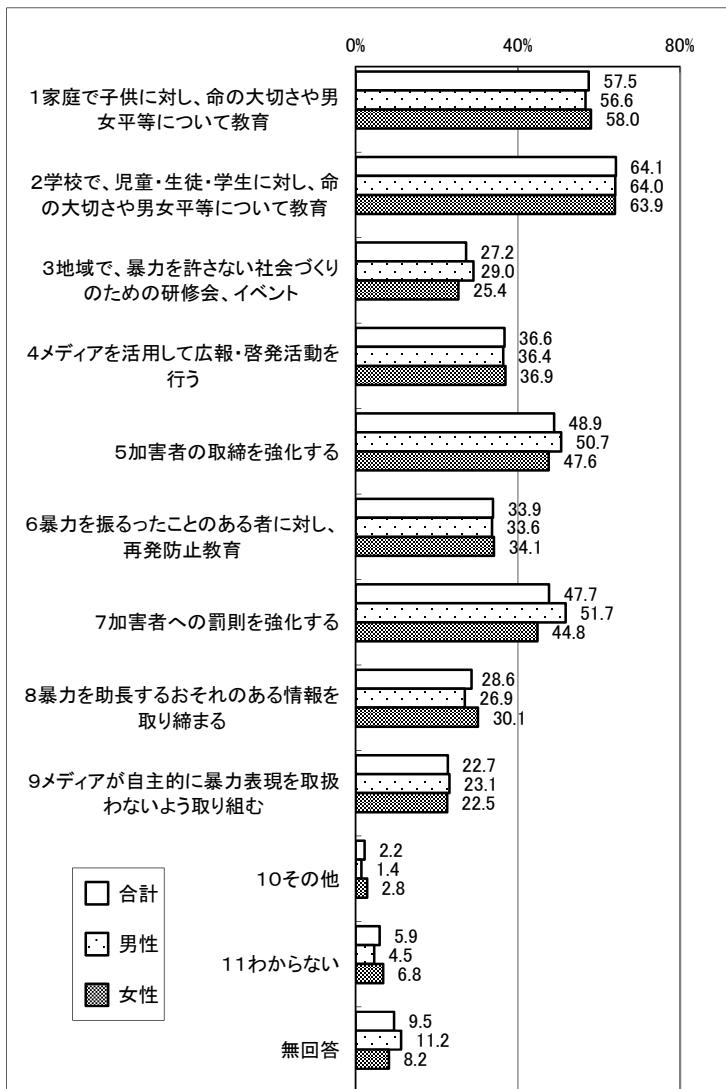
①今回調査 性別構成



②前回調査(合計=742 男性=363 女性=374)



③前々回調査 性別構成(合計=641 男性=286 女性=355)

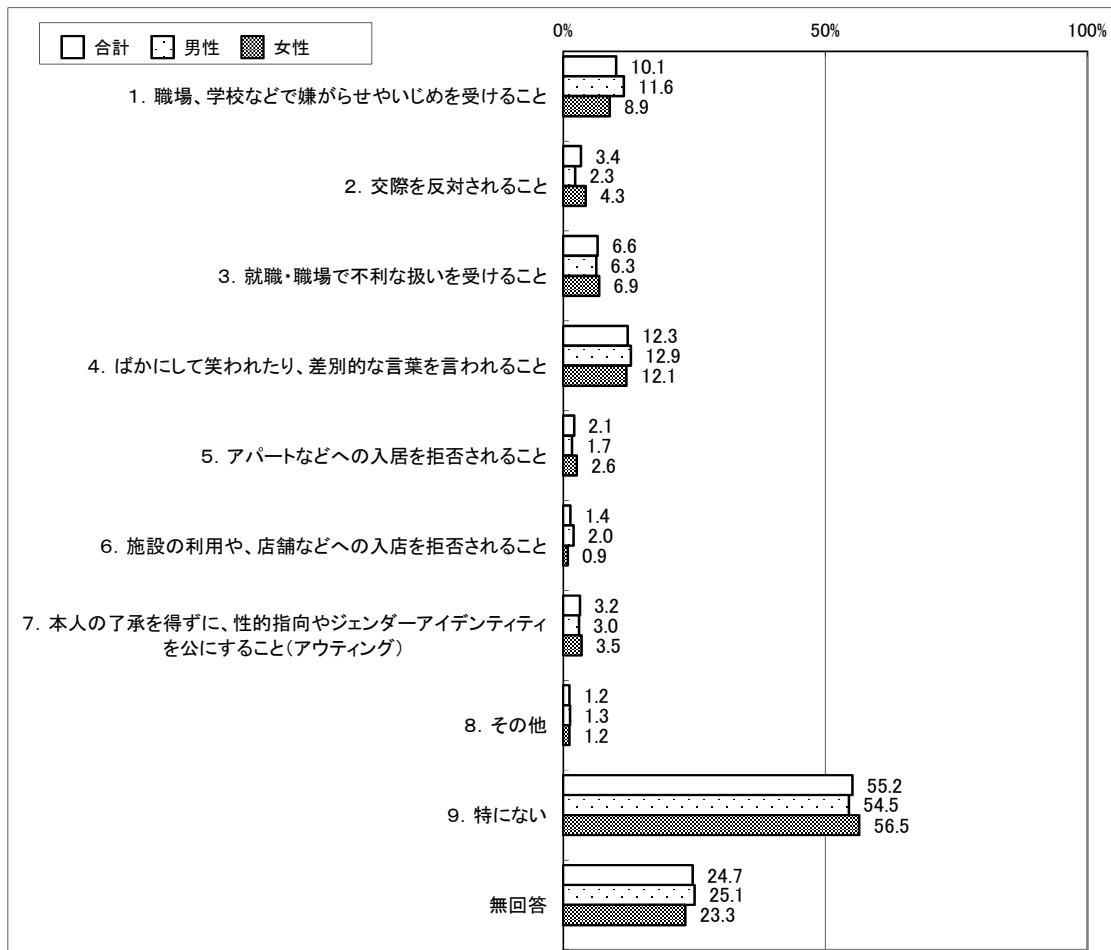


7 LGBT等の性的マイノリティについて

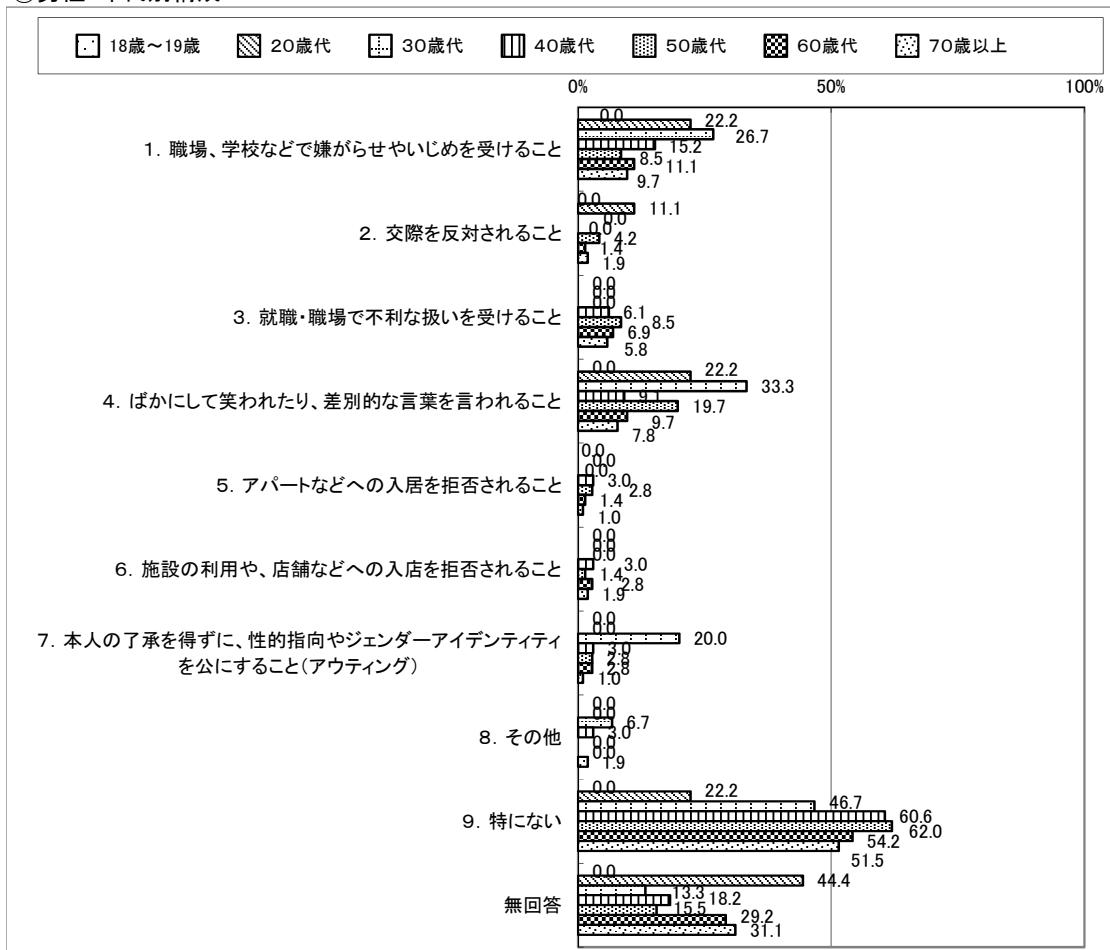
問29 あなたは、LGBT等の性的マイノリティに関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるのをすべて選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

LGBT等の性的マイノリティに関し、体験したことや身の回りで見聞きしたこととして「ばかにして笑われたり、差別的な言葉を言われること」(12.3%)が最も高く、次いで「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(10.1%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(6.6%)と続く。

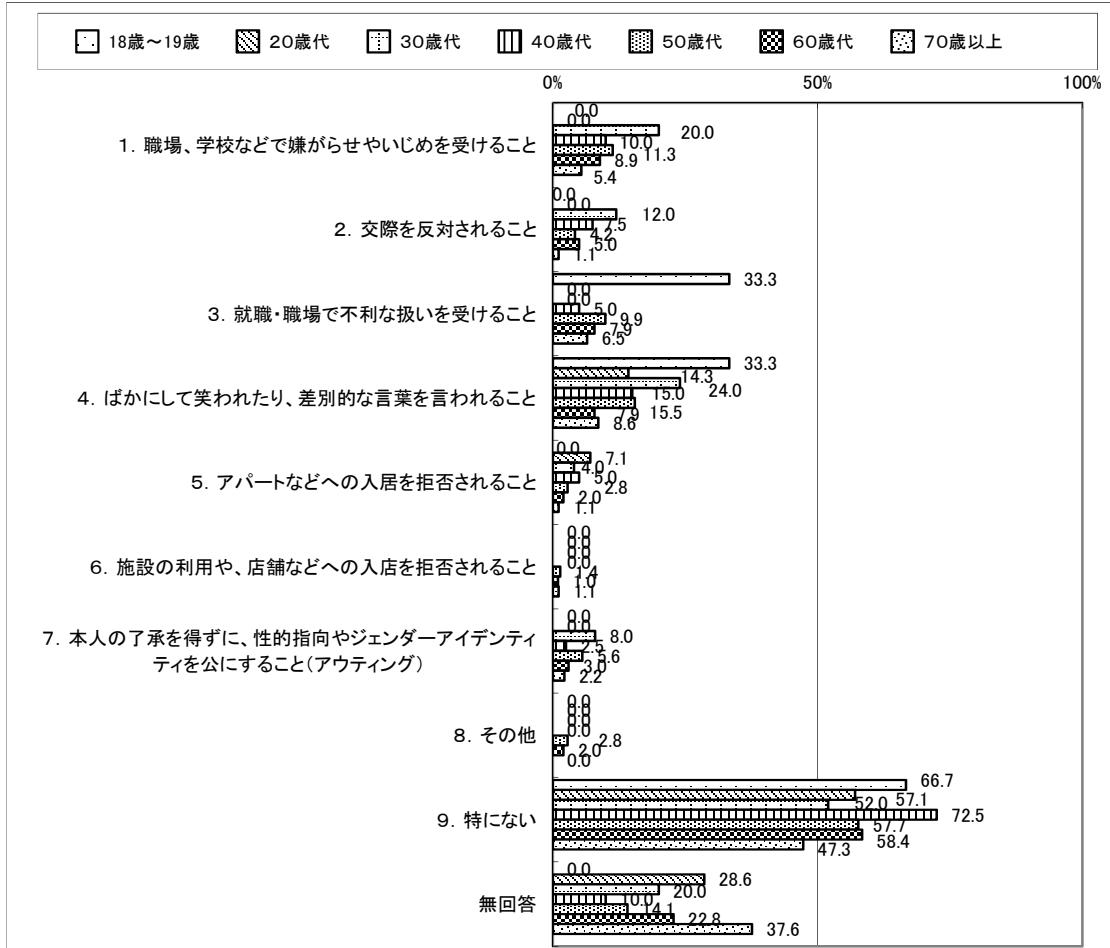
①今回調査



②男性・年代別構成



③女性・年代別構成



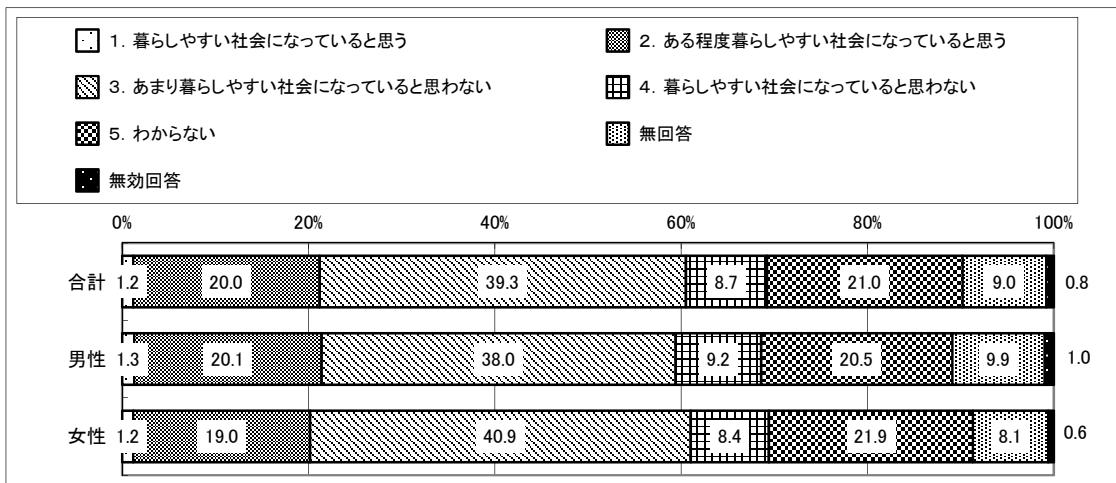
問30 現在の社会は、LGBT等の性的マイノリティの人たちが暮らしやすい状況にあると思いますか。

次の中から1つ選んで○をつけてください。

(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

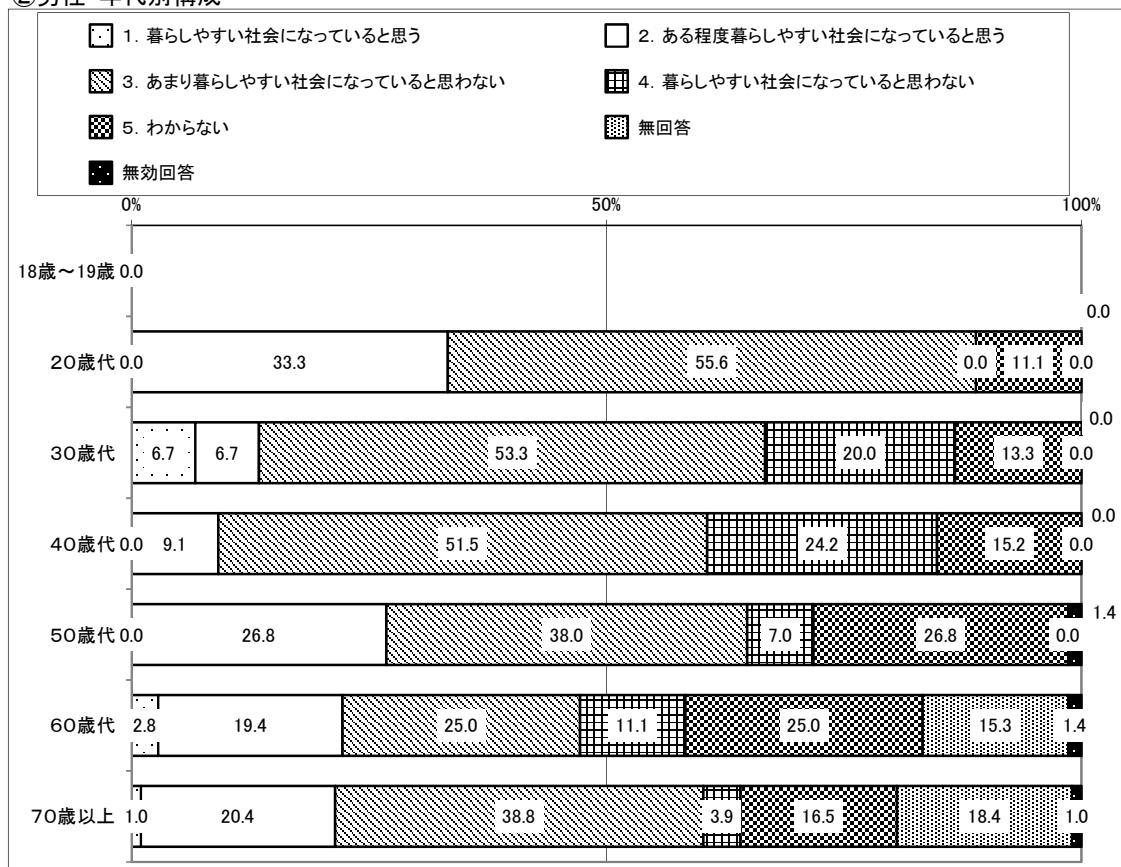
現在の社会は、LGBT等の性的マイノリティの人たちが暮らしやすい状況にあるかについては、「あまり暮らしやすい社会になっていると思わない」(39.3%)が最も高く、次いで「ある程度暮らしやすい社会になっていると思う」(20.0%)、「暮らしやすい社会になっていると思わない」(8.7%)と続く。

①性別構成

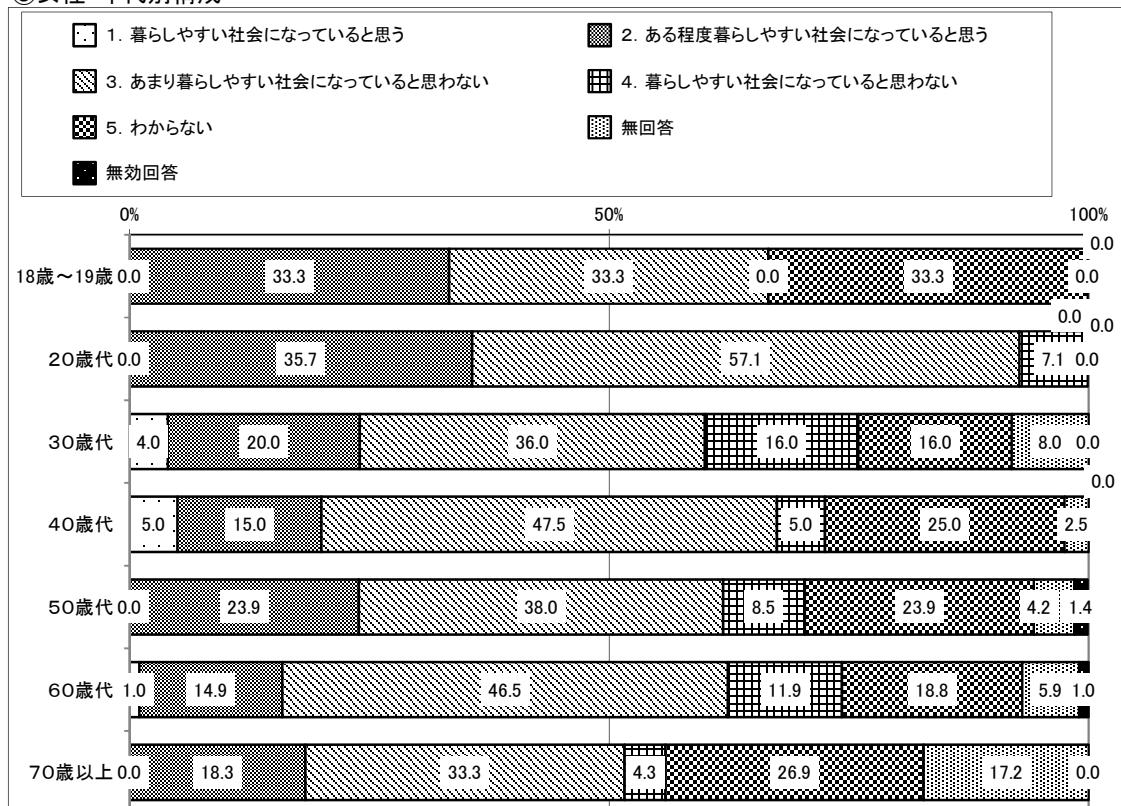


年代別にみると「あまり暮らしやすい社会になっていると思わない」と回答したもの割合が高いのは、男性では「20歳代」(55.6%)、「30歳代」(53.3%)、「40歳代」(51.5%)、女性では「20歳代」(57.1%)、「40歳代」(47.5%)、「60歳代」(46.5%)であった。

②男性・年代別構成



③女性・年代別構成



8 男女共同参画施策について

問31 これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。
次の①～⑯の項目ごとに1～3の中から1つずつ選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

「⑩LGBT理解増進法」は令和6年度調査より新たに追加された項目である。

男女共同参画に関わる言葉(用語、法令の名称等)について、どの程度認知されているかについて調査したものである。

「内容を知っている」割合が高いものは、「ストーカー規制法」(43.3%)、「男女雇用機会均等法」(40.2%)、「育児・介護休業法」(38.1%)である。前回調査と比較すると1番目と2番目が逆転したほか、3番目に「育児・介護休業法」が入っている。

「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答したものでは、「DV防止法」(54.3%)の割合が最も高く、次いで「男女共同参画社会基本法」(49.1%)、「ストーカー規制法」(46.2%)と続く。

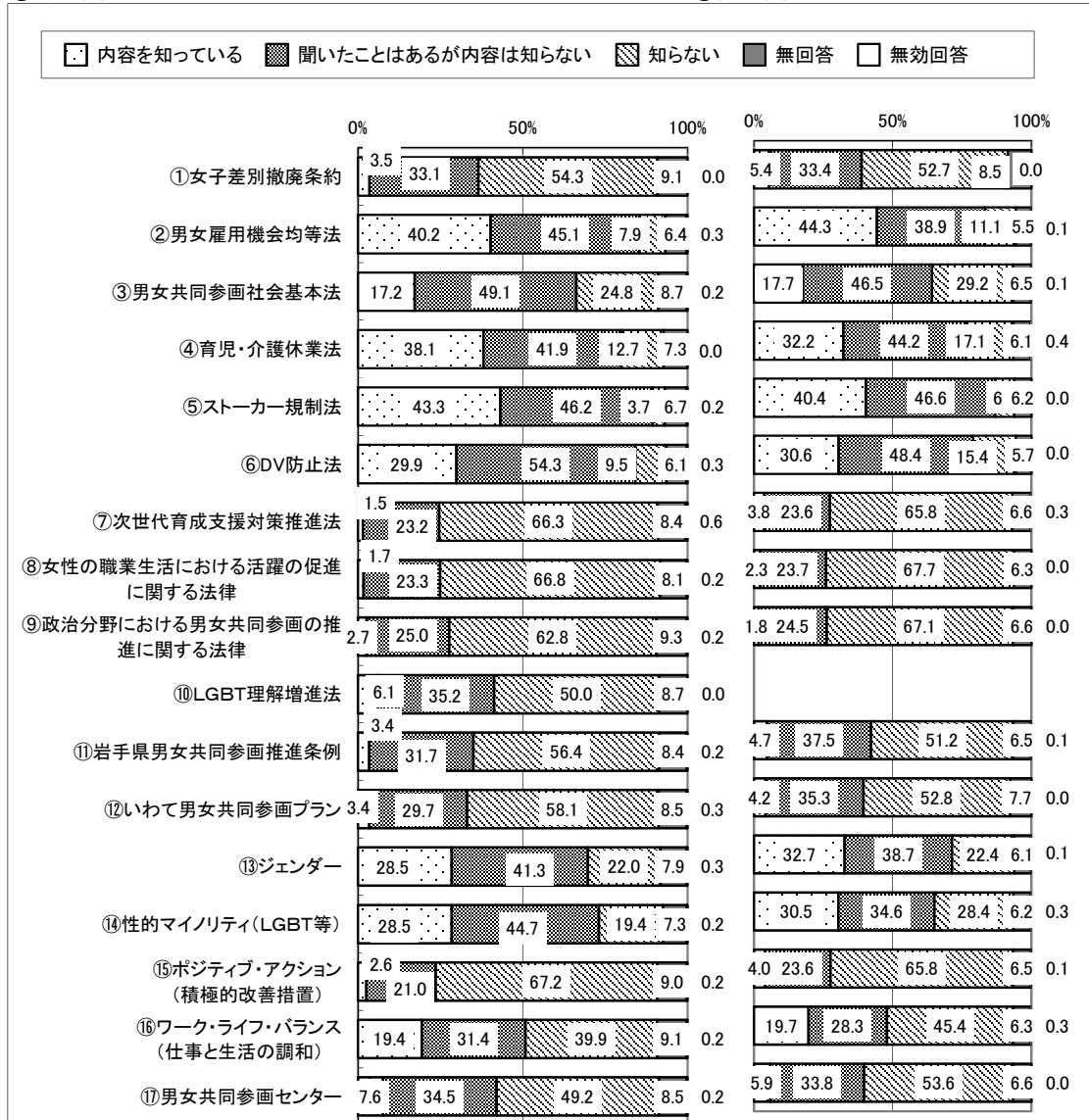
「内容を知っている」または「聞いたことがあるが内容は知らない」と回答したものを、以下『聞いたことはある』とする。

『聞いたことはある』と回答したものでは、「ストーカー規制法」(89.5%)、「男女雇用機会均等法」(85.3%)、「DV防止法」(84.2%)、「育児・介護休業法」(80.0%)と続く。

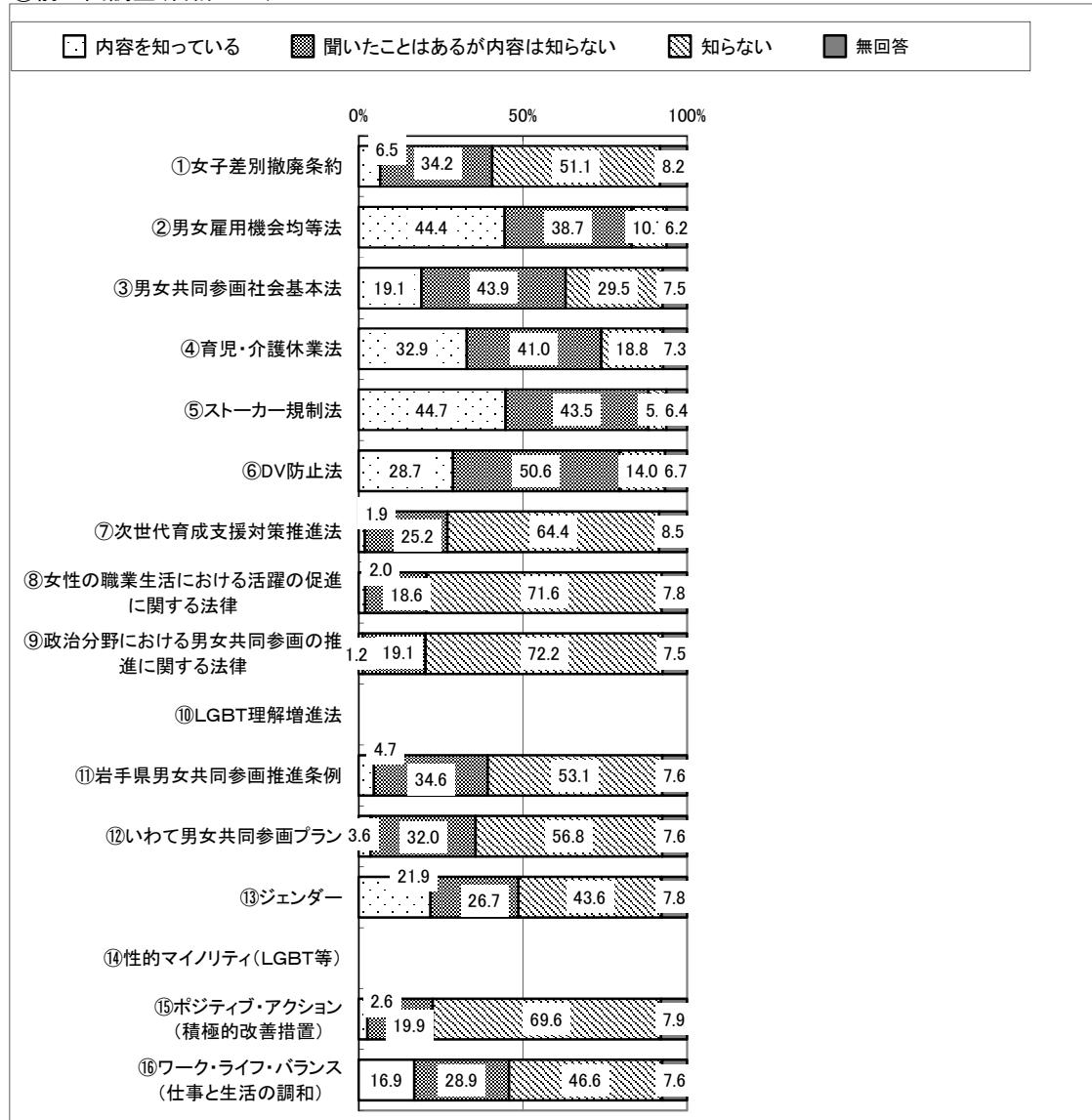
上位に加え、「性的マイノリティ(LGBT等)」(73.2%)、「ジェンダー(文化的社会的につくられた性別)」(69.8%)、「男女共同参画社会基本法」(66.3%)、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(50.8%)については全体の5割以上『聞いたことはある』と回答しており認知度が高いが、それ以外は5割を切っている。

①今回調査(左)

②前回調査(右:合計=742)



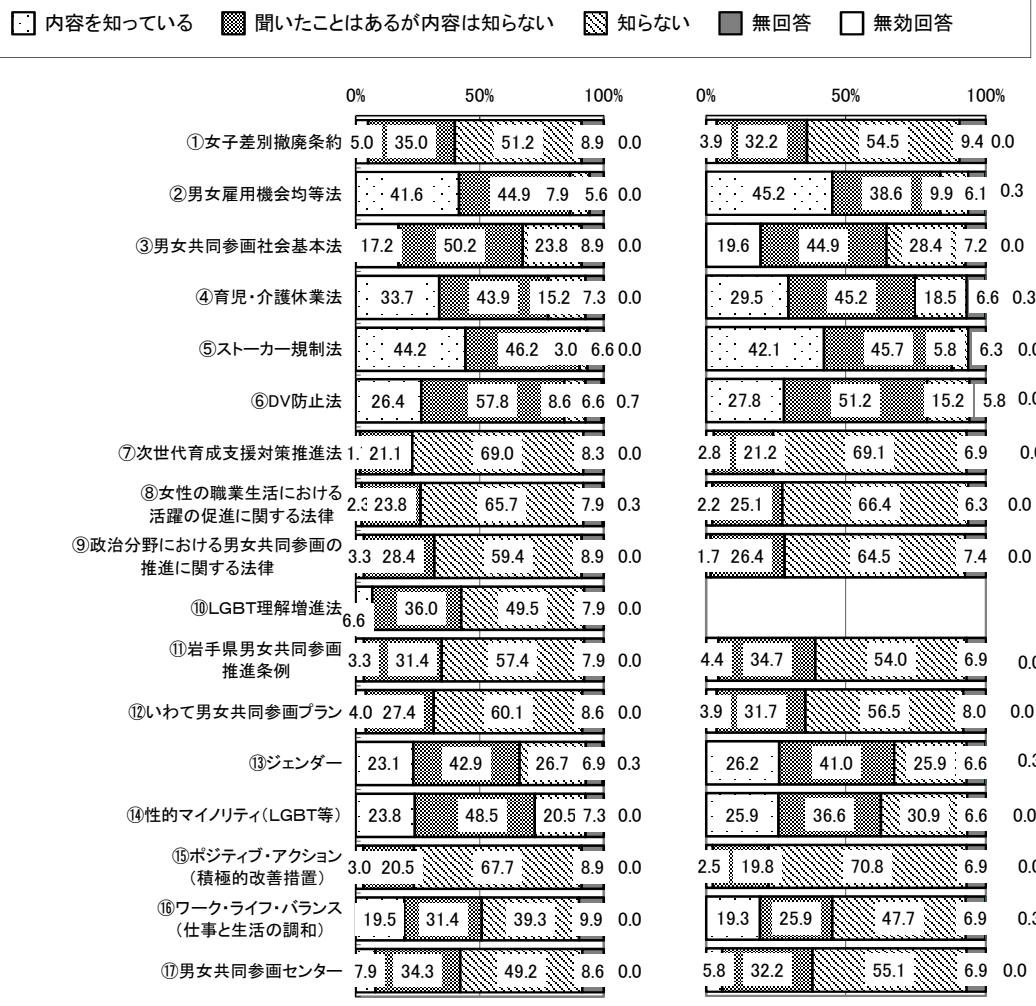
③前々回調査(合計=641)



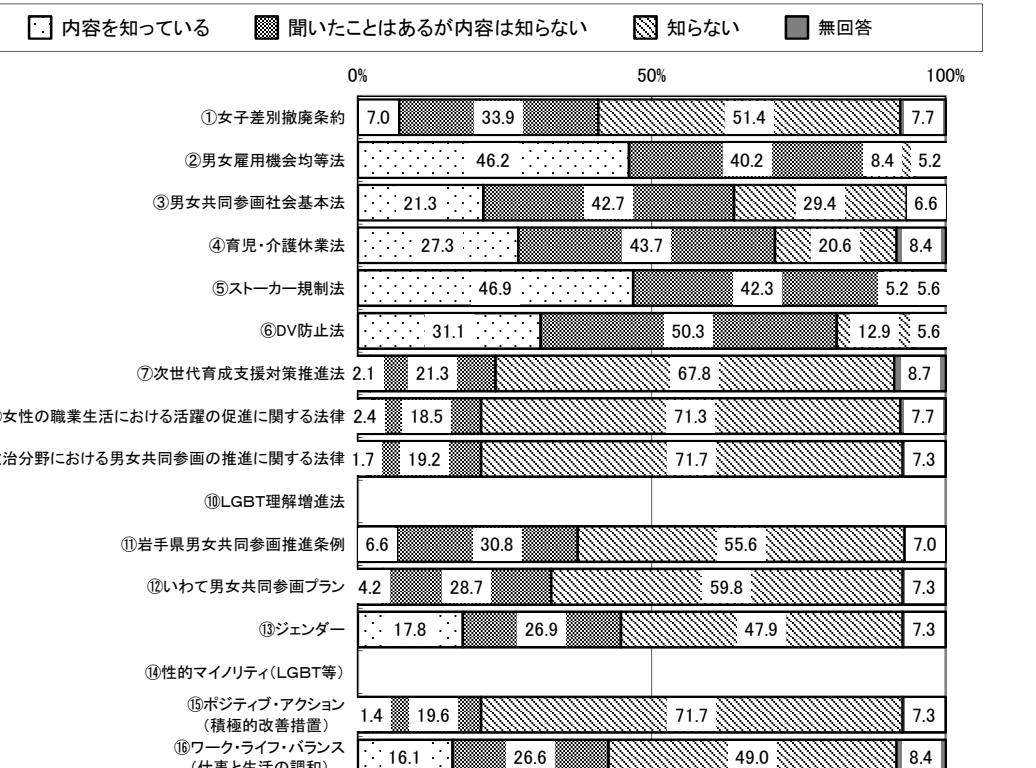
男女別にみると、「ジェンダー」(全体28.5%)について、「内容を知っている」と回答した男性(23.1%)と女性(33.1%)では、女性の方が10.0ポイント高く、「性的マイノリティ(LGBT等)」(全体28.5%)については、男性(23.8%)と女性(32.9%)では、女性が9.1ポイント高い。

④今回調査(左:男性=303)

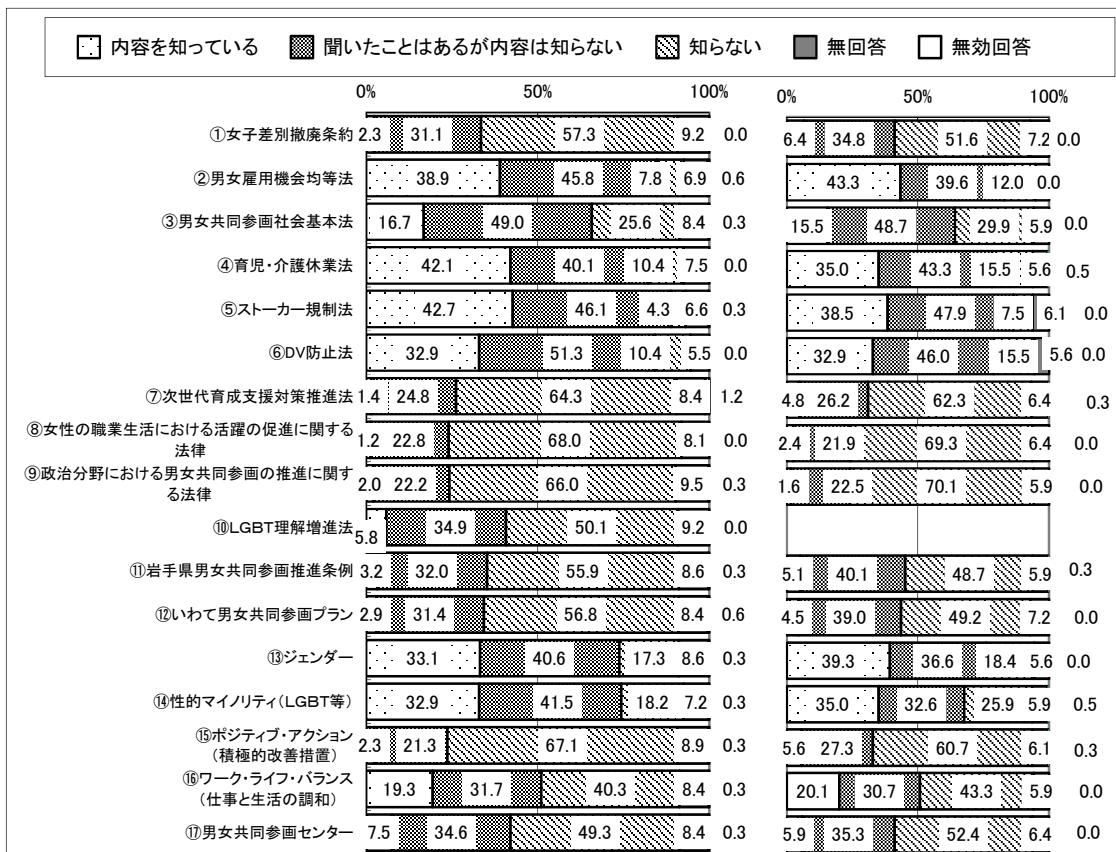
⑤前回調査(右:男性=363)



⑥前々回調査(男性=286)

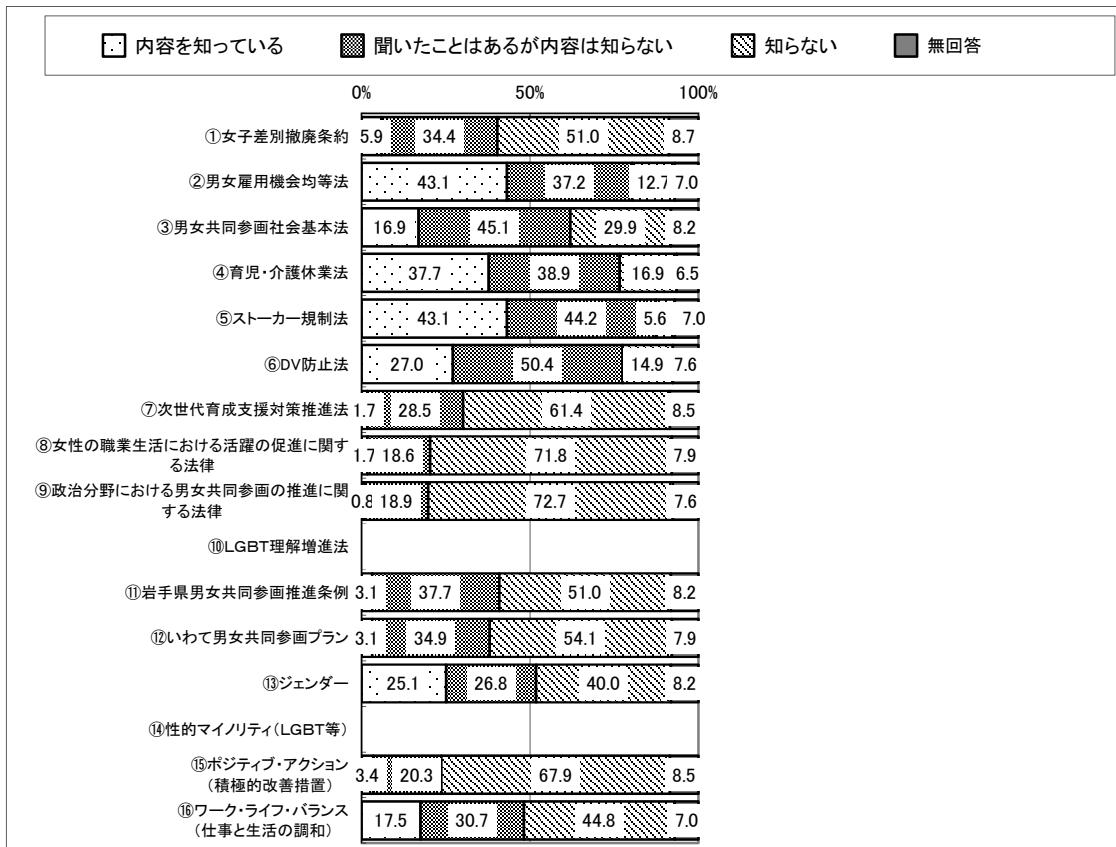


⑦今回調査(左:女性=347)



⑧前回調査(右:女性=374)

⑨前々回調査(女性=374)



問32 性別にかかわらず全ての人が、家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野に、共同で参画する社会を実現するためには、県や市町村行政は、今後どのように力を入れていくべきだと思います。
次の中から主なものを3つまで選んで○をつけてください。
(N=656 男性=303 女性=347 その他=0 性別無回答=6)

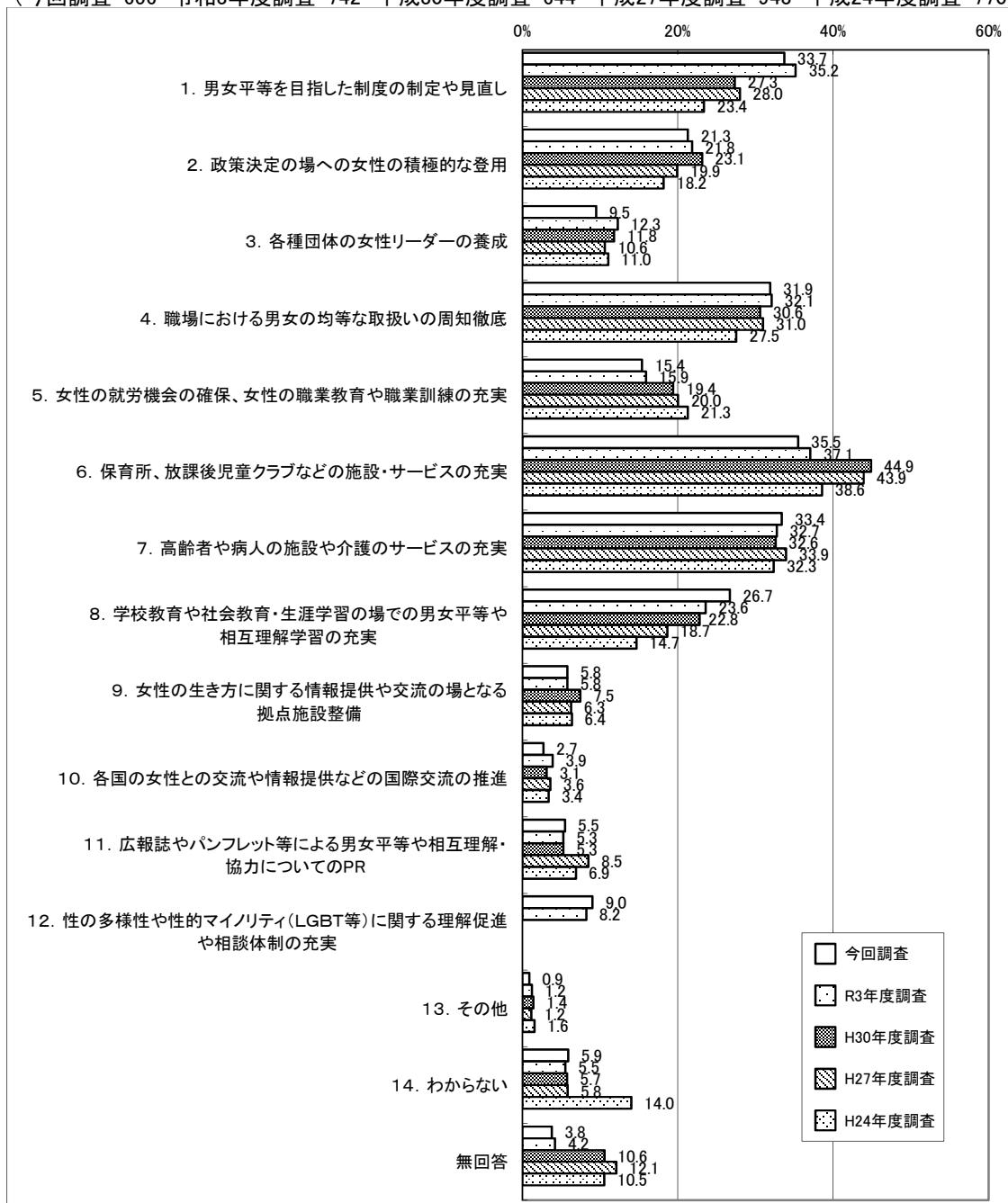
「12. 性の多様性や性的マイノリティ（LGBT等）に関する理解促進や相談体制の充実」は令和3年度調査より新たに追加された項目である。

男性と女性が共同で参画する社会を実現するために、行政が力を入れていくべきことは、「保育所、放課後児童クラブなどの施設・サービスの充実」(35.5%)の割合が最も高く、次いで「男女平等を目指した制度の制定や見直し」(33.7%)、「高齢者や病人の施設や介護のサービスの充実」(33.4%)と続く。

前回調査と比較すると、「学校教育や社会教育・生涯学習の場での男女平等や相互理解学習の充実」(26.7%)は前回調査(23.6%)より3.1ポイント増加。一方で「各種団体の女性リーダーの養成」(9.5%)は、前回調査(12.3%)より2.8ポイント減少している。

①合計(総数)の経年推移

(今回調査=656 令和3年度調査=742 平成30年度調査=644 平成27年度調査=943 平成24年度調査=770)



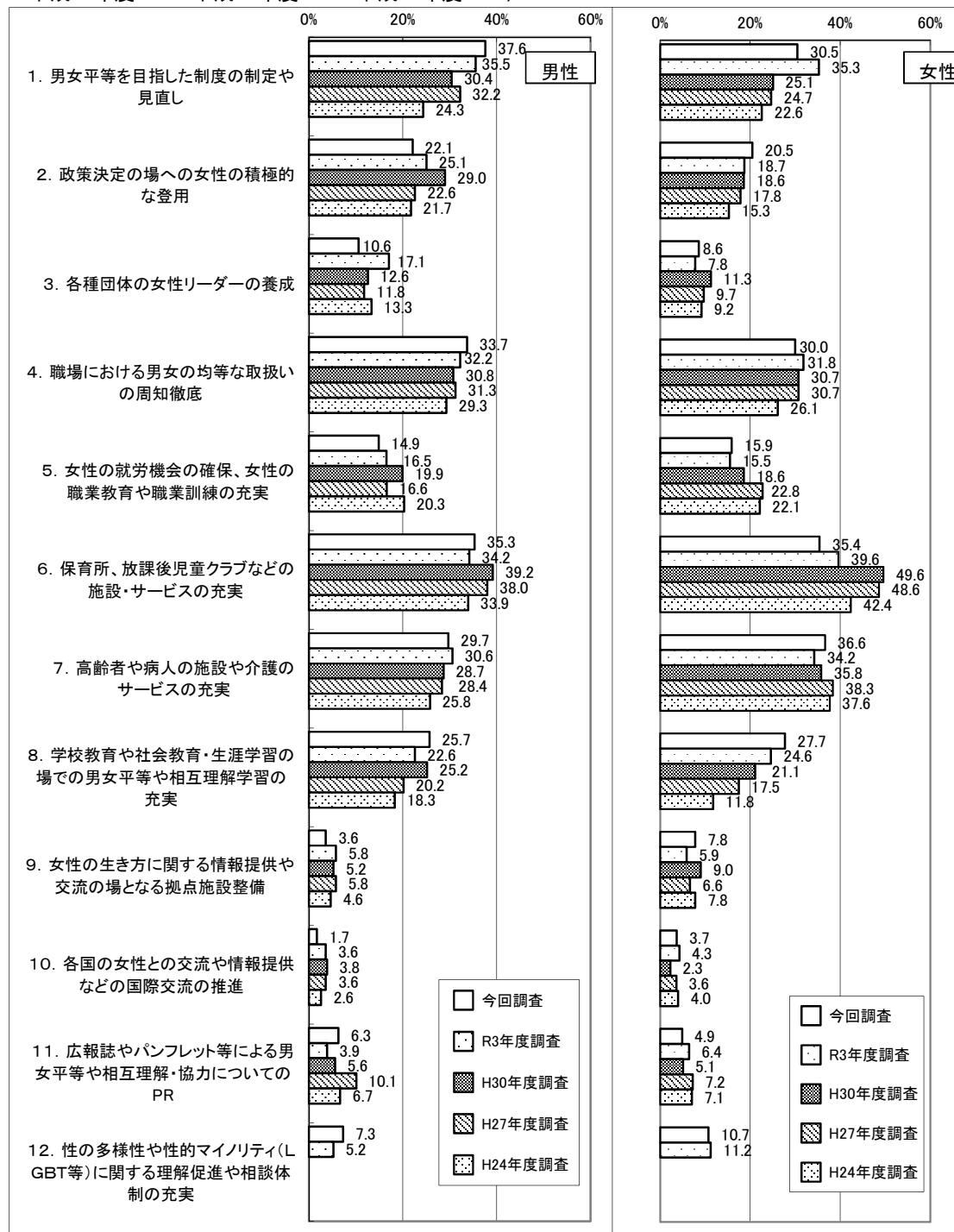
男女別にみると、「男女平等を目指した制度の制定や見直し」と回答した男性(37.6%)と女性(30.5%)では男性が7.1ポイント高い。同様に「職場における男女の均等な取扱いの周知徹底」と回答した男性(33.7%)と女性(30.0%)では、男性が3.7ポイントわずかに高い。「高齢者や病人の施設や介護のサービスの充実」と回答した男性(29.7%)と女性(36.6%)では、女性が6.9ポイント高い。同様に「女性の生き方に関する情報提供や交流の場となる拠点施設整備」は男性(3.6%)と女性(7.8%)では、女性が4.2ポイント高い。

②男性の経年推移:左(今回調査=303 令和3年度=363

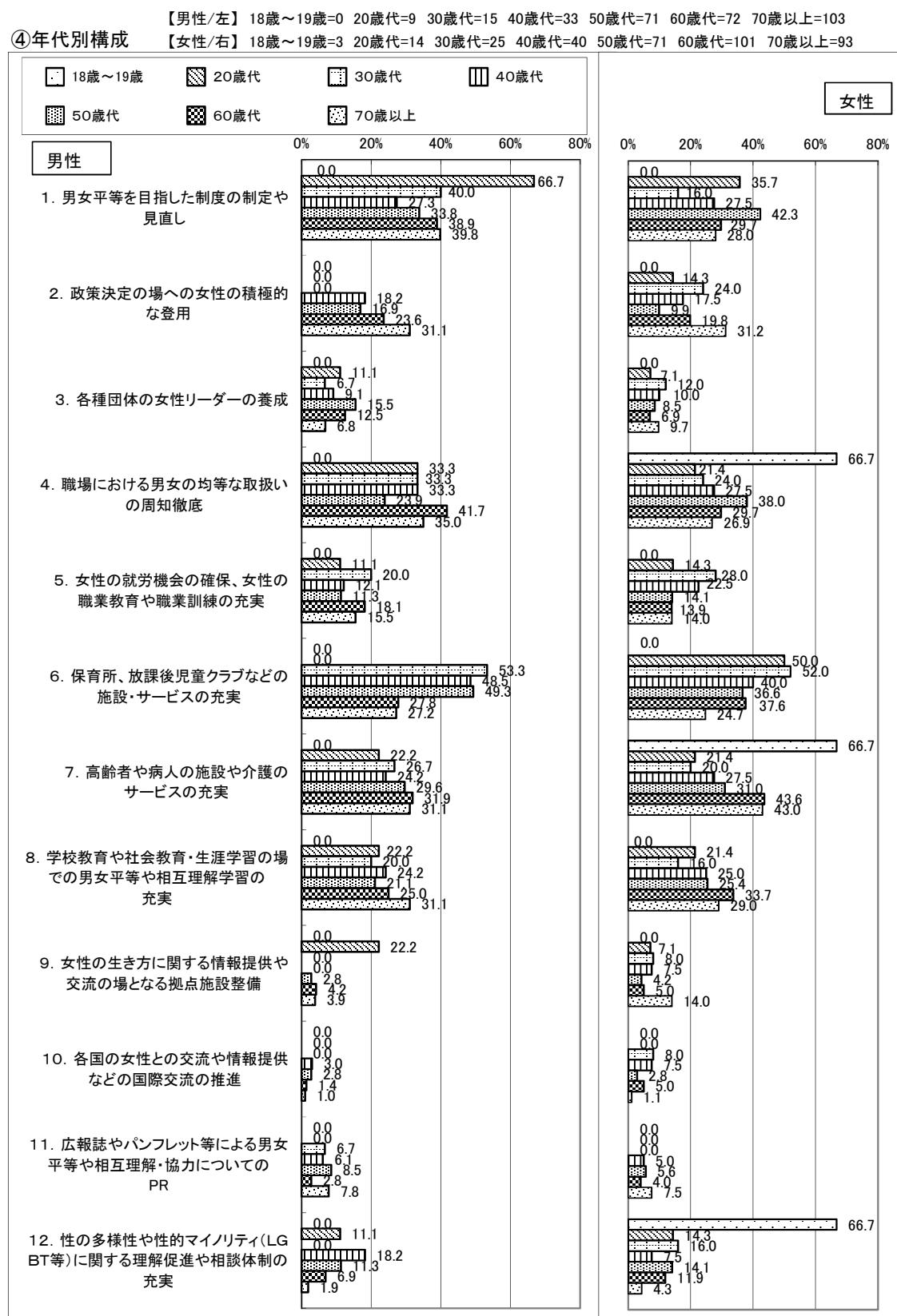
平成30年度=286 平成27年度=416 平成24年度=345)

③女性の経年推移:右(今回調査=347 令和3年度=374

平成30年度=355 平成27年度=527 平成24年度=425)



年代別・男女別にみると、男女で最も差が大きいのは、「保育所、放課後児童クラブなどの施設・サービスの充実」と回答した「20歳代」の男性(0.0%)と女性(50.0%)では50.0ポイント女性



男女が共に支える社会に関する意識調査報告書
令和7年5月

発行 岩手県環境生活部 若者女性協働推進室
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号

TEL 019-629-5348

FAX 019-629-6354

ホームページアドレス

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/kankyou/1016000.html>

統計

株式会社東京商エリサーチ
盛岡支店、本社市場調査部